

# 居徳遺跡群 VI

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

# 居徳遺跡群 VI

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



4 D区出土土偶（正面）



4 D区出土土偶（背面）



4 D区出土土偶



4 D区出土土偶（右側面）



同上（左側面）

巻頭図版4



2～4区調査前状況（北東より）



2・3区調査前状況（東より）



2・3区調査前状況（南東より）



3・4区調査前状況（南西より）



2・3区調査前状況（北西より）



3区調査前状況（垂直・南東より）





4区調査前状況（南東より）



4区調査前状況（垂直・南東より）



5 A区完掘状況（北より）



同上（北東より）



3A区完掘状況（南西より）



同上（北西より）



3 A区木製品出土状態



3 A区杭列調査状況（北西より）



3 A区梯子出土状態



3 A区SE区完掘状況（南より）



4C・4D区完掘状況（北西より）



同上（南東より）



4 D区完掘状況（北東より）



同上（北より）



4 D区IV B層調査状況（北東より）



同上（南より）





4 D区IV B層鹿角出土状態



同イノシシ下顎骨出土状態



4 D区IV B層人骨出土状態



同ベルトC北壁堆積土層断面（北より）



4 D区南半部IV層上面完掘状況（北東より）



同北半部IV層上面遺構完掘状況（南西より）



4 D区ⅢB層調査状況（北西より）



同上（北より）



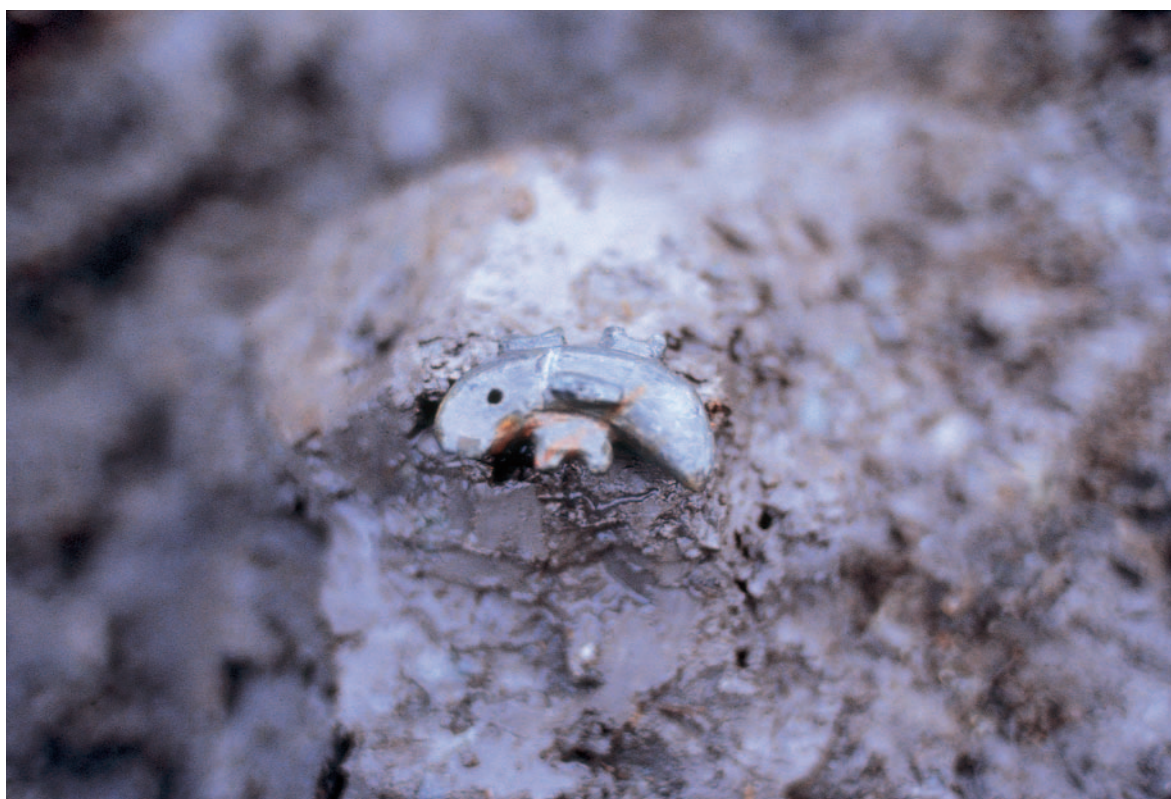
4 D区ⅢB層遺物出土状態（南東より）



同上（北東より）



4 D区ⅢB層須恵器出土状態



同子持勾玉出土状態

# 例 言

1. 本書は四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う、居徳遺跡群の発掘調査報告書第6集である。本書には1C区（補遺）、3A区、4D区、5A区の調査成果、ならびに関連の付編を所収する。
2. 居徳遺跡群の所在地は、高知県土佐市高岡町乙居徳ほかである。
3. 調査期間ならびに発掘調査面積は次のとおりである。

	（調査期間）	（発掘調査面積）
1C区	平成9年10月29日～平成10年3月31日	1,138㎡
3A区	平成10年12月27日～平成11年3月31日	3,056㎡
4D区	平成10年7月11日～平成10年12月28日	1,704㎡
5A区	平成10年6月8日～平成10年7月18日	800㎡

4. 発掘調査及び整理作業は、高知県教育委員会が日本道路公団四国支社と委託契約を締結し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターがこれを実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査総括	古谷碩志（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター	・所長）	
同	津野州夫（	同 上	・次長兼総務課長）
同	西川 裕（	同 上	・調査課長）
同	山本哲也（	同 上	・調査第1班長）
同	出原恵三（	同 上	・調査第3班長）
調査事務	吉岡利一（	同 上	・総務課主幹）
同	大原裕幸（	同 上	・総務課主幹）
同	石川 馨（	同 上	・総務課主幹）
調査員	田坂京子（	同 上	・専門調査員）
同	大野佳代子（	同 上	・専門調査員）
同	佐竹 寛（	同 上	・専門調査員）
同	藤方正治（	同 上	・調査員）
同	曾我貴行（	同 上	・調査員）
同	下村 裕（	同 上	・調査員）
技術補助員	小倉 功		
測量補助員	土居寿美子		
同	中岡きよ		
同	岩原明美		

5. 本書の執筆・編集は曾我がおこなった。
6. 遺物実測図の縮尺は土器が1/2～1/3、土製品・石器・玉類が1/1～1/2、木製品が1/1～1/16である。実測図の番号は各調査区における通し番号であり、挿図及び写真図版中の番号は実測図の番号と一致している。

7. 土層ならびに出土遺物の色調については、『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。
8. 遺跡の測量は、国土座標第Ⅳ系に則っておこなった。挿図中の北は原則として座標北である。また挿図中のレベル高は海拔高を示す。
9. 巻末の報告書抄録における遺跡位置の北緯・東経は、世界標準座標で表記している。
10. 発掘調査に際しては、地元高岡町清滝・東灘・西灘地区をはじめ、地域にお住まいの方々の全面的な御理解と御協力、ならびに温かい御支援を賜り、調査を円滑に遂行することができた。記して衷心より謝意を表す。
11. 発掘調査から報告書作成に至るまでを通じて、岡本健児氏（高知県文化財保護審議会会長）には数々の御指導、御教示、また温かい励ましを賜った。記して衷心より謝意を表す。
12. 4 D区出土の土偶の整理作業に関しては、江坂輝彌氏（慶応義塾大学名誉教授）から数々の御指導、ならびに御教示を賜った。記して衷心より謝意を表す。
13. 4 D区出土の人骨・獣骨の環境考古学的分析に関しては、松井章氏（独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所埋蔵文化財センター遺物調査技術研究室長）の全面的な御協力をいただいた上に、玉稿を賜った。記して衷心より謝意を表す。
14. 4 D区出土の人骨の形質人類学的分析に関しては、中橋孝博氏（九州大学大学院比較社会文化研究院教授）の全面的な御協力をいただいた上に、玉稿を賜った。記して衷心より謝意を表す。
15. 4 D区出土の人骨・獣骨・土器付着炭化物ならびに1 A区出土土器（1 A-353）の放射性炭素年代測定に関しては、中村俊夫氏（名古屋大学年代測定総合研究センター教授）の全面的な御協力をいただいた上に、玉稿を賜った。記して衷心より謝意を表す。
16. 4 D区出土の人骨の食性分析に関しては、南川雅男氏（北海道大学大学院地球環境科学研究科教授）の全面的な御協力をいただいた上に、玉稿を賜った。記して衷心より謝意を表す。
17. 4 C区出土木製鋤柄の放射性炭素年代測定に関しては、今村峯雄氏（国立歴史民俗博物館教授）、坂本稔氏（国立歴史民俗博物館）の全面的な御協力をいただいた上に、玉稿を賜った。記して衷心より謝意を表す。
18. 1 C区・4 C区・4 D区出土の土器付着炭化物の放射性炭素年代測定に関しては、今村峯雄氏（国立歴史民俗博物館教授）、藤尾慎一郎氏（国立歴史民俗博物館助教授）、小林謙一氏（総合研究大学院大学）の全面的な御協力をいただいた上に、玉稿を賜った。記して衷心より謝意を表す。
19. 発掘調査及び報告書作成に際しては、多くの方々から貴重な御助言・御教示、ならびに御協力を賜った。御芳名を記して衷心より謝意を表す。（五十音順、敬称略）
 

赤澤 威	安間拓巳	石丸恵利子	宇野隆夫	氏家敏之	大塚達朗	大野 薫
岡村道雄	岡本桂典	栗林誠治	小林達雄	下條信行	須藤 隆	高島芳弘
中越利夫	東村衣絵	深澤芳樹	福井勝義	藤井裕之	藤田正勝	藤原宏志
丸山真史	宮崎哲治	宮路淳子	村上恭通	山口英正	山田昌久	山本直人
湯浅利彦						
20. 発掘調査に際しては、土佐市都市計画課、高知県土木部高速道推進課の御協力を得た。また発掘調査及び報告書作成に際しては、高知県立歴史民俗資料館、高知県教育委員会、財団法人高知



県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を得た。

21. 巻頭図版1～3については、高知県立歴史民俗資料館の御厚意により、館所蔵写真（タケムラスタジオ・竹村豊氏撮影）を使用させていただいた。
22. 発掘調査にかかる掘削作業は工事請負方式とし、大豊建設株式会社（平成9年度）・不動建設株式会社（平成10年度）と委託契約を締結して実施し、工事の施工管理は社団法人高知県建設技術公社に委託した。工事に従事して下さった多くの方々の御尽力により、調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表す。
23. 発掘調査に伴う測量基準点設置、航空写真撮影ならびに航空写真測量は、アジア航測株式会社に委託して実施した。
24. 木製品の保存処理及び樹種同定は、株式会社吉田生物研究所・株式会社東都文化財保存研究所に委託して実施し、その成果を収録した。
25. 付編7ならびに付編8は、株式会社東都文化財保存研究所ならびに株式会社吉田生物研究所の作製による木製品樹種鑑定報告書の該当箇所のみを抜粋し、再構成したものである。
26. 貝類の保存処理及び種の同定は、株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果を収録した。
27. 鉄製品の保存処理及びX線撮影等は、株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果を収録した。
28. 1DN区出土の漆塗り土器（1DN-21）の保存処理及び顔料の分析は、株式会社吉田生物研究所に委託して実施し、その成果を収録した。
29. 整理作業に際しては、次の方々に御尽力いただいた。御芳名を記して衷心より謝意を表す。  
矢野 雅    宮本幸子    中西純子    小松経子    岩貞泰代    楠瀬憲子    前田玲子  
高橋千代    久万公子    川井由香    内村富紀    元吉ゆみ子    岸ゆかり    岡宗真紀  
入野三千子    橋田美紀    土居江里子
30. 遺跡の略号は下記のとおりとし、出土遺物の注記等にはこれを使用した。  
1C区・・・「97-8IT 1C」  
3A区・・・「98-8IT 3A」  
4D区・・・「98-8IT 4D」  
5A区・・・「98-8IT 5A」
31. 出土遺物等は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター及び高知県立歴史民俗資料館で保管している。

# 本文目次

## 第I章 調査の成果

(1) 5A区	3
(2) 3A区	31
(3) 1C区(補遺)	173
(4) 4D区	179
付編1 居徳遺跡群出土の動物遺存体について	211
松井 章・丸山真史・宮路淳子	
付編2 高知県土佐市居徳遺跡出土の縄文時代人骨	241
九州大学大学院比較社会文化研究院 中橋孝博	
付編3 高知県土佐市居徳遺跡群出土人骨, 赤漆塗布土器片のウルシ, 土器破片付着炭化物の <sup>14</sup> C年代測定	261
名古屋大学年代測定総合研究センター 中村俊夫	
付編4 居徳遺跡出土古人骨のコラーゲン同位体分析	273
北海道大学大学院地球環境科学研究科 南川雅男	
付編5 高知県土佐市居徳遺跡出土鉄柄の実年代について	277
国立歴史民俗博物館 情報資料研究部 今村峯雄・坂本 稔・永嶋正春	
付編6 高知県土佐市居徳遺跡出土土器の <sup>14</sup> C年代測定	281
藤尾慎一郎・小林謙一・今村峯雄・坂本 稔・松崎浩之	
付編7 居徳遺跡群から出土した木材・種実の種類	297
株式会社東都文化財保存研究所	
付編8 高知県居徳遺跡出土木製品の樹種調査結果	303
株式会社吉田生物研究所 汐見 真	
付編9 高知県居徳遺跡出土木製品の樹種調査結果	309
株式会社吉田生物研究所	
付編10 居徳遺跡から出土した貝類	311
株式会社吉田生物研究所	
付編11 居徳遺跡群出土鉄製品の形態的特徴について	312
株式会社吉田生物研究所	
付編12 高知県居徳遺跡出土漆塗り縄文土器の漆塗膜構造調査	313
株式会社吉田生物研究所	

# 挿図目次

Fig.1	居徳遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000) .....	1~2
Fig.2	5 A区の位置 (S : 1/5,000) .....	3
Fig.3	5 A区第V層上面全体図 (S : 1/250) .....	4
Fig.4	5 A区グリッド割り図 (S : 1/400) .....	5
Fig.5	5 A区ベルトA~C堆積土層断面図 (S : 1/40) .....	7~8
Fig.6	5 A区出土土器1 (S : 1/3) .....	9
Fig.7	5 A区出土土器2 (S : 1/3) .....	10
Fig.8	5 A区出土土器3 (S : 1/3) .....	11
Fig.9	5 A区出土土器4 (S : 1/3) .....	12
Fig.10	5 A区出土土器5 (S : 1/3) .....	13
Fig.11	5 A区出土土器6 (S : 1/3) .....	14
Fig.12	5 A区出土土器7 (S : 1/3) .....	15
Fig.13	5 A区出土土器8 (S : 1/3) .....	16
Fig.14	5 A区出土土器9 (S : 1/3) .....	17
Fig.15	5 A区出土土器10 (S : 1/3) .....	18
Fig.16	5 A区出土土器11 (S : 1/3) .....	19
Fig.17	5 A区出土土器12 (S : 1/3) .....	20
Fig.18	5 A区出土土器13 (S : 1/3) .....	21
Fig.19	5 A区出土土器14 (S : 1/3) .....	22
Fig.20	5 A区出土土製品・石器 (S : 1/2) .....	23
Fig.21	5 A区出土石器1 (S : 1/1) .....	24
Fig.22	5 A区出土石器2 (S : 1/2) .....	25
Fig.23	5 A区出土木製品 (S : 1/3) .....	26
Fig.24	3 A区の位置 (S : 1/5,000) .....	31
Fig.25	3 A区全体図 (S : 1/500) .....	32
Fig.26	3 A区南壁堆積土層断面図 (S : 1/40) .....	33
Fig.27	3 A区第VI層上面全体図 (S : 1/200) .....	34
Fig.28	3 A区出土土器1 (S : 1/3) .....	35
Fig.29	3 A区出土土器2 (S : 1/3) .....	36
Fig.30	3 A区出土土器3 (S : 1/3) .....	37
Fig.31	3 A区出土土器4 (S : 1/3) .....	38
Fig.32	3 A区出土土器5 (S : 1/3) .....	39

Fig.33	3 A区出土土器6 (S : 1/3)	40
Fig.34	3 A区出土土器7 (S : 1/3)	41
Fig.35	3 A区出土土器8 (S : 1/2)	42
Fig.36	3 A区出土土器9 (S : 1/3)	43
Fig.37	3 A区出土土器10 (S : 1/3)	44
Fig.38	3 A区出土土器11 (S : 1/3)	45
Fig.39	3 A区出土土器12 (S : 1/3)	46
Fig.40	3 A区出土土器13 (S : 1/3)	47
Fig.41	3 A区出土土器14 (S : 1/3)	48
Fig.42	3 A区出土土器15 (S : 1/3)	49
Fig.43	3 A区出土土器16 (S : 1/3)	50
Fig.44	3 A区出土土器17 (S : 1/3)	51
Fig.45	3 A区出土土器18 (S : 1/3)	52
Fig.46	3 A区出土土器19 (S : 1/3)	53
Fig.47	3 A区出土土器20 (S : 1/3)	54
Fig.48	3 A区出土土器21 (S : 1/3)	55
Fig.49	3 A区出土土器22 (S : 1/3)	56
Fig.50	3 A区出土土器23 (S : 1/3)	57
Fig.51	3 A区出土土器24 (S : 1/3)	58
Fig.52	3 A区出土土器25 (S : 1/3)	59
Fig.53	3 A区出土土器26 (S : 1/3)	60
Fig.54	3 A区出土土器27 (S : 1/3)	61
Fig.55	3 A区出土土器28 (S : 1/3)	62
Fig.56	3 A区出土土器29 (S : 1/3)	63
Fig.57	3 A区出土土器30 (S : 1/3)	64
Fig.58	3 A区出土土器31 (S : 1/3)	65
Fig.59	3 A区出土土器32 (S : 1/3)	66
Fig.60	3 A区出土土器33 (S : 1/3)	67
Fig.61	3 A区出土土器34 (S : 1/3)	68
Fig.62	3 A区出土土器35 (S : 1/3)	69
Fig.63	3 A区出土土器36 (S : 1/3)	70
Fig.64	3 A区出土土器37 (S : 1/3)	71
Fig.65	3 A区出土土器38 (S : 1/2)	72
Fig.66	3 A区出土土器39 (S : 1/3)	72

Fig.67	3 A区出土土器40 (S : 1/3)	73~74
Fig.68	3 A区出土土器41 (S : 1/3)	75
Fig.69	3 A区出土土器42 (S : 1/3)	76
Fig.70	3 A区出土土器43 (S : 1/3)	77
Fig.71	3 A区出土土器44 (S : 1/3)	78
Fig.72	3 A区出土土器45 (S : 1/3)	79
Fig.73	3 A区出土土器46 (S : 1/3)	80
Fig.74	3 A区出土土器47 (S : 1/3)	81
Fig.75	3 A区出土土器48 (S : 1/3)	82
Fig.76	3 A区出土土器49 (S : 1/3)	83
Fig.77	3 A区出土土器50 (S : 1/3)	84
Fig.78	3 A区出土土器51 (S : 1/3)	85
Fig.79	3 A区出土土器52 (S : 1/3)	86
Fig.80	3 A区出土土器53 (S : 1/3)	87
Fig.81	3 A区出土土器54 (S : 1/3)	88
Fig.82	3 A区出土土器55 (S : 1/3)	89
Fig.83	3 A区出土土器56 (S : 1/3)	90
Fig.84	3 A区出土土器57 (S : 1/3)	91
Fig.85	3 A区出土土器58 (S : 1/3)	92
Fig.86	3 A区出土土器59 (S : 1/3)	93
Fig.87	3 A区出土土器60 (S : 1/3)	94
Fig.88	3 A区出土土器61 (S : 1/2)	95
Fig.89	3 A区出土土器62 (S : 1/3)	96
Fig.90	3 A区出土土器63 (S : 1/3)	97
Fig.91	3 A区出土土器64 (S : 1/3)	98
Fig.92	3 A区出土土器65 (S : 1/3)	99
Fig.93	3 A区出土土製品 1 (S : 1/2)	100
Fig.94	3 A区出土土製品 2 (S : 1/1 · 1/2)	101
Fig.95	3 A区出土土製品 3 (S : 1/2)	102
Fig.96	3 A区出土木製品 1 (S : 1/3)	103~104
Fig.97	3 A区出土木製品 2 (S : 1/2 · 1/3)	105
Fig.98	3 A区出土木製品 3 (S : 1/3)	106
Fig.99	3 A区出土木製品 4 (S : 1/3)	107
Fig.100	3 A区出土木製品 5 (S : 1/3)	108

Fig.101	3 A区出土木製品6 (S : 1/3)	109
Fig.102	3 A区出土木製品7 (S : 1/2)	110
Fig.103	3 A区出土木製品8 (S : 1/1)	111
Fig.104	3 A区出土木製品9 (S : 1/3)	112
Fig.105	3 A区出土木製品10 (S : 1/3)	113~114
Fig.106	3 A区出土木製品11 (S : 1/3)	115
Fig.107	3 A区出土木製品12 (S : 1/16)	116
Fig.108	3 A区出土木製品13 (S : 1/3)	116
Fig.109	3 A区出土木製品14 (S : 1/3)	117
Fig.110	3 A区出土木製品15 (S : 1/2)	118
Fig.111	3 A区出土木製品16 (S : 1/2)	119
Fig.112	3 A区出土木製品17 (S : 1/3)	120
Fig.113	3 A区出土木製品18 (S : 1/3)	121~122
Fig.114	3 A区出土木製品19 (S : 1/3)	123
Fig.115	3 A区出土木製品20 (S : 1/3)	124
Fig.116	3 A区出土木製品21 (S : 1/3)	125
Fig.117	3 A区出土木製品22 (S : 1/3)	126
Fig.118	3 A区出土木製品23 (S : 1/3)	127
Fig.119	3 A区出土木製品24 (S : 1/3)	128
Fig.120	3 A区出土木製品25 (S : 1/3)	129
Fig.121	3 A区出土木製品26 (S : 1/3)	130
Fig.122	3 A区出土木製品27 (S : 1/3)	131
Fig.123	3 A区出土木製品28 (S : 1/3)	132
Fig.124	3 A区出土木製品29 (S : 1/3)	133
Fig.125	3 A区出土木製品30 (S : 1/2)	134
Fig.126	3 A区出土木製品31 (S : 1/3)	135~136
Fig.127	3 A区出土木製品32 (S : 1/2)	137
Fig.128	3 A区出土木製品33 (S : 1/3)	138
Fig.129	3 A区出土木製品34 (S : 1/3)	139
Fig.130	3 A区出土木製品35 (S : 1/3)	140
Fig.131	3 A区出土木製品36 (S : 1/3)	141
Fig.132	3 A区出土木製品37 (S : 1/2)	142
Fig.133	3 A区出土木製品38 (S : 1/3)	143
Fig.134	3 A区出土木製品39 (S : 1/3)	144

Fig.135	3 A区出土木製品40 (S : 1/2) .....	145
Fig.136	3 A区出土木製品41 (S : 1/1 · 1/2) .....	146
Fig.137	1 C区出土石器 · 石器関連資料1 (S : 1/2) .....	174
Fig.138	1 C区出土石器 · 石器関連資料2 (S : 1/2) .....	175
Fig.139	1 C区出土石器 · 石器関連資料3 (S : 1/2) .....	176
Fig.140	1 C区出土石器 · 石器関連資料4 (S : 1/2) .....	177
Fig.141	4 D区の位置 (S : 1/5,000) .....	179
Fig.142	4 D区ベルトC · D 1堆積土層断面図 (S : 1/40) .....	181~182
Fig.143	4 D区ベルトE · F堆積土層断面図 (S : 1/40) .....	183~184
Fig.144	4 D区第V層上面全体図 (S : 1/200) .....	185~186
Fig.145	4 D区IV B層獣骨類集中出土範囲と人骨出土地点 (S : 1/200) .....	187
Fig.146	4 D区出土木製品1 (S : 1/2) .....	188
Fig.147	4 D区出土木製品2 (S : 1/3) .....	189
Fig.148	4 D区出土木製品3 (S : 1/2) .....	190
Fig.149	4 D区出土木製品4 (S : 1/3) .....	191
Fig.150	4 D区出土木製品6 (S : 1/2) .....	192
Fig.151	4 D区出土木製品7 (S : 1/3) .....	193
Fig.152	4 D区出土土器1 (S : 1/3) .....	195
Fig.153	4 D区出土土器2 (S : 1/3) .....	196
Fig.154	4 D区出土土器3 (S : 1/3) .....	197
Fig.155	4 D区出土土器4 (S : 1/3) .....	198
Fig.156	4 D区出土土器5 (S : 1/3) .....	199
Fig.157	4 D区出土土器6 (S : 1/3) .....	200
Fig.158	4 D区出土土製品 (S : 1/2 · 1/1) .....	201~202
Fig.159	4 D区出土石器 (S : 1/2) .....	203
Fig.160	4 D区出土土器7 (S : 1/3) .....	204
Fig.161	4 D区出土土器8 (S : 1/3) .....	205
Fig.162	4 D区出土土器 · 金属製品 (S : 1/2) .....	206
Fig.163	4 D区出土玉類 (S : 1/1) .....	207
付図1	3 A区出土木製品12 (S : 1/4)	
付図2	4 D区出土木製品5 (S : 1/4 · 1/3)	

# 表 目 次

表 1	5 A区出土土器觀察表 1	27
表 2	5 A区出土土器觀察表 2	28
表 3	5 A区出土土器觀察表 3	29
表 4	5 A区出土土製品觀察表	30
表 5	5 A区出土石器計測表	30
表 6	5 A区出土木製品計測表	30
表 7	3 A区出土土器觀察表 1	147
表 8	3 A区出土土器觀察表 2	148
表 9	3 A区出土土器觀察表 3	149
表10	3 A区出土土器觀察表 4	150
表11	3 A区出土土器觀察表 5	151
表12	3 A区出土土器觀察表 6	152
表13	3 A区出土土器觀察表 7	153
表14	3 A区出土土器觀察表 8	154
表15	3 A区出土土器觀察表 9	155
表16	3 A区出土土器觀察表10	156
表17	3 A区出土土器觀察表11	157
表18	3 A区出土土器觀察表12	158
表19	3 A区出土土器觀察表13	159
表20	3 A区出土土器觀察表14	160
表21	3 A区出土土器觀察表15	161
表22	3 A区出土土器觀察表16	162
表23	3 A区出土土器觀察表17	163
表24	3 A区出土土器觀察表18	164
表25	3 A区出土土器觀察表19	165
表26	3 A区出土土器觀察表20	166
表27	3 A区出土土器觀察表21	167
表28	3 A区出土土製品觀察表	168
表29	3 A区出土木製品計測表 1	169
表30	3 A区出土木製品計測表 2	170
表31	3 A区出土木製品計測表 3	171
表32	3 A区出土木製品計測表 4	172



表33	1 C区出土石器・石器関連資料計測表	178
表34	4 D区出土木製品計測表	208
表35	4 D区出土土器観察表	209
表36	4 D区出土土製品観察表	210
表37	4 D区出土石器計測表	210
表38	4 D区出土鉄製品計測表	210
表39	4 D区出土玉類計測表	210

# 図版目次

- 巻頭図版1 4D区出土土偶（正面）
- 巻頭図版2 4D区出土土偶（背面），4D区出土土偶
- 巻頭図版3 4D区出土土偶（右側面），同上（左側面）
- 巻頭図版4 2～4区調査前状況（北東より），2・3区調査前状況（東より）
- 巻頭図版5 2・3区調査前状況（南東より），3・4区調査前状況（南西より）
- 巻頭図版6 2・3区調査前状況（北西より），3区調査前状況（垂直・南東より）
- 巻頭図版7 4区調査前状況（南東より），4区調査前状況（垂直・南東より）
- 巻頭図版8 5A区完掘状況（北より），同上（北東より）
- 巻頭図版9 3A区完掘状況（南西より），同上（北西より）
- 巻頭図版10 3A区木製品出土状態，3A区杭列調査状況（北西より）
- 巻頭図版11 3A区梯子出土状態，3A区SE区完掘状況（南より）
- 巻頭図版12 4C・4D区完掘状況（北西より），同上（南東より）
- 巻頭図版13 4D区完掘状況（北東より），同上（北より）
- 巻頭図版14 4D区IVB層調査状況（北東より），同上（南より）
- 巻頭図版15 4D区IVB層鹿角出土状態，同イノシシ下顎骨出土状態
- 巻頭図版16 4D区IVB層人骨出土状態，同ベルトC北壁堆積土層断面（北より）
- 巻頭図版17 4D区南半部IV層上面完掘状況（北東より），同北半部IV層上面遺構完掘状況（南西より）
- 巻頭図版18 4D区ⅢB層調査状況（北西より），同上（北より）
- 巻頭図版19 4D区ⅢB層遺物出土状態（南東より），同上（北東より）
- 巻頭図版20 4D区ⅢB層須恵器出土状態，同子持勾玉出土状態
- PL. 1 5A区調査前状況，同上
- PL. 2 5A区調査前状況，同上
- PL. 3 5A区機械掘削状況，同上
- PL. 4 5A区機械掘削状況，同上
- PL. 5 5A区調査状況，同上
- PL. 6 5A区調査状況，同上
- PL. 7 5A区堆積土層断面，同上
- PL. 8 5A区堆積土層断面，同上
- PL. 9 5A区堆積土層断面，同上
- PL. 10 5A区土師器出土状況，同上
- PL. 11 5A区土師器出土状況，同上
- PL. 12 5A区土師器出土状況，同上

- P L. 13 5 A区土師器出土状況, 同木製品出土状況  
P L. 14 5 A区土師器出土状況, 同上  
P L. 15 5 A区調査状況, 同上  
P L. 16 5 A区石器出土状況, 同縄文土器出土状況  
P L. 17 5 A区縄文土器出土状況, 同上  
P L. 18 5 A区調査状況, 同上  
P L. 19 5 A区完掘状況, 同上  
P L. 20 5 A区完掘状況, 同上  
P L. 21 5 A区出土遺物 1 (土器)  
P L. 22 5 A区出土遺物 2 (土器)  
P L. 23 5 A区出土遺物 3 (土器)  
P L. 24 5 A区出土遺物 4 (土器)  
P L. 25 5 A区出土遺物 5 (土器・自然遺物)  
P L. 26 5 A区出土遺物 6 (土器・木製品)  
P L. 27 3 A区調査状況, 同上  
P L. 28 3 A区調査状況, 同上  
P L. 29 3 A区調査状況, 同上  
P L. 30 3 A区木製品出土状況, 同上  
P L. 31 3 A区木製品出土状況, 同上  
P L. 32 3 A区木製品出土状況, 同上  
P L. 33 3 A区木製品出土状況, 同上  
P L. 34 3 A区木製品出土状況, 同上  
P L. 35 3 A区木製品出土状況, 同上  
P L. 36 3 A区木製品出土状況, 同土師器出土状況  
P L. 37 3 A区木製品出土状況, 同須恵器出土状況  
P L. 38 3 A区木製品出土状況, 同須恵器出土状況  
P L. 39 3 A区弥生土器出土状況, 同須恵器出土状況  
P L. 40 3 A区木製品出土状況, 同上  
P L. 41 3 A区木製品出土状況, 同上  
P L. 42 3 A区木製品出土状況, 同土師器出土状況  
P L. 43 3 A区杭列調査状況, 同杭列検出状況  
P L. 44 3 A区杭列検出状況, 同上  
P L. 45 3 A区杭列検出状況, 同上  
P L. 46 3 A区杭列検出状況, 同上

- P L. 47 3 A区梯子出土状況, 同上
- P L. 48 3 A区調査状況, 同上
- P L. 49 3 A区縄文土器出土状況, 同木製品出土状況
- P L. 50 3 A区木製品出土状況, 同上
- P L. 51 3 A区Ⅵ層上面検出状況, 同上
- P L. 52 3 A区Ⅵ層上面検出状況, 同上
- P L. 53 3 A区Ⅵ層上面検出状況, 同上
- P L. 54 3 A区堆積土層断面, 同上
- P L. 55 3 A区堆積土層断面, 同上
- P L. 56 3 A区遺構調査状況, 同上
- P L. 57 3 A区完掘状況, 同上
- P L. 58 3 A区完掘状況, 同南壁堆積土層断面
- P L. 59 3 A区北西部調査状況, 同完掘状況
- P L. 60 3 A区S E区全景, 同上
- P L. 61 3 A区出土遺物1 (土器)
- P L. 62 3 A区出土遺物2 (土器)
- P L. 63 3 A区出土遺物3 (土器)
- P L. 64 3 A区出土遺物4 (土器)
- P L. 65 3 A区出土遺物5 (土器)
- P L. 66 3 A区出土遺物6 (土器)
- P L. 67 3 A区出土遺物7 (土器)
- P L. 68 3 A区出土遺物8 (土器)
- P L. 69 3 A区出土遺物9 (土器)
- P L. 70 3 A区出土遺物10 (土器)
- P L. 71 3 A区出土遺物11 (土器)
- P L. 72 3 A区出土遺物12 (木製品)
- P L. 73 3 A区出土遺物13 (木製品)
- P L. 74 3 A区出土遺物14 (木製品)
- P L. 75 3 A区出土遺物15 (木製品)
- P L. 76 3 A区出土遺物16 (木製品)
- P L. 77 3 A区出土遺物17 (木製品)
- P L. 78 3 A区出土遺物18 (木製品)
- P L. 79 3 A区出土遺物19 (木製品)
- P L. 80 3 A区出土遺物20 (木製品)

- P L. 81 3 A区出土遺物21 (木製品)
- P L. 82 3 A区出土遺物22 (木製品)
- P L. 83 3 A区出土遺物23 (木製品)
- P L. 84 3 A区出土遺物24 (木製品)
- P L. 85 3 A区出土遺物25 (木製品)
- P L. 86 3 A区出土遺物26 (木製品)
- P L. 87 3 A区出土遺物27 (木製品)
- P L. 88 3 A区出土遺物28 (木製品)
- P L. 89 3 A区出土遺物29 (木製品)
- P L. 90 3 A区出土遺物30 (自然遺物)
- P L. 91 4 D区北西部調査状況, 同上
- P L. 92 4 D区木製品出土状況, 同上
- P L. 93 4 D区土師器出土状況, 同木製品出土状況
- P L. 94 4 D区北西部調査状況, 同土師器出土状況
- P L. 95 4 D区木製品出土状況, 同上
- P L. 96 4 D区木製品出土状況, 同勾玉出土状況
- P L. 97 4 D区北西部堆積土層断面, 同上
- P L. 98 4 D区北西部IV層上面完掘状況, 同上
- P L. 99 4 D区南西部調査状況, 同上
- P L. 100 4 D区木製品出土状況, 同上
- P L. 101 4 D区木製品出土状況, 同上
- P L. 102 4 D区南西部調査状況, 同土師器出土状況
- P L. 103 4 D区南西部調査状況, 同子持勾玉出土状況
- P L. 104 4 D区南西部IV層上面検出状況, 同上
- P L. 105 4 D区南西部堆積土層断面, 同上
- P L. 106 4 D区南西部堆積土層断面, 同上
- P L. 107 4 D区南西部IV層上面完掘状況, 同上
- P L. 108 4 D区南西部IV層上面完掘状況, 同上
- P L. 109 4 D区北東部調査状況, 同IV層上面完掘状況
- P L. 110 4 D区土製耳飾出土状況, 同縄文土器出土状況
- P L. 111 4 D区動物骨出土状況, 同縄文土器出土状況
- P L. 112 4 D区動物骨出土状況, 同上
- P L. 113 4 D区南西部堆積土層断面, 同上
- P L. 114 4 D区南西部調査状況, 同動物骨出土状況

- P L . 115 4 D区南西部堆積土層断面, 同上
- P L . 116 4 D区動物骨出土狀況, 同上
- P L . 117 4 D区南西部調査狀況, 同上
- P L . 118 4 D区南西部堆積土層断面, 同上
- P L . 119 4 D区完掘狀況, 同上
- P L . 120 4 D区出土遺物 1 (木製品)
- P L . 121 4 D区出土遺物 2 (木製品)
- P L . 122 4 D区出土遺物 3 (木製品)
- P L . 123 4 D区出土遺物 4 (木製品)
- P L . 124 1 C区・4 D区出土遺物 (木製品・自然遺物)

# 居徳遺跡群 通巻目次

## 『居徳遺跡群Ⅰ』（本文編）

- 第Ⅰ章 調査に至る経過
- 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境
- 第Ⅲ章 調査の概要
- 第Ⅳ章 調査の成果
  - (1) 1 B区
  - (2) 1 C区（その1）
  - (3) 1 D区
- 第Ⅴ章 考察 1 C区第Ⅳ層群出土土器について

## 『居徳遺跡群Ⅱ』（写真図版編）

- 1 B区
- 1 C区（その1）
- 1 D区

## 『居徳遺跡群Ⅲ』

- 第Ⅰ章 調査の成果
  - (1) 確認調査(1)
  - (2) 1 A区
  - (3) 1 C区（その2）
  - (4) 1 D N区
  - (5) 1 F区
- 付編1 居徳遺跡群の自然科学分析
  - －漆塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料－
- 付編2 高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果
  - －確認調査(1)・1 C区・1 D N区出土木製品について－

## 『居徳遺跡群Ⅳ』

- 第Ⅰ章 調査の成果
  - (1) 確認調査(2)
  - (2) 確認調査(3)
  - (3) 1 E区
  - (4) 2 A区
  - (5) 3 B区
  - (6) 4 C区
- 第Ⅱ章 考察 2 A区検出の流路群について
- 付編1 居徳遺跡群から出土した大型植物化石
  - －1 D区、1 E区、1 F区、4 C区出土の遺物－
- 付編2 土器の内容物分析
  - －4 C区出土の遺物－

付編3 居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果  
- 2 A区の出土遺物 -

『居徳遺跡群V』

第I章 調査の成果

(1) 4 A区

(2) 4 B区

付編1 居徳遺跡群から出土した木製品と木材片の樹種同定  
- 1 A区, 4 A区, 4 C区出土の遺物 -

付編2 居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果  
- 4 A区, 4 B区出土の遺物 -

付編3 居徳遺跡群出土鉢入砂鉄の金属学的調査  
- 4 B区の出土遺物 -

『居徳遺跡群VI』

第I章 調査の成果

(1) 5 A区

(2) 3 A区

(3) 1 C区 (補遺)

(4) 4 D区

付編1 居徳遺跡群出土の動物遺存体について

付編2 高知県土佐市居徳遺跡出土の縄文時代人骨

付編3 高知県土佐市居徳遺跡群出土人骨, 赤漆塗布土器片のウルシ,  
土器破片付着炭化物の<sup>14</sup>C年代測定

付編4 居徳遺跡出土古人骨のコラーゲン同位体分析

付編5 高知県土佐市居徳遺跡出土鋤柄の実年代について

付編6 高知県土佐市居徳遺跡出土土器の<sup>14</sup>C年代測定

付編7 居徳遺跡群から出土した木材・種実の種類

付編8 高知県居徳遺跡出土木製品の樹種調査結果

付編9 高知県居徳遺跡出土木製品の樹種調査結果

付編10 居徳遺跡から出土した貝類

付編11 居徳遺跡群出土鉄製品の形態的特徴について

付編12 高知県居徳遺跡出土漆塗り縄文土器の漆塗膜構造調査



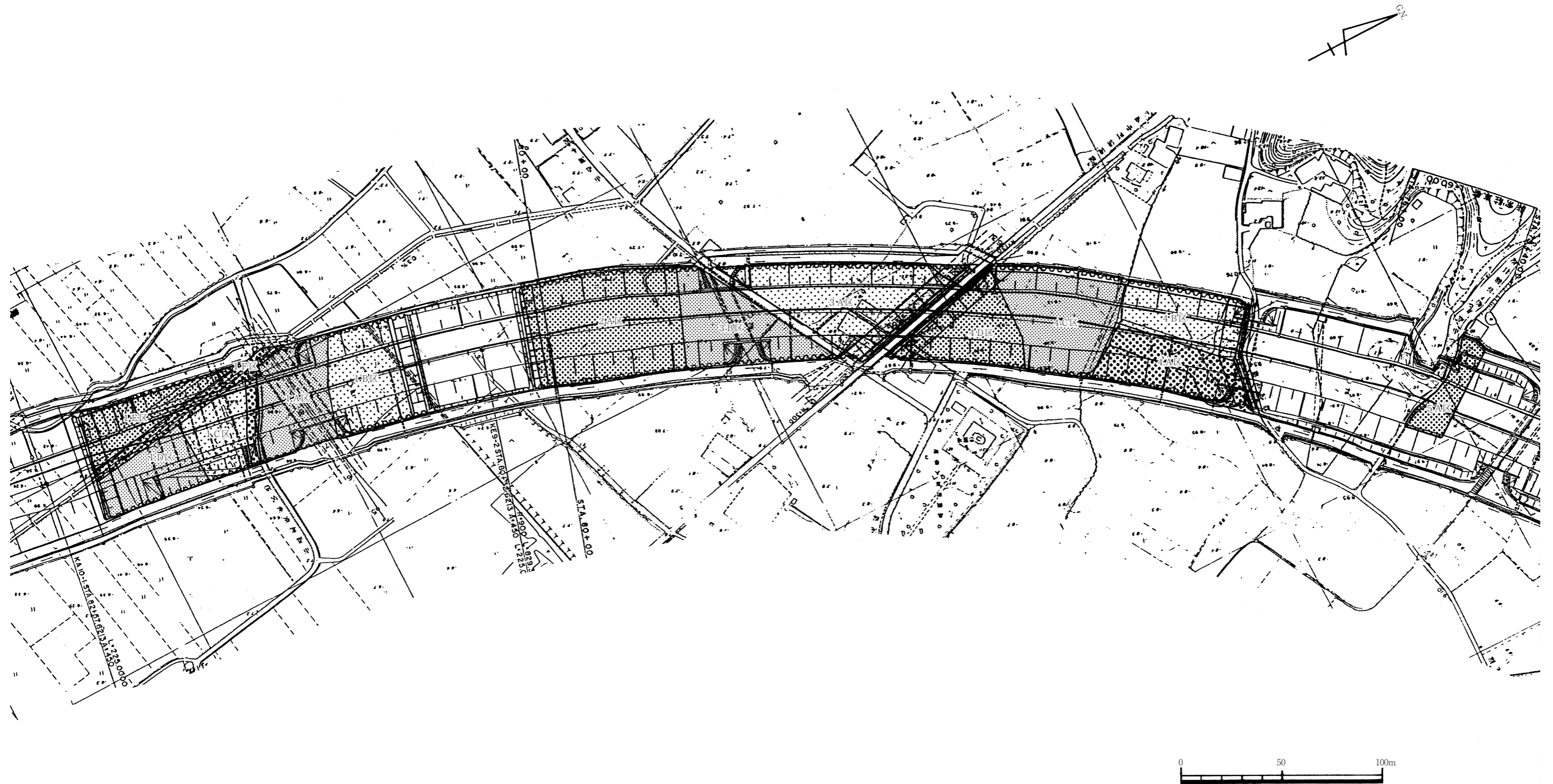


Fig. 1 居徳遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)



# 第 I 章 調査の成果

## (1) 5 A 区

### 1. 調査区の概要

5 A 区は、本次の調査対象地の北東端に位置する調査区である。面積は800㎡である。現況は荒蕪地で、常に地表に湛水の認められる湿地であった。南北にのびる細長い尾根の先端部東側に位置しており、尾根側（西方）から低地側（東方）へと傾斜する様子が一部露出した基底礫層から窺われたが、現況の地表面はほぼ平坦な地形を呈していた。

発掘調査期間は、平成10年6月8日～平成10年7月18日である。

### 2. 調査の方法

調査区の表土及び無遺物層の掘削は、重機（バックホー）を使用しておこない、遺物包含層・遺構の掘り下げは人力でおこなった。遺物出土状態等、適宜写真撮影による記録をおこなった。5 A 区では1面の遺構検出面を想定した。完掘後、遺構平面図・堆積土層断面図等を作成し、あわせて写真撮影によって記録した。

全調査区共通の4mグリッドを遺物取上げの最小単位とし、グリッドの名称も他の調査区と同一の方法によって決定した。(Fig.4) また、必要な遺物については個別に出土地点の国土座標を測定・記録した。

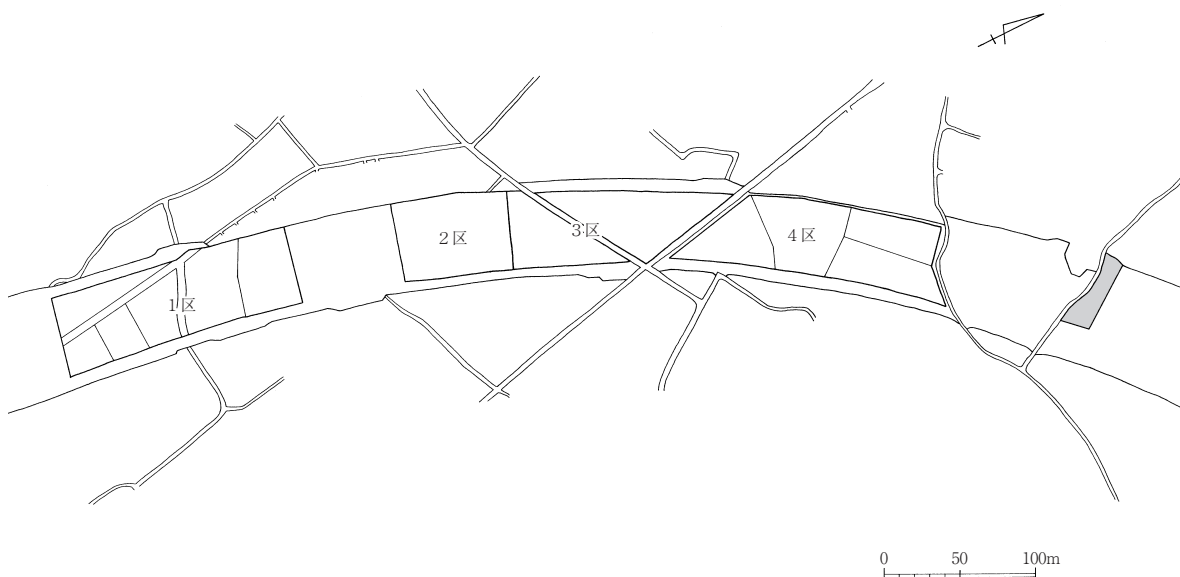


Fig.2 5 A 区的位置 (S : 1/5,000)

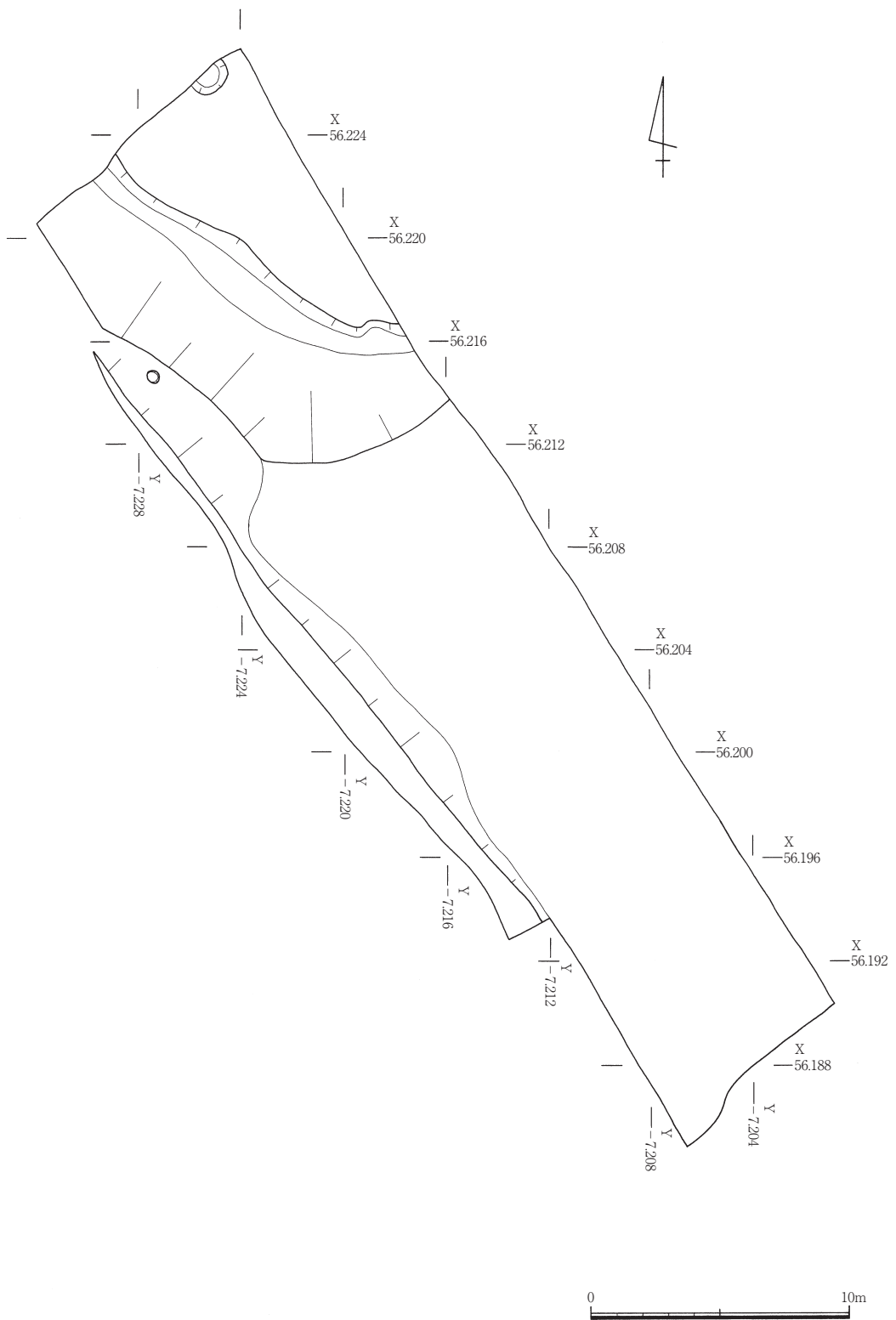


Fig. 3 5 A区第V層上面全体図 (S : 1/250)

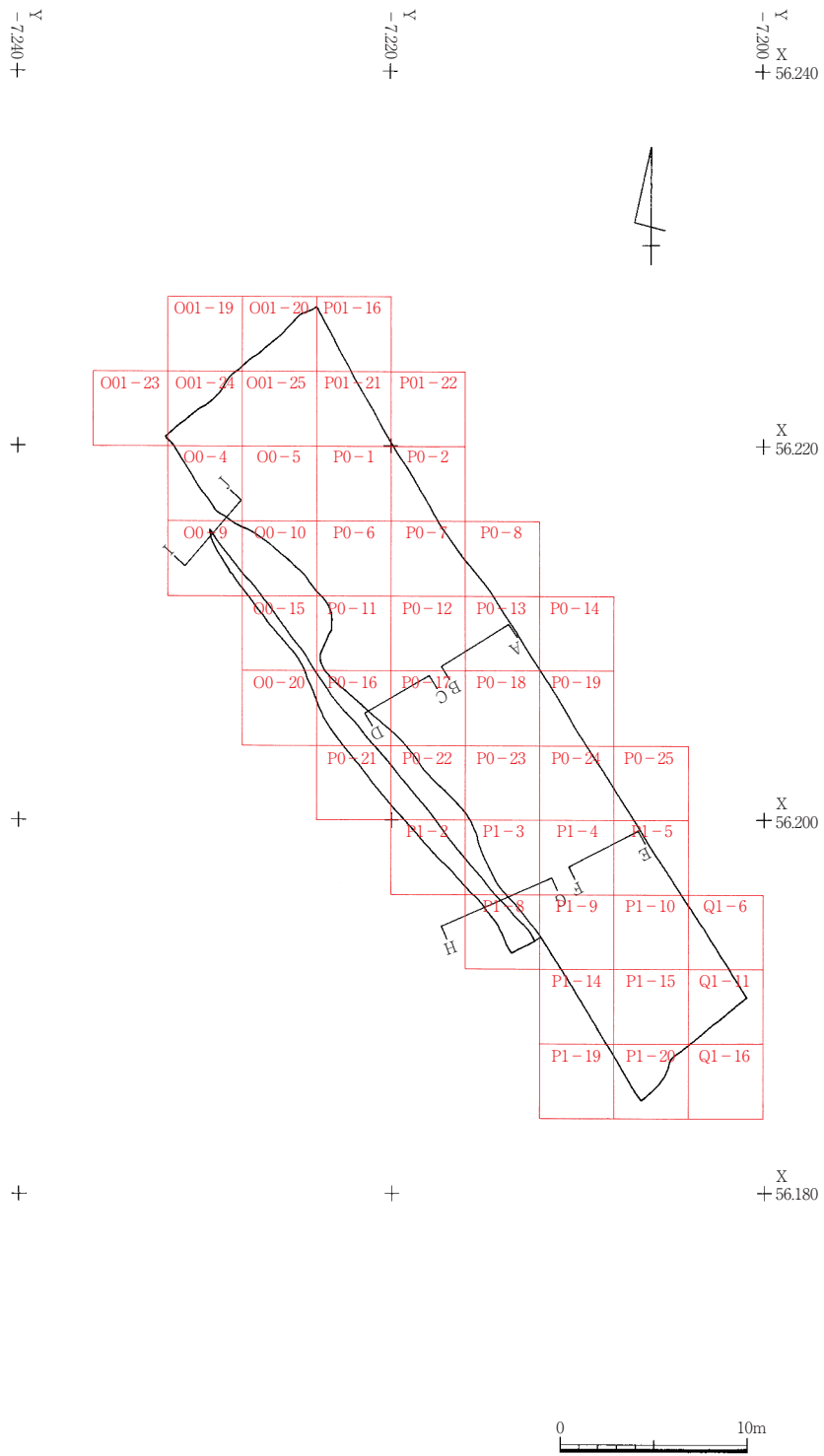


Fig.4 5A区グリッド割り図 (S : 1/400)

### 3. 層序

5 A区の調査に際しては、堆積土層名のローマ数字の肥大化を防ぐため、複数の土層を以下のように類型化して扱い、数字を付した。

第Ⅰ層：重機掘削を実施する表土層で、概ね耕作土を指す。調査区南半部においては、攪乱層もこれに含めた。

第Ⅱ層：重機掘削を実施する表土層より下位の無遺物層である。黄褐色～黒色の腐植土層である。古墳時代以降に形成された旧表土層と考えられる。

第Ⅲ層：人力掘削を実施する、古墳時代以降の形成とみられる遺物包含層群である。黒～暗色系の礫粘土～粘礫土で、斜面上方からの崩落、もしくは人為的な反転等が形成要因に関わっているものと考えられる。

第Ⅳ層：人力掘削を実施する、縄文時代晩期以降の形成とみられる遺物包含層群である。腐植土のⅣ層、ならびに腐植質の礫粘土～粘礫土であるⅣA層によって、Ⅲ層群と境を画する。Ⅳ・ⅣA層は旧表土層と考えられる。

第Ⅴ層：上面を遺構検出面とした無遺物層である。

層群単位で命名した第Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ層中の各層については、「ローマ数字+アルファベット」で命名し、さらにセクションベルト部分で細分したものは「+アラビア数字」で枝番号を付して表記した。

### 4. 遺構

5 A区の調査では、第Ⅴ層上面において自然流路跡1、ピット状遺構1基を検出した。

### 5. 遺物

5 A区出土遺物は、土器、土製品、石器、木製品、自然遺物等から構成される。本編では、土器107点、土製品2点、石器8点、木製品2点を図示し、自然遺物2点の写真図版を掲載した。

#### (1) 土器

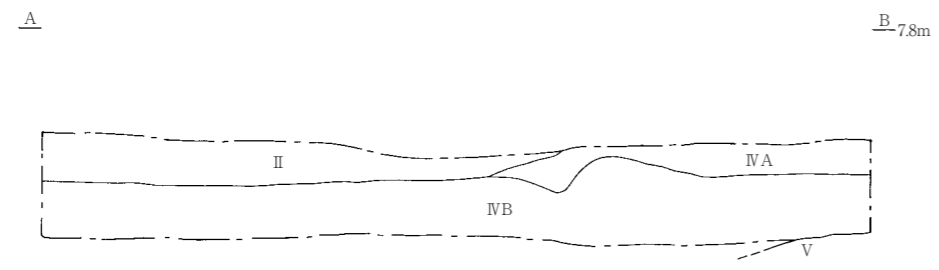
包含層出土土器106点、表採土器1点を図示した。

##### ①包含層出土土器

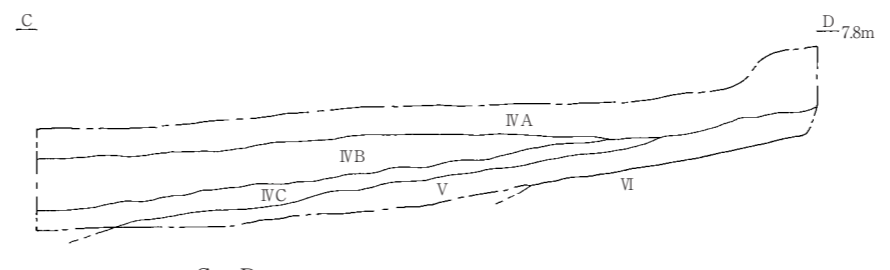
ⅣC層出土土器15点、ⅣB層出土土器6点、ⅣA層出土土器1点、ⅣA2層出土土器1点、Ⅳ層出土土器39点、Ⅲ層出土土器44点を図示した。

#### ⅣC層出土土器 (Fig.6～9)

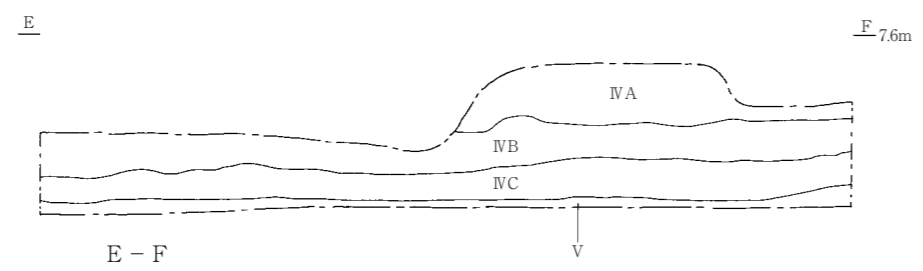
1～15は縄文土器・深鉢である。1～12は口縁～胴部片である。1～3は同一個体と考えられ、図化後に1個体として復元した。頸部外面に縦位の刺突文と斜格子状の沈線文を施す。4は外面に斜格子の複線文を描き、口縁部内面に半截竹管状工具による刺突文を施す。5は口縁部内面に沈線1条を描く。6は口縁端面に沈線1条を描く。7は外面に刻目突帯1条を貼付する。8は口縁部が「く」字



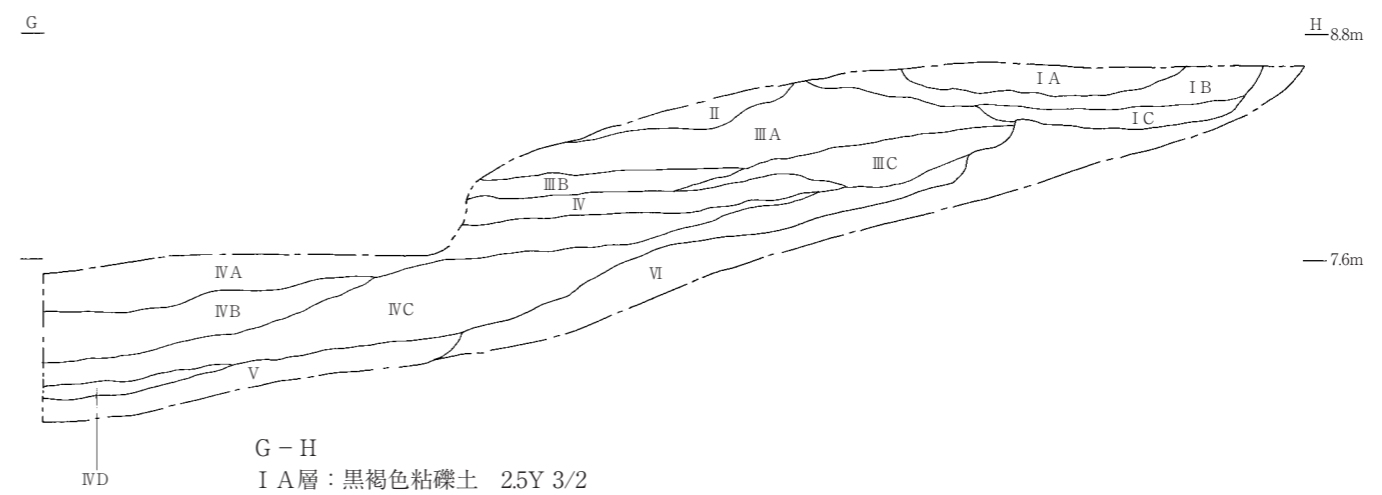
A - B  
 II 層：黄褐色腐植土（青色礫混） 2.5Y 5/3  
 IV A 層：褐灰色腐植質粘礫土 10YR 4/1  
 IV B 層：にぶい赤褐色腐植土 5YR 4/3  
 V 層：明オリブ灰色粘土 5GY 7/1



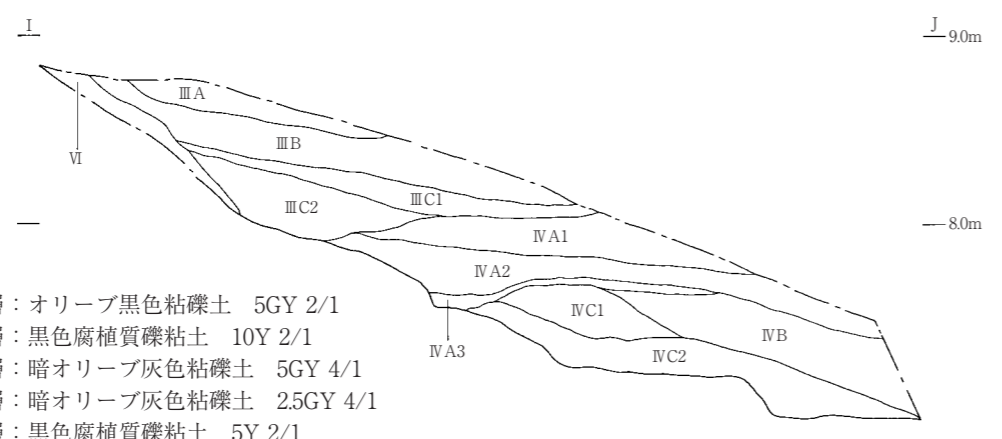
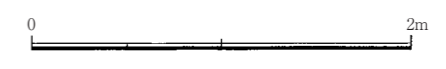
C - D  
 IV A 層：オリブ黒色腐植質粘礫土 7.5Y 3/1  
 IV B 層：オリブ黒色腐植土 5Y 3/1  
 IV C 層：オリブ黒色腐植質粘礫土 5Y 3/2  
 V 層：緑灰色粘土 5G 6/1  
 VI 層：緑灰色基底礫 10G 5/1



E - F  
 IV A 層：褐灰色腐植質粘礫土 10YR 4/1  
 IV B 層：にぶい赤褐色腐植土 5YR 4/3  
 IV C 層：褐灰色腐植質粘土 10YR 6/1  
 V 層：明オリブ灰色粘土 5GY 7/1



G - H  
 I A 層：黒褐色粘礫土 2.5Y 3/2  
 I B 層：暗オリブ灰色粘礫土 2.5GY 4/1  
 I C 層：暗オリブ灰色粘礫土 2.5GY 3/1  
 II 層：オリブ黒色腐植土 5Y 3/1  
 III A 層：緑黒色粘礫土 5G 2/1  
 III B 層：オリブ黒色腐植質粘礫土 5Y 3/2  
 III C 層：灰色粘礫土 10Y 4/1  
 IV 層：オリブ黒色腐植土 5Y 2/2  
 IV A 層：灰色腐植質粘礫土 7.5Y 4/1  
 IV B 層：オリブ黒色腐植土 7.5Y 3/1  
 IV C 層：暗オリブ灰色腐植質粘礫土 2.5GY 4/1  
 IV D 層：オリブ灰色粘礫土 2.5GY 5/1  
 V 層：明緑灰色粘土 10GY 7/1  
 VI 層：青灰色基底礫 10BG 5/1



I - J  
 III A 層：オリブ黒色粘礫土 5GY 2/1  
 III B 層：黒色腐植質粘礫土 10Y 2/1  
 III C 1 層：暗オリブ灰色粘礫土 5GY 4/1  
 III C 2 層：暗オリブ灰色粘礫土 2.5GY 4/1  
 IV A 1 層：黒色腐植質粘礫土 5Y 2/1  
 IV A 2 層：灰色粘礫土 5Y 4/1  
 IV A 3 層：オリブ黒色粘礫土 7.5Y 3/1  
 IV B 層：黒褐色腐植土 10YR 3/1  
 IV C 1 層：暗オリブ灰色粘礫土 2.5GY 4/1  
 IV C 2 層：オリブ灰色粘礫土 5GY 5/1  
 VI 層：オリブ褐色基底礫 2.5Y 4/3

Fig.5 5A区ベルトA~C堆積土層断面図 (S : 1/40)





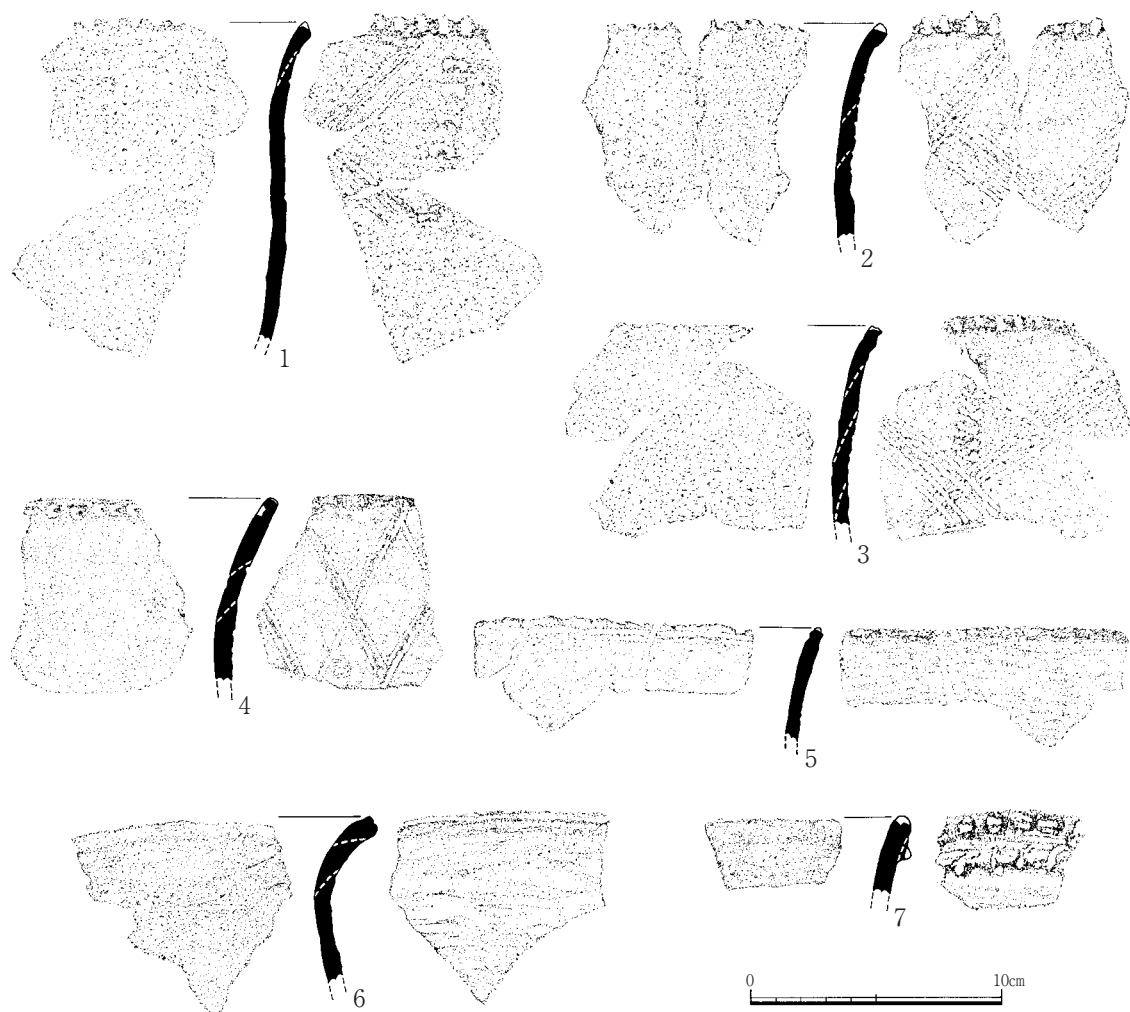


Fig.6 5A区出土土器1 (S : 1/3)

状に外折し，屈曲部内面には明瞭な稜1を形成する。8～12は外面に条痕調整を施す。13は胴～底部片である。外面は条痕・ナデ調整である。14・15は底部片である。14の内面は条痕調整か。

#### IV B層出土土器 (Fig.10-16~21)

16・17は縄文土器・壺・口縁～胴部片である。17は外面に沈線2条を描く。18は縄文土器・深鉢・口縁～頸部片である。口縁部外面に刻目突帯1条を貼付する。

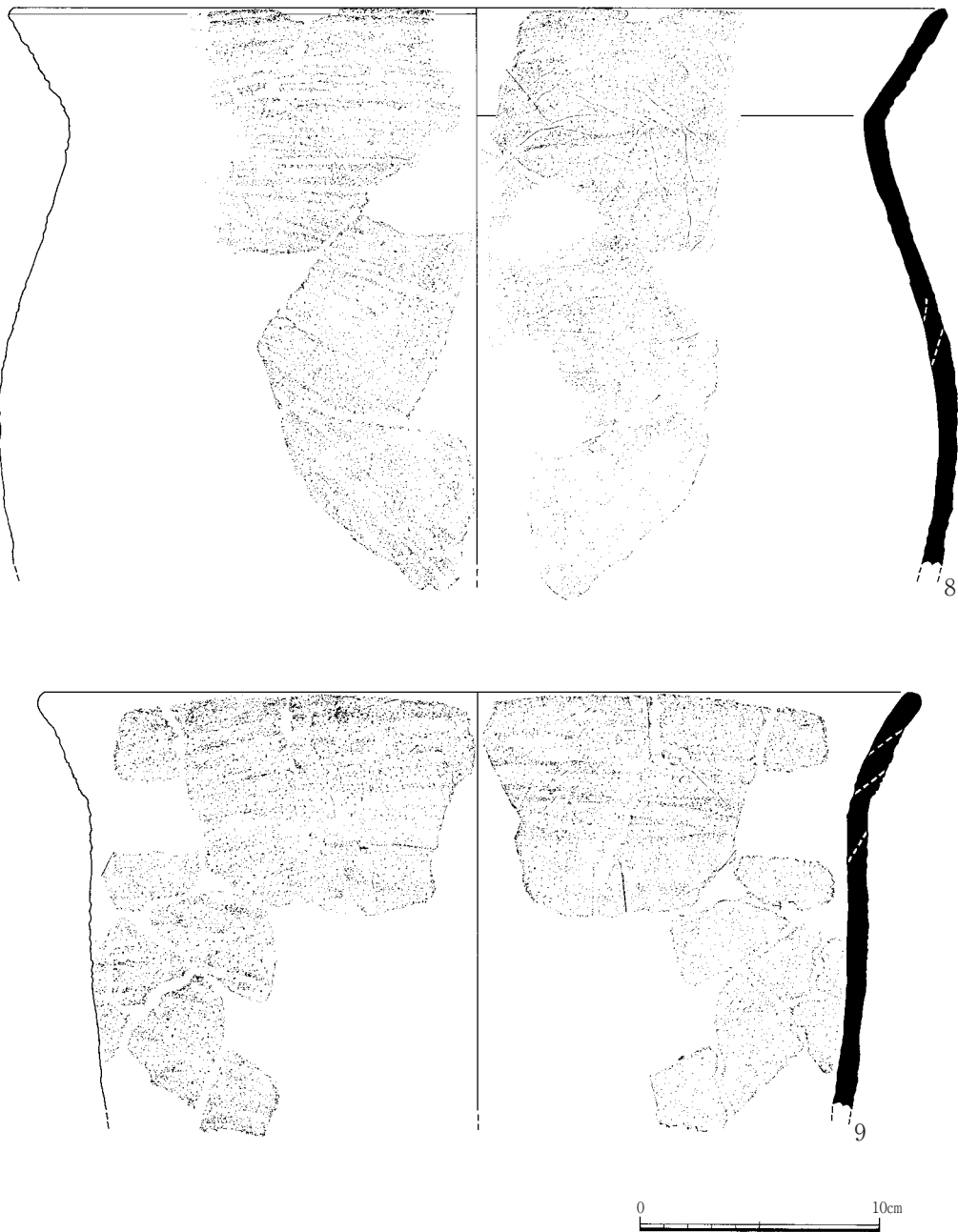


Fig.7 5A区出土土器2 (S:1/3)

19・20は弥生土器・壺である。19は外面に2段の重弧文を施す。20は外面に斜位の沈線2条を描く。  
21は弥生土器・鉢か。

**IV A層出土土器 (Fig.10-22)**

22は縄文土器・深鉢・底部片である。

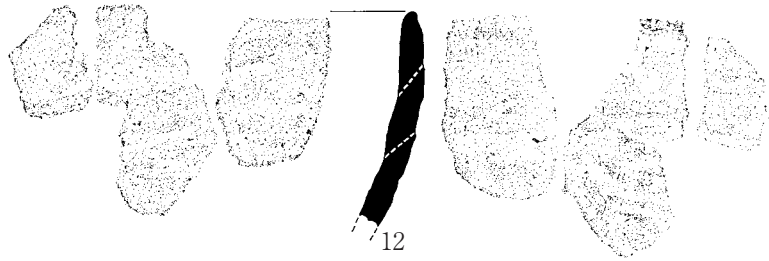
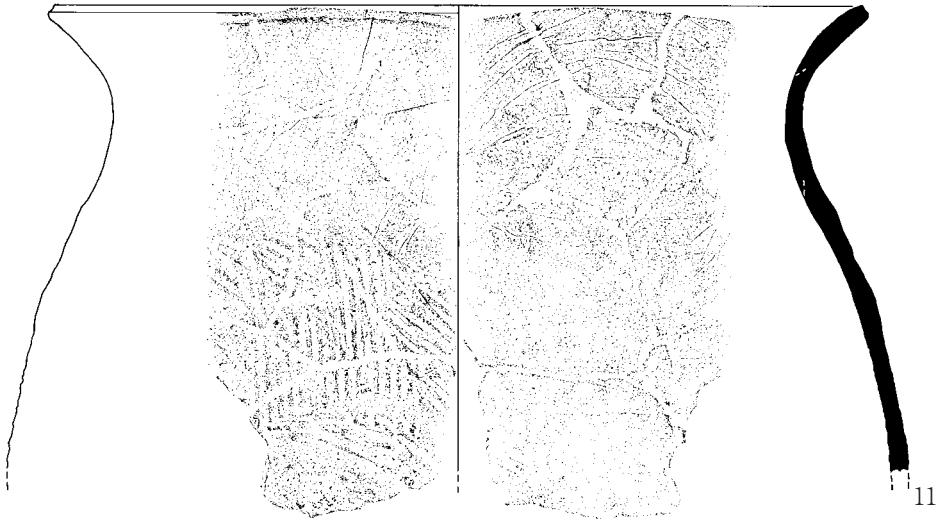
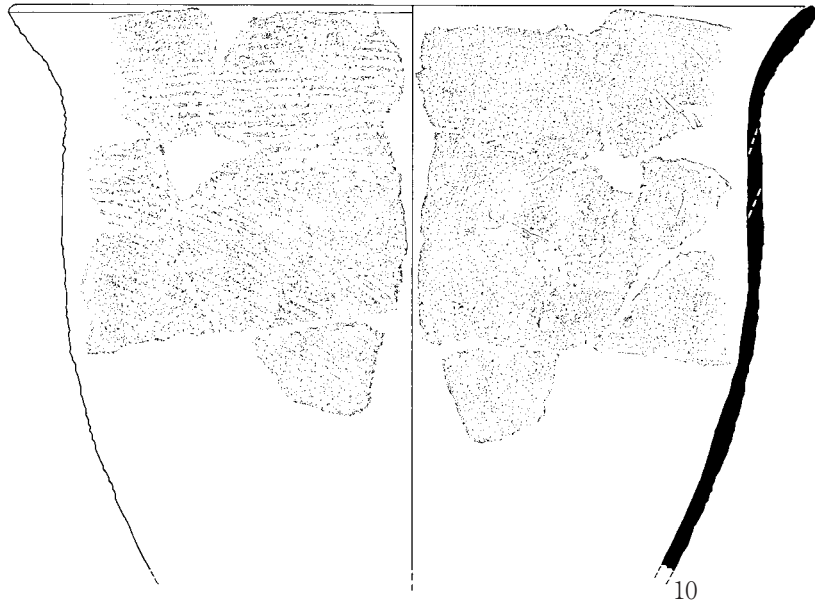


Fig. 8 5 A区出土土器3 (S : 1/3)

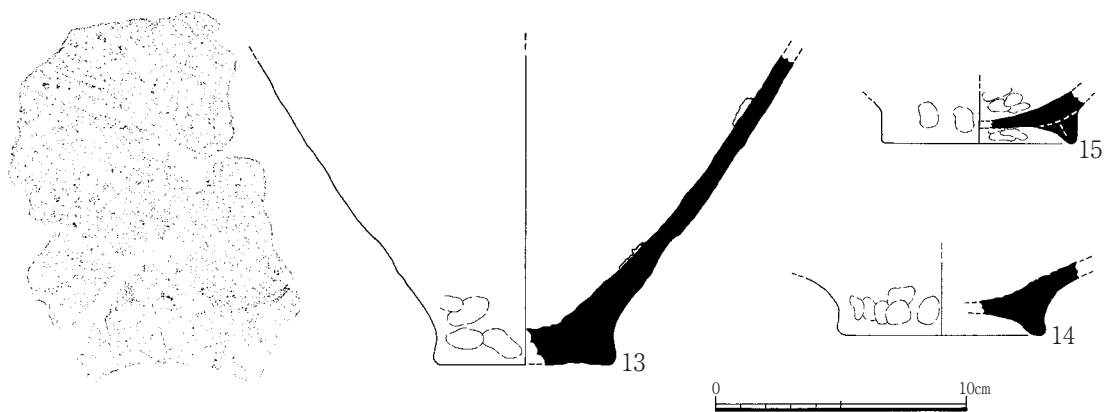


Fig.9 5A区出土土器4 (S : 1/3)

#### ⅣA 2層出土土器 (Fig.10-23)

23は弥生土器・壺・底部片である。

#### Ⅳ層出土土器 (Fig.11~14)

24~35は縄文土器である。24は縄文土器・浅鉢・口縁~胴部片で、縄文後期土器か。25~35は縄文晩期土器と考えられる。25~27は縄文土器・壺である。25は頸~胴部片で、外面・頸~胴部境に沈線1条を巡らす。26は胴部片で縦位の隆帯1を貼付し、その両側に縁取り沈線を描く。27は頸~胴部片で、粘土紐の接合部外面に段をなし、その上面に沈線1条を描く。28~35は縄文土器・深鉢である。28~34は口縁部外面に刻目突帯1条を貼付する。28は口縁~胴部片で、口縁端面に刻目を施す。31~33は口縁端部外端に刻目を施す。32は口縁部片で、外面に斜位・縦位の沈線を描く。34は口縁~頸部片で、外面に円形刺突1を施す。35は底部片である。

36~48は弥生前期土器である。36~46は壺である。36は口縁~頸部片で、口縁部直下外面に段1を形成する。37~39は胴部片である。37は外面に沈線2条を描く。38は外面に沈線3条を描く。39は粘土帯の接合部外面に沈線1条を描く。40は頸~胴部片で、外面に沈線3条、斜位の沈線1条?を描く。41~44は胴部片である。41は外面に段1をなし、これ以下に斜位の沈線6条?を描く。42は外面に沈線2条、斜位沈線6条を描く。43は外面に沈線2条、縦位の沈線3条を描く。44は外面に沈線1条、縦位沈線3条、斜位沈線3条を描く。45は頸~胴部片で、外面に沈線1条を描き、2条の重弧文を施す。46は胴部片で、外面に沈線2条を描き、3条の重弧文を施す。47・48は甕である。47は口縁~胴部片で、口縁端部外端に刻目を施す。48は底部片である。

49~58は弥生中期土器である。49~55は壺である。49は口縁部片で、外面に斜位の櫛描文、口縁端部外端に刻目を施す。50は口縁~頸部片である。51は口縁部片で、口縁端部外面に刻目隆帯1を貼付し、これ以下に横位の櫛描文を施す。52は口縁~胴部片で、頸部に横位櫛描文、胴部に横位と縦位の櫛描文を施す。口縁端部は突帯状に外方へ拡張させる。53は口縁部片で、端部外面は貼付により肥厚させ、1段をなす。端部外面には縦位櫛描文、段以下には横位櫛描文を施す。54は口縁~頸部片で、

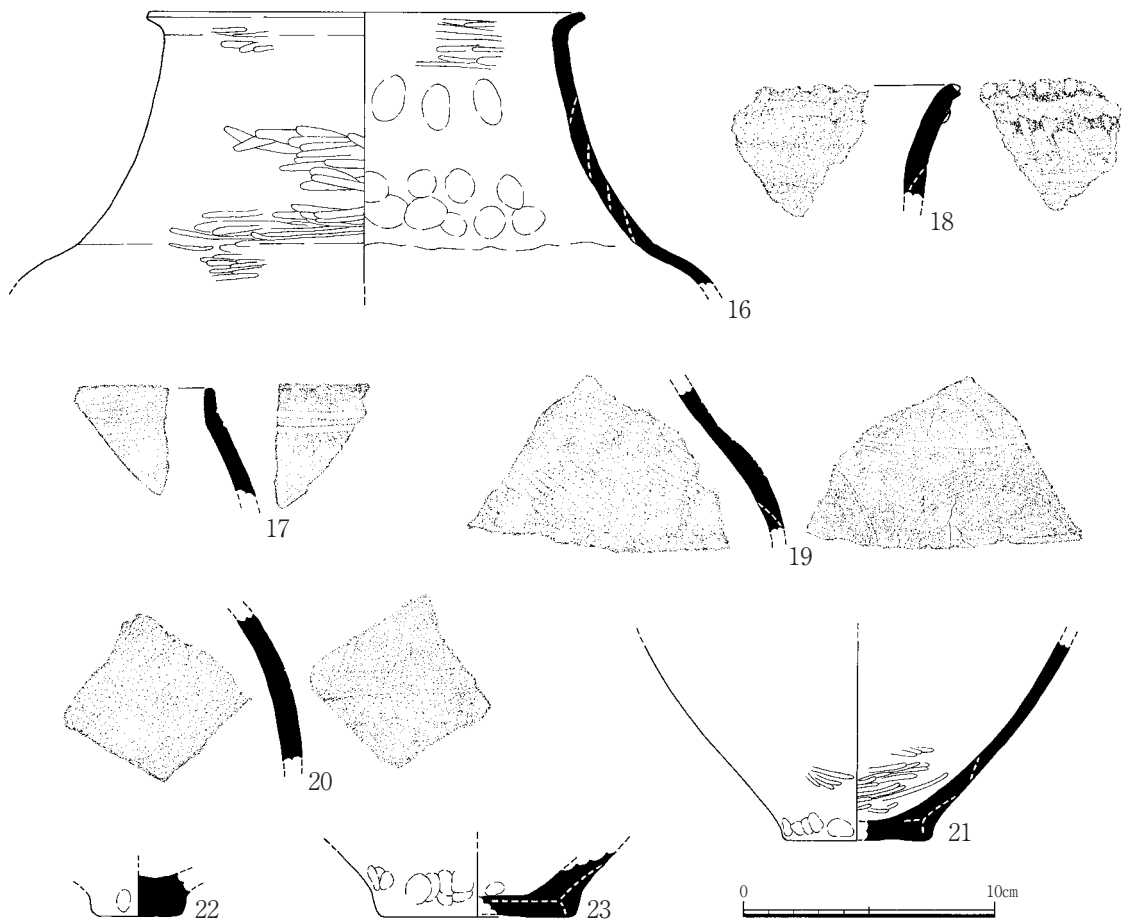


Fig.10 5 A区出土土器5 (S : 1/3)

端部外面は貼付により肥厚させ、1段をなす。端部外面には斜位櫛描文、段に接して円形貼付文1段、その下位には横位櫛描文を施す。55は胴部片で、上端部に横位櫛描文、その下位に縦位の櫛描文を施す。56～58は甕である。56・57は口縁～胴部片である。56は胴部外面に横位櫛描文を施す。58は口縁部片で、端部外面は貼付により肥厚させ、1段をなす。端部外端には刻目を施す。

59～62は土師器である。59～61は甕である。59は外面にタタキ調整の後、ハケ調整を加える。60は丸底で、内面にケズリ調整を施す。61は口縁～胴部片で、内外面ともナデ調整である。62は鉢・口縁～胴部片で、内面にはヘラ状工具先端部による圧痕がみられる。

### Ⅲ層出土土器 (Fig.15～19)

63は縄文土器・深鉢か。外面に刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端側に刻目を施す。64は縄文土器・深鉢・胴部片である。外面に沈線1条を描き、縄文施文か。

65は弥生前期土器・甕である。口縁～胴部片で、口縁端部外端に刻目を施す。

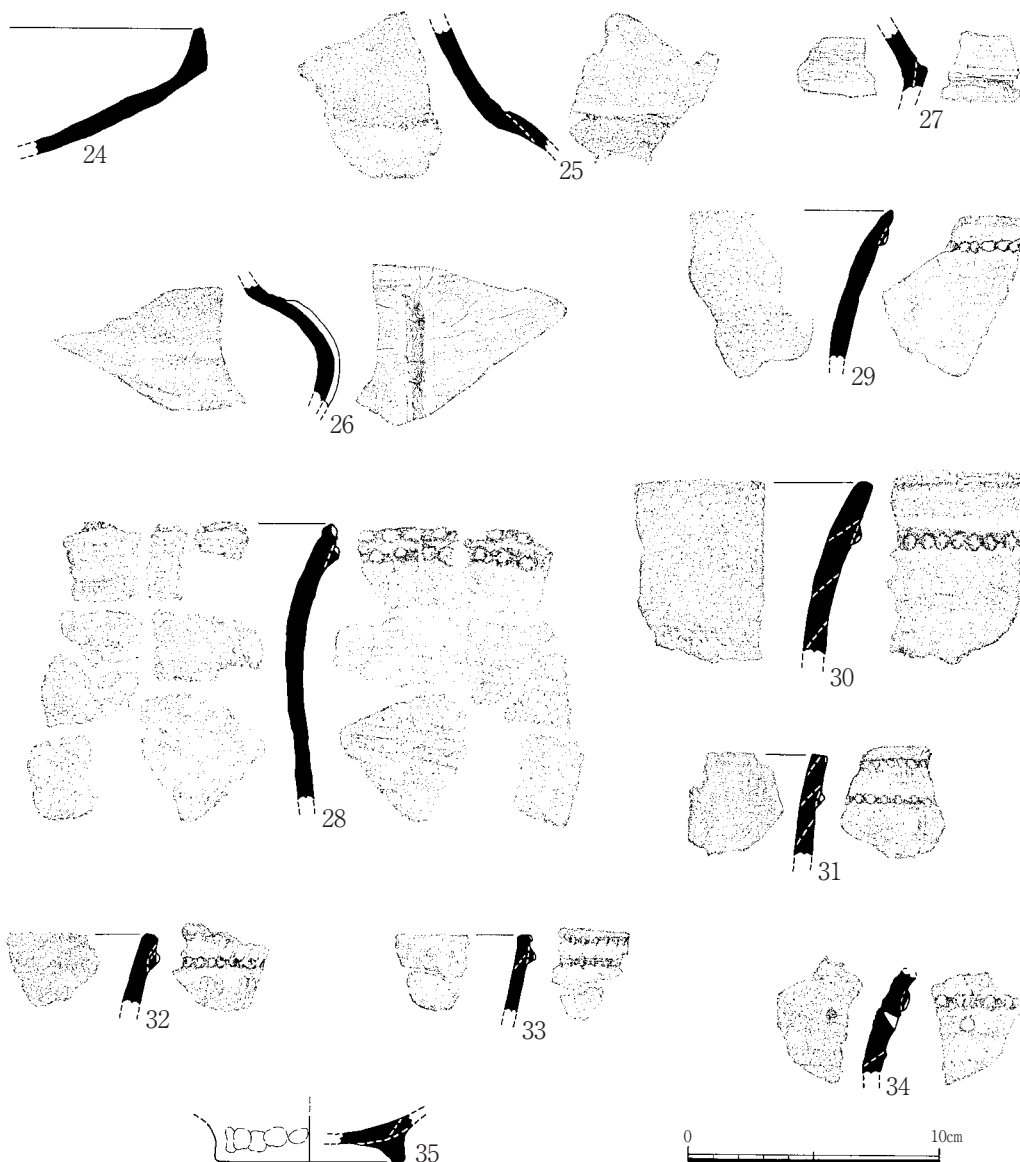


Fig.11 5 A区出土土器6 (S : 1/3)

66~70は弥生中期土器である。66~69は壺である。66~68は口縁~頸部片で、端部外面を貼付により肥厚させ、1段をなす。66は端部外面には縦位櫛描文、段に接して円形貼付文1段、その下位には横位櫛描文を施す。67は端部外面に斜位の櫛描文を施す。68は頸部外面に櫛描文(沈線?)を施す。69は頸~胴部片で、外面には円形貼付文1段と、その上下に横位櫛描文を施す。70は甕・口縁部片で、端部外面を貼付により肥厚させ、1段をなす。口縁端部外端に刻目を施す。

71~106は土師器である。71~82は壺である。71は口縁~胴部片で、指頭による押圧調整痕が顕著にみられる。72は丸底で、ナデ調整を施す。73は外面に指頭による押圧調整痕が顕著にみられるもので、

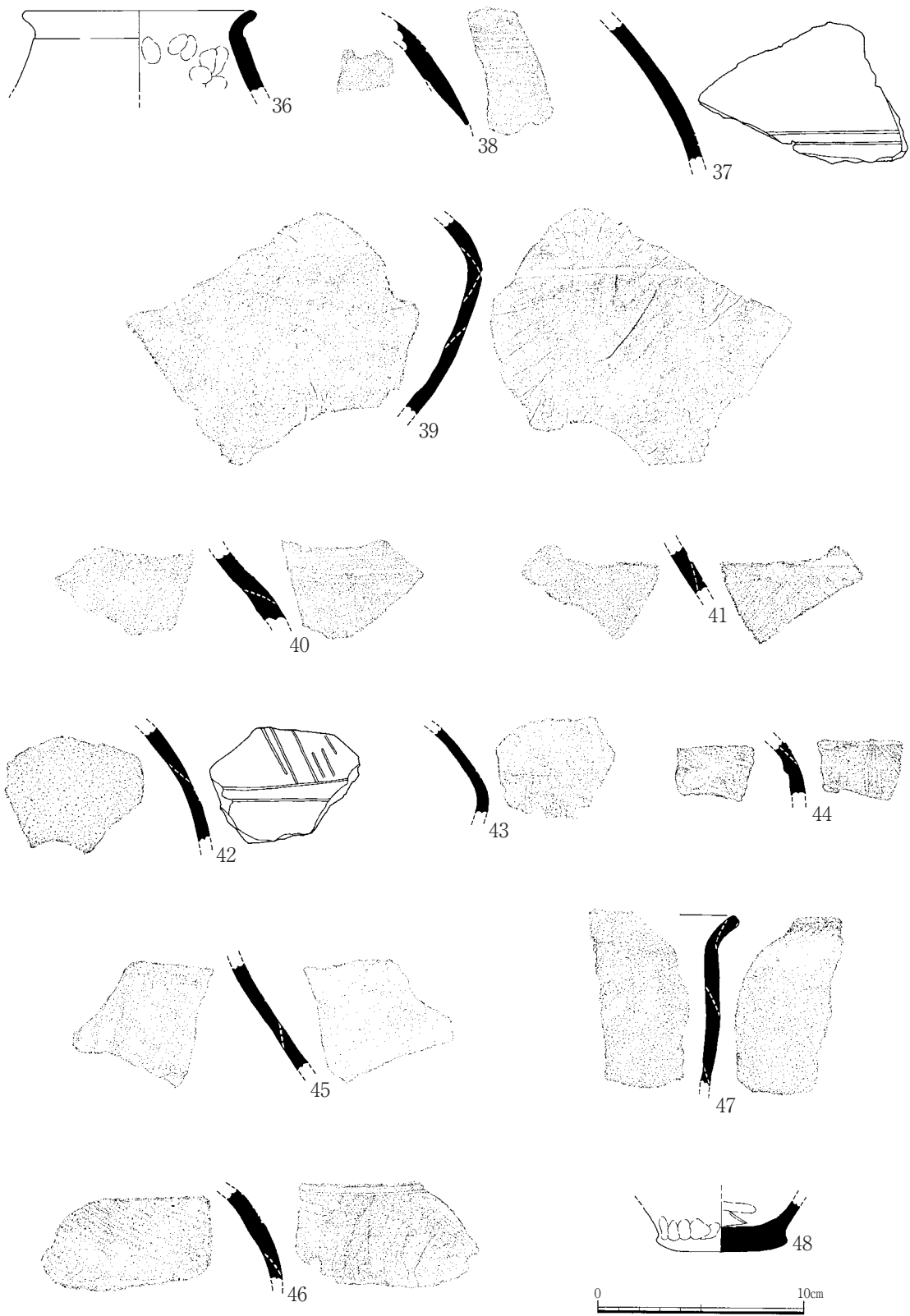


Fig.12 5 A区出土土器7 (S : 1/3)

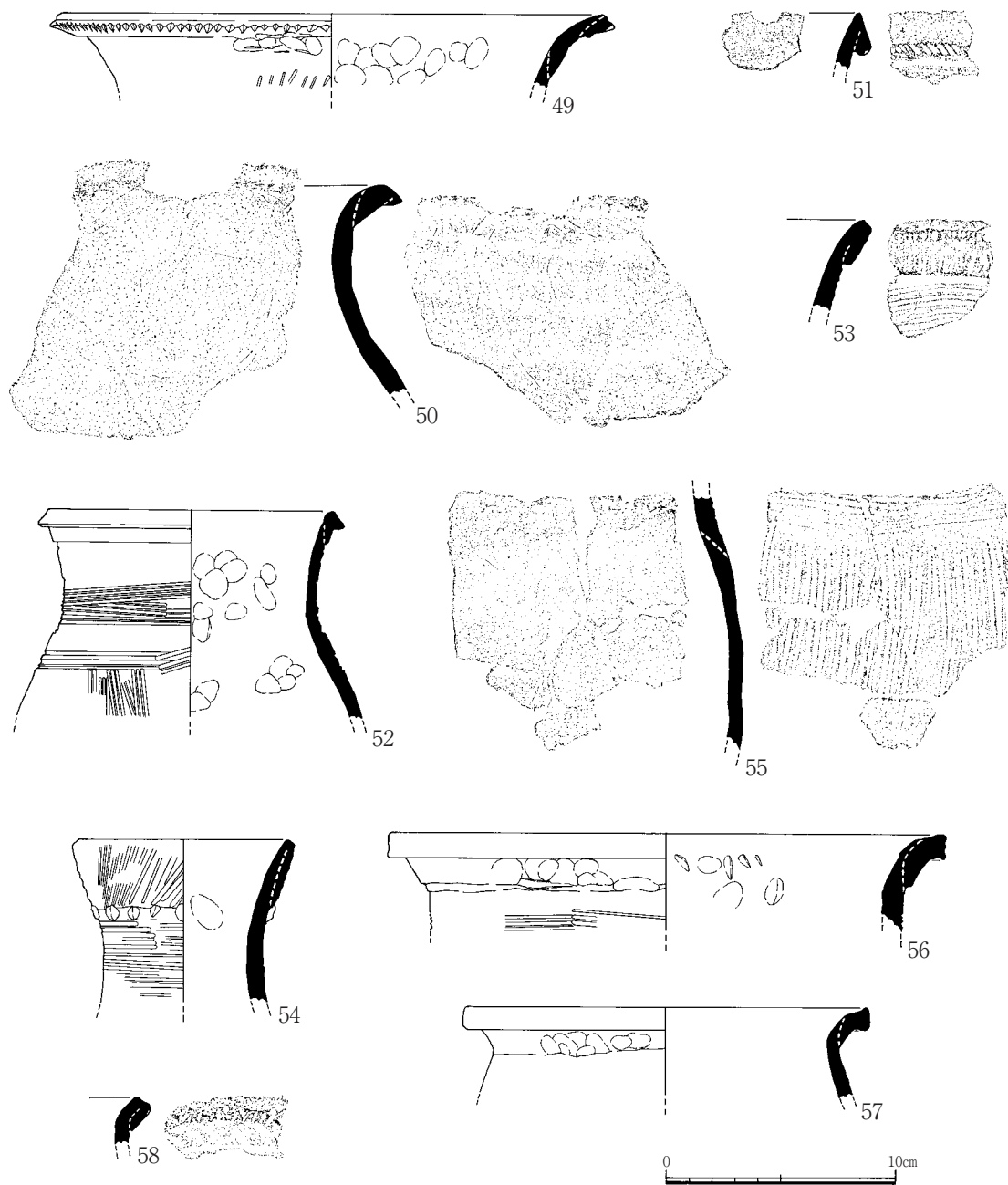


Fig.13 5 A区出土土器8 (S : 1/3)

手捏ね土器とすべきか。74にも指頭による押圧調整痕が顕著にみられる。75は口縁～胴部片で、ナデ・押圧調整を施す。76はほぼ完形の丸底の壺で、ナデ・押圧調整を施す。77はほぼ完形の平底の壺で、手捏ね土器とすべきか。78は外面に押圧・ナデ調整を施し、底面に粒状の圧痕がみられる。79は平底で、外面の押圧調整が顕著である。底面には線状の圧痕が多くみられる。80は平底で、内外面にハケ調整を施す。81はほぼ完形の丸底の壺である。82はほぼ完形の丸底の壺で、屈曲部外面の押圧調整が



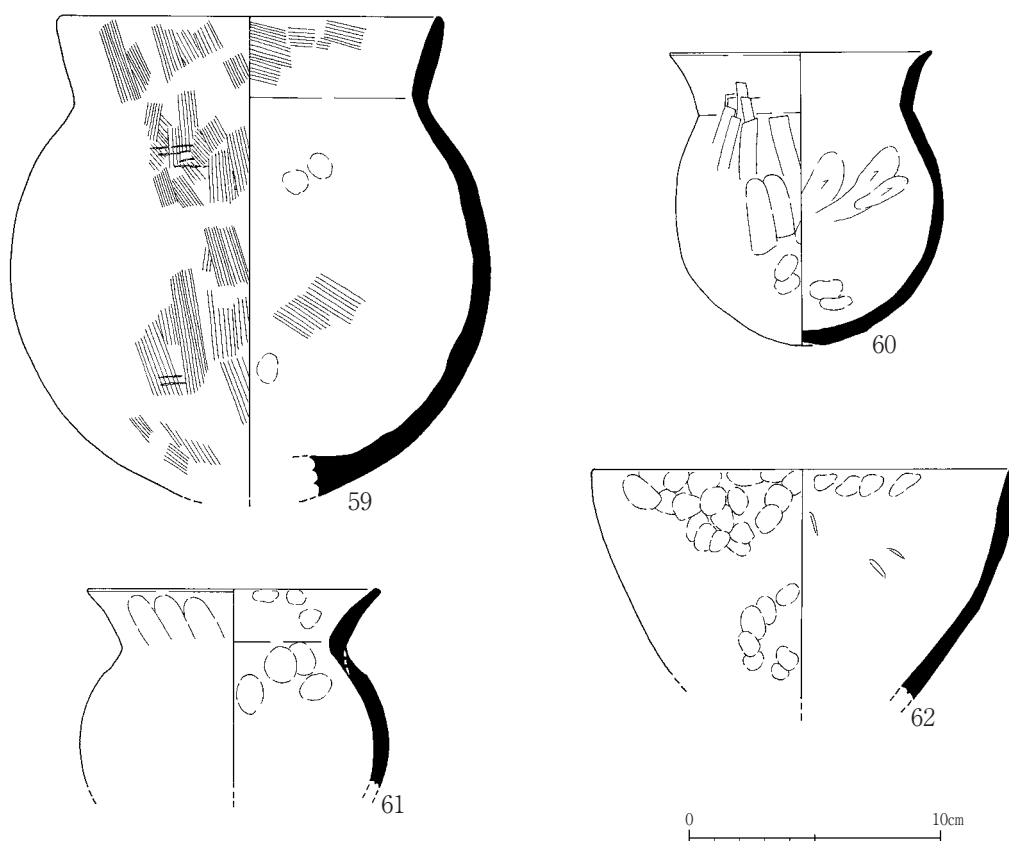


Fig.14 5 A区出土土器9 (S : 1/3)

顕著である。

83～87は甕である。83～85は丸底である。83は胴部外面にタタキ調整の後にナデ調整を施す。84は胴部外面はタタキ調整で、口縁部外面には押圧調整がきわめて顕著に認められる。85は内面にケズリ調整を施す。86・87は口縁～胴部片である。86は内外面ともナデ・押圧調整である。87は胴部外面に板ナデ調整、胴部内面にケズリ調整を施す。88は甑である。

89～95は高杯である。89は内外面ともナデ・押圧調整である。90はほぼ完形で、脚部上端面=杯部内面中央部に上方からの刺突1を施す。91～93は杯部片である。92・93は下端面に脚部との接合面=擬口縁が露出している。92は脚部との接合面に刺突?を施す。94は杯部内面に赤彩を施す。外面にも彩色か。95は上端面が杯部内面に相当する。杯部との接合面に押圧痕が認められ、未製品の可能性がある。

96～98は鉢である。96は丸底で、ほぼ完形品である。底面に線状の圧痕がみられる。97は平底ぎみで、ほぼ完形品である。98は丸底で、内外面にハケ調整を施す。99は坏で、外面に焼成時の剥離痕2がある。高杯の可能性がある。

100～106は手捏ね土器である。100は完形品で、丸底の壺形を呈する。101は平底の壺形を呈する。

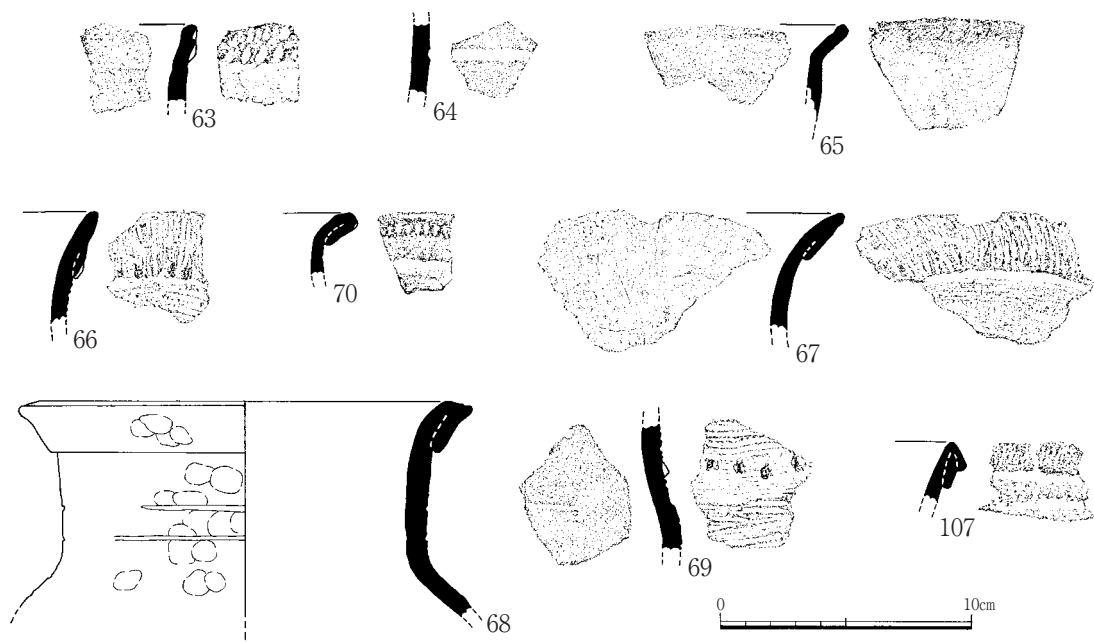


Fig.15 5 A区出土土器10 (S : 1/3)

102は高杯形の脚部片である。103は杯形を呈する。104～106はほぼ完形品で、杯形を呈する。104・106は丸底である。

②表採土器 (Fig.15-107)

1点を図示した。107は弥生土器・甕か。口縁～頸部片で、口縁端部外面は二重の貼付により2段をなす。口縁端面に斜位の櫛描文を施す。

(2) 土製品

IV層出土土製品2点を図示した。表4中では、図示した表面側をA面、その反対側の面をB面として表記した。

IV層出土土製品 (Fig.20-108・109)

108・109は土製円板である。108は縄文土器・壺・胴部片を素材とし、A・B両面はミガキ調整である。109は弥生土器・壺・胴部片を素材とし、A・B両面はミガキ調整である。

(3) 石器

IVC層出土石器3点、IV層出土石器4点、III層出土石器1点を図示した。表5中では、図示した表

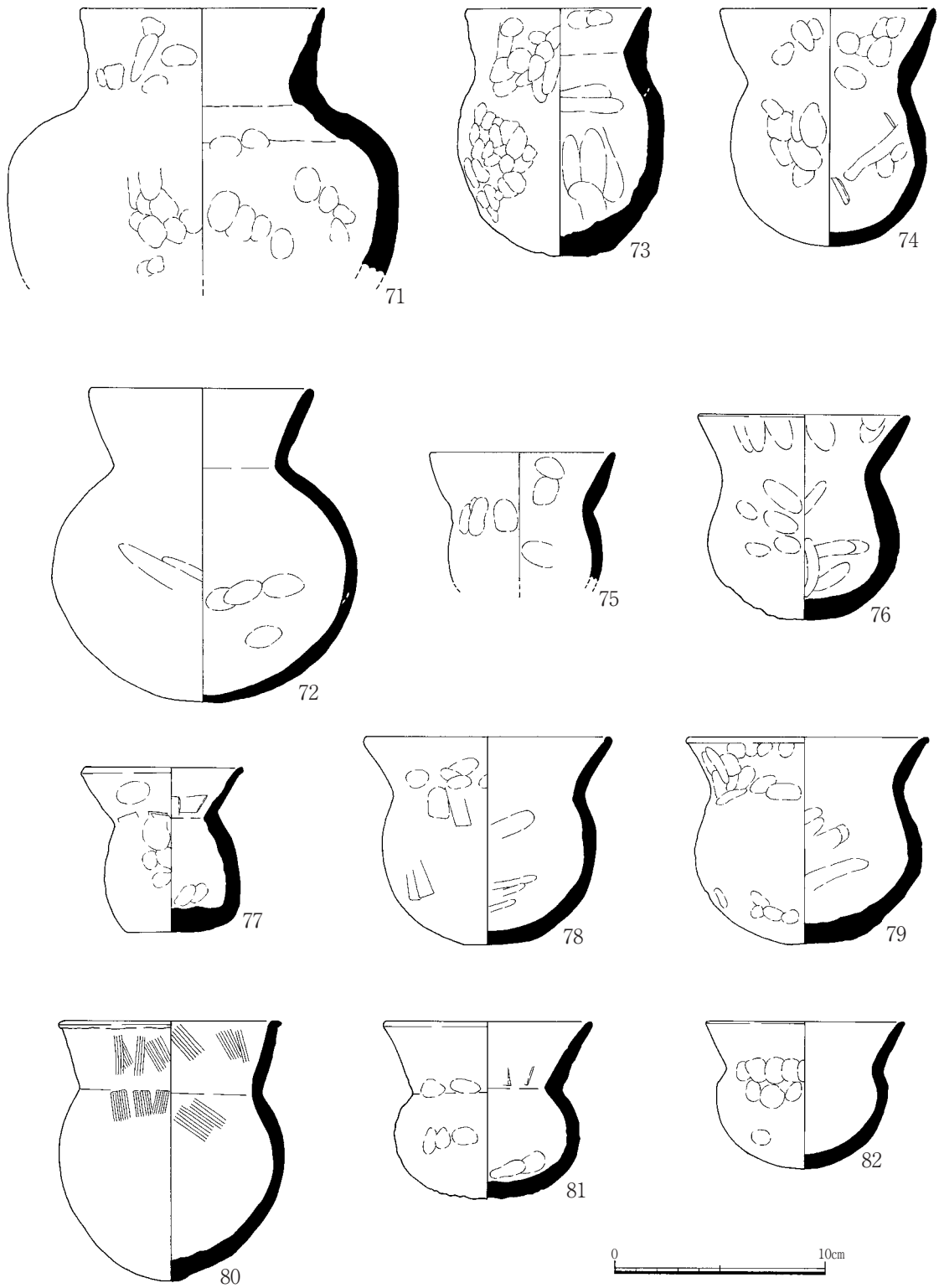


Fig.16 5 A区出土土器11 (S : 1/3)

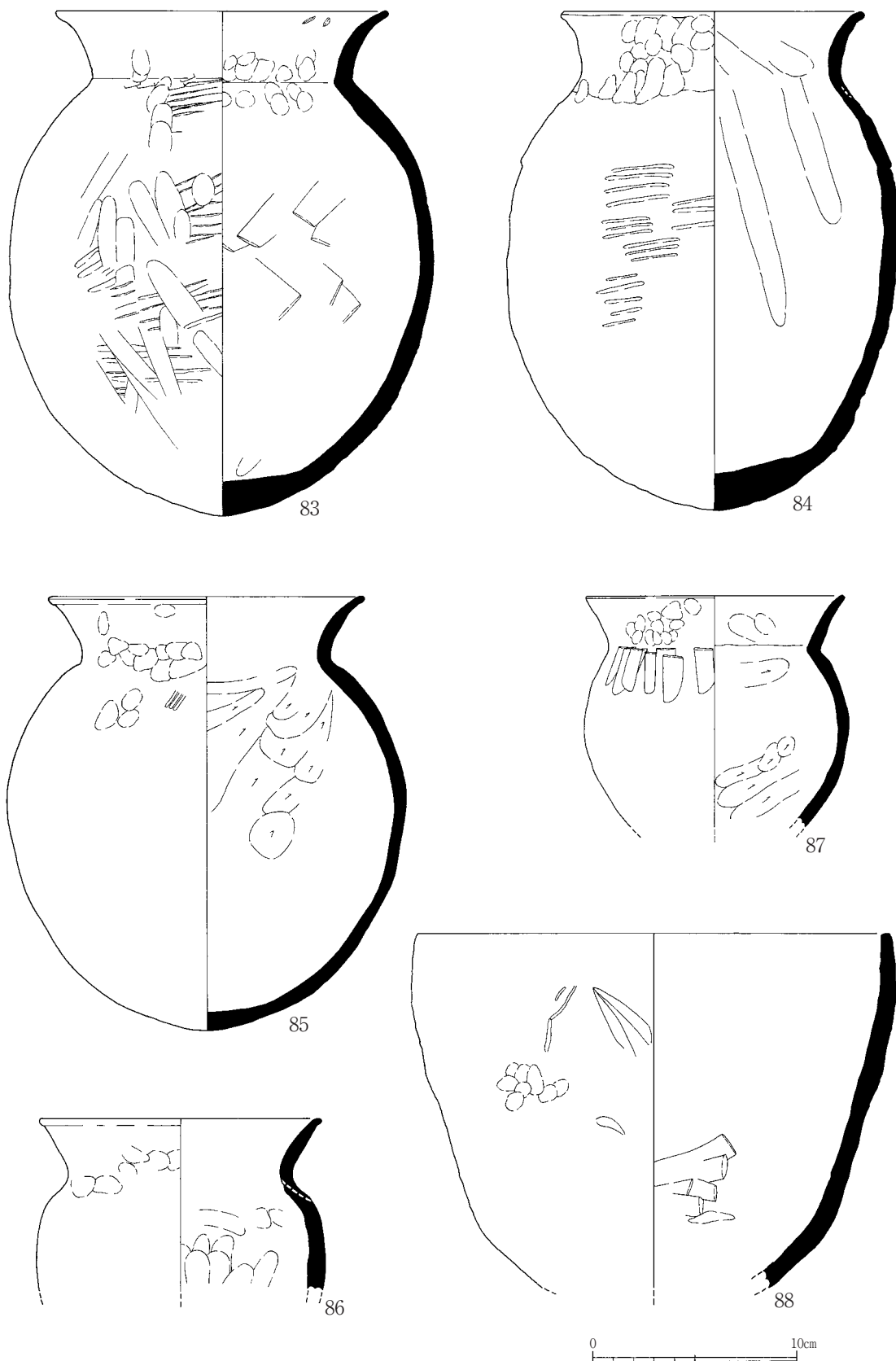


Fig.17 5 A区出土土器12 (S : 1/3)

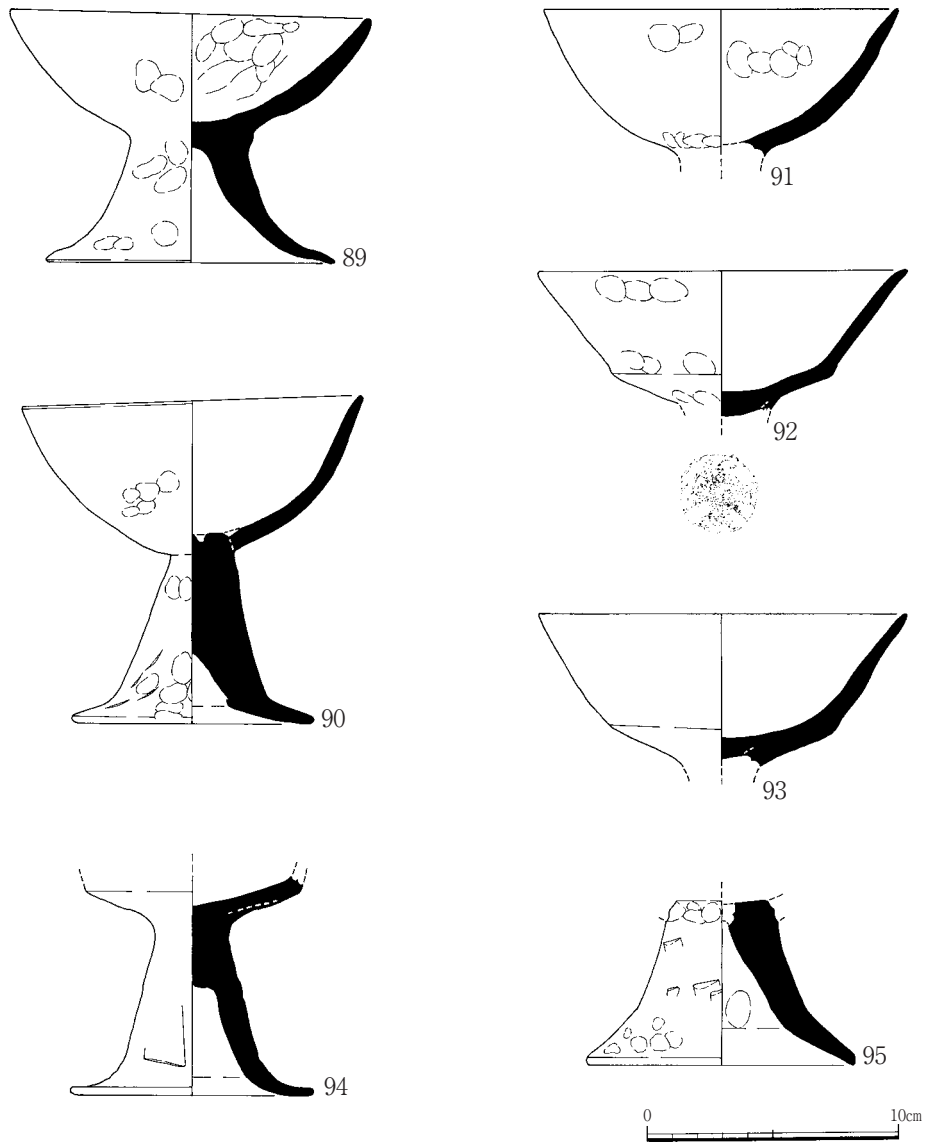


Fig.18 5 A区出土土器13 (S : 1/3)

面側をA面，その反対側の面をB面として表記した。

#### IVC層出土石器 (Fig.20)

110は磨製石斧である。蛇紋岩製の完形品で，刃部には使用痕が認められる。両刃磨製石斧で，縄文晩期の所産と考えられる。111・112はスクレイパーである。111は結晶片岩製で，大形剥片の両側縁に調整を施し，刃部・背部を形成する。縄文晩期の所産と考えられる。112はサヌカイト製の完形

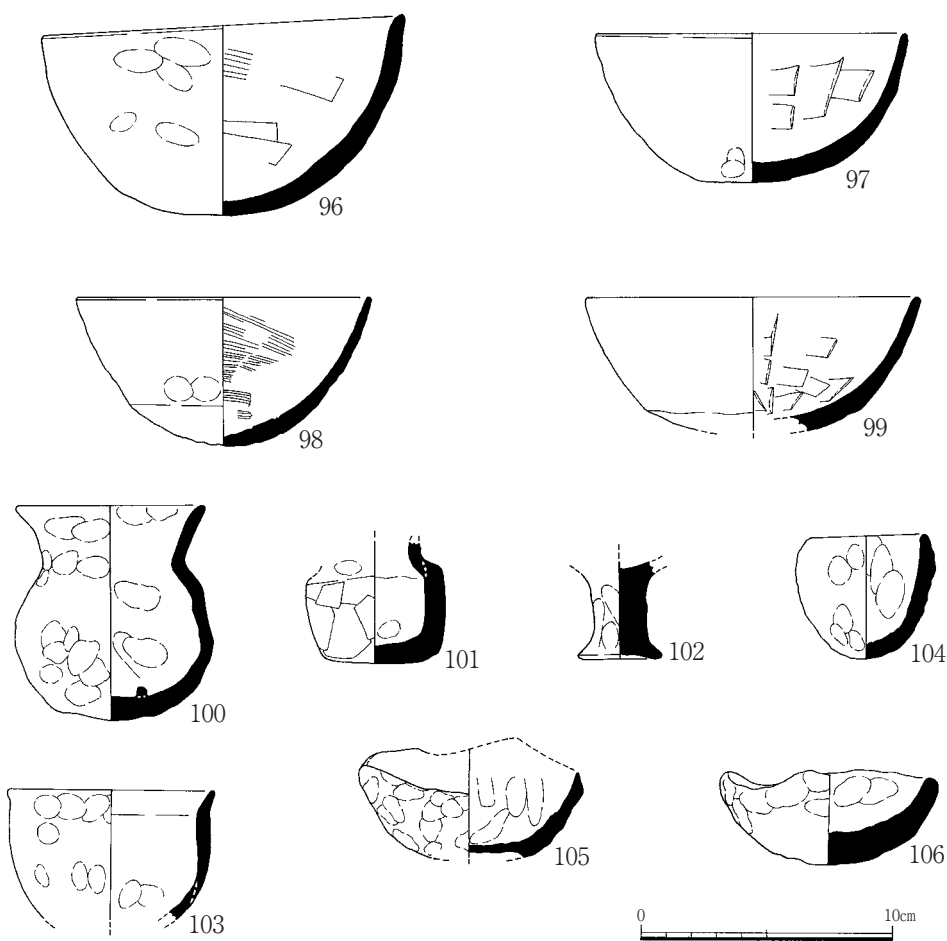


Fig.19 5 A区出土土器14 (S : 1/3)

品である。横長剥片素材で、両面の調整により刃部を形成する。縄文晩期の所産と考えられる。

**IV層出土石器 (Fig.21~22)**

113は打製石鏃である。凝灰質頁岩製で、製作時の欠損品の可能性がある。114・115は磨製石斧である。114は蛇紋岩製で、完形の両刃磨製石斧である。周縁部に研磨整形痕、刃部には使用痕が認められる。115は結晶片岩製で、完形品である。刃部には使用痕がみられる。116は完形の磨石で、砂岩製か。周縁部には敲打痕が認められる。

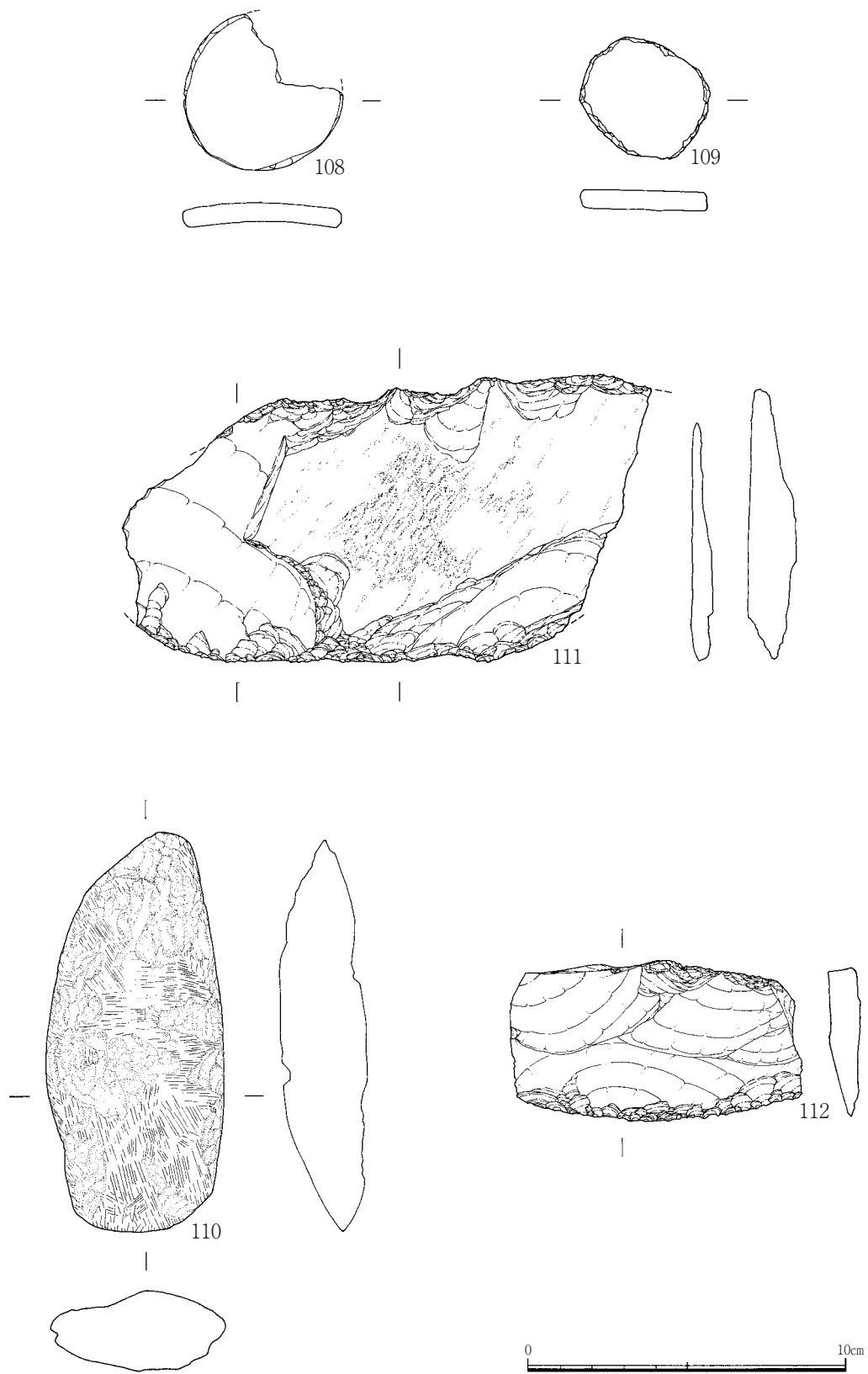


Fig.20 5 A区出土土製品・石器 (S : 1/2)

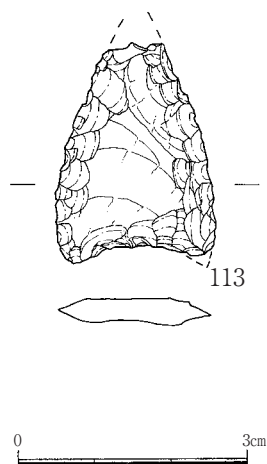


Fig.21 5 A区出土石器1 (S : 1/1)

### Ⅲ層出土石器 (Fig.22-117)

117は完形の磨製石斧で、結晶片岩製である。刃部には擦痕、使用痕がみられる。

### (4) 木製品 (Fig.23-118)

Ⅲ層出土木製品1点を図示した。118はほぼ完形の横槌である。把手部には加工痕が明瞭に認められる。樹種はモミ属である。

### (5) 自然遺物 (PL.25)

Ⅳ層出土自然遺物2点の写真図版を掲載した。119・120はサルノコシカケである。119は全長11.0cm, 全幅10.0cm, 全厚4.0cmである。120は全長13.5cm, 全幅10.0cm, 全厚5.5cmである。



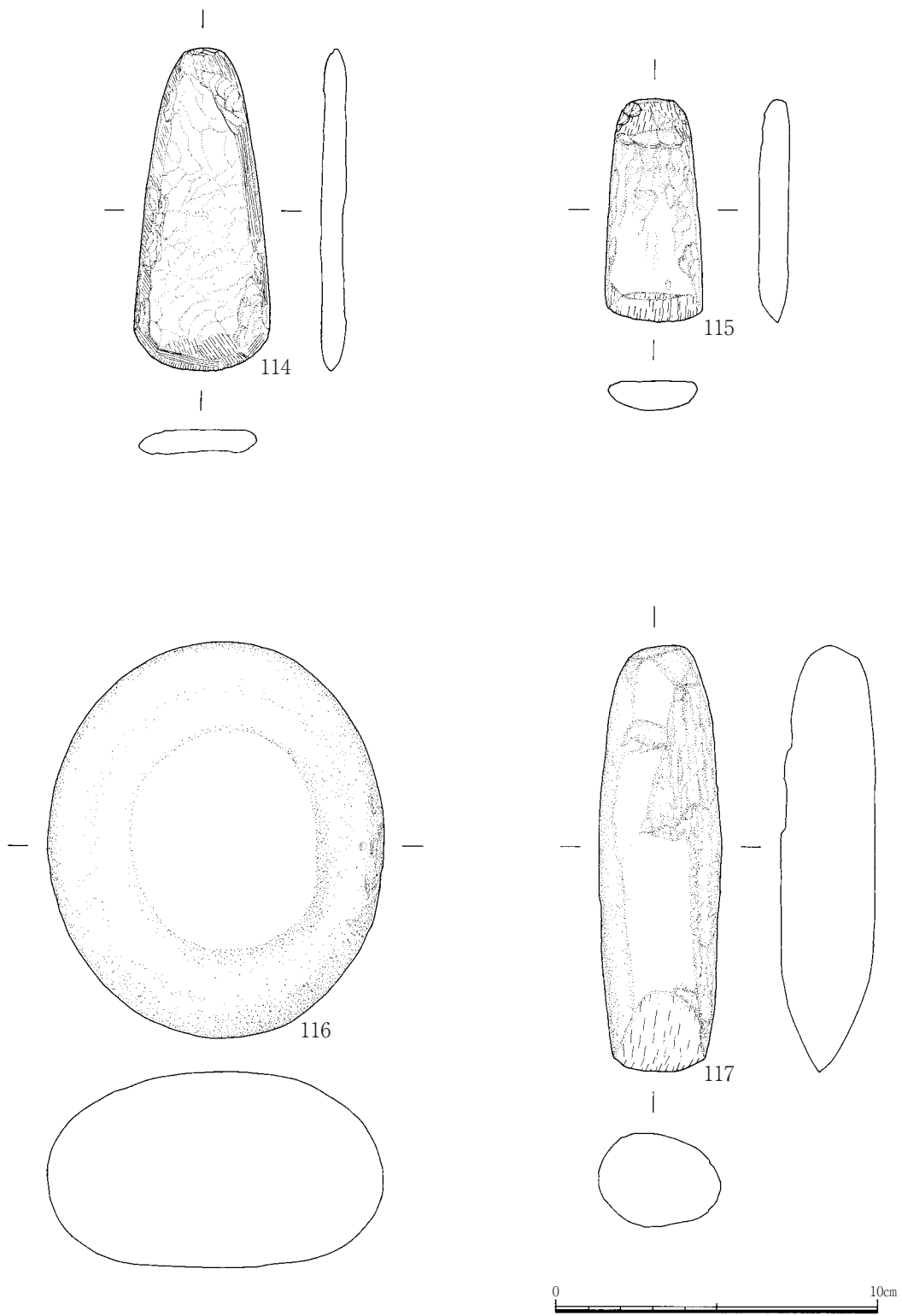


Fig.22 5 A区出土石器2 (S : 1/2)

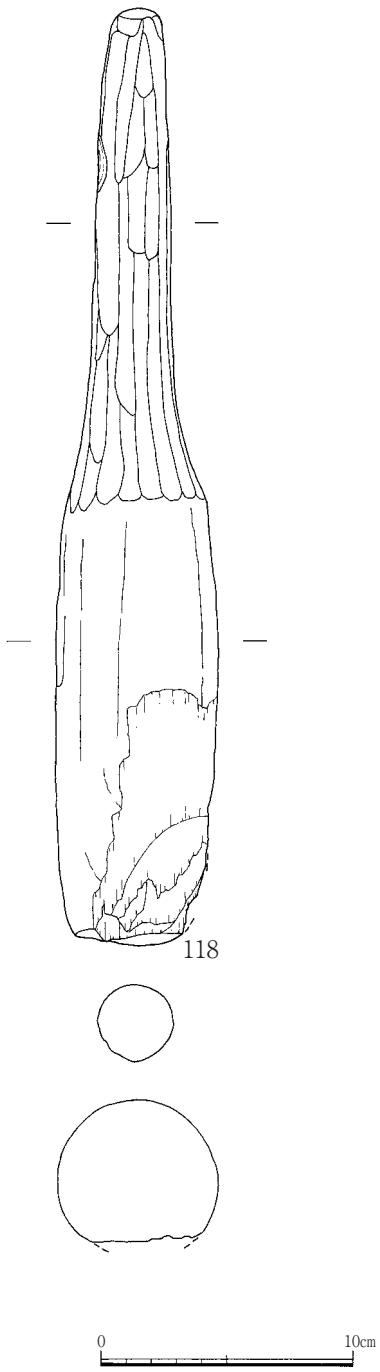


Fig.23 5 A区出土木製品 (S : 1/3)

表1 5A区出土土器観察表1

挿図番号	出土地点/ 層位	器種/ 器形/ 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調	内面 外面	胎土	備考
Fig. 6-1	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁~胴部片	残高 12.60	斜格子状沈線 3+3, 半截竹管刺突 1列, ナデ, 押圧, 条痕/ナデ, 押圧 端面: 刻目	黒褐 "	10YR 3/2 "	長石 粗砂粒多	外面: 炭化物付着 2・3と同一個体
Fig. 6-2	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁~頸部片	残高 8.50	斜格子状沈線文 (4条単位), 条痕?, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 端面: 刻目	黒褐 "	10YR 3/2 "	長石 砂粒多	外面: 炭化物付着 1・3と同一個体
Fig. 6-3	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁~頸部片	残高 7.80	斜格子状沈線 4+3, 半截竹管刺突 1列, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 端面: 刻目	黒褐 "	10YR 3/2 "	長石 砂粒多	外面: 炭化物付着 1・2と同一個体
Fig. 6-4	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁~頸部片	残高 7.20	斜格子状沈線文、ナデ、押圧/半截竹管刺突、ナデ、押圧 端面: 刻目	黄灰 "	2.5Y 6/1 "	石英、チャート 長石	
Fig. 6-5	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁部片	残高 4.50	条痕/沈線 1、ナデ、押圧 端面: 刻目	暗灰 "	N 3/0 "	石英、長石	外面: 炭化物付着
Fig. 6-6	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁~胴部片	残高 6.55	条痕、ナデ/ナデ 端面: 沈線 1	にぶい黄 "	2.5Y 6/3 "	石英、長石 チャート	
Fig. 6-7	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁部片	残高 2.95	刻目突帯貼付 1、ナデ/ナデ, 押圧 端面: 刻目	褐灰 灰白	10YR 4/1 2.5Y 7/1	石英、長石 チャート	
Fig. 7-8	IVC層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	口径 38.40 残高 23.50 胴径 39.65	条痕、ナデ ナデ	黄灰 にぶい黄橙	2.5Y 4/1 10YR 7/2	石英、チャート 長石	内外面: 黒変あり
Fig. 7-9	IVC層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	口径 35.80 残高 17.30 胴径 32.30	条痕、押圧 ナデ	灰黄 灰	2.5Y 6/2 5Y 5/1	石英、チャート 長石	
Fig. 8-10	IVC層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	口径 31.40 残高 23.50 胴径 27.60	条痕、押圧 ナデ、押圧	暗灰 "	2.5Y 3/1 "	石英、長石	
Fig. 8-11	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁~胴部片	口径 31.60 残高 18.70	ナデ、押圧、条痕 ナデ、押圧	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR 7/2 " 7/4	石英、長石	外面: 黒変あり
Fig. 8-12	IVC層	縄文土器/深鉢 口縁~胴部片	残高 8.45	条痕、ナデ ナデ、押圧	にぶい褐 灰黄褐	7.5YR 5/3 10YR 6/2	チャート、石英 粗砂粒多	外面: 黒斑あり
Fig. 9-13	IVC層	縄文土器/深鉢 胴~底部片	残高 12.30 底径 6.80	条痕、ナデ、押圧/ナデ 底面: ナデ	黒 にぶい黄橙	7.5YR 2/1 10YR 6/3	石英、チャート 長石	外面: タール? 内面: おこげ付着
Fig. 9-14	IVC層	縄文土器/深鉢 底部片	残高 2.90 底径 7.70	ナデ、押圧/ナデ、条痕? 底面: ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 7/2 " 6/2	石英、チャート 長石	
Fig. 9-15	IVC層	縄文土器/深鉢 底部片	残高 2.10 底径 7.60	押圧/押圧 底面: 押圧、ナデ	灰黄 "	2.5Y 6/2 "	石英、長石 チャート	
Fig. 10-16	IVB層	縄文土器/壺 口縁~胴部片	口径 16.80 残高 10.80	ミガキ ミガキ、押圧、ナデ、接合痕跡	黒褐 "	10YR 3/2 " 3/1	長石、石英	
Fig. 10-17	IVB層	縄文土器/壺 口縁部片	残高 4.30	沈線 2、ミガキ ミガキ	オリーブ黒 "	5Y 3/1 "	石英、長石	
Fig. 10-18	IVB層	縄文土器/深鉢 口縁~頸部片	残高 4.50	刻目突帯貼付 1、条痕、ナデ/ナデ、押圧 端面: 刻目	にぶい黄褐 黒	10YR 5/3 N 2/	石英、長石 チャート	外面: スス?
Fig. 10-19	ベルトB IVB層	弥生土器/壺 頸~胴部片	残高 5.70	重弧文 (2条)、沈線 2、重弧文 (3条)、ミガキ ハケ、押圧	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 6/3 " 5/2	石英、長石 雲母	
Fig. 10-20	IVB層	弥生土器/壺 胴部片	残高 5.80	沈線 2、斜沈線 2 (山形文)、ミガキ ナデ	にぶい黄褐 "	10YR 5/3 "	石英、長石 雲母	
Fig. 10-21	IVB層	弥生土器/鉢? 胴~底部片	残高 8.10 底径 5.40	ミガキ、押圧/ミガキ 底面: ナデ、押圧	黄褐 にぶい橙	2.5Y 5/3 7.5Y 6/4	石英、長石 チャート	
Fig. 10-22	ベルトB IV A層	縄文土器/深鉢 底部片	残高 1.80 底径 2.90	押圧/押圧 底面: ナデ	灰 "	7.5Y 5/1 "	石英、チャート 長石	
Fig. 10-23	IV A 2層	弥生土器/壺 底部片	残高 3.30 底径 7.70	押圧、ナデ/押圧 底面: ナデ	灰黄 "	2.5Y 7/2 "	チャート、石英 長石	
Fig. 11-24	IV層	縄文土器/浅鉢 口縁~胴部片	残高 5.00	ナデ? (剥落) ナデ (剥落)	にぶい黄褐 暗灰黄	10YR 4/3 2.5Y 5/2	石英、チャート 長石	
Fig. 11-25	IV層	縄文土器/壺 頸~胴部片	残高 4.90	沈線 1、ミガキ? (磨滅)、ナデ? (磨滅) ナデ	にぶい黄橙 "	10YR 6/4 "	石英、長石 雲母	
Fig. 11-26	IV層	縄文土器/壺 胴部片	残高 4.85	沈線状)、縦位隆帯貼付 1-縁取沈線、ミガキ ナデ、押圧	にぶい黄褐 褐灰	10YR 5/3 " 4/1	石英、長石 雲母	
Fig. 11-27	IV層	縄文土器/壺 頸~胴部片	残高 2.50	接合部: 段+沈線 1、ミガキ、ナデ、押圧 ミガキ、ナデ	黒褐 "	2.5Y 3/1 "	黒石、石英 チャート	外面: おこげ付着
Fig. 11-28	IV層	縄文土器/深鉢 口縁~胴部片	残高 10.90	刻目突帯貼付 1、条痕、ナデ/ナデ 端面: 刻目 (刺突状)	灰黄褐 暗灰黄	10YR 5/2 2.5Y "	石英、長石 チャート	外面: スス、黒変
Fig. 11-29	IV層	縄文土器/深鉢 口縁~頸部片	残高 5.90	刻目突帯貼付 1、ナデ ナデ	暗灰黄 "	2.5Y 5/2 "	石英、長石	
Fig. 11-30	IV層	縄文土器/深鉢 口縁~頸部片	残高 6.80	刻目突帯貼付 1、ナデ、押圧 ナデ、押圧	暗灰 灰黄褐	N 3/2 10YR 6/2	石英、チャート 長石	内面: 黒変あり 内面: 黒斑?
Fig. 11-31	IV層	縄文土器/深鉢 口縁部片	残高 3.95	刻目突帯貼付 1、ナデ/ナデ 口縁端部外端: 刻目	灰 灰黄	5Y 4/1 2.5Y 7/2	石英、チャート 長石	
Fig. 11-32	IV層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.80	刻目突帯貼付 1、斜沈線 2 (複線?)、縦位沈線 3+2 (複線?)、ナデ/ナデ 口縁端部外端: 刻目	黄灰 にぶい黄橙	2.5Y 5/1 10YR 7/3	チャート、石英 長石	波状口縁?
Fig. 11-33	IV層	縄文土器/深鉢 口縁部片	残高 3.05	刻目突帯貼付 1、ナデ/ナデ、押圧 口縁端部外端: 刻目	褐灰 "	10YR 5/1 "	チャート、石英 長石	
Fig. 11-34	IV層	縄文土器/深鉢 口縁~頸部片	残高 4.10	刻目突帯貼付 1、円形穿孔 1 (木貫通)、ナデ、押圧 ナデ、穿孔部膨隆	黄灰 灰黄褐	2.5Y 4/1 10YR 5/2	石英、長石 チャート	
Fig. 11-35	IV層	縄文土器/深鉢 底部片	残高 1.80	押圧、ナデ/押圧、ナデ 底面: 押圧、ナデ	黄灰 灰黄褐	2.5Y 5/1 10YR 6/2	石英、チャート 長石	
Fig. 12-36	IV層	弥生土器/壺 口縁~頸部片	口径 10.80 残高 4.10	段 1、ナデ、押圧、ミガキ~ナデ (丁寧) ナデ、押圧	にぶい黄褐 "	10YR 5/3 "	石英、長石 雲母	
Fig. 12-37	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 6.60	沈線 2、ミガキ ナデ? (磨滅)	黒褐 にぶい褐	2.5Y 3/2 7.5YR 5/4	石英、長石 雲母	
Fig. 12-38	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 5.10	沈線 3、ミガキ 押圧、ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 7/2 " 6/2	石英、長石 雲母	
Fig. 12-39	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 9.30	沈線 1 (接合部)、ミガキ、ナデ (丁寧) ナデ、押圧	褐灰 黒	10YR 4/1 2.5Y 2/1	石英、長石	外面: 黒色付着物
Fig. 12-40	IV層	弥生土器/壺 頸~胴部片	残高 3.40	沈線 3、山形沈線 1?, ミガキ 押圧、ナデ	灰黄褐 灰白	10YR 6/2 " 7/1	石英、長石	
Fig. 12-41	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 2.25	段 1、斜沈線 6+3 (山形文?)、ミガキ ナデ、押圧	にぶい黄褐 "	10YR 5/3 "	石英、長石 雲母	

表2 5A区出土土器観察表2

挿図番号	出土地点/ 層位	器種/ 器形/ 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面	胎土	備考
Fig.12-42	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 5.50	沈線2, 斜沈線6 (山形文?), ミガキ? (磨滅) ナデ, 板ナデ (磨滅)	灰黄 2.5Y 6/2 黄褐 " 5/3	石英, 長石 雲母, チャート	
Fig.12-43	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 4.10	沈線2, 縦位沈線3, ミガキ ナデ, 押圧	褐灰 10YR 4/1 灰黄褐 " 5/2	石英, 長石 雲母	
Fig.12-44	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 2.60	沈線1, 縦位沈線3+斜位沈線3, ミガキ ハケ, ナデ, 押圧	にぶい黄褐 10YR 5/3 黒 N 2/0	石英, 長石 チャート	外面: おこげ? 付着 内面: スス?
Fig.12-45	IV層	弥生土器/壺 頸~胴部片	残高 5.10	連弧文(2条), 沈線1, ミガキ ナデ, 押圧	にぶい黄褐 10YR 6/3 " " " "	石英, 長石 雲母	
Fig.12-46	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 4.30	沈線2, 重弧文(3条単位), ミガキ ハケ, 押圧	にぶい黄褐 10YR 6/3 灰黄褐 " 5/2	石英, 長石 雲母, チャート	外面: スス?
Fig.12-47	IV層	弥生土器/壺 口縁~胴部片	残高 8.20	ナデ, 押圧/ナデ, 押圧 口縁端部外端: 刻目	灰白 10YR 8/1 にぶい黄褐 " 7/2	石英, 長石 雲母	
Fig.12-48	IV層	弥生土器/壺 底部片	残高 2.85 底径 3.20	押圧, ナデ/ナデ, 押圧, 板ナデ印痕 底面: ナデ	灰 5Y 4/1 にぶい黄褐 10YR 7/3	石英, 長石 チャート	
Fig.13-49	IV層	弥生土器/壺 口縁部片	口径 23.40 残高 3.20	斜位櫛描文, 押圧, ナデ/押圧, ナデ 口縁端部外端: 刻目	にぶい褐 7.5YR 6/3 " " " "	石英, 長石 チャート	端部: 擬口縁露出
Fig.13-50	IV層	弥生土器/壺 口縁~頸部片	残高 9.10	押圧, 板ナデ?, ハケ, ナデ 押圧, ナデ	灰黄 2.5Y 6/2 明赤褐 5YR 5/8	石英, チャート 長石	
Fig.13-51	IV層	弥生土器/壺 口縁部片	残高 2.50	刻目帯貼付1, 横位櫛描文 ナデ, 押圧	にぶい黄褐 10YR 5/3 灰 N 4/	長石	
Fig.13-52	IV層	弥生土器/壺 口縁~胴部片	口径 12.40 残高 8.90	横位櫛描文, 縦位櫛描文, ナデ, 押圧/押圧, ナデ 口縁端部: 外方に拡張(突帯状)	黒褐 2.5Y 3/2 暗灰黄 " 5/2	石英, 長石 チャート	外面: 黒斑 内面: スス?
Fig.13-53	IV層	弥生土器/壺 口縁部片	残高 4.00	段1=外方に貼付・肥厚, 縦位櫛描文, 横位櫛描文 ナデ? (剥落)	にぶい黄褐 10YR 5/3 にぶい橙 7.5YR 6/4	石英, チャート	外面: 黒斑あり
Fig.13-54	IV層	弥生土器/壺 口縁~頸部片	口径 9.00 残高 7.10	段1=外方に貼付・肥厚, 斜位櫛描文, 円形貼付文, 横 位櫛描文/ナデ, 押圧	灰白 N 7/7 橙 7.5YR 7/6	長石, 石英 チャート	
Fig.13-55	IV層	弥生土器/壺 胴部片	残高 11.10	横位櫛描文, 縦位櫛描文 ナデ, 押圧	灰黄褐 10YR 6/2	石英, 長石	外面: 黒斑あり
Fig.13-56	IV層	弥生土器/壺 口縁~胴部片	口径 23.80 残高 4.20	押圧, ナデ, 板ナデ, 横位櫛描文 ナデ, 押圧, 板ナデ痕	にぶい褐 7.5YR 6/3 " " 5/3	石英, 長石 チャート	内面: 黒斑あり
Fig.13-57	IV層	弥生土器/壺 口縁~胴部片	口径 17.20 残高 3.80	押圧, ナデ/ナデ 口縁端部: 下方に貼付・拡張	灰黄褐 10YR 5/2 " " " "	石英, チャート	
Fig.13-58	IV層	弥生土器/壺 口縁部片	残高 2.00	段1=外方に貼付・肥厚, ナデ, 押圧/ナデ, 押圧 口縁端部外端: 刻目	灰 5Y 6/1 明赤褐 2.5YR 5/6	長石, チャート 石英	
Fig.14-59	IV層	土師器 壺	口径 14.90 残高 19.00 胴径 18.95	タタキ+ハケ, ナデ, 押圧 ハケ, ナデ, 押圧	灰黄 2.5Y 6/2 " " " "	石英, チャート	
Fig.14-60	IV層	土師器 壺	口径 10.30 器高 11.60 胴径 10.55	板ナデ, ナデ, 押圧 ナデ, ケズリ, 押圧	灰黄褐 10YR 5/2 " " " "	長石	丸底 外面: スス, 黒色付着物
Fig.14-61	IV層	土師器 壺	口径 11.40 残高 8.30 胴径 12.20	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	黄灰 2.5Y 4/1 にぶい黄橙 10YR 7/3	長石, チャート	外面: 黒斑あり
Fig.14-62	IV層	土師器/鉢 口縁~胴部片	口径 16.45 残高 10.00	押圧, ナデ ナデ, 押圧, ヘラ圧痕?	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " 6/3	長石, チャート	外面: 黒斑あり
Fig.15-63	III層	縄文土器?/深鉢 口縁部片	残高 3.05	刻目突帯貼付1, ナデ, 押圧/ナデ, 押圧 口縁端部外端側: 刻目	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " " "	チャート, 石英	縄文晩期?
Fig.15-64	III層	縄文土器/深鉢 胴部片	残高 2.85	沈線1, 縄文?, ミガキ ナデ	褐灰 10YR 4/1 にぶい黄橙 " 6/3	長石, 石英 雲母	
Fig.15-65	III層	弥生土器/壺 口縁~胴部片	残高 3.80	ナデ, 押圧/ナデ, 押圧 口縁端部外端: 刻目	褐灰 10YR 4/1 灰黄褐 " 5/2	石英, 長石	外面: 黒斑あり
Fig.15-66	III層	弥生土器/壺 口縁~頸部片	残高 4.40	段1: 外方に貼付・肥厚, 縦位櫛描文, 円形貼付文, 横 位櫛描文/ナデ? (磨滅)	灰 5Y 4/1 にぶい黄橙 10YR 6/3	石英, 長石 チャート	
Fig.15-67	III層	弥生土器/壺 口縁~頸部片	残高 4.60	段1: 外方に貼付・肥厚, 斜位櫛描文, ハケ, ナデ ナデ	灰黄褐 10YR 5/2 褐灰 " 4/1	長石, チャート	外面: おこげ付着
Fig.15-68	III層	弥生土器/壺 口縁~頸部片	口径 16.40 残高 8.50	段1: 外方に貼付・肥厚, 押圧, ナデ, 櫛描文(沈線?) ナデ	にぶい褐 7.5YR 6/3 黄灰 2.5Y 4/1	石英, 長石 チャート	
Fig.15-69	III層	弥生土器/壺 頸~胴部片	残高 5.00	横位櫛描文, 円形貼付文 ナデ, 押圧	灰黄褐 10YR 5/2 " " " "	石英, チャート 長石	内外面: 黒斑あり
Fig.15-70	III層	弥生土器/壺 口縁部片	残高 2.40	段1: 外方に貼付・肥厚, ナデ, 押圧/ナデ 口縁端部外端: 刻目	灰白 10YR 8/2 " " " "	チャート, 長石	
Fig.16-71	III層	土師器 壺	口径 11.30 残高 13.70 胴径 18.50	押圧, ナデ ナデ, 押圧	にぶい黄橙 10YR 7/3 にぶい橙 7.5YR 6/4	長石, チャート	
Fig.16-72	III層	土師器 壺	口径 10.30 器高 14.90 胴径 14.40	ナデ ナデ, 押圧 底面: ナデ, 押圧	にぶい黄褐 10YR 5/4 " " " "	長石, チャート	丸底 外面: 黒斑あり
Fig.16-73	III層	土師器 壺	口径 8.60 器高 11.80 胴径 9.70 底径 1.80	押圧, ナデ ナデ, 押圧 底面: 押圧	にぶい褐 7.5YR 3/6 " " " "	長石, チャート	平底 外面: 黒斑あり 「手握ね」的
Fig.16-74	III層	土師器 壺	口径 9.90 器高 11.30 胴径 9.25	押圧, ナデ 押圧, ナデ, ヘラ圧痕	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " " "	長石, チャート	丸底
Fig.16-75	III層	土師器 壺	口径 8.50 残高 6.50 胴径 7.30	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " " "	長石, チャート 角閃石	内面: 黒斑, 黒斑状
Fig.16-76	III層	土師器 壺	口径 9.80 器高 9.70 胴径 9.05	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	にぶい黄橙 10YR 6/3 橙 7.5YR 6/6	長石, チャート	ほぼ完存 丸底 外面: 黒斑あり
Fig.16-77	III層	土師器 壺	口径 7.40 器高 7.80 胴径 6.40 底径 3.30	ナデ, 押圧 ナデ, 板ナデ, 押圧	明黄褐 10YR 6/6 " " " "	長石	ほぼ完存 平底 外面: 黒斑あり 「手握ね」的
Fig.16-78	III層	土師器 壺	口径 11.40 器高 9.80 胴径 10.10 底径 3.00	押圧, ナデ ナデ, 板ナデ, 押圧 底面: 粒状圧痕あり	にぶい褐 7.5YR 5/4 にぶい橙 " 6/4	長石	平底? 外面: 黒斑あり

表3 5A区出土土器観察表3

種別番号	出土地点／層位	器種／器形／部位	法量 (cm)	文様・調整 外面／ 内面 その他の部位	色調 内面 外面	胎土	備考
Fig.16-79	Ⅲ層	土師器 壺	口径 11.20 器高 9.80 胴径 10.70 底径 3.00	押圧, ナデ ナデ 底面:線状圧痕多	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " 6/4	長石, 石英	平底 外面:スス、黒変 内面:黒色付着物
Fig.16-80	Ⅲ層	土師器 壺	口径 10.10 器高 12.30 胴径 10.65 底径 1.00	ハケ、押圧、ナデ ハケ、押圧、ナデ 口縁端部:外方に肥厚	にぶい橙 7.5YR 6/4 " 5YR "	石英、長石	平底 外面:黒色付着物 内面:底部付近に黒色付着物
Fig.16-81	Ⅲ層	土師器 壺	口径 9.60 器高 8.40 胴径 8.75	ナデ、押圧 ナデ、板ナデ、押圧	黄灰 2.5Y 5/1 " " "	長石、チャート	ほぼ完存 丸底
Fig.16-82	Ⅲ層	土師器 壺	口径 9.30 器高 7.00 胴径 8.05	ナデ、押圧 ナデ	にぶい橙 7.5YR 7/4 " " "	石英、チャート 長石	ほぼ完存 丸底 外面:黒斑
Fig.17-83	Ⅲ層	土師器 甕	口径 16.00 器高 24.40 胴径 20.65	タタキナデ、押圧 ナデ、押圧、板ナデ	灰黄 2.5Y 6/2 灰黄褐 10YR "	長石	丸底 外面:黒変あり、タール
Fig.17-84	Ⅲ層	土師器 甕	口径 14.50 器高 24.20 胴径 19.05	押圧、ナデ、タタキ ナデ、押圧	にぶい黄褐 10YR 5/3 灰黄褐 " 5/2	長石	丸底 外面:炭化物付着
Fig.17-85	Ⅲ層	土師器 甕	口径 14.90 器高 21.10 胴径 19.40	ナデ、押圧、ハケ? ナデ、ケズリ	にぶい黄橙 10YR 7/4 " " 7/3	チャート	丸底 外面:炭化物付着 内面:おこげ付着
Fig.17-86	Ⅲ層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 13.40 残高 10.10 胴径 14.00	ナデ、押圧 ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " 6/3	長石、石英 チャート	外面:スス、タール
Fig.17-87	Ⅲ層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 12.40 残高 11.90 胴径 12.90	押圧、ナデ、板ナデ ナデ、押圧、ケズリ	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " "	長石、チャート	外面:黒斑あり
Fig.17-88	Ⅲ層	土師器 甕	口径 22.50 残高 17.30 胴径 23.60	ナデ、押圧、ヘラ圧痕 板ナデ、ナデ、押圧	暗灰黄 2.5Y 5/2 にぶい褐 7.5YR 6/4	長石、チャート	内面:黒斑状あり
Fig.18-89	Ⅲ層	土師器 高杯	口径 14.20 器高 10.00 底径 11.10	ナデ、押圧 ナデ、押圧	にぶい褐 7.5YR 6/3 " " "	長石、チャート	
Fig.18-90	Ⅲ層	土師器 高杯	口径 13.30 器高 13.00 底径 9.30	ナデ、押圧、板ナデ痕 ナデ、板ナデ 脚部頂部:刺突1	灰白 10YR 8/2 にぶい黄橙 " 7/2		ほぼ完存 脚部:中実 脚部外面:赤変あり
Fig.18-91	Ⅲ層	土師器/高杯 杯部片	口径 13.90 残高 6.40	ナデ、押圧 ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/4 " " "	長石、チャート	内面:黒斑状あり
Fig.18-92	Ⅲ層	土師器 高杯 杯部片	口径 14.50 残高 5.80	ナデ、押圧 ナデ	灰白 10YR 8/2 " " "	石英、チャート 長石	内外面:スス、タール 下端:脚部接合面:擬口縁露出、刺突?
Fig.18-93	Ⅲ層	土師器 高杯 杯部片	口径 14.40 残高 6.00	ナデ、押圧 ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/4 にぶい橙 7.5YR 7/4	長石	外面:黒斑あり 下端:脚部接合面:擬口縁露出
Fig.18-94	Ⅲ層	土師器 高杯	残高 8.70 底径 9.20	ナデ、板ナデ ナデ	黄黄橙 7.5YR 8/4 灰白 10YR 8/1	石英、チャート	脚部:中実 杯部内面:赤彩 杯部外面:黒変、彩色?
Fig.18-95	Ⅲ層	土師器 高杯 脚部片	残高 6.50 底径 10.40	押圧、ナデ、板ナデ ナデ、押圧	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " "	長石	上端部:杯部内面に相当 外面上端部:擬口縁露出→未製品? 内面:黒変あり
Fig.19-96	Ⅲ層	土師器 鉢	口径 14.10 器高 8.10	ナデ、押圧/ハケ+ナデ、押圧 底部外面:線状圧痕	にぶい褐 7.5YR 5/4 " " "	長石、チャート	ほぼ完存 丸底
Fig.19-97	Ⅲ層	土師器 鉢	口径 12.20 器高 5.95 底径 3.60	ナデ(粗い?)、押圧 ナデ、板ナデ、押圧 底面:ナデ、押圧	灰 5Y 4/1 にぶい黄橙 10YR 6/3	長石	ほぼ完存 平底 底部内外面:黒斑
Fig.19-98	Ⅲ層	土師器 鉢	口径 11.50 器高 5.85	ハケ+ナデ、押圧/ハケ、ナデ、押圧 底部外面:ハケ	橙 " 5YR 6/6 " " "	長石、石英	丸底
Fig.19-99	Ⅲ層	土師器 杯	口径 13.00 残高 5.60	ナデ、押圧 板ナデ、ナデ	灰 5Y 4/1 にぶい黄橙 10YR 6/3	長石?	底部外面:黒斑 外面:焼成時剥離痕2 高杯?
Fig.19-100	Ⅲ層	土師器 手捏ね土器	口径 7.30 器高 8.50 胴径 7.80	押圧、ナデ ナデ、押圧	灰褐 " 7.5YR 6/2 " " "	長石、石英	完存、丸底 内面底部:棒状粘土塊付着 外面:黒斑あり
Fig.19-101	Ⅲ層	土師器 手捏ね土器	口径 4.85 器高 5.50 胴径 3.80	押圧、ナデ 押圧、ナデ 底面:ナデ、押圧	黄灰 2.5Y 4/1 灰黄 " 6/2	長石、チャート	壺形 平底
Fig.19-102	Ⅲ層	土師器 手捏ね土器	残高 3.90 底径 2.70	押圧、ナデ 押圧 底面:押圧、ナデ	黒 10YR 2/1 にぶい黄橙 " 6/3	長石、チャート	高杯形 脚部:中実 杯部内面:黒変 外面:黒斑あり
Fig.19-103	Ⅲ層	土師器 手捏ね土器	口径 8.10 残高 5.70 胴径 7.90	押圧、ナデ ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " "	長石、チャート	杯形
Fig.19-104	Ⅲ層	土師器 手捏ね土器	口径 4.50 器高 4.90 胴径 5.50	押圧、ナデ ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/4 灰白 2.5Y 8/1	長石、チャート	ほぼ完存、丸底 杯形
Fig.19-105	Ⅲ層	土師器 手捏ね土器	口径 8.60 器高 4.80	押圧、ナデ ナデ、押圧	にぶい黄褐 10YR 5/4 " " "	長石	ほぼ完存、丸底? 杯形 外面:黒斑あり
Fig.19-106	Ⅲ層	土師器 手捏ね土器	口径 7.90 器高 3.80	押圧、ナデ 押圧、ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 にぶい黄橙 " 5/3	長石、石英 チャート	ほぼ完存、丸底、杯形 内外面:黒斑あり
Fig.15-107	表採	弥生土器/甕? 口縁~頸部片	残高 2.40	段2:外方に貼付・二重、斜位帯描文、ナデ、押圧 ナデ、押圧	オリーブ黒 5Y 3/1 にぶい黄橙 10YR 7/3	石英、チャート	

表4 5A区出土土製品観察表

挿図番号	出土層位	器種	法量 (cm, g)				調整等	色調			胎土	備考
			全長	全幅	全厚	重量		A面	B面			
Fig.22-108	IV層	土製円板	5.00	4.95	0.90	16.10	ミガキ ミガキ	灰黄褐 にぶい黄褐	10YR "	5 / 2 5 / 3	長石、石英 雲母	縄文土器・壺・胴部片 素材 縄文晩期～弥生前期
Fig.22-109	IV層	土製円板	4.10	3.85	0.70	10.50	ミガキ ミガキ	黄灰 "	2.5Y "	6 / 1 5 / 1	長石、石英	弥生土器・壺・胴部片 素材 A面：黒斑あり 弥生前期

表5 5A区出土石器計測表

挿図番号	出土層位	器種	法量 (cm, g)	調整等	石材	備考
Fig.20-110	IVC層	磨製石斧	全長 12.60 全幅 5.55 全厚 2.70 重量 276.40	A面：擦痕多，敲打凹部残 B面：凹部多，擦痕面少 刃部：使用痕あり	蛇紋岩	完存 縄文晩期
Fig.20-111	IVC層	スクレイパー	全長 16.50 全幅 9.10 全厚 1.50 重量 242.00	A面：刃部・背部：調整剥離 中央部：素材面 B面：中央部：素材面少 刃部・背部：調整剥離	結晶片岩	縄文晩期
Fig.20-112	IVC層	スクレイパー	全長 9.20 全幅 5.00 全厚 1.00 重量 60.80	A面：両側縁：折断面 背部・刃部：調整剥離 B面：刃部：調整剥離	サヌカイト	完存 横長剥片素材 縄文晩期
Fig.21-113	IV層	石鏃	全長 2.90 全幅 2.10 全厚 0.35 重量 2.90	A・B面：調整剥離全周 尖端部：未整形？	凝灰質頁岩	完存 凹基 製作時欠損品？
Fig.22-114	IV層	磨製石斧	全長 10.00 全幅 4.20 全厚 0.80 重量 56.70	A・B面：周縁部：研磨痕 刃部：使用痕 中央部：素材面	蛇紋岩	完存 両刃磨製石斧
Fig.22-115	IV層	磨製石斧	全長 6.90 全幅 3.00 全厚 0.95 重量 34.30	A面：整形痕多 基部・刃部・両側縁：擦痕 B面：素材面大 両側縁：擦痕 A・B面：刃部：使用痕 基部：滑面，擦痕	結晶片岩	完存 片刃ぎみ
Fig.22-116	IV層	磨石	全長 12.30 全幅 10.40 全厚 6.05 重量 1175.00	A・B面：中央部：滑面，使用部位 周縁部：敲打痕	砂岩？	完存 叩石用途あり
Fig.22-117	III層	磨製石斧	全長 13.20 全幅 3.80 全厚 2.95 重量 246.20	A面：刃部：擦痕，使用痕 B面：刃部：使用痕 A・B面：整形痕あり	結晶片岩	完存 両刃磨製石斧

表6 5A区出土木製品計測表

挿図番号	層位	器種	法量 (cm, g)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.23-118	III層	横槌	36.90	6.40	5.60	把部：加工痕明瞭	モミ属	ほぼ完存

## (2) 3A区

### 1. 調査区の概要

3A区は、本次の調査対象地のほぼ中央部に位置する調査区である。面積は3,056㎡である。北東～南西に長い調査対象地のほぼ中央で道路路線方向と直交する、埋没残丘の西側斜面部分に相当する。調査区の東半部は埋没残丘の削平面である基底礫層が表土直下で検出され、一部のSE区を除いては遺構・遺物の存在は認められなかった。対象地一帯で近代以降に実施された耕地拡大施策の一環で、当該丘陵も姿を消したようである。現況の地表面はほぼ平坦な地形を呈していた。

発掘調査期間は、平成10年12月27日～平成11年3月31日である。

### 2. 調査の方法

調査区の表土及び無遺物層の掘削は、重機（バックホー）を使用しておこない、遺物包含層・遺構の掘り下げは人力でおこなった。遺物出土状態、遺構検出状態等、適宜写真撮影による記録をおこなった。3A区では2面の遺構検出面を設定し、包含層掘削→遺構検出→遺構調査・完掘の工程を2回繰り返した。それぞれの遺構検出面の完掘後、平面図・堆積土層断面図等を作成し、あわせて写真撮影によって記録した。

全調査区共通の4mグリッドを遺物取上げの最小単位とし、グリッドの名称も他の調査区と同一の方法によって決定した。また、必要な遺物については個別に出土地点の国土座標を測定・記録した。

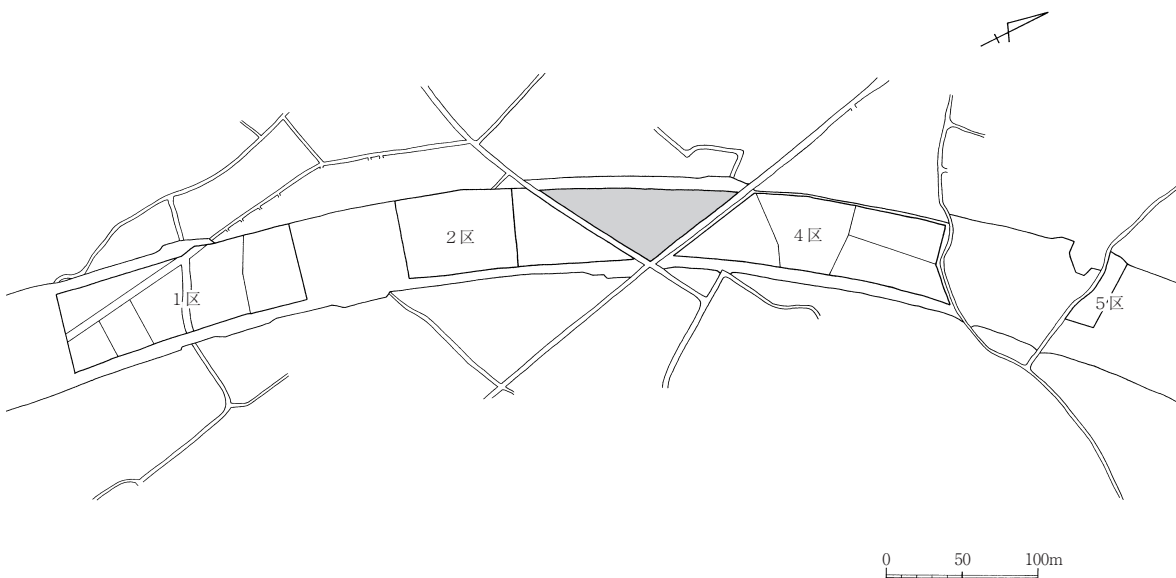


Fig.24 3A区的位置 (S : 1/5,000)

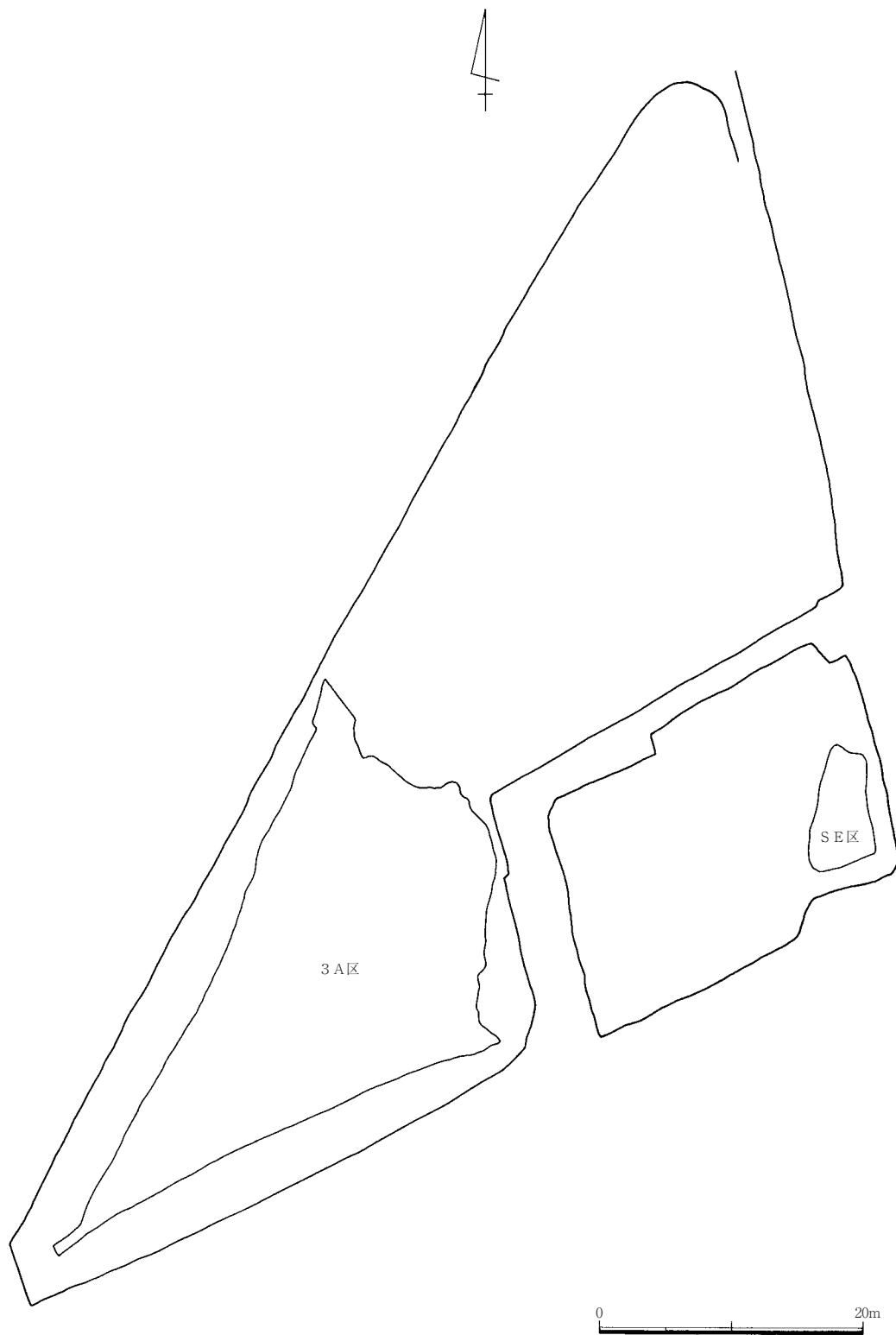


Fig.25 3A区全体図 (S : 1/500)



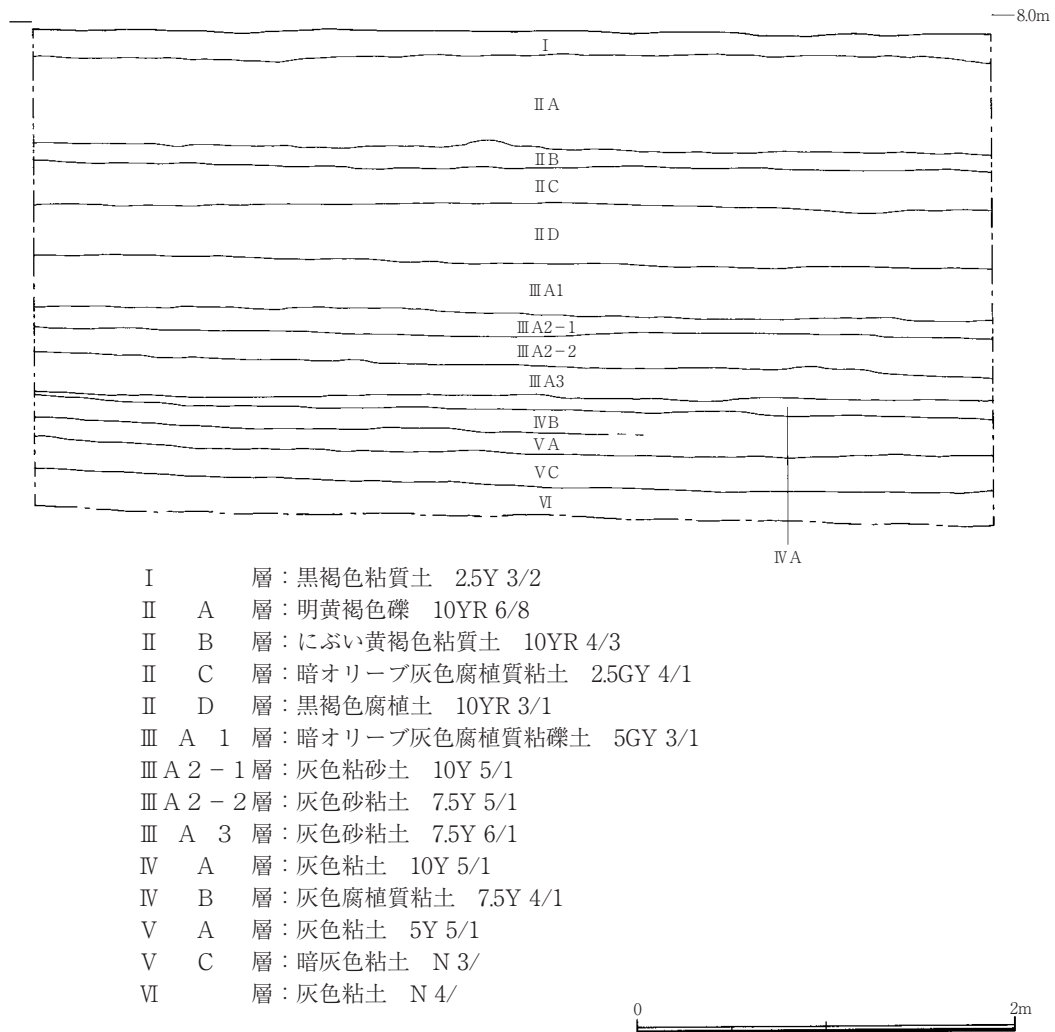


Fig.26 3 A区南壁堆積土層断面図 (S : 1/40)

### 3. 層序

3 A区の調査に際しては、堆積土層名のローマ数字の肥大化を防ぐため、複数の土層を以下のように類型化して扱い、数字を付した。

第I層：重機掘削を実施する表土層で、概ね耕作土を指す。

第II層：重機掘削を実施する表土層より下位の無遺物層群で、南壁の堆積土層断面ではII A～II Dの4枚に分層した。II D層は黒褐色の腐植土で、中世頃までに形成された旧地表土と考えられる。

第III層：人力掘削を実施する、古墳時代～古代に形成されたとみられる遺物包含層群である。II D層に接するIII A 1層は腐植質を呈するが、III A 2-1層以下は粘砂土～砂粘土である。

第IV層：上面で第1面の遺構検出をおこなう無遺物層で、粘土質である。



Fig.27 3 A区第Ⅵ層上面全体図 (S : 1/200)

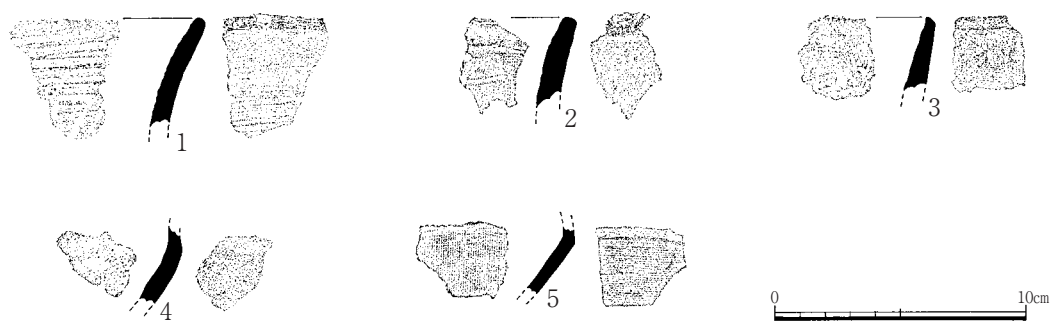


Fig.28 3A区出土土器1 (S : 1/3)

第V層：縄文晩期～弥生時代前期に形成されたとみられる遺物包含層群である。VA～VD層に分層した粘土層である。

第VI層：上面で第2面の遺構検出をおこなう無遺物層で、灰色粘土層である。

第VIII層：基底礫層上面で検出した黒色土層である。

層群単位で命名した第II・III・V層中の各層については、「ローマ数字+アルファベット」で命名し、さらにセクションベルト部分で細分したものは「+アラビア数字」で枝番号を付して表記した。

#### 4. 遺構

3A区の調査では、第IV層上面において杭列1を検出した。その周囲からは多量の木製品の出土が認められた。また、第VI層上面においては、ピット状遺構等を検出した。

また、調査区南東隅部分において、南東方向へ下る斜面地形を検出し、基底礫層に沿って遺物包含層の堆積が認められた。この地区の遺物については「SE区」出土遺物とし、3A区本体とは別の層準によるものとして記述する。

#### 5. 遺物

3A区出土遺物は、土器、土製品、石器、木製品、自然遺物等から構成される。本編では、土器579点、土製品20点、木製品127点を図示し、自然遺物8点の写真図版を掲載した。

##### (1) 土器

包含層出土土器552点、表採土器12点、SE区出土土器15点を図示した。

##### ①包含層出土土器

Ⅶ層出土土器5点、VD1層出土土器1点、VD層出土土器16点、VC4層出土土器5点、VC3層出土土器10点、VC2層出土土器9点、VC1層出土土器6点、VC層出土土器84点、VB2層出土土器4点、VB1層出土土器11点、VB層出土土器105点、VA3層出土土器1点、VA2層出土土器

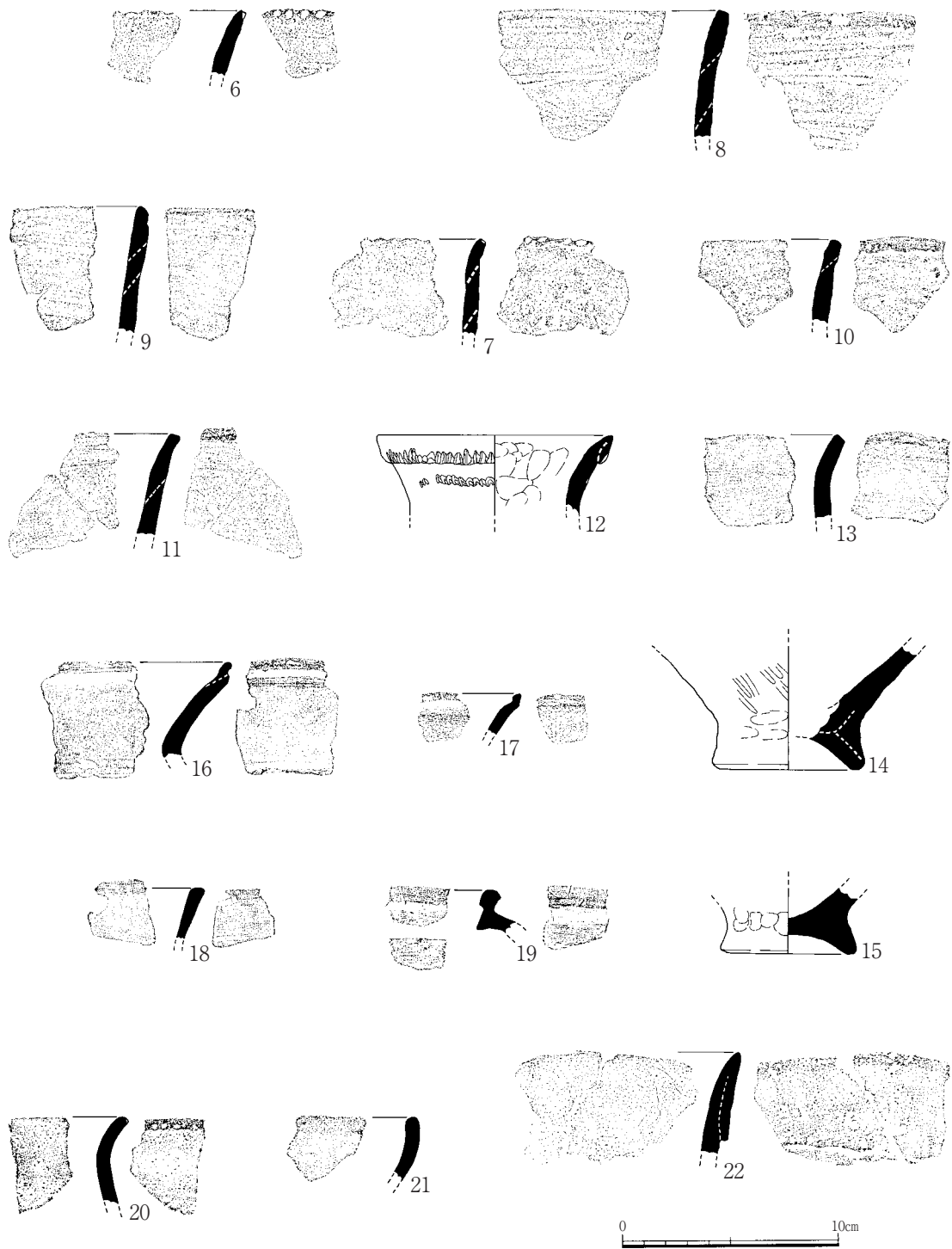


Fig.29 3 A区出土土器2 (S : 1/3)

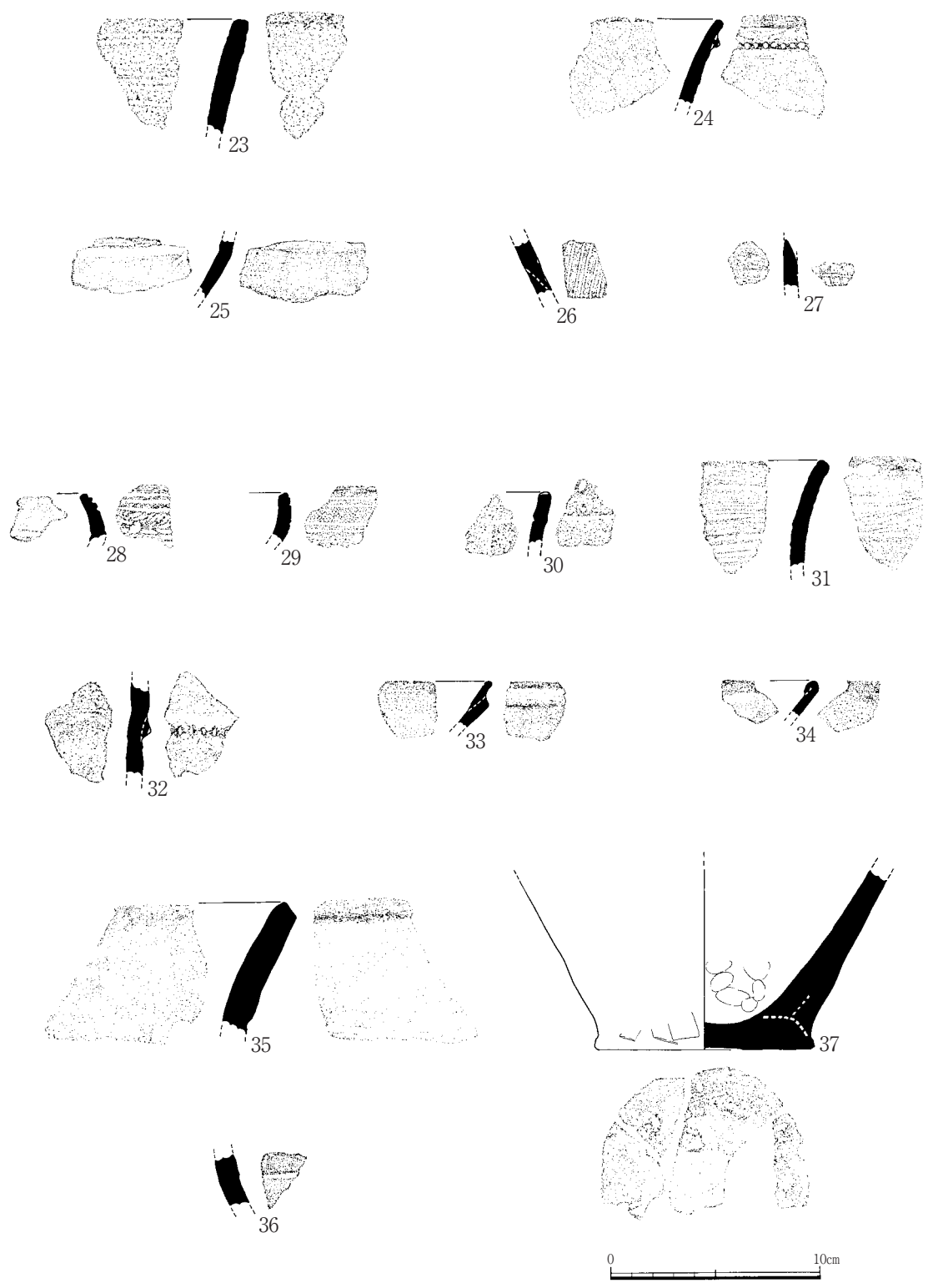


Fig.30 3 A区出土土器3 (S : 1/3)

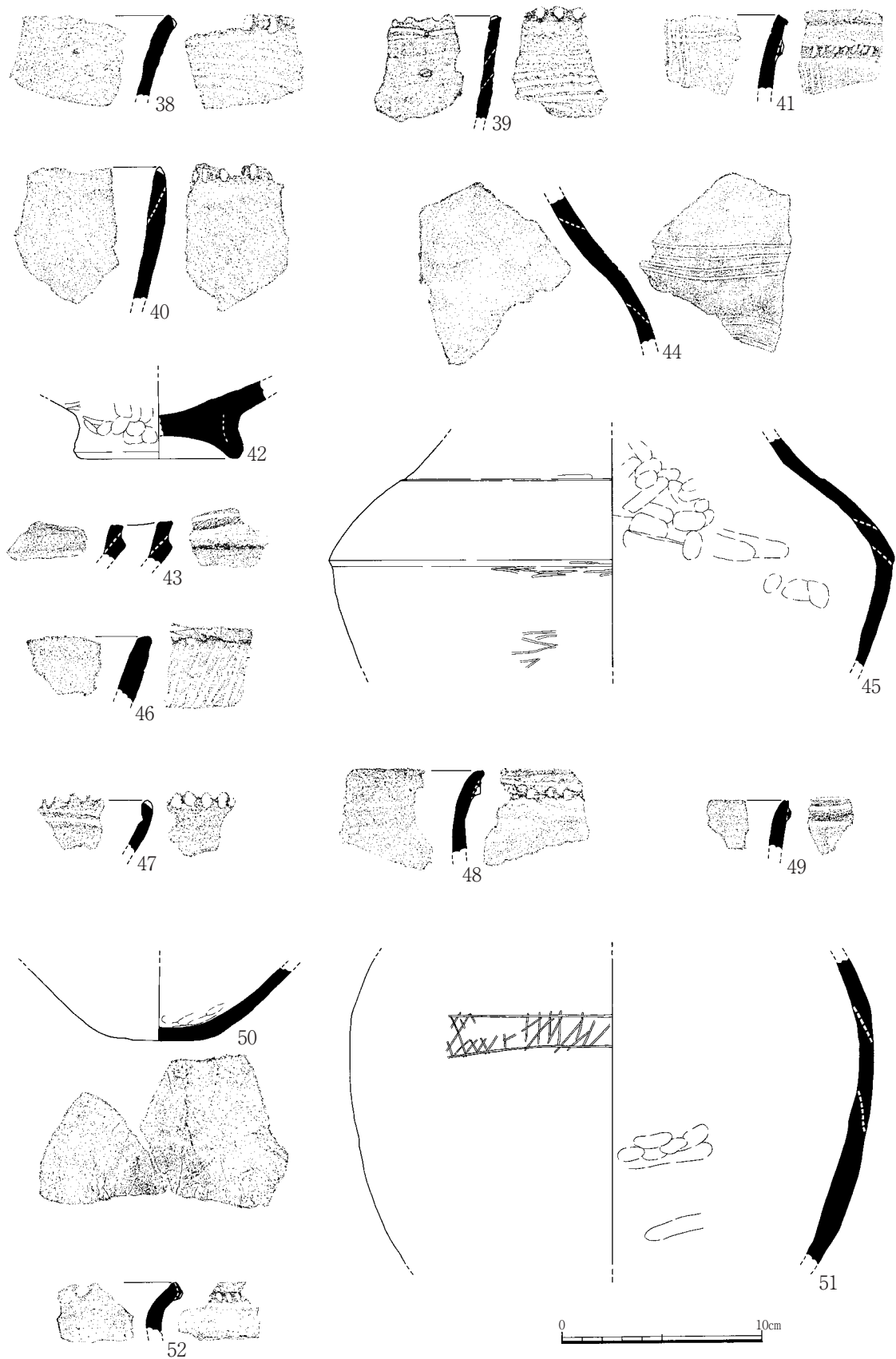


Fig.31 3 A区出土土器4 (S : 1/3)

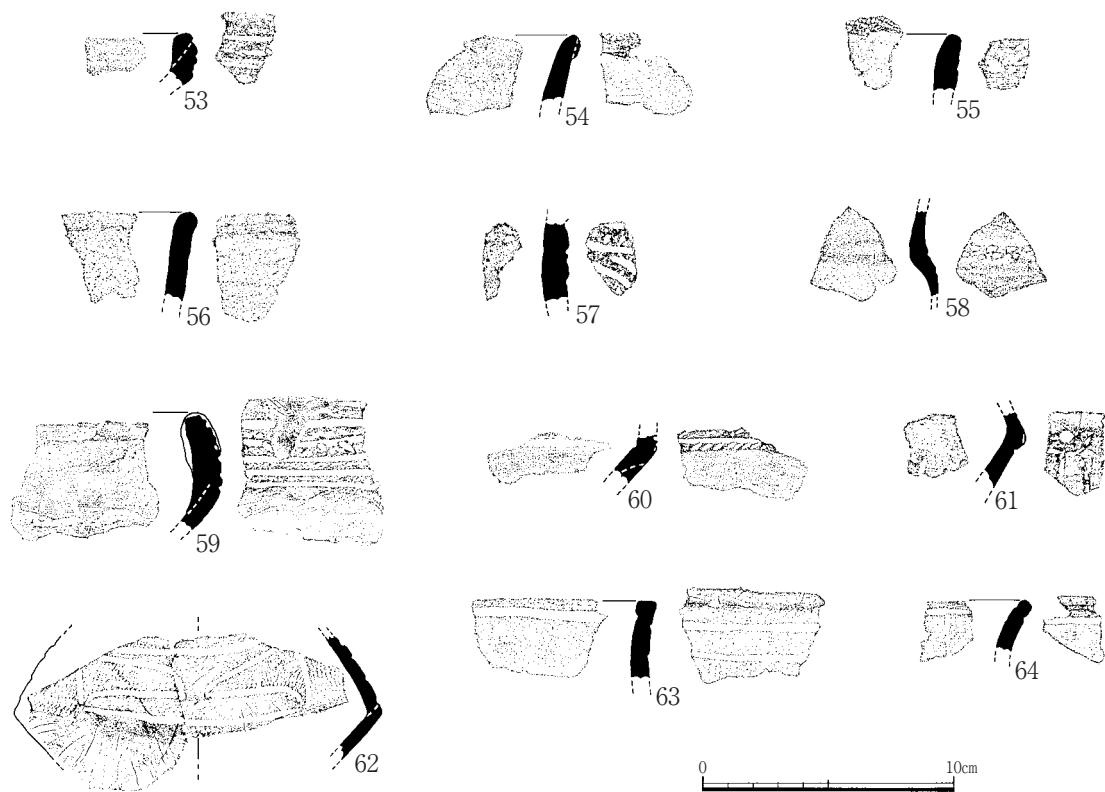


Fig.32 3 A区出土土器5 (S : 1/3)

器1点, V A層出土土器49点, III B 3層出土土器9点, III B 2層出土土器5点, III B 1層出土土器5点, III B層出土土器36点, III A 1層出土土器3点, III A層出土土器185点, III層出土土器1点, II層出土土器1点を図示した。

**Ⅶ層出土土器 (Fig.28)**

1～3は縄文土器・深鉢・口縁部片である。1は内外面条痕調整である。1・2は縄文晩期土器である。3は縄文晩期土器か。4・5は縄文土器・浅鉢・胴部片である。4は縄文後期土器か。5は内外面ミガキ調整の黒色磨研土器で、縄文後～晩期の所産とみられる。

**ⅤD 1層出土土器 (Fig.29-6)**

6は縄文土器・深鉢・口縁部片である。口縁端部外端側に刻目を施し、外面は条痕調整である。縄文晩期土器である。

**ⅤD層出土土器 (Fig.29)**

7～11・13は縄文土器・深鉢・口縁部片である。7は口縁端面に刻目を施し、外面は条痕調整である。8・9は内外面条痕調整である。10は外面に条痕調整を施す。11は内外面ナデ調整である。7～11は縄文晩期土器である。12は縄文土器・深鉢もしくは弥生化した突帯文土器である。口縁端部外面に貼付による段1を形成し、刻目を加える。口縁端部に接した刻目突帯状を呈する。頸部外面に爪形



Fig.33 3 A区出土土器6 (S : 1/3)



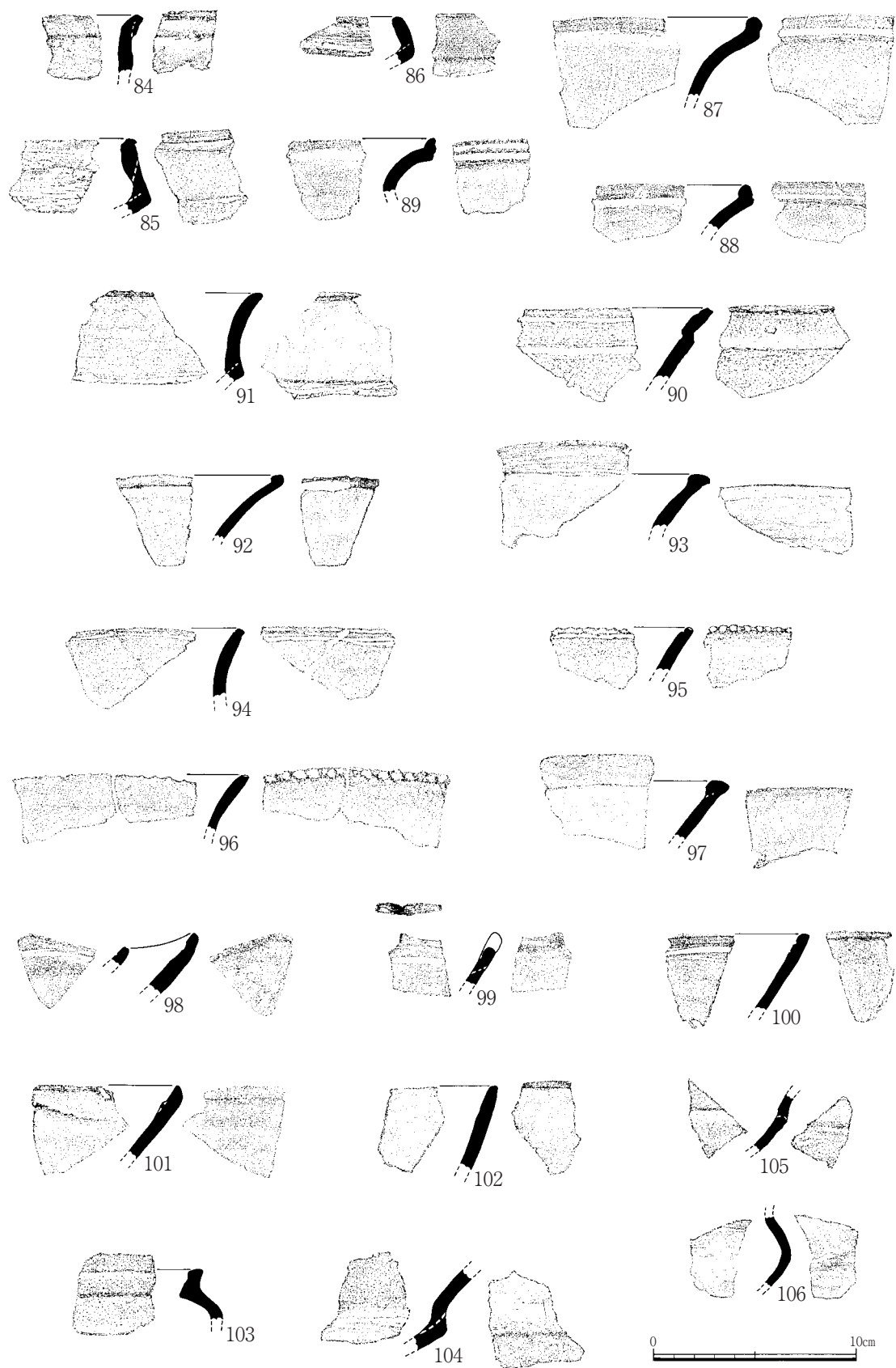


Fig.34 3 A区出土土器7 (S : 1/3)

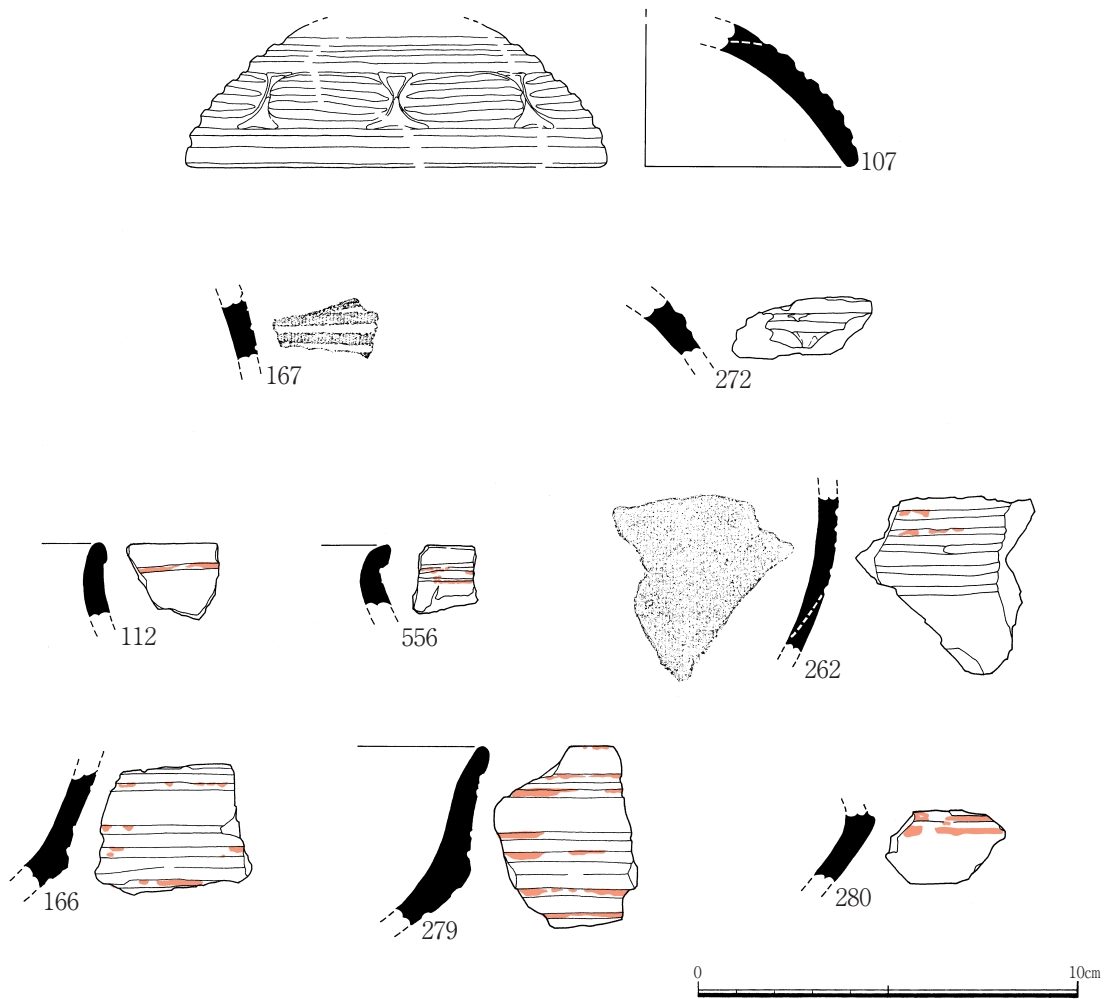


Fig.35 3 A区出土土器8 (S : 1/2)

刺突文1段を施す。13は内外面にハケ状の条痕調整を施す。12・13は縄文晩期末～弥生前期の所産か。14・15は縄文土器・深鉢・底部片である。ともに高台状を呈し、外面は条痕調整である。14・15は縄文晩期土器である。

16は縄文土器・浅鉢・口縁～頸部片である。16は口縁部外面に沈線1条を描き、口縁部内面は凹線状を呈する。下端には粘土紐接合部の擬口縁が露出する。17～19は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。17は内面に沈線1条を描く。16・17は内外面ミガキ調整で、黒色磨研土器である。19は口縁端部内面に1段をなす。18・19は内外面ミガキ調整である。16～19は縄文晩期土器である。

20は弥生土器・甕・口縁部片である。口縁端部外端に刻目を施す。21は弥生土器・鉢・口縁部片で、内外面はミガキ調整か。20・21は弥生前期土器である。

22は土師器・壺か。口縁部片で、端部外面は貼付により1段をなして肥厚させ、内外面にはハケ調

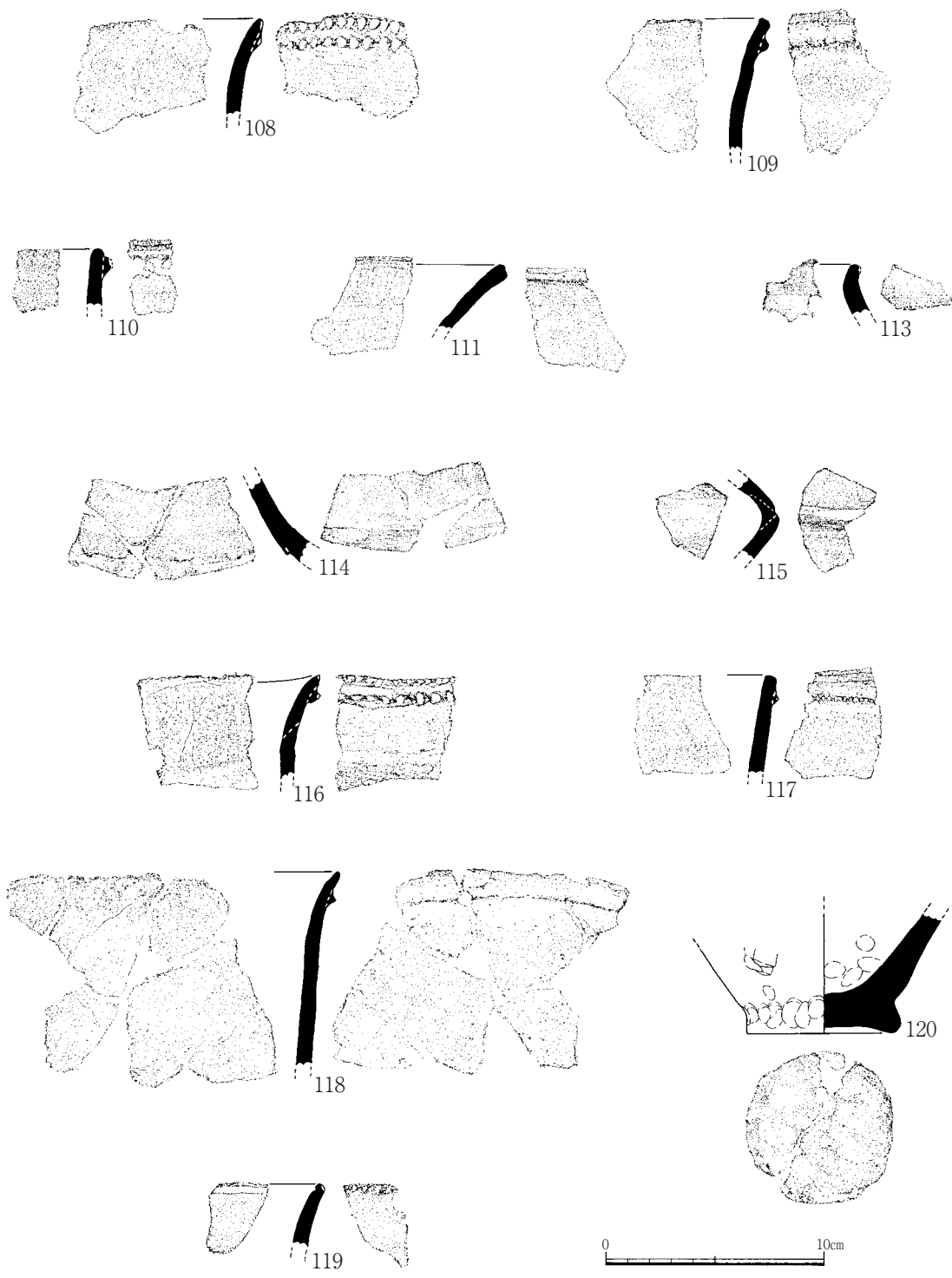


Fig.36 3 A区出土土器9 (S : 1/3)

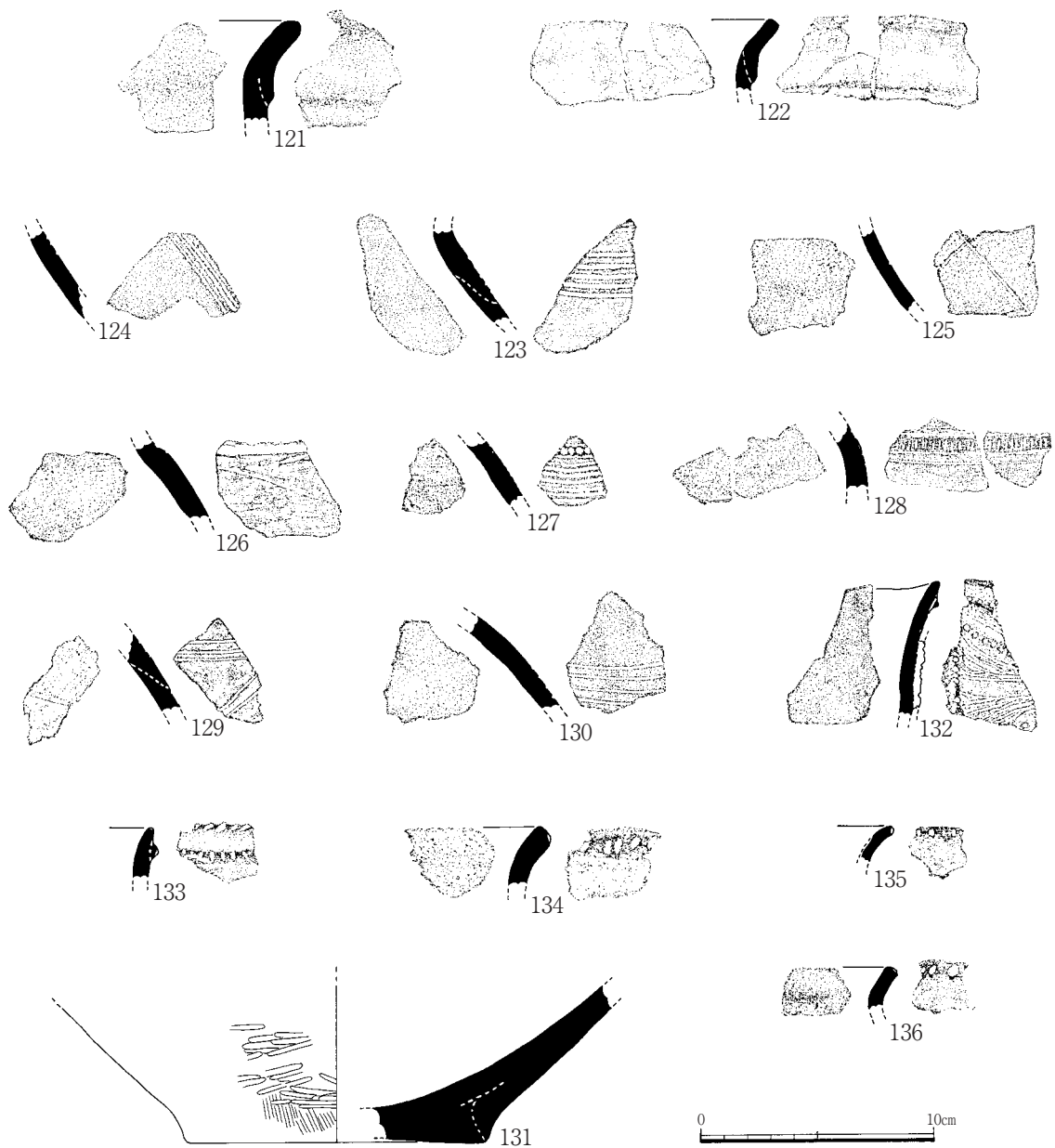


Fig.37 3 A区出土土器10 (S : 1/3)

整がみられる。上層からの混入品と考えられる。

#### VC 4層出土土器 (Fig.30)

23・24は縄文土器・深鉢・口縁部片である。23は内面条痕調整である。24は外面に刻目突帯1条を貼付する。25は縄文土器・浅鉢・胴部片である。外面にケズリ調整を施し、内面に沈線1条を描く。黒色磨研土器である。23～25は縄文晩期土器である。

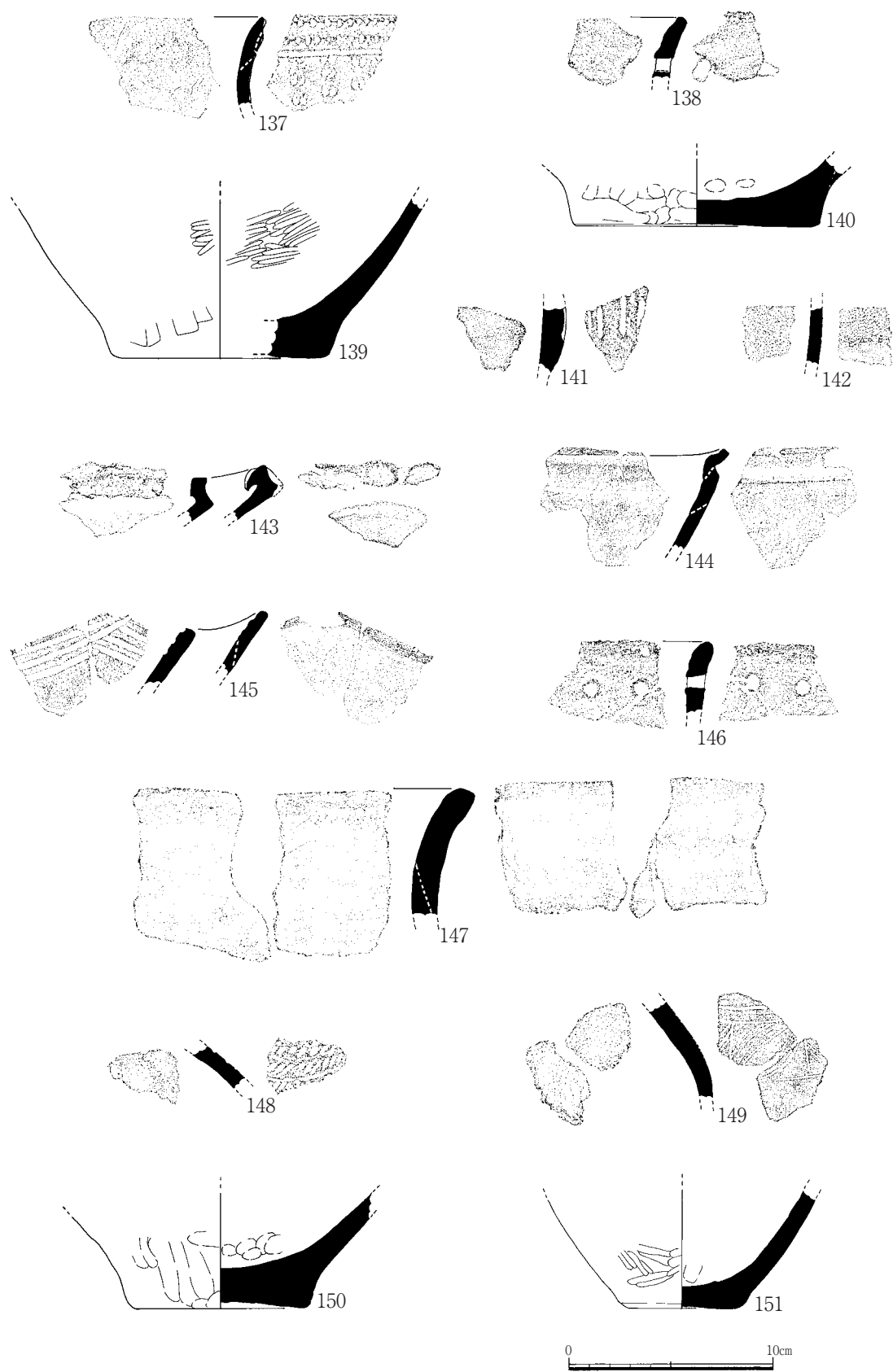


Fig.38 3 A区出土土器11 (S : 1/3)

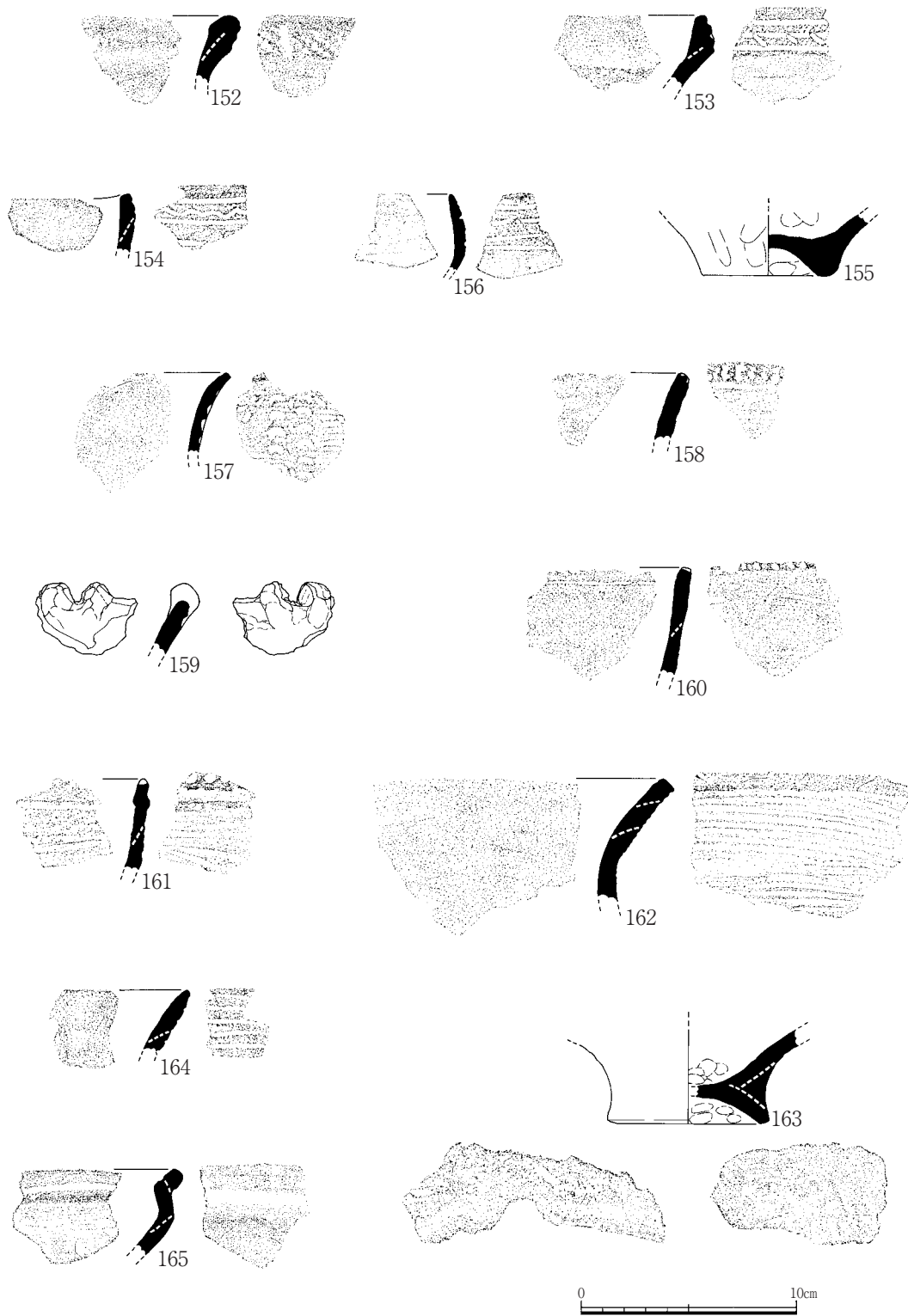


Fig.39 3 A区出土土器12 (S : 1/3)

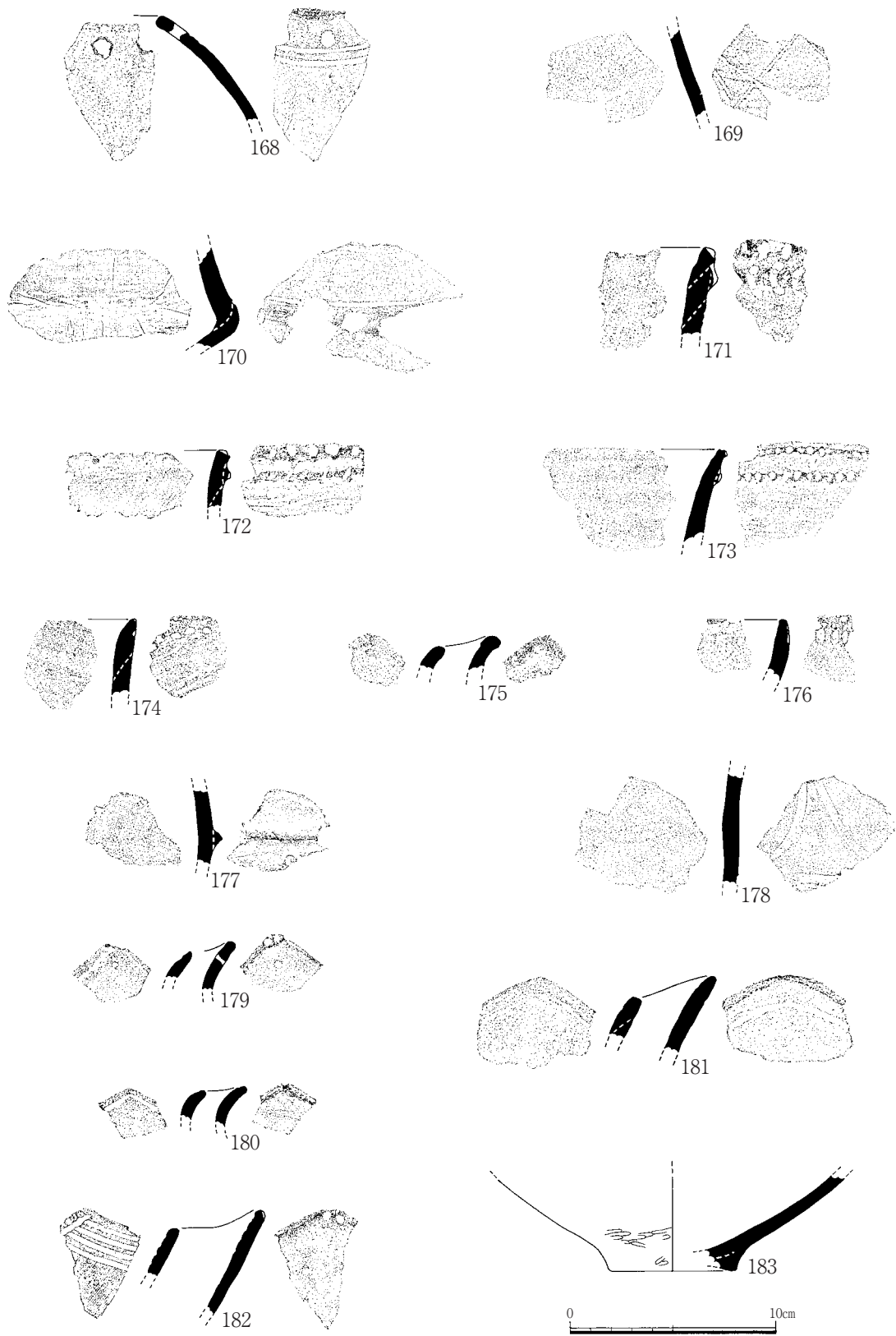


Fig.40 3A区出土土器13 (S : 1/3)

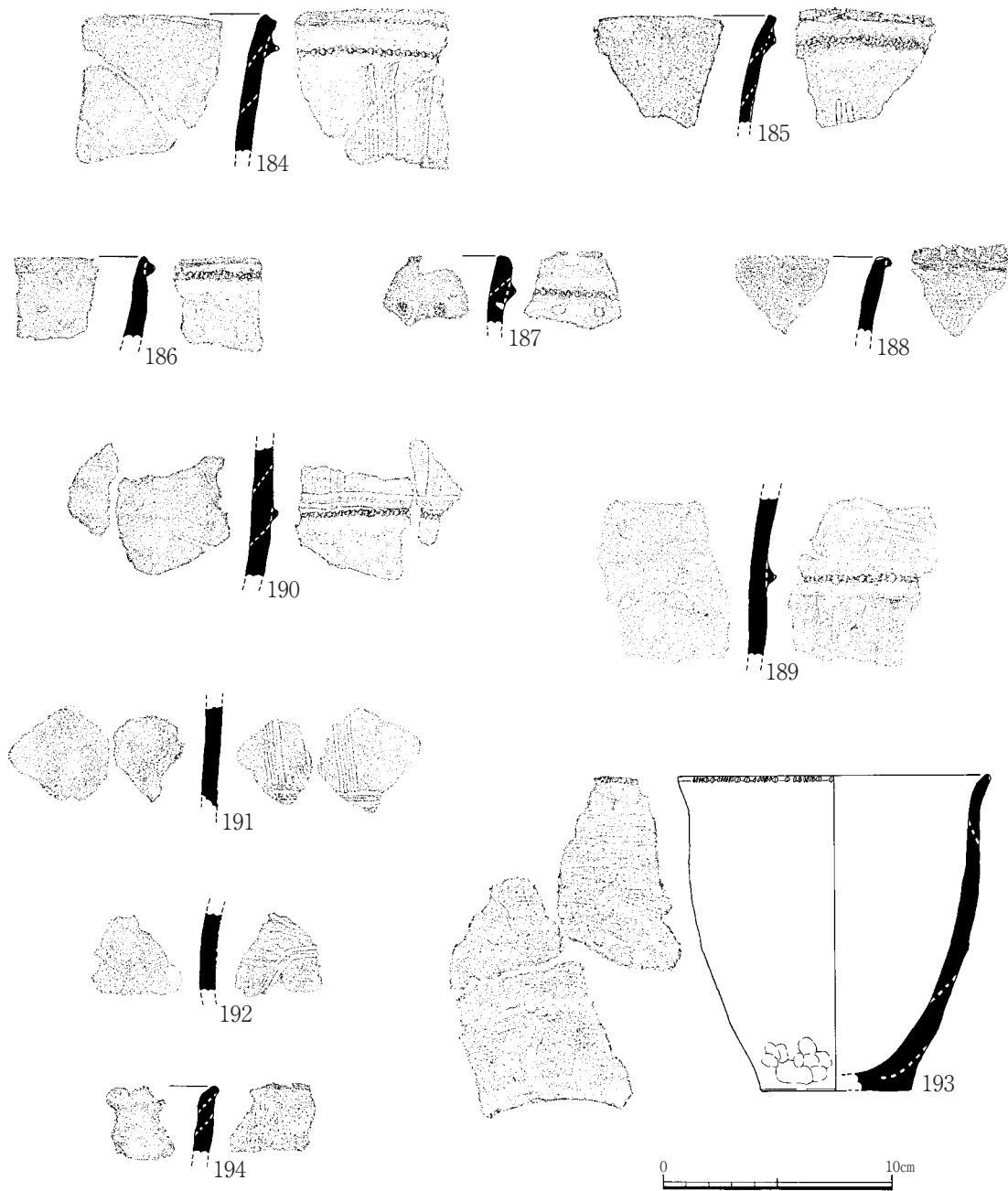


Fig.41 3 A区出土土器14 (S : 1/3)

26・27は弥生土器・壺である。26は頸部片で、外面に斜位の沈線6条を描く。27は胴部片で、外面に沈線1条・斜位の沈線文1段を施し、内外面はミガキ調整である。上端には粘土帯接合時の擬口縁が露出する。土製円板の未製品の可能性がある。26・27は弥生前期土器である。

**VC3層出土土器 (Fig.30)**

28は縄文土器・深鉢・口縁部片である。外面に沈線5条・対向する「C」字状のヘラ描き文・縄文(LR)を施す。29は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。外面に沈線4条・縄文(RL)を施文する。



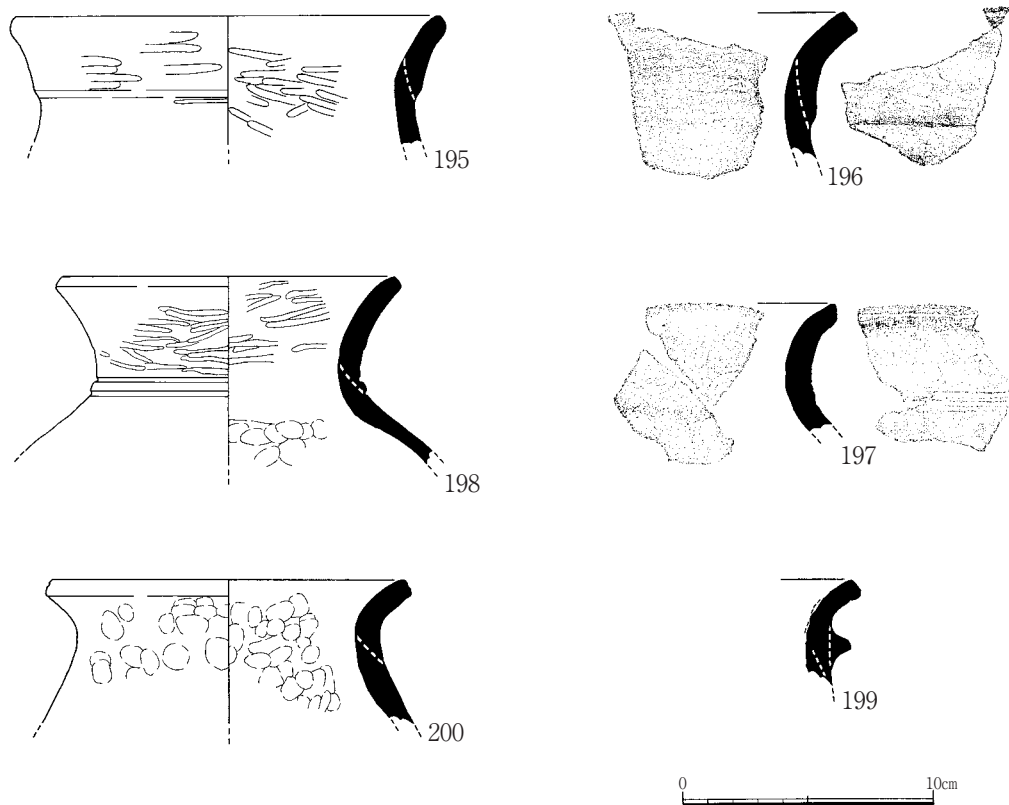


Fig.42 3A区出土土器15 (S : 1/3)

28・29は縄文後期土器である。

30・31は縄文土器・深鉢・口縁部片である。30は口縁端面に刻目を施す。

31は内外面条痕調整である。30・31は縄文晩期土器である。

32は縄文土器・深鉢・胴部片である。外面に刻目突帯1条を貼付する。縄文晩期末～弥生前期の所産と考えられる。

33・34は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。33は外面に1段をなし、内面に沈線1条を描き、沈線状の1段を形成する。34は口縁端部に鱗状突起1を有する。内外面ミガキ調整か。33・34は縄文晩期土器である。

35・36は弥生土器・壺である。35は口縁部片で、外面下端に沈線1条を描き、内外面はミガキ調整である。36は頸部片で、外面に1段を形成する。35・36は弥生前期土器である。

37は弥生土器・甕・底部片である。底部外面に板ナデ調整を施し、底面に粒状圧痕がみられる。

#### VC2層出土土器 (Fig.31)

38は縄文土器・深鉢・口縁部片である。口縁端部外端側に刻目を施し、外面は条痕調整である。

39・40は縄文土器・深鉢・口縁～胴部片である。39は口縁端部内端側に刻目を施し、内面に沈線1～

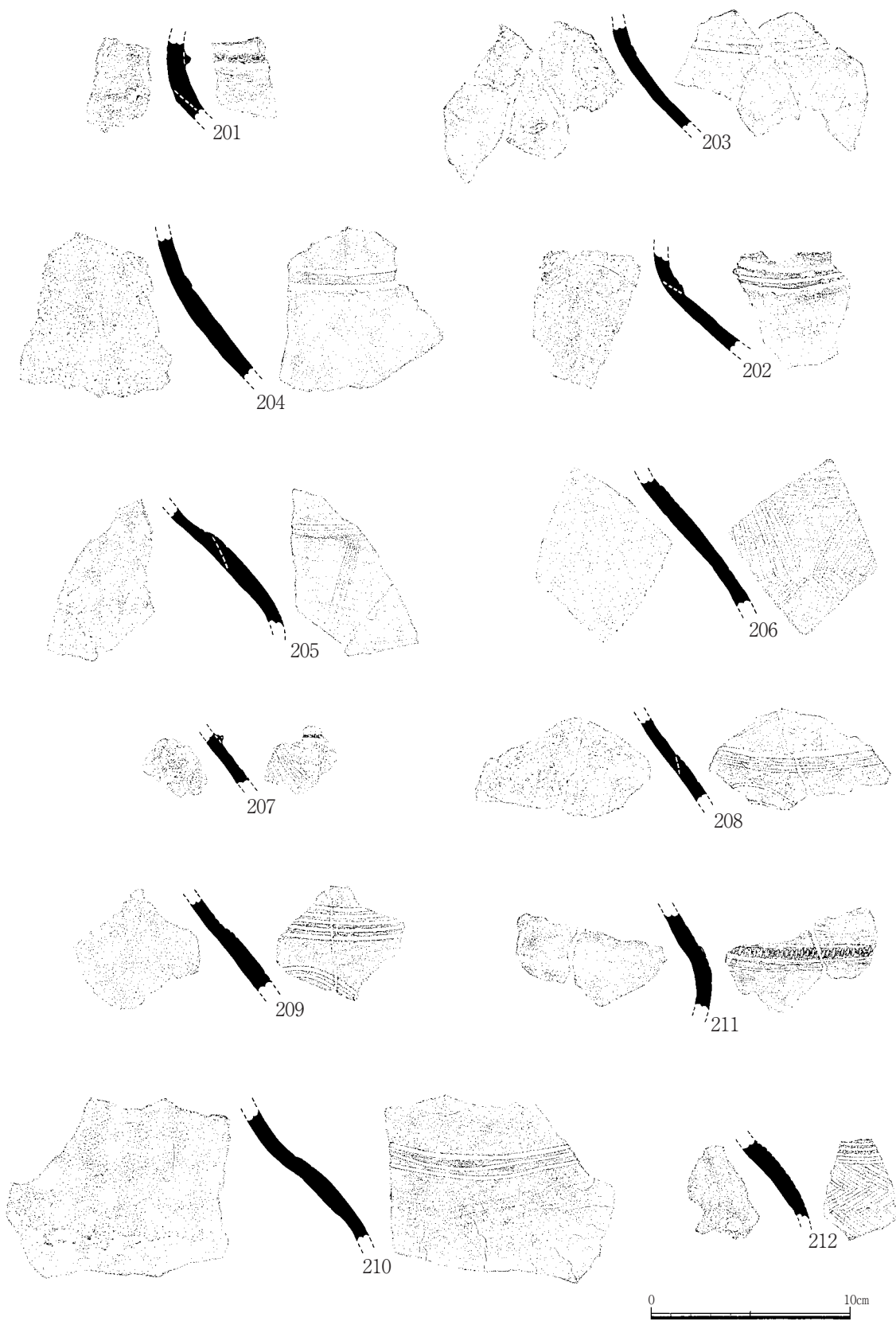


Fig.43 3 A区出土土器16 (S : 1/3)

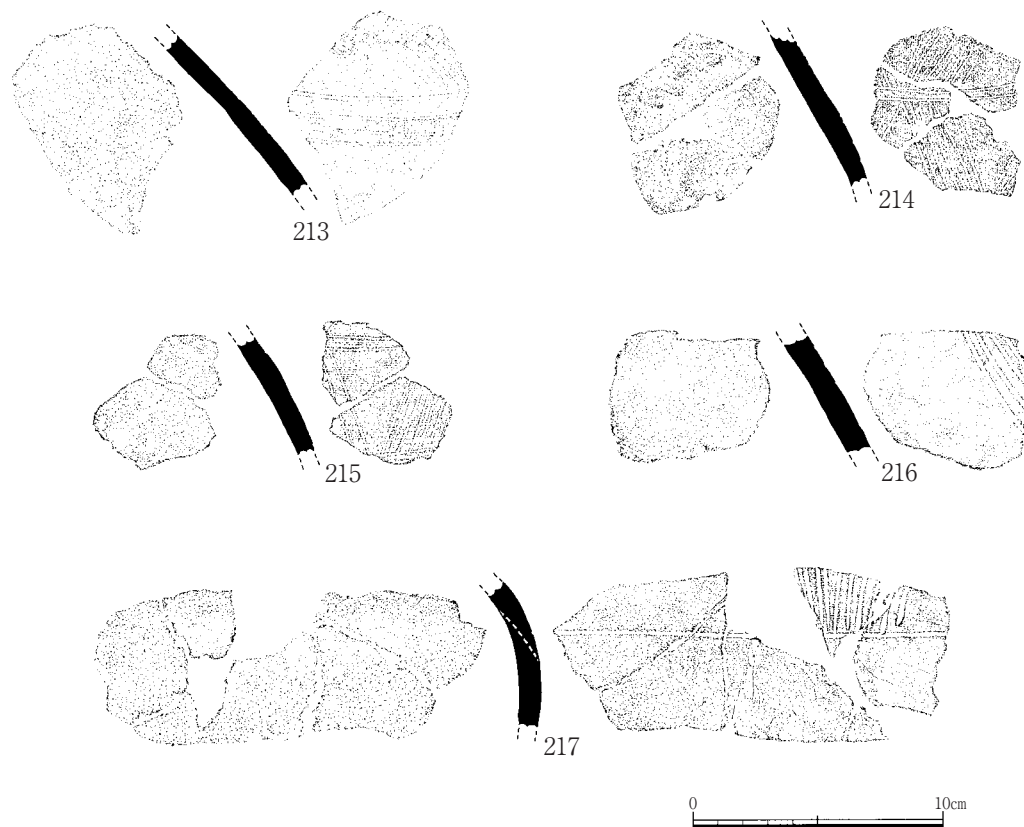


Fig.44 3 A区出土土器17 (S : 1/3)

2条を描く。40は口縁端部に刻目を施し、外面は条痕調整の後ナデ調整を施す。38~40は縄文晩期土器である。

41は縄文土器・深鉢・口縁部片である。外面に刻目突帯1条を貼付し、縦位の沈線3条を描く。内面には沈線2条・縦位沈線4条を描く。縄文晩期末~弥生前期の所産とみられる。

42は縄文土器・深鉢・底部片である。高台状を呈し、外面に条痕調整を施す。

43は弥生土器・甕か。波状口縁を呈する口縁部片で、外面の粘土帯接合部に段1を形成する。縄文晩期土器の可能性はある。

44・45は弥生土器・壺・頸~胴部片である。44は外面に沈線4条・3条の重弧文を施す。45は外面に段2を形成する。外面には赤彩を施す。44・45は弥生前期土器である。

46は弥生土器・壺・口縁部片で、外面に斜位の櫛描文を施す。弥生中期土器と考えられ、上層からの混入品か。

#### VC 1層出土土器 (Fig.31)

47・48は縄文土器・深鉢である。47は口縁部片で、口縁端部外端側に刻目を施し、内面に沈線1条を描く。48は口縁~頸部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。47・48は縄文晩期土器である。

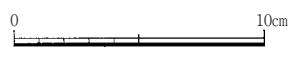
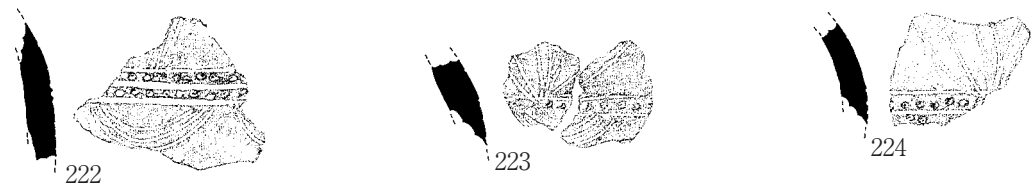
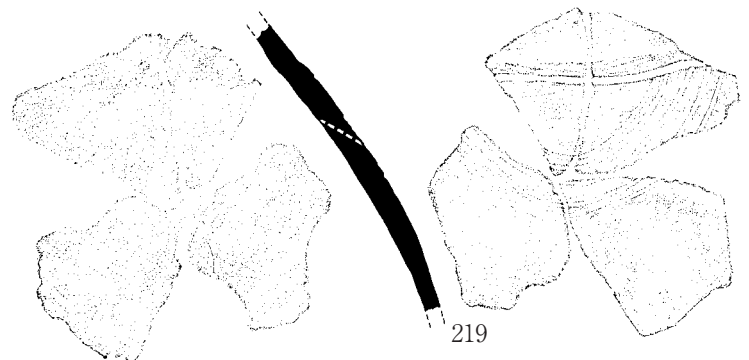
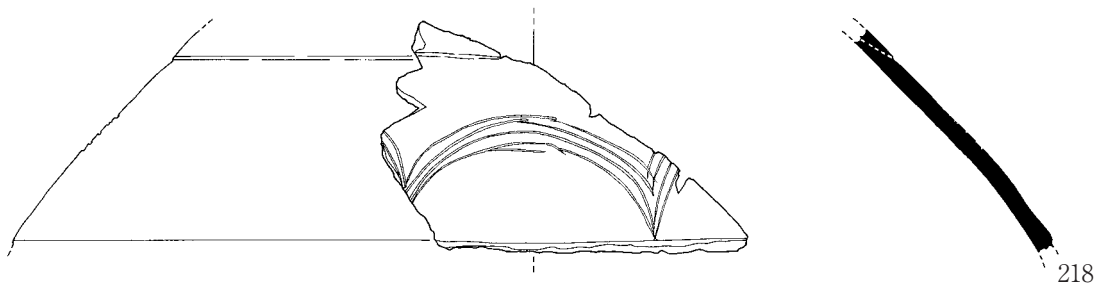


Fig.45 3 A区出土土器18 (S : 1/3)

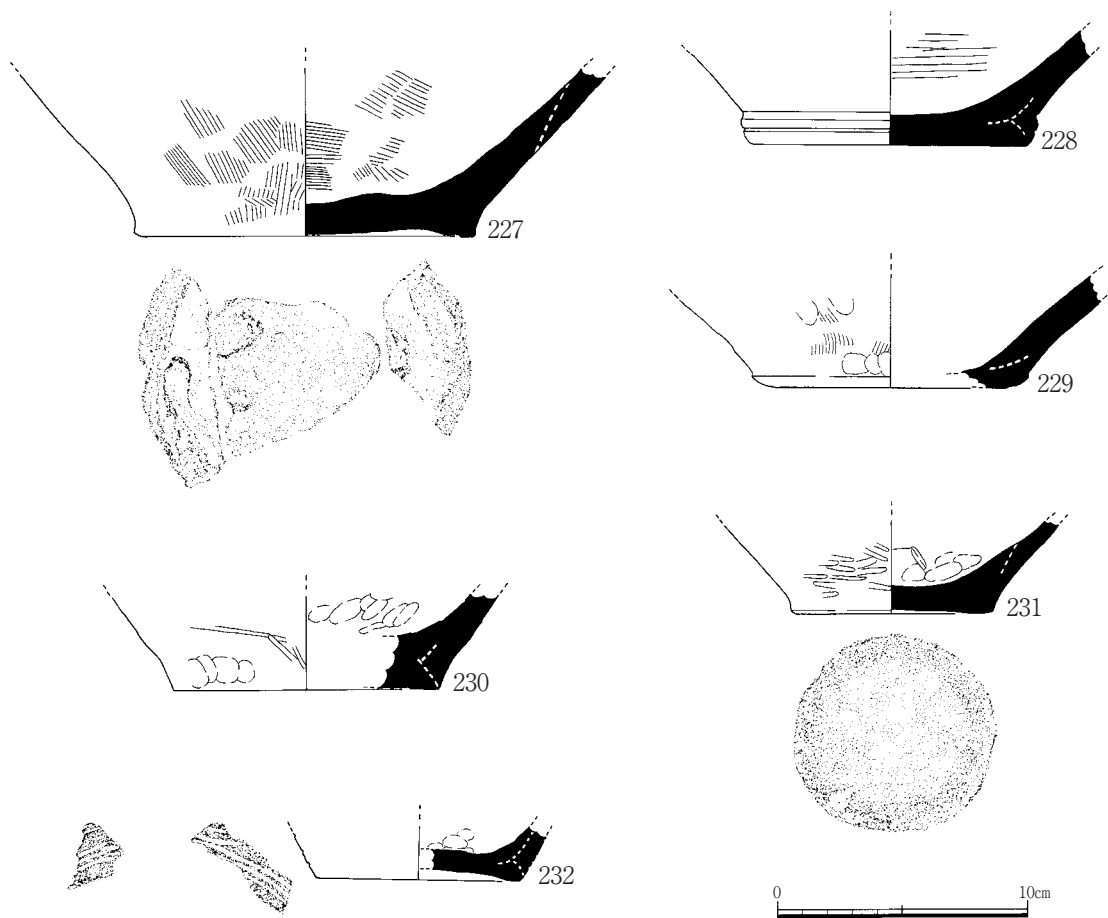


Fig.46 3 A区出土土器19 (S : 1/3)

49・50は縄文土器・浅鉢である。49は口縁部片で、外面に無刻目の突帯1条を貼付する。突帯の上下はミガキ調整によって沈線状をなす。黒色磨研土器で、縄文晩期・中村I式土器と考えられる。50は平底の底部片である。

51・52は弥生土器である。51は壺・胴部片である。外面に平行沈線と斜位～斜格子状沈線によって梯子状の沈線文を描く。52は甕・口縁部片である。口縁端部外端に刻目を施し、刻目突帯状を呈する。頸部外面には沈線1条を描く。51・52は弥生前期土器である。

#### VC層出土土器 (Fig.32～37)

53～58は縄文土器・深鉢である。53～56は口縁部片である。53は外面に沈線3条・縄文(LR)・刺突文1段を施す。54は口縁端部外面に貼付による1段を形成し、端面に縄文(RL, 擬縄文の可能性?)を施す。55は口縁端面に縄文(RL)を施す。53～55は縄文後期土器である。56は内外面ナデ調整で、縄文後期土器か。57・58は胴部片である。57は外面に沈線2条・斜位沈線2条・縄文(LR)を施す。58は外面に刺突文2段を施す。57・58は縄文後期土器である。

59・60は縄文土器・浅鉢である。59は口縁部片で、外面に沈線5条・斜位刺突1段・縄文(LR)を施す。

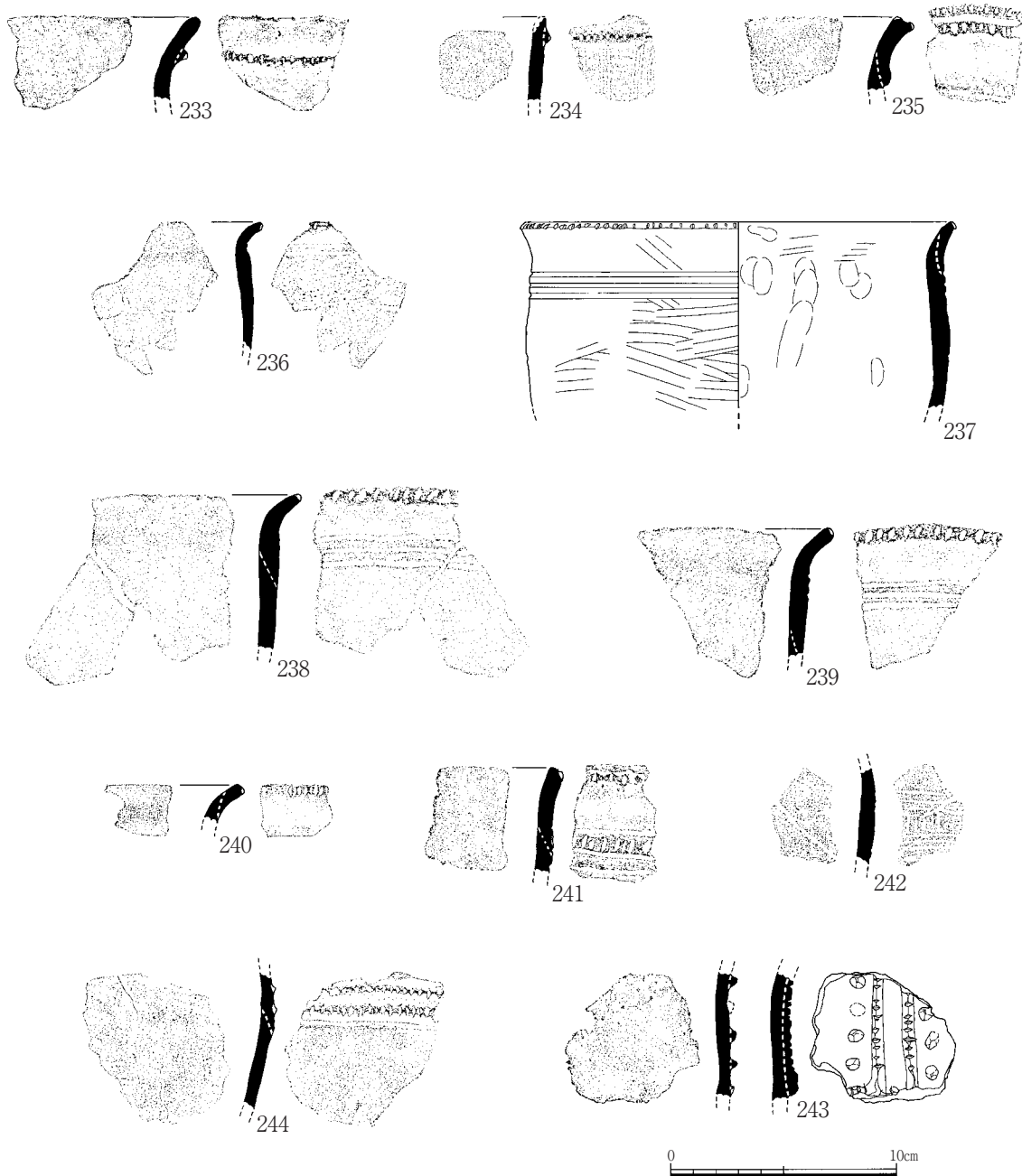


Fig.47 3A区出土土器20 (S : 1/3)

口縁端部には突起部1を形成し、内外方に貼付・肥厚する。縄文後期土器である。60は胴部片で、外面に沈線1条・斜位の短沈線1段・刺突1を施す。内面には沈線1条を描く。縄文後期土器か。

61は縄文土器・注口土器か。胴部片で、外面に沈線1条・円形刺突1・弧状沈線1条・縦位の沈線2条、及び擬縄文を施す。62は縄文土器・注口土器・胴部片である。外面に沈線3条・三角形モチーフの沈線文・磨消の擬縄文を施す。擬縄文の施文原体は、61・62とも二枚貝腹縁であると考えられる。

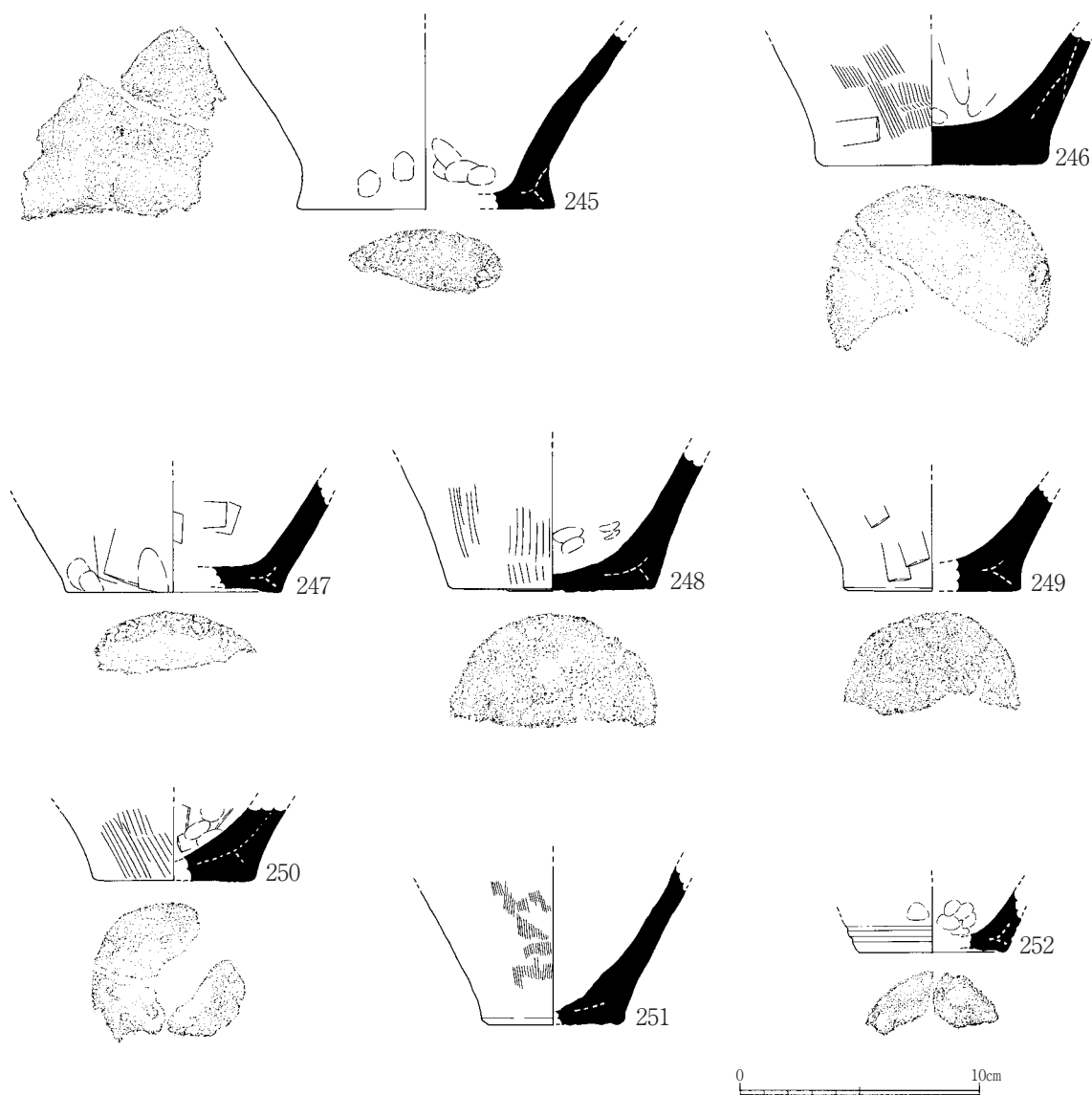


Fig.48 3 A区出土土器21 (S : 1/3)

61・62は縄文後期・彦崎K II式土器か。

63・64は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。63は外面に沈線2条, 内面に沈線1条を描く。64は内外面に沈線各1条を描く。63・64は縄文晚期土器か。

65・67~83は縄文土器・深鉢である。65は口縁部片で, 外面に沈線2条を描く。縄文晚期土器か。66は縄文土器・深鉢もしくは弥生土器・甕である。口縁~胴部片で, 口縁端面に刻目を施し, 内面には沈線2条を描く。縄文晚期末~弥生前期の所産か。67~79は口縁部片である。67は内面に沈線1条を描く。68は外面に低平な突帯1条?を有する。69は外面に無刻目の突帯1条を貼付し, 内面に沈線1~2条?を描く。精製深鉢で, 縄文晚期・中村I式土器か。70は口縁端面に円形刺突を施す。71

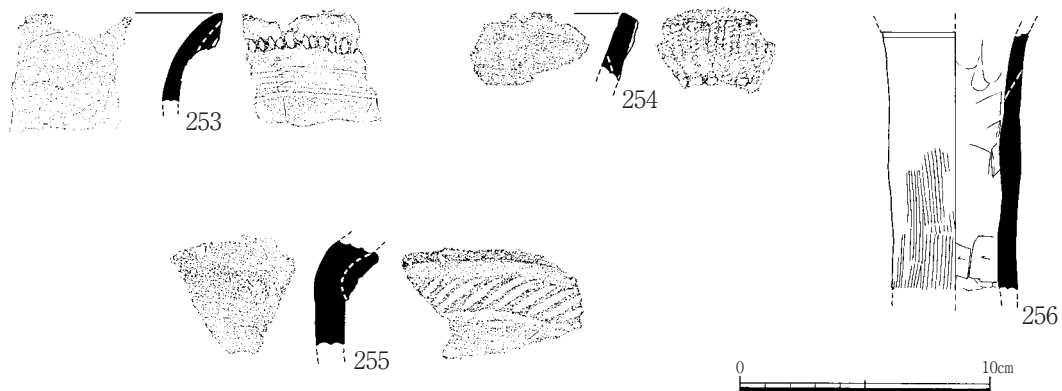


Fig.49 3 A区出土土器22 (S : 1/3)

は口縁端部外端側に刻目を施す。72は口縁端面に刻目を施す。71・72は外面条痕調整である。73は口縁端部に突起部を形成し、端面には刻目を施す。内外面は条痕調整である。74は口縁端面に刻目を施し、内面には沈線1条を描く。外面は条痕+ナデ調整である。75~77は外面条痕調整である。78は内外面条痕調整である。67~79は縄文晩期土器である。80は頸部片で、外面に縦位の刺突文1列を施す。81・82は胴部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。80~82は縄文晩期土器である。83は凹み底を呈する底部片である。縄文晩期土器か。

84は縄文土器・鉢か。口縁部片で、外面には貼付により1段を形成する。縄文晩期・黒色磨研土器である。

85~106は縄文土器・浅鉢である。85は口縁~胴部片で、口縁端部外面は凹線状を呈する。86~89は口縁部片である。85・86は縄文晩期・黒色磨研土器である。87は口縁端部外面に凹線(沈線?)1条を描く。88は口縁端部外面に沈線1条を描き、端部内面は沈線状を呈する。89は口縁端部外面に凹線(沈線?)2条を描く。87~89は縄文晩期土器か。90は口縁~胴部片で、波状口縁を呈する方形浅鉢か。91~102は口縁部片である。91は粘土紐接合部に屈曲部をなす。92は口縁端部内面に肥厚による1段を形成する。93は内面に沈線状の段1を形成する。94は端部内外面に沈線各1条を描く。95は口縁端面に刻目を施し、端部内面に沈線1条を描く。96は口縁端面に刻目を施す。97は端部内面に肥厚による1段を形成する。98は波状口縁を呈し、内面に沈線1条を描く。99は口縁端部にリボン状突起1を有し、内面に沈線1条を描く。90~99は縄文晩期・黒色磨研土器である。100は内面に沈線2条を描く。101は内面に粘土帯貼付を施し肥厚させる。端部内面は擬口縁が露出している可能性がある。100・101は縄文晩期土器である。102は縄文晩期・黒色磨研土器である。103は口縁~胴部片で、内面に鋭い稜をなす。縄文晩期土器である。104は頸~胴部片である。105・106は胴部片である。105は内面に凹線状の段1を形成する。104・105は縄文晩期・黒色磨研土器である。106は屈曲部外面に沈線状1をなす。縄文晩期土器である。

107は縄文土器・蓋・胴~裾部片である。外面には平行沈線5条、及び榎原式文様を施す。縄文晩期・



檀原式土器である。

108～110は縄文土器・深鉢である。108は口縁部片で、外面に刻目突帯1条を貼付し、口縁端部外端に刻目を施す。外面には山形沈線文を施し、条痕調整である。109は口縁～胴部片で、外面に無刻目突帯1条を貼付する。110は口縁部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。108～110は縄文晩期後葉の土器と考えられる。

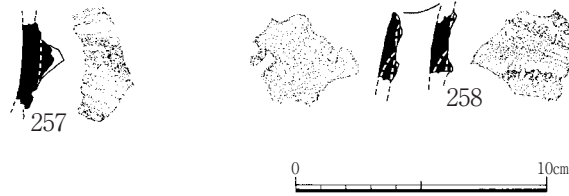


Fig.50 3 A区出土土器23 (S : 1/3)

111は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。縄文晩期後葉の所産と考えられる。

112～115は縄文土器・壺である。112は口縁部片で、外面に沈線1条を描き、赤彩を施す。本来は内外面全面に赤彩か。113は口縁～頸部片で、黒色磨研土器である。114は頸部片で、外面に沈線1条を描き、赤彩を施した可能性がある。115は胴部片で、粘土紐接合部の外面に沈線1条を描く。黒色磨研土器である。112～115は縄文晩期後葉の所産と考えられる。

116～118は縄文土器・深鉢である。116は口縁～胴部片で、波状口縁を呈し、口縁端部外端側に刻目を施す。外面に刻目突帯1条を貼付し、頸～胴部境は凹線状を呈する。117は口縁部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。118は口縁～胴部片で、外面に無刻目突帯1条を貼付する。119は縄文土器・深鉢もしくは弥生土器・甕である。口縁部片で、口縁端部外端側に刻目を施す。端部内面に沈線1条を描く。120は縄文土器・深鉢・底部片である。凹み底を呈し、外面には板ナデ調整がみられる。116～120は縄文晩期末～弥生前期の所産と考えられる。

121～131は弥生土器・壺である。121・122は口縁部片で、粘土帯接合部外面に段1を形成する。123～125は頸部片である。123は外面に沈線5条を描く。124は外面に斜位の沈線4条を描く。125は外面に斜位沈線2条を描く。126～130は胴部片である。126は段部外面に沈線1条を描く。127は外面に沈線10条・刺突1段を施す。128は外面に沈線3条・縦位短沈線文1段を施す。129は外面に沈線3条・斜位沈線2条を描く。130は外面に沈線4条を描く。131は底部片で、外面にはミガキ・ハケ調整が認められる。121～131は弥生前期土器である。

132～136は弥生土器・甕である。132は口縁～胴部片で、波状口縁を呈する。口縁部外面に突帯1条を貼付し円形刺突を加え、縦位の刻目突帯との区画内に縦位円形刺突文・斜位沈線文・斜位円形刺突文を施文する。133～136は口縁部片である。133は口縁端面に刻目を施し、外面に刻目突帯1条を貼付する。134・135は口縁端部外端側に刻目を施す。136は口縁端面に刻目を施す。132～136は弥生前期土器である。

#### VB 2層出土土器 (Fig.38)

137・138は縄文土器・深鉢・口縁部片である。137は外面に刻目突帯1条を貼付し、突帯下に沈線1条を描く。外面沈線以下には2個単位の縦位刺突文が4列認められる。口縁端部外端・内端の両側

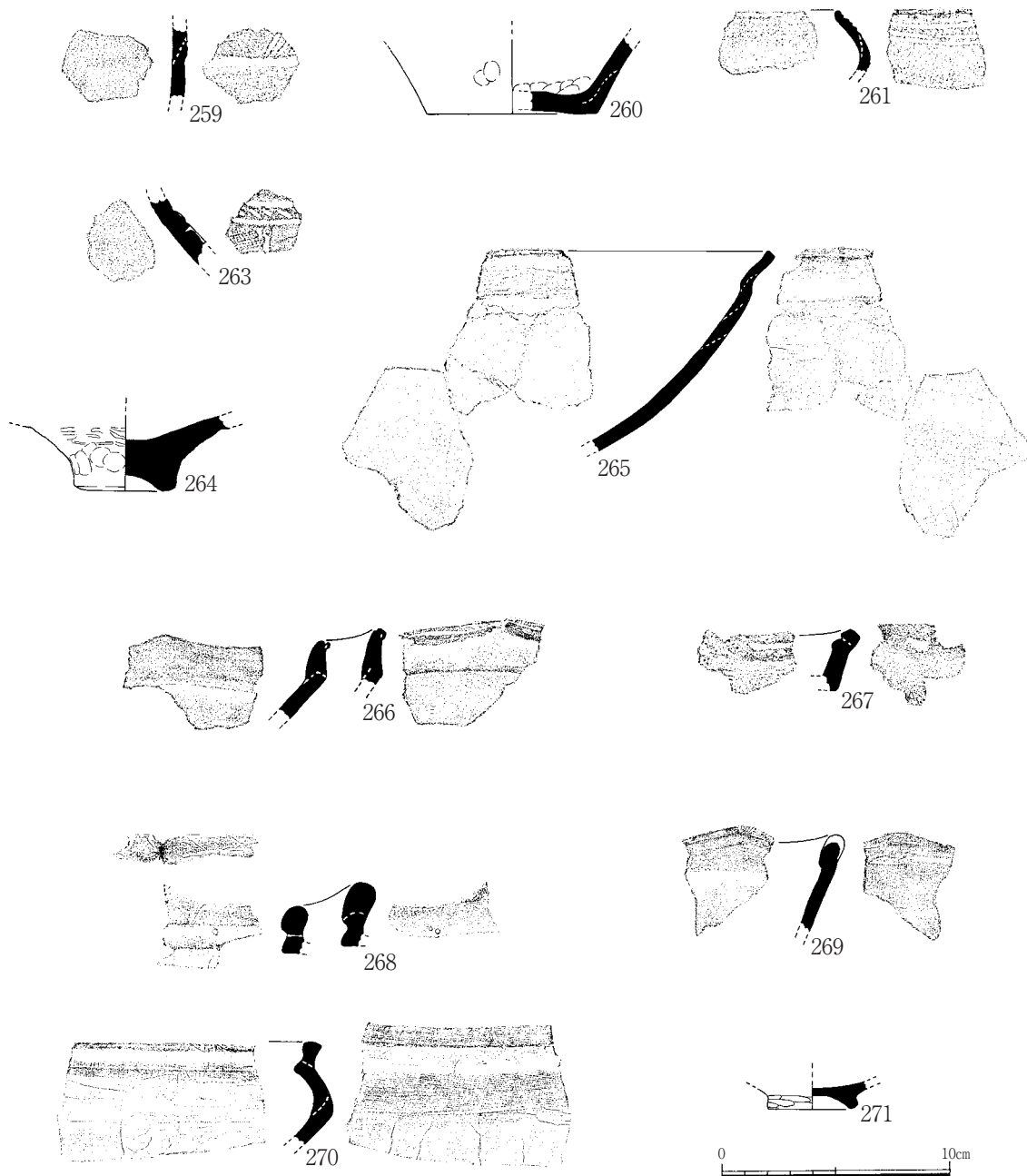


Fig.51 3 A区出土土器24 (S : 1/3)

に刻目を施す。138は円孔2を穿ち、内外面条痕調整である。

139・140は弥生土器・壺である。139は胴～底部片で、内外面はミガキ調整である。140は底部片で、外面ミガキ調整である。

**VB 1層出土土器 (Fig.38)**

141は縄文土器・深鉢・口縁部片である。外面に縦位沈線文・縄文(L R)を施す。142～145は縄文土器・浅鉢である。142は胴部片で、外面に沈線1条・刺突文1段・縄文(L R)を施す。141・142は縄文

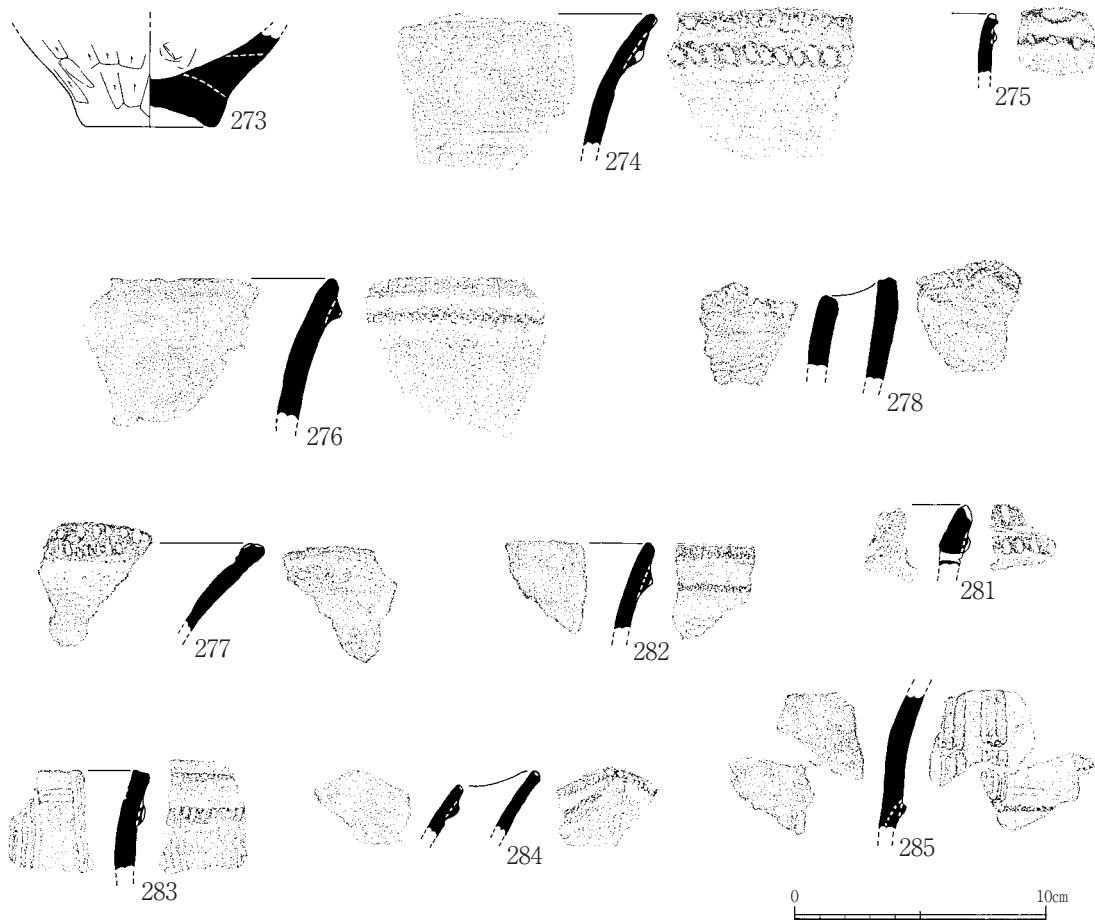


Fig.52 3 A区出土土器25 (S : 1/3)

後期土器である。143は口縁部片で、端部外面に円形押圧文を施す。波状口縁を呈するか。143は縄文後～晩期土器である。144は口縁～胴部片で、波状口縁を呈する。外面に1段をなし、内面には凹線1条・沈線1条を描く。縄文晩期・黒色磨研土器である。145は波状口縁を呈する口縁部片で、方形浅鉢か。内面に沈線3～4条を描き、外面には赤彩を施した可能性がある。縄文晩期土器である。

146は縄文土器・深鉢・口縁部片である。円孔2を穿ち、縄文晩期末～弥生前期の所産と考えられる。

147～150は弥生土器・壺である。147は口縁部片で、内外面ミガキ調整である。弥生前期土器である。148・149は胴部片である。148は外面に沈線2条・斜位短沈線文3段を施す。弥生前期土器か。149は外面に沈線で方形区画を描き、区画内に木葉文を施文する。150は底部片である。151は壺か。底部片で、外面はミガキ調整である。149～151は弥生前期土器である。

#### V B層出土土器 (Fig.39～49)

152～155は縄文土器・深鉢である。152は口縁部片で、外面に縄文 (RL) を施す。縄文後期土

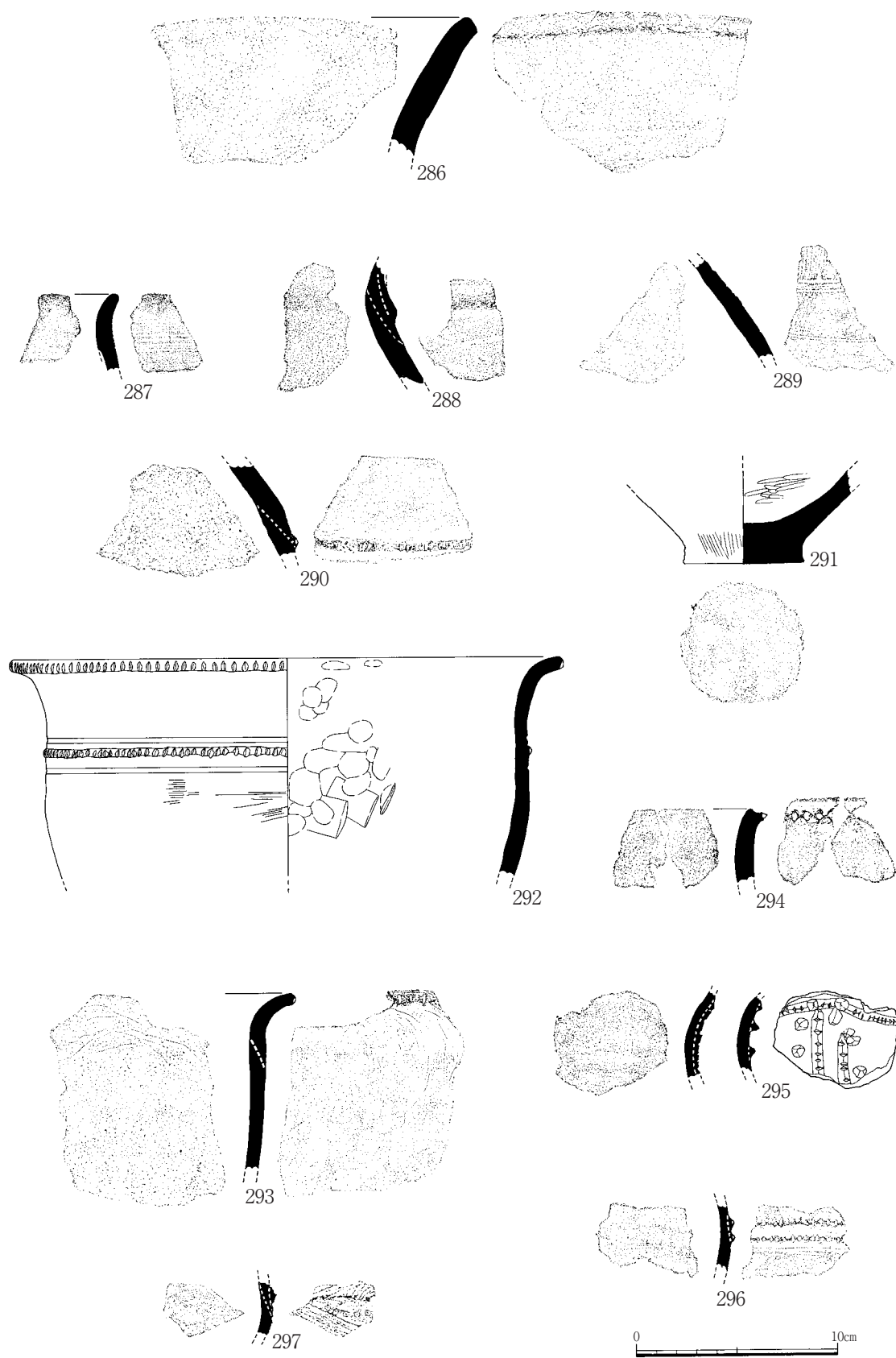


Fig.53 3 A区出土土器26 (S : 1/3)

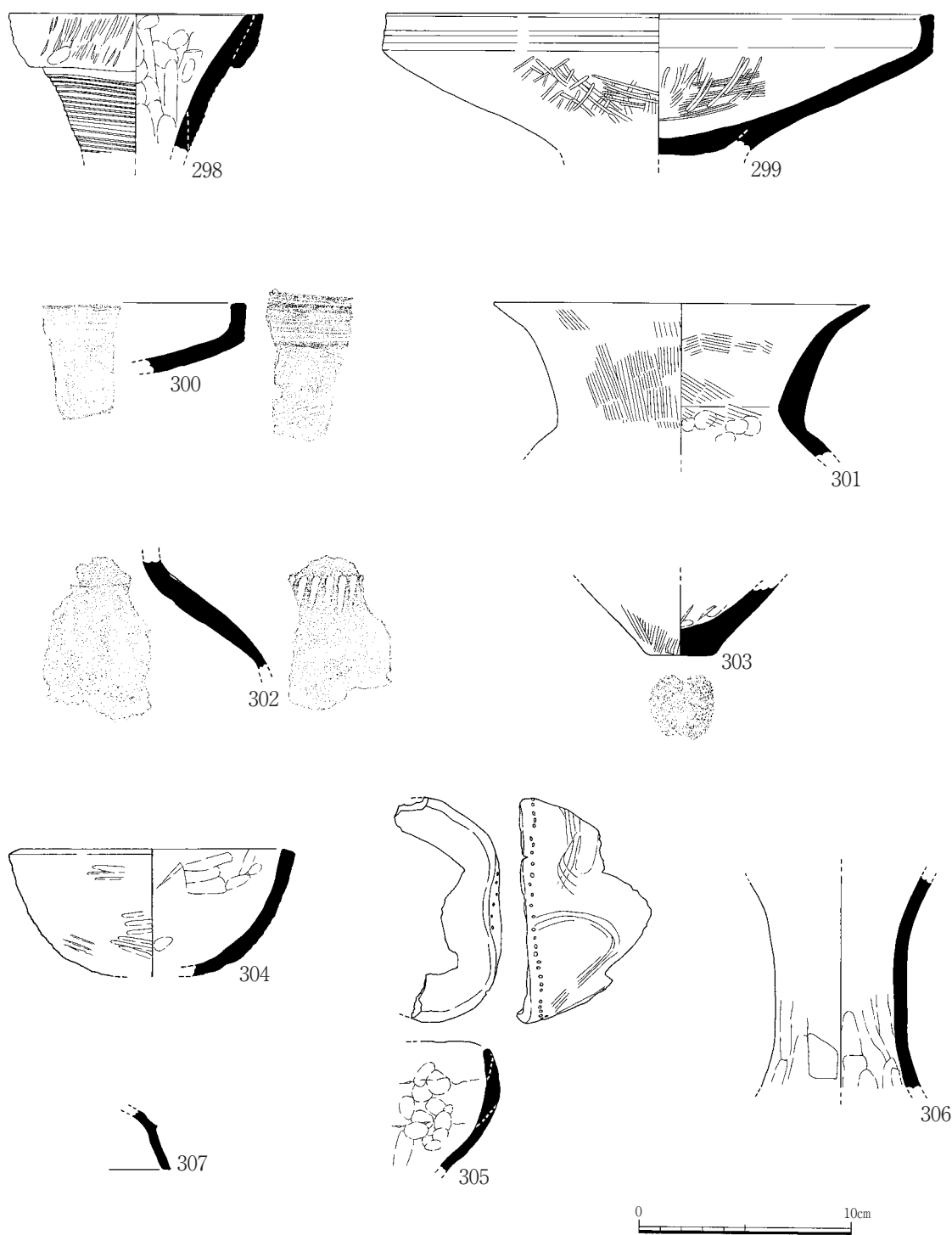


Fig.54 3 A区出土土器27 (S : 1/3)

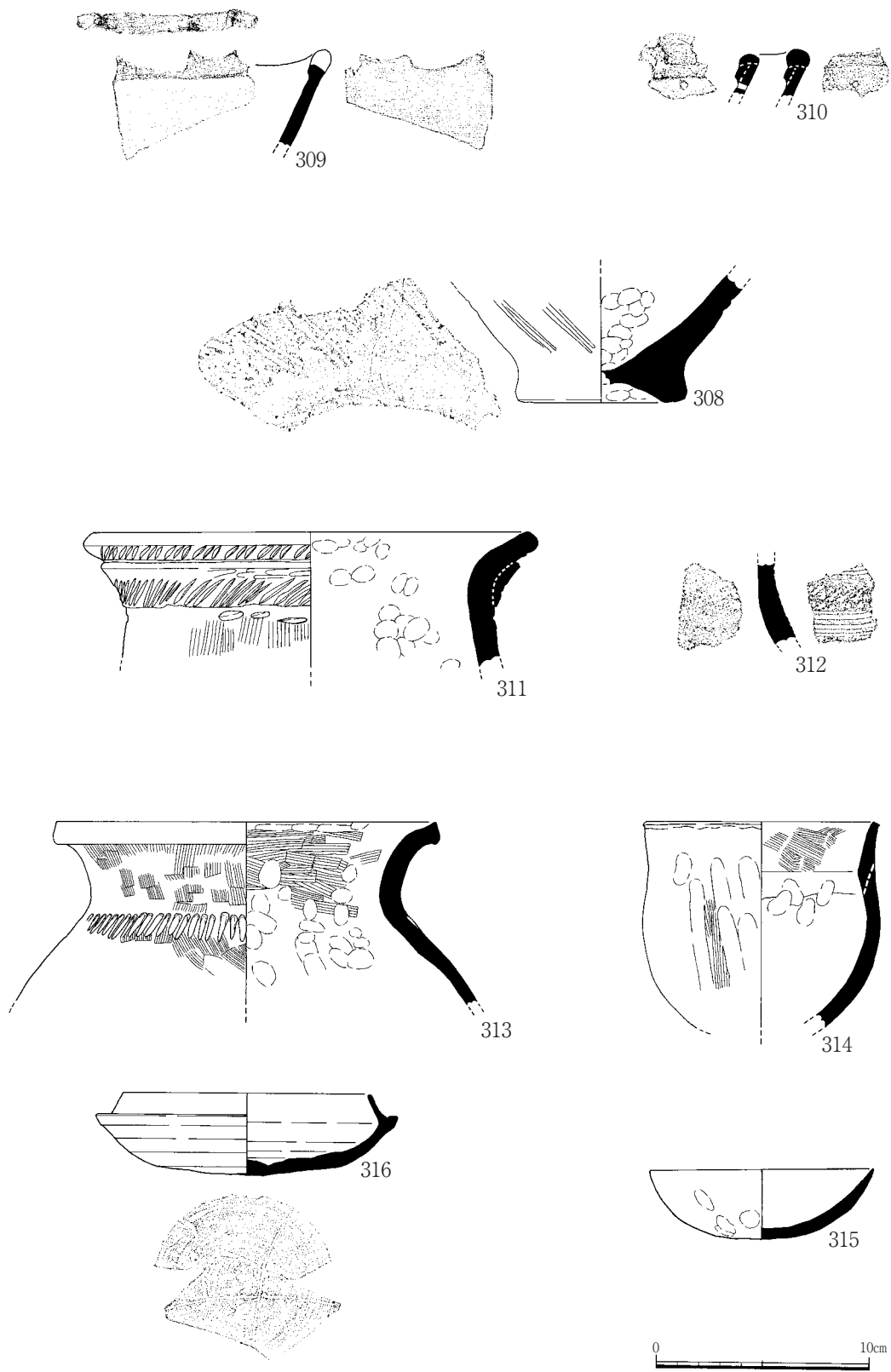


Fig.55 3 A区出土土器28 (S : 1/3)

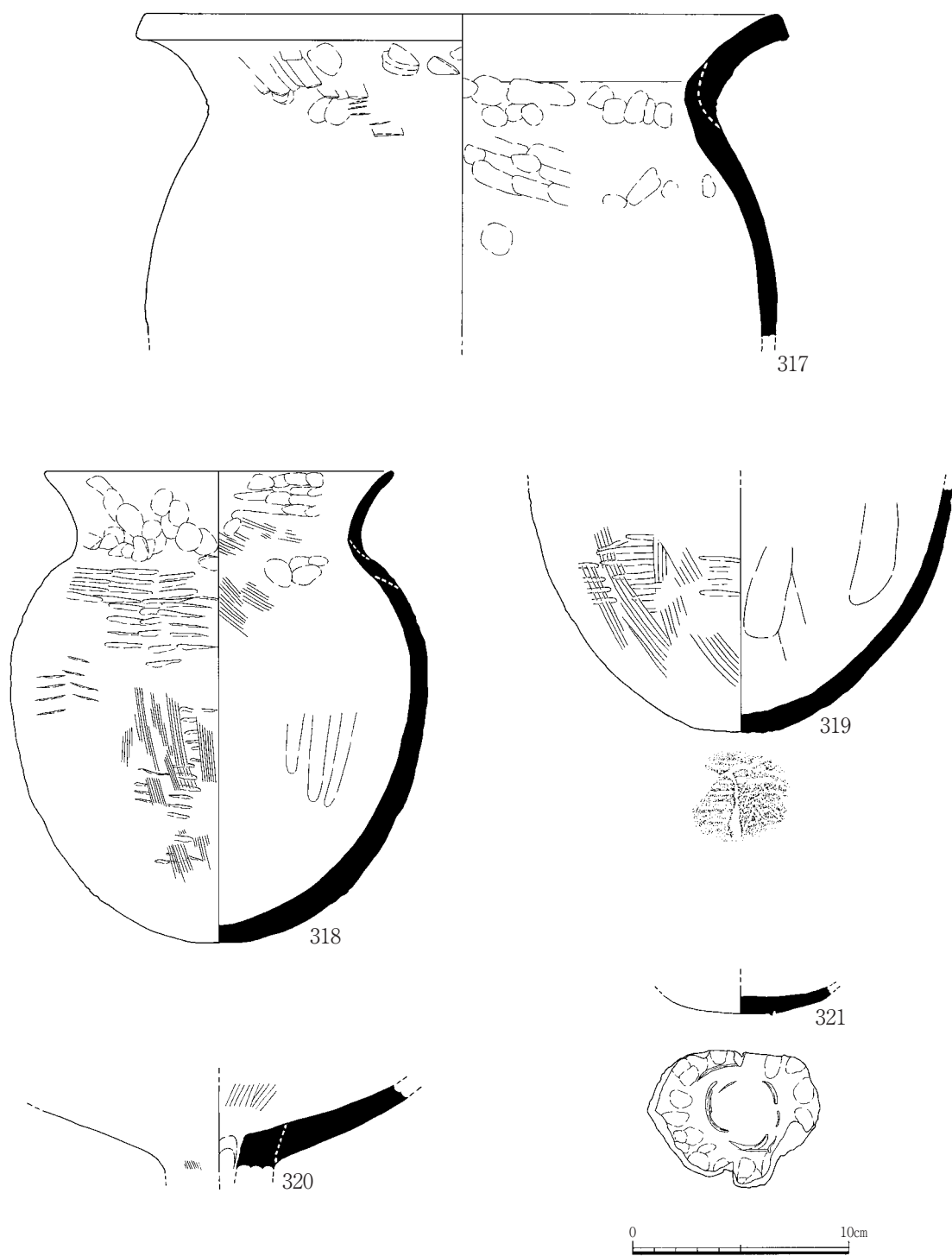


Fig.56 3 A区出土土器29 (S : 1/3)

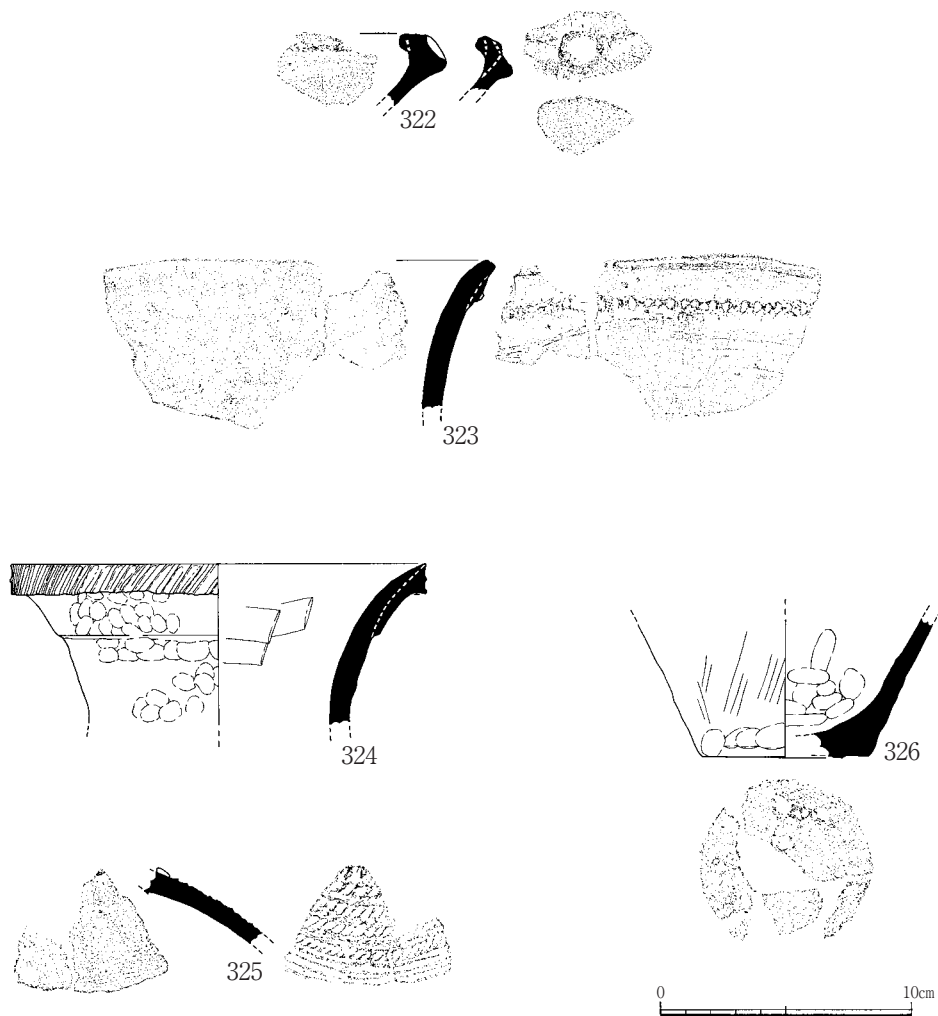


Fig.57 3 A区出土土器30 (S : 1/3)

器である。153は口縁～頸部片で、外面に沈線3条・斜位刺突文1段・縄文（LR）を施す。154は波状口縁を呈する口縁部片で、外面に沈線3条・山形沈線文1段・縄文（LR）を施す。153・154は縄文後期・広瀬上層～伊吹町式土器である。155は凹み底を呈する底部片である。縄文後期・伊吹町式土器か。156は縄文土器・浅鉢・口縁部片で、波状口縁の可能性はある。外面に沈線4条・磨消縄文（RL）を施す。縄文後期・広瀬上層式土器か。

157～163は縄文土器・深鉢である。157～162は口縁部片である。157は波状口縁の可能性はある。外面に縦位刺突文3列・斜位刺突文を施す。158は口縁端部外端側に刻目を施し、外面は条痕調整である。159は口縁端部に把手状貼付2を施し、外面は条痕調整である。160は口縁端面に刻目を施し、内面に沈線1条を描く。外面は条痕調整である。161は口縁端面に刻目を施し、内面に沈線1条を描く。内外面は条痕調整である。162は外面条痕調整である。163は底部片で、高台状を呈する。外面は条痕



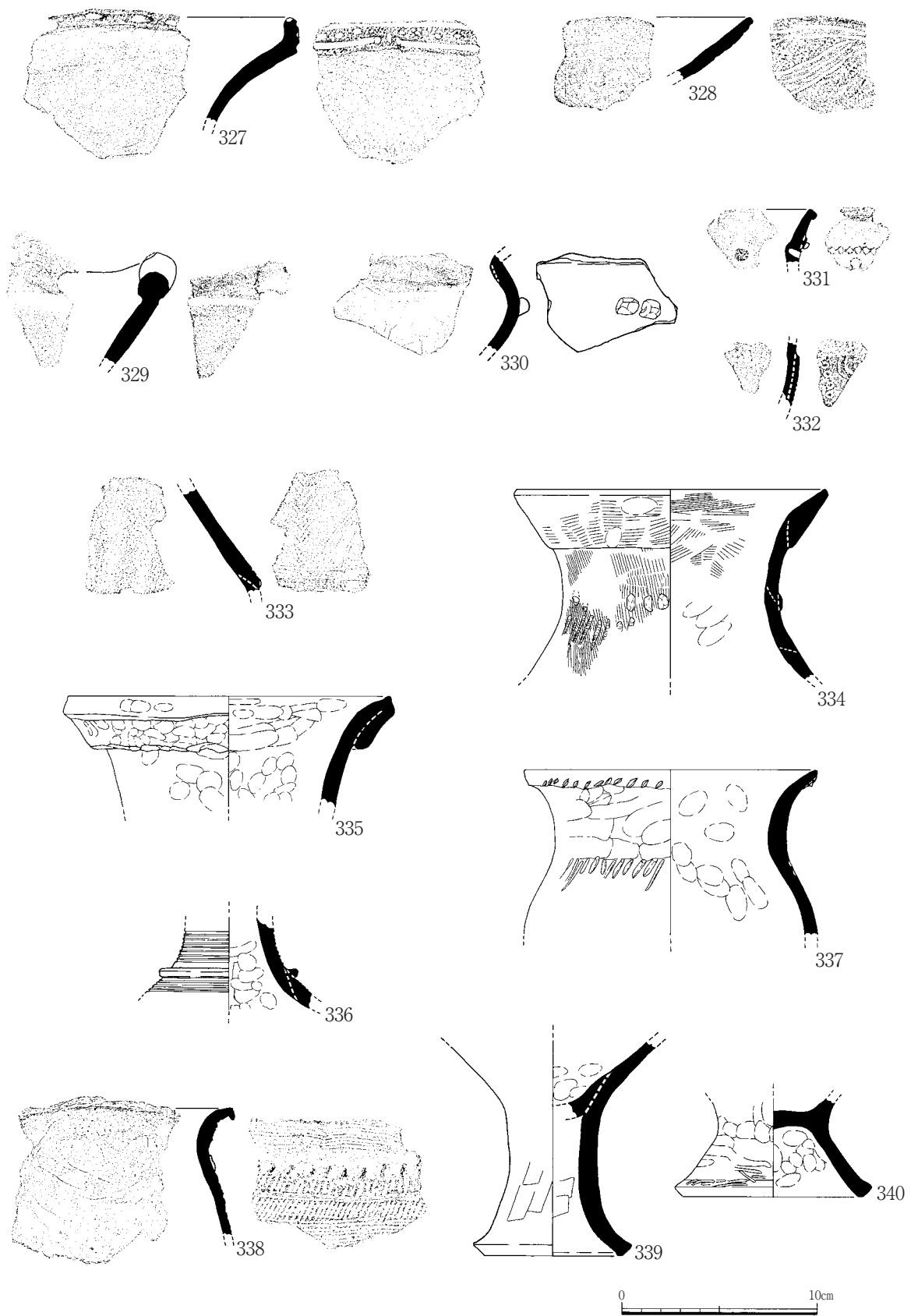


Fig.58 3 A区出土土器31 (S : 1/3)

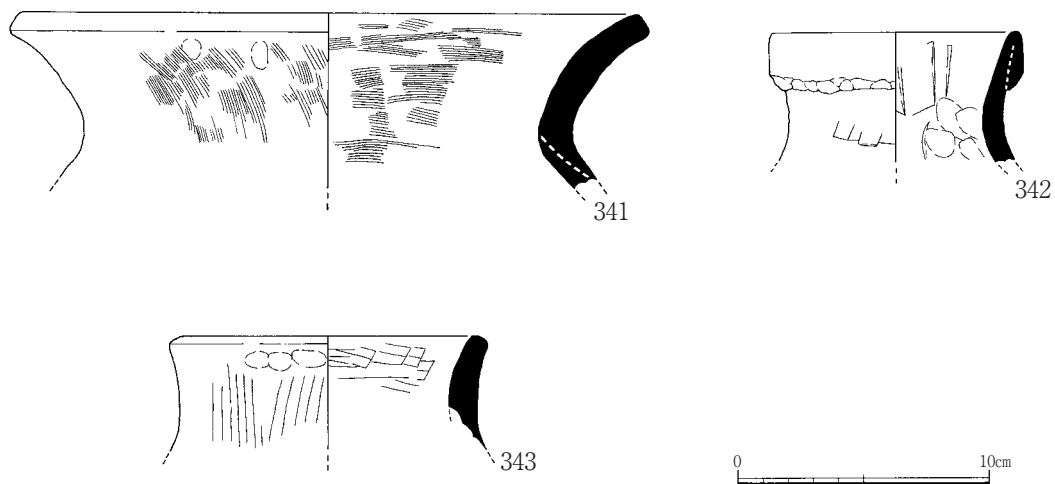


Fig.59 3 A区出土土器32 (S : 1/3)

調整である。157～163は縄文晩期土器である。

164～166は縄文土器・浅鉢である。164は口縁部片で、外面に沈線6条を描く。165は口縁～胴部片で、内面に沈線1条を描く。164・165は縄文晩期土器である。166は胴部片で、外面に沈線5条を描き、沈線内に赤彩を充填する。縄文晩期・黒色磨研土器である。

167は縄文土器・蓋か。胴部片で、外面に沈線4条を描く。縄文晩期・橿原式土器か。

168～170は縄文土器・壺である。168は口縁部片で、円孔2を穿ち、外面に沈線2条を描く。縄文晩期・黒色磨研土器である。169は頸～胴部片で、外面に斜位沈線3条を描く。縄文晩期土器である。170は胴部片で、外面に沈線1条を描く。縄文晩期・黒色磨研土器である。

171～178は縄文土器・深鉢である。171～176は口縁部片である。171～173は外面に刻目突帯1条を貼付する。171は口縁端部外端側に刻目を施し、外面は条痕調整である。172は口縁端面に刻目を施し、外面は条痕調整である。173は口縁端部外端に刻目を施し、内外面はナデ調整である。174は口縁端面に刻目を施す。外面には楕円形刺突文1段を施し、内外面は条痕調整である。土製円板の可能性もある。175は波状口縁である。176は外面に刺突文2段を施す。177・178は胴部片である。177は外面に突帯1条を貼付する。178は外面に沈線1条・弧状沈線2条を描く。171～178は縄文晩期土器である。

179～183は縄文土器・浅鉢である。179～182は波状口縁の口縁部片で、方形浅鉢の可能性もある。179は円孔1を穿ち、波頂部端面に刻目2を施す。内面に沈線1条を描く。180は内面に沈線1条を描く。181は内外面に沈線各1条を描く。182は波頂部外端に刻目2を施し、内面に沈線を描く。内外面は本来赤彩されていた可能性がある。183は胴～底部片である。底部は凹み底を呈し、外面はミガキ調整である。179～183は縄文晩期土器である。

184～192は縄文土器・深鉢である。184は口縁～胴部片で、外面に刻目突帯1条を貼付し、頸部には縦位沈線(複線<sup>1)</sup>)を描く。185～188は口縁部片である。185～187は外面に刻目突帯1条を貼付する。

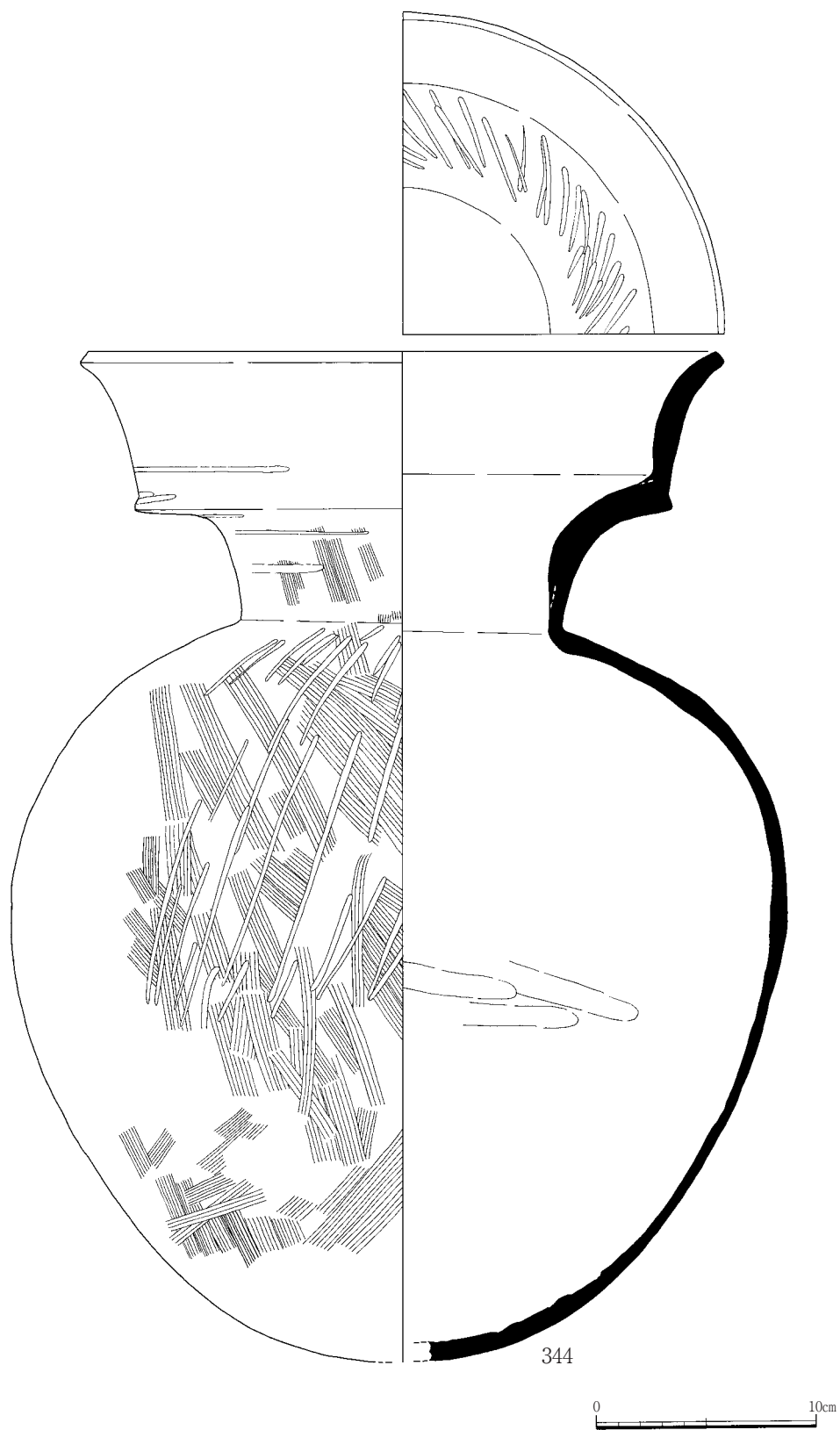


Fig.60 3 A区出土土器33 (S : 1/3)

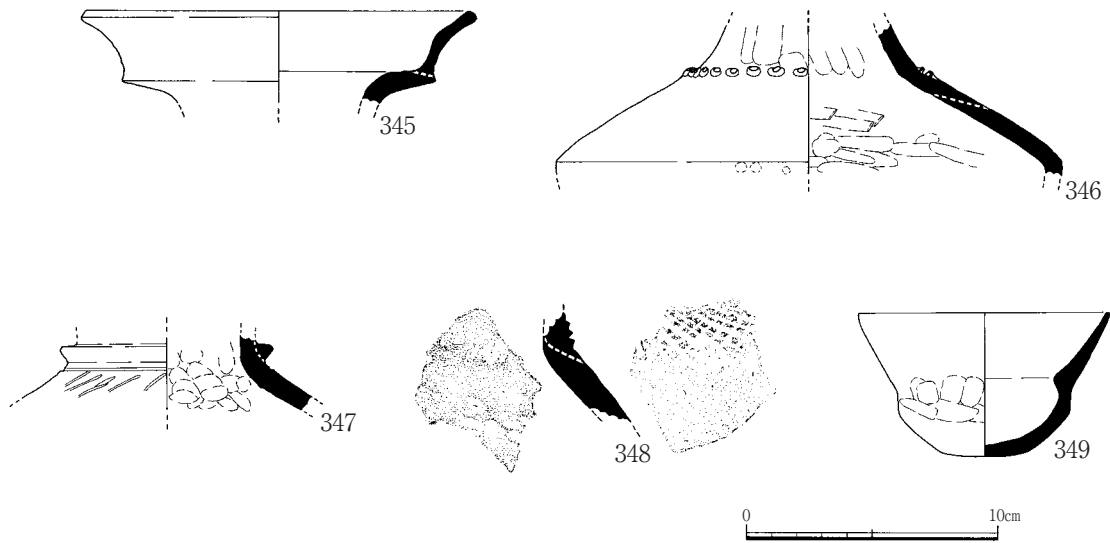


Fig.61 3 A区出土土器34 (S : 1/3)

185は頸部外面に縦位沈線2条を描く。186は外面条痕調整である。184~186は縄文晩期末~弥生前期の所産と考えられる。187は外面に円形刺突2を施す。188は口縁端部を外方に肥厚させ、突帯状を呈する。口縁端部内端側に刻目を施す。187・188は縄文晩期末~弥生前期の所産か。189・190は胴部片で、外面に刻目突帯1条を貼付する。190は外面に沈線2条(複線)・縦位沈線(複線)を描く。191・192は頸部片である。191は外面に沈線2条(複線)、縦位沈線文(ハケ状原体)を施す。192は外面に沈線文(複線)を施す。193は縄文土器・鉢である。口縁端部外端側に刻目を施し、外面は条痕調整である。底部は凹み底である。189~193は縄文晩期末~弥生前期の所産と考えられる。

194は縄文土器・鉢か。口縁部片で、外面に沈線1条・縦位沈線5条を描く。上層からの混入品の可能性がある。

195~232は弥生土器・壺である。195・196は口縁部片である。195・196は粘土帯接合部の外面に段1を形成する。197は口縁~頸部片で、口縁端面に沈線1条、頸部外面に沈線3条を描く。198は口縁~胴部片で、外面・口~頸部境に沈線2条を描く。199は口縁部片で、外面に突帯1条を貼付する。下端には粘土帯接合部の擬口縁が露出する。200は口縁~頸部片である。201~203は頸部片である。201は外面に突帯1条を貼付する。202は粘土帯接合部外面に隆帯1条を形成し、上面に沈線を描く。203は外面に沈線2条を描く。204~210は頸~胴部片である。204は外面に突帯(?)1条を形成する。205は粘土帯接合部外面に1段をなす。206は外面に沈線4条・縦位山形文を施す。207は外面に刻目突帯1条を貼付し、重弧文を施す。208は粘土帯接合部外面に沈線状の1段をなし、段以下に沈線2条・弧状沈線を描く。209は外面に沈線5条・重弧文を施す。210は外面に沈線3条を描く。211~226は胴部片である。211は外面に1段を形成し、刻目を加える。刻目の上下に沈線各2条を描く。212は外面

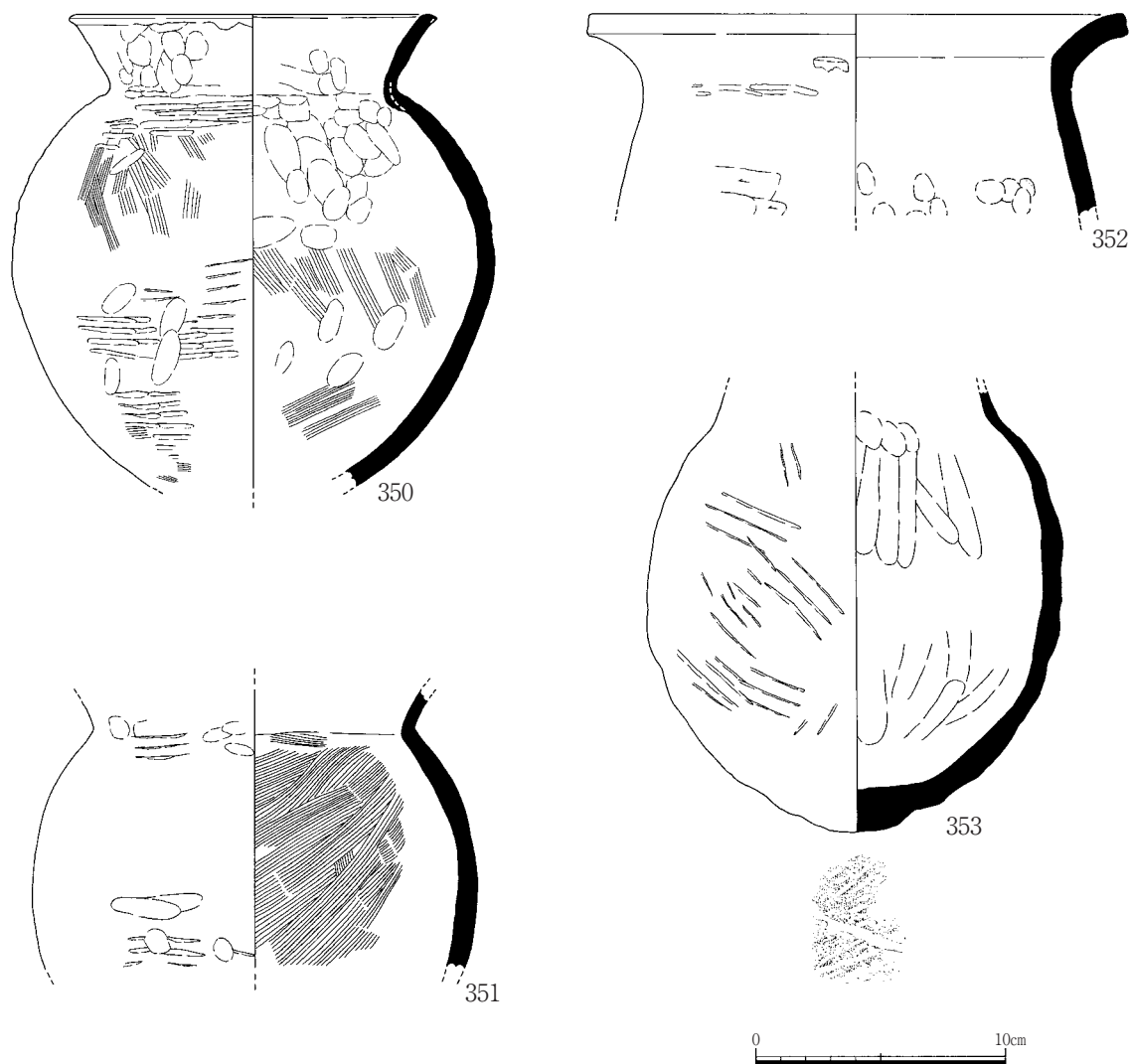


Fig.62 3 A区出土土器35 (S : 1/3)

に沈線4条・刻目2段・縦位山形文を施す。213は外面に沈線4条・縦位山形文・縦位短沈線文1段を施す。214は外面に沈線2条・斜位沈線文2段を施す。215は外面に沈線4条・斜位沈線文2段を施す。216は外面に斜位沈線4条を描く。217は外面に沈線1条・縦～斜位沈線文を施す。218は粘土帯接合部外面に1段をなす。外面に重弧文・沈線1条・全面赤彩を施す。219は外面に沈線状の1段を形成し、沈線1条・重弧文を施す。220は外面に沈線3条・重弧文を施す。221は胴部最大径部外面に、3条の平行沈線と斜位沈線文によって、矢羽根状の沈線文を施文する。その上下には重弧文を配する。222は外面に沈線3条・竹管刺突2段・斜位沈線3条・重弧文を施す。223は外面に沈線2条・竹管刺突2段・弧状沈線文・重弧文を施す。224は外面に沈線2条・竹管刺突2段・弧状沈線文を施す。225は外面に沈線1条・縦位沈線2条・木葉文を施す。226は外面に木葉文を施す。227～232は底部片である。227は凹み底で、底面に粒状圧痕がみられる。228は平底で、外面に沈線2条を描く。231は凹み底で、

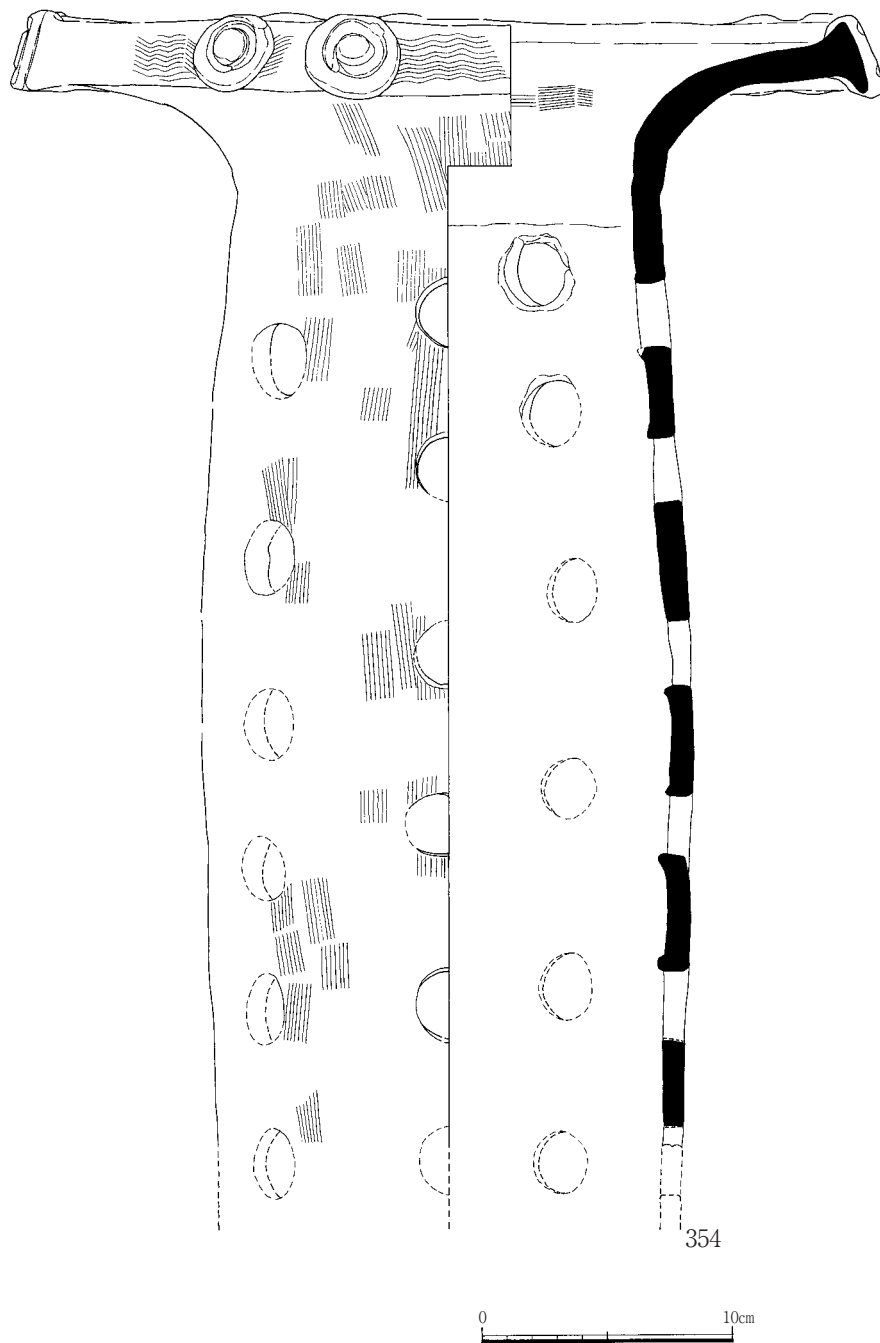


Fig.63 3 A区出土土器36 (S : 1/3)

底面に粒状圧痕・線状圧痕がみられる。232は凹み底で、外面に沈線を描き、底面にはミガキ調整を施す。195～232は弥生前期土器である。

233～251は弥生土器・甕である。233～235は口縁部片である。233・234は外面に刻目突帯1条を貼付する。234は口縁端部に刻目を施し、外面に縦位沈線文(複線)を描く。235は口縁端面に沈線1条を描く。口縁端部の外端・内端両側に刻目を施す。粘土帯接合部外面に1段を形成する。236～239は

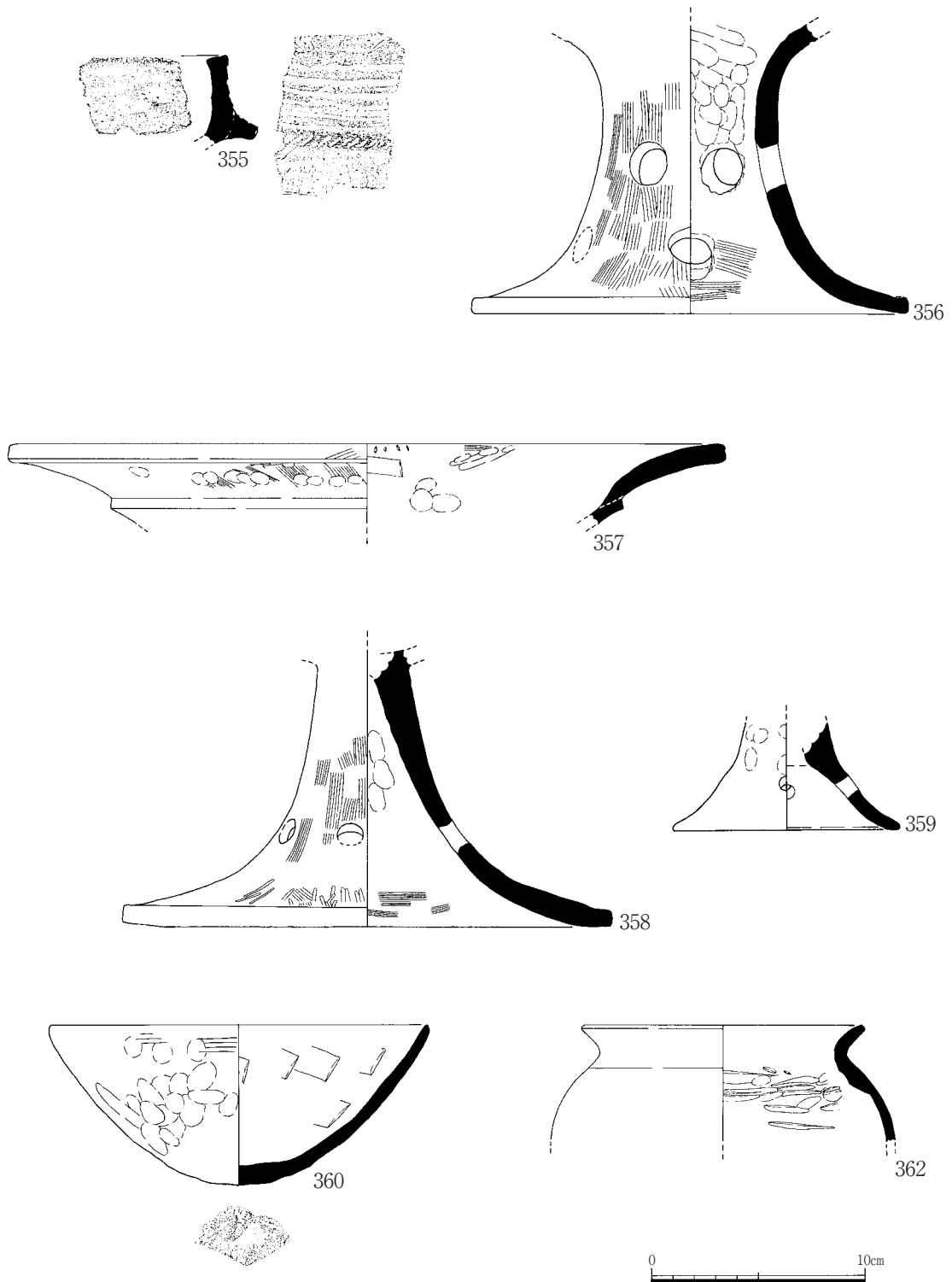


Fig.64 3 A区出土土器37 (S : 1/3)

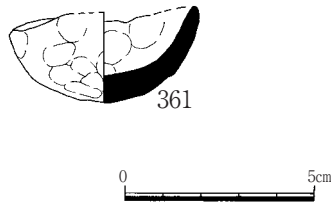


Fig.65 3 A区出土土器38 (S : 1/2)

口縁～胴部片である。236は口縁端部外端側に刻目を施し，外面に沈線2条を描く。237は口縁端面に刻目を施し，外面に沈線3条を描く。238は口縁端部に刻目を施し，外面に沈線3条を描く。239は口縁端面に刻目を施し，外面に沈線3条を描く。240・241は口縁部片である。240は口縁端部外端側に刻目を施す。241は口縁端面に沈線1条を描き，口縁端部外端側に刻目を施す。外面に沈線3条・縦位短沈線文1段を施文する。242～244は胴部片である。242は上下逆の可能性ある。外面に沈線・縦位短沈線文を施す。243は外面に刻目突帯1条・縦位刻目突帯2条を貼付し，乳状貼付文を施す。244は外面に刻目突帯2条を貼付する。245は胴～底部片である。246～250は底部片である。246は底面に粒状圧痕(粉痕?)が認められる。247は凹み底で，底面に粒状圧痕が認められる。248～250は平底で，底面に粒状圧痕が認められる。251は胴～底部片で，平底である。233～251は弥生前期土器である。

252は凹み底の底部片で，鉢か。外面に沈線3条を描く。弥生前期土器である。

253・254は弥生土器・甕・口縁部片である。253は外面に刻目突帯1条を貼付し，櫛描文を施文する。弥生中期土器である。254は外面にハケ原体状工具の小口部による縦位押圧文を施す。弥生中期土器～土師器か。

255・256は土師器か。255は壺・口縁～頸部片で，外面に隆帯1条を貼付し，縦位沈線文を施す。256は高杯・脚部片か。外面に沈線1条を描く。

### V A 3層出土土器 (Fig.50)

257は縄文土器・深鉢か。胴部片で，外面に突帯1条を貼付し，端面に沈線1条を加える。

### V A 2層出土土器 (Fig.50)

258は縄文土器・深鉢・口縁部片である。波状口縁で，口縁端部外端側に刻目を施す。外面に刻目突帯2条を貼付する。縄文晩期末～弥生前期の所産と考えられる。

### V A層出土土器 (Fig.51～54)

259・260は縄文土器・深鉢である。259は胴部片で，外面に斜位沈線3条を描く。260は凹み

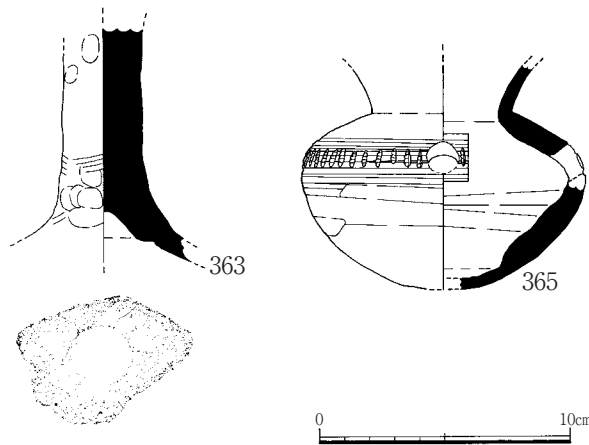


Fig.66 3 A区出土土器39 (S : 1/3)



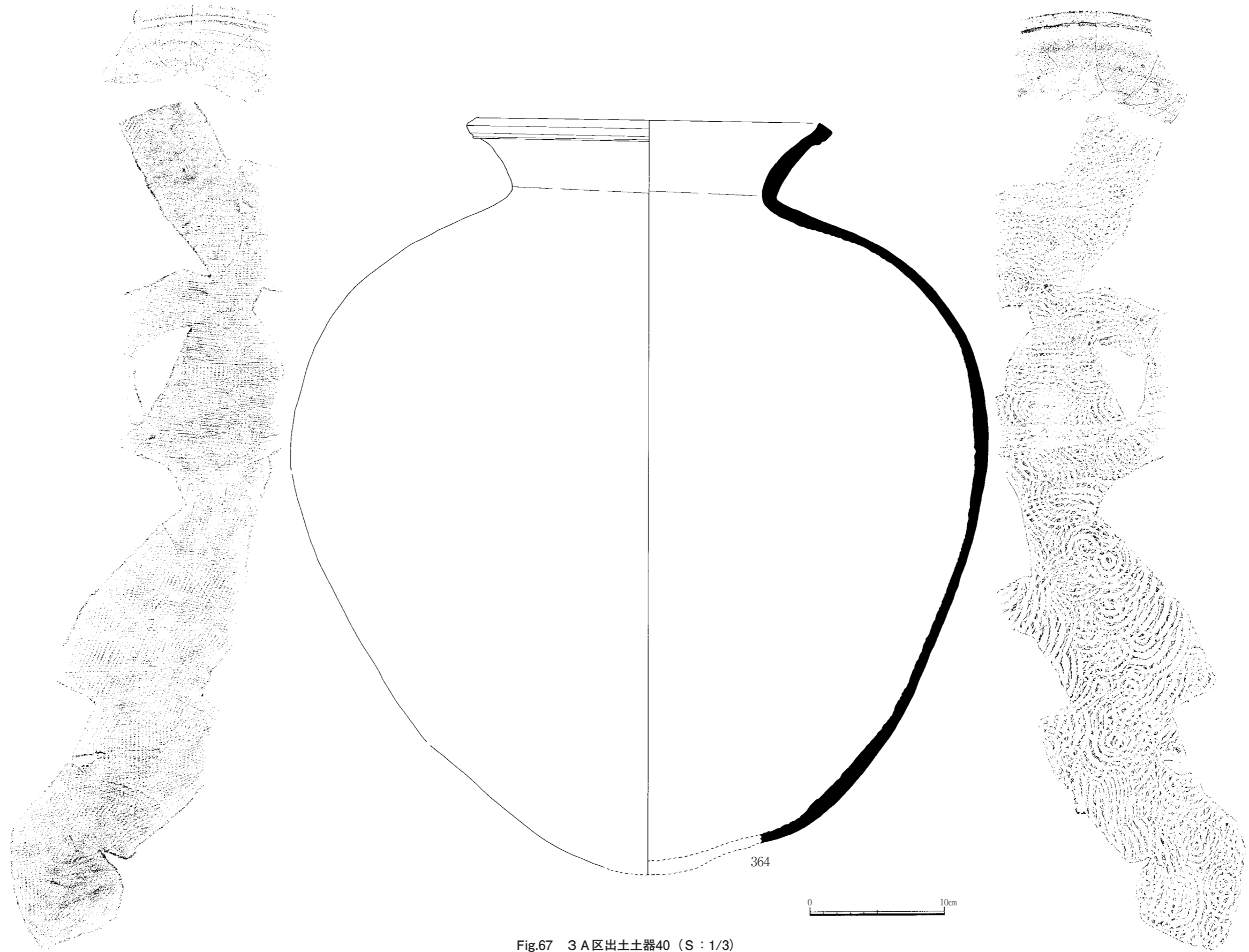


Fig.67 3 A区出土土器40 (S : 1/3)



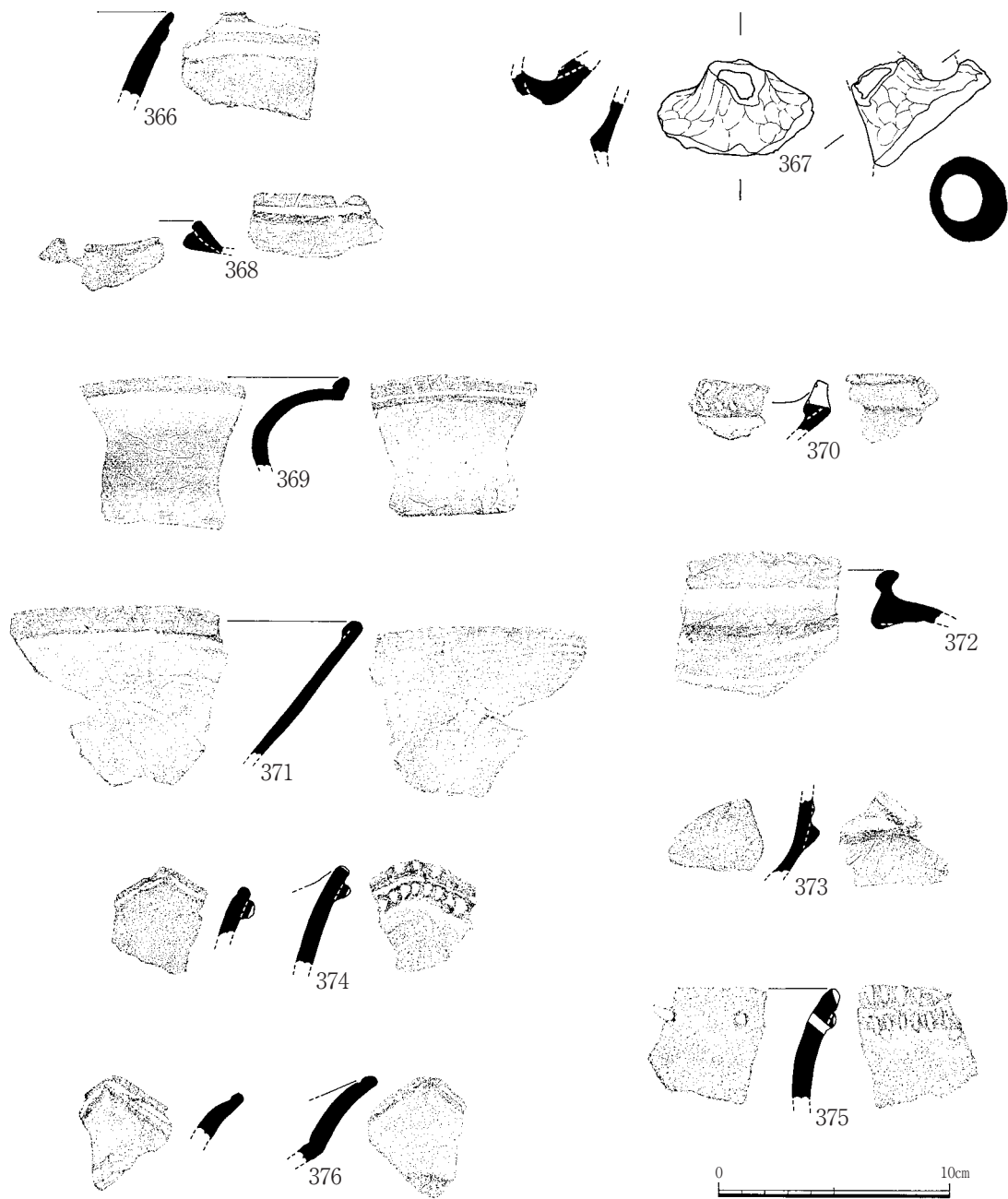


Fig.68 3 A区出土土器41 (S : 1/3)

底の底部片である。259・260は縄文後期土器か。261・262は縄文土器・浅鉢である。261は口縁部片で、外面に沈線3条・縄文(LR)を施す。内外面に赤彩を施した形跡がある。262は胴部片で、外面に沈線5条を描き、赤彩を充填する。261・262は縄文後期土器である。263は縄文土器・注口土器・胴部片である。外面は沈線状に1段をなし、沈線1条・斜位短沈線文1段・刺突文・擬縄文を施す。263は縄文後期・彦崎KⅡ式土器か。

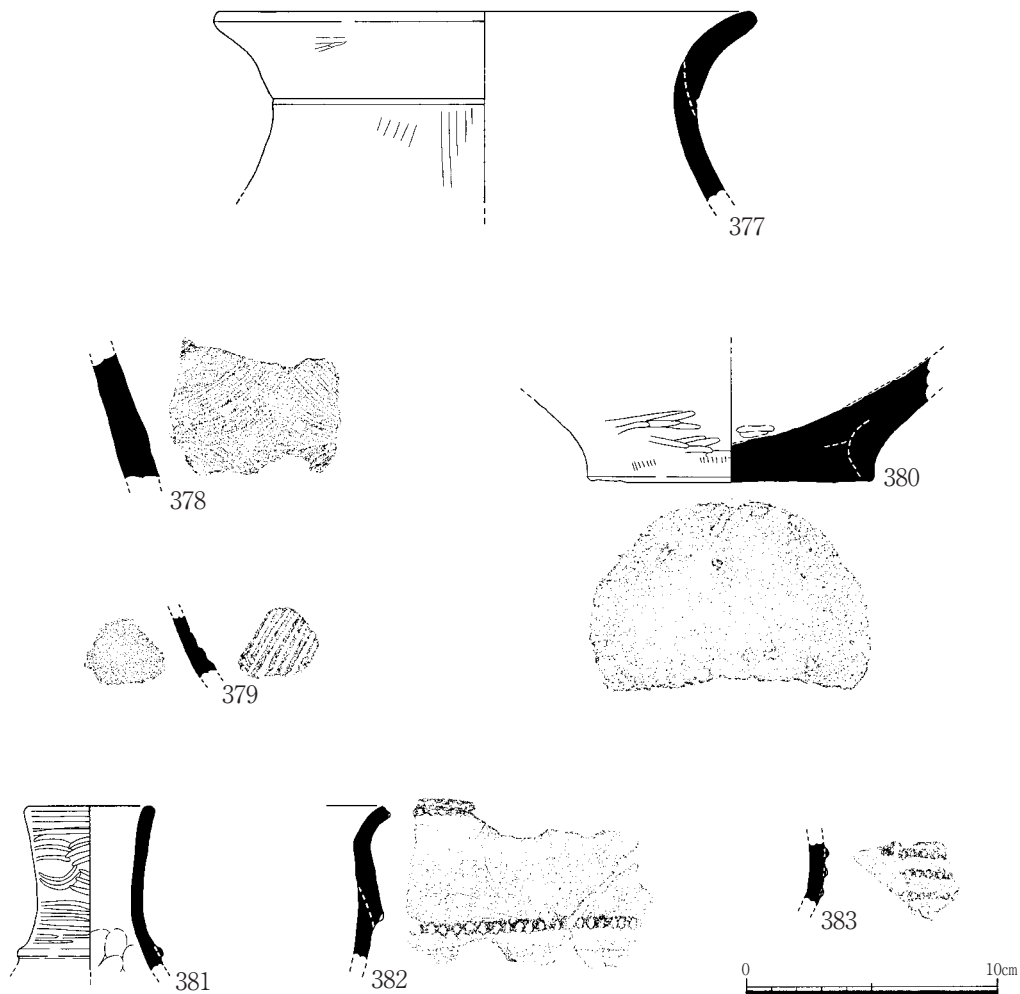


Fig.69 3 A区出土土器42 (S : 1/3)

264は縄文土器・深鉢・底部片である。外面は条痕調整である。265～271は縄文土器・浅鉢である。265・266は口縁～胴部片である。265は黒色磨研土器である。266は波状口縁で、口縁端面に沈線1条を描く。粘土紐接合部には1段を形成する。黒色磨研土器である。267～269は口縁部片である。267は波状口縁で、外面・段部に刻目を施す。268は口縁端部にリボン状突起を有し、突起部直下に小孔1を穿つ。内面は沈線状の1段をなす。269は突起部をもつ波状口縁で、内面に沈線状の1段を形成する。270は口縁～胴部片で、黒色磨研土器である。271は底部片で、高台状を呈する。264～271は縄文晩期土器である。272は縄文土器・蓋・胴部片で、外面に沈線3条・櫃原式文様(?)を描く。縄文晩期・櫃原式土器か。

273は縄文土器・壺・底部片である。274～278は縄文土器・深鉢である。274～278は口縁部片である。274は口縁端部外端に刻目を施し、外面に刻目突帯1条を貼付する。273・374は縄文晩期後葉の所産と考えられる。275は口縁端面に刻目を施し、外面に刻目突帯1条を貼付する。縄文晩期末～弥

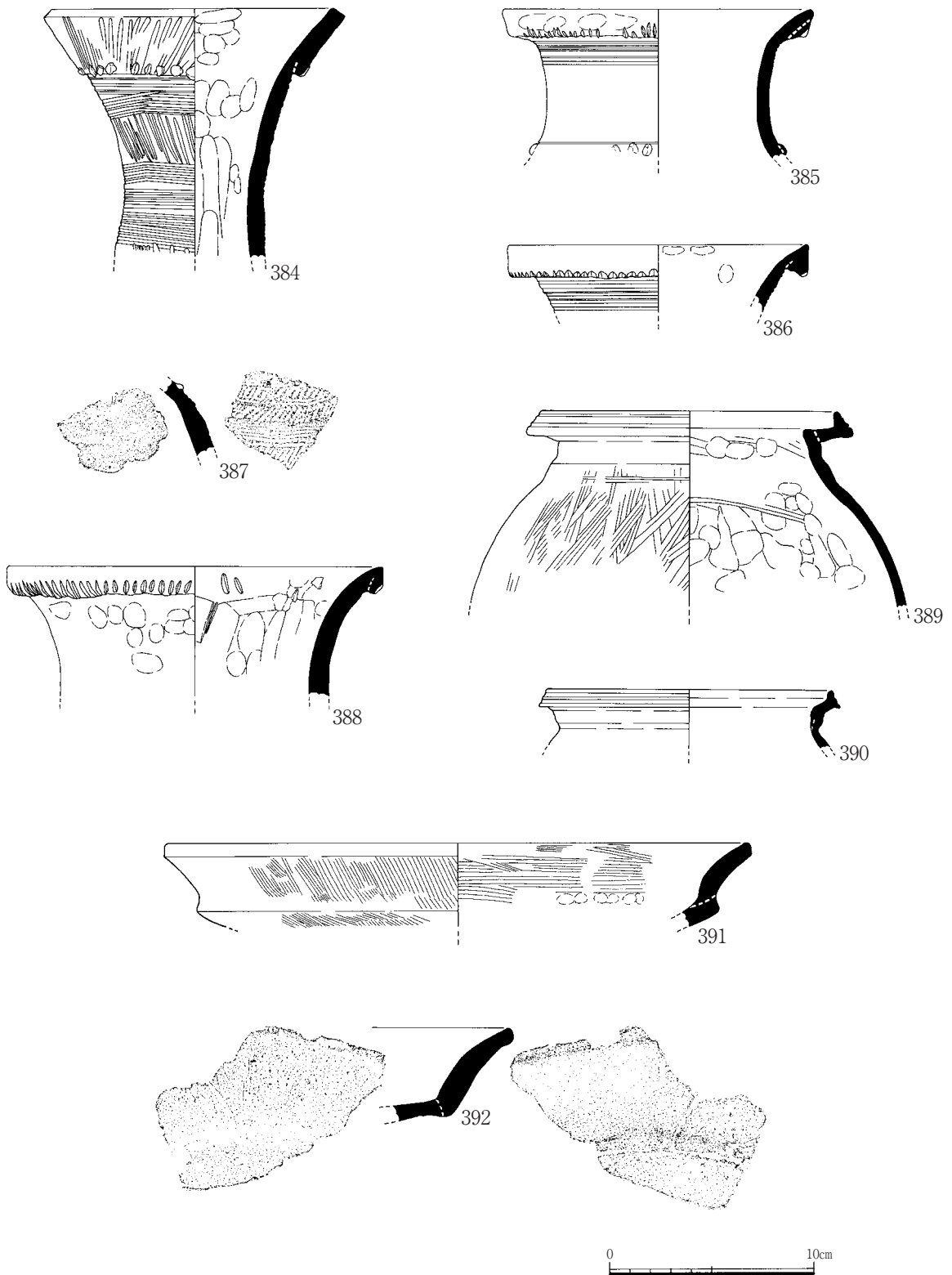


Fig.70 3 A区出土土器43 (S : 1/3)

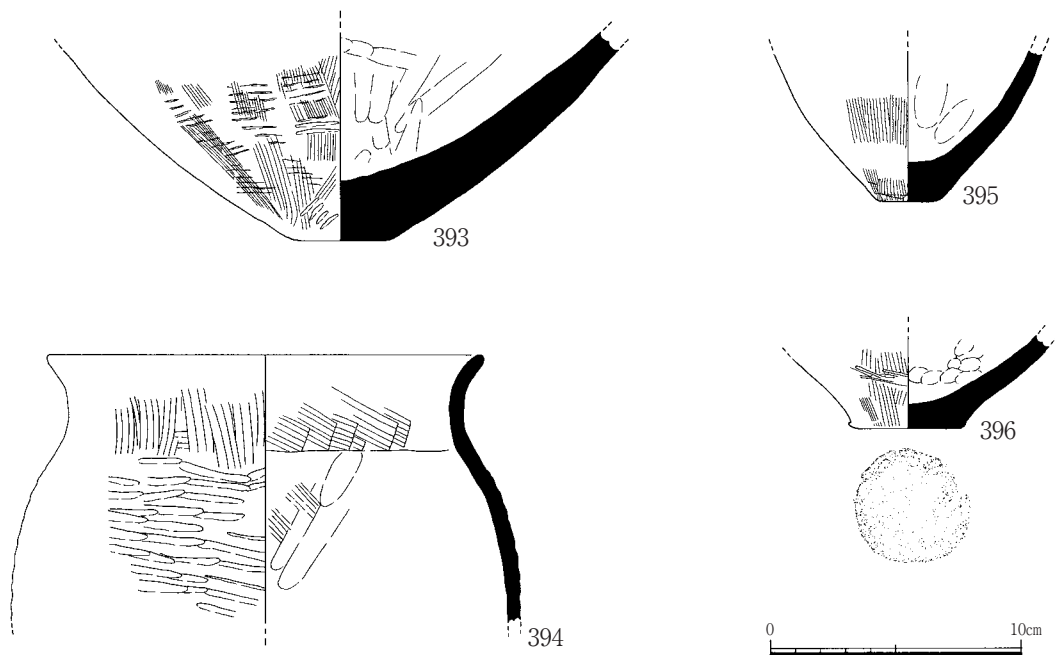


Fig.71 3 A区出土土器44 (S : 1/3)

生前期の所産か。276は外面に刻目突帯1条を貼付する。277は口縁端面及び端部内面に刻目を施す。内外面は条痕調整である。278は突起部をもつ波状口縁で、口縁端部外端に刻目2を施す。内外面は条痕調整である。279・280は縄文土器・浅鉢である。279は口縁～胴部片で、外面に沈線6条を描き、赤彩を充填する。280は胴部片で、外面に沈線状の1段をなし、赤彩を施す。漆塗りの可能性がある。279・280は黒色磨研土器である。276～280は縄文晩期後葉の所産と考えられる。

281～285は縄文土器・深鉢である。281～284は口縁部片である。281は口縁端部外端側に刻目を施し、円孔2を穿つ。外面に刻目突帯1条を貼付する。282は口縁端部外端に刻目を施し、外面に刻目突帯1条を貼付する。283は外面に刻目突帯1条を貼付し、その縁取り沈線及び縦位沈線文(複線)を描く。内面には複線文・縦位複線文を施す。284は波状口縁で、波頂部端面に刺突2、口縁端部外端側に刻目をそれぞれ施す。外面には刻目突帯1条を貼付する。285は頸～胴部片で、突帯1条を貼付し、縦位沈線文を施す。281～285は縄文晩期末～弥生前期の所産と考えられる。

286～291は弥生土器・壺である。286・287は口縁部片である。286は外面に沈線状の1段を形成する。287は外面に沈線6条を描く。288は口縁～頸部片で、粘土帯接合部外面に1段を形成する。上下端部に擬口縁が露出する。289・290は胴部片である。289は外面に沈線3条・斜位沈線文2段を施す。290は外面に刻目突帯1条を貼付し、沈線1条・弧状沈線文を施す。291は平底の底部片で、底面に粒

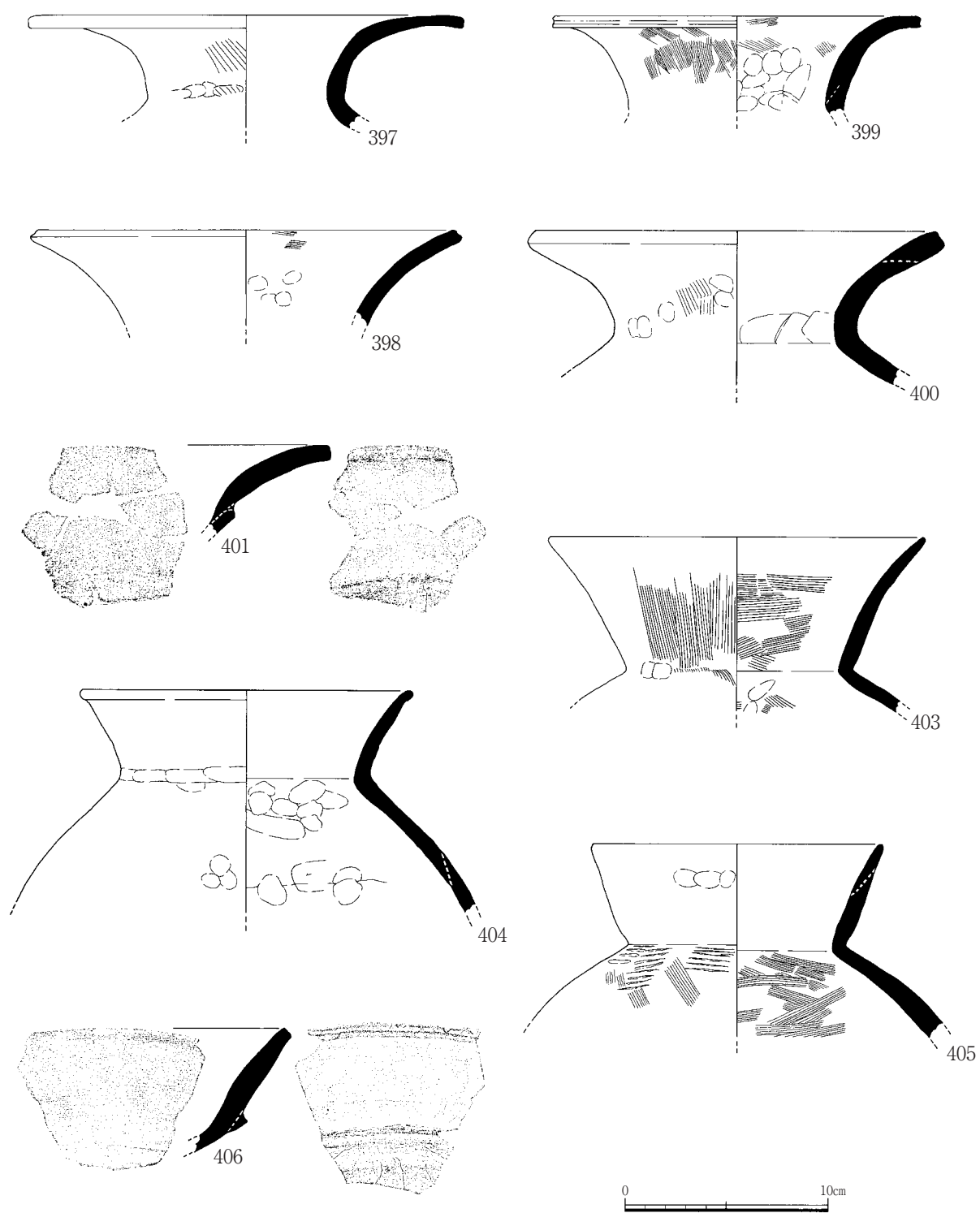


Fig.72 3 A区出土土器45 (S : 1/3)



Fig.73 3 A区出土土器46 (S : 1/3)



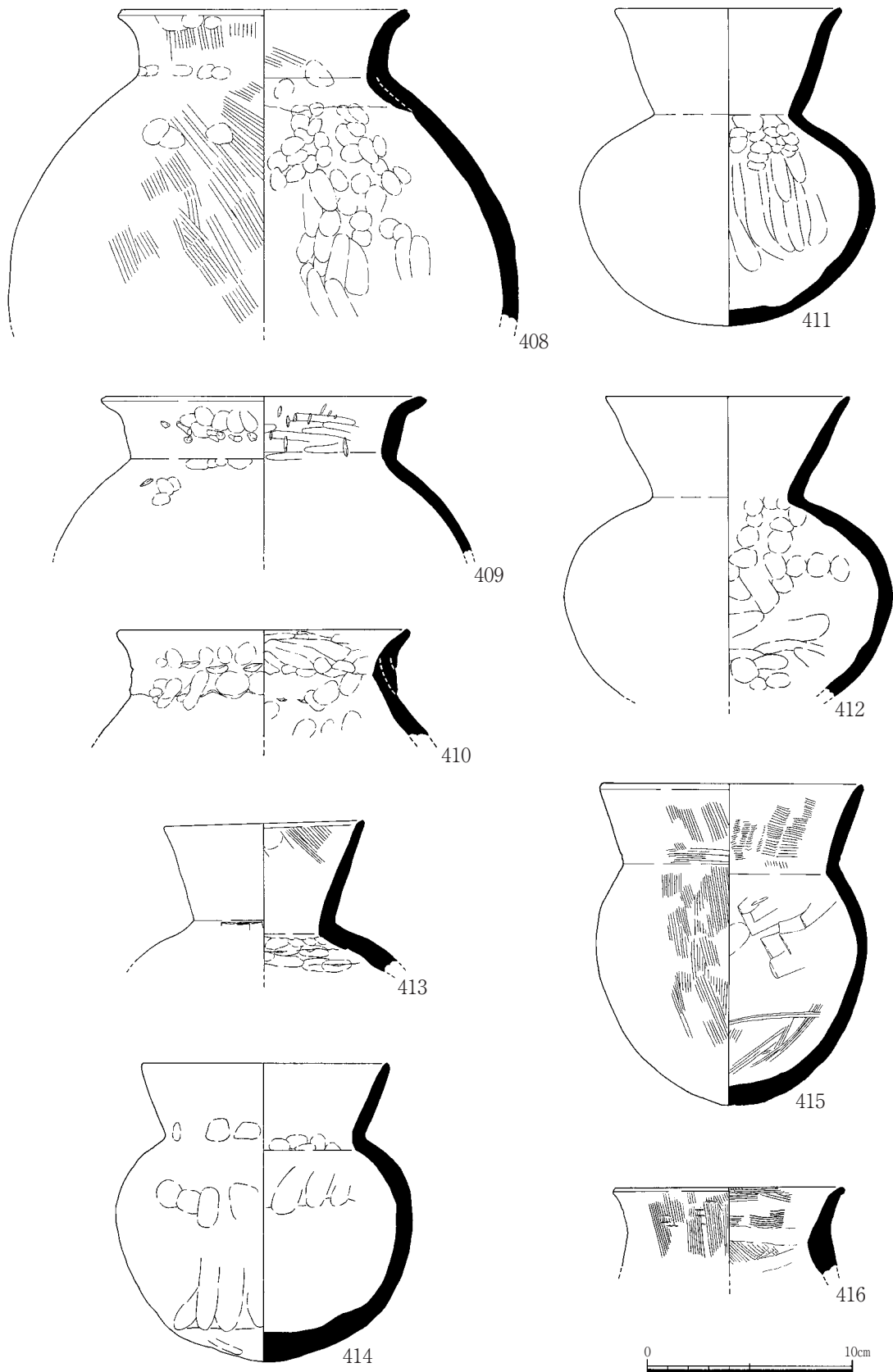


Fig.74 3 A区出土土器47 (S : 1/3)

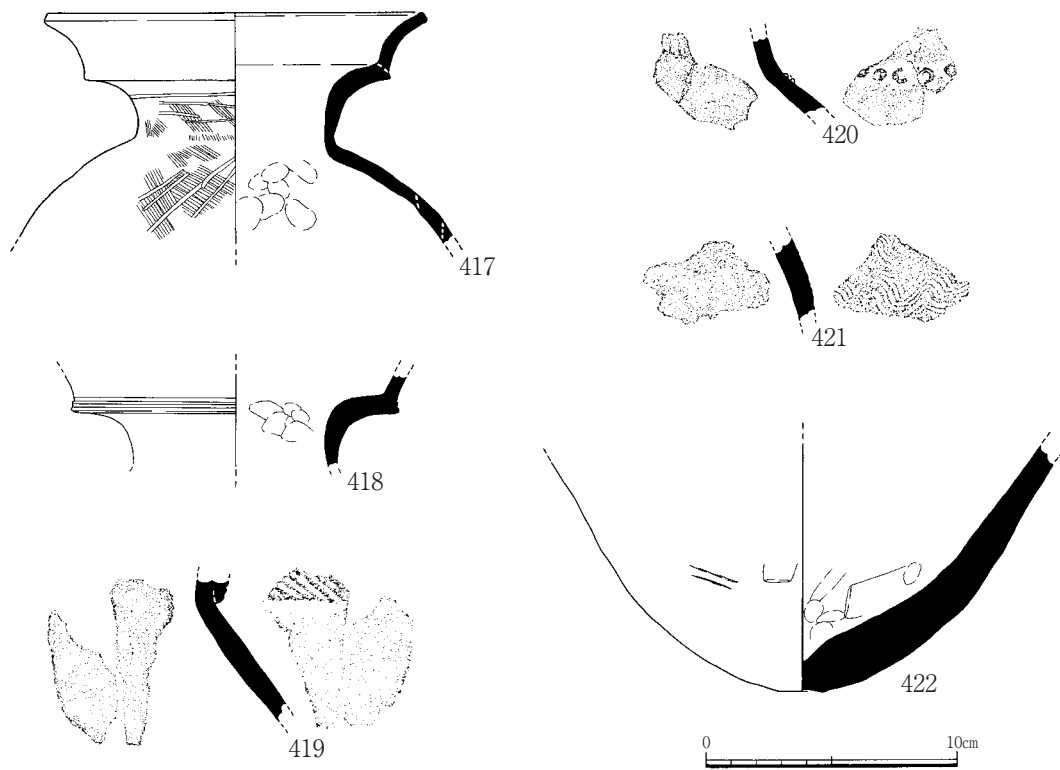


Fig.75 3 A区出土土器48 (S : 1/3)

状圧痕がみられる。292～297は弥生土器・甕である。292・293は口縁～胴部片である。292は口縁端部外端側に刻目を施し、外面に沈線2条・刻目突帯1条を貼付する。293は口縁端部外端に刻目を施す。294は口縁部片で、口縁端部外端は外方に突出して突帯状をなし、刻目を加える。295は頸部片で、外面に刻目突帯1条・縦位刻目突帯2条を貼付し、乳状貼付文を施す。296・297は胴部片である。296は外面に刻目突帯2条を貼付する。297は外面に突帯1条を貼付し、斜位沈線文2段・竹管刺突文を施す。286～297は弥生前期土器である。

298～300は弥生土器である。298は壺・口縁～頸部片である。外面は貼付・肥厚により1段をなし、斜位・横位の櫛描文を施す。弥生中期土器である。299・300は高杯である。299は杯部片で、内底面は円板状粘土を貼付・充填して形成する。内面には暗文状のミガキ調整を施す。300は口縁～胴部片である。299・300は弥生中期土器か。

301～306は土師器である。301・302は壺である。301は口縁～胴部片で、内外面にハケ調整を施す。302は頸～胴部片で、外面に斜位短沈線文1段を施す。303は甕・底部片で、底面に粒状圧痕がみられる。304・305は鉢である。304は上端部が擬口縁の可能性ある。胴部外面にはタタキ調整を施す。305は平面形がハート形に歪む異質な土器である。外面に刺突文1段・櫛描の重弧文を施す。内面には粘土帯接合痕が明瞭に観察される。306は器台・胴部片である。

307は須恵器・杯蓋・口縁部片である。

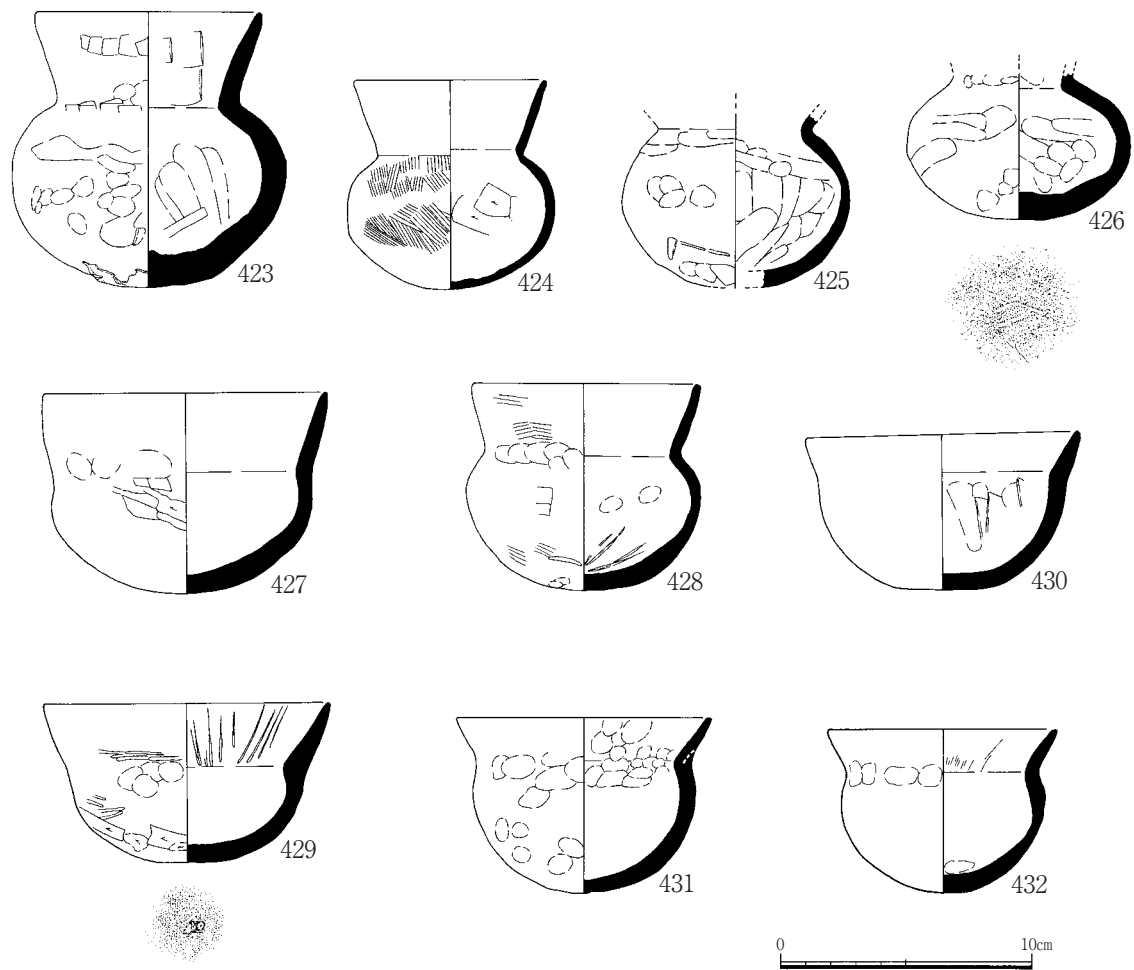


Fig.76 3 A区出土土器49 (S : 1/3)

### Ⅲ B 3層出土土器 (Fig.55)

308は縄文土器・深鉢・底部片で高台状を呈する。外面には条痕調整が認められる。縄文晩期土器である。309・310は縄文土器・浅鉢・口縁部片である。309は波状口縁で、口縁端部にリボン状突起・鱗状突起を有する。内面には1段を形成する。310は波状口縁で、口縁端部にリボン状突起を有する。内方より円孔1を穿ち、内面には1段を形成する。309・310は縄文晩期・黒色磨研土器である。

311・312は弥生土器・壺である。311は口縁～頸部片で、口縁部外面に斜位短沈線文を施す。312は頸部片で、外面に櫛描文・爪形刺突文を施す。311・312は弥生中期土器か。

313～315は土師器である。313・314は壺である。313は口縁～胴部片で、外面に縦位短沈線文1段を施す。314は内外面にハケ調整が認められる。315はほぼ完形の坏である。

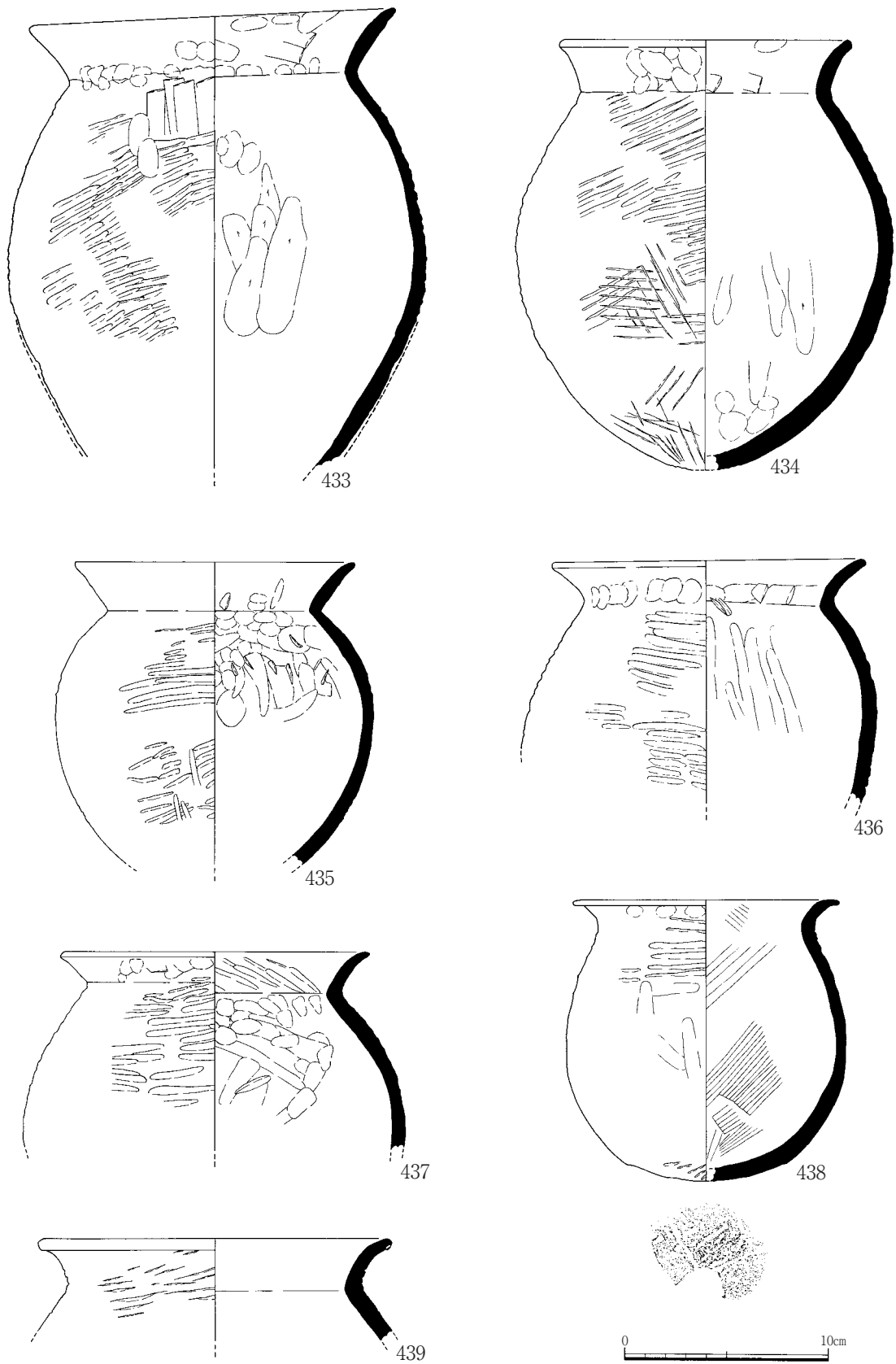


Fig.77 3 A区出土土器50 (S : 1/3)

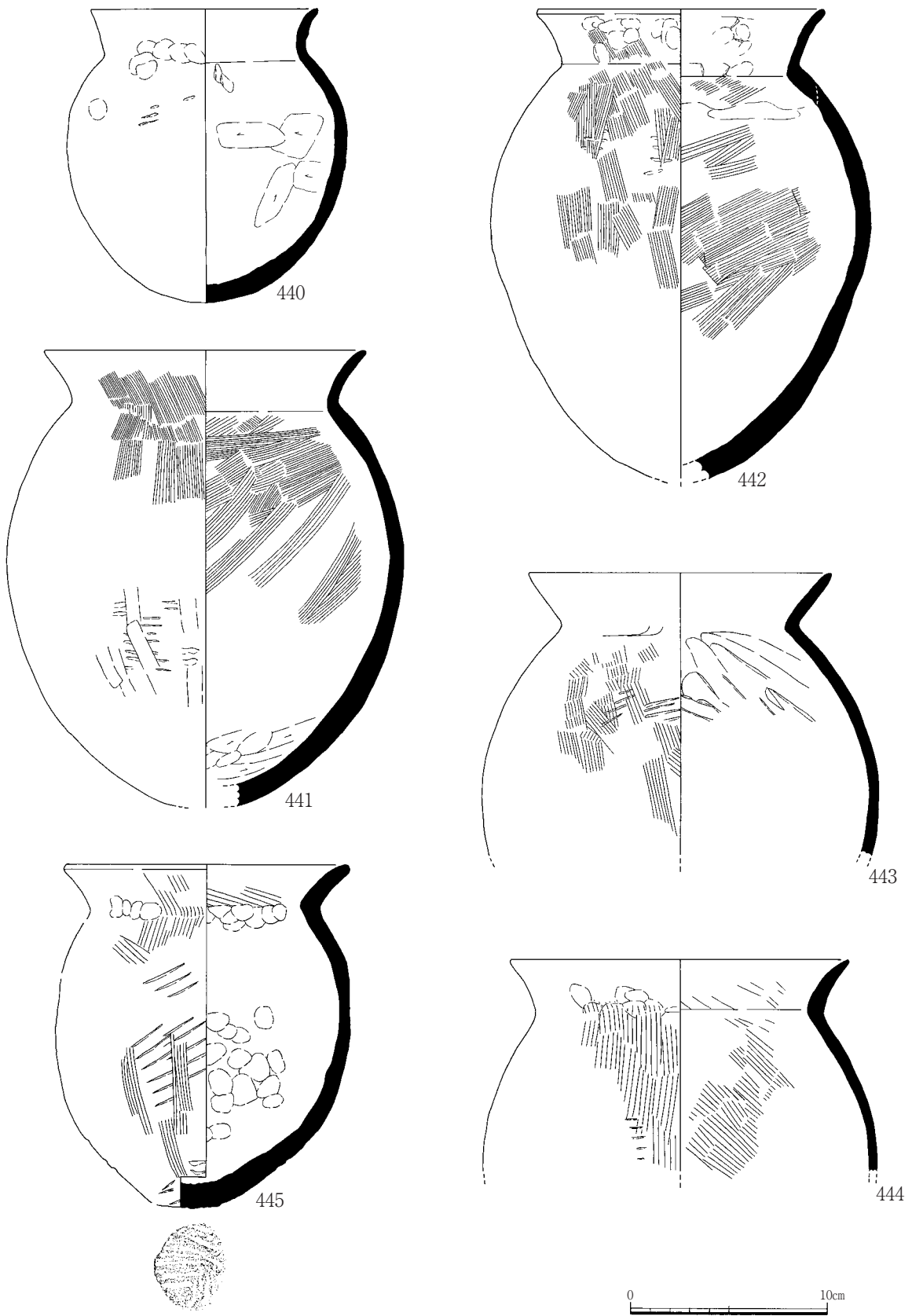


Fig.78 3 A区出土土器51 (S : 1/3)

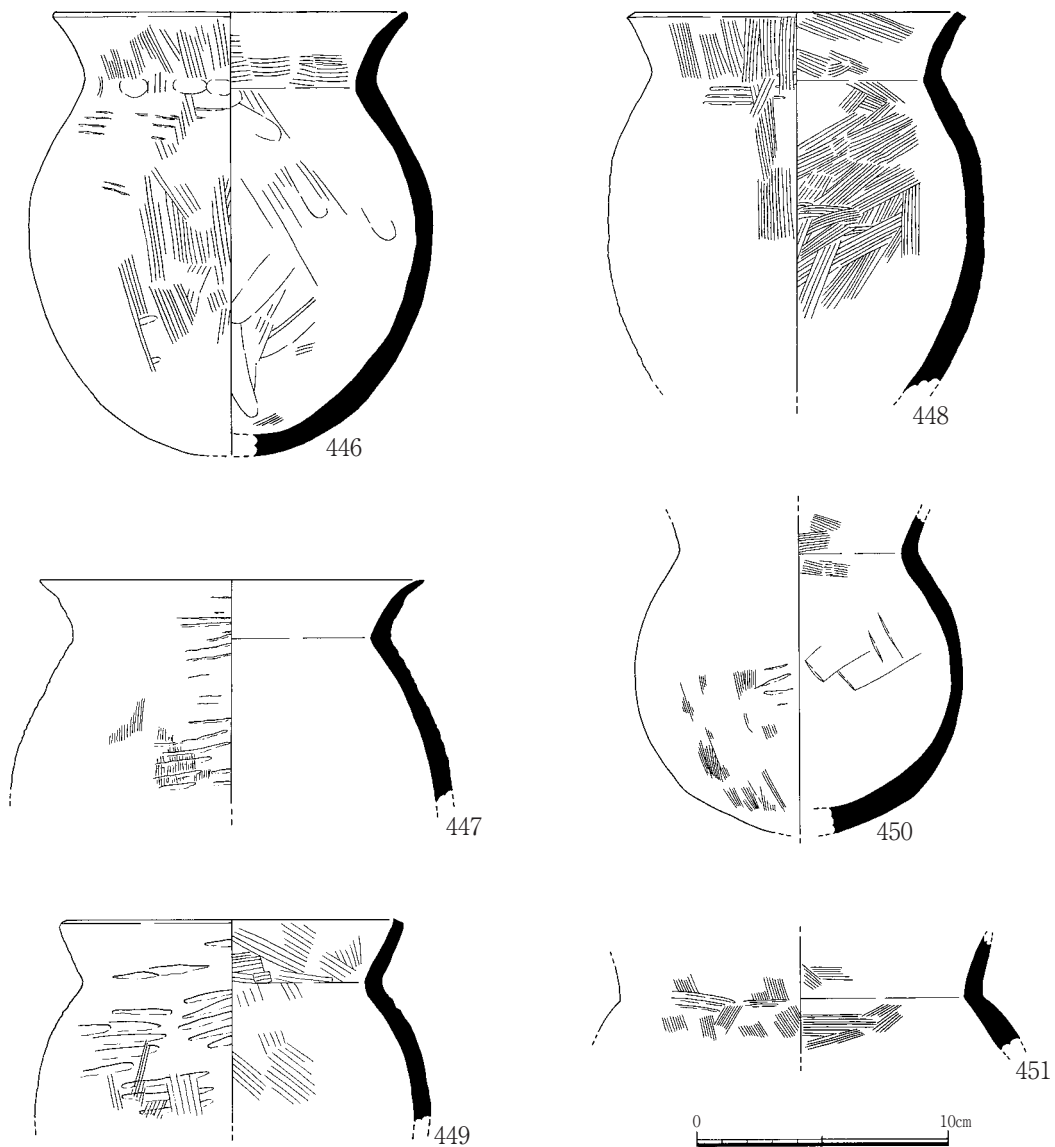


Fig.79 3 A区出土土器52 (S : 1/3)

316は須恵器・坏である。底面に「十」字状のヘラ記号を描く。

### Ⅲ B 2層出土土器 (Fig.56)

317～321は土師器である。317は壺・口縁～胴部片である。内外面に押圧調整痕が顕著に観察される。318・319は甕である。318は丸底で、胴部外面はタタキ+ハケ調整である。口縁部内外面には押圧調整痕が顕著にみられる。319は胴～底部片で、平底である。外面はタタキ+ハケ調整で、底面にはタタキ調整痕がみられる。320は器台・胴部片である。内外面はハケ調整である。321は坏・底部片である。丸底で、底面には爪形のヘラ描きを円形に配する。高杯・杯部の可能性がある。

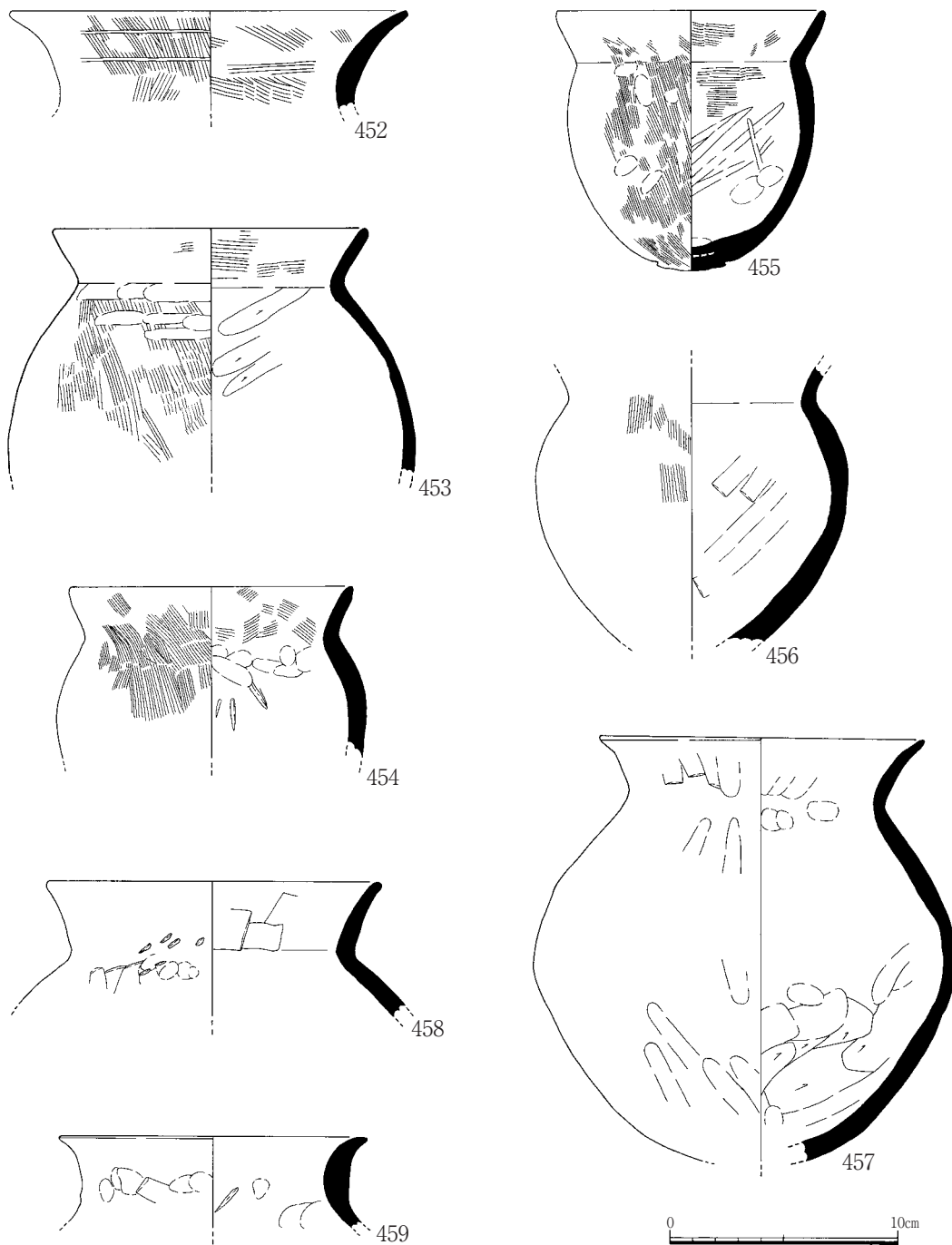


Fig.80 3 A区出土土器53 (S : 1/3)

Ⅲ B 1層出土土器 (Fig.57)

322・323は縄文土器・深鉢・口縁～頸部片である。322は外面に刻目突帯・環状貼付文を施す。323は外面に刻目突帯1条を貼付し、縦位沈線6条・沈線4条を施す。

324～326は弥生土器である。324・325は壺である。324は口縁～頸部片で、口縁端面に斜位の短沈

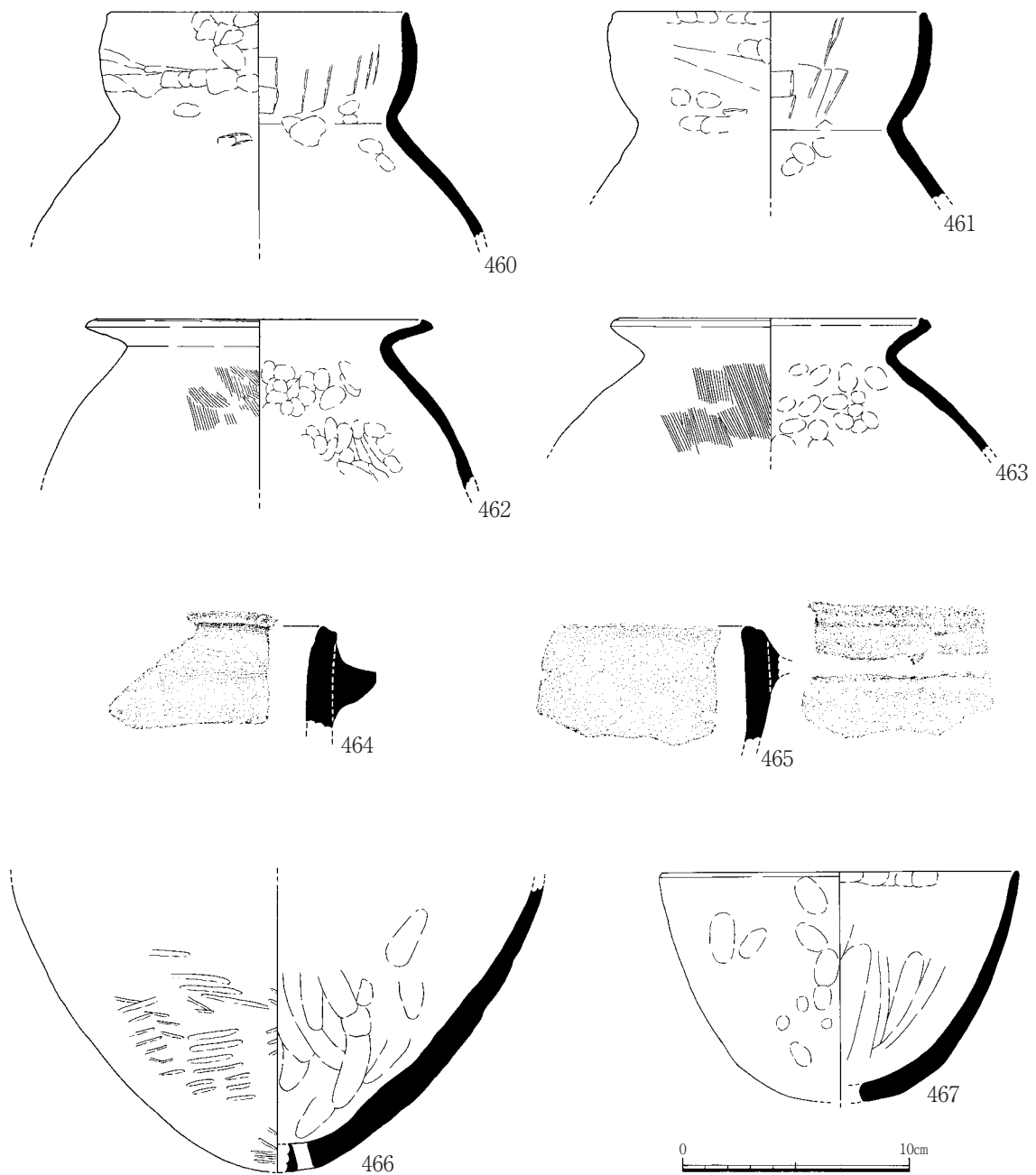


Fig.81 3 A区出土土器54 (S : 1/3)

線文1段を施す。口縁部の粘土帯接合部外面に1段をなす。325は胴部片で、外面に楕円形貼付文1段・斜位短沈線文4段・沈線を施す。326は甕・底部片である。平底で、底面に粒状圧痕がみられる。324～326は弥生中期土器か。

**Ⅲ B層出土土器 (Fig.58～65)**

327は縄文土器・深鉢・口縁～頸部片である。口縁端面に刺突を施し、外面には沈線2条・縄文(LR)・



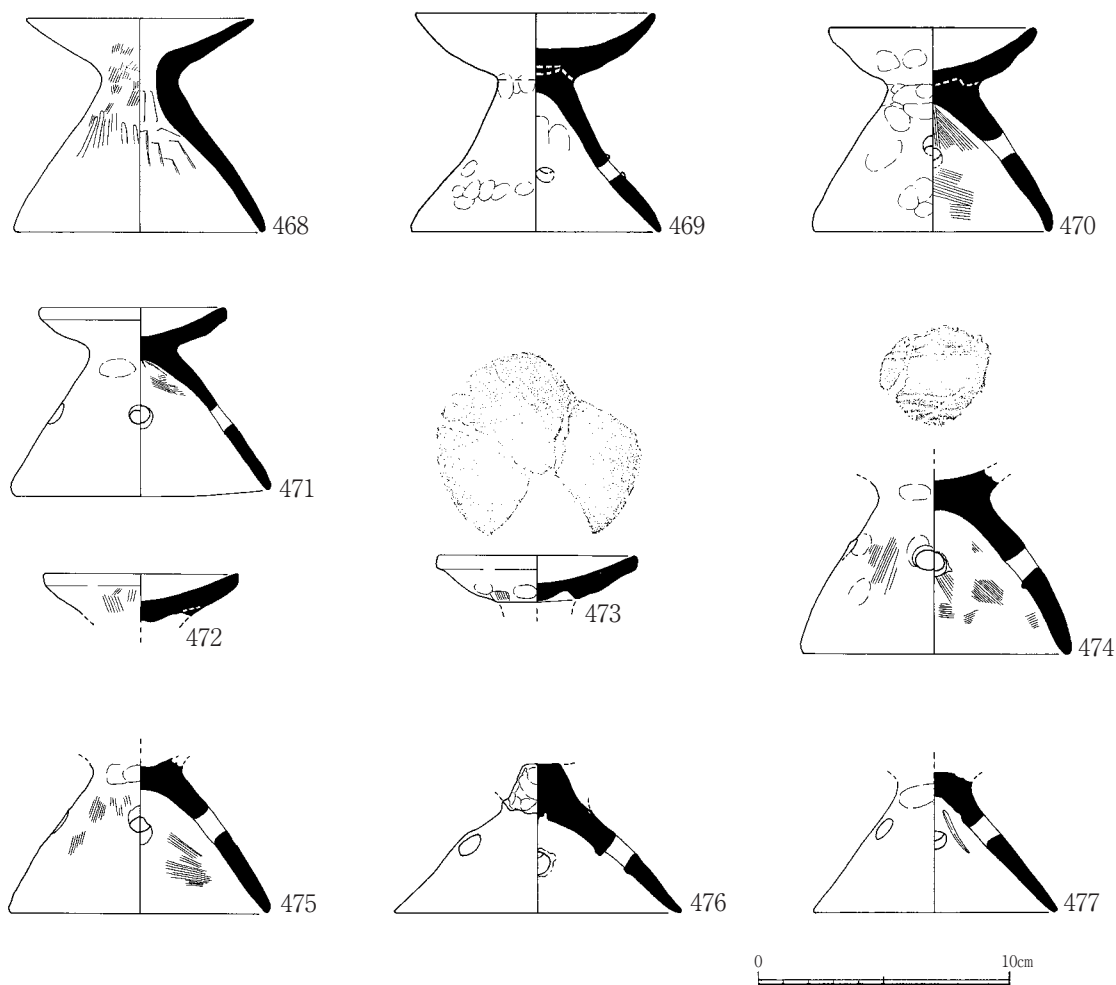


Fig.82 3 A区出土土器55 (S : 1/3)

楕円形刺突文1段を施文する。328～330は縄文土器・浅鉢である。328・329は口縁部片である。328は外面に沈線2条・斜位沈線3条・磨消縄文(LR)を施す。327・328は縄文後期土器である。329は波状口縁で、口縁端部に鱗状突起を有する。外面に沈線1条を描く。縄文晩期土器である。330は胴部片で、外面に突起2を貼付する。縄文晩期・黒色磨研土器である。

331は縄文土器・深鉢・口縁～頸部片である。外面に刻目突帯1条を貼付し、円形刺突文を施す。縄文晩期末～弥生前期の所産か。332は縄文土器・深鉢か。胴部片で、外面に段1をなし、竹管状刺突文・複線文を施す。

333～340は弥生土器である。333～336は壺である。333は頸～胴部片で、外面に重弧文・縦位の綾杉状短沈線文等を施す。334・335は口縁～頸部片である。334は外面に楕円形貼付文・斜位短沈線文を施す。335は口縁部外面に貼付・肥厚により1段を形成する。弥生中期土器である。336は頸部片で、外面に突帯1条を貼付し、横位の櫛描文を施す。弥生中期土器か。337・338は甕・口縁～胴部片である。

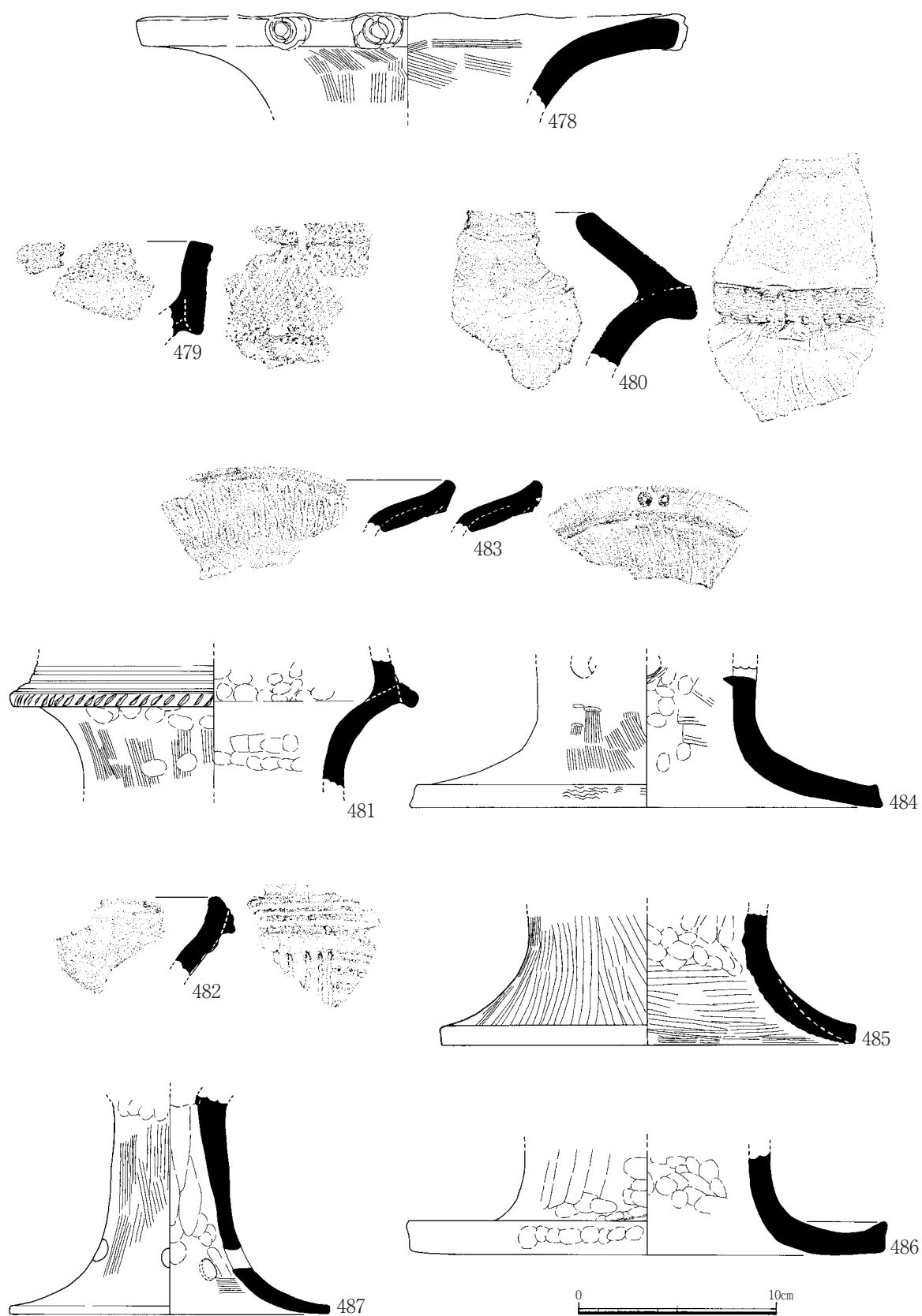


Fig.83 3 A区出土土器56 (S : 1/3)

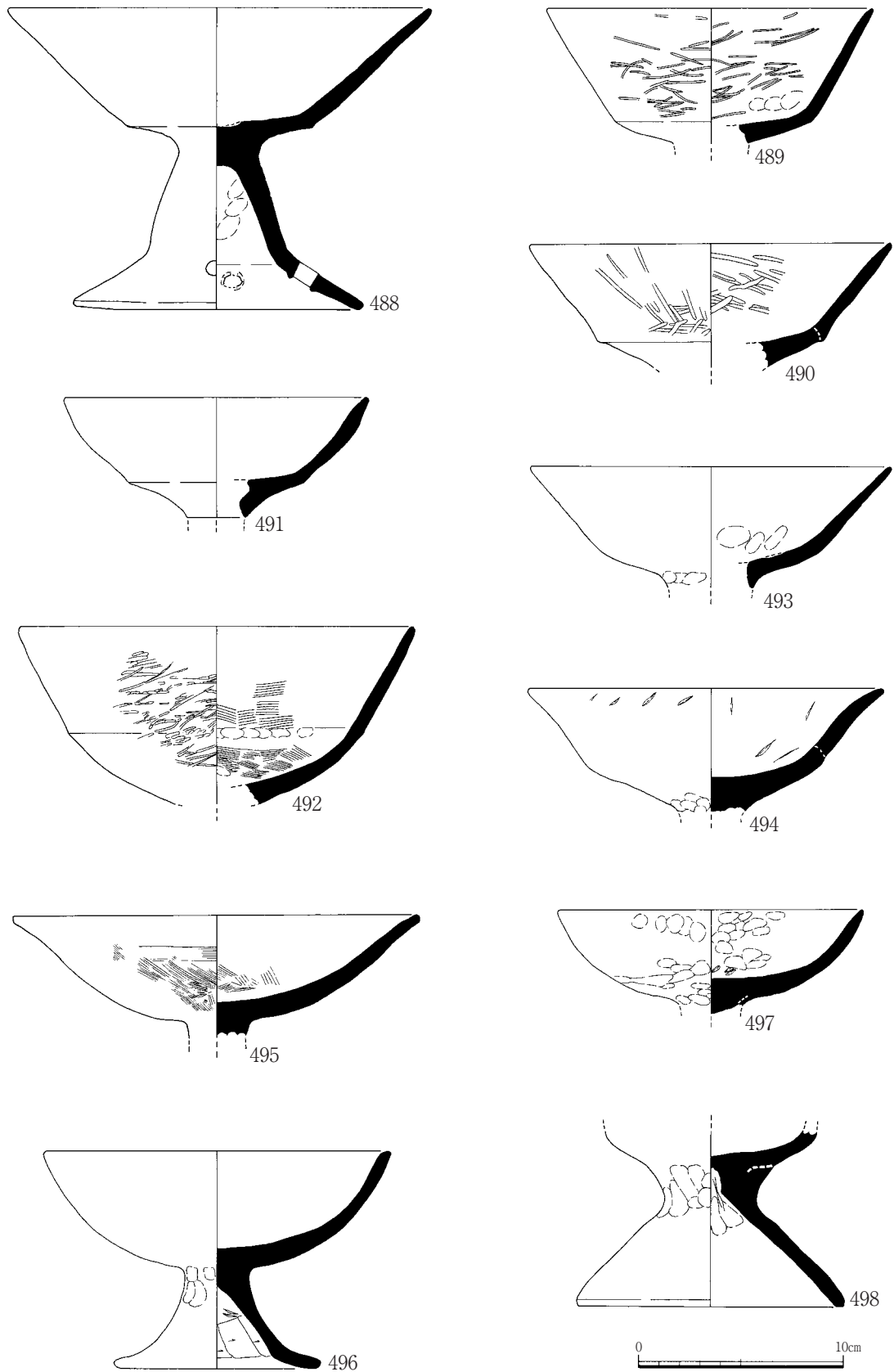


Fig.84 3 A区出土土器57 (S : 1/3)

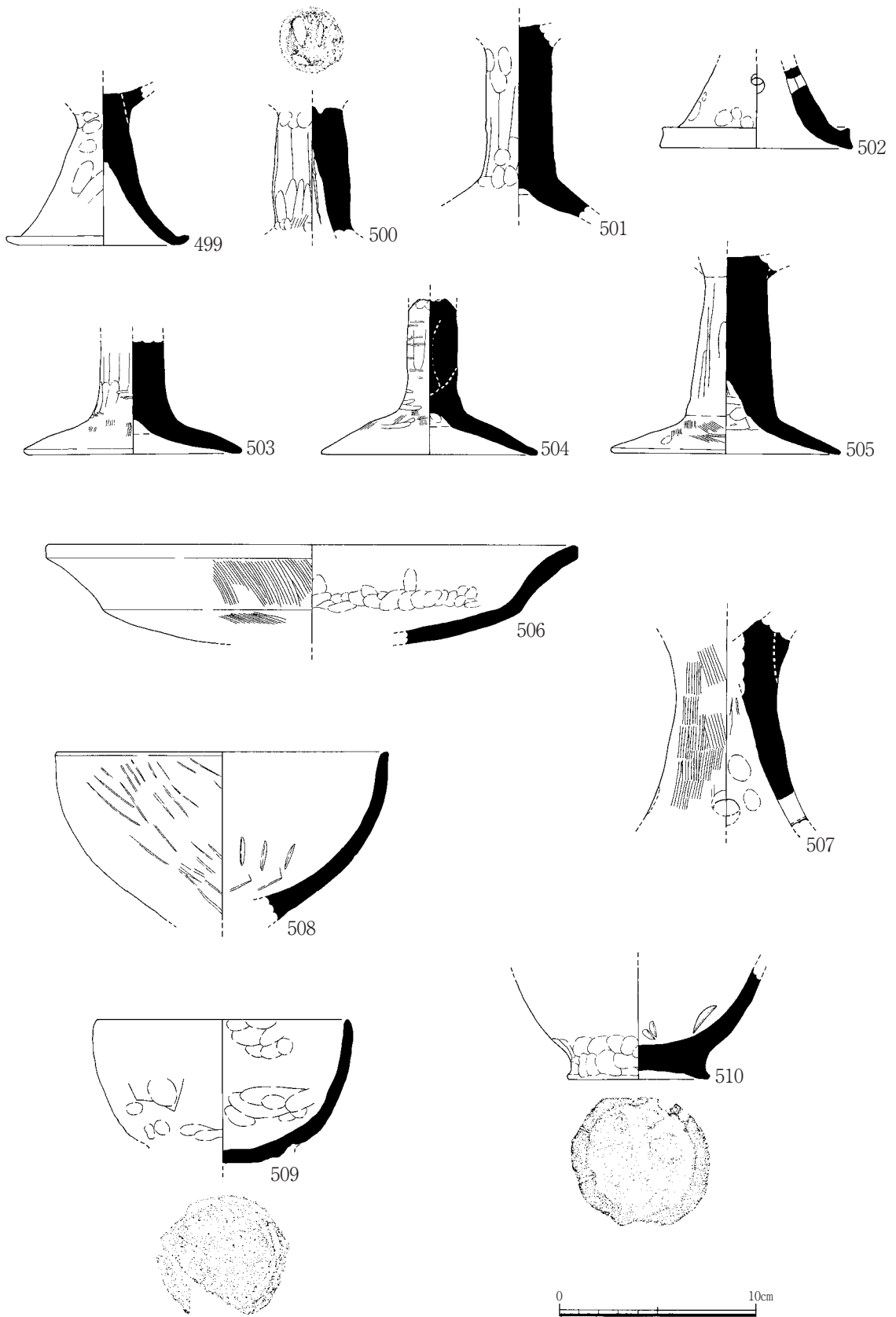


Fig.85 3 A区出土土器58 (S : 1/3)

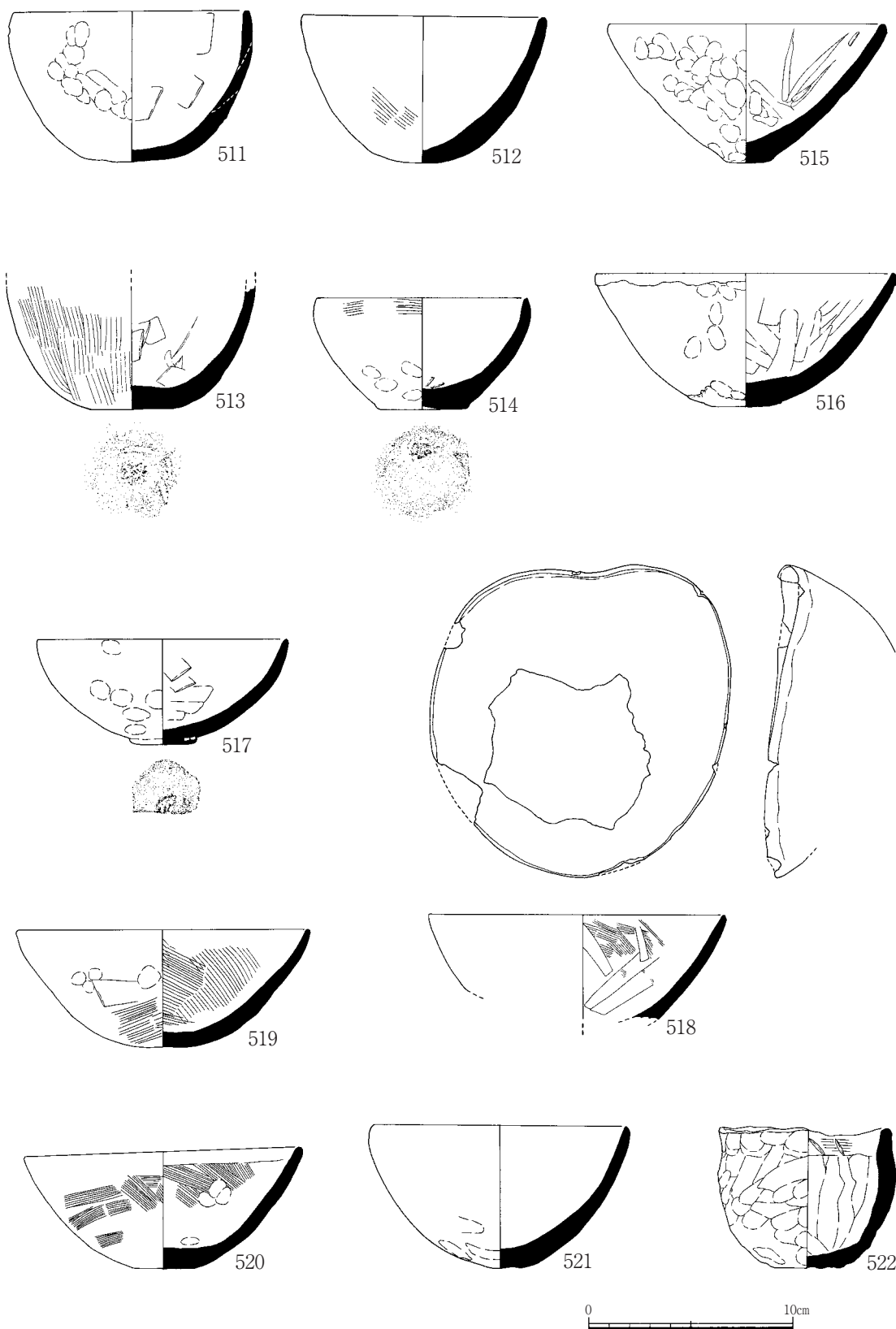


Fig.86 3 A区出土土器59 (S : 1/3)

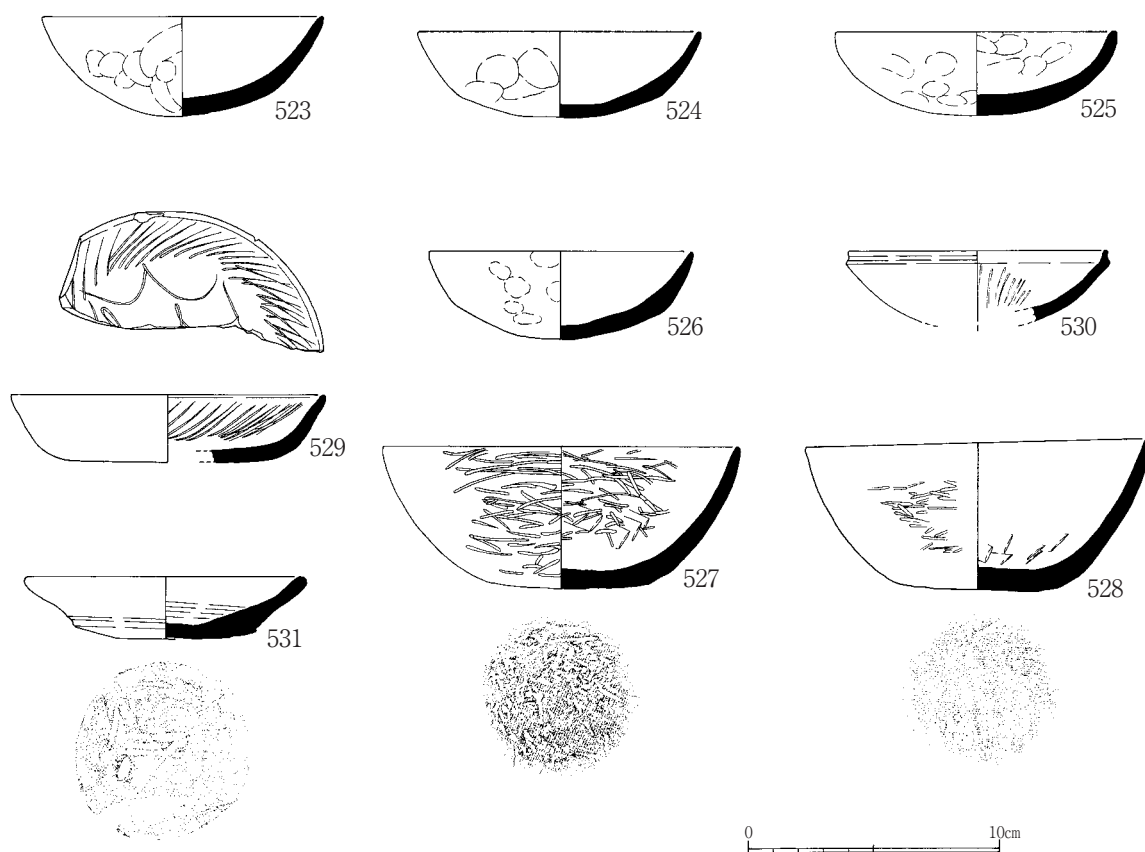


Fig.87 3 A区出土土器60 (S : 1/3)

337は口縁部外面に刻目を施し，上胴部外面に斜位短沈線文を施文する。弥生中期土器である。338は外面に櫛描文2段・楕円形貼付文・斜位短沈線文2段等を施す。弥生中期土器か。339は高杯で，杯底部には擬口縁が露出する。340は高杯・脚部片である。弥生中期土器か。

341～362は土師器である。341～348は壺である。341は口縁部片である。342は口縁～頸部片で，口縁部外面に貼付・肥厚により1段を形成する。343は口縁部片である。344はほぼ完形に復元できた。口縁部は二重口縁で，底部は丸底である。外面はミガキもしくは丁寧なナデ調整で，暗文状を呈する。口縁部内面には放射状の暗文を施す。東阿波型土器の搬入品と考えられる。345は二重口縁を呈する口縁部片である。搬入品と考えられる。346は頸～胴部片で，頸部外面に環状貼付文1段を施す。347・348は頸部片である。347は外面に突帯1条を貼付し，沈線・斜位沈線文を施す。348は外面に斜格子状ヘラ描き文を施す。

349は小型丸底土器である。

350～353は甕である。350は胴部外面にタタキ+ハケ調整を施す。351は胴部外面にタタキ+ナデ調整を施す。352は口縁～胴部片である。353は胴部外面にタタキ+ナデ調整を施す。底部は丸底で，底

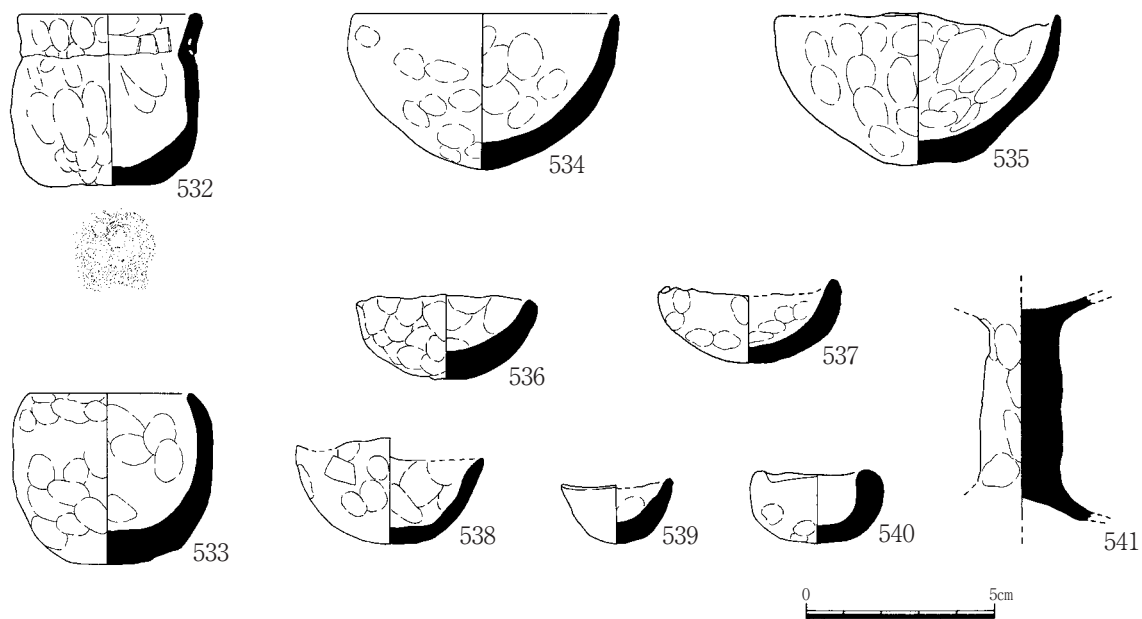


Fig.88 3 A区出土土器61 (S : 1/2)

面にタタキ調整痕が認められる。粘土帯接合部の擬口縁が露出する。

354～356は器台である。354は大形の装飾器台で、基底部を欠く。口縁端面には櫛描波状文を描き、2個単位の円形貼付文を配する。胴部には1段：7個単位の円形透かし孔を6段以上穿つ。355は口縁部片で、外面に沈線6条を描く。口縁直下外面には突帯1条を貼付し、刻目を加える。356は胴～基底部に1段：6個単位の円形透かし孔を2段穿つ。

357～359は高杯である。357は口縁部片である。358・359は脚部片である。

360は鉢である。底面には線状圧痕が認められる。

361は手捏ね土器である。ほぼ完形で、杯形を呈する。

362は甕・口縁～胴部片である。

### Ⅲ A 1層出土土器 (Fig.66・67)

363は土師器・高杯・脚部片である。364は須恵器・甕である。口縁部外面には沈線1条を描き、底部は凹み底である。外面には自然釉が発色する。365は須恵器・甕である。胴部に円孔1を穿つ。

### Ⅲ A層出土土器 (Fig.68～89)

366は縄文土器・浅鉢か。口縁部片で、外面に沈線2条を描く。367・368は縄文土器・注口土器である。367は注口部片で、注口部上側に貼付による隆起部1を形成する。366・367は縄文後期土器か。368は口縁部片で、口縁端面に沈線1条を描く。外面に沈線1条、内面に沈線1条・縄文(RL)を施す。縄文後期土器である。369～373は縄文土器・浅鉢である。369は口縁～頸部片で、縄文晚期土器か。370は波状口縁の口縁部片で、端部に鱗状突起を有する。内面に半截竹管状刺突文を施す。371は口縁～頸部片で、縄文晚期・黒色磨研土器である。372は口縁～胴部片である。373は胴部片で、外面に

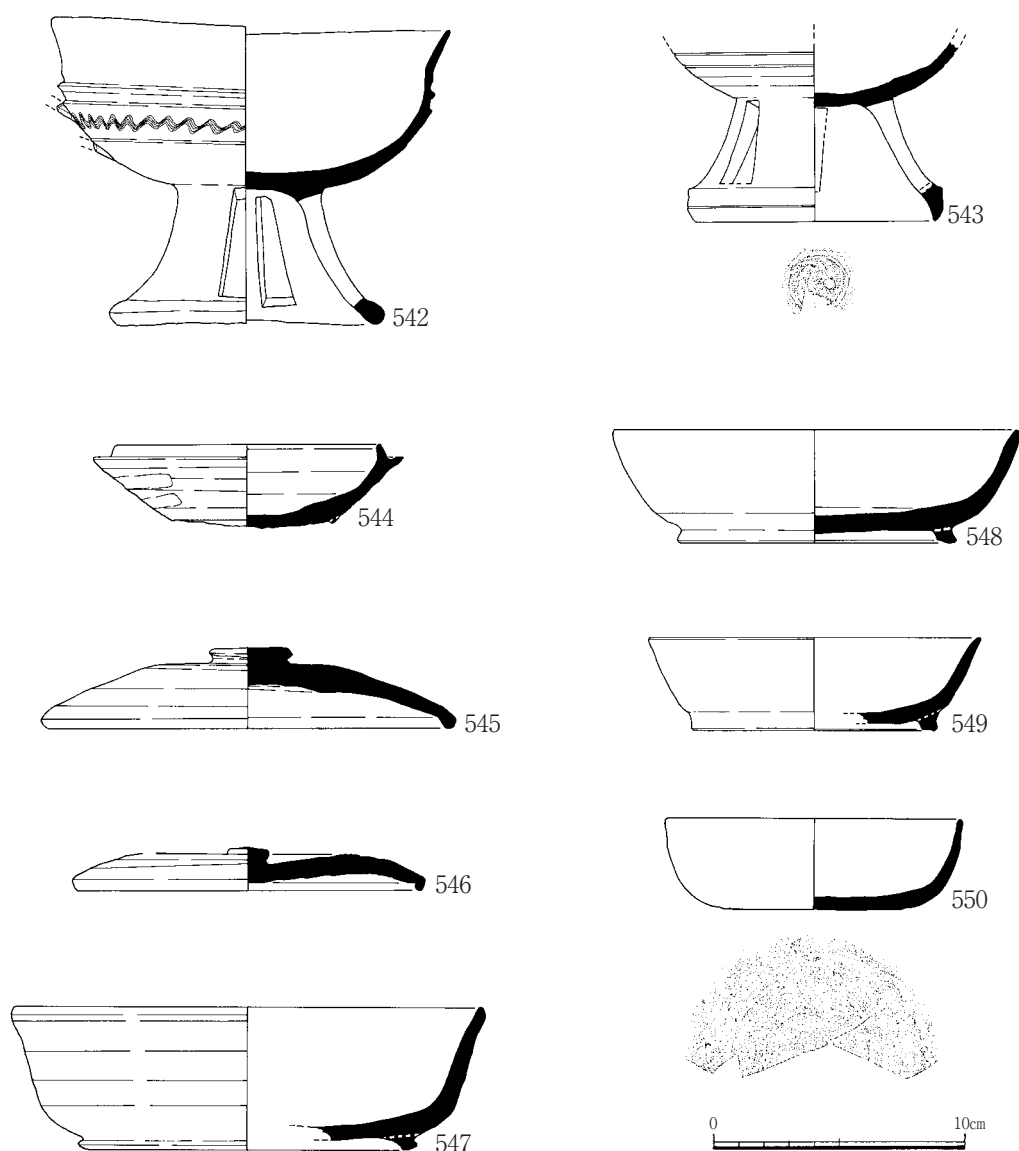


Fig.89 3 A区出土土器62 (S : 1/3)

貼付による1段を形成し、突帯1条を貼付する。372・373は縄文晩期土器である。

374・375は縄文土器・深鉢・口縁～頸部片である。374は波状口縁で、波頂部端面に刻目3を施す。外面に刻目突帯1条を貼付して縁取り沈線を描き、内面には沈線1条を施す。縄文晩期土器である。375は口縁端部外端側に刻目を施し、円孔2を穿つ。外面に刻目突帯1条を貼付する。縄文晩期末～弥生前期の所産と考えられる。376は縄文土器・浅鉢・口縁～胴部片である。波状口縁の方形浅鉢で、内面に沈線1条を描く。縄文晩期土器である。

377～381は弥生土器・壺である。377は口縁～頸部片である。外面・口～頸部境に沈線1条を描く。378・379は胴部片である。378は外面に沈線1条・縦位沈線1条・木葉文ないし重弧文を施す。379は外面に斜位の沈線を描く。380は平底の底部片で、底面に粒状・繊維状の圧痕が認められる。378～



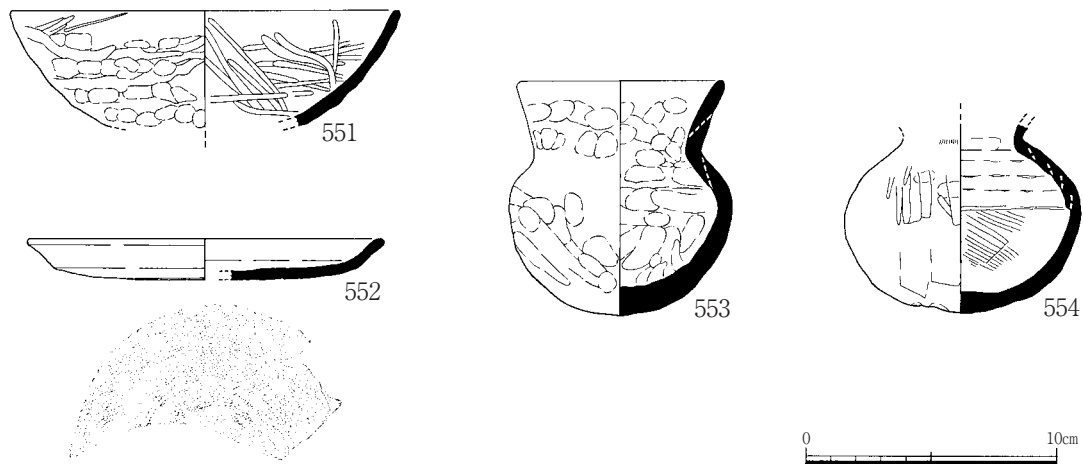


Fig.90 3 A区出土土器63 (S : 1/3)

380は弥生前期土器である。381は口縁～頸部片で、上端部が擬口縁の可能性があり、上下逆となる可能性がある。外面に多条の沈線・重弧文(?)を施し、突帯1条を貼付する。382・383は弥生土器・甕である。382は口縁～胴部片で、口縁端部外端に刻目を施す。粘土帯接合部外面に段を形成し、刻目を加える。383は胴部片で、外面に刻目突帯3条を貼付する。382・383は弥生前期土器である。

384～387は弥生土器・壺である。384～386は口縁～頸部片である。384は口縁部外面に斜位櫛描文・楕円形貼付文を施し、頸部外面に横位・斜位の櫛描文を描く。385は口縁部外面に端部に接して刻目突帯1条を貼付し、外面・頸～胴部境に楕円形貼付文を施す。386は口縁部外面に端部に接して刻目突帯1条を貼付し、突帯下位に櫛描文を描く。387は胴部片で、外面に櫛描文・斜位櫛描文・楕円形貼付文を施す。384～387は弥生中期土器である。388～390は弥生土器・甕である。388は口縁～頸部片で、外面に刻目突帯1条を有する。388は弥生中期土器か。389は口縁～胴部片で、口縁部外面に凹線2条を描く。390は口縁～頸部片で、口縁部外面に凹線2条を描く。389・390は弥生中期土器である。391・392は弥生土器・高杯・口縁部片である。391は粘土帯接合部に1段を形成する。391は弥生中期土器か。

393は弥生土器・壺・底部片である。平底で、外面調整はタタキ+ハケである。弥生後期土器である。394・395は弥生土器・甕である。394は口縁～胴部片で、胴部外面はタタキ調整である。395は底部片で、外面はハケ調整である。396は弥生土器・甕か。平底の底部片である。395・396は弥生後期土器である。

397～420・422～426は土師器・壺である。397は口縁～頸部片である。398は口縁部片である。399は口縁～頸部片である。400は口縁～胴部片である。401は口縁部片で、口縁端面は沈線状を呈する。

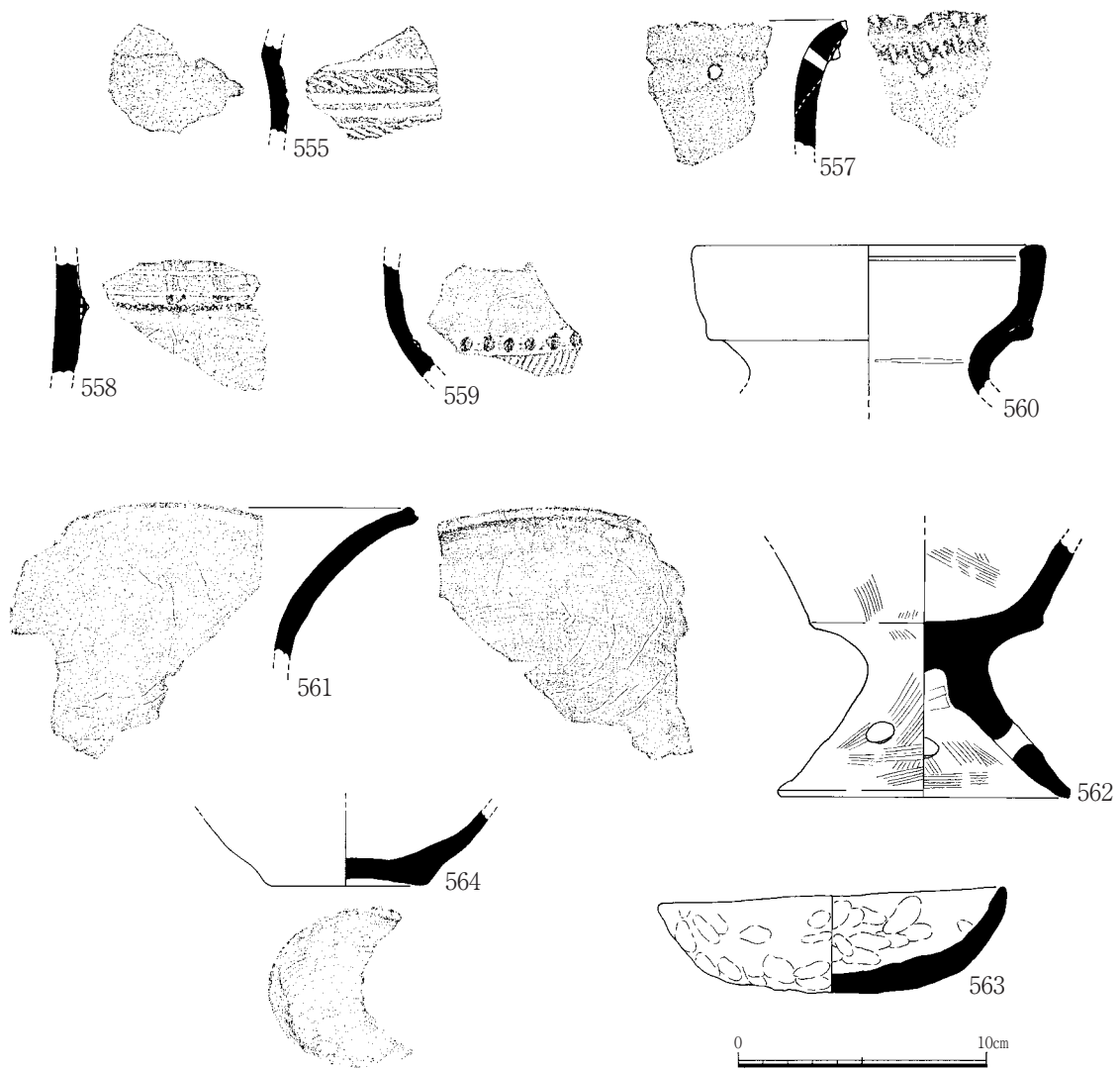


Fig.91 3 A区出土土器64 (S : 1/3)

外面・粘土帯接合部に1段を形成する。402は胴部外面にタタキ調整を施す。403は口縁～頸部片である。404・405は口縁～胴部片である。404は胴部内面にケズリ調整がみられる。405は胴部外面にタタキ・ハケ調整を施す。406は口縁部片で、屈曲部外面に突帯1条を貼付し、段状を呈する。口縁端面には凹線1条を施す。407はほぼ完形に復元できた。平底で、外面調整はタタキ+ハケである。408・409は口縁～胴部片である。408は内面に押圧調整痕が顕著にみられる。409は口縁部外面に粒状圧痕が多数認められる。410は口縁～頸部片で、口～頸部の粘土帯接合痕を内外面に明瞭に残す。411は丸底である。413は口縁～胴部片である。414・415は丸底である。416は口縁部片で、外面はタタキ+ハケ調整である。417は口縁～胴部片である。二重口縁を呈し、胎土中には結晶片岩を含む。418は口縁～頸部片で、外面に沈線～凹線2条を描く。417・418は搬入品と考えられる。419・420は頸～胴部片である。419は外面に隆帯1条を貼付し、斜格子状ヘラ描き文を加える。420は外面に環状貼付文を施

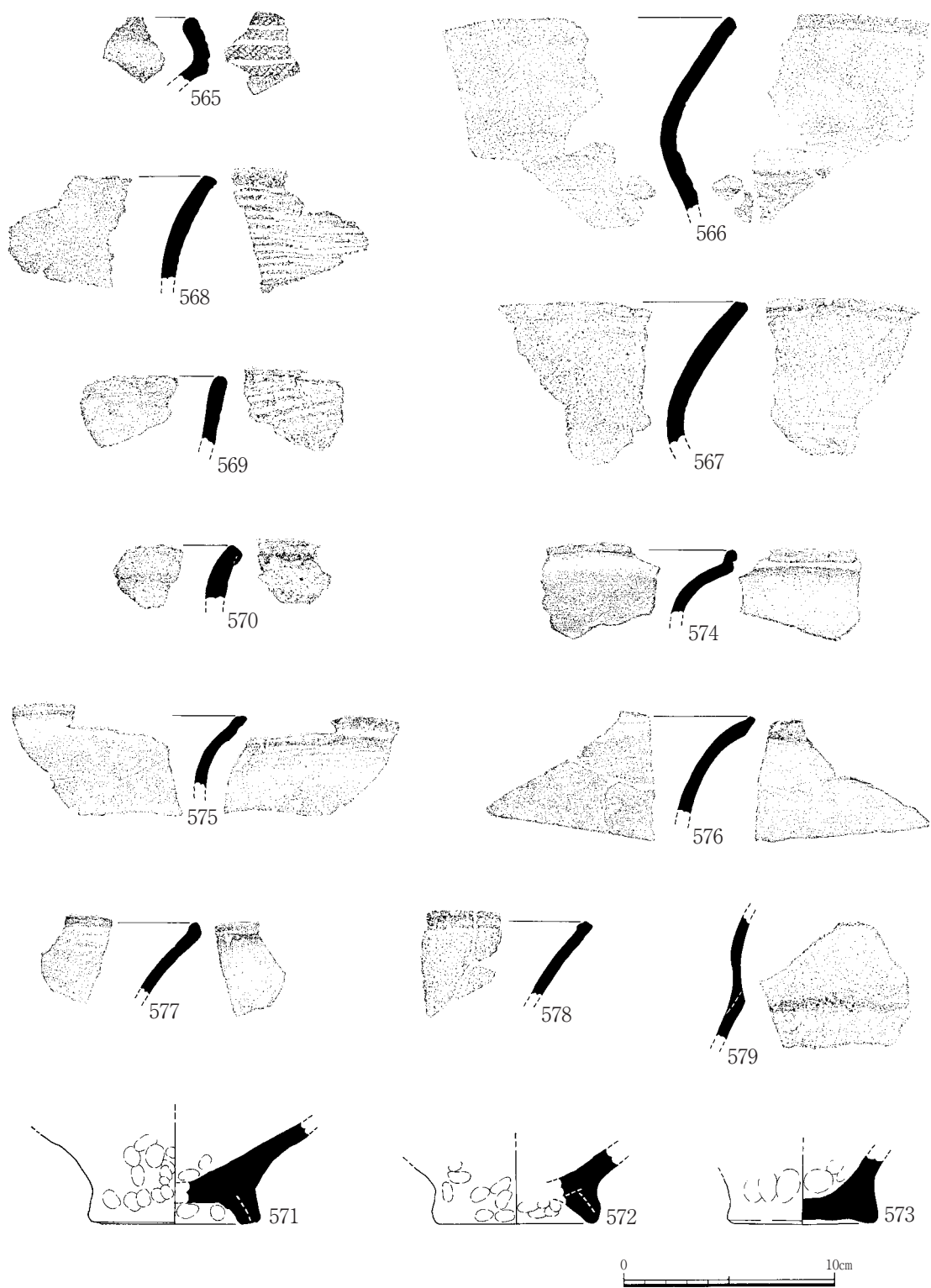


Fig.92 3 A区出土土器65 (S : 1/3)

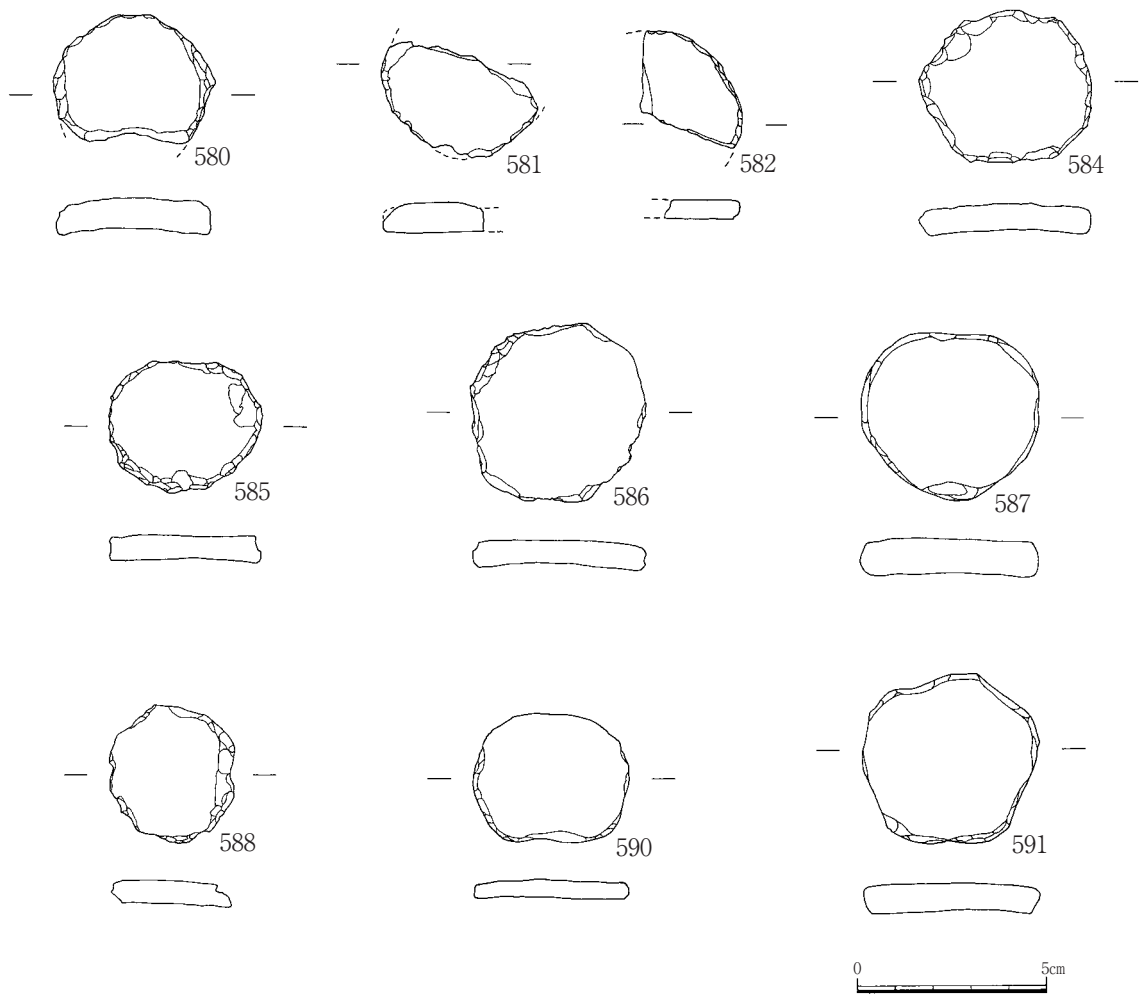


Fig.93 3 A区出土土製品 1 (S : 1/2)

す。421は土師器・壺か。胴部片で、外面に櫛描波状文を描く。422は胴～底部片で、丸底である。外面はタタキ+ナデ調整である。423は丸底である。424は丸底で、ほぼ完形品である。425は丸底である。426は頸～底部片である。平底で、底面に繊維状圧痕が認められる。

427～432は土師器・小型丸底土器である。427・428は丸底で、ほぼ完形品である。429は平底で、ほぼ完形品である。底面に粒状圧痕が認められる。430は平底である。431は丸底で、内外面に押圧調整痕が顕著に認められる。432は平底で、ほぼ完形品である。外面に焼成時剥離痕3か所が認められる。

433～465は土師器・甕である。434は丸底か。436・437は口縁～胴部片である。438は丸底で、底部外面に繊維状圧痕が認められる。439は口縁～胴部片である。440は丸底である。443・444は口縁～胴部片である。445は平底で、底面にタタキ+ナデ調整を施す。446は丸底である。447は口縁～胴部片である。449は口縁～胴部片である。450は壺の可能性がある。451は頸部片である。452は口縁部片で、壺の可能性がある。453・454は口縁～胴部片である。454は外面に焼成時剥離痕が認められる。455は

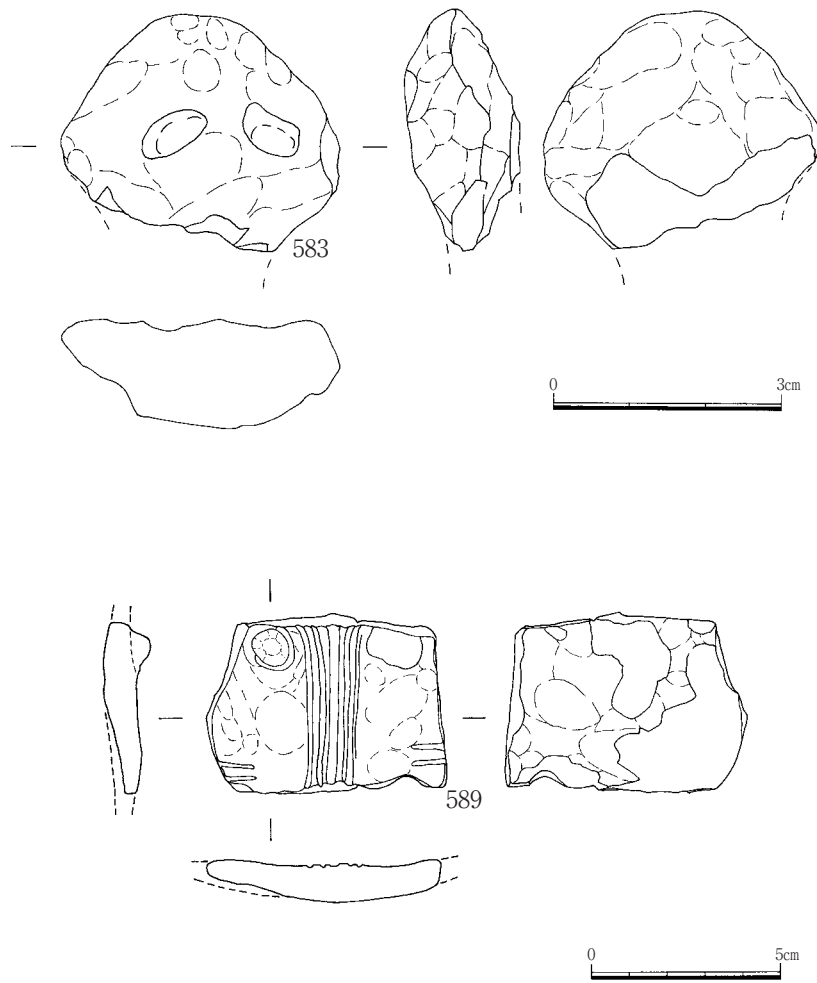


Fig.94 3 A区出土土製品2 (S : 1/1・1/2)

丸底である。456は頸～胴部片である。458は口縁～胴部片である。459は口縁～頸部片である。460～463は口縁～胴部片である。460・461は同一個体の可能性がある。462・463は搬入品か。464は口縁部片で、外面に鏝状の突帯1を貼付する。465は口縁～胴部片で、外面に突帯1を貼付するものとみられる。

466・467は土師器・甑である。466は胴～底部片で、底部に1孔が認められる。467は底部に円孔1を穿つ。

468～487は土師器・器台である。469は脚部に円孔2が認められる。470・471は脚部全周上に円孔4を配する。469・470は杯部・脚部の接合痕が観察される。472・473は杯部片で、下端に分割成形時の接合面=擬口縁が露出する。474・475は脚部全周上に円孔4を配する。476・477は脚部片である。476は全周上に円孔3を配し、上端部側面に分割成形時の接合面=擬口縁が露出する。477は全周上に

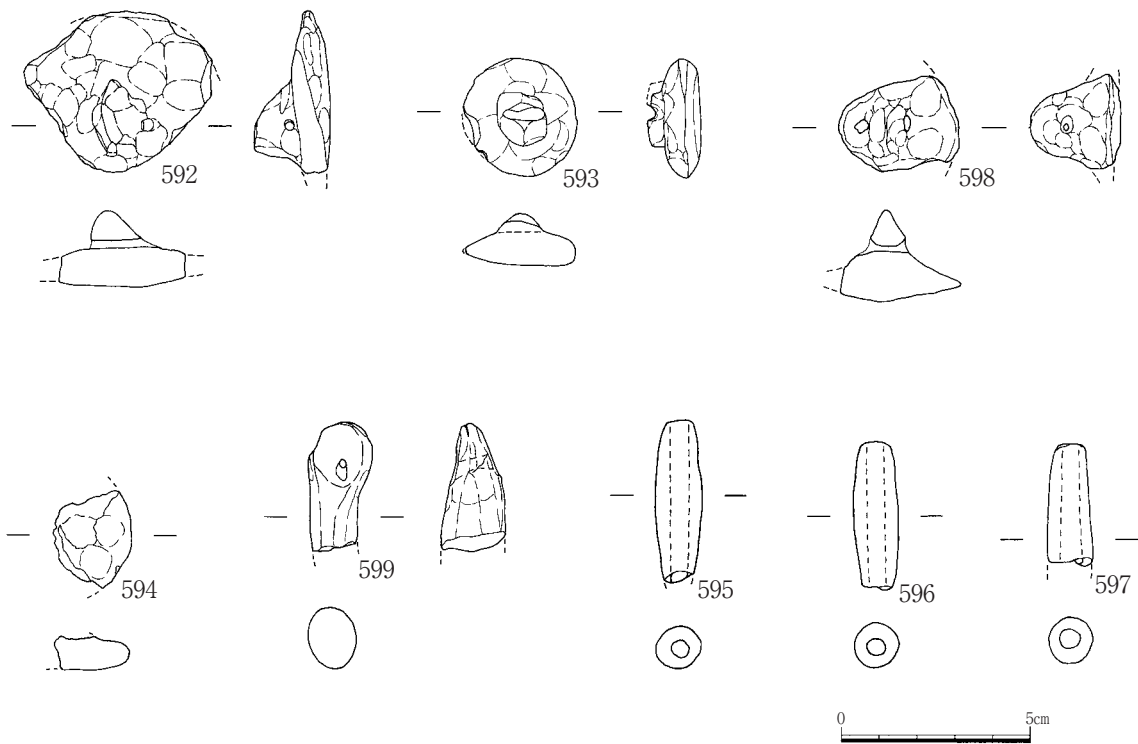


Fig.95 3 A区出土土製品3 (S : 1/2)

円孔3を配する。

478～480は口縁部片である。478は口縁端面に円形貼付文を施す。479は外面に斜格子状ヘラ描き文を施す。480は外面に櫛描波状文2段・櫛描曲線文を施す。481は口縁～頸部片で、外面に突帯1条を貼付し、端面に刻目を加える。482・483は口縁部片である。482は外面に沈線・貼付隆帯・縦位沈線・竹管状刺突文を施す。483は外面に環状貼付文・斜位沈線文を施す。484～486は胴～裾部片である。484は裾端面に櫛描波状文を描く。485は外面に縦位のハケ調整を施す。

487は脚部片で、全周上に円孔5を配する。高杯の可能性はある。

488～507は土師器・高杯である。488は脚部全周上に円孔4を配する。489～495は杯部片である。490は粘土帯接合部に1段をなす。下端部に脚部との接合面=擬口縁が露出する。491・493は下端部に脚部との接合面=擬口縁が露出する。497は杯部片で、下端部に脚部との接合面=擬口縁が露出する。499は杯部・脚部の接合痕が観察される。500～505は脚部片である。500は上端部に杯部との接合面=擬口縁が露出する。上端面に刺突4を施す。502は全周上に円孔4を配する。504・505は上端部に杯部との接合面=擬口縁が露出する。506は杯部片である。507は脚部片で、上端部に杯部との接合面=擬口縁が露出する。

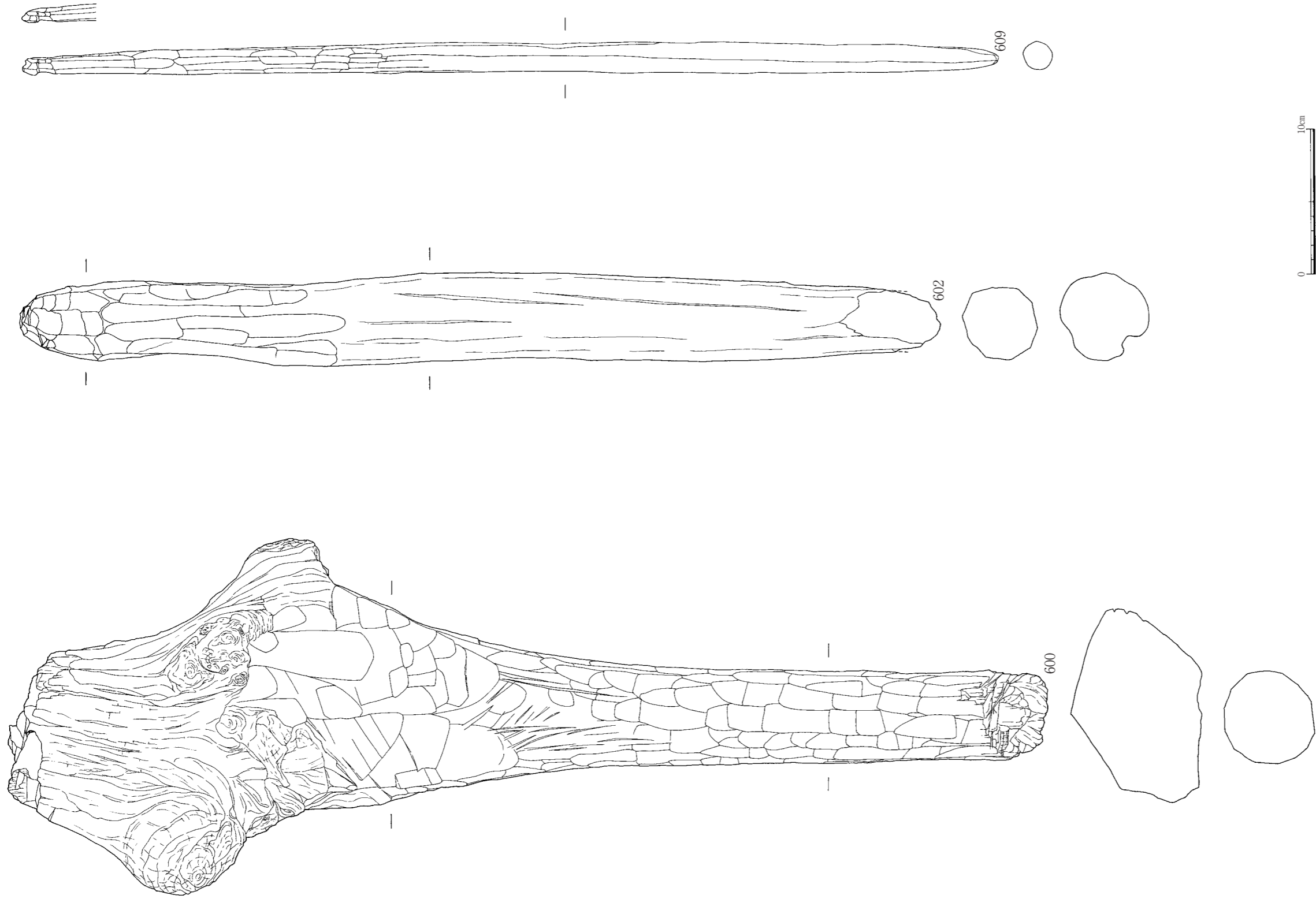


Fig.96 3 A区出土木製品 1 (S : 1/3)





508・509は土師器・高杯～台付鉢である。509は下端部に脚～台部との接合面=擬口縁が露出する。

510～521は土師器・鉢である。510は底部片で、高台状を呈する。底面に繊維状圧痕が認められる。511は平底で、底面に繊維状圧痕が認められる。512は丸底である。513は胴～底部片か。平底で底面に繊維状圧痕が認められる。514～516は平底である。517は平底で、底面に粒状圧痕が認められる。518は平面形がハート形に歪む。519は丸底である。520はほぼ完形で、平底である。521はほぼ完形で、丸底である。

522は土師器・手捏ね土器である。平底の鉢形を呈し、底面には繊維状圧痕が認められる。

523～529は土師器・坏である。523は丸底で、ほぼ完形である。524・525は丸底である。526は丸底で、ほぼ完形である。527・528は平底で、ほぼ完形である。529は内面に暗文を施す。530は土師器・坏か。内面にミガキ調整（暗文？）を施す。531は土師器・坏で、底面に繊維状圧痕が認められる。

532～540は土師器・手捏ね土器である。532はほぼ完形の壺形で、平底である。底面に繊維状圧痕が認められる。533は平底の鉢形を呈する。534はほぼ完形で、丸底の椀～杯形を呈する。535は丸底で、ほぼ完形品である。536～539はほぼ完形で、丸底の椀～杯形を呈する。536は底面に繊維状圧痕が認められる。540はほぼ完形で、丸底の椀形を呈する。541は高杯形の脚部片である。

542～550は須恵器である。542はほぼ完

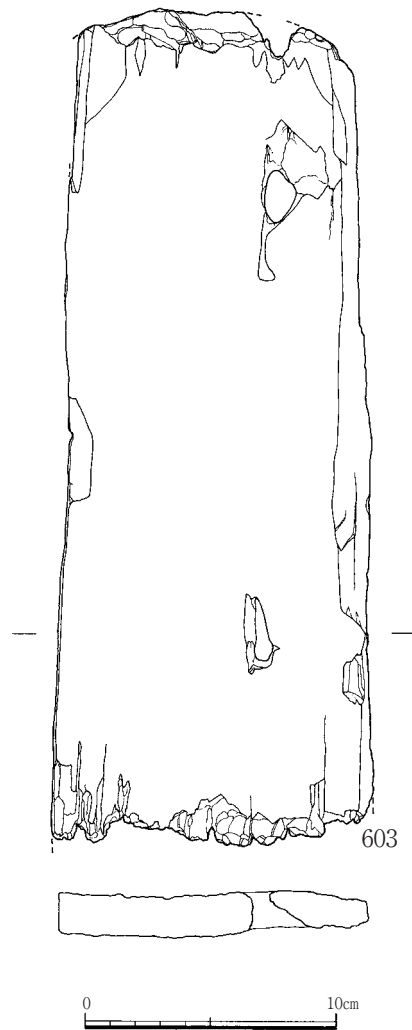
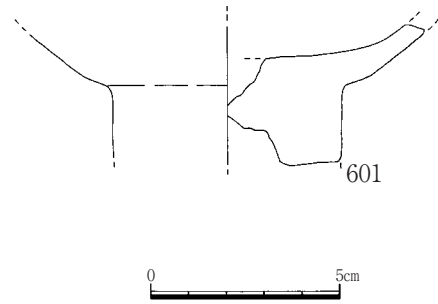


Fig.97 3 A区出土木製品2 (S : 1/2・1/3)

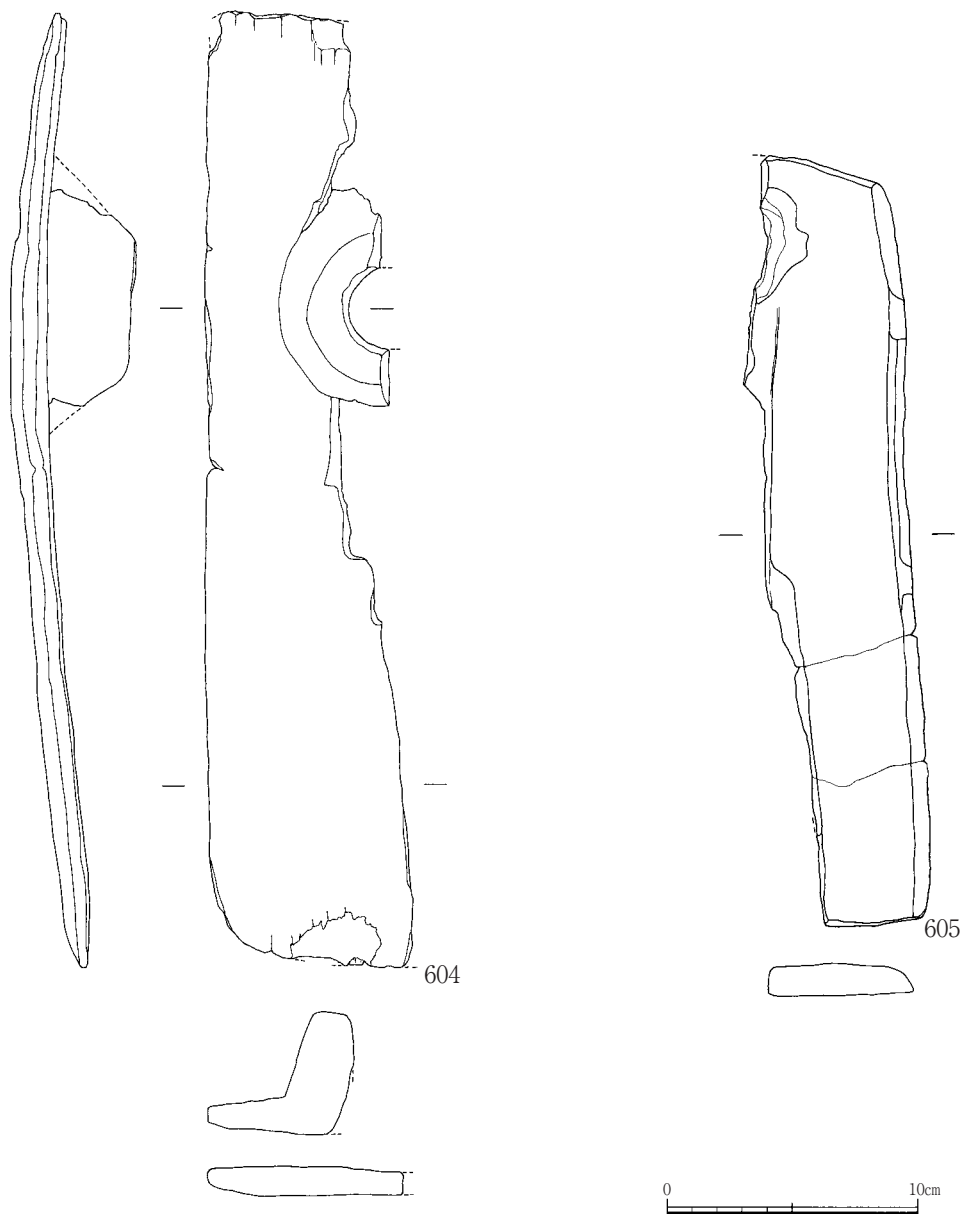


Fig.98 3 A区出土木製品3 (S : 1/3)

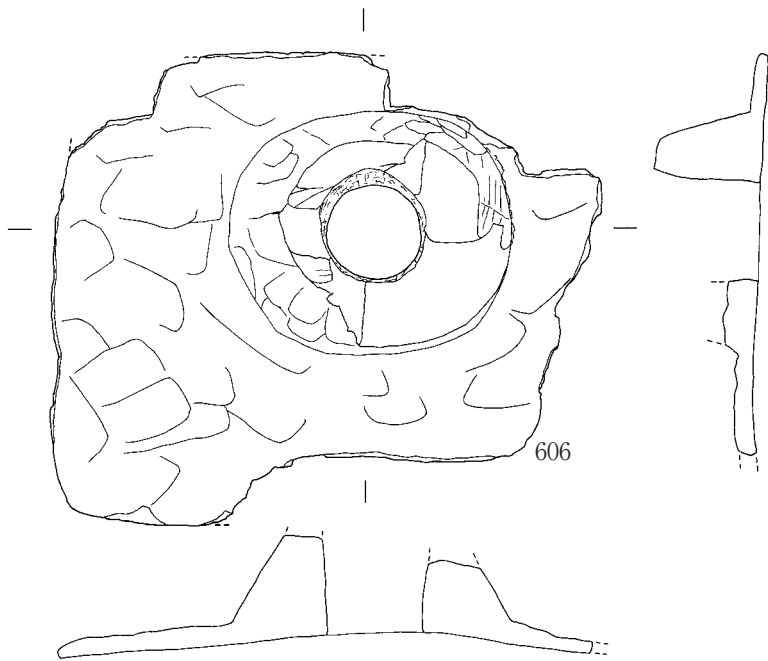
形の無蓋高杯である。外面に櫛描波状文・貼付把手1を施す。543は有蓋高杯・胴～底部片である。544は坏で、外面に自然釉が発色する。545・546は坏蓋である。546はほぼ完形品で、内面は硯に転用された形跡がある。547～550は坏である。547～549は高台底である。549は内面が硯に転用された可能性がある。550は平底である。

**Ⅲ層出土土器 (Fig.90)**

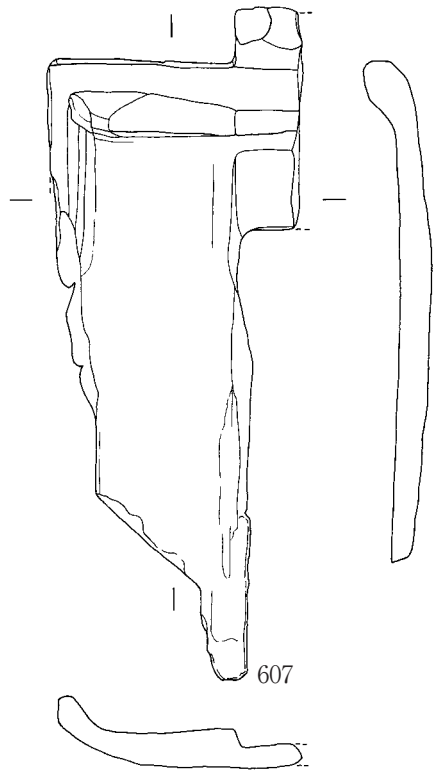
551は黒色土器・椀・口縁～胴部片である。外面上半・内面全面が黒色を呈する。内面に暗文を施す。

**Ⅱ層出土土器 (Fig.90)**

552は土師器・皿である。



606



607



Fig.99 3 A区出土木製品4 (S : 1/3)



Fig.100 3 A区出土木製品5 (S : 1/3)

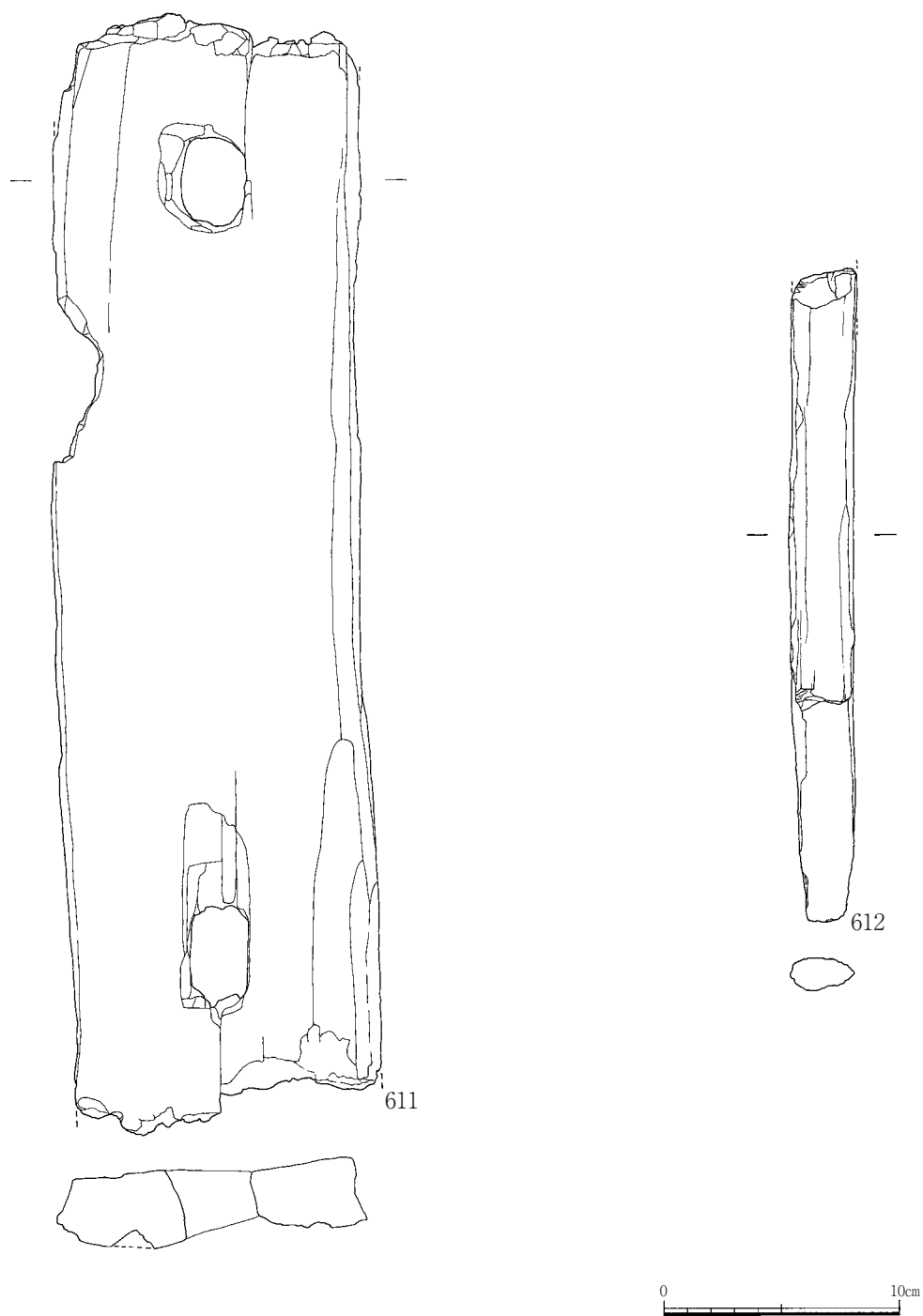


Fig.101 3 A区出土木製品6 (S : 1/3)

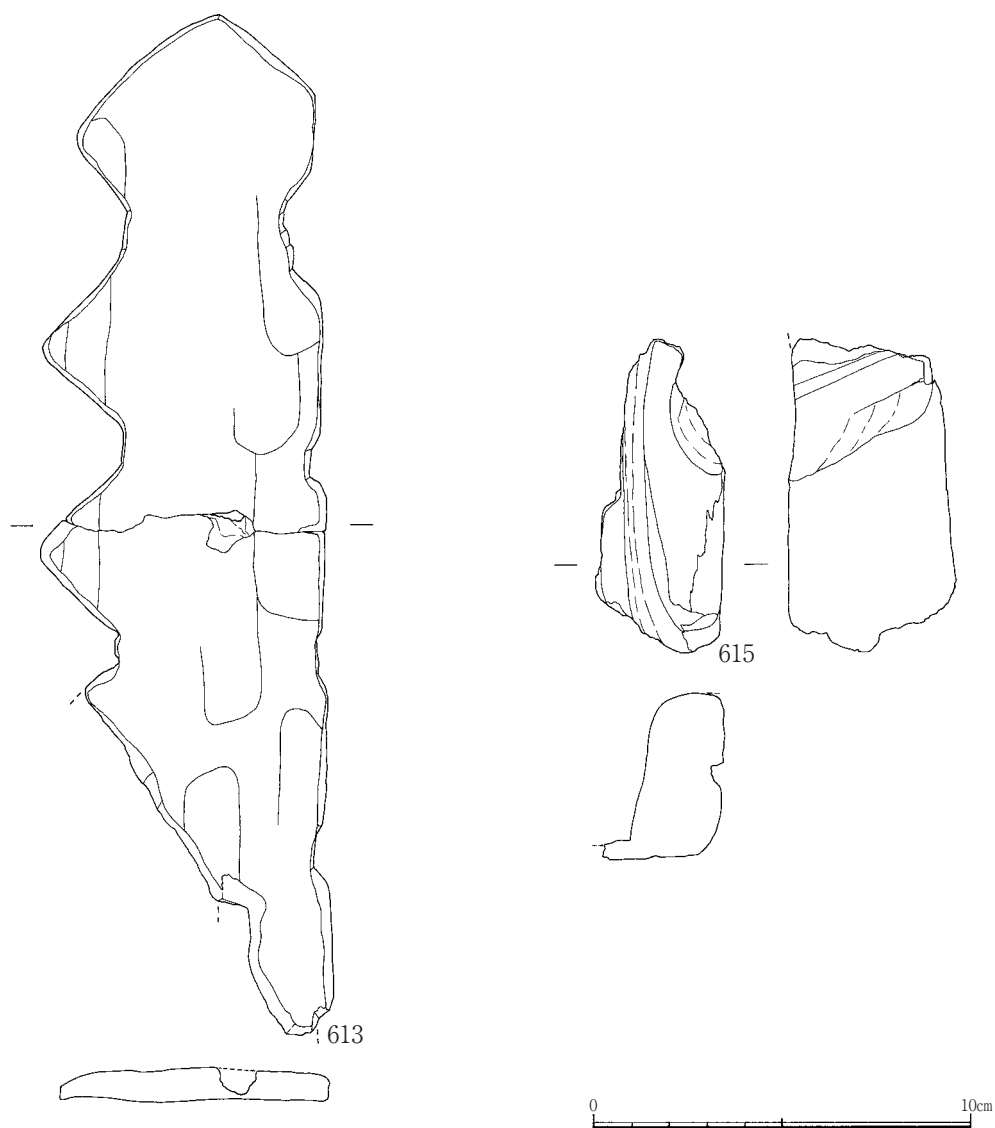


Fig.102 3A区出土木製品7 (S : 1/2)

②表採土器 (Fig.35・90・91)

調査中に表面採集された土器, ならびに出土層位不明の土器を表採土器とした。12点を図示した。

553・554は3A区北側の水路付け替え工事中に出土したもので, 厳密な層位は不明であるが, おそらくⅢB層ないしⅢA層に相当する層に帰属するものと考えられる。553・554は土師器・壺である。553は丸底である。554は頸～底部片で, 丸底である。

555～558は縄文土器である。555は深鉢・頸～胴部片である。外面に沈線5条・斜位刺突文2段・磨消縄文 (RL?) を施す。縄文後期・広瀬上層～伊吹町式土器か。556は壺・口縁部片で, 外面に沈線1条・赤彩を施す。縄文晩期・黒色磨研土器である。557・558は深鉢である。557は口縁～頸部

片で、口縁端部外端側に刻目を施す。外面に刻目突帯1条を貼付する。縄文晩期土器である。558は胴部片で、外面に刻目突帯1条を貼付し、沈線2条・斜位沈線文を施す。縄文晩期末～弥生前期の所産と考えられる。

559は弥生土器・壺・頸部片で、外面に櫛描文・楕円形貼付文を施す。弥生中期土器である。

560～563は土師器である。560・561は壺である。560は口縁～頸部片で、内面に沈線2条?を施す。561は口縁部片で、口縁端面に凹線1条を施す。搬入品の可能性がある。562は高杯で、脚部全周上に円孔3を配する。563は丸底・手捏ね成形の坏である。

564は土師質土器・坏・胴～底部片である。

### ③ S E 区出土土器 (Fig.92)

15点を図示した。

565～579は縄文土器である。565～573は深鉢である。565は口縁部片で、外面に沈線3条・磨消縄文(LR)を施す。縄文後期・広瀬上層式土器か。566は口縁～胴部片で、外面に条痕調整を施す。567・568は口縁～頸部片で、外面に条痕調整を施す。569・570は口縁部片である。569は外面に条痕調整を施す。566～569は縄文晩期土器である。570は縄文晩期土器か。571～573は底部片である。571・572は高台状を呈する。573は凹み底である。571～573は縄文後～晩期土器か。574～578は浅鉢である。574～577は口縁～頸部片である。574は外面に沈線1条を描く。574・575は縄文晩期土器である。576は上端部が擬口縁の可能性がある。縄文晩期・黒色磨研土器である。578は口縁部片である。577・578は縄文晩期土器である。579は鉢・頸～胴部片である。縄文晩期土器か。

## (2) 土製品

包含層出土土製品19点, 表採土製品1点を図示した。

### ① 包含層出土土製品

V D 層出土土製品1点, V C 層出土土製品2点, V B 2 層出土土製品1点, V B 層出土土製品5点, V A 層出土土製品3点, III A 層出土土製品6点, II 層出土土製品1点を図示した。本文ならびに表28中では、図示した表面側をA面, その反対側の面をB面として表記した。

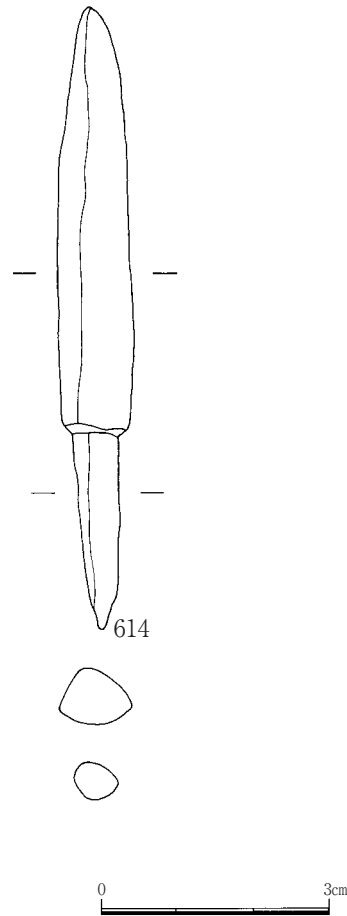


Fig.103 3 A 区出土土製品 8 (S : 1/1)

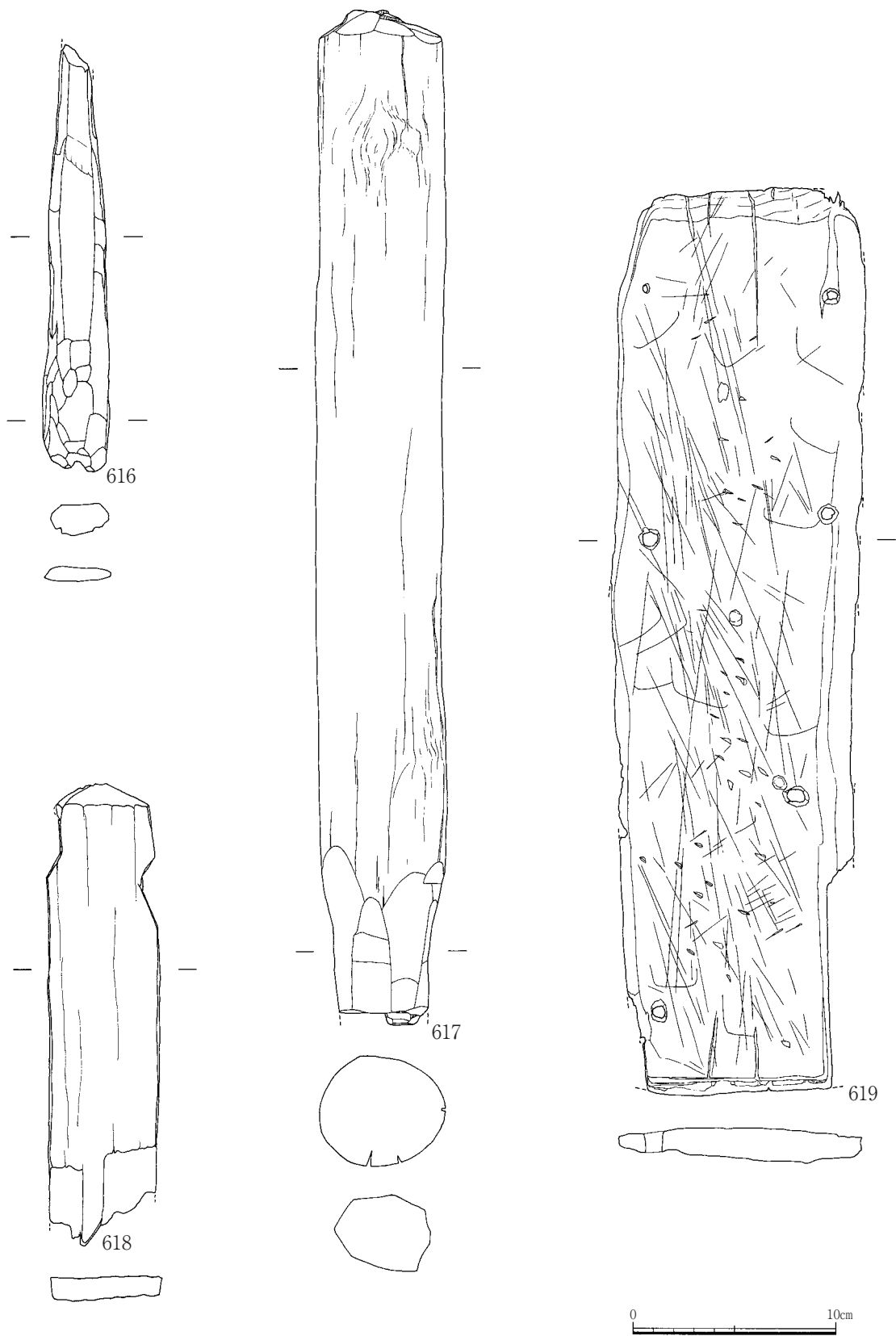


Fig.104 3 A区出土木製品9 (S : 1/3)



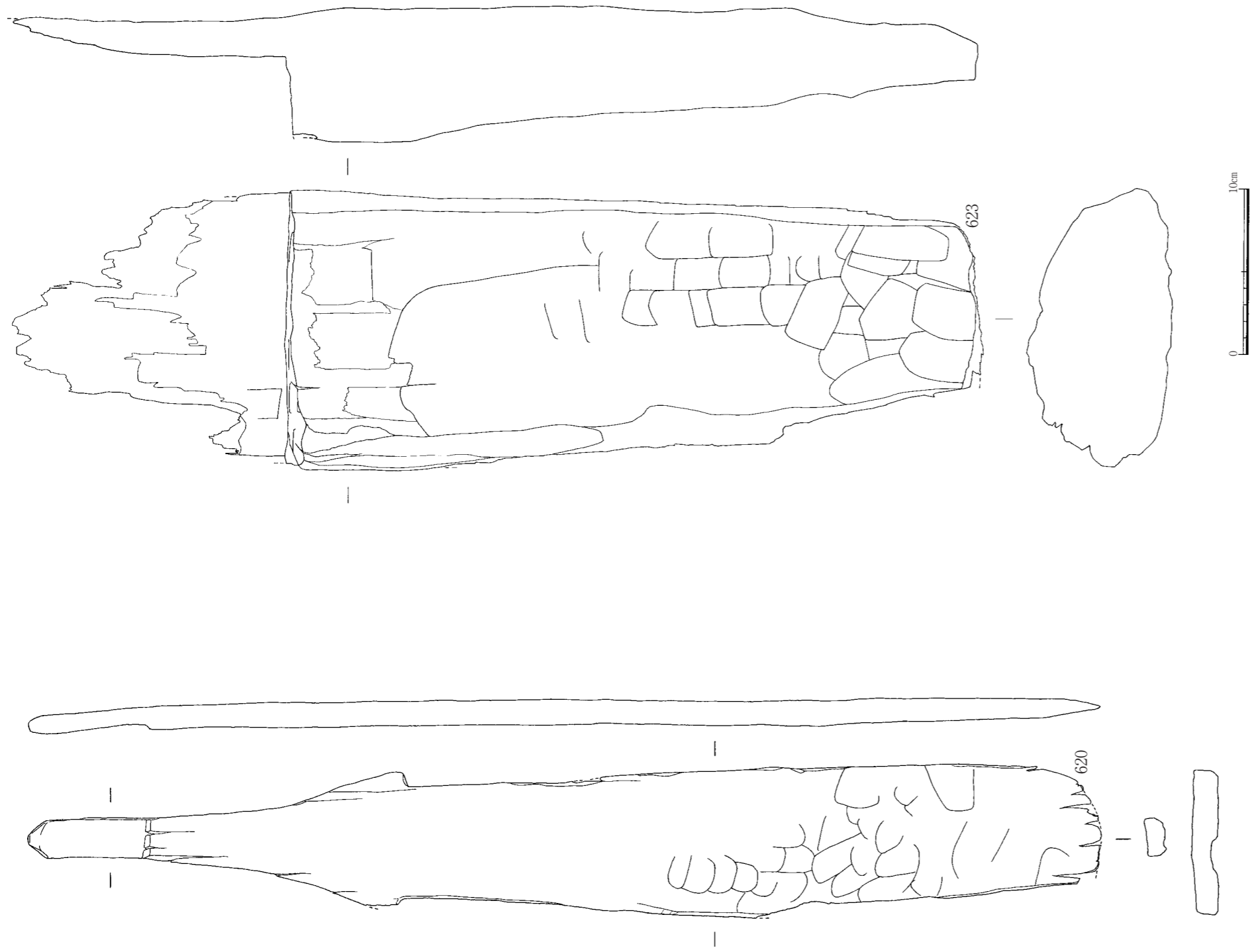


Fig.105 3A区出土木製品10 (S : 1/3)



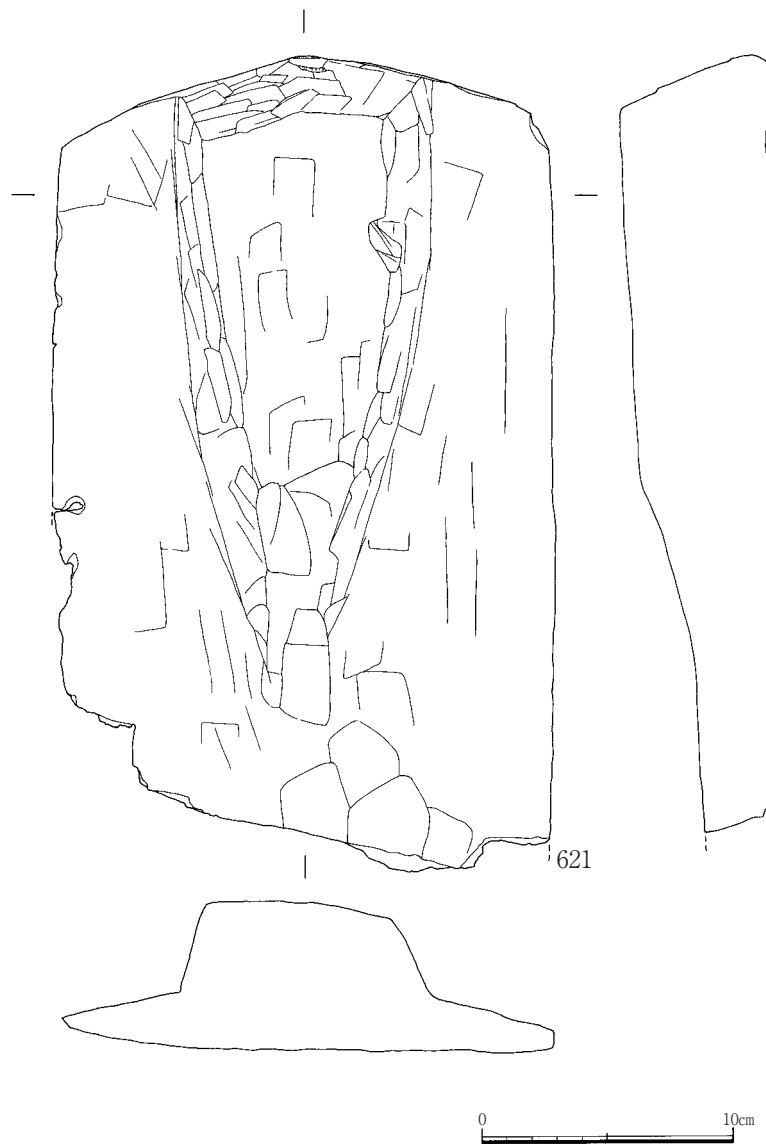


Fig.106 3 A区出土木製品11 (S : 1/3)

**VD層出土土製品 (Fig.93-580)**

580は土製円板である。縄文土器・深鉢・胴部片を素材とし、上端部に擬口縁が露出する。

**VC層出土土製品 (Fig.93-581・582)**

581・582は土製円板である。581は縄文土器・深鉢・胴部片を素材とする。582は縄文土器・浅鉢・胴部片を素材とする。

**VB2層出土土製品 (Fig.94-583)**

583は不明の土製品で、土偶・頭部の可能性がある。

**VB層出土土製品 (Fig.93-584~588)**

584~588は土製円板である。584・585はほぼ完形で、縄文土器・深鉢・胴部片を素材とする。586

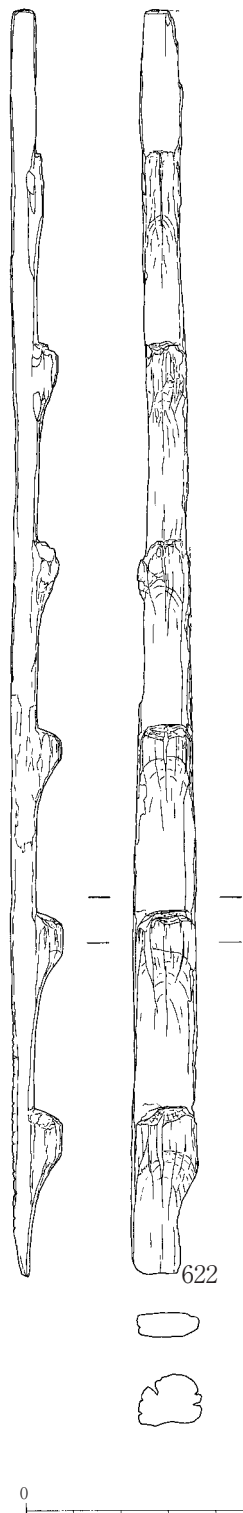


Fig.107 3 A区出土木製品12 (S : 1/16)

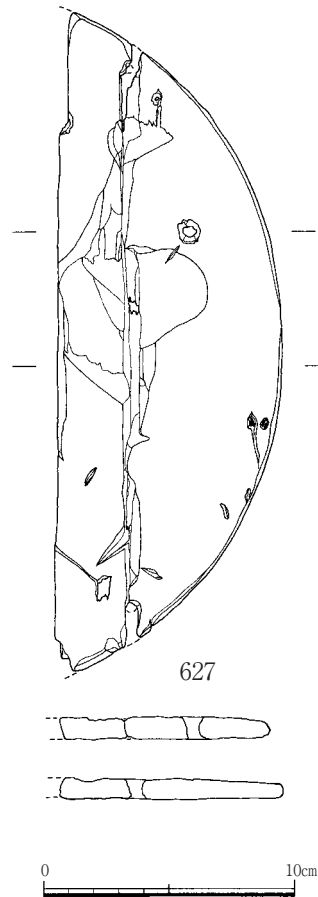


Fig.108 3 A区出土木製品13 (S : 1/3)

はほぼ完形で、縄文土器・浅鉢・胴部片を素材とする。  
587はほぼ完形で、弥生土器・壺・頸部片を素材とする。  
588はほぼ完形で、弥生土器・甕・胴部片を素材とする。

#### V A層出土土製品 (Fig.93・94)

589は土偶・胴部片である。貼付文・縦位沈線による乳房・正中線の表現がある。590・591は土製円板である。590はほぼ完形で、縄文土器・浅鉢・胴部片を素材とする。591はほぼ完形で、弥生土器・壺・胴部片を素材とする。

#### III A層出土土製品 (Fig.95-592~597)

592~594は土製模造鏡である。592は鈕部に円孔1を穿つ。593はほぼ完形品である。595~597は土錘である。

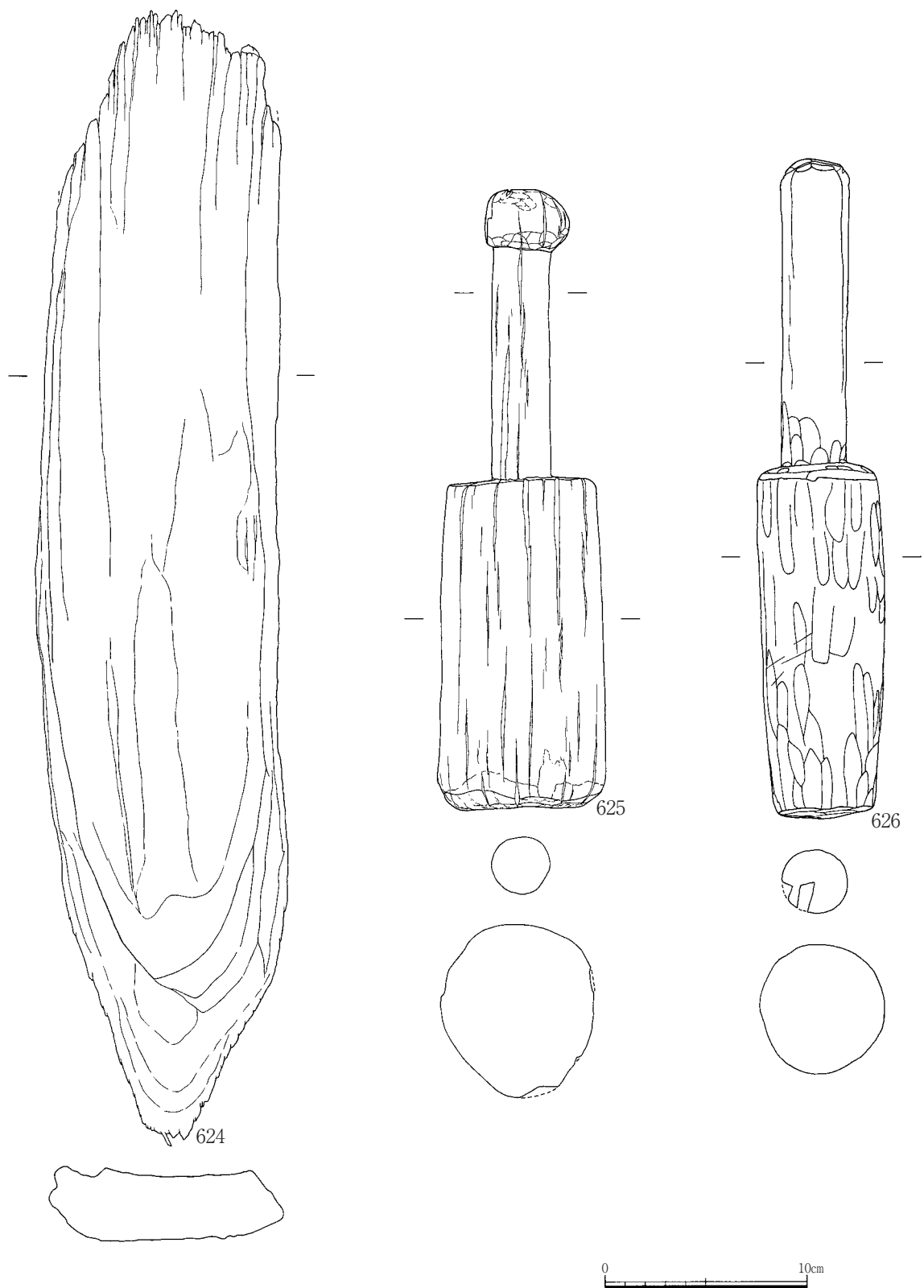


Fig.109 3 A区出土木製品14 (S : 1/3)

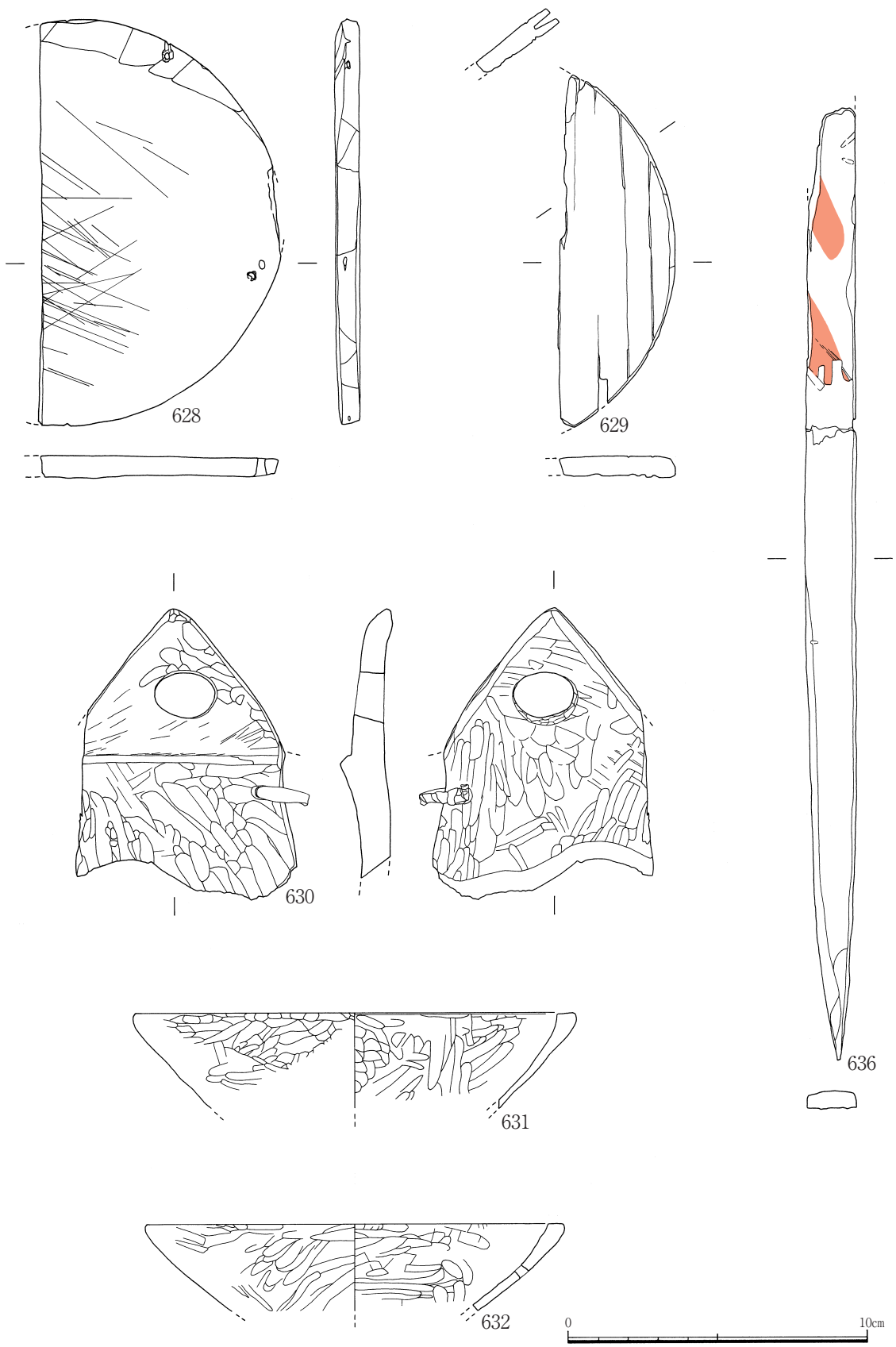


Fig.110 3 A区出土木製品15 (S : 1/2)

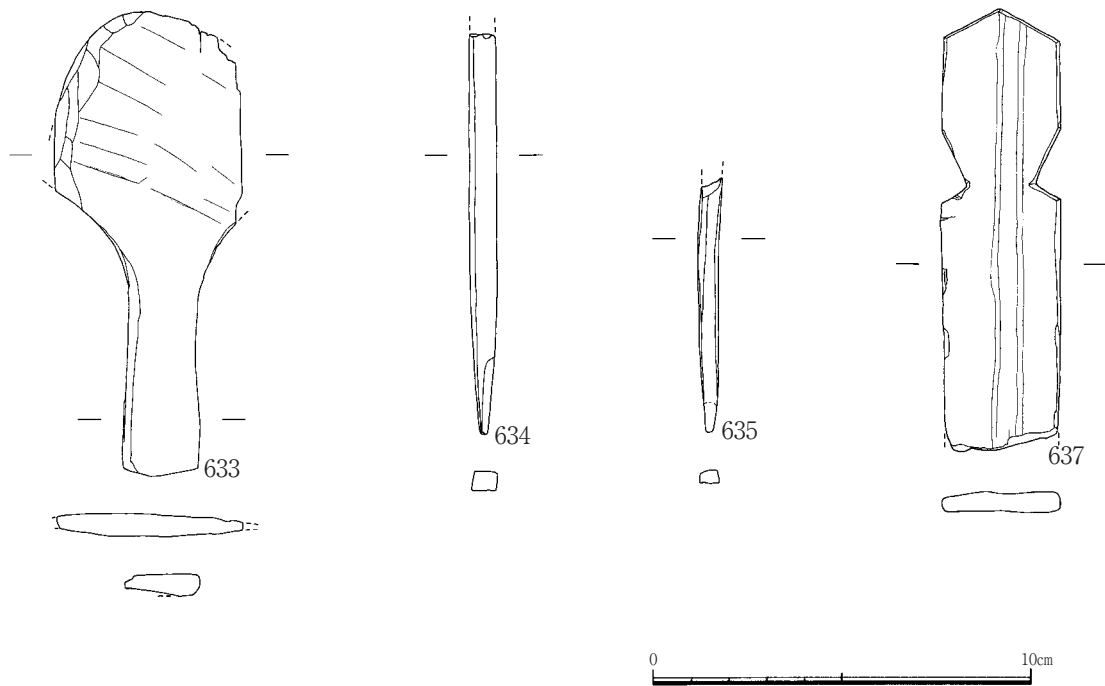


Fig.111 3 A区出土木製品16 (S : 1/2)

## II 層出土土製品 (Fig.95-598)

598は土製模造鏡で、鈕部に円孔1を穿つ。

### ②表採土製品 (Fig.95-599)

599は土製勾玉で、円孔1を穿つ。

### (3) 木製品 (Fig.96~136)

VC層出土木製品1点, VB層出土木製品3点, VA層出土木製品9点, III B 2層出土木製品1点, III B層出土木製品5点, III A 2層出土木製品1点, III A層出土木製品104点, III層出土木製品1点, II層出土木製品2点を図示した。本文ならびに計測表中では、図示した表面側をA面, その反対側の面をB面として表記した。

#### VC層出土木製品 (Fig.96-600)

600は木柱か。軸部には加工痕が明瞭に観察される。

#### VB層出土木製品 (Fig.96・97)

601は椀である。602は陽莖で、上端部には加工痕が明瞭に残る。603は板状製品で、楕円形孔2を穿つ。

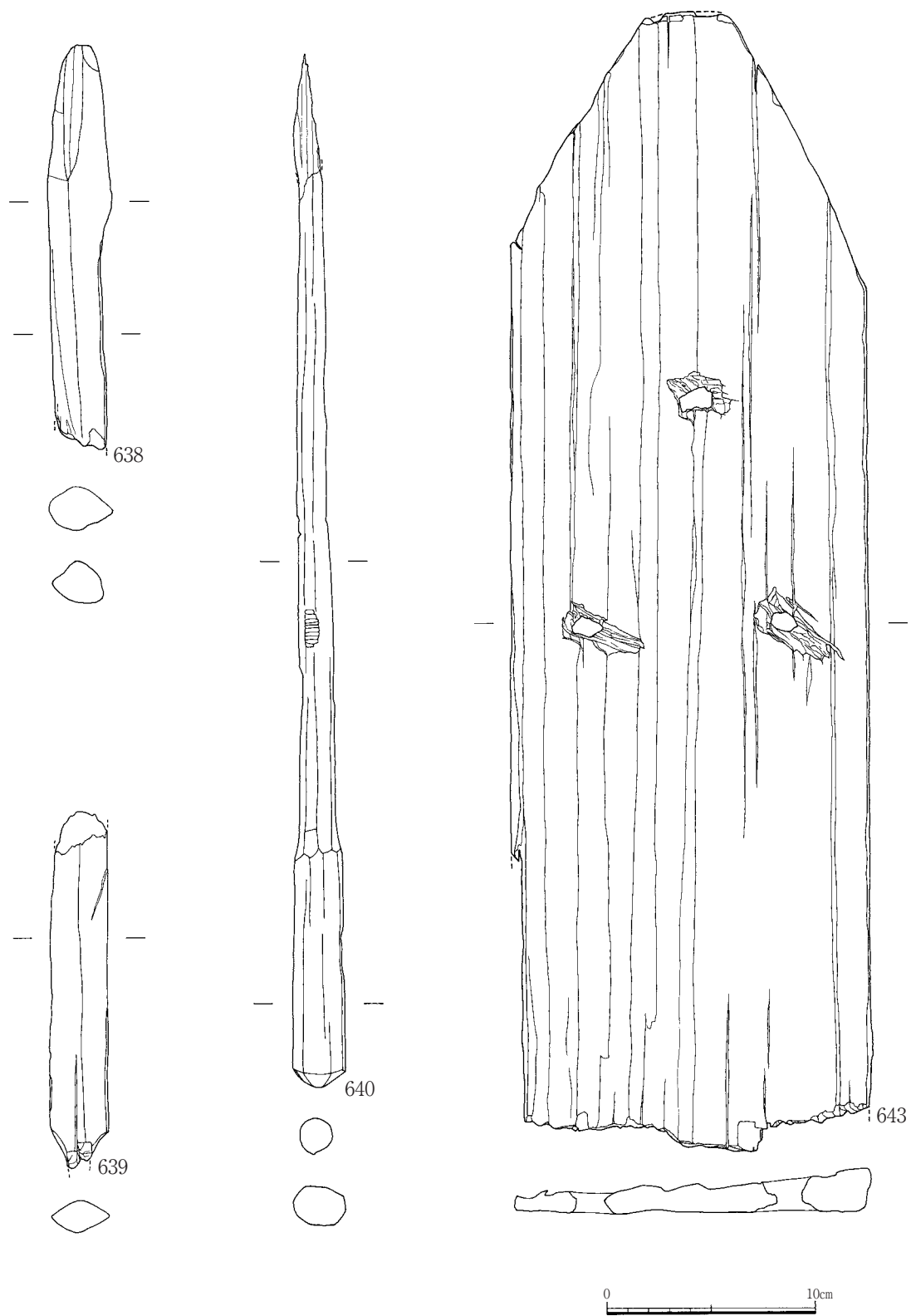


Fig.112 3 A区出土木製品17 (S : 1/3)



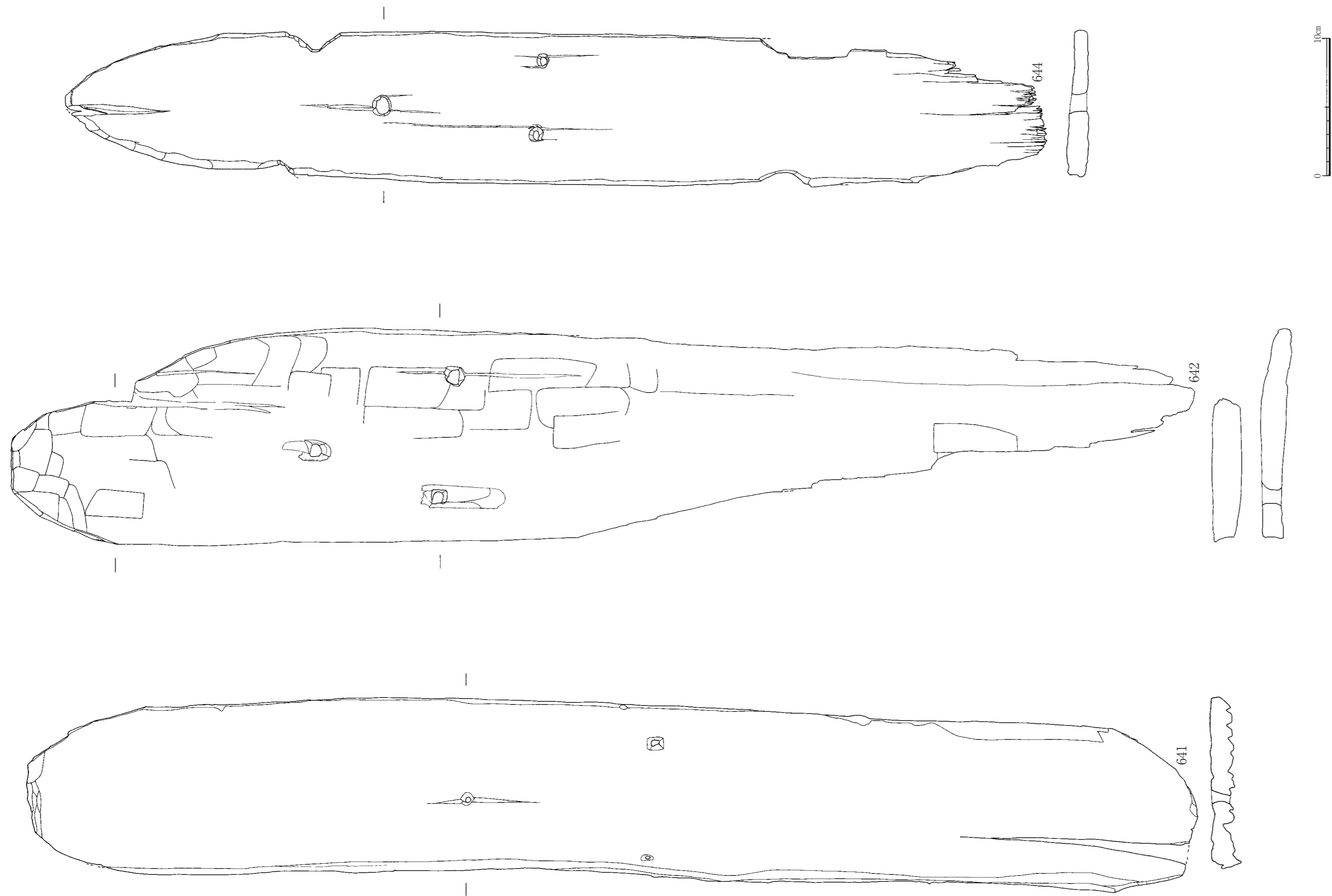


Fig.113 3A区出土木製品18 (S : 1/3)



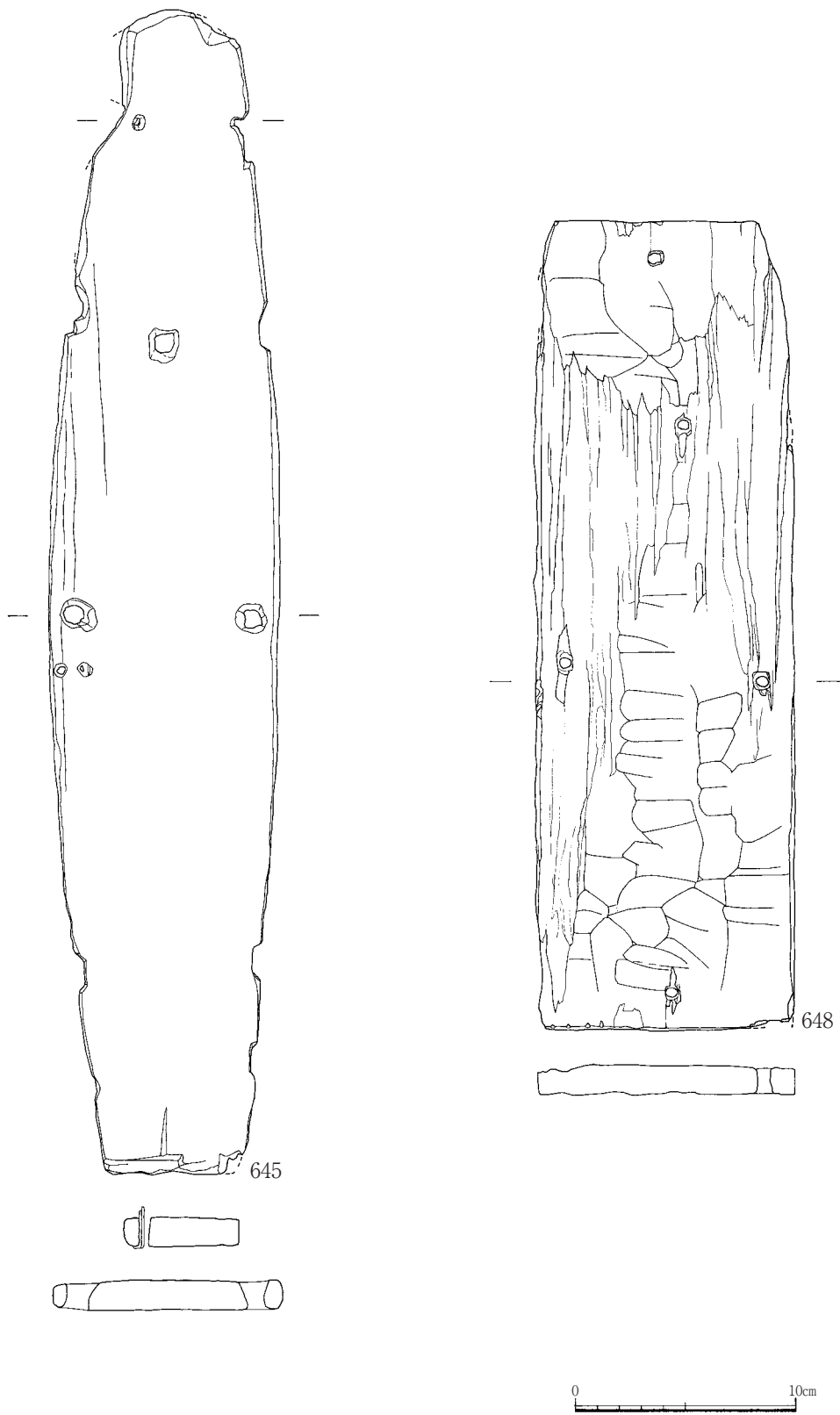


Fig.114 3 A区出土木製品19 (S : 1/3)

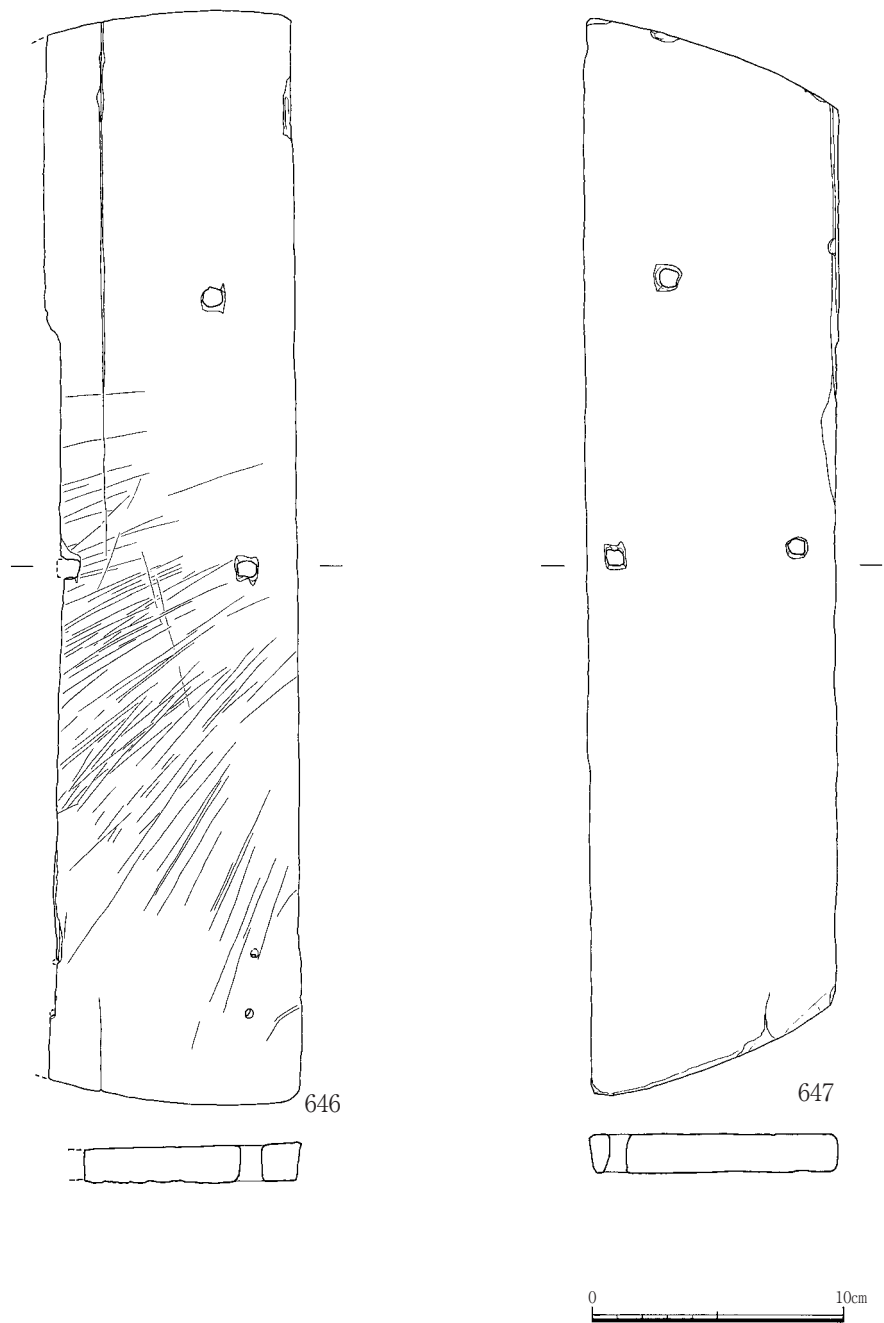


Fig.115 3A区出土木製品20 (S : 1/3)

**V A層出土木製品 (Fig.96・98~101)**

604は平鋏で、円形の柄穴1を穿つ。605は又鋏である。606は横鋏で、円形の柄穴1を穿つ。607は組合せ平鋏<sup>(2)</sup>と考えられる。方形の柄穴1を穿ち、上端に着柄軸を形成する。608は平鋏未製品と考えられ、素材状態である。609は鈎状製品で、ほぼ完形品である。610は陽茎か。611は板状製品で、方形孔2を穿つ。612は剣形製品である。

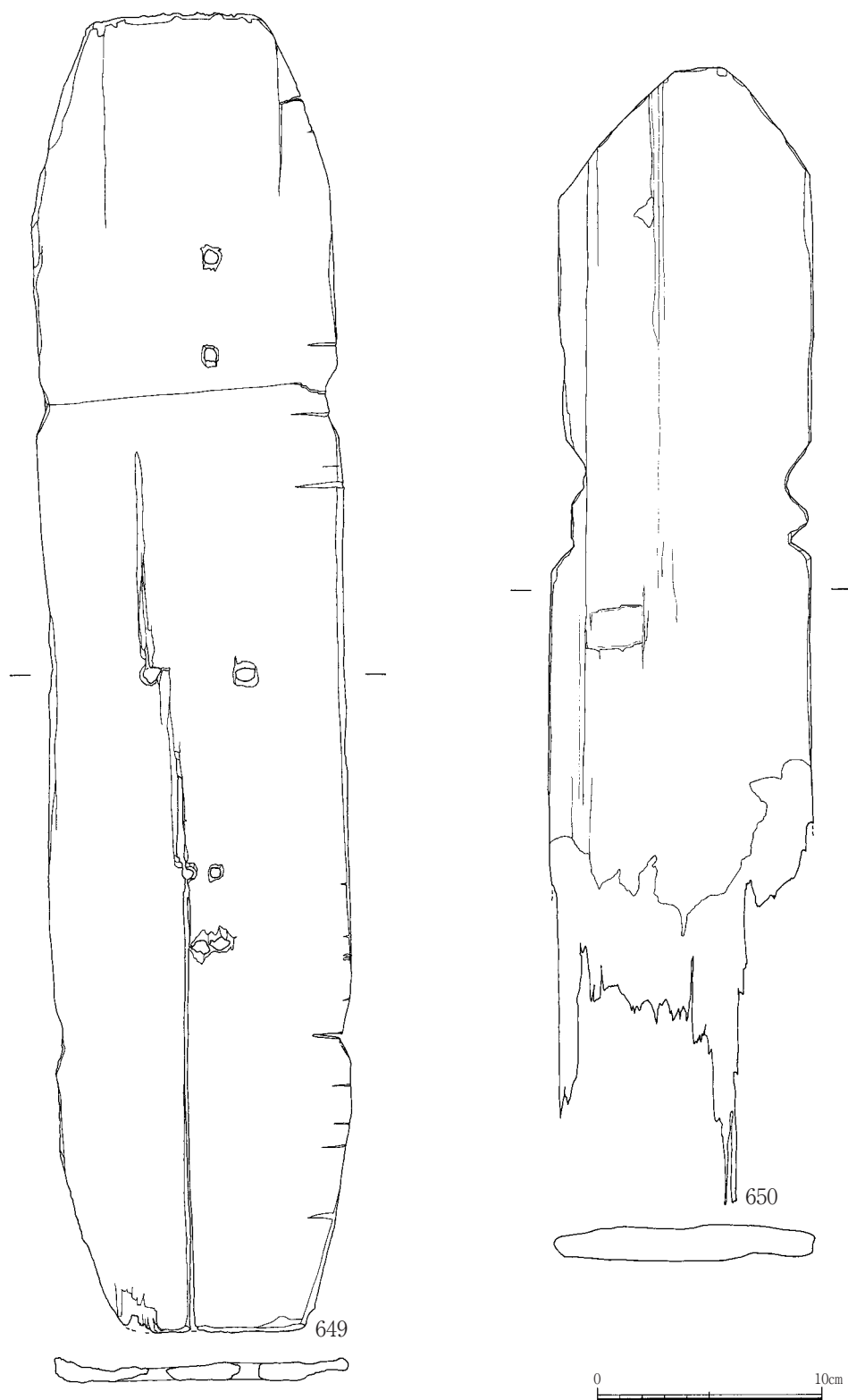


Fig.116 3 A区出土木製品21 (S : 1/3)

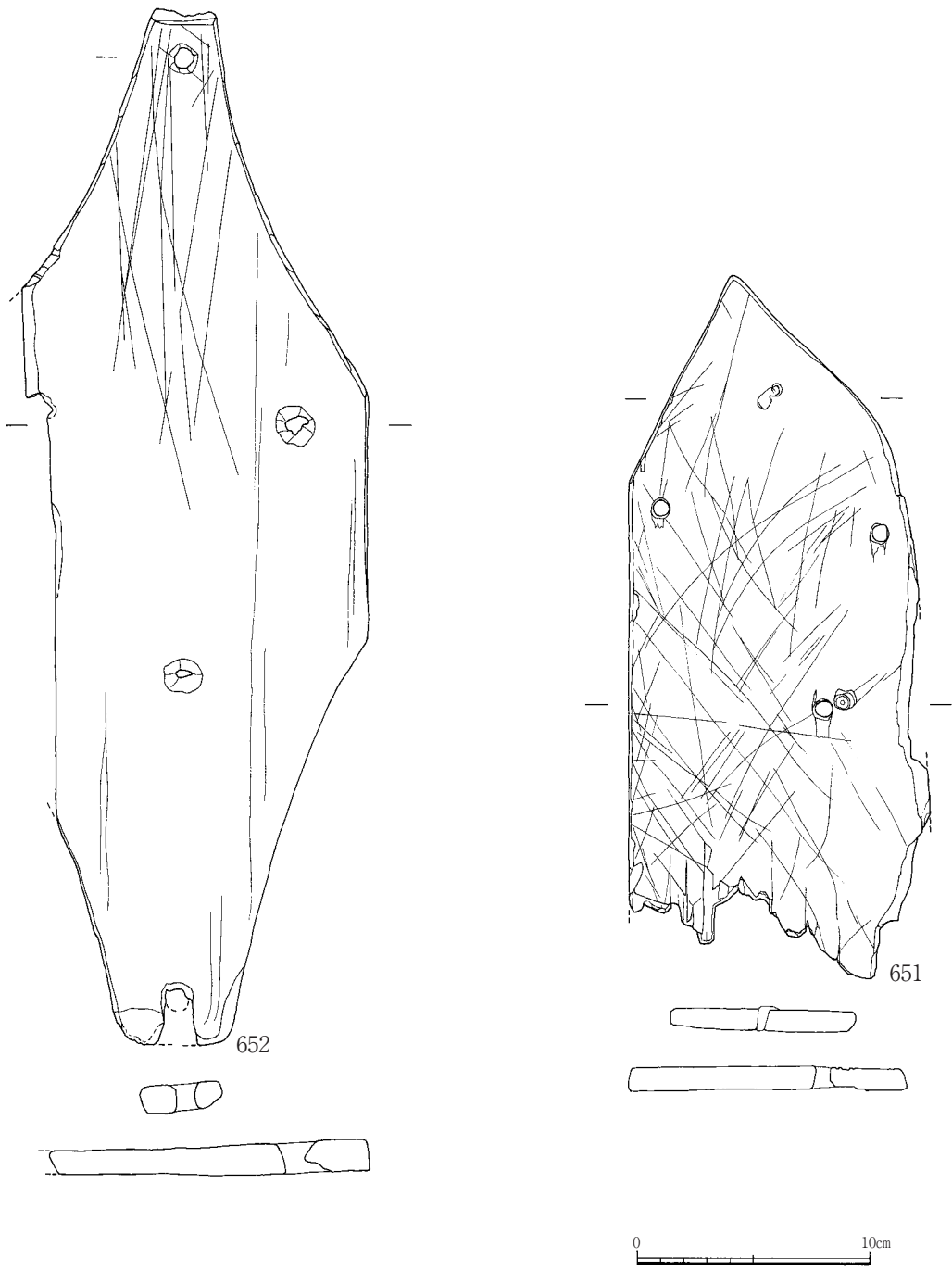


Fig.117 3 A区出土木製品22 (S : 1/3)

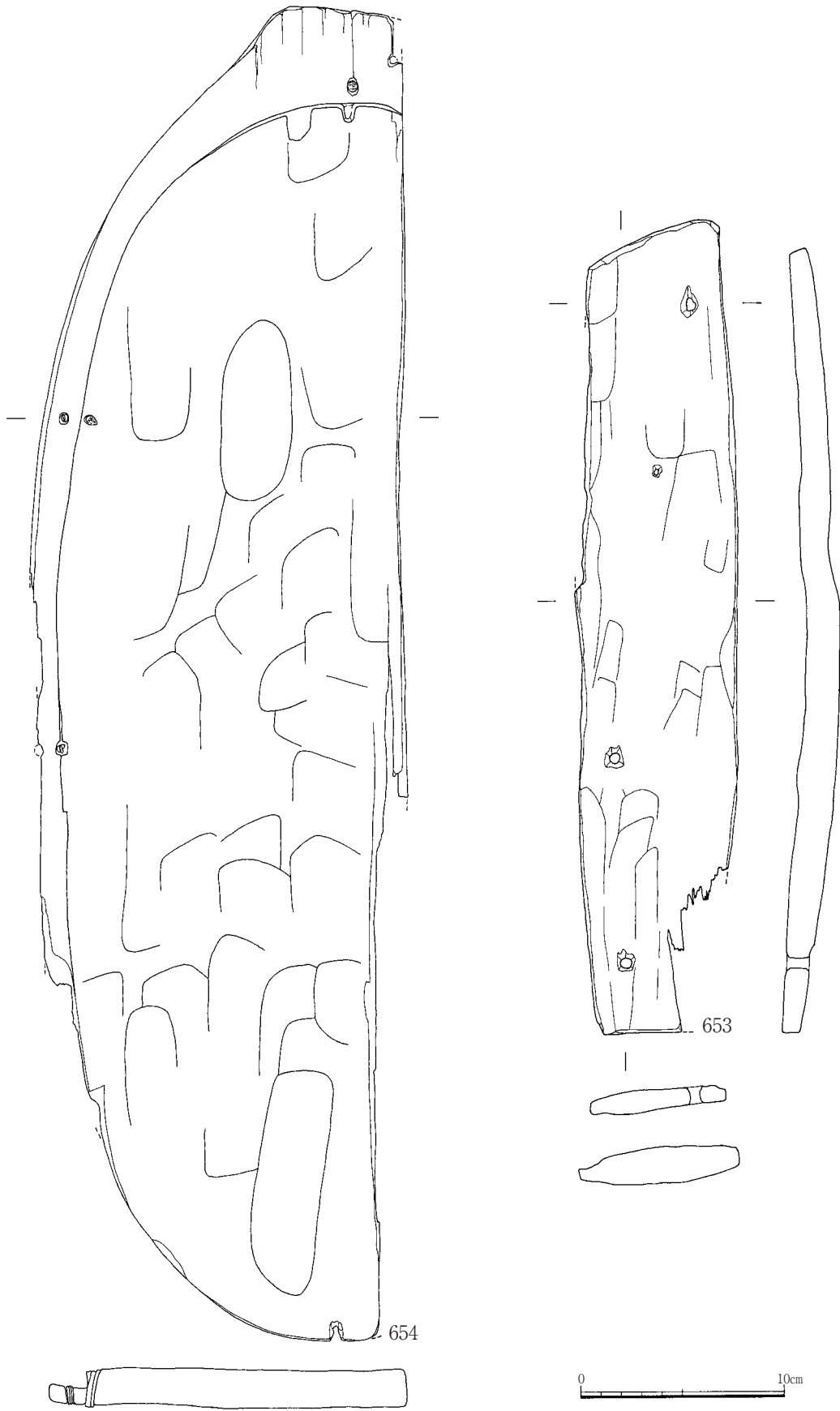


Fig.118 3 A区出土木製品23 (S : 1/3)

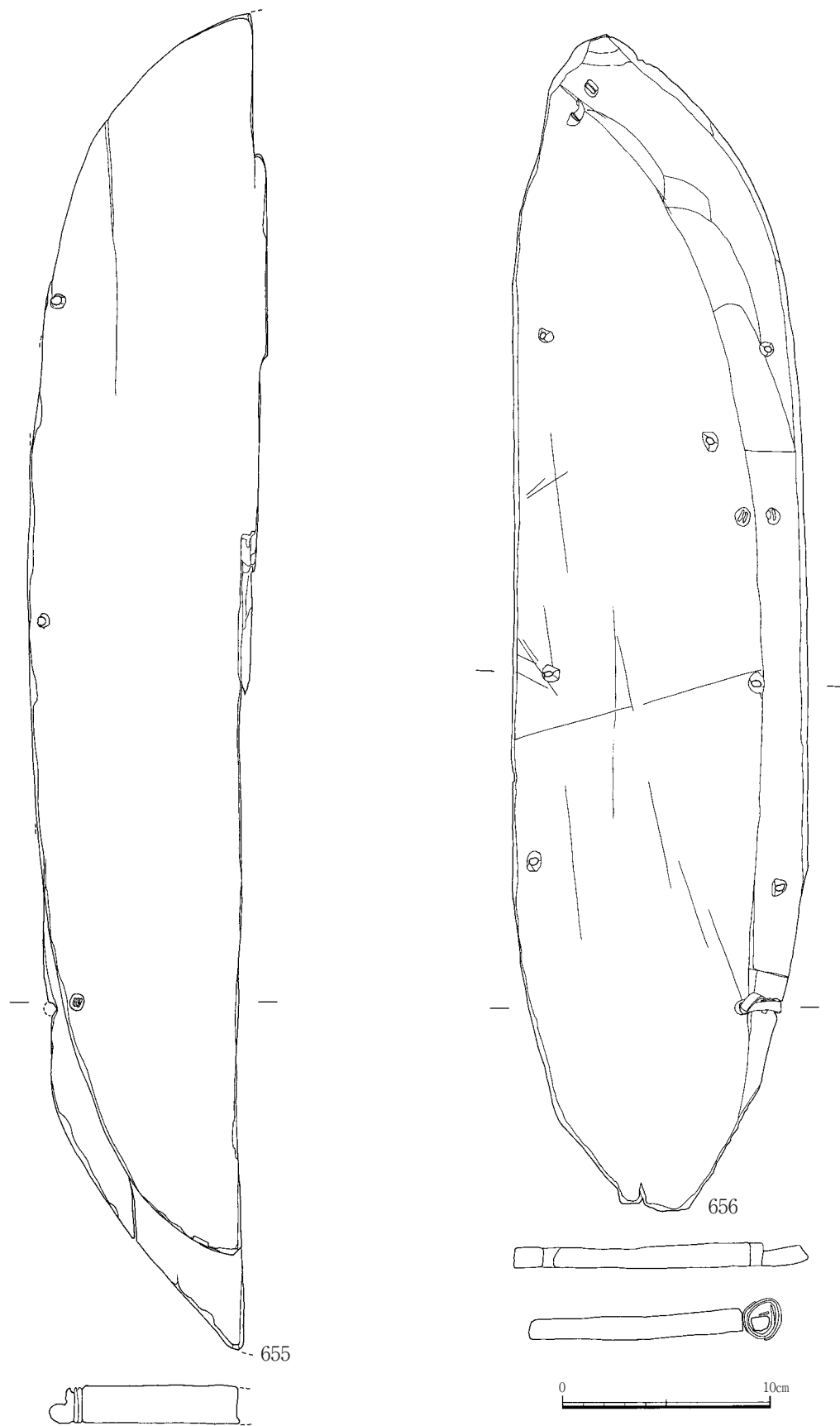


Fig.119 3 A区出土木製品24 (S : 1/3)



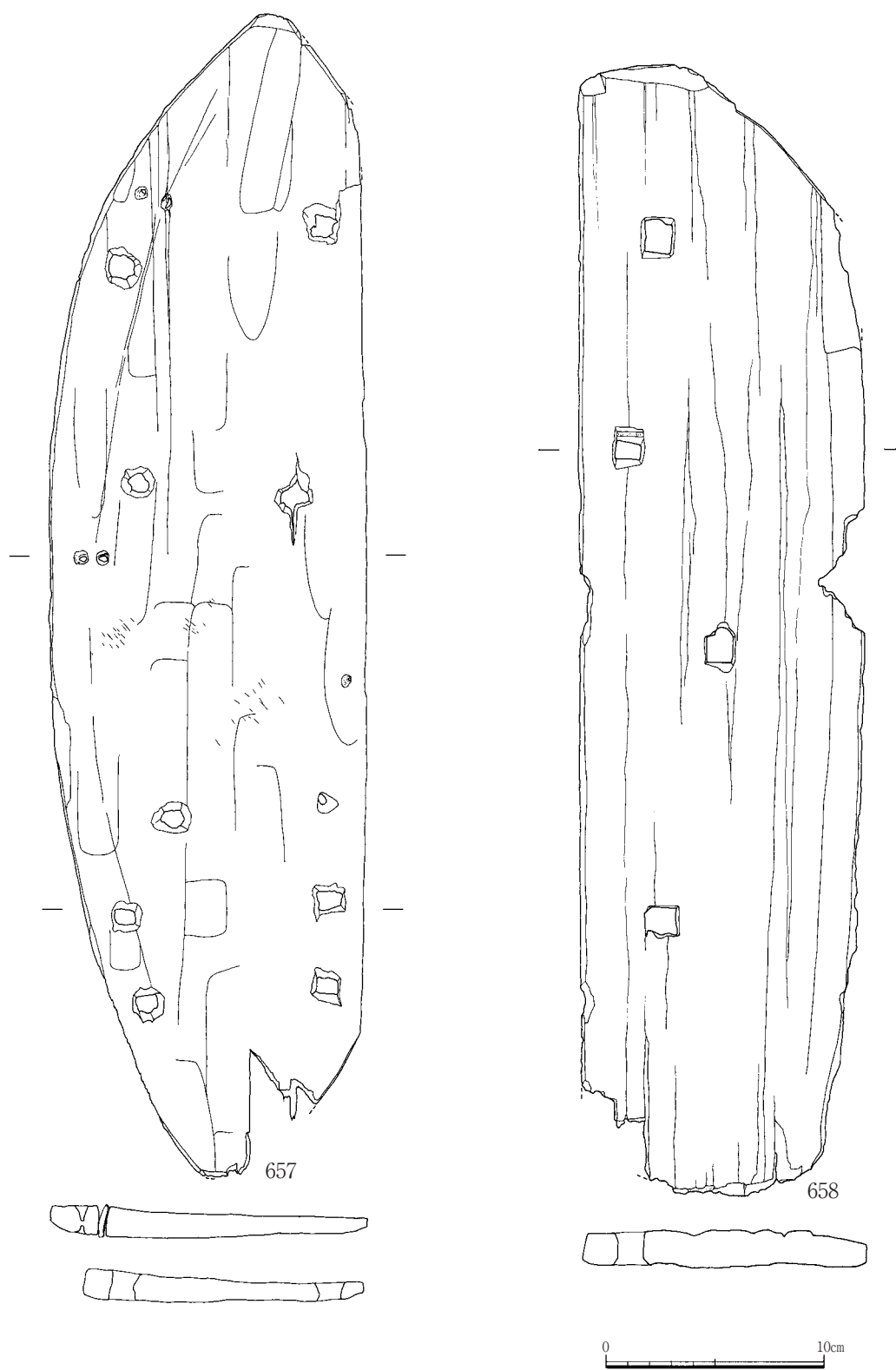
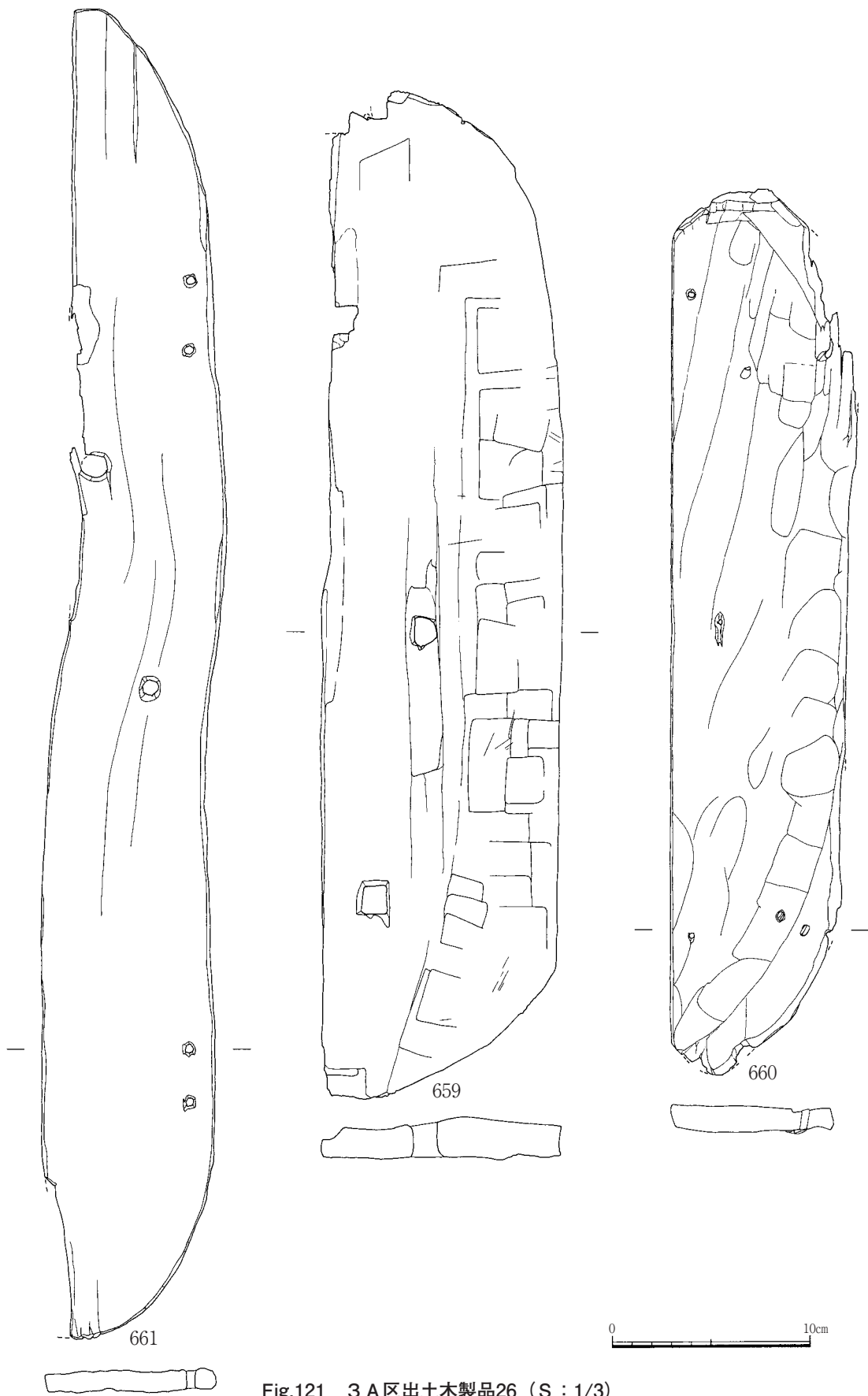


Fig.120 3 A区出土木製品25 (S : 1/3)



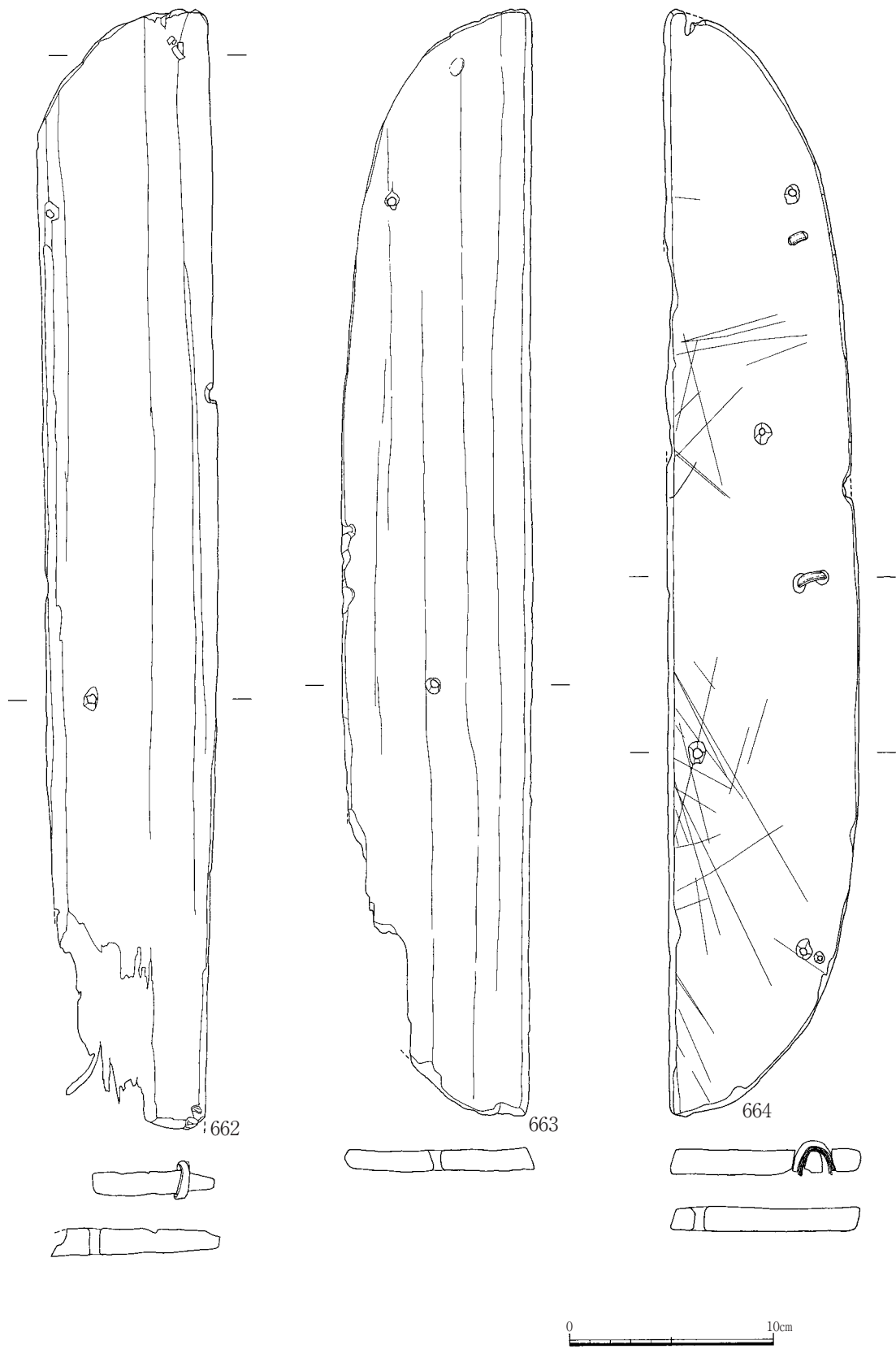


Fig.122 3 A区出土木製品27 (S : 1/3)

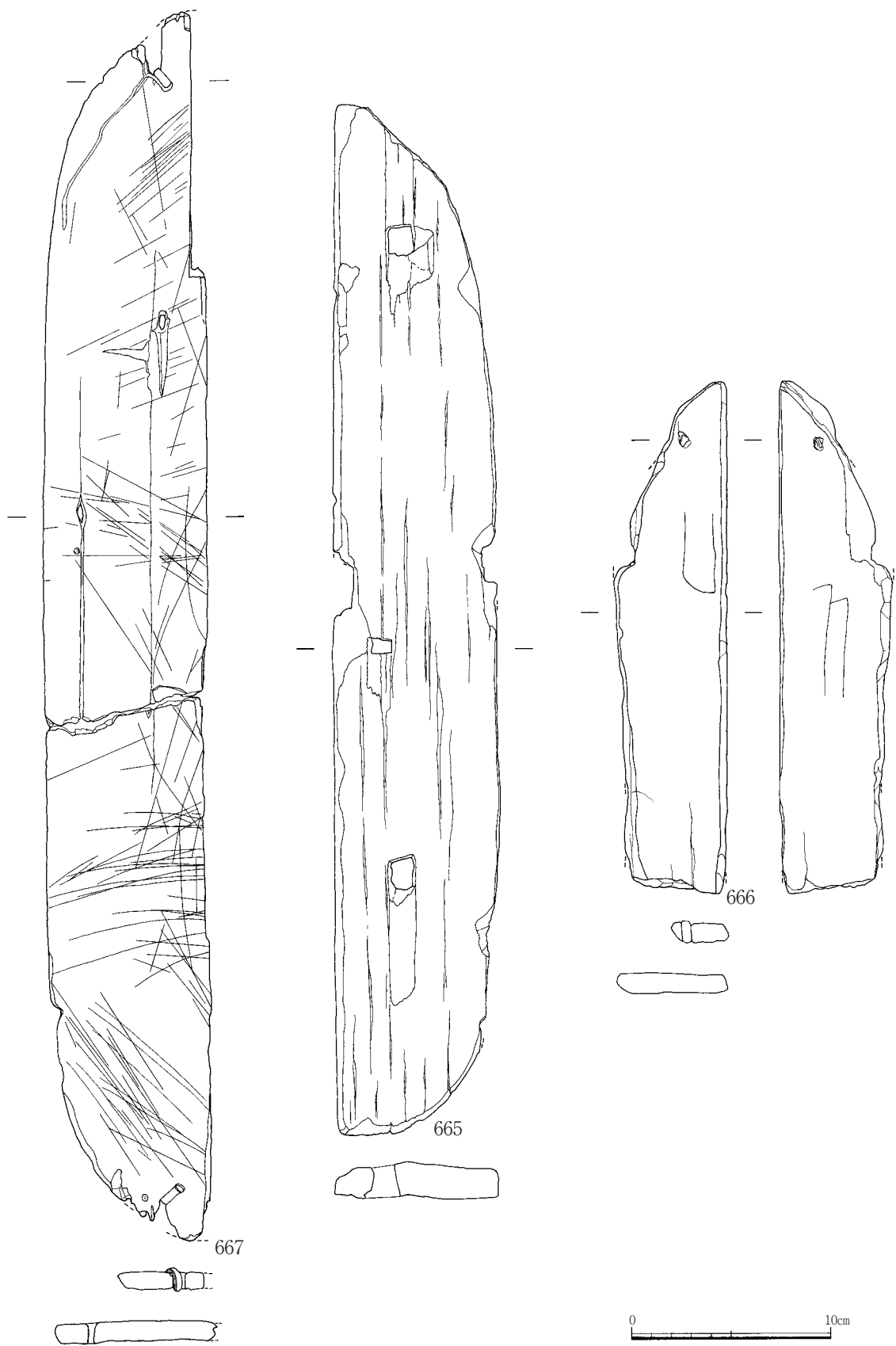


Fig.123 3 A区出土木製品28 (S : 1/3)

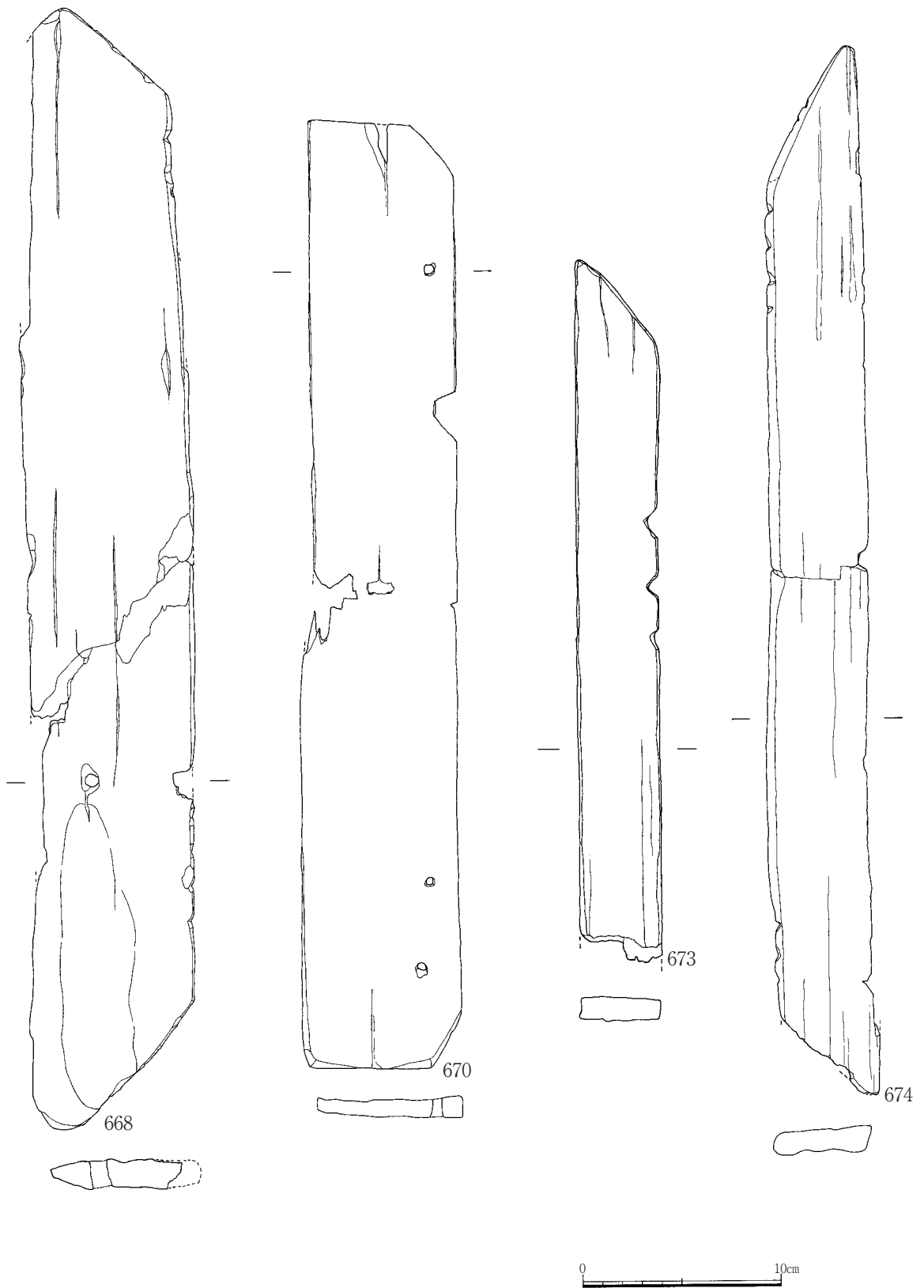


Fig.124 3 A区出土木製品29 (S : 1/3)

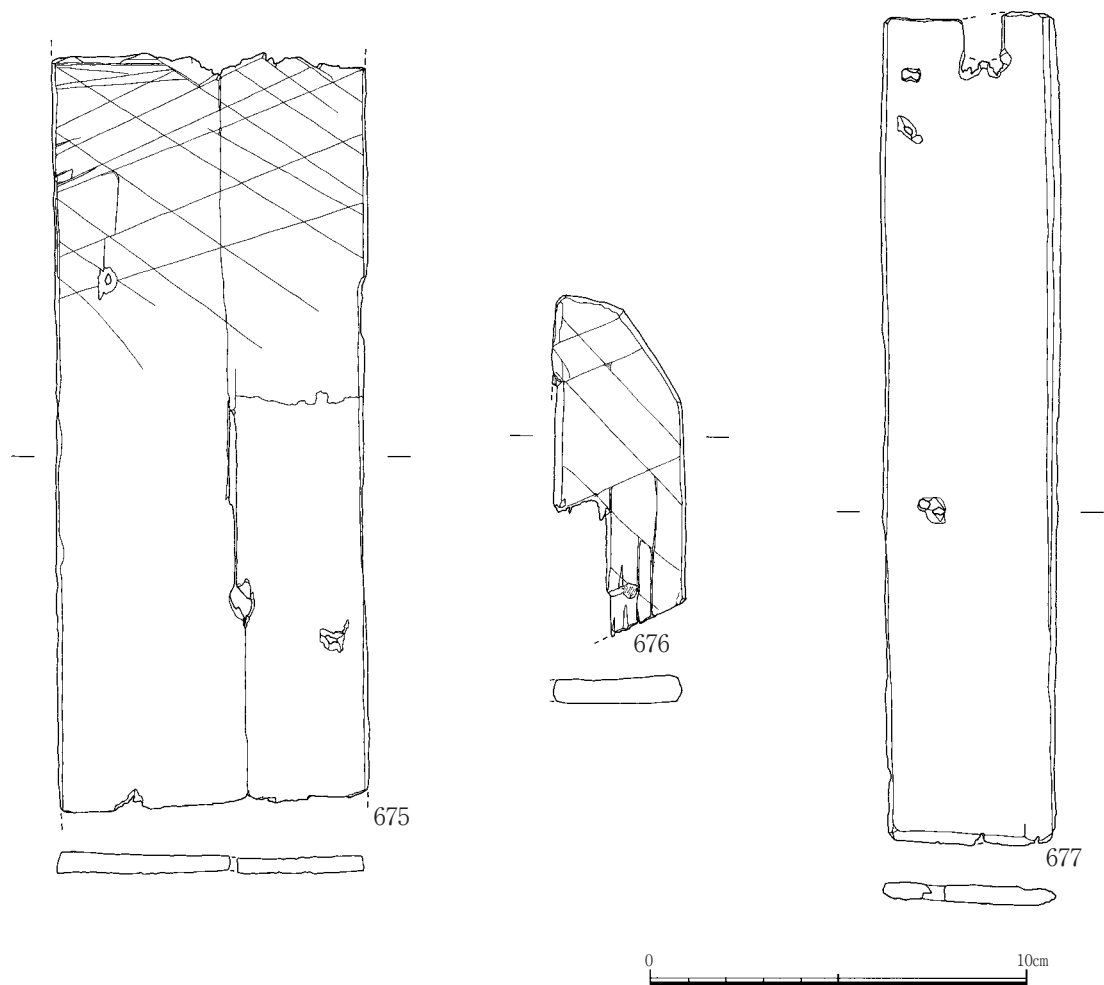


Fig.125 3 A区出土木製品30 (S : 1/2)

**Ⅲ B 2層出土木製品 (Fig.102-613)**

613は板状製品で、祭祀関連もしくは横鋏か。

**Ⅲ B層出土木製品 (Fig.102~104)**

614は木製鋏で、ほぼ完形品である。615は鋏で、柄穴周辺の隆起部分である。616はヘラ状製品で、ほぼ完形である。617は棒状製品で、部材か。618は板状製品で、人形の可能性がある。

**Ⅲ A 2層出土木製品 (Fig.104-619)**

619は板状製品である。

**Ⅲ A層出土木製品 (Fig.105~136)**

620はナスビ形農耕具で、ほぼ完形品である。621は平鋏未製品である。622・623は梯子である。622は焼失部分以外はほぼ完形である。624は矢板である。625・626はほぼ完形の横槓である。627~629は底板である。627は孔6を穿つ。628は孔2を穿ち、側面に木釘3が残存する。629は側面に木釘

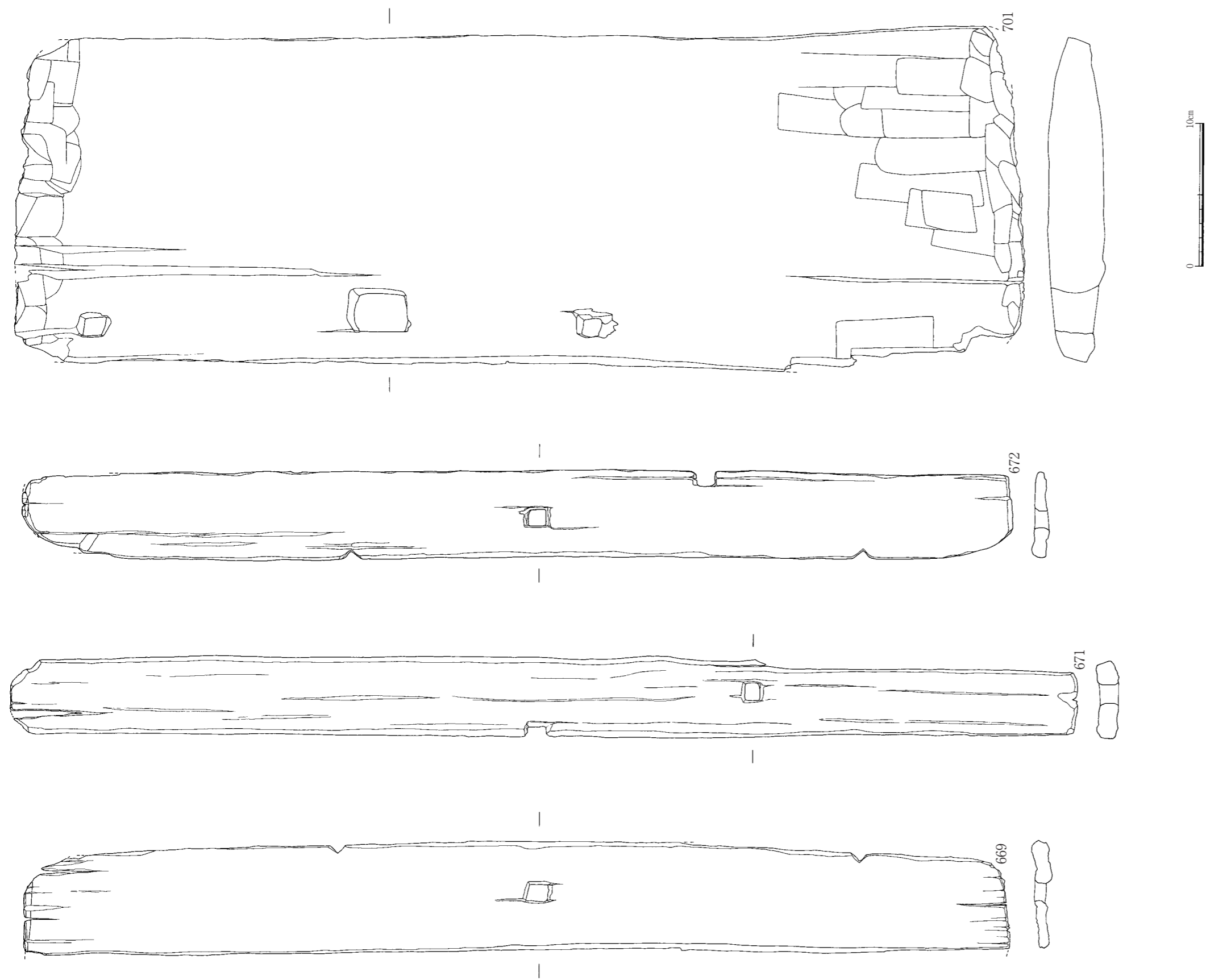


Fig.126 3A区出土木製品31 (S : 1/3)





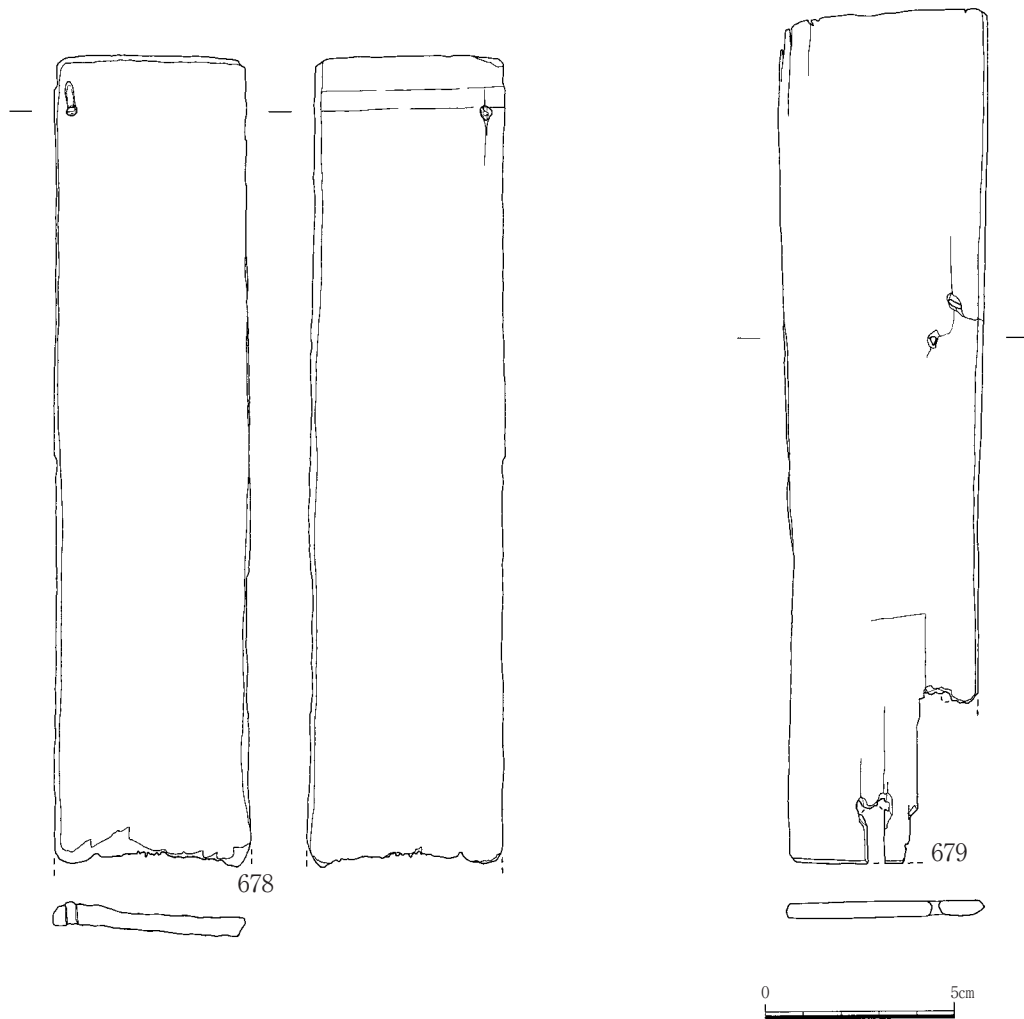


Fig.127 3 A区出土木製品32 (S : 1/2)

1が残存する。630は桶状製品で、円孔1を穿つ。631・632は椀である。632は円孔3を穿つ。633は板状製品で、しゃもじ形を呈する。634・635は箸である。636は斎串か。637は人形か。638・639は剣形製品である。640は棒状製品である。

641～649は田下駄である。646・647は底板の転用品である。両者は接合関係にある。650・651は板状製品である。651は田下駄の可能性はある。652は田下駄である。653～674は板状製品である。654～656・660・666は底板の転用品である。656はほぼ完形品である。659・661・663・664・667は底板転用品の可能性はある。674はほぼ完形品である。

675・676は線刻板である。677～682は板状製品である。683～693は人形の可能性はある。688は底板の転用品である。

694～710は板状製品である。694はほぼ完形品である。700は転用品の可能性はある。703はほぼ完

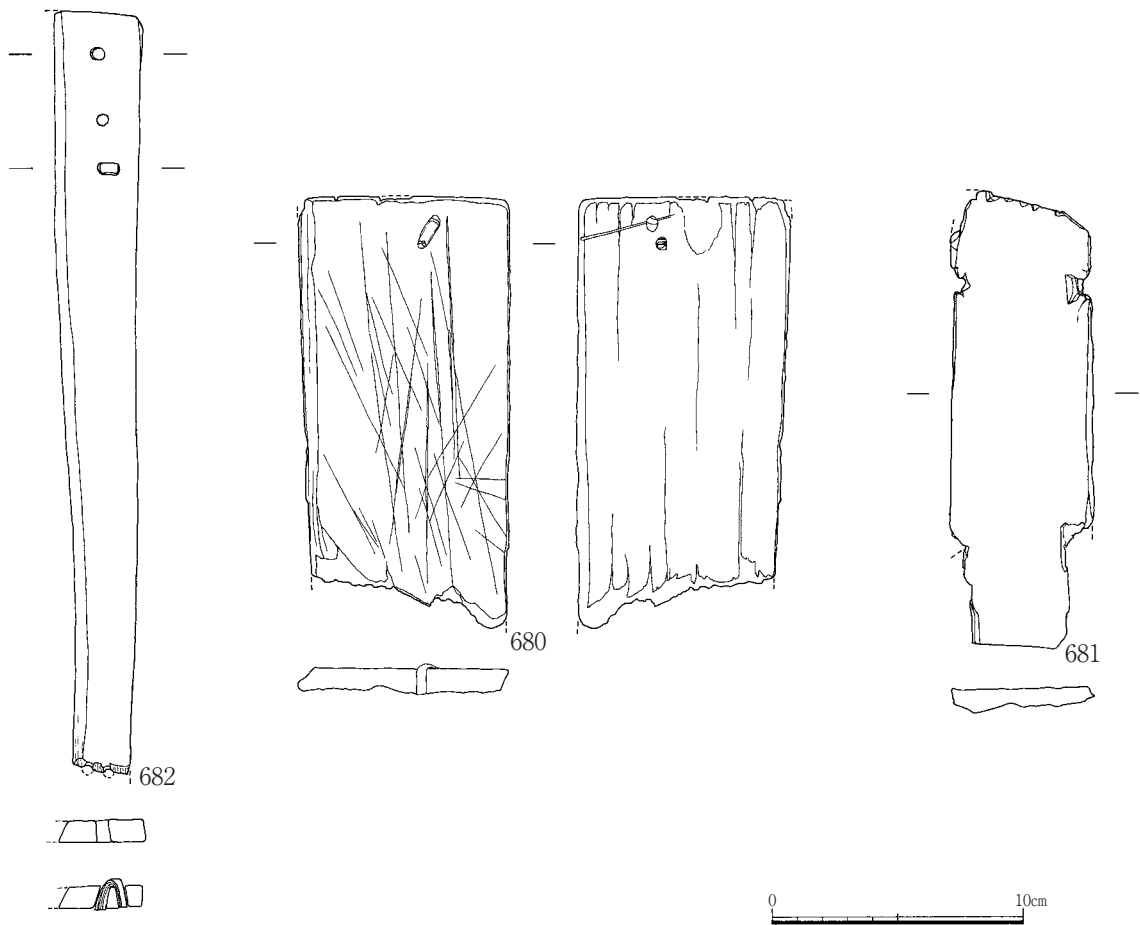


Fig.128 3 A区出土木製品33 (S : 1/3)

形品である。706は祭祀関連もしくは横鋏か。707は焼失部分がある。708は鋏の可能性はある。710は祭祀関連か。

711～713は尖頭状製品である。711は完形品である。714は棒状製品である。715は段状製品である。716は棒状製品である。717は尖頭状製品で、ほぼ完形品である。木錘の可能性はある。718・719は棒状製品である。718は「ジョウロ」の先端状を呈する。720は束製品で、柄部か。721・722は線刻板である。723はヘラ状製品である。

**Ⅲ層出土木製品 (Fig.136-724)**

724は底板で、側面部に木釘3が残存する。

**Ⅱ層出土木製品 (Fig.136-725・726)**

725・726は有孔円板である。725は完形品である。

(4) 自然遺物

V B層出土自然遺物6点, V A層出土自然遺物2点の写真図版を掲載した。

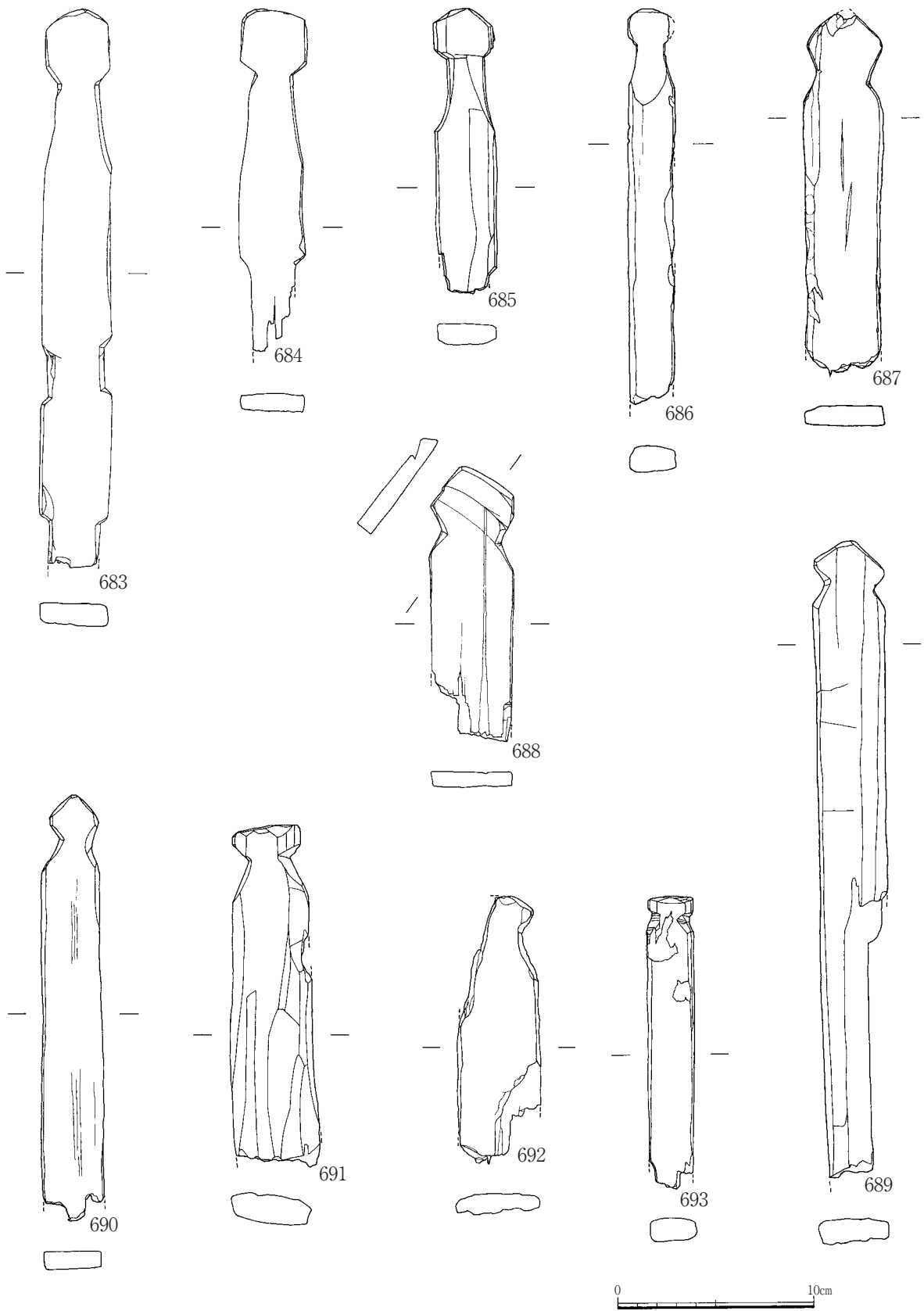


Fig.129 3 A区出土木製品34 (S : 1/3)

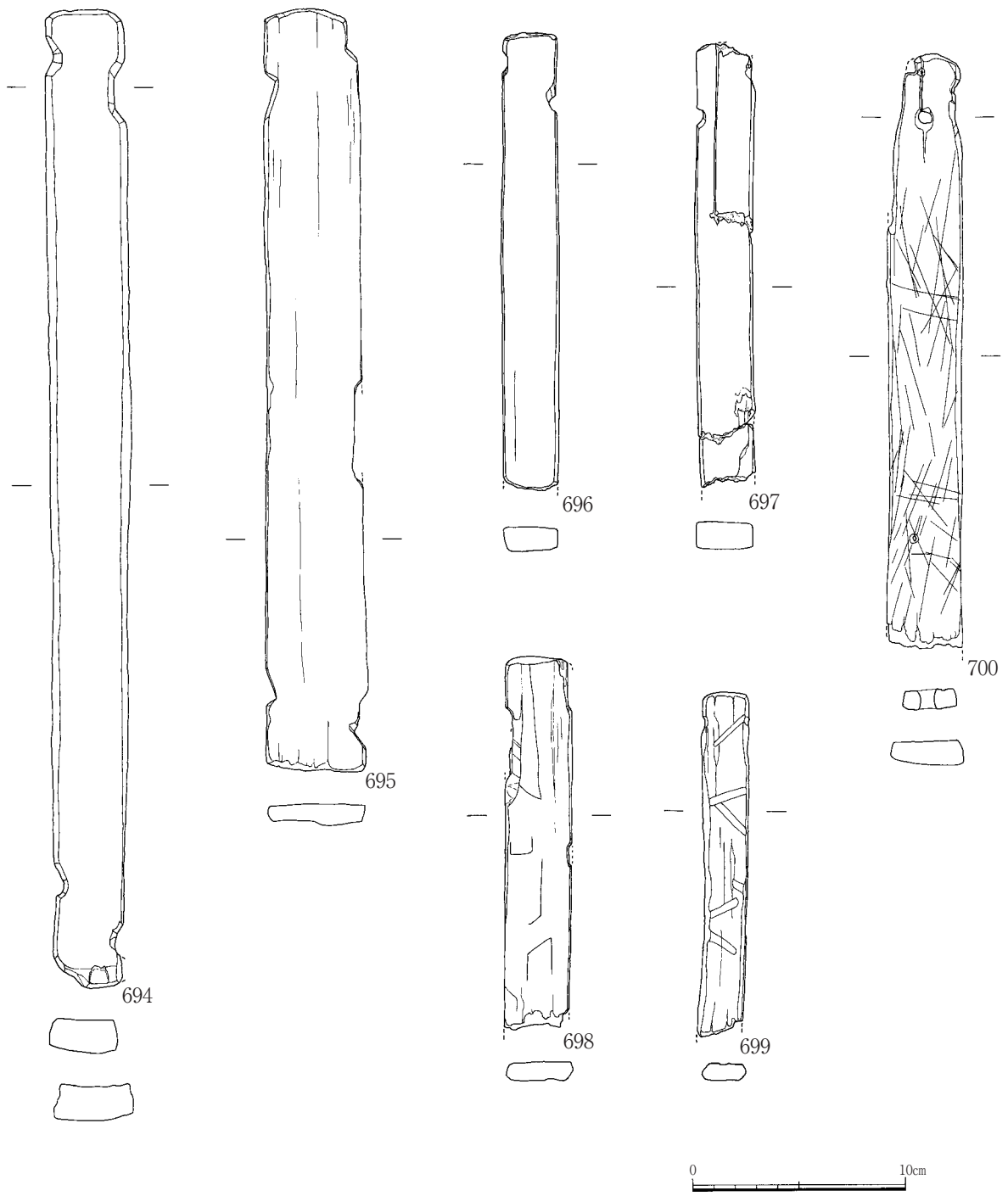


Fig.130 3 A区出土木製品35 (S : 1/3)

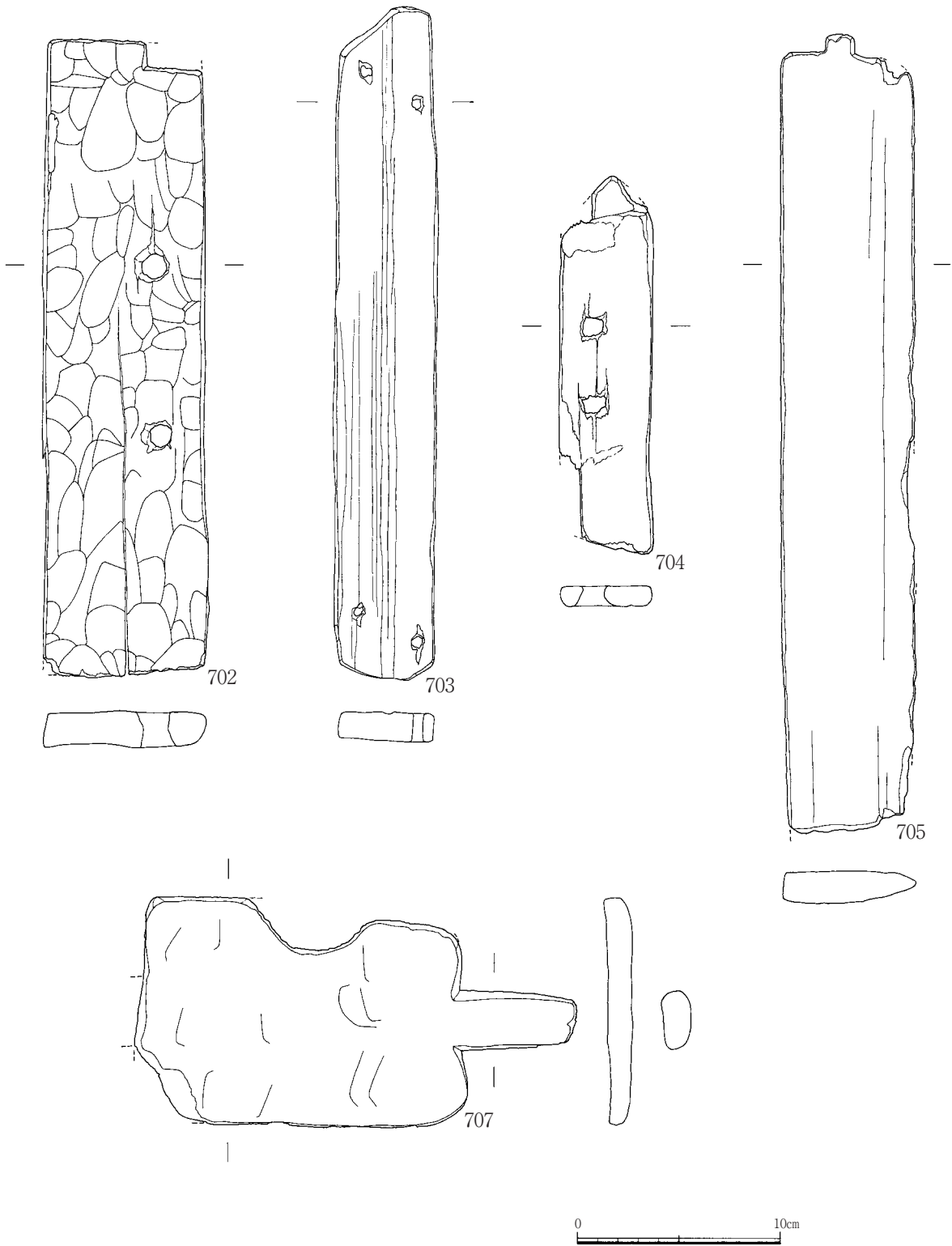


Fig.131 3 A区出土木製品36 (S : 1/3)

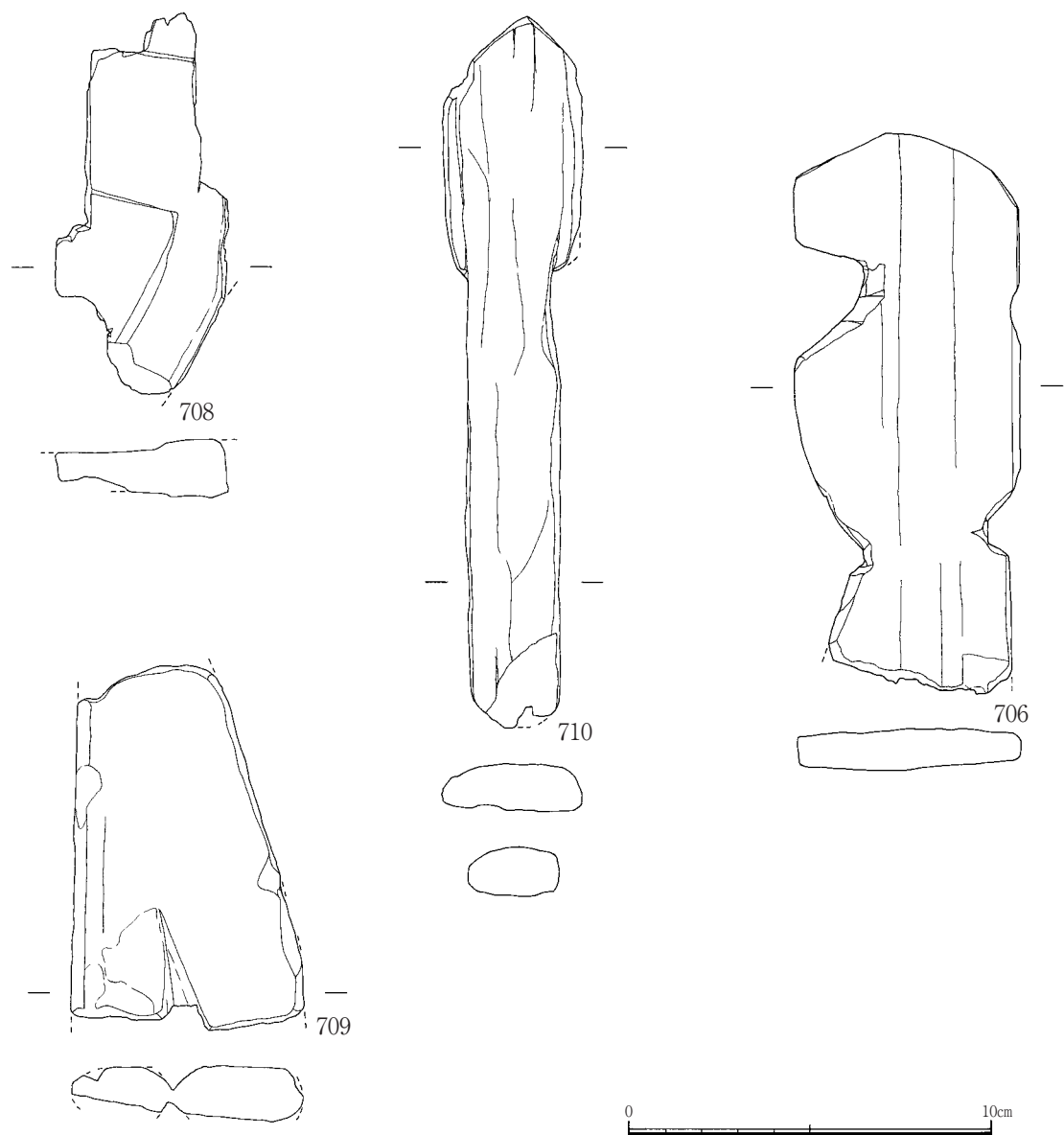


Fig.132 3A区出土木製品37 (S : 1/2)

#### VB層出土自然遺物

727～731はサルノコシカケ類（子実体）である。727は全長12.5cm，全幅12.0cm，全厚4.5cmである。728は全長10.5cm，全幅7.0cm，全厚2.5cmである。729は全長8.5cm，全幅7.5cm，全厚4.5cmである。730は全長9.5cm，全幅7.5cm，全厚3.0cmである。731は全長9.0cm，全幅6.0cm，全厚4.5cmである。732はトチノキ（果実）である。732は全長4.0cm，全幅3.0cm，全厚1.5cmである。

#### VA層出土自然遺物

733・734はトチノキ（果実）である。733は全長5.0cm，全幅3.5cm，全厚1.0cmである。734は全長4.0cm，全幅3.5cm，全厚2.0cmである。

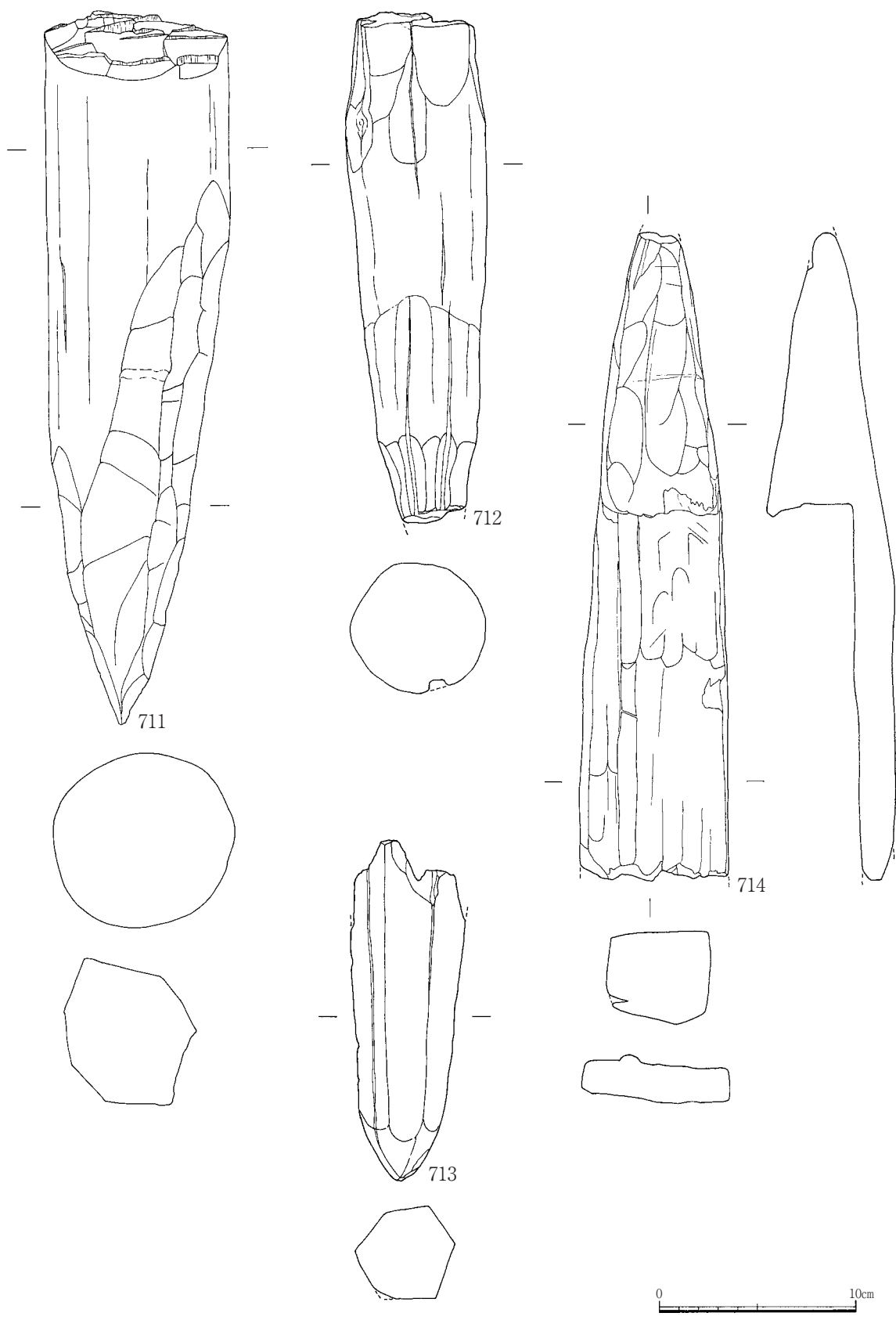


Fig.133 3 A区出土木製品38 (S : 1/3)

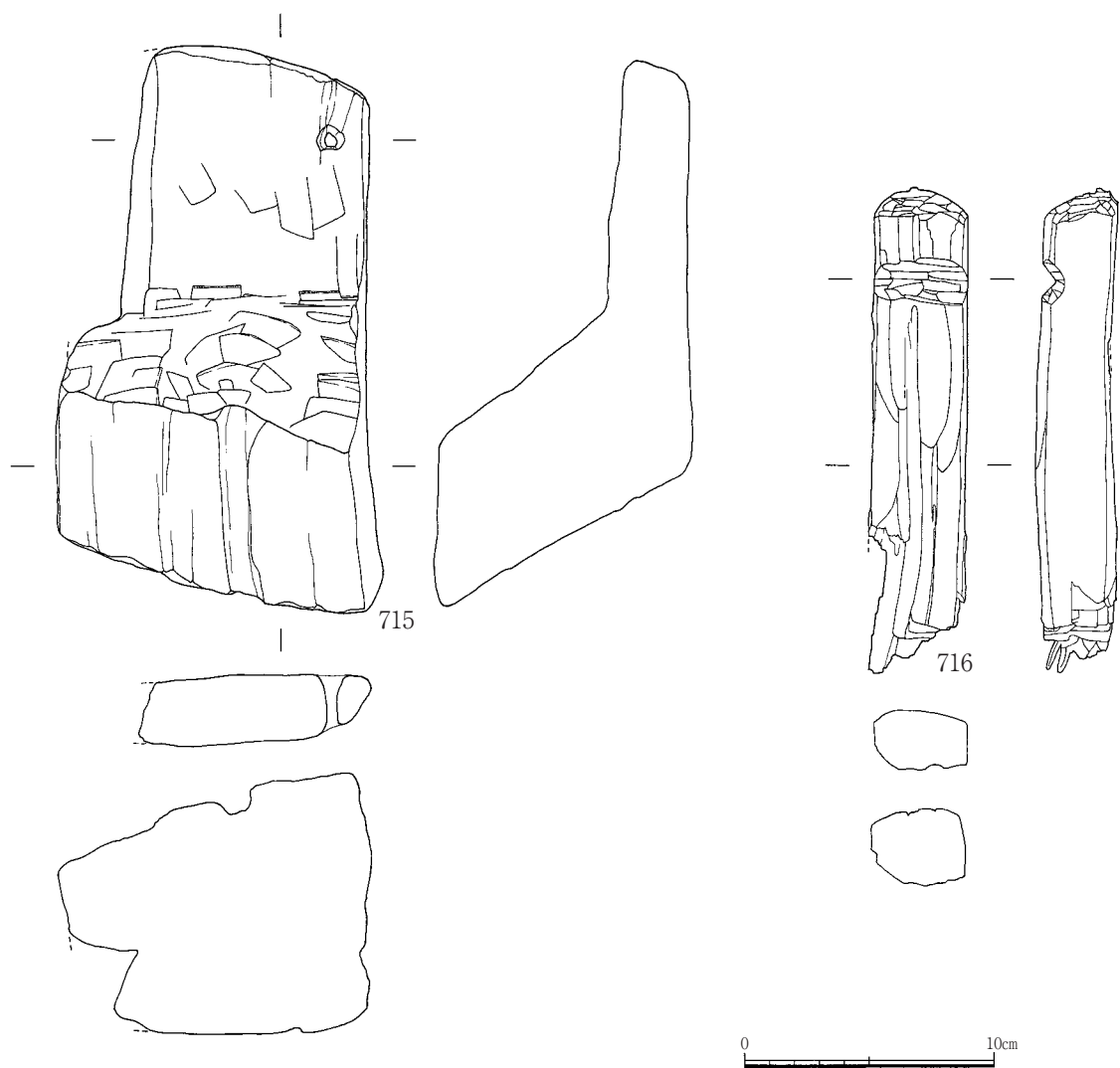


Fig.134 3 A区出土木製品39 (S : 1/3)

註

- (1) 半截竹管状工具等を使用して，2条単位の平行沈線を一括施文したとみられる沈線文について，本文中ならびに観察表中では平行沈線文と区分して「複線」と表記した。
- (2) 黒崎 直『日本の美術第357号 古代の農具』1996年，至文堂



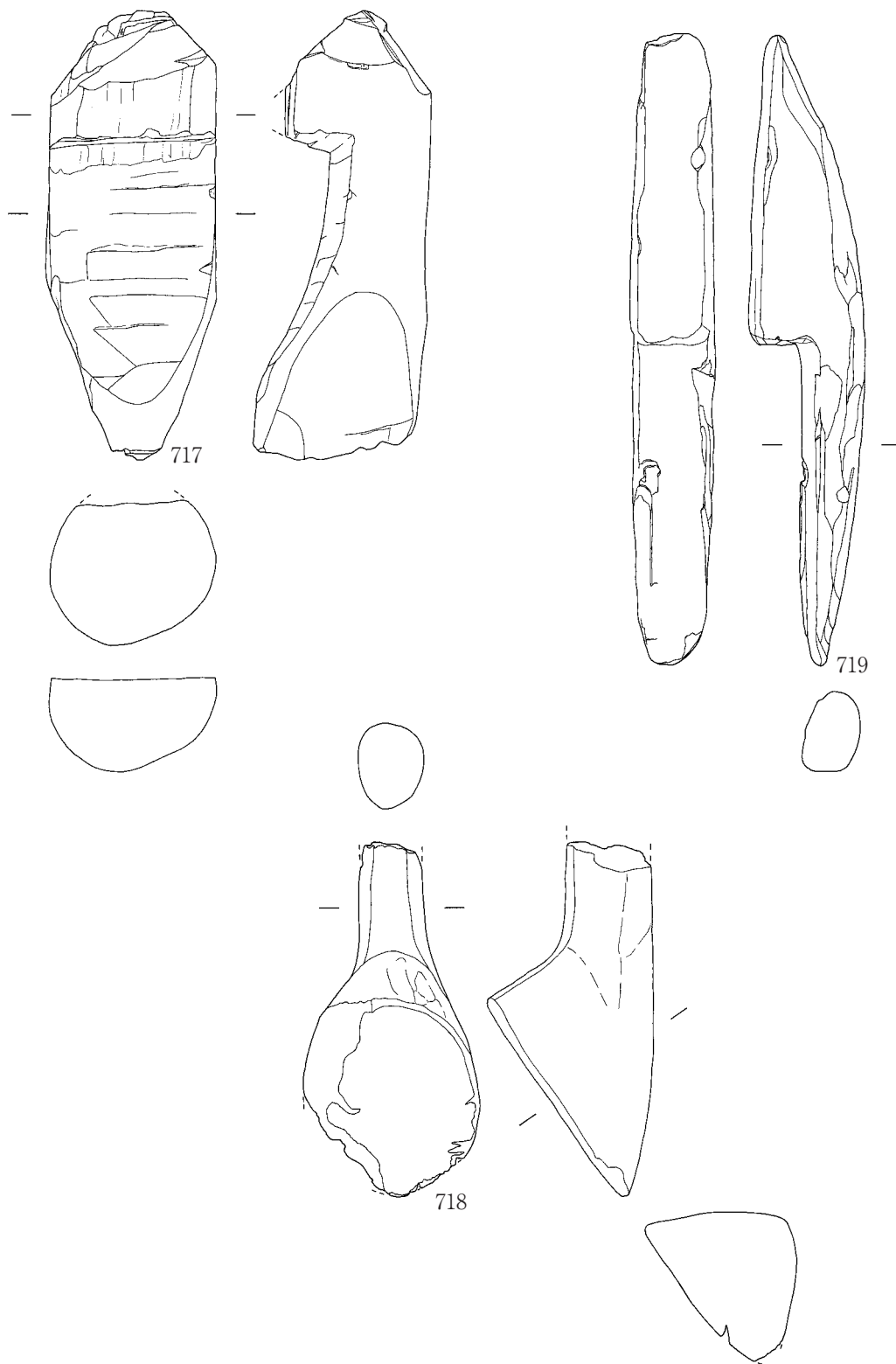


Fig.135 3 A区出土木製品40 (S : 1/2)

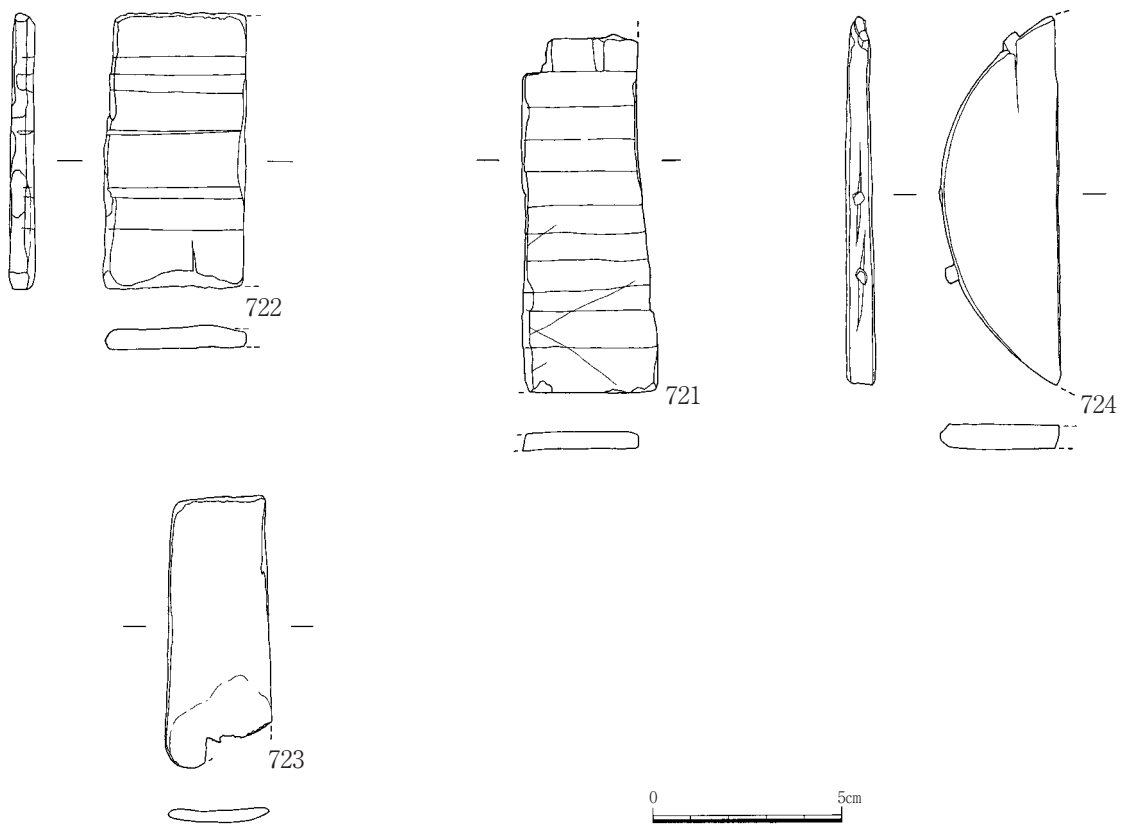
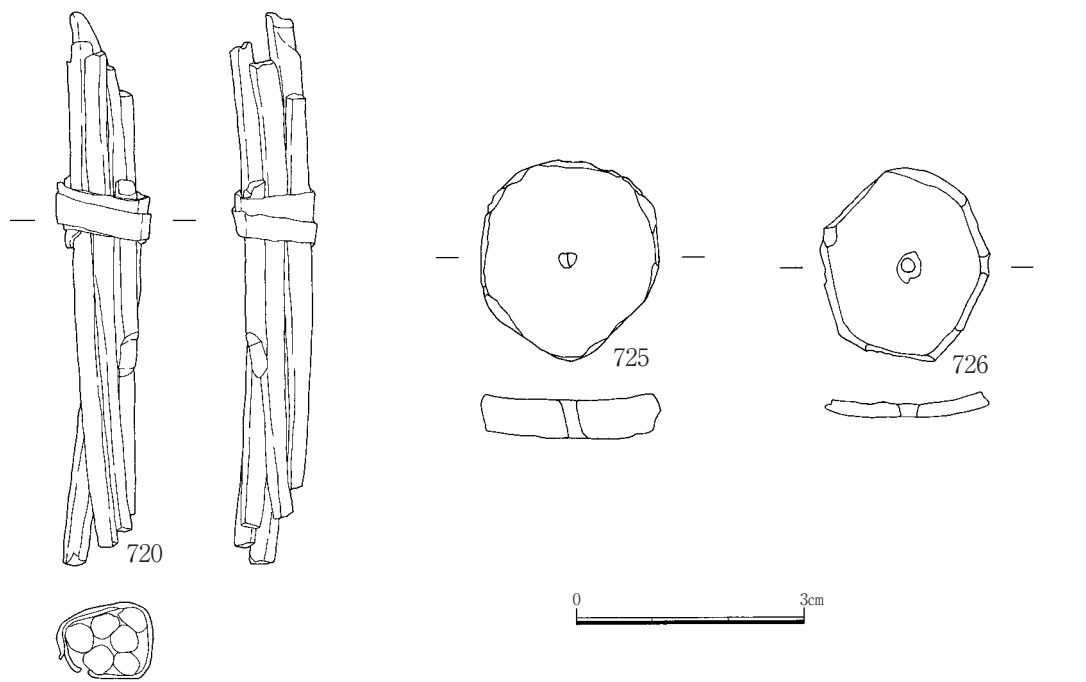


Fig.136 3 A区出土木製品41 (S : 1/1 · 1/2)

表7 3A区出土土器観察表1

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.28-1	VII層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.30	条痕 条痕	黄灰 にふい橙 2.5Y 5/1 7.5YR 7/4	チャート、石英 砂岩	外面：スス 内面：黒斑あり 縄文晩期
Fig.28-2	VII層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.70	ナデ 沈線2? (ヘラナデ?)、ナデ	にふい橙 " 5YR 6/4 " 6/3	長石、チャート 石英、砂岩	縄文晩期
Fig.28-3	VII層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.00	ナデ、押圧 押圧、ナデ	灰白 " 2.5Y 7/1 " "	チャート、石英	縄文晩期?
Fig.28-4	ベルトA VII層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 3.10	ミガキ? (磨滅) 押圧、ナデ	灰黄褐 にふい黄橙 10YR 6/2 " 7/2	石英、砂岩	縄文後期?
Fig.28-5	VII層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 2.70	ミガキ ミガキ	褐灰 灰黄褐 10YR 4/1 " 6/2	石英、長石、雲母	内面：黒色磨研 縄文晩期
Fig.29-6	ベルトA VD1層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.00	条痕、ナデ ナデ 口縁端部外端側：刻目	にふい黄橙 灰黄褐 10YR 7/2 " 6/2	石英、長石 チャート	外面：スス、タール 縄文晩期
Fig.29-7	ベルトB VD層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.50	条痕、押圧 ナデ、押圧 口縁端部：刻目	黄灰 " 2.5Y 4/1 " 5/1	石英、チャート 長石	外面：黒斑あり 縄文晩期
Fig.29-8	ベルトB VD層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.80	条痕 条痕、ナデ	灰黄 暗灰黄 2.5Y 6/2 " 5/2	石英、長石 チャート、砂岩	外面：タール、スス 縄文晩期
Fig.29-9	VD層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.90	条痕、ナデ 条痕、ナデ、押圧	にふい黄橙 褐灰 10YR 7/2 " 6/1	石英、砂岩 チャート、長石	縄文晩期
Fig.29-10	VD層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.90	条痕、ナデ、押圧 ナデ、押圧	灰 黄灰 N 4/0 2.5Y 4/1	石英、チャート	縄文晩期
Fig.29-11	ベルトB VD層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.70	ナデ、押圧 ナデ、押圧	にふい黄橙 " 10YR 6/3 " "	石英、チャート	内面：黒斑? 縄文晩期
Fig.29-12	ベルトB VD層	縄文土器 深鉢? 口縁部片	口径 10.70 残高 3.70	段1+刻目(貼付突帯状)、爪形刺突1段、押圧、ナデ 押圧、ナデ	にふい赤褐 黒 5YR 4/4 10YR 2/1	長石、石英、砂岩	外面：タール、スス 縄文晩期～弥生前期?
Fig.29-13	ベルトB VD層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.90	条痕(ハケ状)、ナデ 条痕(ハケ状)、押圧	黄灰 " 2.5Y 5/1 " 6/1	石英、チャート 砂岩、長石	擬条痕? 縄文晩期～弥生前期?
Fig.29-14	ベルトB VD層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 5.70 底径 7.00	条痕、押圧 ナデ	黄灰 灰褐 2.5Y 6/1 7.5YR 4/2	チャート、石英 長石、結晶片岩	底部：高台状 縄文晩期
Fig.29-15	VD層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 3.05 底径 6.30	条痕、押圧 ナデ、板ナデ、押圧 底面：ナデ、押圧、ヘラナデ	灰黄褐 にふい橙 10YR 6/2 7.5YR 6/4	石英、チャート 砂岩、長石	底部：高台状 外面：スス 縄文晩期
Fig.29-16	VD層	縄文土器 浅鉢 口縁～頭部片	残高 4.40	沈線1、ミガキ 凹線状1、ミガキ	暗灰 褐灰 N 3/0 10YR 4/1	長石、チャート 石英	下端：擬口縁露出 黒色磨研 縄文晩期
Fig.29-17	ベルトB VD層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 1.90	ミガキ 沈線1、ミガキ	暗灰 褐灰 N 3/0 10YR 5/1	長石、石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.29-18	VD層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.30	ミガキ ミガキ	褐灰 " 10YR 4/1 " "	石英、長石	縄文晩期
Fig.29-19	VD層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.00	ミガキ 段1=沈線状、ミガキ、ナデ、押圧	灰黄 にふい橙 2.5Y 7/2 7.5YR 7/4	石英、長石 角閃石、砂岩	口縁端部：内方に肥厚 縄文晩期
Fig.29-20	ベルトB VD層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 4.10	ナデ(磨滅)、押圧 ナデ、押圧 口縁端部外端：刻目	にふい褐 " 7.5Y 5/3 " "	チャート、長石 石英、砂岩	弥生前期
Fig.29-21	ベルトB VD層	弥生土器 鉢 口縁部片	残高 3.00	磨滅(ミガキ?) ミガキ	灰黄褐 " 10YR 5/2 " 6/2	石英、砂岩、長石 チャート	内面：黒斑あり 弥生前期
Fig.29-22	ベルトC VD層	土師器 壺? 口縁部片	残高 4.70	段1=貼付(折返し)・肥厚、ハケ、ナデ、押圧 ハケ、押圧	灰 明赤褐 N 5/0 5YR 5/6	石英、長石、砂岩	弥生後期～古墳前期? 上層からの混入品
Fig.30-23	ベルトD VC4層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.50	ナデ 条痕	灰白 " 10YR 7/1 " 8/2	砂岩、石英 チャート	縄文晩期
Fig.30-24	ベルトC VC4層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.00	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧 ナデ	にふい黄橙 " 10YR 6/3 " "	チャート、石英	内面：黒斑あり 縄文晩期
Fig.30-25	ベルトC VC4層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 2.70	ケズリ、ナデ 沈線1、ミガキ	黄灰 オリープ黒 2.5Y 4/1 5Y 3/1	石英、長石	外面：タール 黒色磨研 縄文晩期
Fig.30-26	ベルトC VC4層	弥生土器 壺 胴部片	残高 2.60	斜沈線6、ミガキ ナデ	にふい橙 " 5YR 6/4 " "	石英、長石、雲母 砂岩	弥生前期
Fig.30-27	ベルトC VC4層	弥生土器 壺 胴部片	残高 2.30	沈線1、斜沈線1段、ミガキ ミガキ	にふい黄橙 橙 10YR 7/2 5YR 6/6	砂岩、チャート 石英	上端：擬口縁露出 弥生前期 土製甲板製作途上品?
Fig.30-28	ベルトB VC3層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.30	沈線5、対向「C」字ヘラ描き文、縄文LR ミガキ～ナデ(丁寧)?、沈線1?	黄褐 黒褐 10YR 5/6 " 3/1	石英、長石	縄文後期 伊吹町式?

表8 3A区出土土器観察表2

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.30-29	ベルトB VC3層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.30	沈線4、縄文帯1 (RL)、ミガキ～ナデ (丁寧) ミガキ～ナデ (丁寧)	黒褐 " 2.5Y 3/1 " " "	長石、石英、砂岩	縄文後期
Fig.30-30	ベルトB VC3層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.50	ナデ、押圧 ナデ? (磨滅) 口縁端面: 刻目	にぶい黄橙 10YR 6/3 黄灰 2.5Y 6/1	石英、チャート	縄文晩期
Fig.30-31	ベルトD VC3層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.10	条痕 条痕+ナデ、条痕	にぶい褐 7.5YR 6/3 " " "	砂岩、長石、石英	縄文晩期
Fig.30-32	ベルトB VC3層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 4.50	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧 押圧、ナデ	灰黄褐 10YR 4/2 にぶい黄褐 " 5/3	チャート、石英	内面: 黒炭 外面: スス、タール 縄文晩期～弥生前期? 弥生土器・甕?
Fig.30-33	ベルトB VC3層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.20	段1、ミガキ?、ナデ? (磨滅) 沈線1、段1=沈線状、ミガキ? (磨滅)	灰黄褐 10YR 5/2 " " 6/2	長石、石英 角閃石?	縄文晩期
Fig.30-34	ベルトB VC3層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 1.70	ミガキ? (磨滅) ミガキ 口縁端面: 唇状突起1	オリーブ黒 5Y 3/1 灰黄 2.5Y 7/2	長石、石英	縄文晩期
Fig.30-35	ベルトB VC3層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 6.30	沈線1、ミガキ ミガキ	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " " "	チャート、砂岩 石英、長石	弥生前期
Fig.30-36	ベルトB VC3層	弥生土器 壺 頸部片	残高 2.40	段1、ミガキ ナデ	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " "	石英、長石 チャート	弥生前期
Fig.30-37	ベルトB VC3層	弥生土器 甕 底部片	残高 8.60 底径 10.40	板ナデ、ナデ ナデ、押圧 底面: 粒状圧痕、ナデ	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " "	チャート、砂岩 石英、長石	外面: 黒斑あり
Fig.31-38	ベルトB VC2層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.10	条痕 ナデ、押圧 口縁端面外端側: 刻目	灰黄 2.5Y 7/2 黄灰 " 6/1	石英、砂岩、長石 チャート	縄文晩期
Fig.31-39	ベルトB VC2層	縄文土器 深鉢 口縁～胴部片	残高 5.10	条痕 沈線1～2、ナデ、押圧 口縁端面内端側: 刻目	にぶい褐 7.5YR 5/4 橙 " 6/6	石英、砂岩 チャート、長石	縄文晩期
Fig.31-40	ベルトC VC2層	縄文土器 深鉢 口縁～胴部片	残高 6.60	条痕+ナデ、押圧 ナデ、押圧 口縁端面: 刻目	灰黄 2.5Y 6/2 灰黄褐 10YR 5/2	チャート、長石	外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.31-41	ベルトC VC2層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.70	刻目突帯貼付1、縦位沈線3 (複線原体)、ナデ 縦位沈線4 (複線原体)、沈線2 (複線原体)、ナデ、押圧	暗灰黄 " 2.5Y 5/2 " " "	長石、石英 チャート	内面: 黒斑あり 縄文晩期～弥生前期
Fig.31-42	ベルトD VC2層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 3.90 底径 8.40	条痕、押圧 ナデ、押圧 底面、ナデ、押圧	褐灰 10YR 4/1 にぶい黄橙 " 6/4	長石、石英 チャート	底部: 高台状 外面: スス
Fig.31-43	ベルトC VC2層	弥生土器? 甕? 口縁部片	残高 2.10	段1=接合部、ナデ ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 にぶい黄橙 " 7/2	石英、砂岩	破状口縁 縄文晩期～弥生前期 縄文土器?
Fig.31-44	ベルトB VC2層	弥生土器 壺 頸～胴部片	残高 7.30	沈線4、重弧文 (3条)、ミガキ ナデ、押圧	黒褐 2.5Y 3/2 黒 " 2/1	石英、長石、砂岩	内外面: スス、タール 弥生前期
Fig.31-45	ベルトC VC2層	弥生土器 壺 頸～胴部片	残高 11.40 胴径 28.00	段1、ミガキ?、段1=接合部、ミガキ 押圧、ナデ、板ナデ?	黒褐 7.5YR 3/ 黒 2.5Y 2/1	石英、砂岩、長石	外面: 赤彩、タール 内面: スス 弥生前期
Fig.31-46	ベルトA VC2層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 3.30	斜位櫛描文 (4条単位?)、ナデ	黄褐 2.5Y 5/3 にぶい黄褐 10YR " "	長石、砂岩	外面: 黒斑あり 弥生中期? 上層からの混入品?
Fig.31-47	ベルトC VC1層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.60	ナデ 沈線1、ナデ 口縁端面外端側: 刻目	褐灰 10YR 4/1 にぶい橙 7.5YR 6/4	長石、チャート	縄文晩期
Fig.31-48	ベルトB VC1層	縄文土器 深鉢 口縁～頸部片	残高 4.20	刻目突帯貼付1 (半截竹管刺突)、ヘラナデ、ナデ ナデ	にぶい褐 7.5YR 5/3 " " "	石英、チャート	縄文晩期
Fig.31-49	ベルトC VC1層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.50	突帯貼付1、突帯上下: ミガキ=沈線状、ミガキ ミガキ	黒 " 2.5Y 2/1 " " "	石英、チャート	黒色磨研 縄文晩期 中村1式
Fig.31-50	ベルトC VC1層	縄文土器 浅鉢 底部片	残高 3.70	ナデ、条痕+ナデ?、押圧 押圧、ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 褐灰 " 6/1	チャート、石英 長石	平底 内外面: タール 縄文晩期～弥生前期?
Fig.31-51	ベルトC VC1層	弥生土器 壺 胴部片	残高 15.20 胴径 26.00	梯子状ヘラ描き文 (沈線2+斜位=斜格子状沈線)、ミガキ ナデ、押圧	にぶい橙 7.5YR 6/4 橙 5YR 6/6	砂岩、石英 チャート	外面: 黒斑 (タール?) 弥生前期
Fig.31-52	ベルトC VC1層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.50	刻目突帯貼付1 (「端面外端刻目」的)、沈線1、ナデ、押 圧/ナデ、押圧	黒 2.5Y 2/1 黒褐 " 3/1	長石、石英	内外面: タール 弥生前期
Fig.32-53	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.10	沈線3、縄文LR、刺突文1段、ミガキ～ナデ (丁寧) ミガキ～ナデ (丁寧)	橙 " 5YR 6/6 " " "	石英、長石、雲母	縄文後期 広瀬土層～伊吹町式
Fig.32-54	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.70	段1=貼付・肥厚、ナデ ナデ (ケズリ状)、ナデ 口縁端面: 縄文RL (擬縄文?)	オリーブ黒 5Y 3/1 " " "	石英、砂岩 チャート	縄文後期
Fig.32-55	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.20	ミガキ ミガキ、ナデ (丁寧) 口縁端面: 縄文RL	にぶい褐 7.5YR 5/4 " " "	長石、石英	縄文後期
Fig.32-56	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.60	ナデ、押圧	灰白 10YR 8/1 灰黄 2.5Y 7/2	砂岩、石英、長石	縄文後期?

表9 3A区出土土器観察表3

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.32-57	VC層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 3.20	沈線2, 斜位沈線2, 縄文LR ナデ	にぶい黄橙 10YR 6/3 にぶい橙 7.5YR 6/4	長石, 砂岩, 石英 角閃石	縄文後期 片箱式?
Fig.32-58	VC層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 3.40	刺突文2段, ミガキ~ナデ (丁寧), 条痕?, ヘラナデ? ナデ	黒 5Y 2/1 にぶい黄褐 10YR 5/3	石英, 長石, 雲母	縄文後期
Fig.32-59	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.60	沈線5, 斜位刺突1段, 縄文LR, ナデ, ミガキ~ナデ (丁寧) /ナデ, ミガキ~ナデ (丁寧) 口縁端部: 突起部1=内外方に肥厚	にぶい赤褐 5YR 5/4 灰褐 7.5YR 4/2	長石, 砂岩, 石英	内外面: 黒変 縄文後期 広瀬上層~伊吹町式? 深鉢?
Fig.32-60	VC層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 1.90	沈線1, 斜位短沈線1段, 刺突1, ミガキ 沈線1, ミガキ	灰黄褐 10YR 6/2 褐灰 " 4/1	石英, 長石, 雲母	縄文後期?
Fig.32-61	VC層	縄文土器 注口土器? 胴部片	残高 3.10	沈線1, 円形刺突1, 弧状沈線1, 縦位沈線2 (末端部刺突 1), 擬縄文, ミガキ/ナデ	黄灰 2.5Y 5/1 " " "	石英, 長石	擬縄文: 二枚貝腹縁原体 縄文後期 彦崎KII式?
Fig.32-62	VC層	縄文土器 注口土器 胴部片	残高 4.80 胴径 14.60	沈線3, 沈線文 (三角形モチーフ), 擬縄文 (磨消), ミガ キ/ナデ, 押圧	褐灰 10YR 4/1 にぶい黄橙 " 6/3	石英, 雲母, 長石	擬縄文: 二枚貝腹縁原体 縄文後期 彦崎KII式?
Fig.32-63	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.10	沈線2, ナデ 沈線1, ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 褐灰 " 4/1	長石, 石英	縄文晩期?
Fig.32-64	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.10	沈線1, ミガキ 沈線1, ミガキ	黒 5Y 2/1 " " "	石英, チャート	縄文晩期?
Fig.33-65	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.70	沈線2, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " "	砂岩, 石英 チャート, 長石	縄文晩期?
Fig.33-66	VC層	縄文土器 深鉢? 口縁~胴部片	残高 2.90	ナデ, 押圧 沈線2, ナデ, 押圧 口縁端部: 刻目	オリーブ黒 5Y 3/1 灰 " 4/1	石英, 長石	縄文晩期~弥生前期? 弥生土器~甕?
Fig.33-67	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.20	条痕 (磨滅) 沈線1, ナデ, 押圧	にぶい橙 7.5YR 7/3 " " "	チャート, 石英	縄文晩期
Fig.33-68	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.40	突帯1 (貼付?), ナデ? (磨滅) ナデ? (磨滅)	にぶい橙 7.5YR 6/4 橙 5YR 6/6	砂岩, 長石	縄文晩期
Fig.33-69	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.00	突帯貼付1, ミガキ 沈線1~2? (ミガキ原体?), ミガキ~ナデ (丁寧)	褐灰 10YR 4/1 " " "	チャート, 石英 長石	縄文晩期 精製深鉢 中村I式?
Fig.33-70	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.60	ナデ ナデ 口縁端部: 円形刺突	にぶい褐 7.5YR 5/4 " " "	砂岩, 石英, 長石	縄文晩期
Fig.33-71	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.80	条痕 ナデ 口縁端部外端側: 刻目	灰黄 2.5Y 6/2 " " 7/2	石英, チャート 砂岩	内面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.33-72	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.20	条痕 ナデ, 押圧 口縁端部: 刻目	オリーブ黒 5Y 3/1 にぶい黄橙 10YR 5/3	石英, 砂岩 チャート, 長石	内面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.33-73	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.70	条痕, ナデ 条痕, ナデ 口縁端部: 段差=突起部 口縁端部: 刻目	黄灰 2.5Y 4/1 にぶい黄褐 10YR 5/3	石英, チャート 砂岩	縄文晩期
Fig.33-74	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.00	条痕+ナデ 沈線1, ナデ, 押圧 口縁端部: 刻目	黄灰 2.5Y 5/1 灰黄 " 7/2	石英, 砂岩	縄文晩期
Fig.33-75	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.40	条痕, ナデ ナデ, 押圧	灰黄褐 10YR 6/2 " " "	石英, チャート 砂岩	縄文晩期
Fig.33-76	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.70	条痕 ナデ, 押圧	灰黄褐 10YR 5/2 にぶい橙 7.5YR 6/4	石英, チャート	縄文晩期
Fig.33-77	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.50	条痕 ナデ	暗灰 " N 3/ " " "	長石, 石英 チャート	縄文晩期
Fig.33-78	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.10	条痕 条痕, ナデ	にぶい赤褐 5YR 5/4 黒褐 10YR 3/1	長石, 結晶片岩 石英, 砂岩	縄文晩期
Fig.33-79	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 6.10	ナデ, 押圧 ナデ, ヘラナデ?	橙 5YR 6/6 にぶい橙 7.5YR 6/4	砂岩, 長石 チャート	縄文晩期
Fig.33-80	VC層	縄文土器 深鉢 頸部片	残高 3.70	縦位刺突文1列 (半截竹管), ナデ ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 暗灰 N 3/	石英, チャート 長石	外面: タール, スス 縄文晩期
Fig.33-81	VC層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 4.70	刻目突帯貼付1, ナデ, 押圧, ケズリ ナデ, 押圧	褐灰 10YR 5/1 にぶい橙 7.5YR 7/3	石英, 砂岩 チャート	外面: スス, タール 縄文晩期
Fig.33-82	VC層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 4.20	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ	黒褐 10YR 3/1 にぶい褐 7.5YR 5/3	石英, 長石	内面: 黒変, タール 縄文晩期
Fig.33-83	VC層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 3.95 底径 8.15	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 底面: ナデ, 押圧	にぶい橙 7.5YR 6/4 黄灰 2.5Y 4/1	石英, チャート 砂岩	底部: 凹み底 縄文晩期?
Fig.34-84	VC層	弥生土器 鉢? 口縁部片	残高 2.90	段1=貼付・肥厚, ミガキ, ナデ ミガキ, ナデ, 押圧	暗灰 " N 3/0 " " "	砂岩, チャート 石英	黒色磨研 縄文晩期

表10 3A区出土土器観察表4

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調	内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.34-85	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 3.70	凹線状1, ミガキ, ナデ ミガキ, 段部: 沈線状1	黒褐 "	2.5Y 3/1 " "	石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-86	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.30	ミガキ ミガキ	黒 "	2.5Y 2/1 " "	石英, 長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-87	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.90	凹線1, ミガキ? (磨滅) 凹線状1, ミガキ	黄灰 暗灰黄	2.5Y 4/1 " 5/2	角閃石, 石英 長石	縄文晩期?
Fig.34-88	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.20	沈線1, ミガキ 沈線状1, ミガキ	褐灰 "	10YR 4/1 " "	雲母, 長石, 石英 角閃石	縄文晩期?
Fig.34-89	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.60	凹線2 (沈線?), ミガキ 段1 = 沈線状, ミガキ	灰 "	5Y 6/1 " "	長石, 石英, 雲母	縄文晩期?
Fig.34-90	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 3.50	段1, ナデ, ケズリ 沈線2, ミガキ, ナデ (丁寧)	黒 "	10YR 1.7/1 " "	石英, 長石	黒色磨研 縄文晩期 波状口縁方形浅鉢?
Fig.34-91	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.40	ミガキ, 段1, ミガキ (ヘラナデ状) ミガキ, 段部: 沈線状	褐灰 黒褐	10YR 4/1 " 3/1	長石, チャート	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-92	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.20	ミガキ, 下端: 段? 段1 = 肥厚, ミガキ	黄灰 オリーブ黒	2.5Y 4/1 5Y 3/1	石英, 長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-93	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.70	ミガキ 段1 = 沈線状, ミガキ	にふい黄褐 黒褐	10YR 4/3 " 3/1	石英, 長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-94	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.50	沈線1, ミガキ 沈線1, ミガキ	黒褐 "	2.5Y 3/2 " "	長石, 雲母, 石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-95	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.10	ミガキ 沈線1, ナデ 口縁端部: 刻目	褐灰 灰黄褐	10YR 4/1 " 6/2	石英, 長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-96	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.80	ミガキ ミガキ 口縁端部: 刻目	オリーブ黒 褐灰	5Y 3/1 10YR 4/1	石英, 長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-97	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.90	ミガキ 段1 = 肥厚, ミガキ	灰 "	5Y 4/1 " "	石英, 長石, 雲母 角閃石?	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-98	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.00	ミガキ, 押圧 沈線1, ミガキ	黒褐 黒	10YR 3/2 5Y 2/1	石英, 長石, 砂岩	波状口縁 黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-99	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.70	ミガキ 沈線1, ミガキ 口縁端部: リボン状突起1	黄灰 "	2.5Y 4/1 " "	石英, チャート 長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-100	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.70	ミガキ～ナデ (丁寧) 沈線2, ミガキ	灰黄褐 "	10YR 6/2 " "	石英, 長石	縄文晩期
Fig.34-101	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.60	ミガキ 粘土帯貼付 = 肥厚, ミガキ	灰黄褐 にふい黄橙	10YR 5/2 " 6/3	雲母, 石英, 長石	口縁端部内面: 擬口縁露 出?
Fig.34-102	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.20	ミガキ ミガキ	黒褐 "	2.5Y 3/1 " 3/2	砂岩, 長石, 石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-103	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 2.50	ミガキ? (磨滅) 段1 (凹線状), ミガキ? (磨滅), ナデ? (磨滅)	にふい黄橙 "	10YR 7/3 " "	長石, 石英	縄文晩期
Fig.34-104	VC層	縄文土器 浅鉢 頸～胴部片	残高 4.00	ミガキ ミガキ	黄灰 "	2.5Y 4/1 " 5/1	石英, 砂岩, 長石	外面: 黒斑あり 黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-105	VC層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 2.80	ミガキ, ケズリ 段1: 凹線状, ミガキ	黒褐 褐灰	10YR 3/1 " 4/1	長石, 石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.34-106	VC層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 3.40	沈線状1 (屈曲部), ミガキ ミガキ	黒褐 "	2.5Y 3/1 " "	長石	縄文晩期
Fig.35-107	VC層	縄文土器 蓋 胴～唇部	口径 残高 10.80 3.80	沈線5, 横原式文様, ミガキ ミガキ～ナデ (丁寧)	にふい黄橙 褐灰	10YR 7/2 " 6/1	砂岩, チャート	内面: 炭化物付着 外面: 黒斑あり 縄文晩期・横原式
Fig.36-108	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.40	刻目突帯貼付1, 山形沈線文, 条痕 ナデ, 押圧 口縁端部外端: 刻目	黒褐 "	10YR 3/1 " "	長石, 石英 チャート	外面: タール 縄文晩期
Fig.36-109	VC層	縄文土器 深鉢 口縁～胴部片	残高 6.00	突帯貼付1, ナデ ナデ, 押圧	灰黄褐 黒褐	10YR 4/2 " 3/1	長石, 石英 チャート	内面: 黒斑? 外面: おこげ付着多 縄文晩期
Fig.36-110	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.70	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ, 押圧	灰 "	5Y 5/1 " 6/1	チャート, 石英	縄文晩期
Fig.36-111	VC層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.00	ナデ, ケズリ, 押圧 ナデ, ミガキ, 押圧	黒褐 "	2.5Y 3/1 " "	チャート, 石英 長石	黒色磨研? 縄文晩期
Fig.35-112	VC層	縄文土器 壺 口縁部片	残高 2.00	沈線1 + 赤彩充填, ミガキ (全面赤彩?) ミガキ (赤彩痕跡あり)	灰褐 "	10YR 4/1 " "	長石	縄文晩期

表11 3A区出土土器観察表5

挿入番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.36-113	VC層	縄文土器 壺 口縁~胴部片	残高 2.30	ミガキ ミガキ	黒褐 黒 2.5Y " 2/1	長石, 石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.36-114	VC層	縄文土器 壺 頸部片	残高 3.90	沈線1, ミガキ, 赤彩? ケズリ, ナデ, 押圧	灰黄 にぶい橙 2.5Y 7.5YR 6/2 6/4	石英, 長石	縄文晩期
Fig.36-115	VC層	縄文土器 壺 胴部片	残高 3.70	沈線1(接合部), ミガキ ナデ(ケズリ状)	暗灰 黒褐 N 2.5Y 3/0 3/2	石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.36-116	VC層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	残高 4.80	刻目突帯貼付1, 凹線状1, ナデ ナデ 口縁端部外端側: 刻目	褐灰 黒褐 10YR " 4/1 3/1	石英	波状口縁 外面: タール 縄文晩期
Fig.36-117	VC層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.50	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ, 押圧	黒褐 " 10YR " 3/1 "	長石, チャート 石英	外面: おこげ付着多 内面: 黒変 縄文晩期
Fig.36-118	VC層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	残高 9.40	突帯貼付1, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	黄灰 灰白 10YR " 4/1 8/2	チャート, 石英 砂岩, 長石	縄文晩期
Fig.36-119	VC層	縄文土器? 深鉢? 口縁部片	残高 2.90	ナデ 沈線1, ナデ 口縁端部外端側: 刻目	黄灰 暗灰黄 2.5Y " 4/1 5/2	石英, チャート 砂岩	弥生土器・甕? 内面: 黒変 縄文晩期~弥生前期?
Fig.36-120	VC層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 5.60 底径 7.00	ナデ, 押圧, 板ナデ ナデ, 押圧 底面: 押圧	黒褐 にぶい褐 7.5YR " 3/1 5/3	チャート, 長石 砂岩, 泥岩, 石英	内み底 内面: 黒変(タール) 縄文晩期~弥生前期?
Fig.37-121	VC層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 4.30	段1=接合部, ミガキ ハケ, ナデ?	にぶい黄橙 浅黄橙 10YR " 7/3 8/3	石英, 砂岩	弥生前期
Fig.37-122	VC層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 3.00	段1=接合部, ミガキ ミガキ	にぶい黄橙 " 10YR " 6/4 6/3	石英, 長石, 雲母 砂岩	内外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.37-123	VC層	弥生土器 壺 頸部片	残高 3.90	沈線5, ミガキ ミガキ, ハケ+ナデ	にぶい黄橙 " 10YR " 6/3 "	石英, 長石, 雲母	弥生前期
Fig.37-124	VC層	弥生土器 壺 頸部片	残高 3.80	斜位沈線4, ミガキ~ナデ(丁寧) ナデ	灰黄褐 " 10YR " 4/2 "	長石, 石英, 雲母	弥生前期
Fig.37-125	VC層	弥生土器 壺 頸部片	残高 3.50	斜位沈線2, ミガキ~ナデ(丁寧) ナデ	褐灰 灰黄褐 10YR " 4/1 6/2	石英, 長石, 雲母	弥生前期
Fig.37-126	VC層	弥生土器 壺 胴部片	残高 3.30	沈線1(段部), ミガキ ナデ, 押圧	にぶい黄橙 にぶい褐 10YR 7.5YR 6/3 5/3	雲母, 石英 チャート, 砂岩	外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.37-127	VC層	弥生土器 壺 胴部片	残高 2.70	沈線10, 刺突1段 ナデ, 押圧	にぶい黄橙 にぶい橙 10YR 7.5YR 7/3 6/4	砂岩, チャート 石英	弥生前期
Fig.37-128	VC層	弥生土器 壺 胴部片	残高 2.90	沈線3, 縦位短沈線1段, ミガキ ナデ, 押圧	褐灰 " 5YR " 4/1 "	砂岩, 石英	内外面: 黒変あり 弥生前期
Fig.37-129	VC層	弥生土器 壺 胴部片	残高 3.40	沈線3, 斜位沈線2, ミガキ ナデ, ヘラナデ	褐灰 にぶい褐 7.5YR " 5/1 6/3	チャート, 石英 砂岩	外面: スス, タール 弥生前期
Fig.37-130	VC層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.00	沈線4, ミガキ ナデ	にぶい黄褐 褐灰 10YR " 5/3 4/1	石英, 長石, 雲母	外面: 黒変あり 弥生前期
Fig.37-131	VC層	弥生土器 壺 底部片	残高 6.70 底径 12.50	ミガキ, ナデ, ハケ ナデ 底面: ナデ	黒褐 " 2.5Y " 3/1 "	石英, 長石 チャート	外面: 黒変あり, タール 内面: タール付着 弥生前期
Fig.37-132	VC層	弥生土器 甕 口縁~胴部片	残高 5.70	突帯貼付1+円形刺突1段, 縦位刻目突帯貼付1, 縦位円形 刺突1列, 斜位沈線文帯3, 円形刺突1段+1段?, ミガキ ?/ナデ, 押圧	黄褐 黒 2.5Y " 5/3 2/1	長石	波状口縁 外面: タール, スス, お こげ 弥生前期
Fig.37-133	VC層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.20	刻目突帯貼付1, ナデ ナデ?(磨滅?) 口縁端部: 刻目	にぶい橙 " 7.5YR " 7/4 "	砂岩, 石英, 長石	弥生前期
Fig.37-134	VC層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.50	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 口縁端部外端側: 刻目	灰黄 暗灰黄 2.5Y " 6/2 5/2	チャート, 石英	弥生前期
Fig.37-135	VC層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 1.50	ナデ ナデ 口縁端部外端側: 刻目	にぶい橙 黒 7.5YR 2.5Y 6/4 2/1	砂岩, チャート	外面: スス, タール 弥生前期
Fig.37-136	VC層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 1.90	ナデ, 押圧 ナデ 口縁端部: 刻目	にぶい赤褐 " 5YR " 5/4 "	長石, 石英 チャート, 砂岩	外面: タール 弥生前期
Fig.38-137	ベルトB VB2層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.30	刻目突帯貼付1, 沈線1, 縦位刺突(縦線施文?)4列, ナ デ, 押圧/ナデ, 押圧 口縁端部外端側・内端側: 刻目	黄灰 暗灰 2.5Y N 6/1 3/0	チャート, 石英	外面: おこげ, スス 内面: スス, タール 縄文晩期
Fig.38-138	ベルトB VB2層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.00	円孔2(1段?), 条痕, ナデ 条痕, ナデ	にぶい黄褐 灰黄褐 10YR " 5/3 5/2	長石, 石英	孔列文? 縄文晩期
Fig.38-139	ベルトB VB2層	弥生土器 壺 胴~底部片	残高 7.80 底径 10.50	ミガキ, 板ナデ ミガキ 底面: 押圧, ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐 10YR " 6/3 6/2	石英, チャート 長石, 砂岩	外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.38-140	ベルトB VB2層	弥生土器 壺 底部片	残高 3.30 底径 12.00	ミガキ, 押圧, ナデ 押圧 底面: ナデ(丁寧)	黒褐 にぶい黄橙 7.5YR 10YR 3/1 6/3	石英, 長石, 砂岩 チャート	内外面: タール 弥生前期

表12 3A区出土土器観察表6

挿入番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調	内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.38-141	ベルトD VB1層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.20	縦位沈線文1段, 沈線下端: 刺突, 縄文L.R., ナデ ナデ	灰黄褐 "	10YR 5/2 "	長石, 砂岩	縄文後期
Fig.38-142	ベルトC VB1層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 2.90	沈線1+刺突1段, 擬縄文R.L.? (櫛状原体?), ミガキ ナデ, 押圧	灰黄褐 "	10YR 6/2 "	石英, 雲母, 長石	縄文後期
Fig.38-143	ベルトC VB1層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.65	円形押圧文, ミガキ ナデ 口縁端部: 内方に拡張	灰 黄灰	5Y 4/1 2.5Y "	石英, 長石, 雲母 砂岩	波状口縁?(突出部あり) 外面: 黒斑あり 黒色磨研? 縄文後~晩期?
Fig.38-144	ベルトD VB1層	縄文土器 浅鉢 口縁~胴部片	残高 5.00	段1, ミガキ~ナデ(丁寧), ケズリ, ミガキ 凹線1, 沈線1, ミガキ	黒褐 黄灰	2.5Y 3/1 " 4/1	石英, 長石	波状口縁 黒色磨研 縄文晩期
Fig.38-145	ベルトC VB1層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.20	ミガキ~ナデ(丁寧), ナデ, 赤彩? 沈線3+4, ミガキ~ナデ(丁寧)	灰黄褐 "	10YR 3/2 "	石英, 長石, 砂岩	波状口縁, 方形浅鉢? 外面: タール, 被熱? 縄文晩期
Fig.38-146	ベルトC VB1層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.50	ナデ, 押圧, 円孔2 ナデ	にぶい黄橙 "	10YR 6/3 "	長石, 石英, 砂岩	孔列文? 縄文晩期~弥生前期?
Fig.38-147	ベルトD VB1層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 6.20	ナデ, ミガキ ミガキ	にぶい橙 "	7.5YR 6/4 "	砂岩, 石英	内面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.38-148	ベルトC VB1層	弥生土器 壺 胴部片	残高 2.10	沈線2, 斜位短沈線文3段 ナデ	灰 "	7.5Y 6/1 10Y 5/1	砂岩, チャート	弥生前期?
Fig.38-149	ベルトD VB1層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.80	沈線2+1, 縦位沈線2(方形区画), 木葉文, ミガキ ナデ, 押圧	灰黄 灰黄褐	2.5Y 6/2 10YR 5/2	砂岩, 石英 チャート	外面: 黒斑あり 内面: スス 弥生前期
Fig.38-150	ベルトC VB1層	弥生土器 壺 底部片	残高 5.70 底径 8.90	ナデ, 押圧 押圧, ナデ 底面: ナデ, 押圧	にぶい褐 黒褐	7.5YR 5/3 2.5Y 3/1	砂岩, 石英 チャート	内外面: タール 外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.38-151	ベルトC VB1層	弥生土器 壺? 底部片	残高 5.80 底径 5.20	ミガキ ナデ, 押圧 底面: ナデ	褐灰 "	10YR 4/1 "	石英, 長石	外面: 黒斑, 被熱? 弥生前期
Fig.39-152	VB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.10	縄文R.L., ミガキ~ナデ(丁寧) ミガキ~ナデ(丁寧)	暗灰黄 灰黄褐	2.5Y 5/2 10YR 4/2	石英, 長石, 雲母 砂岩	縄文後期
Fig.39-153	VB層	縄文土器 深鉢 口縁~頸部片	残高 3.30	沈線3, 斜位刺突1段, 縄文L.R., ナデ(丁寧), 押圧 ナデ(丁寧), ナデ	にぶい褐 黒褐	7.5YR 5/4 " 3/1	石英, 長石, 砂岩 角閃石, 雲母	外面: 黒斑あり 縄文後期 広瀬上層~伊吹町式
Fig.39-154	VB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.70	沈線3, 山形沈線1段, 縄文L.R., ミガキ~ナデ(丁寧) ミガキ~ナデ(丁寧)	黒褐 "	10YR 3/1 "	石英, 長石	波状口縁 縄文後期 広瀬上層~伊吹町式
Fig.39-155	VB層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 2.90 底径 5.70	ミガキ~ナデ(丁寧) ナデ 底面: ナデ, 押圧	にぶい褐 "	7.5YR 5/4 "	石英, 長石, 雲母	凹み底 内面: タール 縄文後期 伊吹町式?
Fig.39-156	VB層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.50	沈線4, 縄文R.L.(磨消), 沈線末端: 刺突1, ミガキ ナデ(ケズリ状), ミガキ	褐灰 "	10YR 4/1 "	長石, 石英	波状口縁? 縄文後期 広瀬上層式?
Fig.39-157	VB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.70	縦位刺突3列, 斜位刺突2+1列, 条痕 ナデ, 押圧	黄灰 にぶい黄橙	2.5Y 4/1 10YR 6/3	石英, 長石, 砂岩	波状口縁? 外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.39-158	VB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.10	条痕 押圧, ナデ 口縁端部外端側: 刻目	暗灰 橙	N 3/0 5YR 6/6	石英, 長石, 砂岩	内面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.39-159	VB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.30	条痕, ナデ, 押圧 押圧 口縁端部: 把手状貼付2	灰黄褐 褐灰	10YR 6/2 " 4/1	石英, チャート	内外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.39-160	VB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.00	条痕 沈線1, ナデ, 押圧 口縁端部: 刻目	暗灰 灰	N 3/0 5Y 5/1	砂岩, 石英, 長石	縄文晩期
Fig.39-161	VB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.20	ナデ, 押圧, 条痕 ナデ, 沈線1, 条痕 口縁端部: 刻目	灰黄褐 にぶい赤褐	10YR 5/2 5YR 5/4	石英, 砂岩, 長石	縄文晩期
Fig.39-162	VB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.70	条痕 ナデ	黄灰 にぶい黄橙	2.5Y 4/1 10YR 6/3	石英, 長石 チャート, 砂岩	縄文晩期
Fig.39-163	VB層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 4.35 底径 7.50	条痕, 押圧, ナデ ナデ, 押圧 底面: 押圧, ナデ	黄灰 灰黄	2.5Y 5/1 " 6/2	石英, 結晶片岩 砂岩	高台底 外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.39-164	VB層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.80	沈線6, ナデ ナデ, 押圧	灰黄褐 "	10YR 6/2 "	石英, チャート	縄文晩期
Fig.39-165	VB層	縄文土器 浅鉢 口縁~胴部片	残高 4.00	ミガキ 沈線1, ミガキ	黒褐 にぶい黄橙	10YR 3/1 " 6/3	石英, 砂岩, 長石	黒色磨研? 縄文晩期
Fig.35-166	VB層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 3.10	沈線4+1(赤彩充填), 段1, ミガキ ミガキ	黒褐 オリーブ黒	2.5Y 3/1 5Y "	長石, 石英, 雲母	黒色磨研 縄文晩期
Fig.35-167	VB層	縄文土器 蓋? 胴部片	残高 1.60	沈線4, ミガキ ミガキ	黄灰 "	2.5Y 5/1 "	石英, 長石	黒色磨研? 縄文晩期 標原式?
Fig.40-168	VB層	縄文土器 壺 口縁部片	残高 5.00	円孔2, 沈線2, ミガキ 押圧, ミガキ~ナデ(丁寧)	灰黄褐 にぶい褐	10YR 4/2 7.5YR 5/3	石英, 長石, 砂岩 泥岩	孔列文? 黒色磨研 縄文晩期



表13 3A区出土土器観察表7

挿入番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.40-169	V B層	縄文土器 壺 頸~胴部片	残高 4.20	斜位沈線3、ケズリ、ナデ ナデ、ケズリ?	暗灰 灰黄褐 N 3/0 10YR 5/2	石英、長石、雲母	外面: タール、スス 縄文晩期
Fig.40-170	V B層	縄文土器 壺 胴部片	残高 4.90	沈線1、ミガキ ミガキ	暗灰 N 3/0	長石、石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.40-171	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.20	刻目突帯貼付1、条痕、ナデ ナデ 口縁端部外端側: 刻目	にぶい黄橙 10YR 6/3	石英、砂岩 チャート	縄文晩期
Fig.40-172	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.80	刻目突帯貼付1、条痕 押圧、ナデ 口縁端面: 刻目	にぶい黄橙 10YR 6/3 6/4	砂岩、長石	縄文晩期
Fig.40-173	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.50	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧 ナデ、押圧 口縁端部外端: 刻目	黄灰 2.5Y 4/1 灰 N 4/0	チャート、長石 石英、石灰岩?	縄文晩期
Fig.40-174	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.70	楕円形刺突1段、条痕 ナデ、条痕 口縁端面: 刻目	灰黄褐 10YR 5/2 6/2	石英、チャート 長石	内外面: 黒斑あり 縄文晩期 土製凹板?
Fig.40-175	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 1.70	押圧、ナデ ナデ	灰黄褐 10YR 4/2 黒褐 3/2	石英、チャート 砂岩	内外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.40-176	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.00	刺突2段、ナデ ナデ、押圧 口縁端面: 刻目?	灰黄 2.5Y 7/2 灰白 10YR 8/1	石英	縄文晩期
Fig.40-177	V B層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 3.60	突帯貼付1、ナデ、沈線? 1 ナデ	暗灰黄 2.5Y 5/2 灰黄褐 10YR "	チャート、砂岩	上下逆? 縄文晩期
Fig.40-178	V B層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 5.30	沈線1、弧状沈線2、ナデ ナデ	にぶい黄橙 2.5Y 6/3 5YR 6/6	チャート、石英	縄文晩期
Fig.40-179	V B層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.40	ナデ? (磨滅)、押圧、孔1 沈線1、ナデ (丁寧)? (磨滅) 波頂部端面: 刻目2	黄灰 2.5Y 6/1 灰黄 6/2	石英、長石	波状口縁、方形浅鉢? 縄文晩期
Fig.40-180	V B層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.00	ミガキ? (磨滅) 沈線1、ミガキ? (磨滅)	にぶい黄褐 10YR 5/3 灰黄褐 5/2	石英、長石 チャート	波状口縁、方形浅鉢? 外面: 黒斑あり? 黒色磨研? 縄文晩期
Fig.40-181	V B層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.70	沈線1、ナデ? (磨滅) 沈線1、ナデ? (磨滅)	黄灰 2.5Y 4/1 暗灰黄 5/2	石英、砂岩 結晶片岩 チャート	波状口縁、方形浅鉢? 内外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.40-182	V B層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 5.10	ミガキ~ナデ (丁寧)、ナデ、赤彩? 沈線1+4、ミガキ~ナデ (丁寧)、赤彩? 波頂部外端: 刻目2	灰黄褐 10YR 4/2 にぶい赤褐 5YR 4/3	石英、長石	波状口縁、方形浅鉢? 内外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.40-183	V B層	縄文土器 浅鉢 胴~底部片	残高 4.60 底径 5.90	ミガキ ナデ 底面: ナデ	黄灰 2.5Y 4/1 " 5/1	石英、長石	凹み底 縄文晩期
Fig.41-184	V B層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	残高 6.00	刻目突帯貼付1、縦位沈線4+3、ナデ ナデ	黄灰 2.5Y 4/1 灰黄褐 10YR 5/2	石英、チャート 長石	縄文晩期~弥生前期
Fig.41-185	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.70	刻目突帯貼付1、縦位沈線2、押圧、ナデ ナデ、押圧	灰黄褐 10YR 5/2 黒 N 2/0	石英、長石、砂岩 チャート	外面: スス、タール 縄文晩期~弥生前期
Fig.41-186	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.60	刻目突帯貼付1、条痕、ナデ ナデ、押圧	灰黄褐 10YR 6/2 にぶい黄橙 6/3	石英、チャート 砂岩、長石	縄文晩期~弥生前期
Fig.41-187	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.00	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧、円形刺突2 ナデ	褐灰 10YR 4/1 灰黄褐 5/2	長石、石英 チャート	外面: タール、スス 孔列文? 縄文晩期~弥生前期?
Fig.41-188	V B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.30	ナデ、ハケ? 押圧、ナデ 口縁端部内端側: 刻目 口縁端面: 外方に肥厚 (折返し)	暗灰 N 3/0 にぶい黄橙 10YR 7/3	石英、チャート	縄文晩期~弥生前期?
Fig.41-189	V B層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 6.90	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧、ヘラナデ?、板ナデ? ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/3	チャート、長石 石英	内面: 黒斑あり 縄文晩期~弥生前期
Fig.41-190	V B層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 5.70	刻目突帯貼付1、沈線2 (複線施文)、縦位沈線1+2+2 (複線施文)、ナデ、条痕 (擬条痕?) / ナデ	灰黄褐 10YR 4/2 灰 5Y 4/1	長石、石英 チャート	外面: タール、スス 縄文晩期~弥生前期
Fig.41-191	V B層	縄文土器 深鉢 頸部片	残高 4.50	沈線2 (複線施文)、縦位沈線5×3 (ハケ状原体)、ナデ ナデ、押圧	オリーブ黒 5Y 3/1 暗灰黄 2.5Y 5/2	長石、石英 チャート、砂岩	縄文晩期~弥生前期
Fig.41-192	V B層	縄文土器 深鉢 頸部片	残高 3.40	沈線文 (複線施文)、ナデ ナデ、押圧	黒褐 10YR 3/2 にぶい褐 7.5YR 5/3	長石、石英 チャート	縄文晩期~弥生前期
Fig.41-193	V B層	縄文土器 鉢	口径 13.40 器高 13.70 胴径 12.60 底径 6.60	条痕 (擬条痕?)、押圧、ナデ ナデ 口縁端部外端側: 刻目 底面: ナデ、押圧	オリーブ黒 5Y 3/1 黄灰 2.5Y 5/1	長石、チャート 石英	凹み底 内外面: スス、タール 縄文晩期~弥生前期
Fig.41-194	V B層	縄文土器 鉢? 口縁部片	残高 2.90	沈線1、縦位沈線5、ナデ、押圧 押圧	灰 5Y 4/1 にぶい橙 7.5YR 6/4	長石、石英 結晶片岩	内面: 黒斑 手捏ね土器? 上層からの混入品?
Fig.42-195	V B層	弥生土器 壺 口縁部片	口径 16.70 残高 5.10	ミガキ、段1 (接合部) ミガキ	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " "	長石、砂岩、石英 チャート	内外面: スス、黒斑 弥生前期

表14 3A区出土土器観察表8

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調	内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.42-196	VB層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 5.80	段1=接合部, ミガキ ミガキ, ナデ, 押圧	にぶい橙 "	7.5YR 6/4 "	石英, 長石, 雲母 砂岩	内外面: スス, タール 弥生前期
Fig.42-197	VB層	弥生土器 壺 口縁~頸部片	残高 5.10	沈線1, ミガキ, 沈線3, ナデ ミガキ, ナデ, 押圧	橙 にぶい赤褐	2.5YR 6/6 5YR 5/4	石英, 長石 チャート	外面: 黒変あり(スス?) 弥生前期
Fig.42-198	VB層	弥生土器 壺 口縁~胴部片	口径 13.00 残高 7.50	ミガキ, 沈線2 ミガキ, 押圧	灰黄 "	2.5Y 6/2 "	チャート, 石英 砂岩, 蛇紋岩?	弥生前期
Fig.42-199	VB層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 4.20	突帯貼付1, ナデ(丁寧), 赤彩 ナデ(丁寧), 赤彩	橙 "	7.5YR 7/6 "	石英, 長石, 雲母 チャート	下端: 樋口縁露出あり 弥生前期
Fig.42-200	VB層	弥生土器 壺 口縁~頸部片	口径 13.90 残高 6.40	押圧, ナデ 押圧, ナデ	灰褐 にぶい橙	7.5YR 6/2 5YR 6/4	石英, 砂岩 チャート	内外面: 黒変?(スス?) 弥生前期
Fig.43-201	VB層	弥生土器 壺 頸部片	残高 4.00	突帯貼付1, ミガキ 押圧, ナデ	灰黄褐 黒褐	10YR 5/1 2.5Y 2/1	石英, 砂岩 チャート, 長石	外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.43-202	VB層	弥生土器 壺 頸部片	残高 4.90	陸帯1+沈線1=接合部, ミガキ ナデ, 押圧	にぶい橙 灰黄褐	5YR 6/4 10YR 4/2	石英, 砂岩 チャート, 長石	外面: スス, タール 弥生前期
Fig.43-203	VB層	弥生土器 壺 頸部片	残高 5.10	ミガキ, ナデ, 沈線2 ナデ, 押圧	にぶい黄橙 "	10YR 6/3 "	砂岩, 長石, 石英	外面: 黒変, スス? 弥生前期
Fig.43-204	VB層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 7.10	突帯1(削出し?), ミガキ ナデ, 押圧	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 6/4 5/2	砂岩, 石英 チャート	外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.43-205	VB層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 6.00	段1=接合部, 沈線2+2, 斜位沈線3, ミガキ 押圧, ナデ	にぶい黄褐 "	10YR 5/3 "	石英, 長石	内外面: タール, スス 外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.43-206	VB層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 6.40	段1=沈線状, 沈線4, 斜位沈線文(縦位山形文), ミガキ 押圧, ナデ	灰黄 にぶい黄橙	2.5Y 6/2 10YR 7/4	石英, 砂岩, 長石	内外面: スス, タール 弥生前期
Fig.43-207	VB層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 2.50	刻目突帯貼付1, 縦位沈線2(複線施文), 重弧文(4条, 複線施文), 斜位沈線3, ナデ/ナデ, 押圧	灰黄褐 黒	10YR 4/2 5Y 2/1	石英, 砂岩	外面: 黒変, タール 弥生前期
Fig.43-208	VB層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 4.10	段1=沈線状(接合部), 沈線2, ミガキ, 弧状沈線1+1 ナデ, 押圧	にぶい黄橙 "	10YR 6/3 "	チャート, 砂岩 石英	弥生前期
Fig.43-209	VB層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 4.60	沈線5, 重弧文(2条), ミガキ ハケ, ナデ	灰白 灰黄褐	2.5Y 7/1 10YR 6/2	石英, 雲母, 長石	内面: 黒斑あり? 弥生前期
Fig.43-210	VB層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 6.60	沈線3, ミガキ, 沈線1? ナデ, 押圧, 接合痕明瞭	黒褐 灰黄褐	10YR 3/1 5/2	石英, 長石, 砂岩	内外面: 黒変(タール) 弥生前期
Fig.43-211	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.80	段1=接合部?+刻目, 沈線2+2, ミガキ ナデ, 押圧	黒褐 暗灰	7.5YR 3/1 N 3/0	石英, 長石, 砂岩	内外面: スス, タール 弥生前期
Fig.43-212	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.00	沈線4, 刻目2段, 縦位複線山形文, ミガキ ハケ, 押圧	にぶい黄橙 橙	10YR 6/3 5YR 6/6	長石, 石英, 砂岩	外面: 黒斑あり? 弥生前期
Fig.44-213	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 6.40	沈線4, 縦位山形文, 縦位短沈線文1段, ミガキ ナデ, 押圧	黄灰 灰白	2.5Y 5/1 7/1	石英, 長石, 砂岩	内面: 黒変(スス) 外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.44-214	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 6.00	沈線2, 斜位沈線文2段(山形文), ミガキ ナデ, 押圧	黒 褐灰	10YR 2/1 4/1	長石, 砂岩, 石英	内面: スス, タール 外面: 黒斑あり? 弥生前期
Fig.44-215	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.65	沈線2+2, 斜位沈線文2段, ミガキ ハケ, ナデ, 押圧	黒褐 "	5YR 3/1 2/1	長石, 石英, 砂岩	外面: 黒斑あり 内面: 黒変(スス) 弥生前期
Fig.44-216	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.60	斜位沈線4(山形文?), ミガキ ナデ	灰褐 黒褐	7.5YR 4/2 3/1	石英, 長石, 砂岩	弥生前期
Fig.44-217	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 5.80	沈線1, 縦~斜位沈線10, ミガキ ナデ	灰黄褐 "	10YR 5/2 6/2	石英, チャート 砂岩, 長石	内外面: タール, スス 弥生前期
Fig.45-218	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 8.80	段1(接合部), 重弧文(4条), 沈線1, 全面赤彩, ミガキ ハケ, ナデ	にぶい黄褐 暗赤	10YR 5/3 10R 3/6	石英, 長石, 砂岩	弥生前期
Fig.45-219	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 11.40	段1(沈線状), 沈線1, 重弧文(5条), ミガキ ナデ, ハケ, 押圧	にぶい黄褐 黒褐	10YR 5/4 3/2	石英, 長石, 砂岩	外面: タール 弥生前期
Fig.45-220	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.10	沈線3, 重弧文(4条), ミガキ ナデ, 押圧	にぶい黄橙 "	10YR 6/3 "	石英, 長石, 砂岩	弥生前期
Fig.45-221	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.60	沈線3+矢羽根状斜位沈線, 重弧文2段, ミガキ~ナデ(丁 寧)/押圧, ナデ	灰黄 黄灰	2.5Y 6/2 4/1	石英, 長石	弥生前期
Fig.45-222	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 5.50	沈線3, 竹管刺突2段, 斜位沈線3, 重弧文(3条), ミガキ 板ナデ, 押圧	灰黄褐 暗灰	10YR 5/2 N 3/0	砂岩, チャート	内面: 黒変(スス) 外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.45-223	VB層	弥生土器 壺 胴部片	残高 3.40	沈線2, 竹管刺突2段, 弧状沈線4+4(木葉文), 重弧文 (3条), ミガキ/ナデ, 押圧	灰黄褐 "	10YR 4/2 4/1	砂岩, 石英	内面: 黒変(スス) 外面: 黒斑あり 弥生前期

表15 3A区出土土器観察表9

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.45-224	V B層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.00	沈線2、竹筥刺突2段、弧状沈線4+2(木葉文)、ミガキ 押圧、ナデ	灰黄褐 " 10YR 4/2 " 6/2	砂岩、チャート	内面:黒変(スス) 外面:赤彩? 弥生前期
Fig.45-225	V B層	弥生土器 壺 胴部片	残高 7.15	沈線1、縦位沈線2、木葉文、ミガキ ナデ、押圧	灰黄褐 " 10YR 5/2 " 6/2	砂岩	外面:黒底あり 弥生前期
Fig.45-226	V B層	弥生土器 壺 胴部片	残高 5.50	弧状沈線4+3+4(木葉文)、ミガキ 押圧、ナデ	暗灰黄 黄灰 2.5Y 5/2 " 4/1	砂岩、石英	外面:黒斑あり 弥生前期
Fig.46-227	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 7.00 底径 13.50	ミガキ、ハケ、押圧 ハケ、ナデ、押圧 底面:ナデ、押圧、粒状圧痕	灰白 にぶい赤褐 2.5Y 8/2 5YR 5/4	長石、石英、砂岩	凹み底 内外面:タール、黒変 弥生前期
Fig.46-228	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 4.70 底径 10.80	ミガキ、沈線2 ハケ、ナデ 底面:ナデ	灰黄 にぶい黄橙 2.5Y 7/2 10YR 7/3	チャート、石英 長石、砂岩	平底 弥生前期
Fig.46-229	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 4.50 底径 9.00	ミガキ、ハケ、押圧 ナデ、押圧 底面:剥落、不明	灰白 黒 10YR 8/1 " 1.7/1	砂岩、石英、長石	凹み底? 外面:タール、スス 弥生前期
Fig.46-230	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 5.60 底径 10.50	ミガキ、ナデ、押圧 押圧、ナデ 底面:ナデ(無調整?)	黒褐 にぶい橙 2.5Y 3/1 5YR 6/4	チャート、砂岩 石英、長石	外面:黒斑あり 内面:黒変? 弥生前期
Fig.46-231	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 3.80 底径 8.00	ミガキ ミガキ、ナデ、押圧、板ナデ、粘土粒付着 底面:粒状圧痕、線状圧痕、押圧、ナデ	黒褐 にぶい赤褐 7.5YR 3/1 5YR 5/4	長石、石英、雲母 砂岩	凹み底 外面:タール、スス 内面:黒変(スス) 弥生前期
Fig.46-232	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 2.60 底径 8.00	沈線2+3、ミガキ 押圧、ナデ 底面:ミガキ	にぶい黄橙 10YR 7/2 " " " "	石英、長石 チャート、砂岩	凹み底 弥生前期
Fig.47-233	V B層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 3.70	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧、ハケ? 押圧、ナデ	暗灰黄 にぶい黄褐 2.5Y 5/2 10YR 5/3	長石、泥岩	弥生前期
Fig.47-234	V B層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 3.70	刻目突帯貼付1、縦位沈線2×4(複線施文)、ナデ ナデ、押圧 口縁端面:刻目	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " " "	石英、チャート 長石	弥生前期
Fig.47-235	V B層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 3.20	ミガキ~ナデ(丁寧)、押圧、段1=接合部・沈線状 ナデ 口縁端面:沈線1 口縁端面外端側・内端側:刻目	にぶい黄褐 10YR 5/3 にぶい黄橙 " 6/3	石英、長石 チャート、砂岩	外面:黒斑あり 弥生前期
Fig.47-236	V B層	弥生土器 壺 口縁~胴部片	残高 5.70	沈線2、ナデ ナデ、押圧 口縁端面外端側:刻目	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " " "	長石、砂岩	弥生前期
Fig.47-237	V B層	弥生土器 壺 口縁~胴部片	口径 18.60 残高 8.20 胴径 18.60	沈線3、ハケ、ハケ+ナデ ハケ+押圧、ナデ、押圧 口縁端面:刻目	にぶい橙 7.5YR 6/4 黒 5Y 2/1	砂岩、チャート 石英	外面:黒変(タール) 弥生前期
Fig.47-238	V B層	弥生土器 壺 口縁~胴部片	残高 6.80	押圧、ナデ、沈線3 押圧、ナデ 口縁端面:刻目	にぶい橙 7.5YR 6/4 にぶい黄褐 10YR 5/3	チャート、石英 長石	外面:黒斑 弥生前期
Fig.47-239	V B層	弥生土器 壺 口縁~胴部片	残高 5.70	沈線3、押圧、ミガキ~ナデ(丁寧) 押圧、ナデ 口縁端面:刻目	にぶい褐 7.5YR 6/3 にぶい黄橙 10YR 7/2	チャート、長石 石英、砂岩	外面:黒斑あり 弥生前期
Fig.47-240	V B層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 1.70	ナデ、押圧 ハケ、ナデ 口縁端面外端側:刻目(途切れる)	にぶい褐 7.5YR 5/3 黒 5Y 2/1	長石、石英 チャート	外面:黒斑 弥生前期
Fig.47-241	V B層	弥生土器 壺 口縁部片	残高 4.70	沈線3、縦位沈線1段、ナデ、押圧 ナデ、押圧 口縁端面:沈線1 口縁端面外端側:刻目	にぶい黄褐 10YR 5/4 灰黄褐 " 5/2	石英、チャート 長石、砂岩	外面:黒変(タール) 弥生前期
Fig.47-242	V B層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.30	沈線3+4、縦位短沈線文1段、ミガキ ナデ	灰黄褐 10YR 5/2 にぶい橙 7.5YR 7/4	砂岩、長石、石英	上下逆? 弥生前期
Fig.47-243	V B層	弥生土器 壺 胴部片	残高 5.70	刻目突帯貼付1、縦位刻目突帯貼付2、乳状貼付文4+3、 ハラナデ、ナデ/押圧、ナデ	褐灰 " 7.5YR 4/1 10YR " "	泥岩	外面:黒変(スス) 弥生前期
Fig.47-244	V B層	弥生土器 壺 胴部片	残高 6.00	刻目突帯貼付2、沈線?1、ナデ、押圧 ナデ、押圧	黒褐 " 10YR 3/1 " " " "	泥岩	外面:タール、スス 弥生前期
Fig.48-245	V B層	弥生土器 壺 胴~底部片	残高 7.30 底径 10.60	押圧、ナデ ナデ、押圧 底面:粒状圧痕、押圧、ナデ	暗灰黄 " 2.5Y 5/2 " " " "	泥岩、砂岩	平底 内面:タール、おこげ 弥生前期
Fig.48-246	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 5.80 底径 8.80	ハケ、板ナデ、押圧 ナデ、押圧 底面:粒状圧痕、粉痕?	にぶい黄褐 10YR 5/3 にぶい褐 7.5YR 6/3	石英、砂岩 チャート	外面:スス? 内面:炭化物付着 弥生前期
Fig.48-247	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 8.50 底径 8.90	ナデ、板ナデ、押圧 ナデ、板ナデ、押圧 底面:ナデ、押圧、粒状圧痕	にぶい黄褐 10YR 5/3 灰黄褐 " 4/2	石英、チャート 長石	凹み底 外面:黒斑あり 内面:タール 弥生前期
Fig.48-248	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 5.80 底径 8.60	ハケ、押圧 押圧、ナデ 底面:押圧、粒状圧痕	にぶい黄橙 10YR 6/3 にぶい橙 5YR 6/4	石英、砂岩、 チャート、長石	平底 外面:スス、タール 弥生前期
Fig.48-249	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 4.60 底径 7.40	板ナデ、押圧、ナデ 剥落=不明、押圧? 底面:ナデ、粒状圧痕	灰黄 " 2.5Y 6/2 " " " "	蛇紋岩、石英 砂岩、長石 チャート	平底 弥生前期
Fig.48-250	V B層	弥生土器 壺 底部片	残高 3.10 底径 6.80	ハケ 押圧、板ナデ、ナデ 底面:押圧、ナデ、粒状圧痕	にぶい橙 7.5YR 7/3 灰褐 " 5/2	砂岩、チャート 長石	平底 弥生前期

表16 3A区出土土器観察表10

棟号番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調	内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.48-251	V B層	弥生土器 甕 胴～底部片	残高 6.60 底径 5.30	ハケ、ナデ ナデ 底面：ナデ	黒 灰黄	2.5Y " 2/1 6/2	砂岩、チャート 石英	平底 弥生前期
Fig.48-252	V B層	弥生土器 鉢？ 底部片	残高 2.90 底径 6.00	沈線3、ミガキ～ナデ（丁寧）、押圧（擬口縁？） 押圧、ナデ 底面：押圧、ナデ	灰 灰黄	N 4/0 2.5Y 6/2	砂岩、石英	凹み底 弥生前期
Fig.49-253	V B層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 3.50	刻目突帯貼付1、櫛描文、ナデ、押圧 ナデ	灰 "	5Y 4/1 " " "	長石	外面：黒斑、タール 弥生中期
Fig.49-254	V B層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.70	縦位押圧文（ハケ～クシ原体）、押圧、ナデ 押圧、ナデ	灰黄褐 "	10YR 6/2 " " "	チャート、石英 砂岩	弥生中期？ 土師器？
Fig.49-255	V B層	土師器？ 壺 口縁～頸部片	残高 4.20	隆帯貼付1+斜位沈線、ナデ、押圧 ハケ+ナデ、押圧	黄灰 灰黄褐	2.5Y 4/1 10YR 6/2	チャート、石英 砂岩、長石	
Fig.49-256	V B層	土師器？ 高杯？ 底部片	残高 10.30	沈線1、ハケ、ナデ ナデ、板ナデ、押圧、ケズリ	黄灰 にぶい黄橙	2.5Y 4/1 10YR 6/3	砂岩、石英	搬入品？
Fig.50-257	ベルトB VA3層	縄文土器？ 深鉢？ 胴部片	残高 3.35	突帯貼付1（端面：沈線1）、沈線2+2、ナデ 押圧、ナデ	にぶい黄橙 "	10YR 7/3 " " "	石英、砂岩 チャート	縄文晩期？
Fig.50-258	ベルトB VA2層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.80	刻目突帯貼付2、条痕、ナデ、押圧 押圧、ナデ 口縁端部外端側：刻目	にぶい褐 灰	7.5YR 6/3 5Y 5/1	チャート、石英 長石	波状口縁 縄文晩期～弥生前期
Fig.51-259	VA層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 3.10	段1＝沈線状、斜位沈線3、ナデ、ケズリ ナデ	黒褐 "	10YR 3/1 " 3/2	石英、長石	縄文後期？
Fig.51-260	VA層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 3.30 底径 7.40	ナデ、押圧 押圧、ナデ	黒褐 灰褐	7.5YR 3/1 " 4/2	石英、長石、砂岩	凹み底 内面：おこげ付着あり 縄文後期？
Fig.51-261	VA層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.70	沈線3、縄文L.R、ミガキ～ナデ（丁寧）、赤彩、黒色塗彩 ナデ、押圧、赤彩	褐灰 灰褐	7.5YR 4/1 " 4/2	石英、長石	縄文後期
Fig.35-262	VA層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 4.20	沈線5+赤彩充填、ミガキ ミガキ～ナデ（丁寧）	暗灰 褐灰	N 3/0 10YR 4/1	長石、石英	縄文後期
Fig.51-263	VA層	縄文土器 注口土器 胴部片	残高 2.85	段1＝沈線状、沈線1、斜位短沈線文1段、刺突1+1、ミ ガキ、擬縄文+ミガキ/ケズリ+ナデ	暗灰黄 オリーブ黒	2.5Y 5/2 5Y 3/1	石英、長石	縄文後期 彦崎KⅡ式？
Fig.51-264	VA層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 3.50 底径 4.40	条痕、押圧 ナデ、押圧 底面：押圧	灰 "	5Y 4/1 " " "	砂岩、チャート 石英	縄文晩期
Fig.51-265	VA層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 8.75	ミガキ ミガキ	オリーブ黒 暗灰黄	5Y 3/1 2.5Y 4/2	石英、雲母、長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.51-266	VA層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 3.60	ミガキ 段1＝沈線状、ミガキ 口縁端面：沈線1	黒褐 暗灰	10YR 3/1 N 3/0	石英、雲母、長石	下端：擬口縁露出 黒色磨研 縄文晩期
Fig.51-267	VA層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.70	ミガキ、段部：刻目、切断痕あり？ ナデ、接合痕あり	黄灰 灰黄	2.5Y 6/1 " 7/2	石英、長石	波状口縁 縄文晩期
Fig.51-268	VA層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.80	穿孔1、穿孔1（未貫通）、ミガキ 段1＝沈線状、ミガキ 口縁端部：リボン状突起	にぶい黄橙 "	10YR 7/2 " " "	石英、砂岩、長石	縄文晩期
Fig.51-269	VA層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.30	沈線～接合痕？1、ミガキ 段1＝沈線状、ミガキ	褐灰 黒褐	10YR 4/1 " 3/1	石英、長石	波状口縁（突起？） 縄文晩期
Fig.51-270	VA層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 4.50	ミガキ ミガキ、ナデ	黒褐 黒	2.5Y 3/1 " 2/1	長石、石英	黒色磨研 縄文晩期
Fig.51-271	VA層	縄文土器 浅鉢 底部片	残高 1.25	ケズリ、ヘラナデ ミガキ 底面：ナデ（ケズリ状）、押圧	褐灰 にぶい黄褐	10YR 4/1 " 5/3	石英、長石	高台底 縄文晩期
Fig.35-272	VA層	縄文土器 蓋 胴部片	残高 1.65	沈線3、櫛原式文様？、ミガキ？ ミガキ～ナデ（丁寧）	にぶい黄橙 "	10YR 7/2 " " "	チャート、砂岩 長石	縄文晩期 櫛原式？
Fig.52-273	VA層	縄文土器 壺 底部片	残高 3.80	ケズリ、押圧 板ナデ、ナデ、押圧 底面：ナデ、ナデ（ケズリ状）、押圧	灰黄褐 浅黄	10YR 5/2 2.5Y 7/3	石英、長石、雲母	凹み底（高台状） 縄文晩期
Fig.52-274	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.20	刻目突帯貼付1、ナデ ナデ、押圧 口縁端部外端：刻目	暗灰 黄灰	N 3/0 2.5Y 6/1	チャート、石英 長石	縄文晩期
Fig.52-275	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.40	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧 ナデ？（磨滅） 口縁端面：刻目1	灰白 "	10YR 8/2 " " "	石英、長石、雲母 砂岩	外面：黒斑あり 縄文晩期～弥生前期？
Fig.52-276	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.60	刻目突帯貼付1、ナデ ナデ	暗灰 黄灰	N 3/0 2.5Y 6/1	石英、長石 チャート、砂岩	内面：黒斑？あり 縄文晩期
Fig.52-277	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.50	条痕、ナデ、押圧 肥厚+刻目、条痕 口縁端面：刻目	黄灰 にぶい黄橙	2.5Y 4/1 10YR 6/3	長石、砂岩	内外面：黒斑あり 縄文晩期
Fig.52-278	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.10	条痕、ナデ 条痕、ナデ 口縁端部外端：刻目2	灰 灰黄	N 4/0 2.5Y 6/2	石英、砂岩 チャート	波状口縁（突起） 外面：黒斑あり 縄文晩期

表17 3A区出土土器観察表11

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.35-279	VA層	縄文土器 浅鉢 口縁~胴部片	残高 4.80	沈線4+2 (赤彩未填)、段1、ミガキ ミガキ	黒褐 オリーブ黒 2.5Y 3/1 5Y "	石英、長石 チャート	黒色磨研 縄文晩期
Fig.35-280	VA層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 1.90	段1=沈線状、ミガキ、赤彩(漆?) ミガキ	黒褐 " 10YR 3/1 "	長石、石英	黒色磨研 縄文晩期 漆塗り土器?
Fig.52-281	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.40	刻目突帯貼付1、円孔2 (1段)、ナデ、ハケ~条痕? ナデ 口縁端部外端側: 刻目	灰黄 にぶい黄橙 2.5Y 6/2 10YR 7/2	長石、チャート 石英	孔列文? 内外面: 黒斑あり 縄文晩期~弥生前期
Fig.52-282	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.40	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧 押圧、ナデ 口縁端部外端側: 刻目	褐灰 10YR 4/1	長石、チャート	縄文晩期~弥生前期
Fig.52-283	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.00	刻目突帯貼付1+縁取り沈線、縦位沈線3+1 (複線施文)、 ナデ、押圧/縦位沈線4+2 (複線施文)、沈線2 (複線施 文)、ナデ、板ナデ	黄灰 2.5Y 5/1 灰黄褐 10YR 6/2	チャート、長石 石英	外面: タール、スス 縄文晩期~弥生前期
Fig.52-284	VA層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.60	刻目突帯貼付1、縦位沈線?1、ナデ ナデ、押圧 口縁端部外端側: 刻目 披肩部端部: 刺突2	褐灰 " 10YR 4/1 "	石英	波状口縁 縄文晩期~弥生前期
Fig.52-285	VA層	縄文土器 深鉢 頸~胴部片	残高 5.30	縦位沈線3x3、突帯貼付1+刻目?、ナデ ナデ、押圧	黄灰 2.5Y 4/1 灰黄褐 10YR 5/2	長石、チャート 砂岩	外面: タール、スス 縄文晩期~弥生前期
Fig.53-286	VA層	弥生土器 垂 口縁部片	残高 6.90	段1=沈線状、ミガキ ミガキ、ナデ? (磨滅)	にぶい赤褐 5YR 5/4 にぶい橙 " 7/4	チャート、石英 長石、砂岩、泥岩	弥生前期
Fig.53-287	VA層	弥生土器 垂 口縁部片	残高 3.80	沈線6、ミガキ ミガキ、ナデ	灰黄褐 " 10YR 5/2 " 6/2	石英、蛇紋岩? 長石、砂岩	内外面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.53-288	VA層	弥生土器 垂 口縁~頸部片	残高 5.95	段1 (貼付)、ミガキ? (磨滅) ハケ+ナデ?	灰白 " 2.5Y 8/2 " "	石英、砂岩、長石 結晶片岩	上下端部: 縦口縁露出 弥生前期
Fig.53-289	VA層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.80	沈線2+1、斜位沈線4x2段、ミガキ ミガキ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/3 " "	石英、チャート 砂岩	内面: 黒変(スス) 弥生前期
Fig.53-290	VA層	弥生土器 壺 胴部片	残高 4.50	刻目突帯貼付1、沈線1、弧状沈線5+6+6、ミガキ ナデ(剥落)	暗灰黄 " 2.5Y 4/2 " "	石英、長石 チャート、砂岩	外面: 黒変(スス) 弥生前期
Fig.53-291	VA層	弥生土器 壺 底部片	残高 4.60 底径 6.00	ミガキ、ハケ、押圧 ミガキ、押圧 底面: 粒状圧痕、ナデ	灰黄褐 10YR 4/2 にぶい黄橙 " 6/4	石英、チャート 長石	平底 内面: 黒変(スス) 内面: 黒斑あり 弥生前期
Fig.53-292	VA層	弥生土器 費 口縁~胴部片	口径 26.90 残高 10.80 胴径 24.00	ナデ、押圧、ハケ、沈線2、刻目突帯貼付1 ナデ、押圧、板ナデ 口縁端部外端側: 刻目	黒褐 10YR 3/2 橙 5YR 6/6	石英、長石、砂岩	外面: 黒変(タール) 弥生前期
Fig.53-293	VA層	弥生土器 費 口縁~胴部片	残高 8.70	ナデ、押圧、ハケ、ヘラナデ ハケ+ナデ、押圧 口縁端部外端側: 刻目	灰黄褐 10YR 6/2 灰黄 2.5Y "	砂岩、長石、泥岩 チャート、石英 蛇紋岩?	外面: 黒変(スス) 弥生前期
Fig.53-294	VA層	弥生土器 費 口縁部片	残高 3.70	ナデ、押圧 ナデ、押圧 口縁端部外端側: 突帯状+刻目	灰黄褐 " 10YR 6/2 " 5/2	石英、長石 チャート、砂岩	外面: タール、スス 弥生前期
Fig.53-295	VA層	弥生土器 費 胴部片	残高 4.90	刻目突帯貼付1+乳状突起貼付2、縦位刻目突帯貼付2、乳 状突起貼付2+2 (2列)、ナデ/ナデ、押圧	にぶい黄 " 2.5Y 6/3 " "	泥岩 粗砂粒多	弥生前期
Fig.53-296	VA層	弥生土器 費 胴部片	残高 3.30	刻目突帯貼付2、ナデ、ヘラナデ ナデ、押圧	灰黄褐 10YR 4/2 黒褐 " 3/1	泥岩 粗砂粒多	外面: タール、スス、お こげ 弥生前期
Fig.53-297	VA層	弥生土器 費 胴部片	残高 2.60	突帯貼付1、斜位沈線文2段、竹管刺突5 ナデ、押圧	黒褐 " 2.5Y 3/1 " "	石英	内外面: タール、スス 弥生前期
Fig.54-298	VA層	弥生土器 壺 口縁~頸部片	口径 11.70 残高 6.45	段1=貼付・肥厚、斜位縞描文、押圧、横位縞描文 ナデ、押圧、板ナデ	黒褐 2.5Y 3/1 黄灰 " 4/1	砂岩、チャート	上端部: 縦口縁露出 弥生中期
Fig.54-299	VA層	弥生土器 高杯 杯部片	口径 25.30 残高 6.60	ナデ(凹線状)、ミガキ、ナデ ナデ、ミガキ(暗文状) 底面: ナデ、押圧	橙 5YR 6/6 にぶい赤褐 2.5Y 5/4	長石、石英、砂岩	内底面: 円板貼付、充填 内面: 黒変(タール) 外面: 黒斑あり 弥生中期?
Fig.54-300	VA層	弥生土器 高杯 口縁~胴部片	残高 3.30	ナデ(板ナデ?)、ミガキ ナデ、ミガキ	橙 " 5YR 7/6 " "	石英、長石、砂岩 チャート	弥生中期?
Fig.54-301	VA層	土師器 壺 口縁~胴部片	口径 17.40 残高 7.20	ハケ、ナデ ハケ、押圧、ナデ	にぶい橙 5YR 7/4 " " 6/4	長石、石英、砂岩	
Fig.54-302	VA層	土師器 壺 頸~胴部片	残高 5.10	斜位短沈線文1段、ハケ ハケ、ハケ+ナデ、押圧	灰 にぶい黄橙 5Y 4/1 10YR 7/2	長石、チャート 砂岩	
Fig.54-303	VA層	土師器 壺 底部片	残高 3.50	ハケ 板ナデ、押圧、ナデ 底面: 粒状圧痕、ナデ	灰 にぶい黄橙 5Y 5/1 10YR 7/3	チャート、石英 長石	外面: 黒斑あり
Fig.54-304	VA層	土師器 鉢	口径 12.20 残高 6.00	タタキ、押圧 ナデ、押圧、板ナデ	黒褐 10YR 3/1 にぶい黄褐 " 5/3	長石、チャート 石英	上端: 縦口縁? 内外面: タール、スス
Fig.54-305	VA層	土師器 鉢	口径 9.90 残高 6.20	刺突文1段、垂弧文(輪描)、ナデ、押圧 押圧、ナデ、接合痕明瞭	褐灰 " 10YR 6/1 " "	石英、チャート 砂岩	平面形: 不整形、ハート 形に凸み 内外面: 黒変(スス?)

表18 3A区出土土器観察表12

種目番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調	内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.54-306	V A層	土師器 器台 胴部片	残高 9.90	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	灰白 橙	2.5Y 7/1 7.5YR 6/6	チャート, 長石 石英	
Fig.54-307	V A層	須恵器 杯蓋 口縁部片	残高 2.80	突線1, 回転ナデ 回転ナデ	灰 暗赤灰	N 5/0 7.5R 4/1	石英 胎土精良	弥生前期 内外面; 黒変(タール?) 外面: 溶融物付着
Fig.55-308	ベルトB III B 3層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 6.00 底径 7.80	条痕(磨線), 押圧, ナデ 押圧 底面: 押圧, ナデ	橙 にぶい黄橙	7.5YR 7/6 10YR 7/3	チャート, 石英 長石	高台底 縄文晩期
Fig.55-309	ベルトB III B 3層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.60	ミガキ 段1, ミガキ 口縁端部: リボン・鱗状突起	黒褐 "	10YR 3/1 "	長石, 石英	波状口縁 黒色磨研 縄文晩期
Fig.55-310	ベルトB III B 3層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.30	ナデ 段1, ナデ, ミガキ?, 穿孔1 口縁端部: リボン状突起	黒褐 "	5YR 3/1 " 2/1	長石, 石英	波状口縁 黒色磨研 縄文晩期
Fig.55-311	ベルトB III B 3層	弥生土器 壺 口縁~頸部片	口径 20.20 残高 6.30	斜位短沈線文, 沈線1, 粘土帯貼付1+斜位短沈線文, ヘラ ナデ, ナデ, ハケ/押圧, ナデ	暗灰黄 灰黄褐	2.5Y 5/2 10YR "	石英, チャート	弥生中期?
Fig.55-312	ベルトB III B 3層	弥生土器 壺 頸部片	残高 3.80	磨福文(3条+6条), 爪形刺突3段, ナデ 押圧, ナデ	にぶい黄褐 褐灰	10YR 5/3 " 5/1	チャート, 石英	弥生中期?
Fig.55-313	ベルトB III B 3層	土師器 壺 口縁~胴部片	口径 17.50 残高 8.60	ハケ+ナデ, 押圧, 縦位短沈線文1段, ハケ, 押圧	灰黄 灰黄褐	2.5Y 6/2 10YR "	砂岩, チャート 石英	外面: タール 内外面: 黒斑あり
Fig.55-314	ベルトB III B 3層	土師器 壺	口径 10.60 残高 9.60 胴径 11.10	ナデ, 押圧, ハケ ハケ, 押圧, ナデ, 接合痕明瞭	にぶい橙 明赤褐	5YR 6/4 " 5/6	長石, 砂岩	外面: 黒斑あり
Fig.55-315	ベルトB III B 3層	土師器 坏	口径 10.40 残高 3.40	ナデ, 押圧 ナデ 底面: 押圧, ナデ	橙 "	2.5YR 6/8 5YR 6/6	長石	ほぼ完存
Fig.55-316	ベルトB III B 3層	須恵器 坏	口径 11.30 器高 3.80	回転ナデ, 回転ヘラケズリ 回転ナデ, 静止ナデ 底面: ヘラ記号	灰 "	N 6/ " "	長石 胎土精良	
Fig.56-317	ベルトC III B 2層	土師器 壺 口縁~胴部片	口径 28.70 残高 15.20 胴径 28.80	押圧, ナデ, 板ナデ ナデ, 押圧	黄灰 にぶい橙	2.5Y 6/1 7.5YR 6/4	チャート, 石英 砂岩	
Fig.56-318	ベルトC III B 2層	土師器 壺	口径 15.80 残高 21.60 胴径 19.10	押圧, タタキ, タタキ+ハケ ハケ, 押圧, ナデ	灰黄 にぶい黄橙	2.5Y 6/2 10YR 6/3	石英, チャート 砂岩	丸底 外面: 黒変(タール)
Fig.56-319	ベルトC III B 2層	土師器 壺 胴~底部片	残高 11.20 底径 3.40	タタキ+ハケ ナデ, 押圧 底面: タタキ	灰 灰褐	N 4/ 7.5YR 6/2	長石, 砂岩	平底 外面: 黒変(タール) 外面: 黒斑あり
Fig.56-320	ベルトC III B 2層	土師器 器台 胴部片	残高 4.00	ハケ, ナデ ハケ, ナデ, 押圧	橙 "	5YR 6/6 " "	砂岩, 石英 チャート, 長石	胴部: 中空
Fig.56-321	ベルトC III B 2層	土師器 坏 底部片	残高 1.40	押圧 ミガキ, ナデ 底面: ナデ, ヘラ掻き(爪状)	にぶい黄橙 "	10YR 6/4 " 6/3	チャート, 長石 石英, 角閃石	丸底 高杯?
Fig.57-322	ベルトA III B 1層	縄文土器 深鉢 口縁~頸部片	残高 2.90	突帯1, 突帯1+刻目, 環状貼付文1, ナデ, 押圧 ナデ	灰黄 灰黄褐	2.5Y 7/2 10YR 6/2	石英, 長石 角閃石	縄文後期
Fig.57-323	ベルトA III B 1層	縄文土器 深鉢 口縁~頸部片	残高 3.90	刻目突帯貼付1, 縦位沈線6, 沈線4, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	灰黄褐 "	10YR 5/2 " "	石英, チャート 長石	外面: タール
Fig.57-324	ベルトA III B 1層	弥生土器 壺 口縁~頸部片	口径 16.30 残高 6.40	押圧, ナデ, 段1=接合部, ナデ, 押圧, 板ナデ 口縁端部: 斜位短沈線文1段	灰 暗灰黄	7.5Y 6/1 2.5Y 5/2	長石, チャート	内外面: スス 弥生中期?
Fig.57-325	ベルトC III B 1層	弥生土器 壺 胴部片	残高 3.10	横円貼付文1段, 斜位短沈線文4段, 沈線1~2+3 ナデ, 押圧	灰 にぶい橙	5Y 5/1 7.5YR 6/4	長石	弥生中期?
Fig.57-326	ベルトA III B 1層	弥生土器 壺 底部片	残高 5.50 底径 6.60	ハケ, ナデ, 押圧 押圧, ナデ 底面: 粒状圧痕, 押圧	灰黄 にぶい橙	2.5Y 6/2 7.5YR 6/4	チャート, 石英 長石, 結晶片岩 砂岩	平底 内面: 黒変(タール?) 弥生中期?
Fig.58-327	III B層	縄文土器 深鉢 口縁~頸部片	残高 5.30	沈線2, 縄文LR+横円刺突1段, ナデ ミガキ~ナデ(丁草) 口縁端部: 刺突	にぶい赤褐 "	7.5YR 4/4 " 4/3	長石, 石英	内面: 黒斑あり 縄文後期
Fig.58-328	III B層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.20	沈線2, 斜位沈線3, 縄文LR(磨消) ナデ	にぶい赤褐 灰褐	5YR 5/4 " 4/2	長石, チャート 石英	外面: タール 縄文後期
Fig.58-329	III B層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 5.70	沈線1, ミガキ? (磨滅) 沈線状凹部1, ミガキ 口縁端部: 鱗状突起	褐灰 "	10YR 5/1 " "	石英, 長石	波状口縁 縄文晩期
Fig.58-330	III B層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 5.00	突起貼付2, ミガキ ミガキ, 接合痕明瞭	黄灰 にぶい褐	2.5Y 4/1 7.5YR 5/4	石英, 長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.58-331	III B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.70	刻目突帯貼付1, 円形刺突1, ナデ 刺突部裏: 隆起, ナデ(丁草)	灰黄褐 "	10YR 6/2 " "	チャート, 石英 長石	縄文晩期~弥生前期?
Fig.58-332	III B層	縄文土器? 深鉢 胴部片	残高 3.30	段1, 押圧, 竹管状刺突5, 複線文1, ナデ ナデ, ナデ(ケズリ状)	灰黄褐 暗灰	10YR 6/2 N 3/0	石英, チャート	外面: 黒変, タール? 縄文晩期?
Fig.58-333	III B層	弥生土器 壺 頸~胴部片	残高 5.30	重弧文(3条), 縦位縷形短沈線文1列, 沈線2+1, 縦 位短沈線文1段, ミガキ/ナデ, 押圧	灰白 黒	10YR 7/1 5Y 2/1	石英, 長石	外面: 黒変, 塗彩? 弥生前期

表19 3A区出土土器観察表13

種別番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調	内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.58-334	Ⅲ B層	弥生土器 壺 口縁～頸部片	口径 15.60 残高 9.60	ハケ、押圧、楕円形貼付文1段、斜位短沈線文1段 (ハケ原 体押捺) / ハケ、押圧、ナデ	灰 にぶい橙	5Y 4 / 1 7.5Y 6 / 4	チャート、石英 砂岩	弥生中期
Fig.58-335	Ⅲ B層	弥生土器 壺 口縁～頸部片	口径 16.20 残高 5.80	段1 = 貼付・肥厚、押圧、ナデ ナデ、押圧	黄灰 "	2.5Y 6 / 1 " 4 / 1	砂岩	外面：黒変あり (スス) 内外面：黒斑あり 弥生中期
Fig.58-336	Ⅲ B層	弥生土器 壺 頸部片	残高 4.60	突帯貼付1、櫛描文 ナデ、押圧、絞り目	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 7 / 2 " 6 / 2	石英、チャート	弥生中期?
Fig.58-337	Ⅲ B層	弥生土器 壺 口縁～胴部片	口径 14.70 残高 8.40	刻目、押圧、ナデ、斜位短沈線文 ナデ、押圧	灰黄 にぶい橙	2.5Y 6 / 2 7.5YR 6 / 4	石英、砂岩 チャート	外面：黒変 (ケール) 弥生中期
Fig.58-338	Ⅲ B層	弥生土器 壺 口縁～胴部片	残高 6.50	櫛描文2段、ナデ、楕円形貼付文1段、斜位短沈線文2段 (櫛 描き?) + 複線1、櫛描文/ハケ?、ナデ	黒褐 暗灰	2.5Y 3 / 1 N 3 /	石英、長石、雲母 砂岩	外面：おこげ 内面：黒色・褐色付着物 弥生中期?
Fig.58-339	Ⅲ B層	弥生土器 高杯 脚部片	残高 10.90 底径 7.00	ナデ、押圧、板ナデ 押圧、ナデ、板ナデ (ケズリ状)	にぶい黄橙 にぶい橙	10YR 7 / 4 7.5YR 6 / 4	チャート、石英 長石	脚部：中空 杯底部：擬口縁露出
Fig.58-340	Ⅲ B層	弥生土器 高杯 脚部片	残高 5.00 底径 9.00	ナデ、押圧、ミガキ 押圧、ナデ、板ナデ痕?	暗灰 "	N 3 / 0 " "	砂岩、石英、長石	弥生中期?
Fig.59-341	Ⅲ B層	土師器 壺 口縁部片	口径 24.90 残高 6.90	ハケ、押圧 ハケ、押圧、ナデ	にぶい橙 "	7.5YR 6 / 4 " "	チャート、石英 砂岩	外面：黒斑あり
Fig.59-342	Ⅲ B層	土師器 壺 口縁～頸部片	口径 9.50 残高 5.20	段1 = 貼付・肥厚、ナデ、押圧、板ナデ (ミガキ?)、ナデ (丁寧) / 板ナデ、ナデ、押圧、板ナデ圧痕	にぶい褐 にぶい褐	7.5YR 6 / 3 5YR 6 / 4	チャート、石英 砂岩	内面：黒変 (スス)
Fig.59-343	Ⅲ B層	土師器 壺 口縁部片	口径 11.40 残高 4.50	ハケ、押圧、ナデ ハケ	にぶい褐 "	7.5YR 6 / 3 " "	石英、チャート 長石	
Fig.60-344	Ⅲ B層	土師器 壺 胴部片	口径 28.30 残高 45.40 胴径 34.90	ミガキ～ナデ (丁寧) = 暗文状、ハケ ハケ、ナデ、暗文、押圧、ナデ (ケズリ状)	にぶい黄褐 "	10YR 5 / 3 " "	石英、長石	ほぼ完存、丸底 内外面：黒変あり 搬入品
Fig.61-345	Ⅲ B層	土師器 壺 口縁部片	口径 15.00 残高 3.70	ナデ ナデ	褐灰 "	10YR 4 / 1 " "	石英、長石	搬入品
Fig.61-346	Ⅲ B層	土師器 壺 頸～胴部片	残高 6.00 胴径 20.00	環状貼付文1段、ナデ、ミガキ、ナデ (丁寧)、円形貼付文 ? / ナデ (粗い)、板ナデ、ナデ、押圧	黄灰 にぶい褐	2.5Y 4 / 1 7.5YR 5 / 4	石英、チャート	外面：黒斑あり
Fig.61-347	Ⅲ B層	土師器 壺 頸部片	残高 3.00	突帯貼付1、沈線1～2?、斜位沈線文1段、ナデ 押圧	黄灰 にぶい黄橙	2.5Y 4 / 1 10YR 6 / 4	石英、チャート 砂岩	
Fig.61-348	Ⅲ B層	土師器 壺 頸部片	残高 4.30	斜格子状ヘラ描き文、ハケ、ナデ 押圧	にぶい黄橙 にぶい橙	10YR 7 / 2 7.5YR 7 / 4	チャート、石英	
Fig.61-349	Ⅲ B層	土師器 小型丸底土器	口径 9.80 器高 5.70 胴径 6.80	ナデ (丁寧)、押圧、ナデ ミガキ～ナデ (丁寧)、ナデ、押圧	にぶい褐 にぶい橙	7.5YR 6 / 3 " 6 / 4	長石、チャート 石英	丸底 外面：黒斑あり
Fig.62-350	Ⅲ B層	土師器 壺	口径 14.00 残高 18.80 胴径 19.20	押圧、ナデ、タタキ+ハケ ナデ、押圧、ハケ	灰黄 "	2.5Y 6 / 2 " "	石英、砂岩	内外面：スス、タール
Fig.62-351	Ⅲ B層	土師器 壺	残高 11.20 胴径 17.80	タタキ+ナデ、押圧 ナデ、押圧、ハケ	にぶい橙 "	7.5YR 7 / 3 " "	長石、砂岩	外面：黒斑あり
Fig.62-352	Ⅲ B層	土師器 壺 口縁～胴部片	口径 20.90 残高 8.00	ナデ、タタキ+ナデ、ナデ (ケズリ状) ナデ、押圧	灰 黒褐	7.5Y 5 / 1 10YR 3 / 1	石英、砂岩	外面：おこげ、スス
Fig.62-353	Ⅲ B層	土師器 壺	残高 17.60 胴径 16.50	押圧、タタキ+ナデ、ハケ、押圧 押圧、ナデ 底面：タタキ	灰 にぶい橙	5Y 4 / 1 5YR 7 / 3	砂岩、石英 チャート	丸底 結上帯：擬口縁露出 外面：スス、黒斑あり
Fig.63-354	Ⅲ B層	土師器 器台	口径 31.50 残高 44.80 胴径 19.40	櫛描波状文、ナデ、押圧、円形透し孔7×6段以上、ミガキ ～ナデ (丁寧) / ナデ、押圧 口縁端面：ハケ、円形貼付文+同心円沈線文	明赤褐 "	5YR 5 / 6 " "	長石、石英 チャート	外面：黒斑あり
Fig.64-355	Ⅲ B層	土師器 器台 口縁部片	残高 4.10	突帯貼付1+刻目、沈線2+4、ナデ、押圧 ナデ、押圧 口縁端面：沈線1、ナデ	暗灰黄 にぶい橙	2.5Y 5 / 2 7.5YR 6 / 4	チャート、石英	
Fig.64-356	Ⅲ B層	土師器 器台	残高 13.40 底径 20.00	円孔6×2段、ハケ、押圧 ハケ、押圧、ナデ	にぶい褐 にぶい橙	7.5YR 6 / 3 5YR 6 / 4	チャート、砂岩 石英	内面：黒斑あり
Fig.64-357	Ⅲ B層	土師器 高杯 口縁部片	口径 32.10 残高 3.70	ハケ、押圧、ナデ 板ナデ、ナデ、押圧、ハケ	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR 6 / 2 " 7 / 3	チャート、石英 砂岩、長石	
Fig.64-358	Ⅲ B層	土師器 高杯 脚部片	残高 12.90 底径 22.65	円孔2、ハケ、押圧、ミガキ 押圧、ナデ、ハケ	にぶい橙 灰	5YR 6 / 4 N 4 /	チャート、砂岩 石英、長石	脚部：中空 内外面：黒斑あり
Fig.64-359	Ⅲ B層	土師器 高杯 脚部片	残高 5.00 底径 10.60	円孔4×1段、押圧、ナデ ナデ、段1	橙 "	5YR 6 / 6 " "	長石	
Fig.64-360	Ⅲ B層	土師器 鉢	口径 17.40 残高 7.40 底径 3.00	ハケ、押圧、ナデ 板ナデ、ハケ、押圧 底面：押圧、線状圧痕	にぶい橙 "	7.5YR 6 / 4 5YR "	砂岩、石英、長石 砂岩	平底? 外面：黒変 (スス)
Fig.65-361	Ⅲ B層	土師器 手控ね土器	口径 4.80 器高 2.60	押圧 押圧	にぶい橙 "	5YR 7 / 3 " "	チャート、石英	ほぼ完存 环形 内面：黒色炭化物付着

表20 3A区出土土器観察表14

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.64-362	ⅢB層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径 12.80 残高 5.40	ミガキ、ナデ (丁寧)、押圧、ナデ ナデ、ミガキ、ヘラナデ、ナデ (丁寧)	にふい黄褐色 にふい黄褐色	10YR 5/4 " 6/4	長石、石英、雲母
Fig.66-363	ベルトC ⅢA1層	土師器 高杯 胴部片	残高 9.30	押圧、ナデ、ハケ ナデ、ハケ?	橙 にふい橙	2.5YR 7/6 5YR 7/4	砂岩、石英 チャート、長石
Fig.67-364	ベルトC ⅢA1層	須恵器 甕	口径 25.30 残高 55.20 胴径 51.60	沈線1、回転ナデ、平行タタキ、カキ目 (ハケ?)、別個体 破片付着、自然発色/ナデ、同心円当て具痕、	灰 灰オリーブ	5Y 5/1 " 4/2	
Fig.66-365	ベルトC ⅢA1層	須恵器 はそう	残高 8.90 胴径 11.20	円孔1、カキ目、沈線3?縦位刻目1段、ヘラ描き3箇所、 回転ナデ、ナデ/回転ナデ、ナデ、押圧	黄灰 灰	2.5Y 6/1 N 5/	長石、石英 胎土精良
Fig.68-366	ⅢA層	縄文土器 浅鉢? 口縁部片	残高 13.70	沈線2、ナデ ナデ、押圧	灰黄褐色 "	10YR 5/2 " "	長石、石英、雲母
Fig.68-367	ⅢA層	縄文土器 注口土器 注口部片	残高 4.20	貼付・隆起部1、押圧、ナデ、ミガキ? (磨滅) 押圧、ナデ	黄灰 にふい黄	2.5Y 5/1 " 6/3	石英、長石、雲母
Fig.68-368	ⅢA層	縄文土器 注口土器 口縁部片	残高 1.40	沈線1、ミガキ 沈線1、縄文R1、ミガキ、ナデ、押圧 口縁部片:沈線1	にふい橙 "	7.5YR 6/4 " "	石英、角閃石
Fig.68-369	ⅢA層	縄文土器 浅鉢 口縁～頸部片	残高 3.85	沈線状1、ミガキ ミガキ	褐灰 "	10YR 4/1 " 5/1	雲母、長石
Fig.68-370	ⅢA層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 2.20	ナデ、押圧 半截竹管状刺突、ナデ、ミガキ 口縁部片:懸状突起	褐灰 "	10YR 4/1 " "	長石、石英
Fig.68-371	ⅢA層	縄文土器 浅鉢 口縁～頸部片	残高 5.80	条痕+ミガキ ミガキ	黒褐色 橙	10YR 3/1 7.5YR 6/6	石英、長石
Fig.68-372	ⅢA層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 2.60	ミガキ ミガキ、ナデ	灰黄褐色 黒褐色	10YR 5/2 2.5Y 3/1	石英、雲母、長石
Fig.68-373	ⅢA層	縄文土器 浅鉢 胴部片	残高 3.30	段1 (貼付)、突帯貼付1、ナデ、ミガキ～ナデ (丁寧) ナデ	黄灰 "	2.5Y 4/1 " "	石英、長石
Fig.68-374	ⅢA層	縄文土器 深鉢 口縁～頸部片	残高 4.30	刻目突帯貼付1、縁取り沈線1、ナデ 沈線1、ナデ、押圧 液頂部断面:刻目3	灰 "	5Y 4/1 " "	長石、石英
Fig.68-375	ⅢA層	縄文土器 深鉢 口縁～頸部片	残高 4.80	刻目突帯貼付1、円孔2、ナデ ナデ 口縁部片外端側:刻目	にふい黄褐色 "	10YR 7/3 " "	長石
Fig.68-376	ⅢA層	縄文土器 浅鉢 口縁～胴部片	残高 3.80	押圧、ナデ、ケズリ 沈線1、ミガキ、沈線状ミガキ	黄灰 "	2.5Y 4/1 " "	長石、チャート 石英
Fig.69-377	ⅢA層	弥生土器 壺 口縁～頸部片	口径 21.00 残高 7.60	沈線1、ミガキ、ハケ 磨滅、不明	にふい黄褐色 にふい橙	10YR 6/4 7.5YR "	石英、長石
Fig.69-378	ⅢA層	弥生土器 壺 胴部片	残高 5.05	沈線1、縦位沈線1、木葉文～重弧文?、ミガキ ナデ	灰黄褐色 "	10YR 5/2 " 6/2	チャート、石英 長石
Fig.69-379	ⅢA層	弥生土器 壺 胴部片	残高 2.50	斜位沈線2+7、ミガキ ミガキ～ナデ (丁寧)	黒褐色 "	10YR 3/1 " 3/2	長石、石英、雲母
Fig.69-380	ⅢA層	弥生土器 壺 底部片	残高 5.00 底径 11.30	ミガキ、ハケ、押圧 押圧、ナデ 底面:ナデ、粒状圧痕、繊維状圧痕	灰白 にふい黄褐色	10YR 7/1 " 7/2	チャート、石英 砂岩
Fig.69-381	ⅢA層	弥生土器 壺 口縁～頸部片	口径 4.80 残高 6.60	沈線3+8+1?、重弧文?、ミガキ (磨滅)、突帯貼付1 ナデ、押圧	灰白 "	10YR 8/1 " "	石英、チャート 角閃石
Fig.69-382	ⅢA層	弥生土器 甕 口縁～胴部片	残高 6.10	接合部:段+刻目、ナデ、押圧 ナデ、押圧 口縁部片外端:刻目	灰白 にふい黄褐色	10YR 8/2 " 7/3	石英、チャート 長石
Fig.69-383	ⅢA層	弥生土器 甕 胴部片	残高 2.60	刻目突帯貼付3、ナデ ナデ	灰 黄灰	N 4/1 2.5Y 6/1	長石
Fig.70-384	ⅢA層	弥生土器 壺 口縁～頸部片	口径 13.40 残高 12.10	斜位櫛描文、楕円形貼付文、櫛描文2段+斜位櫛描文2段 押圧、ナデ	灰白 にふい黄褐色	5Y 4/1 " 6/2	泥岩、砂岩、石英 長石
Fig.70-385	ⅢA層	弥生土器 壺 口縁～頸部片	口径 14.80 残高 7.20	突帯貼付1+刻目、押圧、ナデ、櫛描文、楕円形貼付文1 段、沈線1/ナデ	オリーブ黒 にふい黄褐色	5Y 3/1 10YR 5/3	長石? 結晶片岩?
Fig.70-386	ⅢA層	弥生土器 壺 口縁～頸部片	口径 14.40 残高 3.30	突帯貼付1+刻目、ナデ、押圧、櫛描文 ナデ、押圧	灰 灰黄	7.5Y 5/1 2.5Y 6/2	粗砂粒多
Fig.70-387	ⅢA層	弥生土器 壺 胴部片	残高 3.70	櫛描文、斜位櫛描文3段、楕円形貼付文1段 ナデ、押圧	灰褐色 褐灰	7.5YR 4/2 10YR 4/1	石英、チャート
Fig.70-388	ⅢA層	弥生土器 甕 口縁～頸部片	口径 18.00 残高 6.30	刻目突帯1 (貼付?)、ナデ、押圧 ナデ、押圧、板ナデ圧痕	にふい黄褐色 灰黄褐色	10YR 5/3 " 5/2	チャート、長石 石英
Fig.70-389	ⅢA層	弥生土器 甕 口縁～胴部片	口径 14.30 残高 10.10	凹線2、ナデ、段1、ハケ ナデ、ハケ、押圧	にふい橙 橙	7.5YR 6/4 5YR 6/6	砂岩、チャート 長石、石英



表21 3A区出土土器観察表15

挿入番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.70-390	ⅢA層	弥生土器 甕 口縁～頸部片	口径 13.80 残高 2.80	凹線2, ナデ, 段1, 押圧 ナデ, 押圧, 接合痕明瞭	にぶい黄橙 10YR 6/3 灰黄褐 " 4/2	長石, チャート 石英	外面: 黒変, タール 弥生中期
Fig.70-391	ⅢA層	弥生土器 高杯 口縁部片	口径 28.00 残高 4.10	ハケ, 押圧, 段1 (接合部) ハケ, 押圧	灰褐 7.5YR 6/2 にぶい橙 " 6/4	石英, チャート 長石	弥生中期?
Fig.70-392	ⅢA層	弥生土器 高杯 口縁部片	残高 4.60	ハケ, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	にぶい黄橙 10YR 7/2 橙 5YR 7/6	チャート, 石英 長石	内面: 黒斑状
Fig.71-393	ⅢA層	弥生土器 壺 底部片	残高 8.30 底径 3.80	タタキ+ハケ ナデ, 押圧 底面: ナデ	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " "	チャート, 石英 長石	平底 弥生後期
Fig.71-394	ⅢA層	弥生土器 甕 口縁～胴部片	口径 17.00 残高 10.70 胴径 20.20	ナデ, 押圧, ハケ, タタキ ナデ, 押圧, ハケ, ハケ+ナデ	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " "	長石, 石英 橙色粘土粒	
Fig.71-395	ⅢA層	弥生土器 甕 底部片	残高 6.00 底径 2.20	ハケ ナデ, 押圧 底面: ナデ	にぶい橙 7.5YR 6/4 にぶい黄橙 10YR 6/3	長石, チャート 砂岩	弥生後期
Fig.71-396	ⅢA層	弥生土器 甕? 底部片	残高 3.70 底径 4.60	ハケ, ヘラナデ 押圧, ナデ	橙 5YR 6/6 灰黄 2.5Y 6/2	石英, チャート 長石	平底 外面: 黒斑?あり 弥生後期
Fig.72-397	ⅢA層	土師器 壺 口縁～頸部片	口径 19.60 残高 5.90	ナデ, 押圧, ハケ, ハケ+押圧 ハケ, ナデ	橙 7.5YR 7/6 浅黄橙 " 7/3	長石, チャート 砂岩, 石英	
Fig.72-398	ⅢA層	土師器 壺 口縁部片	口径 22.00 残高 4.70	磨滅, 不明 ミガキ+ナデ (丁寧), ハケ, 押圧, ナデ	灰黄 2.5Y 7/2 " " "	石英, 長石, 雲母	
Fig.72-399	ⅢA層	土師器 壺 口縁～頸部片	口径 17.00 残高 4.80	ハケ, ナデ, 押圧 ハケ, ナデ, 押圧	明褐灰 7.5YR 7/2 にぶい橙 " 7/3	チャート, 石英 砂岩	
Fig.72-400	ⅢA層	土師器 壺 口縁～胴部片	口径 19.60 残高 7.50	ハケ, 押圧, ナデ ナデ, 板ナデ, 押圧, ハケ?	浅黄橙 7.5YR 8/4 " " 8/3	石英, チャート 砂岩, 長石	
Fig.72-401	ⅢA層	土師器 壺 口縁部片	残高 4.40	段1 (接合部), ハケ, ナデ, 押圧 ハケ, ミガキ, ナデ 口縁端面: 沈線状1	にぶい黄橙 10YR 7/2 暗灰 N 3/0	長石, 石英 チャート	
Fig.73-402	ⅢA層	土師器 壺	口径 17.00 残高 24.20 胴径 27.20	ハケ, ナデ, タタキ ミガキ?, ハケ, ナデ, 押圧	灰黄 2.5Y 6/2 にぶい黄 " 6/3	砂岩, チャート	外面: タール, スス 内面: 黒変あり, スス?
Fig.72-403	ⅢA層	土師器 壺 口縁～頸部片	口径 18.20 残高 8.60	ハケ, 押圧 ハケ, 押圧, ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 " " "	チャート, 石英 砂岩	内外面: 黒斑あり
Fig.72-404	ⅢA層	土師器 壺 口縁～胴部片	口径 15.70 残高 10.90	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧, ケズリ	黄灰 2.5Y 5/1 灰褐 7.5YR 6/2	砂岩	
Fig.72-405	ⅢA層	土師器 壺 口縁～胴部片	口径 14.20 残高 9.40	ナデ, 押圧, タタキ, ハケ ナデ, ハケ	にぶい橙 7.5YR 6/4 橙 5YR 6/6	長石, 石英, 砂岩	
Fig.72-406	ⅢA層	土師器 壺 口縁部片	残高 6.10	ナデ (回転?), 段1=突帯状 (貼付) ナデ (回転?) 口縁端面: 凹線1	にぶい黄褐 10YR 5/3 灰黄褐 " 4/2	雲母, 長石, 石英	内面: 黒変, スス 外面: 黒変あり
Fig.73-407	ⅢA層	土師器 壺	口径 14.00 器高 32.10 胴径 24.50 底径 3.80	ナデ, 押圧, タタキ, タタキ+ハケ ハケ, ナデ, ナデ (ケズリ状), 押圧 底面: ナデ	黒褐 2.5Y 3/1 にぶい橙 7.5YR 6/4	砂岩, 石英, 長石	ほぼ完存 平底 外面: スス, タール
Fig.74-408	ⅢA層	土師器 壺 口縁～胴部片	口径 13.60 残高 15.20 胴径 24.60	ハケ, 押圧, ナデ ハケ, ナデ, 接合痕明瞭, 押圧	灰褐 7.5YR 5/2 橙 5YR 6/6	石英, 砂岩 チャート	
Fig.74-409	ⅢA層	土師器 壺 口縁～胴部片	口径 15.20 残高 7.60	ナデ, 押圧, 粒状圧痕多 ナデ, 板ナデ原体圧痕, ナデ (ケズリ状)	褐灰 10YR 6/1 灰白 " 8/1	長石, 石英	
Fig.74-410	ⅢA層	土師器 壺 口縁～頸部片	口径 13.80 残高 5.20	押圧, ナデ, 接合痕明瞭 ナデ, 押圧, 接合痕明瞭	にぶい橙 10YR 6/3 " 7.5YR 6/4	チャート, 石英	
Fig.74-411	ⅢA層	土師器 壺	口径 10.70 器高 15.40 胴径 14.30	ナデ ナデ, ハケ?, 押圧, ナデ (ケズリ状)	にぶい橙 7.5YR 7/3 にぶい黄橙 10YR "	長石, チャート 石英, 砂岩	丸底 外面: 黒変 (タール) 外面: 黒斑あり
Fig.74-412	ⅢA層	土師器 壺	口径 11.60 残高 14.50 胴径 15.90	ナデ (丁寧), ミガキ? ナデ (丁寧), 押圧, ナデ	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " "	長石, チャート 胎土精良	外面: 黒斑あり
Fig.74-413	ⅢA層	土師器 壺 口縁～胴部片	口径 9.60 残高 7.40	ナデ, 板ナデ, 押圧 ハケ, ナデ, 板ナデ, 押圧, 接合痕明瞭	にぶい橙 7.5YR 6/4 橙 2.5YR 6/8	石英, 砂岩, 長石 チャート	下端: 意図的な破砕?
Fig.74-414	ⅢA層	土師器 壺	口径 11.80 器高 14.40 胴径 14.30	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧, 接合痕明瞭	にぶい黄橙 10YR 6/3 灰黄 2.5Y 6/2	砂岩, 石英, 長石	丸底 外面: 黒斑あり
Fig.74-415	ⅢA層	土師器 壺	口径 12.50 器高 15.60 胴径 13.10	ハケ+ナデ, 押圧, ヘラナデ, ハケ, ナデ ハケ, ナデ, 板ナデ 底面: 押圧, タタキ? (繊維状圧痕?)	灰黄 2.5Y 6/2 にぶい橙 7.5Y 6/4	長石	丸底 外面: 黒斑あり
Fig.74-416	ⅢA層	土師器 壺 口縁部片	口径 10.90 残高 4.30	タタキ+ハケ, 押圧 ハケ, 押圧, ナデ	にぶい橙 7.5YR 6/3 " " "	長石, チャート	外面: 黒斑あり
Fig.75-417	ⅢA層	土師器 壺 口縁～胴部片	口径 14.80 残高 9.20	ミガキ, ナデ, ハケ ミガキ, ナデ, 押圧	にぶい黄橙 10YR 6/3 灰黄褐 " 6/2	石英, 長石 結晶片岩	搬入品

表22 3A区出土土器観察表16

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.75-418	ⅢA層	土師器 甕 口縁～胴部片	残高 4.60	沈線? 2 (凹線?), ミガキ, ナデ ナデ, 板ナデ, 押圧	灰黄 " 2.5Y 6/2 " " "	石英, 雲母, 長石	搬入品
Fig.75-419	ⅢA層	土師器 甕 頸～胴部片	残高 5.70	隆帯貼付1 + 斜格子状ヘラ描き文, ハケ ナデ, 押圧	灰黄褐 にふい楊 10YR 6/2 7.5YR 6/3	石英, チャート 長石	
Fig.75-420	ⅢA層	土師器 甕 頸～胴部片	残高 3.00	環状貼付文, ナデ ナデ, 押圧	黄灰 にふい黄橙 2.5Y 5/1 10YR 6/3	長石, チャート 石英	外面: 黒斑あり
Fig.75-421	ⅢA層	土師器 甕? 胴部片	残高 3.30	帯描波状文, ナデ ナデ, 押圧	灰黄褐 黄灰 10YR 6/2 2.5Y 5/1	石英, チャート	
Fig.75-422	ⅢA層	土師器 壺 胴～底部片	残高 9.80 底径 1.60	タタキ+ナデ, 板ナデ, ナデ, 押圧 ナデ, 押圧, 板ナデ	にふい黄橙 10YR 7/2 " " 7/3	チャート, 石英 砂岩	丸底
Fig.76-423	ⅢA層	土師器 壺	口径 8.80 器高 11.00 胴径 10.90 底径 2.50	ハケ+ナデ? (ミガキ?), 押圧, 板ナデ, ナデ (ケズリ状 ?) / 板ナデ, ナデ, 押圧, ケズリ 底面: ナデ, 押圧, 粘土貼付あり	灰黄褐 にふい黄橙 10YR 6/2 " 7/3	チャート, 石英 長石	丸底 外面: 黒斑あり
Fig.76-424	ⅢA層	土師器 壺	口径 7.50 器高 8.30 胴径 8.25	ナデ, ハケ+ナデ ナデ, ケズリ	にふい橙 7.5YR 6/4 にふい楊 " 6/3	石英, チャート	ほぼ完存 丸底 内面: タール付着あり
Fig.76-425	ⅢA層	土師器 甕	残高 6.90 胴径 9.00	ナデ, 押圧, 板ナデ ハケ?, ナデ, 押圧	にふい黄橙 10YR 7/3 灰黄褐 " 6/2	砂岩, 石英, 長石	丸底 外面: 黒斑あり
Fig.76-426	ⅢA層	土師器 甕 頸～底部片	残高 5.90 胴径 8.90 底径 2.00	ナデ, 押圧 押圧, ナデ 底面: 繊維状圧痕	にふい橙 7.5YR 6/4 橙 " 6/6	石英, 長石 チャート	平底 外面: 黒斑あり
Fig.76-427	ⅢA層	土師器 小型丸底土器	口径 11.20 器高 8.00 胴径 10.40	ナデ, 押圧, 板ナデ, ケズリ, ミガキ ナデ, 押圧	橙 " 5YR 6/6 " 7/6	チャート, 石英 長石	ほぼ完存 丸底
Fig.76-428	ⅢA層	土師器 小型丸底土器	口径 8.80 器高 8.20 胴径 9.30	ハケ, ナデ, 押圧, ヘラナデ? ナデ, 押圧, 板ナデ原体圧痕 底面: 押圧, ナデ	にふい橙 7.5YR 7/4 にふい黄橙 10YR 7/3	チャート, 石英	ほぼ完存 平底
Fig.76-429	ⅢA層	土師器 小型丸底土器	口径 11.20 器高 6.30 胴径 9.40 底径 2.60	ミガキ, 押圧, ケズリ ミガキ, ナデ 底面: 粒状圧痕	にふい黄橙 10YR 6/3 " 7/3	長石, 石英 チャート	ほぼ完存 平底
Fig.76-430	ⅢA層	土師器 小型丸底土器	口径 10.60 器高 6.25 胴径 9.80 底径 3.90	ナデ, ヘラナデ, ミガキ? ナデ, 板ナデ, 押圧 底面: ナデ	にふい黄橙 10YR 7/2 " " "	石英, 砂岩	平底 底部外面: 黒斑
Fig.76-431	ⅢA層	土師器 小型丸底土器	口径 10.00 器高 7.00 胴径 8.90	押圧, ナデ 押圧, ナデ 底面: ナデ	灰黄褐 10YR 5/2 にふい楊 7.5YR 5/4	石英, 長石	丸底 「手捏ね」的? 外面: 黒斑あり
Fig.76-432	ⅢA層	土師器 小型丸底土器	口径 8.90 器高 6.50 胴径 8.10	押圧, ミガキ? (磨滅) ハケ, ナデ, ヘラナデ, ミガキ? (磨滅), 押圧	にふい黄橙 10YR 7/3 にふい橙 7.5YR " "	石英, チャート 長石	ほぼ完存 外面: 焼成時剥離痕 3
Fig.77-433	ⅢA層	土師器 甕	口径 17.40 残高 23.20 胴径 20.40	押圧, ナデ, 接合部明瞭, タタキ, 板ナデ ナデ, 板ナデ, 押圧, ケズリ+ナデ (ケズリ状)	灰黄褐 10YR 5/3 " " 5/2	石英, 砂岩	丸底 外面: 黒変 (タール)
Fig.77-434	ⅢA層	土師器 甕	口径 13.80 残高 21.00 胴径 18.40	押圧, ナデ, タタキ, タタキ+ナデ 押圧, ナデ, 板ナデ, ケズリ	灰黄褐 10YR 6/2 黄灰 2.5Y 4/1	石英, 長石 チャート, 砂岩	丸底? 内外面: 黒変あり
Fig.77-435	ⅢA層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径 13.50 残高 15.70 胴径 15.50	ナデ, 押圧, タタキ, タタキ+ナデ ナデ, 押圧, 板ナデ, ナデ (ケズリ状)	浅黄橙 10YR 8/3 " " "	砂岩, チャート シャーモット	外面: スス, タール
Fig.77-436	ⅢA層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径 15.00 残高 12.90 胴径 17.40	ナデ, 押圧, タタキ ナデ, 板ナデ, 押圧, 板ナデ圧痕	にふい楊 7.5YR 5/4 にふい黄橙 10YR 6/4	砂岩	外面: スス, タール
Fig.77-437	ⅢA層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径 14.60 残高 9.70 胴径 18.60	タタキ+押圧, ナデ, タタキ タタキ+ナデ, 押圧, ナデ, ナデ (ケズリ状)	にふい黄橙 10YR 6/3 にふい橙 7.5YR 6/4	長石, チャート シャーモット?	外面: スス, タール
Fig.77-438	ⅢA層	土師器 甕	口径 12.00 器高 13.80 胴径 13.60	押圧, タタキ, ナデ ハケ, ナデ 底部: 繊維状圧痕	にふい楊 7.5YR 5/3 褐灰 " 4/1	長石, 砂岩 チャート	丸底 外面: スス, 黒変 焼成時剥離痕あり 内面: 黒変あり
Fig.77-439	ⅢA層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径 16.60 残高 5.00	タタキ, ナデ ナデ	橙 " 5YR 6/6 " " "	チャート, 長石 砂岩	外面: タール, 黒変
Fig.78-440	ⅢA層	土師器 甕	口径 11.30 器高 14.90 胴径 14.10	ナデ, 押圧, タタキ+ナデ ナデ, 板ナデ, ケズリ	にふい黄橙 10YR 6/3 " " 6/4	石英, チャート	丸底 内外面: タール, スス
Fig.78-441	ⅢA層	土師器 甕	口径 15.90 残高 23.00 胴径 20.00	ハケ, タタキ+ハケ+ナデ, タタキ+ナデ ハケ, ナデ, ケズリ, 押圧	にふい黄橙 10YR 7/3 " " "	砂岩, 長石	外面: スス, タール
Fig.78-442	ⅢA層	土師器 甕	口径 14.30 残高 23.60 胴径 19.20	ハケ, 押圧, ナデ, タタキ+ハケ 押圧, 板ナデ, ナデ, ハケ, 接合部明瞭	にふい橙 5YR 6/4 橙 " 6/6	長石, 石英 チャート	内外面: 黒変 (タール) 外面: 黒斑あり
Fig.78-443	ⅢA層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径 15.20 残高 14.30 胴径 20.00	ハケ+ナデ, タタキ+ハケ ナデ, ナデ (ケズリ状)	にふい橙 7.5YR 6/4 " " "	砂岩, 長石, 石英	外面: タール, 黒変
Fig.78-444	ⅢA層	土師器 甕 口縁～胴部片	口径 17.00 残高 11.60 胴径 19.90	ナデ, 押圧, タタキ+ハケ ハケ, ナデ, 押圧	オリーブ黒 7.5Y 3/1 黄褐 2.5Y 5/3	長石, 石英, 砂岩	外面: 黒斑あり スス, タール

表23 3A区出土土器観察表17

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考	
Fig.78-445	ⅢA層	土師器 甕	口径 14.00 器高 17.40 胴径 14.90 底径 3.10	ハケ、押圧、タタキ+ハケ ハケ、ナデ、押圧 底面：タタキ+ナデ	にぶい橙 橙	5YR 6/4 " 6/6	長石、砂岩	平底 外面：黒変（タール） 黒斑あり
Fig.79-446	ⅢA層	土師器 甕	口径 13.80 残高 17.60 胴径 15.95 底径 8.80	ハケ、押圧、タタキ+ハケ、ナデ ハケ、ハケ+ナデ、押圧 底面：ハケ、ナデ、押圧	にぶい黄 にぶい黄橙	2.5Y 3/6 10YR 6/3	長石、砂岩、石英	丸底 外面：黒変（スス） 黒斑あり
Fig.79-447	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 15.00 残高 8.80	タタキ+ハケ、押圧 ナデ、押圧	橙 にぶい橙	5YR 6/6 7.5YR 6/4	砂岩、長石、石英 角閃石	外面：タール、黒変
Fig.79-448	ⅢA層	土師器 甕	口径 12.70 残高 16.20 胴径 14.90	タタキ+ハケ ハケ	にぶい黄橙 "	10YR 6/4 "	長石、石英	内面：黒斑あり
Fig.79-449	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 12.80 残高 8.00 胴径 15.60	タタキ、ナデ、ハケ ハケ、押圧、ナデ	橙 "	5YR 6/6 "	砂岩、チャート 石英	外面：スス、タール
Fig.79-450	ⅢA層	土師器 甕	残高 12.70 胴径 13.00	タタキ+ハケ、ナデ、縦線状圧痕 ハケ、ナデ、押圧、板ナデ	黒 黄褐	10Y 2/1 2.5Y 5/3	長石、石英	外面：黒斑あり 盃？
Fig.79-451	ⅢA層	土師器 甕 頸部片	残高 4.50	タタキ+ハケ、ナデ ハケ、ナデ	にぶい褐 "	7.5YR 6/3 "	長石、砂岩 チャート	外面：黒斑、黒変（タール？）あり
Fig.80-452	ⅢA層	土師器 甕 口縁部片	口径 17.15 残高 4.40	ハケ、ミガキ、ナデ、押圧 ハケ、ナデ	橙 灰黄	5YR 6/6 2.5Y 7/2	チャート、石英 砂岩	盃？
Fig.80-453	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 13.50 残高 10.70 胴径 17.75	ハケ、ナデ、ハケ+ナデ ハケ、ナデ、ケズリ	にぶい黄橙 "	10YR 6/3 " 6/4	長石、石英 チャート	外面：黒変（タール、おこげ）
Fig.80-454	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 12.20 残高 7.50 胴径 13.50	タタキ+ハケ、押圧 ハケ、ナデ、押圧、板ナデ原体圧痕	にぶい橙 にぶい橙	7.5YR 7/3 "	石英、チャート 長石	外面：焼成時刺離痕あり
Fig.80-455	ⅢA層	土師器 甕	口径 11.60 器高 11.40 胴径 10.80 底径 3.00	ハケ、ナデ、押圧 ハケ、ナデ、押圧、ヘラナデ 底面：ハケ、ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 6/3 " 6/2	石英、長石	丸底（貼付）
Fig.80-456	ⅢA層	土師器 甕 頸~胴部片	残高 13.00 胴径 13.60	押圧、ハケ、ナデ ハケ、ナデ、板ナデ	にぶい褐 明赤褐	7.5YR 5/3 5YR 5/6	長石、チャート 石英、砂岩	外面：黒斑？
Fig.80-457	ⅢA層	土師器 甕	口径 14.00 残高 18.60 胴径 18.40	板ナデ、ナデ、板ナデ原体 ナデ、押圧、ケズリ	にぶい黄褐 "	10YR 5/3 "	長石	外面：黒斑あり 内面：黒斑？あり
Fig.80-458	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 14.40 残高 5.90	ナデ、板ナデ原体圧痕、押圧、板ナデ ナデ、板ナデ、押圧、板ナデ原体、ケズリ	にぶい黄橙 "	10YR 6/3 " 7/3	長石、砂岩、石英 チャート	外面：スス、黒変あり
Fig.80-459	ⅢA層	土師器 甕 口縁~頸部片	口径 13.00 残高 4.30	ナデ、押圧、板ナデ ナデ、ハケ？、押圧	灰黄褐 "	10YR 4/2 "	長石、雲母？	外面：黒変、スス付着あり
Fig.81-460	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 13.00 残高 10.00	押圧、ナデ、ヘラナデ？、板ナデ 板ナデ、押圧、ナデ、ナデ（丁掌）	にぶい黄褐 褐	10YR 5/3 7.5YR 3/4	長石	No461と同一個体？
Fig.81-461	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 13.40 残高 8.20	ナデ、押圧 板ナデ、押圧、ナデ	にぶい黄褐 灰黄褐	10YR 5/3 " 5/2	長石、チャート	No460と同一個体？
Fig.81-462	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 14.30 残高 7.50	ハケ ハケ、ナデ、押圧	灰黄 暗灰	2.5Y 6/2 N 3/0	石英、砂岩 結晶片岩	外面：黒変（タール） 搬入品？
Fig.81-463	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	口径 13.20 残高 6.60	ミガキ~ナデ（丁掌）、押圧、ハケ ミガキ~ヘラナデ、押圧、ナデ 口縁端面：沈線状1~2	灰黄褐 にぶい橙	10YR 5/2 5YR 6/4	石英、長石 角閃石	外面：黒変（タール） 搬入品？
Fig.81-464	ⅢA層	土師器 甕 口縁部片	残高 4.50	突帯（罎）貼付1、ナデ、押圧 ハケ、ナデ	黒 にぶい黄褐	10YR 1.7/1 " 5/3	長石、石英、雲母	内外面：黒変あり 外面：黒色炭化物付着
Fig.81-465	ⅢA層	土師器 甕 口縁~胴部片	残高 5.10	突帯（罎）貼付1、ナデ ナデ、押圧	にぶい褐 にぶい赤褐	7.5YR 5/3 5YR 5/4	石英、長石	外面：黒色炭化物、黒変あり
Fig.81-466	ⅢA層	土師器 甕 胴~底部片	残高 12.60	タタキ、ナデ ナデ、押圧	褐灰 灰白	10YR 5/1 " 8/2	石英、長石 チャート、砂岩	平底？ 外面：黒斑あり
Fig.81-467	ⅢA層	土師器 甕	口径 15.50 残高 10.10	ナデ、押圧 押圧、ナデ、ナデ（粗い） 底部：円孔1	褐灰 灰黄褐	10YR 5/1 " 6/2	長石	丸底？ 外面：黒斑あり
Fig.82-468	ⅢA層	土師器 器台	口径 8.80 器高 8.50 底径 9.90	ハケ、ナデ、ミガキ ミガキ~ナデ？（磨滅）、板ナデ、ナデ	にぶい橙 橙	7.5YR 7/4 5YR 7/6	石英、チャート	脚部：中空
Fig.82-469	ⅢA層	土師器 器台	口径 9.40 器高 8.70 底径 9.80	ナデ、押圧、円孔2、ミガキ？ ナデ、押圧	にぶい橙 橙	7.5YR 7/4 5YR 7/6	長石、砂岩	分割成形
Fig.82-470	ⅢA層	土師器 器台	口径 8.00 器高 8.10 底径 9.30	押圧、ナデ、円孔2 ナデ、ハケ、押圧	にぶい橙 橙	7.5YR 7/4 5YR 6/6	長石、砂岩	分割成形 外面：黒斑あり
Fig.82-471	ⅢA層	土師器 器台	口径 7.20 器高 7.50 底径 10.00	押圧、ナデ、円孔4 ハケ、ナデ、押圧	橙 にぶい橙	7.5YR 6/6 " 6/4	チャート、石英 砂岩、長石	
Fig.82-472	ⅢA層	土師器 器台 杯部片	口径 7.60 残高 1.90	ハケ、ナデ ミガキ~ナデ（丁掌）、押圧 下端面：ナデ、押圧	にぶい橙 にぶい黄橙	7.5YR 7/3 10YR "	石英、砂岩、長石	下端：縦口縁露出 分割成形 外面：黒斑あり

表24 3A区出土土器観察表18

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考	
Fig.82-473	ⅢA層	土師器 器台 杯部片	口径 7.80 残高 1.90	ナデ, 押圧, ハケ ヘラ描文(斜格子状), ミガキ, ナデ 下端面: ナデ	にふい橙 " " " 6/4	7.5YR " " " 6/4	石英, 長石 チャート	下端: 擬口縁露出 分割成形
Fig.82-474	ⅢA層	土師器 器台	残高 7.30 底径 10.40	ハケ, ナデ, 押圧, 円孔4 ヘラナデ, ナデ, ハケ, 押圧	橙 " " " 6/6	7.5YR " " " 6/6	長石, 砂岩, 石英	内外面: 黒斑あり
Fig.82-475	ⅢA層	土師器 器台	残高 6.10 底径 10.10	押圧, ナデ, ハケ, 円孔4 押圧, ナデ, ハケ	にふい橙 橙 " " " 6/4	7.5YR 5YR 6/6	長石, 石英	外面: 黒斑あり
Fig.82-476	ⅢA層	土師器 器台 脚部片	残高 5.90 底径 11.30	ナデ, 円孔3, 押圧 ナデ, 絞り目 上端面=杯部内面: ナデ? 上端部側面: 押圧, ナデ	にふい黄橙 明褐灰 " " " 7/2	10YR 7.5YR " " " 7/2	砂岩, 長石	上端部側面: 擬口縁露出 分割成形
Fig.82-477	ⅢA層	土師器 器台 脚部片	残高 5.60 底径 9.50	ミガキ, 押圧, 円孔3, 板ナデ(原体圧痕), ナデ	にふい黄橙 " " " 7/3	10YR " " " 7/3	長石, チャート 胎土精良	脚部: 中実
Fig.83-478	ⅢA層	土師器 器台 口縁部片	口径 27.10 残高 4.80	ハケ, ナデ, 押圧 ハケ, ナデ, 押圧 口縁部側面: 円形貼付文2(十同心円沈線文)	にふい橙 橙 " " " 6/4	7.5YR 5YR 6/6	チャート, 長石 石英	
Fig.83-479	ⅢA層	土師器 器台 口縁部片	残高 4.80	斜格子状ヘラ描文, 押圧, ナデ 段1, ナデ	にふい黄橙 橙 " " " 7/3	10YR 7.5YR 7/3	石英, チャート 長石	
Fig.83-480	ⅢA層	土師器 器台 口縁部片	残高 7.80	柳描波状文2段, ナデ, 押圧, 柳描曲線文, ハケ ナデ, 押圧, ハケ	黄灰 にふい橙 " " " 6/1	2.5Y 7.5YR 6/4	チャート, 石英 長石 粗砂粒多	
Fig.83-481	ⅢA層	土師器 器台 口縁~頸部片	残高 6.60	突帯貼付1+刻目, 沈線3, 凹線1, ナデ, 押圧, ハケ 押圧, ナデ, ハケ?	灰黄褐 " " " 6/2	10YR " " " 6/3	チャート, 長石 粗砂粒多	
Fig.83-482	ⅢA層	土師器 器台 口縁部片	残高 4.00	沈線4~5, ミガキ~ナデ(丁寧), 隆帯貼付1, 縦位沈線 5~, 竹管状刺突3段~/ナデ 口縁部側面: 外方に貼付・並置	にふい褐 にふい橙 " " " 5/4	7.5YR " " " 7/4	チャート, 石英 長石	
Fig.83-483	ⅢA層	土師器 器台 口縁部片	残高 2.60	環状貼付文2, ナデ, 斜位平行沈線, 押圧 ハケ原体圧痕, ナデ, 押圧	暗灰 " " " 3/0	N " " " 3/0	長石, チャート 石英	
Fig.83-484	ⅢA層	土師器 器台 胴~頸部片	残高 7.20 底径 23.80	円孔, ハケ, 板ナデ原体圧痕, ナデ ハケ+ナデ, 押圧, 板ナデ原体圧痕, ナデ 腹側面: 柳描波状文	橙 " " " 6/4	5YR " " " 6/4	石英, チャート	
Fig.83-485	ⅢA層	土師器 器台 胴~唇部片	残高 7.10 底径 20.55	ハケ, 押圧 押圧, ナデ, ハケ	黄灰 にふい橙 " " " 6/1	2.5Y 7.5YR 6/4	チャート, 石英 砂岩	外面: 黒斑あり 外面: 黒変(スス)
Fig.83-486	ⅢA層	土師器 器台 胴~唇部片	残高 5.20 底径 24.00	ナデ, 押圧, ハケ? 押圧, ハケ?, ナデ, ヘラナデ?	にふい黄橙 橙 " " " 6/4	2.5Y 7.5YR 6/6	チャート, 長石 石英, 泥岩, 砂岩	内面: 黒斑あり
Fig.83-487	ⅢA層	土師器 器台 脚部片	残高 11.80 底径 16.00	押圧, ハケ, 円孔5 押圧, 接合痕明瞭, ナデ, ハケ	にふい橙 " " " 6/4	7.5YR " " " 6/4	砂岩, 石英 チャート, 長石	脚部: 中空 高杯?
Fig.84-488	ⅢA層	土師器 高杯	口径 20.20 器高 14.60 底径 13.70	ミガキ, ナデ(丁寧)?(磨滅) ミガキ, ナデ, 押圧, 板ナデ原体圧痕, 円孔4	にふい黄橙 " " " 6/3	10YR " " " 6/3	長石, チャート 石英	脚部: 中実
Fig.84-489	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 15.70 残高 6.50	ミガキ(細かい) ミガキ(細かい), 押圧	にふい橙 " " " 7/4	5YR 7.5YR 7/3	石英, チャート 砂岩 胎土精良	内外面: 黒斑あり
Fig.84-490	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 17.40 残高 6.00	ナデ? (磨滅, 不明), 押圧 ナデ 下端面: 押圧	にふい橙 " " " 7/3	7.5YR " " " 6/4	砂岩, 石英, 長石 砂岩, 泥岩, 砂岩	下端面: 擬口縁露出 分割成形
Fig.84-491	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 14.60 残高 5.80	ナデ? ナデ 下端面: 押圧	にふい赤褐 " " " 5/4	5YR " " " 5/4	砂岩, 長石, 石英	下端面: 擬口縁露出 分割成形
Fig.84-492	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 18.90 残高 8.60	ミガキ, 突出部1, ナデ ハケ, ミガキ, ナデ, 段1(接合部?), 押圧	にふい橙 " " " 7/3	7.5YR " " " 7/3	チャート, 砂岩 石英	外面: 黒斑あり
Fig.84-493	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 17.40 残高 5.90	ナデ, 押圧 ナデ 下端面: 押圧	にふい橙 橙 " " " 6/4	5YR " " " 6/6	チャート, 長石 石英	下端面: 擬口縁露出 分割成形
Fig.84-494	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 17.00 残高 6.00	板ナデ, ミガキ?(磨滅), ナデ, 押圧 板ナデ+ミガキ~ナデ(丁寧)	灰黄 " " " 6/2	2.5Y " " " 7/2	チャート, 長石	内面: 黒斑あり, スス?
Fig.84-495	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 19.40 残高 6.00	ハケ, ナデ ハケ, ナデ	にふい黄褐 にふい赤褐 " " " 5/3	10YR 5YR 5/5	チャート, 石英 長石	脚部: 中実 内外面: 黒斑, スス
Fig.84-496	ⅢA層	土師器 高杯	口径 16.50 器高 10.60 底径 10.00	ミガキ~ナデ(丁寧), 押圧, ナデ(丁寧) ミガキ~ナデ(丁寧), 押圧, ケズリ, ナデ	橙 " " " 7/6	5YR " " " 7/6	長石, チャート 石英, 砂岩	
Fig.84-497	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 14.60 残高 5.10	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧, 板ナデ(原体圧痕)	にふい赤褐 " " " 5/4	5YR " " " 5/4	チャート, 長石 粗砂粒多	下端面: 擬口縁露出 分割成形 内外面: スス, 黒斑あり 内面: 黒斑あり
Fig.84-498	ⅢA層	土師器 高杯	残高 8.60 底径 12.90	ナデ, 押圧 ハケ, ナデ, 押圧, 絞り目, 板ナデ	橙 " " " 6/6	5YR " " " 6/6	砂岩	上端面: 擬口縁露出?
Fig.85-499	ⅢA層	土師器 高杯	残高 8.00 底径 9.20	押圧, ナデ 押圧, ナデ, ヘラナデ	橙 " " " 6/6	7.5YR " " " 6/6	石英, チャート 砂岩, 角閃石	分割成形

表25 3A区出土土器観察表19

種図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.85-500	ⅢA層	土師器 高杯 脚部片	残高 6.30	ミガキ、ナデ、押圧、ハケ ナデ、絞り目 上端面：ヘラ刺突4	にぶい橙 7.5YR 7/3 " " "	チャート、石英 長石、砂岩	脚部：中実 上端：擬口縁露出 下端：擬口縁露出？ 分割成形
Fig.85-501	ⅢA層	土師器 高杯 脚部片	残高 9.70	押圧、ナデ ナデ、押圧、板ナデ痕？	にぶい橙 5YR 7/4 " " "	チャート、石英 砂岩	脚部：中実 分割成形？
Fig.85-502	ⅢA層	土師器 高杯 脚部片	残高 4.20 底径 9.20	円孔4、ナデ、押圧 ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/3 暗灰 N 3/	石英、長石 チャート シャーモット	内外面：黒斑あり
Fig.85-503	ⅢA層	土師器 高杯 脚部片	残高 5.70 底径 11.00	ハケ+ナデ+ミガキ、押圧、ハケ、ナデ、ミガキ ナデ	橙 5YR 7/6 " 7.5YR "	長石、砂岩、石英	脚部：中実
Fig.85-504	ⅢA層	土師器 高杯 脚部片	残高 7.90 底径 10.90	ナデ、ミガキ、押圧、ハケ、ヘラナデ～ミガキ ナデ	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " "	チャート、石英 砂岩	上端部：擬口縁露出 分割成形
Fig.85-505	ⅢA層	土師器 高杯 脚部片	残高 10.00 底径 11.50	ナデ、ハケ+ミガキ、ハケ、押圧、ミガキ ナデ、ケズリ、ヘラナデ、ハケ、押圧	にぶい黄橙 10YR 7/3 にぶい橙 7.5YR "	石英、長石 チャート	脚部：中実 上端部：擬口縁露出 分割成形
Fig.85-506	ⅢA層	土師器 高杯 杯部片	口径 26.30 残高 5.00	ハケ、ナデ ハケ+ナデ、押圧、ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 橙 7.5YR 6/6	チャート、石英 粗砂粒多	
Fig.85-507	ⅢA層	土師器 高杯 脚部片	残高 10.50	ハケ、押圧 押圧、絞り目、ナデ	にぶい橙 7.5YR 6/4 にぶい褐 " 6/3	チャート、石英 長石	上端部：擬口縁露出
Fig.85-508	ⅢA層	土師器 高杯～台付鉢	口径 16.50 残高 8.50	タタキ+ナデ ナデ、板ナデ、押圧	浅黄橙 10YR 8/4 " " "	チャート、長石 石英	外面：黒斑
Fig.85-509	ⅢA層	土師器 高杯～台付鉢	口径 12.50 残高 7.25	ナデ、板ナデ、押圧 押圧、ナデ 底面：ナデ、ヘラ掻き（接合用凹凸面？）	黄灰 2.5Y 5/1 にぶい黄橙 10YR 6/3	長石、砂岩、石英	下端：擬口縁露出 分割成形
Fig.85-510	ⅢA層	土師器 鉢 底部片	残高 5.60 底径 7.20	ナデ、押圧 ナデ、板ナデ 底面：ナデ、繊維状圧痕、押圧	浅黄 2.5Y 7/3 にぶい黄橙 10YR "	長石、石英、砂岩	高台底 底面：黒斑？
Fig.86-511	ⅢA層	土師器 鉢	口径 11.10 器高 7.50 底径 5.20	ナデ、押圧 ナデ、板ナデ 底面：ナデ、繊維状圧痕	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " "	長石、チャート 砂岩	平底 内面：黒斑あり
Fig.86-512	ⅢA層	土師器 鉢	口径 11.80 器高 7.20	ハケ、ナデ ナデ（丁寧）、ナデ、押圧 底面：ハケ、ナデ、押圧	にぶい橙 5YR 7/4 " " 6/4	チャート、長石	丸底
Fig.86-513	ⅢA層	土師器 鉢？ 胴～底部片	残高 6.00 底径 3.80	ハケ 板ナデ、ナデ、押圧 底面：繊維状圧痕	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " 6/3	石英	平底 外面：黒斑あり
Fig.86-514	ⅢA層	土師器 鉢	口径 10.20 器高 5.50 底径 4.60	ハケ、ナデ、押圧 ナデ、板ナデ 底面：ナデ、押圧	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " "	石英、長石、砂岩	平底 外面：黒斑？
Fig.86-515	ⅢA層	土師器 鉢	口径 13.20 器高 6.80 底径 2.30	押圧、ナデ ナデ、ヘラナデ、板ナデ、初痕あり？ 底面：ナデ	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " "	石英、砂岩、長石	平底 外面：黒斑あり
Fig.86-516	ⅢA層	土師器 鉢	口径 14.40 器高 6.50 底径 2.80	ナデ、押圧、ハケ？ ナデ、押圧 底面：押圧	灰黄褐 10YR 6/2 " " "	長石、石英、砂岩	平底 底部：貼付成形
Fig.86-517	ⅢA層	土師器 鉢	口径 12.20 器高 5.20 底径 3.20	押圧、ナデ ナデ、板ナデ 底面：粒状圧痕、ナデ	にぶい橙 7.5YR 6/4 " " "	砂岩、長石、石英	平底（高台状） 外面：黒斑あり
Fig.86-518	ⅢA層	土師器 鉢	口径 14.50 残高 6.30	ナデ、押圧 ハケ、ナデ	橙 7.5YR 6/6 " " "	長石、砂岩	平面形：歪み、ハート形 外面：黒斑、タール
Fig.86-519	ⅢA層	土師器 鉢	口径 14.10 器高 5.75	ナデ、押圧、板ナデ、ハケ ハケ、ハケ原体圧痕 底面：ハケ	橙 5YR 6/6 " " "	長石、チャート	丸底
Fig.86-520	ⅢA層	土師器 鉢	口径 13.40 器高 6.00 底径 3.00	ハケ、ナデ ハケ、ナデ、押圧 底面：ナデ？	橙 5YR 6/6 " " "	長石、石英 チャート	ほぼ完存 平底 外面：黒斑あり
Fig.86-521	ⅢA層	土師器 鉢	口径 12.30 器高 7.00	ナデ、押圧 ナデ 底面：押圧	橙 5YR 6/8 " " 7/6	長石	ほぼ完存 丸底 外面：黒斑あり
Fig.86-522	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 8.15 器高 6.90 胴径 8.70 底径 3.20	押圧、ナデ ハケ、板ナデ、ナデ、押圧 底面：繊維状圧痕	にぶい黄橙 10YR 6/3 にぶい黄褐 " 5/3	長石、砂岩、石英	鉢形 平底
Fig.87-523	ⅢA層	土師器 杯	口径 11.20 器高 4.00	ナデ、押圧 ナデ 底面：押圧、ナデ	にぶい橙 5YR 7/4 " 7.5YR "	長石、チャート	ほぼ完存 丸底
Fig.87-524	ⅢA層	土師器 杯	口径 11.10 器高 3.50	押圧、ナデ ナデ、押圧	明褐 7.5YR 5/6 橙 5YR 6/6	砂岩、長石、石英	丸底
Fig.87-525	ⅢA層	土師器 杯	口径 11.00 器高 3.30	押圧、ナデ 押圧、ナデ	にぶい黄橙 10YR 7/2 浅黄橙 " 8/3	石英、チャート 胎土精良	丸底 手捏ね成形？ 内面：赤斑あり
Fig.87-526	ⅢA層	土師器 杯	口径 10.40 器高 3.50	押圧、ナデ ナデ	灰黄褐 10YR 6/2 " " "	石英、チャート	ほぼ完存 丸底
Fig.87-527	ⅢA層	土師器 杯	口径 14.00 器高 5.65 底径 5.00	ミガキ 板ナデ、ミガキ 底面：ミガキ（原体圧痕？）	にぶい黄橙 10YR 6/3 " " "	石英、長石	ほぼ完存 平底

表26 3A区出土土器観察表20

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.87-528	ⅢA層	土師器 坏	口径 13.50 器高 6.10 底径 6.00	ミガキ 板ナデ、ナデ 底面：ミガキ、ナデ	にぶい橙 " 7.5YR 6/4 " " 7/4	砂岩、長石、石英 チャート 胎土精良	ほぼ完存 平底
Fig.87-529	ⅢA層	土師器 坏	口径 12.40 器高 2.70 底径 8.00	回転ナデ 段1、回転ナデ、暗文 底面：ケズリ、ミガキ	にぶい褐 " 7.5YR 5/3 " " "	長石、石英	
Fig.87-530	ⅢA層	土師器 坏?	口径 10.20 残高 2.80	回転ナデ ミガキ(暗文)、回転ナデ	にぶい黄橙 " 10YR 6/3 " " "	石英、雲母、長石 チャート	外面：タール付着、黒変 あり
Fig.87-531	ⅢA層	土師器 坏	口径 10.80 器高 2.50 底径 7.30	回転ナデ 回転ナデ 底面：ナデ、繊維状圧痕	にぶい黄橙 " 10YR 6/4 " " "	胎土精良	外面：黒変、スス付着
Fig.88-532	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 4.70 器高 4.60 胴径 5.00 底径 2.60	押圧、ナデ ナデ、板ナデ、押圧 底面：押圧、ハケ?、繊維状圧痕	にぶい黄橙 " 10YR 6/3 " " "	長石	ほぼ完存 壺形 平底 手捏ね成形
Fig.88-533	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 4.20 器高 4.60 胴径 5.35 底径 1.80	押圧、ナデ 押圧 底面：ナデ	灰黄 " 2.5Y 6/2 " " "	長石、石英	鉢形 平底 手捏ね成形
Fig.88-534	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 6.85 器高 4.20	押圧、ナデ 押圧、ナデ	灰黄褐 " 10YR 6/2 " " "	石英、チャート	ほぼ完存 椀～杯形 丸底
Fig.88-535	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 7.40 器高 4.10	押圧 押圧	にぶい黄褐 " 10YR 5/3 " 7.5YR 6/4	石英、長石	ほぼ完存 丸底 手捏ね成形
Fig.88-536	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 4.60 器高 2.30	押圧 押圧 底面：繊維状圧痕	にぶい橙 " 5YR 6/3 " 7.5YR 7/3	石英	ほぼ完存 丸底 椀～杯形 手捏ね成形
Fig.88-537	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 4.60 器高 2.20	押圧、ナデ 押圧、ナデ	にぶい橙 " 7.5YR 6/4 " " 6/6	チャート、石英 シャモット	ほぼ完存 椀～杯形 丸底 外面：黒斑あり
Fig.88-538	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 4.90 器高 2.80	押圧 押圧、ナデ	灰 " 5Y 5/1 " " "	長石、チャート	ほぼ完存 鉢～椀形 丸底 手捏ね成形
Fig.88-539	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 2.90 器高 1.70	ナデ、押圧 押圧	黒褐 " 2.5Y 3/1 " " "	砂粒少	ほぼ完存 鉢～椀形 丸底
Fig.88-540	ⅢA層	土師器 手捏ね土器	口径 2.80 器高 2.00	押圧、ナデ ナデ、押圧	灰白 " 2.5Y 8/2 " 10YR 8/3	砂粒少 胎土精良	ほぼ完存 椀形 手捏ね成形 丸底
Fig.88-541	ⅢA層	土師器 手捏ね土器 脚部片	残高 6.00	押圧 押圧、ナデ? (磨滅) 底面：押圧	灰 " 5Y 6/1 " " 5/1	石英、チャート 長石	高杯形 手捏ね成形
Fig.89-542	ⅢA層	須恵器 無蓋高杯	口径 15.60 器高 12.20 底径 10.20	突線2、櫛歯状文1段、把手貼付1、回転ナデ、方形透し 孔4/回転ナデ	灰 " N 5/4 " " 4/4	砂粒少 胎土精良	ほぼ完存
Fig.89-543	ⅢA層	須恵器 有蓋高杯 胴～底部片	残高 7.10 底径 9.40	回転ナデ、沈線状2、方形透し孔3、段1：沈線状 回転ナデ 底面：回転ナデ?	灰 " N 5/4 " " "	砂粒少 胎土精良	
Fig.89-544	ⅢA層	須恵器 坏	口径 10.40 器高 3.30	回転ナデ、自然釉発色 回転ナデ	灰白 " N 7/4 " " "	砂粒少 胎土精良	外面：粘土、窯体付着? 焼け損じ品?
Fig.89-545	ⅢA層	須恵器 坏蓋	口径 15.80 器高 3.20	回転ナデ 回転ナデ	灰白 " 2.5Y 7/1 " N 6/4	石英、長石 チャート	
Fig.89-546	ⅢA層	須恵器 坏蓋	口径 13.60 器高 1.70	回転ナデ 回転ナデ	灰 " N 6/0 " " "	砂粒少 胎土精良	ほぼ完存 内面：平滑面：硯に転用 墨付着?
Fig.89-547	ⅢA層	須恵器 坏	口径 18.50 器高 5.70 底径 13.40	回転ナデ 回転ナデ 底面：回転ナデ、押圧	にぶい黄褐 " 10YR 5/3 " N 4/4	砂粒少 胎土精良	高台底
Fig.89-548	ⅢA層	須恵器 坏	口径 15.90 器高 4.50 底径 11.00	回転ナデ、稜1 回転ナデ 底面：回転ナデ、ケズリ、粘土粒付着	灰白 " 5Y 7/1 " " "	長石、石英	高台底 内面：スス?
Fig.89-549	ⅢA層	須恵器 坏	口径 12.90 器高 3.70 底径 9.70	回転ナデ 回転ナデ	灰白 " N 7/4 " " "	砂粒少 胎土精良	高台底 内面：平滑面：転用硯? 内面：黒変?、墨付着?
Fig.89-550	ⅢA層	須恵器 坏	口径 11.50 器高 3.60 底径 8.00	回転ナデ 回転ナデ 底面：回転ヘラ切り痕、押圧、ナデ	にぶい黄褐 " 10YR 4/3 " 2.5Y 6/2	砂粒少 胎土精良	平底
Fig.90-551	Ⅲ層	黒色土器 椀 口縁～胴部片	口径 15.20 残高 4.60	押圧+ナデ(丁字)、ヘラナデ、押圧、板ナデ? ミガキ、暗文、回転ナデ	黒 " 2.5Y 2/1 " " "	長石	外面：上半：黒色 内面：全面黒色
Fig.90-552	Ⅱ層	土師器 皿	口径 13.70 器高 1.60 底径 11.80	回転ナデ 回転ナデ 底面：ヘラ切り痕、ナデ、押圧	にぶい橙 " 7.5YR 7/4 " " "	砂岩、長石 砂粒少 胎土精良	
Fig.90-553	表採	土師器 蓋	口径 7.90 器高 9.25 胴径 8.85	押圧、ナデ、板ナデ圧痕 押圧、ナデ	にぶい褐 " 7.5YR 5/3 " 5YR 6/4	長石、砂岩 チャート	丸底 外面：黒斑あり 「手捏ね」的

表27 3A区出土土器観察表21

挿図番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法眼 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.90-554	表採	土師器 壺 頸～底部片	残高 7.45 胴径 9.30	ハケ+ナデ、ナデ、押圧+ヘラナデ、押圧 ナデ、押圧、接合痕明瞭、ハケ 底面：押圧	浅黄橙 7.5YR 8/4 橙 5YR 6/6	長石、石英	丸底 外面：黒斑？あり
Fig.91-555	表採	縄文土器 深鉢 頸～胴部片	残高 3.70	ナデ（丁寧）、沈線5、斜位刺突文2段、磨消縄文R.L？ ナデ	にぶい赤褐 5YR 4/4 黒褐 10YR 3/1	長石、石英	縄文後期 広瀬上層～伊吹町式？
Fig.35-556	表採	縄文土器 壺 口縁部片	残高 1.60	ミガキ、段1、沈線1、赤彩 ミガキ	灰褐 10YR 4/1 " " "	長石	黒色磨研 縄文晩期
Fig.91-557	表採	縄文土器 深鉢 口縁～頸部片	残高 5.15	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧 ナデ、押圧 口縁端部外端側：刻目	灰黄褐 10YR 6/2 にぶい黄橙 " 7/2	石英、長石 チャート	縄文晩期
Fig.91-558	表採	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 4.40	刻目突帯貼付1、沈線2、斜位沈線2×3、ナデ、押圧 ナデ	にぶい黄橙 10YR 6/3 5YR 6/6	長石、石英 チャート	外面：黒色炭化物付着 内面：スス？、黒斑 縄文晩期～弥生前期？
Fig.91-559	表採	弥生土器 壺 頸部片	残高 4.60	押圧、ナデ、櫛歯文+楕円貼付文、斜位櫛歯文 ナデ	褐灰 10YR 6/1 暗灰 N 3/0	長石	弥生中期
Fig.91-560	表採	土師器 壺 口縁～頸部片	口径 13.00 残高 6.00	接合部突出=突帯状、凹線状1、ナデ（丁寧）、ナデ 沈線状1+1（ヘラナデ）、ナデ？（磨滅）	にぶい黄橙 10YR 7/2 " " "	長石、石英 チャート	
Fig.91-561	表採	土師器 壺 口縁部片	残高 6.20	ハケ、ナデ、ミガキ ナデ（丁寧）、押圧 口縁端部：凹線1	にぶい黄 2.5Y 6/3 " " "	石英、雲母、長石	輸入品？
Fig.91-562	表採	土師器 高杯	残高 10.40 底径 11.40	ハケ、ナデ、円孔3、押圧 ナデ、ハケ、押圧	にぶい黄橙 10YR 7/3 にぶい橙 7.5YR 6/4	長石、石英	脚部：中実
Fig.91-563	表採	土師器 杯	口径 13.70 器高 4.30	押圧、ナデ 押圧、ナデ	にぶい黄橙 10YR 6/4 " " "	チャート、長石 石英	丸底 手捏ね成形 内外面：黒斑あり
Fig.91-564	表採	土師質土器 杯 胴～底部片	残高 3.00 底径 6.00	回転ナデ 回転ナデ、押圧 底面：静止糸切り痕	浅黄橙 10YR 8/3 " 7.5YR "	砂粒少 胎土精良	平底
Fig.92-565	SE区 IV E層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.10	沈線3、縄文L.R（磨消縄文）、ナデ ナデ	赤褐 5YR 4/6 " " "	石英、長石、雲母	縄文後期 広瀬上層式？
Fig.92-566	SE区 IV F層	縄文土器 深鉢 口縁～胴部片	残高 9.20	ナデ、条痕 ナデ	にぶい橙 7.5YR 7/4 " " 6/4	石英、砂岩 チャート	内面：黒斑あり 縄文晩期
Fig.92-567	SE区 IV E層	縄文土器 深鉢 口縁～頸部片	残高 6.80	ナデ、条痕 ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/4 にぶい褐 7.5YR 5/4	石英、長石 チャート	縄文晩期
Fig.92-568	SE区 IV B層	縄文土器 深鉢 口縁～頸部片	残高 4.90	条痕 ナデ、押圧	にぶい黄橙 10YR 6/3 灰 N 6/0	赤色砂粒、石英 チャート	縄文晩期
Fig.92-569	SE区 IV B層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.30	条痕 ナデ、押圧	にぶい赤褐 5YR 5/4 " " "	長石、石英	縄文晩期
Fig.92-570	SE区 IV E層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.60	ナデ ナデ、押圧	灰黄褐 10YR 4/2 褐灰 " 4/1	石英、長石 チャート	縄文晩期？
Fig.92-571	SE区 IV E層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 4.80 底径 6.80	押圧、ナデ 押圧、ナデ 底面：押圧、ナデ	にぶい橙 7.5YR 7/4 橙 " 6/6	石英、長石 チャート	高台底 縄文後～晩期？
Fig.92-572	SE区 IV E層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 3.50 底径 7.20	押圧 ナデ、押圧（磨滅） 底面：押圧、ナデ	黄灰 2.5Y 5/1 にぶい黄褐 10YR 5/3	石英、長石 チャート	高台底 縄文後～晩期？
Fig.92-573	SE区 IV E層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 3.30 底径 6.60	押圧、ナデ 押圧 底面：ナデ、押圧	橙 2.5YR 6/6 にぶい橙 7.5YR 6/4	チャート、石英 長石	凹み底 縄文後～晩期？
Fig.92-574	SE区 IV E層	縄文土器 浅鉢 口縁～頸部片	残高 3.10	沈線1、ミガキ ミガキ	黒褐 10YR 3/1 褐灰 " 4/1	雲母、長石、石英	縄文晩期
Fig.92-575	SE区 IV F層	縄文土器 浅鉢 口縁～頸部片	残高 3.50	ミガキ？（磨滅）、段1、円部1 ミガキ？（磨滅）	黒褐 2.5Y 3/1 灰黄褐 10YR 5/2	石英、長石、雲母 （角閃石？）	縄文晩期
Fig.92-576	SE区 IV E層	縄文土器 浅鉢 口縁～頸部片	残高 4.70	段1、ミガキ ミガキ、段1	褐灰 10YR 4/1 " " 5/1	長石、石英、雲母	上端部：擬口縁？ 黒色磨研 縄文晩期
Fig.92-577	SE区 IV E層	縄文土器 浅鉢 口縁～頸部片	残高 3.40	沈線状？1、ミガキ ミガキ	黒褐 10YR 3/2 " " "	雲母、長石、石英	縄文晩期
Fig.92-578	SE区 IV E層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 3.50	ミガキ？（磨滅） 段1=肥厚、ミガキ？（磨滅）	橙 5YR 7/8 明赤褐 10YR 7/6		縄文晩期
Fig.92-579	SE区 IV E層	縄文土器 鉢 頸～胴部片	残高 5.90	ミガキ 磨滅、不明	にぶい黄橙 10YR 7/3 " " 6/3	石英、チャート 長石	縄文晩期？

表28 3A区出土土製品観察表

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm, g)					調整等 A面 B面 その他の部位	色調 A面 B面	胎土	備考	
			全長	全幅	全厚	孔径	重量					
Fig.93-580	VD層	土製円板	4.30	3.40	1.00	—	13.90	条痕, ナデ ナデ, 押圧	— —	石英, 長石	縄文土器・深鉢・ 胴部片素材 上端: 擬口縁露出	
Fig.93-581	VC層	土製円板	4.15	3.10	0.85	—	9.00	条痕 ナデ 周縁部: 調整, 研磨?	— —	長石 チャート	縄文土器・深鉢・ 胴部片素材	
Fig.93-582	VC層	土製円板	3.10	2.70	0.50	—	4.70	ミガキ? ミガキ 周縁部: 調整, 研磨?	— —	長石, 石英	縄文土器・浅鉢・ 胴部片素材	
Fig.94-583	ベルトB VB2層	土製品	3.20	3.70	1.55	—	12.60	凹部2 (目?) 破断面多, 多面構成	明黄褐 " " "	10YR 6/6	長石, 石英 角閃石	土偶・頭部? 縄文土器・底部片 の再利用品?
Fig.93-584	VB層	土製円板	4.60	4.10	0.90	—	16.00	条痕, ナデ ナデ 周縁部: 調整, 研磨少	— —	石英, 長石 砂岩 チャート	ほぼ完存 縄文土器・深鉢・ 胴部片素材	
Fig.93-585	VB層	土製円板	4.05	3.55	0.70	—	11.50	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧 周縁部: 調整, 一部研 磨	黄灰 " " "	2.5Y 4/1 6/1	石英, 長石 砂岩, 泥岩	ほぼ完存 縄文土器・深鉢・ 胴部片素材 B面: 黒変(スス)
Fig.93-586	VB層	土製円板	4.80	4.70	0.85	—	19.80	ナデ, ミガキ? 沈線1, ミガキ 周縁部: 調整, 研磨少	暗灰黄 黒褐	2.5Y 4/2 " 3/1	石英, 長石 砂岩	ほぼ完存 縄文土器・浅鉢・ 胴部片素材 A面: 黒斑あり
Fig.93-587	VB層	土製円板	4.70	4.50	1.00	—	26.90	ミガキ, 赤彩? ハケ+ナデ 周縁部: 研磨	灰黄 にぶい褐	2.5Y 6/2 7.5YR 6/3	石英, 長石 雲母, 砂岩	ほぼ完存 弥生土器・壺・ 頸部片素材
Fig.93-588	VB層	土製円板	3.70	3.35	0.70	—	7.30	ナデ, 押圧 ハケ, 押圧 周縁部: 調整, 研磨少	灰白 灰黄褐	10YR 7/1 " 4/2	砂岩 チャート	ほぼ完存 弥生土器・甕・ 胴部片素材 A面: スス, タ ール
Fig.94-589	VA層	土偶	4.80	6.35	1.40	—	—	A面: 半球形粘土貼付 (乳房, 右側: 剥離), 縦位沈 線5, 沈線2+ 2, 押圧, ヘラ ナデ B面: 押圧, ナデ	灰黄 暗灰黄	2.5Y 4/1 " 5/2	—	板状 胴部片
Fig.93-590	VA層	土製円板	4.15	3.45	0.50	—	9.80	ミガキ ケズリ, ナデ	褐灰 灰黄褐	10YR 4/1 " 5/2	石英, 長石	ほぼ完存 縄文土器・浅鉢・ 胴部片素材 A面: 黒斑あり
Fig.93-591	VA層	土製円板	4.70	4.50	0.85	—	20.20	ミガキ ナデ 周縁部: 手擦れ? 研磨 ?	灰黄褐 " " "	10YR 6/2 " "	石英, 長石 チャート 砂岩	完存 弥生土器・壺・ 胴部片素材
Fig.95-592	III A層	土製模造鏡	5.00	4.30	2.05	0.25	20.20	押圧, ナデ ナデ, 押圧 鈕部: 円孔1	— —	— —	長石	手握ね成形 A・B面: 黒斑あ り
Fig.95-593	III A層	土製模造鏡	3.15	3.00	1.45	—	9.40	押圧, ナデ ナデ, 押圧 鈕部: 円孔1? (開口 ?)	— —	— —	長石, 石英	ほぼ完存
Fig.95-594	III A層	土製模造鏡	2.60	2.00	0.90	—	3.90	押圧, ナデ 押圧, ナデ	— —	— —	長石	
Fig.95-595	III A層	土錘	4.30	1.25	1.15	0.50	4.10	外面: ナデ 内面: 縦位条線圧痕 (繊維圧痕)	— —	— —	砂粒少 胎土精良	巻き成形
Fig.95-596	III A層	土錘	3.95	1.20	1.20	0.50	3.90	外面: ナデ 内面: 縦位条線圧痕 (繊維圧痕)	— —	— —	砂粒少 胎土精良	完存 巻き成形
Fig.95-597	III A層	土錘	3.25	1.20	1.20	0.60	3.00	外面: ナデ 内面: 縦位条線?	— —	— —	砂粒少 胎土精良 シャーモット?	巻き成形
Fig.95-598	II層	土製模造鏡	3.20	2.60	2.40	0.10	10.50	押圧 押圧 鈕部: 円孔1	にぶい黄橙 " " "	10YR 7/2 " "	長石, 石英 チャート	手握ね成形
Fig.95-599	表採	土製勾玉	3.40	1.70	1.70	0.30	7.40	A面: 円孔1, 押圧, ナデ 側面: ナデ	— —	— —	長石 チャート	



表29 3A区出土木製品計測表1

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm, g)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.96-600	V C層	木柱?	71.20	24.40	8.90	上下端: 切断痕 軸部: 加工痕多	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.97-601	V B層	椀	(残高) 3.70	(口径) 5.90	—	内面: 加工痕	クワ科クワ属	
Fig.96-602	V B層	鬮茎	63.00	6.40	6.10	上端部: 加工痕明瞭	マキ科マキ属イヌマキ	
Fig.97-603	V B層	板状製品	32.90	12.70	1.70	穿孔2 (楕円形)	ヒノキ	
Fig.98-604	V A層	平鍬	37.60	8.20	5.00	柄穴1 (円形)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	狭鍬?
Fig.98-605	V A層	又鍬	30.50	7.30	1.30	二~三又	コナラ属アカガシ亜属	
Fig.99-606	V A層	横鍬	18.70	21.90	4.80	柄穴1 (円形)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
Fig.99-607	V A層	組合せ平鍬	26.60	10.00	2.90	柄穴1 (方形) 上端: 着柄軸	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	又鍬?
Fig.100-608	V A層	平鍬未製品	35.40	14.40	6.30		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	素材状態
Fig.96-609	V A層	鈎状製品	66.90	2.20	2.00	上端: 鈎状	ヒノキ科アスナロ属	ほぼ完存
Fig.100-610	V A層	鬮茎?	57.90	2.80	1.80	加工痕不明瞭	コナラ属アカガシ亜属	
Fig.101-611	V A層	板状製品	52.10	13.90	3.80	方形孔2	ヒノキ科アスナロ属	部材?
Fig.101-612	V A層	剣形製品	27.30	2.70	1.40		コナラ属アカガシ亜属	祭祀関連?
Fig.102-613	ベルトB ⅢB 2層	板状製品	27.00	7.80	0.90	左側縁: 鋸歯状 右側縁: 凹部5 方形孔1	コナラ属アカガシ亜属	祭祀関連? (魚形製品?) 横鍬?
Fig.103-614	ⅢB層	木製鍬	92.50	9.50	2.40	基部形成 尖端部: 3面構成	マツ科モミ属	ほぼ完存
Fig.102-615	ⅢB層	鍬	8.30	3.40	4.40		コナラ属アカガシ亜属	柄穴周辺の隆起部分
Fig.104-616	ⅢB層	へら状製品	20.90	3.30	1.60		ヒノキ	ほぼ完存?
Fig.104-617	ⅢB層	棒状製品	49.60	5.50	5.40	下端: 加工痕明瞭, 8面構成 上端: 尖頭状に加工, 7面構成	ツバキ科ツバキ属	部材?
Fig.104-618	ⅢB層	板状製品	22.70	5.60	1.30	上端: 尖頭状, 両側に抉り部各1 A面: 緊縛痕?	ヒノキ	人形?
Fig.104-619	ベルトC ⅢA 2層	板状製品	44.30	12.50	1.80	円孔8 (内, 未貫通2), 小孔1 上下端面: 切断面 A面: 斜位切り傷, 爪形刻み痕多 加工痕あり	ヒノキ	
Fig.105-620	ⅢA層	ナスビ形農耕具	63.90	9.20	1.90		マンサク科イスノキ属 イスノキ	ほぼ完存
Fig.106-621	ⅢA層	平鍬未製品	32.30	20.00	6.00	隆起部: 加工痕多 B面: 樹皮面あり	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
Fig.107・付図1 622	ⅢA層	梯子	266.30	14.30	11.00	6段 下端部~右側縁: 焼失	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	ほぼ完存 焼却未遂?
Fig.105-623	ⅢA層	梯子	57.80	16.70	8.70	A面: 加工痕多	マツ科ツツガ属	基部片
Fig.109-624	ⅢA層	矢板	55.70	12.50	3.70	下端: 尖端部: 2面構成 B面: 樹皮面あり	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.109-625	ⅢA層	横鍬	30.40	8.40	8.30	把頭部: 加工痕多	ツバキ科ツバキ属	ほぼ完存
Fig.109-626	ⅢA層	横鍬	32.40	6.40	6.30	加工痕多	マツ科ツツガ属	ほぼ完存
Fig.108-627	ⅢA層	底板	25.90	8.90	0.90	孔6 孔1対: 縦じ紐樹皮残存 B面: 切り傷多, 小孔5 (未貫通)	サワラ	
Fig.110-628	ⅢA層	底板	13.50	8.10	0.80	穿孔2 A面: 未貫通小孔1, 切り傷多 側面: 木釘3残存	サワラ	
Fig.110-629	ⅢA層	底板	11.80	3.90	0.70	側面: 釘孔1	ヒノキ	
Fig.110-630	ⅢA層	桶状製品	9.80	7.40	1.80	円孔1 A・B面: 加工痕多 補修孔1+縦じ紐樹皮残存	イヌガヤ	
Fig.110-631	ⅢA層	椀	(残高) 3.20	(口径) 14.60	—	内外面: 加工痕多	イヌガヤ	
Fig.110-632	ⅢA層	椀	(残高) 2.90	(口径) 13.90	—	円孔3 内外面: 加工痕多 外面: 未貫通円孔1	イヌガヤ	
Fig.111-633	ⅢA層	板状製品	12.30	5.00	0.60		ヒノキ	しゃもじ形

表30 3A区出土木製品計測表2

神岡番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm, g)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.111-634	ⅢA層	箸	10.60	0.70	0.50	4面構成	ヒノキ	
Fig.111-635	ⅢA層	箸	6.60	0.60	0.40	4面構成	ヒノキ	
Fig.110-636	ⅢA層	斎串?	31.70	1.80	0.60	A面:赤彩あり?, 押圧痕1 上端:緊縛痕?	ヒノキ	
Fig.111-637	ⅢA層	人形?	11.80	3.20	0.60	上端:尖頭状 左右両側縁:抉り部各1	ヒノキ	
Fig.112-638	ⅢA層	剣形製品	19.20	3.10	2.10	鋸あり 4面構成	コウヤマキ	祭祀関連?
Fig.112-639	ⅢA層	剣形製品	17.00	2.80	1.50	鋸あり 下端:基部形成	コウヤマキ	祭祀関連?
Fig.112-640	ⅢA層	棒状製品	49.20	2.50	2.00	多面構成 下端部:尖頭状	サワラ	
Fig.113-641	ⅢA層	田下駄	84.70	14.20	2.30	孔3	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.113-642	ⅢA層	田下駄	85.70	15.70	2.30	方形孔3 A面:加工痕多 B面:樹皮面	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.112-643	ⅢA層	田下駄	54.10	17.10	2.20	方形孔3 (不整)	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.113-644	ⅢA層	田下駄	71.10	11.00	1.60	円孔3 左側縁:抉り部2 右側縁:抉り部1~2?	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.114-645	ⅢA層	田下駄	52.40	10.40	1.90	孔5, 孔1+縦じ紐樹皮残存 左側縁:抉り部4 右側縁:抉り部4 B面:切り傷多 下端:刻線1	サワラ	
Fig.115-646	ⅢA層	田下駄	43.20	9.90	1.50	方形孔3 円形小孔3 A面:切り傷多	ヒノキ科ヒノキ属	底板転用品
Fig.115-647	ⅢA層	田下駄	42.40	10.00	1.50	方形孔3 B面:切り傷多	ヒノキ科アスナロ属	底板転用品
Fig.114-648	ⅢA層	田下駄	36.50	11.65	1.35	方形孔5	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.116-649	ⅢA層	田下駄	57.20	13.50	0.95	円孔7 左右両側縁:抉り部各2	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.116-650	ⅢA層	板状製品	50.20	11.70	1.50	左側縁:抉り部1 右側縁:抉り部2	ヒノキ	
Fig.117-651	ⅢA層	板状製品	30.00	12.90	1.00	孔4, 孔2+縦じ紐樹皮残存 未貫通孔2 A面:切り傷多 B面:切り傷少	サワラ	田下駄?
Fig.117-652	ⅢA層	田下駄	44.20	14.70	1.50	孔5 A面:切り傷多 側面~B面:焦化あり 上端:段1	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.118-653	ⅢA層	板状製品	41.60	7.90	2.90	円孔3 未貫通孔1	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.118-654	ⅢA層	板状製品	65.00	18.40	2.00	円孔6+縦じ紐樹皮残存 A面:加工痕多 B面:切り傷多	スギ科スギ属スギ	底板転用品
Fig.119-655	ⅢA層	板状製品	63.80	11.00	1.90	円孔3, 円孔1+縦じ紐樹皮残存 B面:切り傷多	ヒノキ科クロベ属クロベ	底板転用品
Fig.119-656	ⅢA層	板状製品	56.20	14.10	2.00	孔7, 孔6+縦じ紐樹皮残存 A面:切り傷あり B面:切り傷多	サワラ	ほぼ完存 底板転用品
Fig.120-657	ⅢA層	板状製品	52.80	14.50	1.50	孔13, 孔2+縦じ紐樹皮残存 A面:加工痕, 切り傷	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.120-658	ⅢA層	板状製品	51.50	13.00	1.80	左側縁:抉り部2 右側縁:抉り部1 方形孔4	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.121-659	ⅢA層	板状製品	50.40	12.10	2.20	方形孔2~3? A面:加工痕, 切り傷 右側縁:抉り部2	ヒノキ科アスナロ属	底板転用品?
Fig.121-660	ⅢA層	板状製品	44.40	9.30	1.50	孔4, 孔2+縦じ紐樹皮残存 B面:切り傷多	ヒノキ科アスナロ属	底板転用品
Fig.121-661	ⅢA層	板状製品	66.60	9.30	1.20	円孔6	マツ科ツガ属	底板転用品?
Fig.122-662	ⅢA層	板状製品	54.40	8.50	1.40	円孔2, 円孔2+縦じ紐樹皮残存 右側縁:抉り部1 B面:切り傷多	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.122-663	ⅢA層	板状製品	53.70	9.30	1.20	孔2 B面:切り傷多	ヒノキ	底板転用品?

表31 3A区出土木製品計測表3

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm, g)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.122-664	ⅢA層	板状製品	53.70	9.40	1.30	孔8, 孔2+縦じ紐樹皮残存 A面: 切り傷あり	ヒノキ科アスナロ属	底板転用品?
Fig.123-665	ⅢA層	板状製品	51.40	8.30	1.80	左側縁: 抉り部1 右側縁: 抉り部2 方形孔3, 未貫通孔1	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.123-666	ⅢA層	板状製品	25.50	5.70	1.10	孔1+縦じ紐樹皮残存	サワラ	底板転用品
Fig.123-667	ⅢA層	板状製品	61.05	8.10	0.90	孔2, 孔4+縦じ紐樹皮残存 未貫通小孔2 左側縁: 抉り部1 A面: 切り傷多	ヒノキ科アスナロ属	底板転用品?
Fig.124-668	ⅢA層	板状製品	55.90	8.70	1.50	左側縁: 抉り部1 右側縁: 抉り部7 円孔1	ヒノキ科クロベ属クロベ	
Fig.126-669	ⅢA層	板状製品	68.50	8.00	1.40	右側縁: 抉り部2 方形孔1	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.124-670	ⅢA層	板状製品	47.40	8.00	1.10	円孔3 右側縁: 抉り部1 B面: 切り傷多	ヒノキ科クロベ属クロベ	
Fig.126-671	ⅢA層	板状製品	74.30	5.60	1.55	左側縁: 抉り部1 方形孔1	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.126-672	ⅢA層	板状製品	68.90	6.20	1.20	左側縁: 抉り部2 右側縁: 抉り部1 方形孔1	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.124-673	ⅢA層	板状製品	35.20	4.30	1.30	右側縁: 抉り部3	マツ科ツガ属	
Fig.124-674	ⅢA層	板状製品	52.30	5.50	1.40	左側縁: 抉り部10 右側縁: 凹部1, 抉り部2	ヒノキ科アスナロ属	ほぼ完存
Fig.125-675	ⅢA層	線刻板	20.00	8.40	0.60	孔3 A面: 斜位刻線多 B面: 横位刻線5	サワラ	
Fig.125-676	ⅢA層	線刻板	8.90	3.50	0.70	A面: 斜位刻線7	サワラ	
Fig.125-677	ⅢA層	板状製品	22.20	4.70	0.50	孔8 B面: 切り傷1	ヒノキ	
Fig.127-678	ⅢA層	板状製品	21.50	5.20	0.95	孔1+縦じ紐樹皮残存 B面: 上端部: 带状異色部分→旧 接合部分?	ヒノキ	
Fig.127-679	ⅢA層	板状製品	22.60	5.60	0.45	小孔5~6? B面: 切り傷多	ヒノキ	
Fig.128-680	ⅢA層	板状製品	17.10	8.40	1.10	円孔2+縦じ紐樹皮残存 A面: 切り傷多 B面: 切り傷1	ヒノキ	
Fig.128-681	ⅢA層	板状製品	17.90	5.70	0.90	左側縁: 抉り部2 右側縁: 抉り部1	ヒノキ	
Fig.128-682	ⅢA層	板状製品	30.10	3.50	0.90	円孔4, 円孔2+縦じ紐樹皮残存	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.129-683	ⅢA層	人形?	28.20	3.60	1.10	左右両側縁: 抉り部各2~3? 上端: 尖頭状	ヒノキ	
Fig.129-684	ⅢA層	人形?	17.30	3.40	1.00	左右両側縁: 抉り部各1~2?	サワラ	
Fig.129-685	ⅢA層	人形?	14.40	3.10	1.10	左側縁: 抉り部1 右側縁: 抉り部1~2 上端: 尖頭状	サワラ	
Fig.129-686	ⅢA層	人形?	20.00	2.40	1.30	左右両側縁: 抉り部各1 上端: 尖頭状	コウヤマキ	
Fig.129-687	ⅢA層	人形?	18.10	4.00	1.00	左右両側縁: 抉り部各1 上端: 尖頭状 左側縁: 押圧痕3=繫縛痕?	ヒノキ	
Fig.129-688	ⅢA層	人形?	13.90	4.30	0.80	左右両側縁: 抉り部各1 上端: 尖頭状	ヒノキ	底板転用品
Fig.129-689	ⅢA層	人形?	32.20	3.70	1.40	左右両側縁: 抉り部各1 上端: 尖頭状	ヒノキ	
Fig.129-690	ⅢA層	人形?	21.50	3.20	0.90	左右両側縁: 抉り部各1 上端: 尖頭状 B面: 斜位切り傷3	コウヤマキ	
Fig.129-691	ⅢA層	人形?	17.40	4.60	1.70	左右両側縁: 抉り部各1 上端・A面: 多面構成	イヌガヤ	
Fig.129-692	ⅢA層	人形?	13.10	4.10	1.00	右側縁: 抉り部1 上端: 尖頭状	サワラ	
Fig.129-693	ⅢA層	人形?	14.80	2.40	1.30	左右両側縁: 抉り部各1	ヒノキ	
Fig.130-694	ⅢA層	板状製品	45.60	4.00	1.80	左右両側縁: 抉り部各2	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	ほぼ完存

表32 3A区出土木製品計測表4

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm, g)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.130-695	ⅢA層	板状製品	31.60	4.80	1.10	左右両側縁：挟り部各2	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.130-696	ⅢA層	板状製品	21.50	2.80	1.20	左右両側縁：挟り部各1	サワラ	
Fig.130-697	ⅢA層	板状製品	20.70	2.70	1.30	左右両側縁：挟り部各1	ヒノキ	
Fig.130-698	ⅢA層	板状製品	17.50	3.10	0.90	左右両側縁：挟り部各1 B面：斜位切り傷1	ヒノキ	
Fig.130-699	ⅢA層	板状製品	16.10	2.40	0.80	左右両側縁：挟り部各1 A面：斜位凹線6=繫縛痕?	サワラ	
Fig.130-700	ⅢA層	板状製品	27.60	3.65	1.20	右側縁：挟り部1 孔1：孔1+縦じ紐樹皮残存 A面：小孔1?。切り傷多	ヒノキ	転用品?
Fig.126-701	ⅢA層	板状製品	70.30	24.00	4.00	方形孔3 A面：加工痕	ヒノキ科ヒノキ属	
Fig.131-702	ⅢA層	板状製品	31.10	8.20	1.80	A面：加工痕多 円孔2	ヒノキ	焦化・黒変あり
Fig.131-703	ⅢA層	板状製品	32.80	5.00	1.50	円孔4 B面下部：焦化・焼失	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	ほぼ完存
Fig.131-704	ⅢA層	板状製品	18.50	4.60	1.00	方形孔2 B面：剥落、粗面	ヒノキ	
Fig.131-705	ⅢA層	板状製品	39.00	6.50	1.60	上端：突起1 右側縁：尖る	ヒノキ科アスナロ属	
Fig.132-706	ⅢA層	板状製品	15.50	6.20	1.10	左右両側縁：挟り部各2 A面：切り傷?3 B面：切り傷2~3	サワラ	祭祀関連? (魚形製品?) 横線?
Fig.131-707	ⅢA層	板状製品	21.60	11.30	1.40	上下：突起部 右側縁：焦化・焼失あり	コウヤマキ	焼却未遂?
Fig.132-708	ⅢA層	板状製品	10.60	4.80	1.60	A面：凹部1 B面：切り傷3	クスノキ	線?
Fig.132-709	ⅢA層	板状製品	10.20	6.50	1.60	A・B両面：切込み状の凹部あり	コナラ属アカガシ亜属	
Fig.132-710	ⅢA層	板状製品	19.60	3.90	1.40	上端：尖頭状	サワラ	祭祀関連?
Fig.133-711	ⅢA層	尖頭状製品	36.00	9.30	8.80	上端：切断痕 尖端部：加工痕明瞭	イチイ科カヤ属カヤ	完存
Fig.133-712	ⅢA層	尖頭状製品	25.50	7.10	6.60	上端部：加工痕多、多面構成 下端部：2段・多面構成	ツバキ科ツバキ属	
Fig.133-713	ⅢA層	尖頭状製品	17.20	5.80	4.70	6面構成 尖端部：丸み	ツバキ科ツバキ属	
Fig.133-714	ⅢA層	棒状製品	32.70	2.50	4.70	A面：段1	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	角材状
Fig.134-715	ⅢA層	段状製品	22.50	13.10	10.40	孔1 段斜面部：加工痕多 下端面：切断面	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	
Fig.134-716	ⅢA層	棒状製品	19.40	3.90	3.10	上端：尖頭状 A面：横位凹部1 下端：斜位切込み多、切断痕	スギ	
Fig.135-717	ⅢA層	尖頭状製品	13.70	5.20	4.40	上端：多面構成・尖る A面：段部1 下端：2面構成・尖る	イヌガヤ	ほぼ完存 木鏝?
Fig.135-718	ⅢA層	棒状製品	5.80	5.40	5.00	下端：平面	サカキ	「ジョウロ」形?
Fig.135-719	ⅢA層	棒状製品	19.20	3.50	2.40	左側縁：段1	ヒノキ	
Fig.136-720	ⅢA層	束製品	7.30	1.20	1.05	小枝6本を樹皮で結束 下端：切断面残存	サワラ	柄部?
Fig.136-721	ⅢA層	線刻板	9.60	3.60	0.50	A面：横位・斜位線刻 B面：線刻なし	ヒノキ	
Fig.136-722	ⅢA層	線刻板	7.30	3.80	0.60	A面：横位線刻7	ヒノキ	
Fig.136-723	ⅢA層	へら状製品	7.30	2.80	0.40	A面：凹面	ヒノキ	
Fig.136-724	Ⅲ層	底板	9.80	3.20	0.70	側面部：木釘3残存	ヒノキ	
Fig.136-725	Ⅱ層	有孔円板	2.70	2.40	0.60	円孔1	樹皮(針葉樹)	完存
Fig.136-726	Ⅱ層	有孔円板	2.60	2.30	0.30	円孔1	樹皮	

### (3) 1C区 (補遺)

1C区の補遺編として、追加で資料化できた石器・石器関連資料と、保存処理を実施した自然遺物について報告する。

#### 1. 石器・石器関連資料

IVB層出土石器・石器関連資料2点, IVA層出土石器1点, IV層出土石器・石器関連資料11点, III C層出土石器・石器関連資料2点, IIIB層出土石器・石器関連資料2点, III層出土石器関連資料1点を図示した。

##### IVB層出土石器・石器関連資料 (Fig.137-1435・1436)

1435は扁平片刃石斧である。結晶片岩製である。1436は磨製石斧未製品である。結晶片岩製で、完存する。

##### IVA層出土石器 (Fig.137-1437)

1437は両刃磨製石斧である。結晶片岩製で、完存する。

##### IV層出土石器・石器関連資料 (Fig.138・139)

1438・1439は磨製石鏃素材とみられる粘板岩片である。いずれも一部に礫皮面を残す。

1440は磨製石庖丁である。粘板岩製で、ほぼ完存する。

1441~1445は両刃磨製石斧である。1441~1444は結晶片岩製, 1445は蛇紋岩製である。1446は両刃磨製石斧未製品ないし欠損品である。結晶片岩製である。1447・1448は磨製石斧未製品で、いずれも結晶片岩製である。1448は完存する。

##### IIIC層出土石器・石器関連資料 (Fig.140-1449・1450)

1449は両刃磨製石斧である。結晶片岩製である。1450は片刃磨製石斧<sup>(1)</sup>未製品である。結晶片岩製である。

##### IIIB層出土石器・石器関連資料 (Fig.140-1451・1452)

1451は両刃磨製石斧である。結晶片岩製である。1452は片刃磨製石斧未製品である。結晶片岩製である。

##### III層出土石器関連資料 (Fig.140-1453)

1453は磨製石斧の素材原石である。結晶片岩製で、ほとんど製作未然品と考えられる。

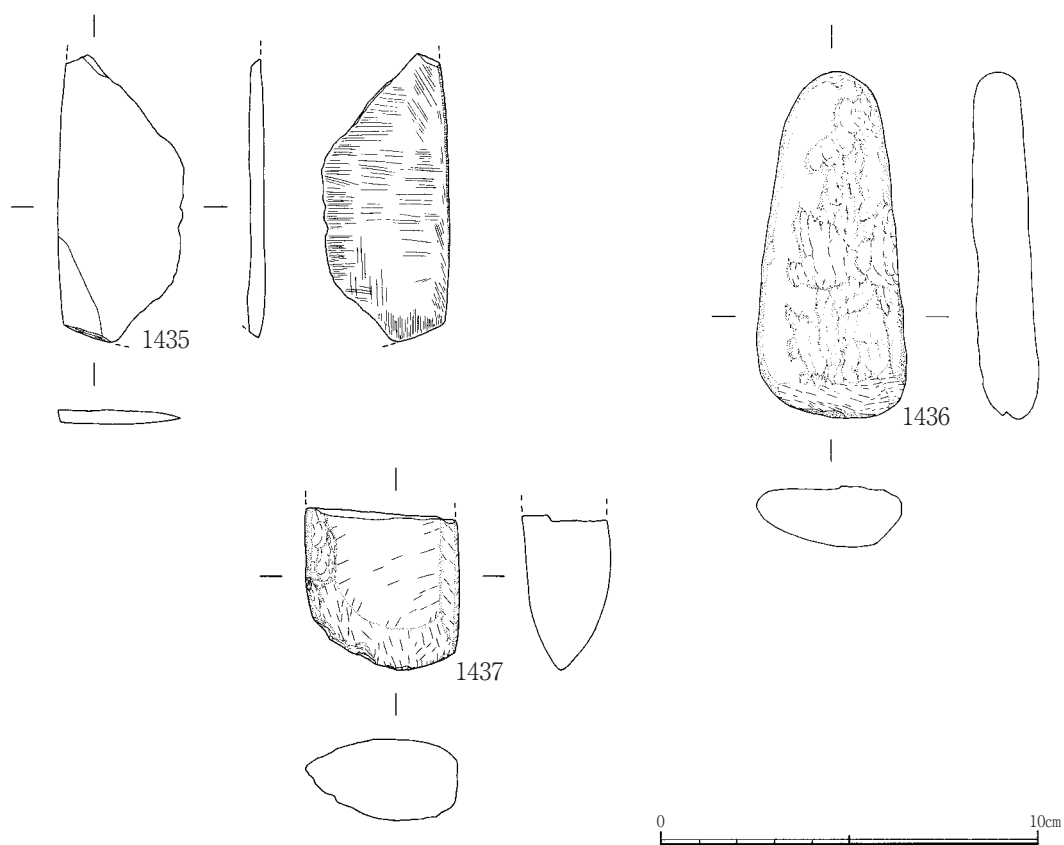


Fig.137 1C区出土石器・石器関連資料1 (S : 1/2)

## 2. 自然遺物

1454は樹皮である。樹種は不明である。

註

- (1) 円礫素材で、「柱状片刃石斧」に類する刃部形状をもつ磨製石斧を、本文中において「片刃磨製石斧」と仮称した。

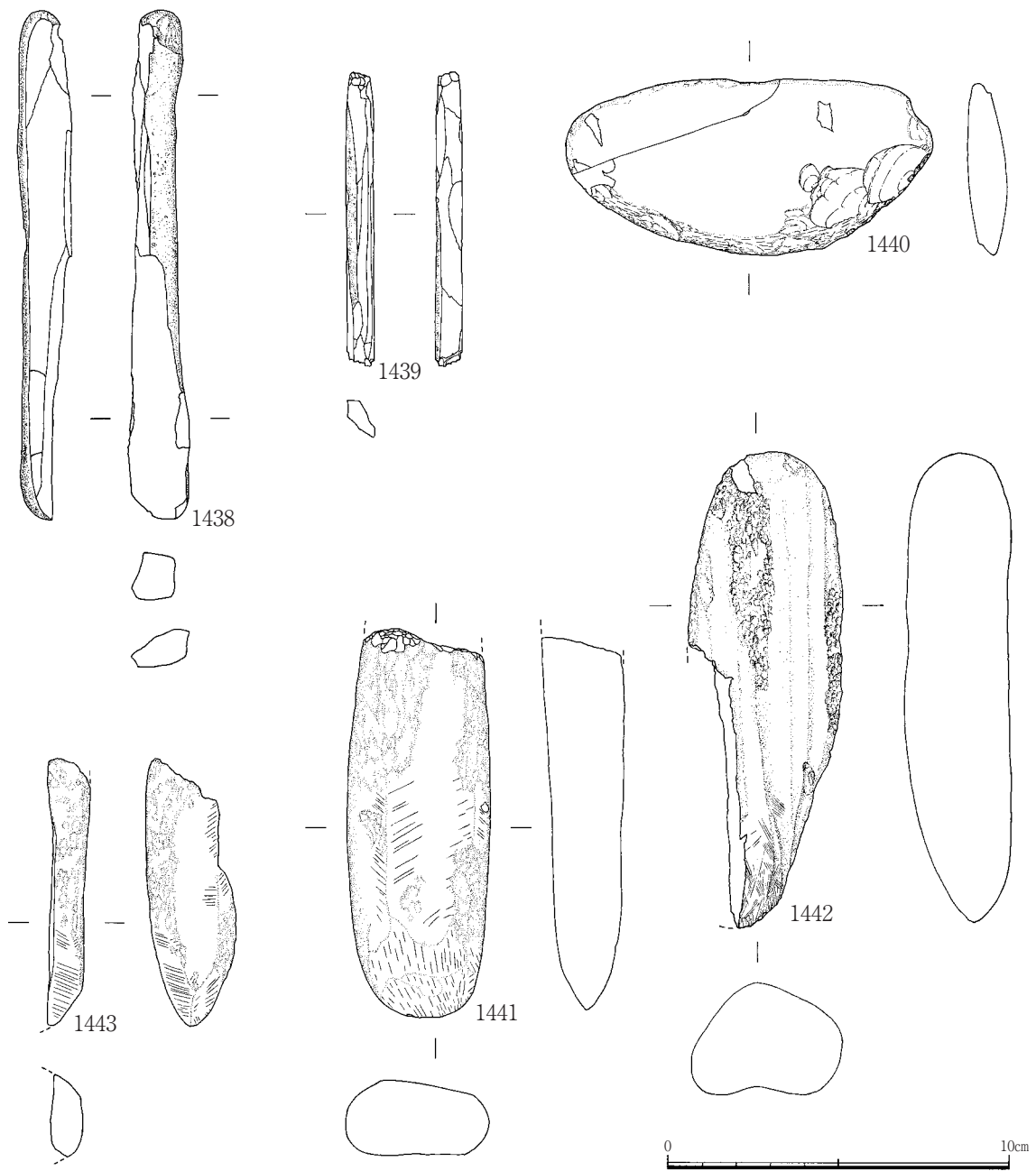


Fig.138 1C区出土石器・石器関連資料2 (S : 1/2)

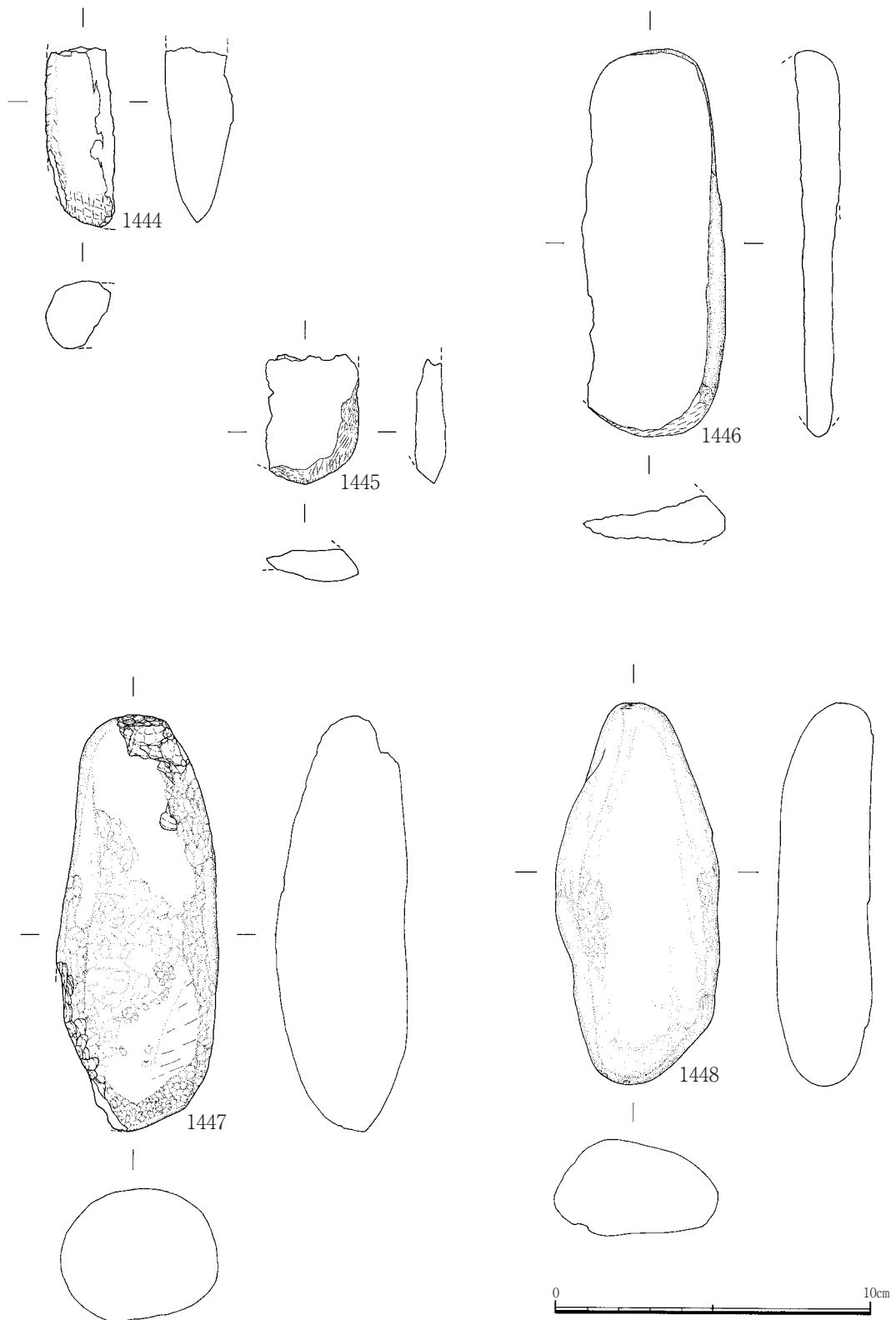


Fig.139 1C区出土石器・石器関連資料3 (S : 1/2)



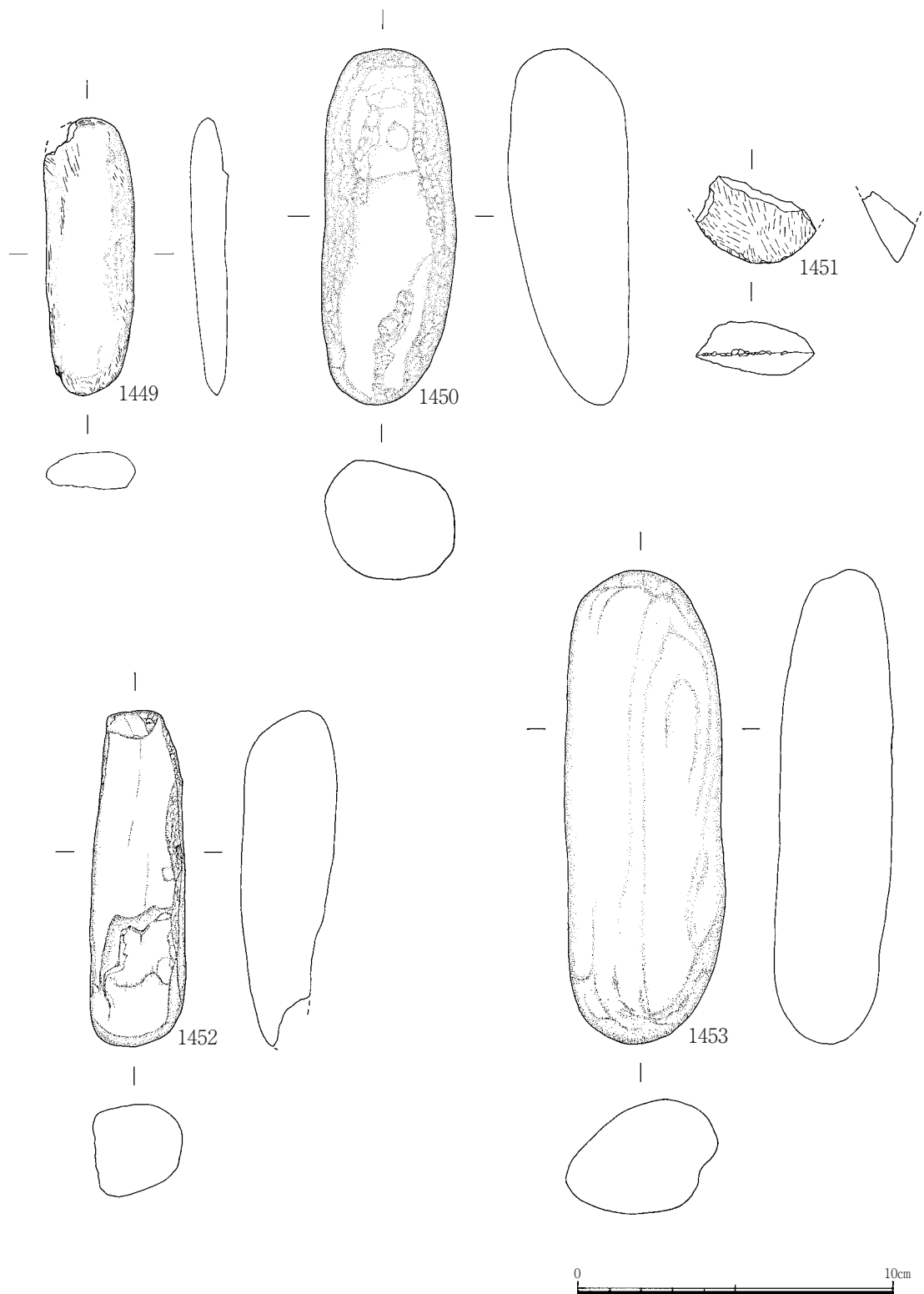


Fig.140 1C区出土石器・石器関連資料4 (S : 1/2)

表33 1C区出土石器・石器関連資料計測表

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm, g)				調整等	石材	備考
			全長	全幅	全厚	重量			
Fig.137-1435	IVB層	扁平片刃石斧	7.65	3.35	0.50	16.30	A面：ほとんど剥離面（欠損）、刃部：研磨 B面：全面研磨 左側縁：研磨	結晶片岩	
Fig.137-1436	IVB層	磨製石斧未製品	9.20	4.00	1.80	92.50	A面：素材面残す、刃部：研磨途上 B面：素材礫皮面	結晶片岩	完存
Fig.137-1437	IVA層	両刃磨製石斧	4.30	4.10	2.30	61.30	A・B面：ほとんど研磨面 刃部：使用痕	結晶片岩	完存
Fig.138-1438	IV層	磨製石礫素材？	15.00	1.80	1.60	49.30	A・B・右側面：礫皮面残す A・左側面：剥離面あり	粘板岩	縦長剥片を採取？
Fig.138-1439	IV層	磨製石礫素材？	8.65	0.80	1.10	9.50	A・B面：素材礫皮面残す 全面：上下からの剥離面あり	粘板岩	剥片もしくは残核？
Fig.138-1440	IV層	磨製石庖丁	10.75	5.25	1.20	87.50	A面：背部調整、刃部調整・研磨、礫皮面広い B面：全面礫皮面	粘板岩	ほぼ完存 未穿孔状態段階？
Fig.138-1441	IV層	両刃磨製石斧	11.45	4.20	2.50	197.40	A・B面：敲打整形・研磨 刃部：使用痕	結晶片岩	
Fig.138-1442	IV層	両刃磨製石斧	14.00	4.55	3.25	276.10	A・B面：敲打整形、素材礫皮面残す 刃部：擦痕、使用痕	結晶片岩	
Fig.138-1443	IV層	両刃磨製石斧	7.85	1.30	2.70	27.80	A・B面：敲打整形・研磨 右側面：研磨	結晶片岩	
Fig.139-1444	IV層	両刃磨製石斧	5.75	2.25	2.20	40.60	A面：研磨、素材礫皮面残す B面：敲打整形・研磨、素材礫皮面残す 左側縁：研磨	結晶片岩	
Fig.139-1445	IV層	両刃磨製石斧	4.20	2.95	1.00	19.60	A面：側縁調整、刃部：研磨・使用痕 B面：側縁調整、刃部：研磨	蛇紋岩	
Fig.139-1446	IV層	両刃磨製石斧未製品	12.40	4.65	1.50	118.90	A面：破断面広い B面：敲打整形、破断面広い 右側面：素材礫皮面 基部：素材礫皮面、研磨？ 刃部：研磨、形成途上	結晶片岩	欠損品？
Fig.139-1447	IV層	磨製石斧未製品	13.30	5.15	4.35	443.40	A面：敲打整形、研磨 B面：敲打整形、ほとんど素材礫皮面 両側縁：敲打整形 基部：調整剥離、研磨？	結晶片岩	
Fig.139-1448	IV層	磨製石斧未製品	12.20	5.25	3.05	300.90	A面：敲打整形、側縁調整、素材面広い B面：剥離面広い、整形痕、研磨？ 基部：敲打、研磨？ 刃部：未形成	結晶片岩	完存
Fig.140-1449	III C層	両刃磨製石斧	8.85	2.90	1.20	49.40	A面：側縁調整+研磨 B面：ほとんど剥離面、整形痕、研磨 基部：研磨 刃部：研磨	結晶片岩	
Fig.140-1450	III C層	片刃磨製石斧未製品	11.35	4.30	3.85	322.60	A面：敲打整形、+研磨？ B面：ほとんど素材礫皮面 両側面：敲打整形 基部：敲打整形 刃部：未整形？、素材面？	結晶片岩	「柱状片刃」的な石斧 の製作途上品？
Fig.140-1451	III B層	両刃磨製石斧	2.80	3.80	1.75	12.20	A・B面：研磨 刃部：使用痕	結晶片岩	
Fig.140-1452	III B層	片刃磨製石斧未製品	10.70	3.05	3.05	165.00	右側面：敲打整形広い 基部：敲打整形あり 下端面：研磨？、B面側大きく欠損	結晶片岩	「柱状片刃」的な石斧 の製作途上品？
Fig.140-1453	III層	石斧原石	15.10	5.10	3.75	493.60	ほとんど素材礫状態？ 上端：敲打？	結晶片岩	製作未成品？

## (4) 4 D区

### 1. 調査区の概要

4 D区は、本次の調査対象地の中央部やや東寄りに位置する調査区である。4区の中では西端に位置する。面積は1,704㎡である。北東～南西に長い調査対象地のほぼ中央で直交する、埋没残丘の東側斜面部分に相当する。3 A区に対しては、埋没残丘を挟んで表裏の関係にある。沖積層以下の地形の状況はきわめて複雑なものであったが、現況の地表面はほぼ平坦な地形を呈していた。

発掘調査期間は、平成10年7月11日～平成10年12月28日である。

### 2. 調査の方法

安全対策のため、北西・南東側の両面に鋼矢板を打設して掘削を開始した。調査区の表土及び無遺物層の掘削は、重機（バックホー）を使用しておこない、遺物包含層・遺構の掘り下げは人力でおこなった。遺物出土状態、遺構検出状態等、適宜写真撮影による記録をおこなった。当初、4 D区では2～4面の遺構検出面を想定していたが、実際の調査で設定した遺構検出面は2面である。包含層掘削→遺構検出→遺構調査・完掘の工程を2回繰り返す、それぞれの完掘後、平面図・堆積土層断面図等を作成し、あわせて写真撮影によって記録した。

全調査区共通の4mグリッドを遺物取上げの最小単位とし、グリッドの名称も他の調査区と同一の方法によって決定した。また、必要な遺物については個別に出土地点の国土座標を測定・記録した。

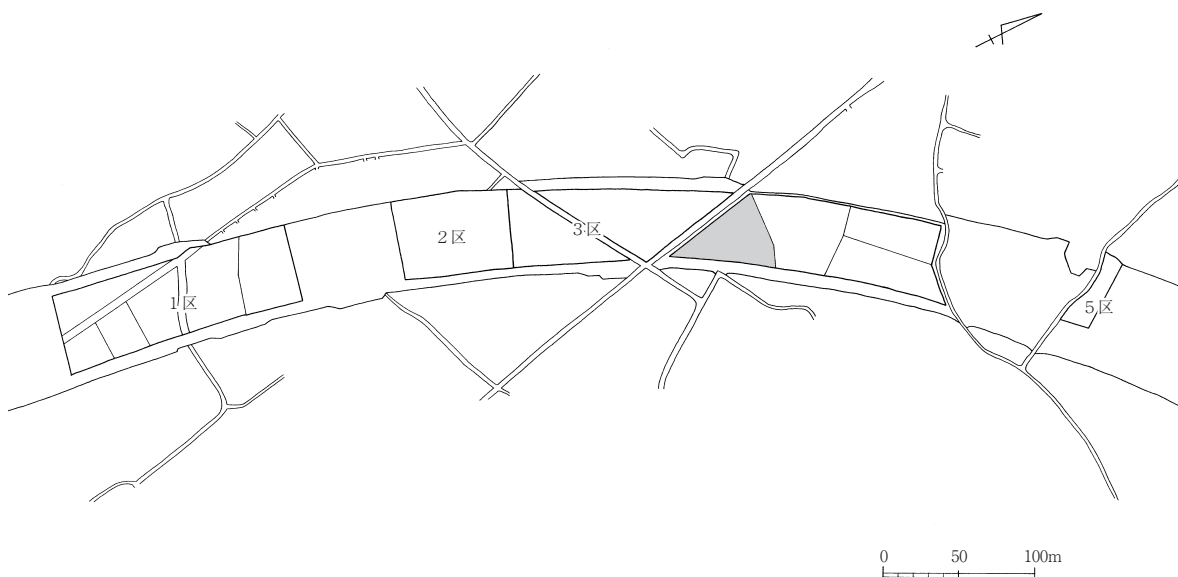


Fig.141 4 D区の位置 (S : 1/5,000)

### 3. 層序

4D区の調査に際しては、堆積土層名のローマ数字の肥大化を防ぐため、複数の土層を以下のように類型化して扱い、数字を付した。

第Ⅰ層：重機掘削を実施する表土層で、概ね耕作土を指す。

第Ⅱ層：重機掘削を実施する表土層より下位の無遺物層群である。

第Ⅲ層：人力掘削を実施する、古墳時代以降の形成とみられる遺物包含層群である。ⅢB層は灰褐色～灰色の腐植質粘土～礫粘土で、古墳時代前～中期の旧表土層と考えられ、当該期の祭祀行為に伴うとみられる遺物を多く含む。

第Ⅳ層：最上面で第1面の遺構検出をおこない、かつ人力掘削を実施する、縄文後・晩期以降の形成とみられる遺物包含層群である。ⅣB層は黒～灰色を呈する泥炭質の粘礫土～粘土で、4D区南西端部の浅い窪地状地形を被覆するように堆積している。縄文晩期中葉～後葉の旧表土層かつ人為的な「捨て場」の堆積層と考えられ、当該期の人工遺物・自然遺物を多く含む。

第Ⅴ層：上面で第2面の遺構検出をおこなう無遺物層で、明緑灰色の粘土層である。

層群単位で命名した第Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ層中の各層については、「ローマ数字+アルファベット」で命名し、さらにセクションベルト部分で細分したものは「+アラビア数字」で枝番号を付して表記した。

### 4. 遺構

4D区の調査では、第Ⅳ層上面及び第Ⅴ層上面において、ピット状遺構等を検出した。いずれの局面においても、遺構の形成は顕著ではない。地球規模の気候変動に伴う海水面変動の影響を直接に受ける、低地域に位置していたものとみられる。

### 5. 遺物

4D区出土遺物は、土器、土製品、石器、木製品、金属器、人骨、動物骨、自然遺物等から構成される。本編では、木製品28点、土器27点、土製品2点、石器1点、鉄製品2点、玉類12点を図示し、自然遺物4点の写真図版を掲載した。

#### (1) 木製品

ⅢB層出土木製品19点、ⅢA層出土木製品6点、Ⅲ層出土木製品2点、Ⅱ層出土木製品1点を図示した。本文中ならびに表34中では、図示した表面側をA面、その反対側の面をB面として表記した。

#### ⅢB層出土木製品 (Fig.146～150・付図2)

1は木錘である。ほぼ完形で、右側縁中央部に挟り部1を形成する。2は環状製品で、中央に円孔1を穿つ。車輪か。3は板状製品で、ほぼ完形である。左右両端部に軸状部分が突出する。4は部材で、ほぼ完形である。全体に弧状を呈し、下側縁中央部に挟り部1を形成する。「蓋」の部材か。

5～7は剣形製品である。5・6は下端部に基部形状を加工する。5は鏑を有する。8は板状製品で、

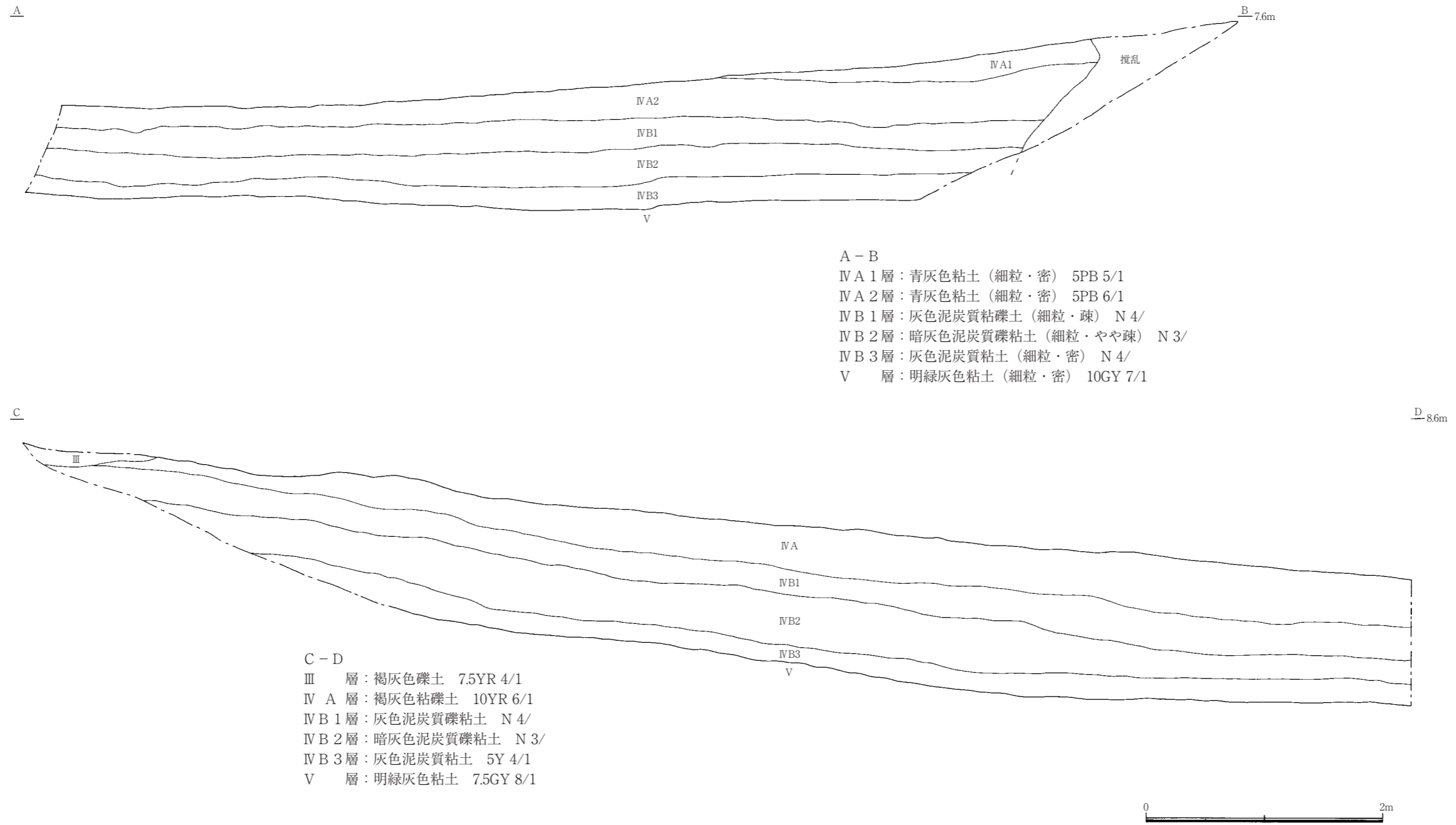


Fig.142 4D区ベルトC・D1堆積土層断面図（S：1/40）

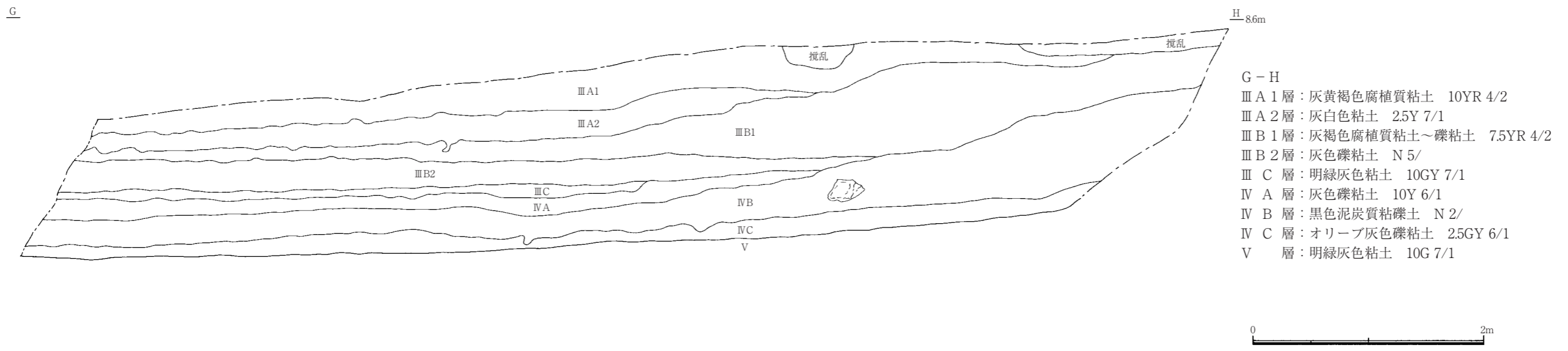
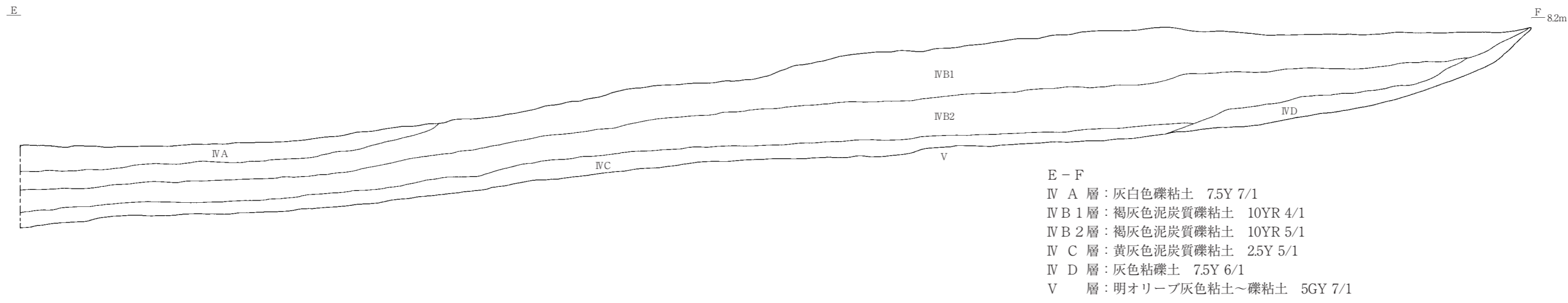


Fig.143 4D区ベルトE・F堆積土層断面図 (S : 1/40)

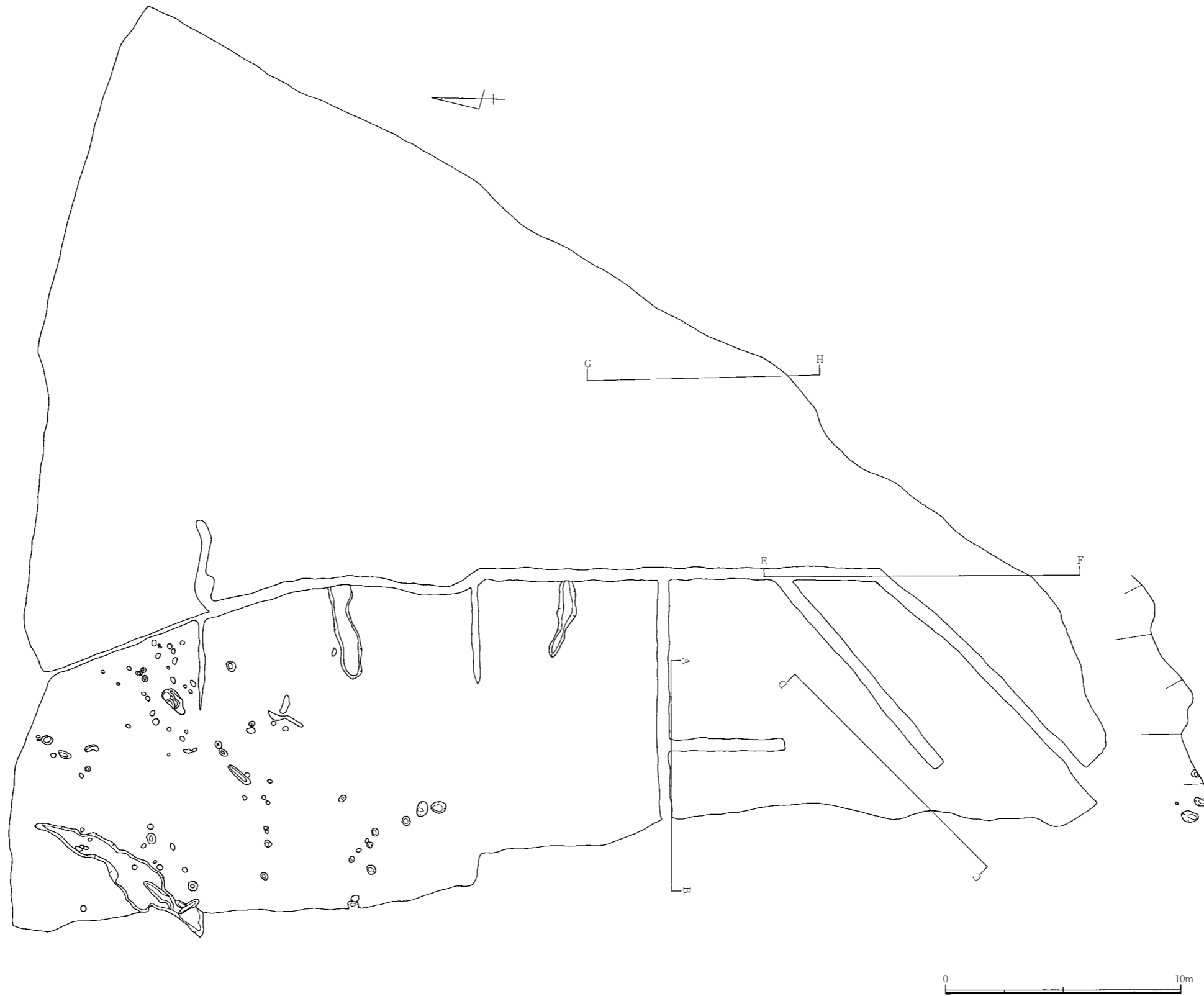


Fig.144 4 D区第V層上面全体図 (S : 1/200)





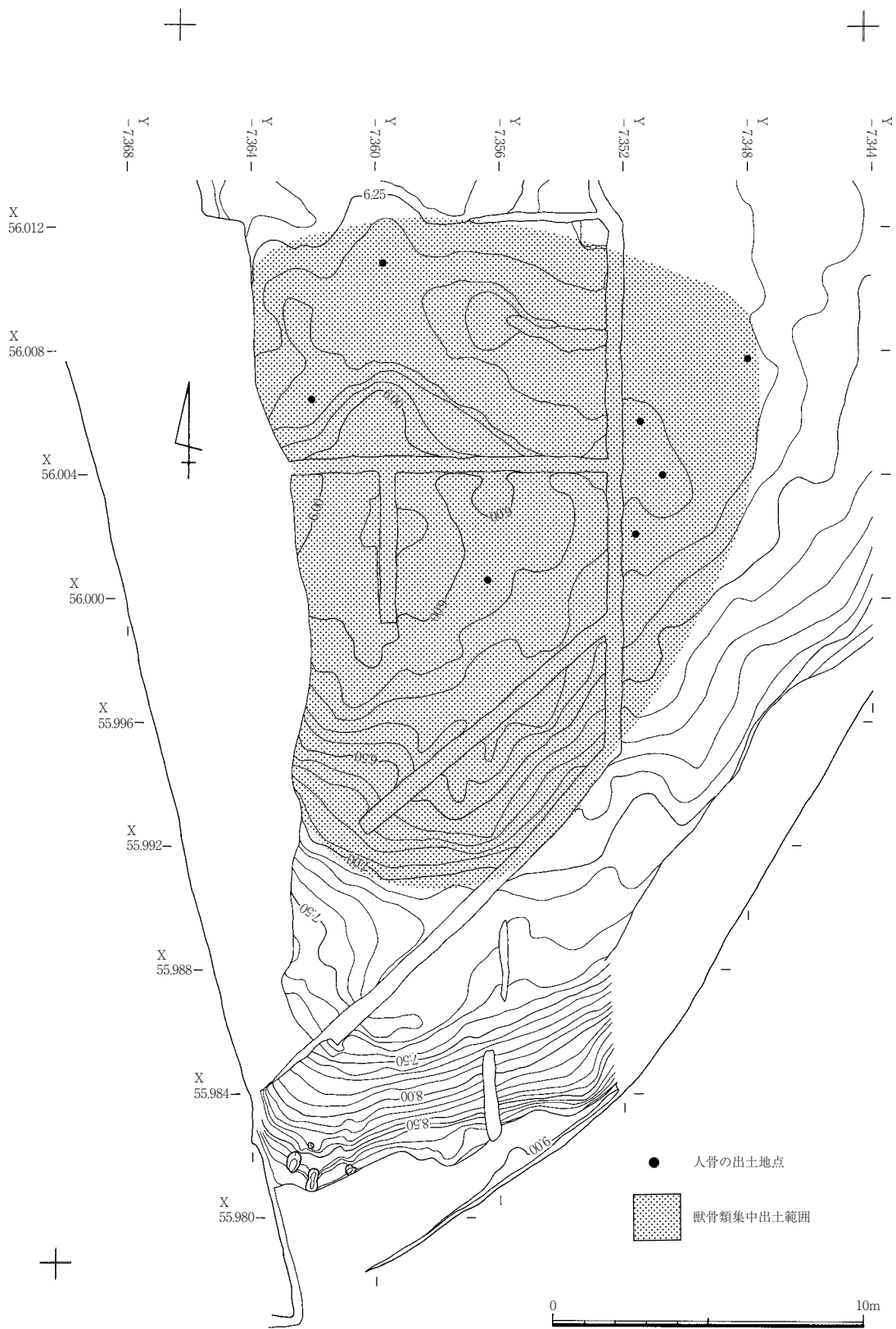


Fig.145 4 D区IV B層獣骨類集中出土範囲と人骨出土地点 (S : 1/200)

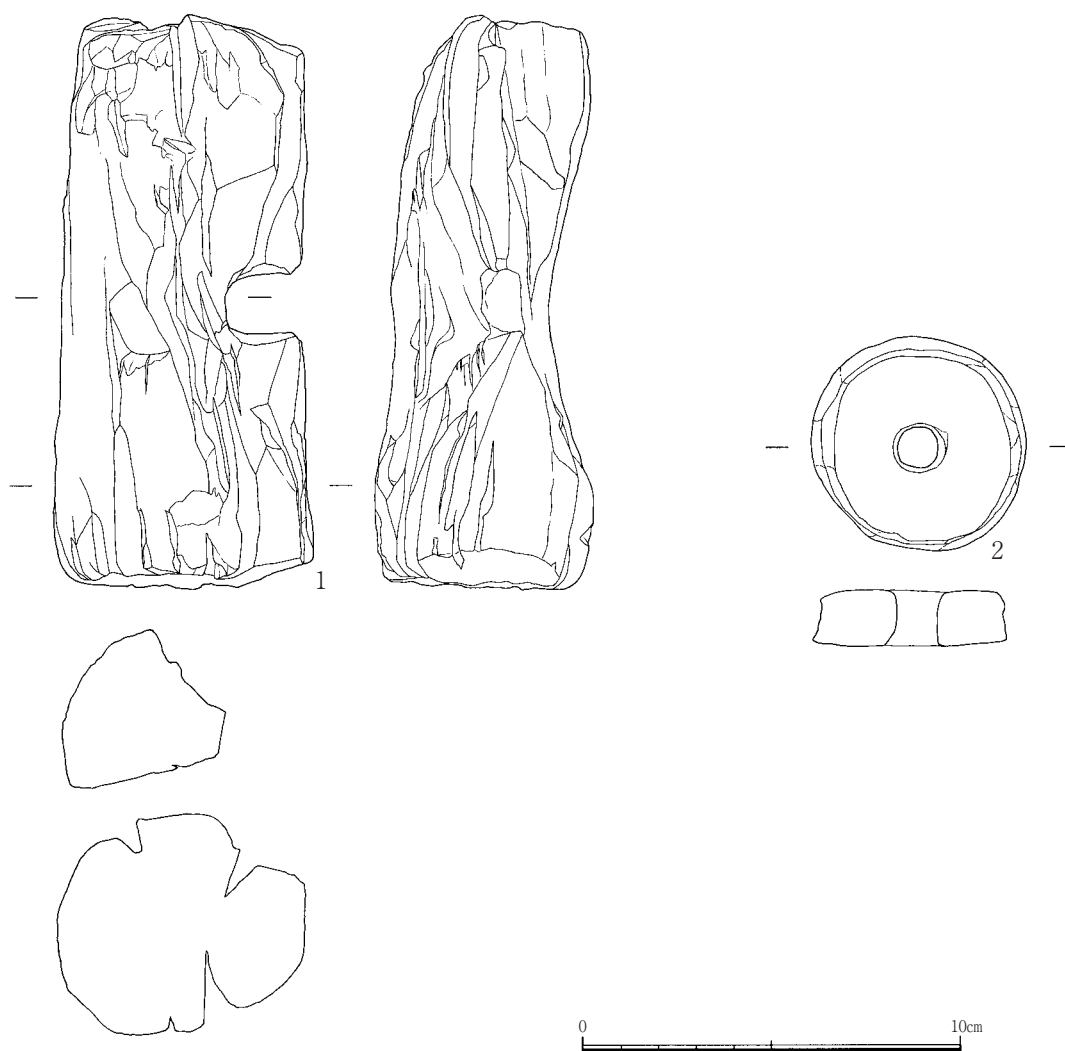


Fig.146 4 D区出土木製品 1 (S : 1/2)

右側縁に突出する形状を呈する。刀形製品か。9・10は舟形である。いずれも上端部に凹部1を形成する。10は完形品である。

11は角材状製品で、部材か。12~16は板状製品である。12は孔15個を穿ち、下端部・両側縁部に挟り部各1を形成する。部材か。13は方形孔2を穿ち、上端は尖らせる。14は方形孔1を穿ち、一部焼失する。15は下側縁中央部に突出部1を形成する。16は方形孔1を穿ち、ほぼ完形である。上端には「V」字状に切込み、右側縁には段1を形成する。部材か。17は棒状製品である。A面左半部に凹部1が縦走する。18・19は円板状製品である。18は完形で、笠形を呈する。19はほぼ完形である。

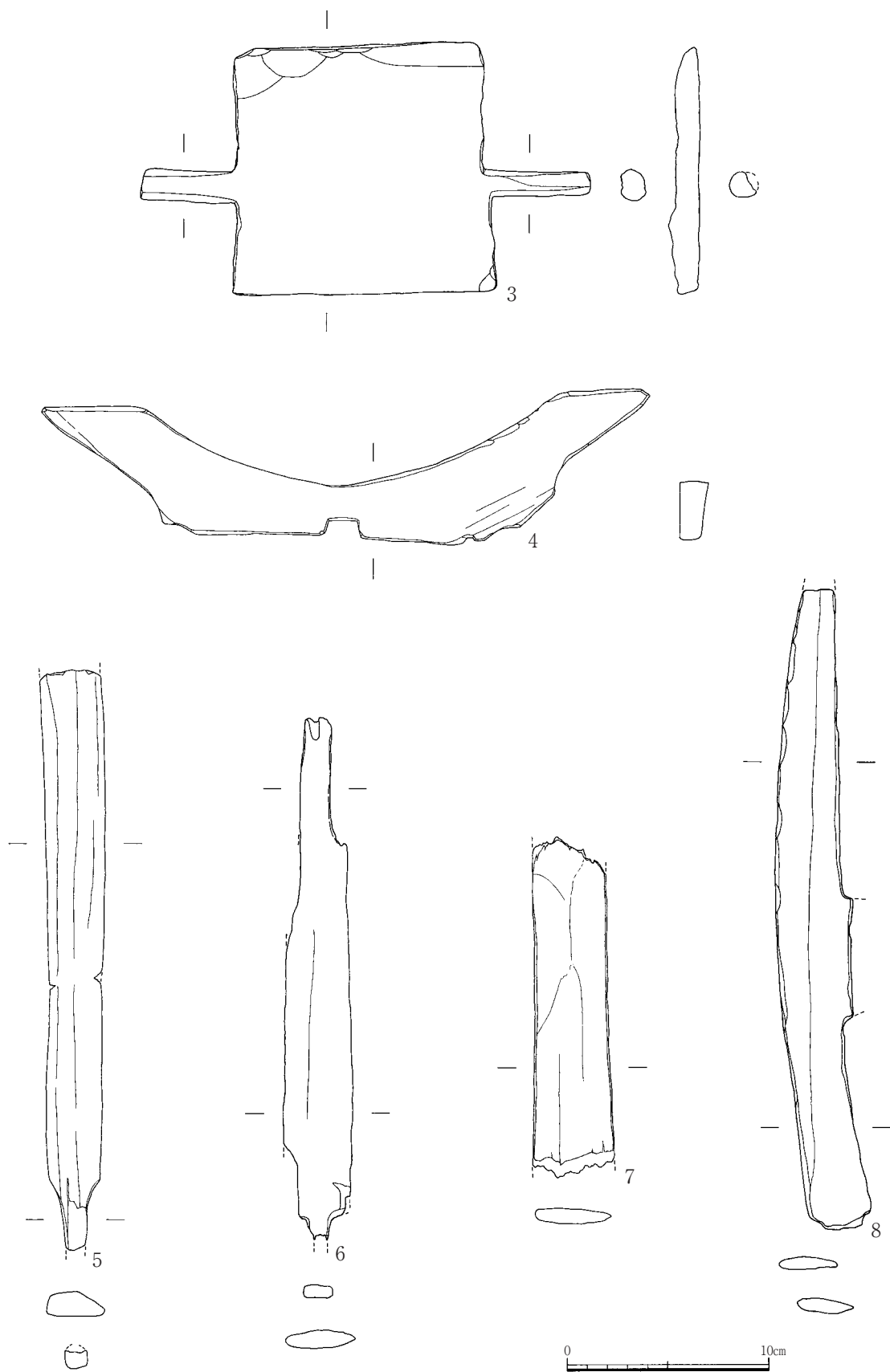


Fig.147 4 D区出土木製品2 (S : 1/3)

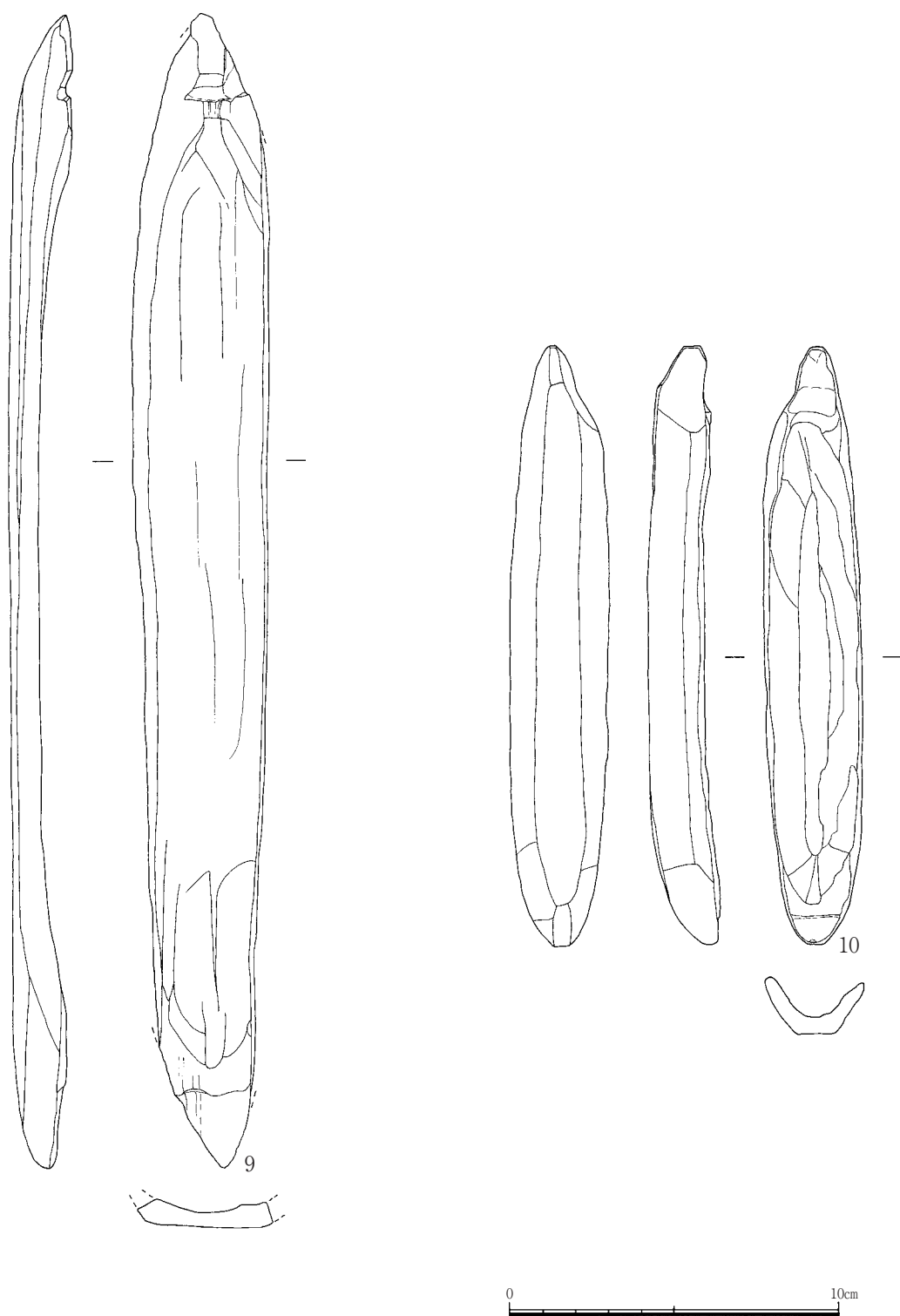


Fig.148 4 D区出土木製品3 (S : 1/2)

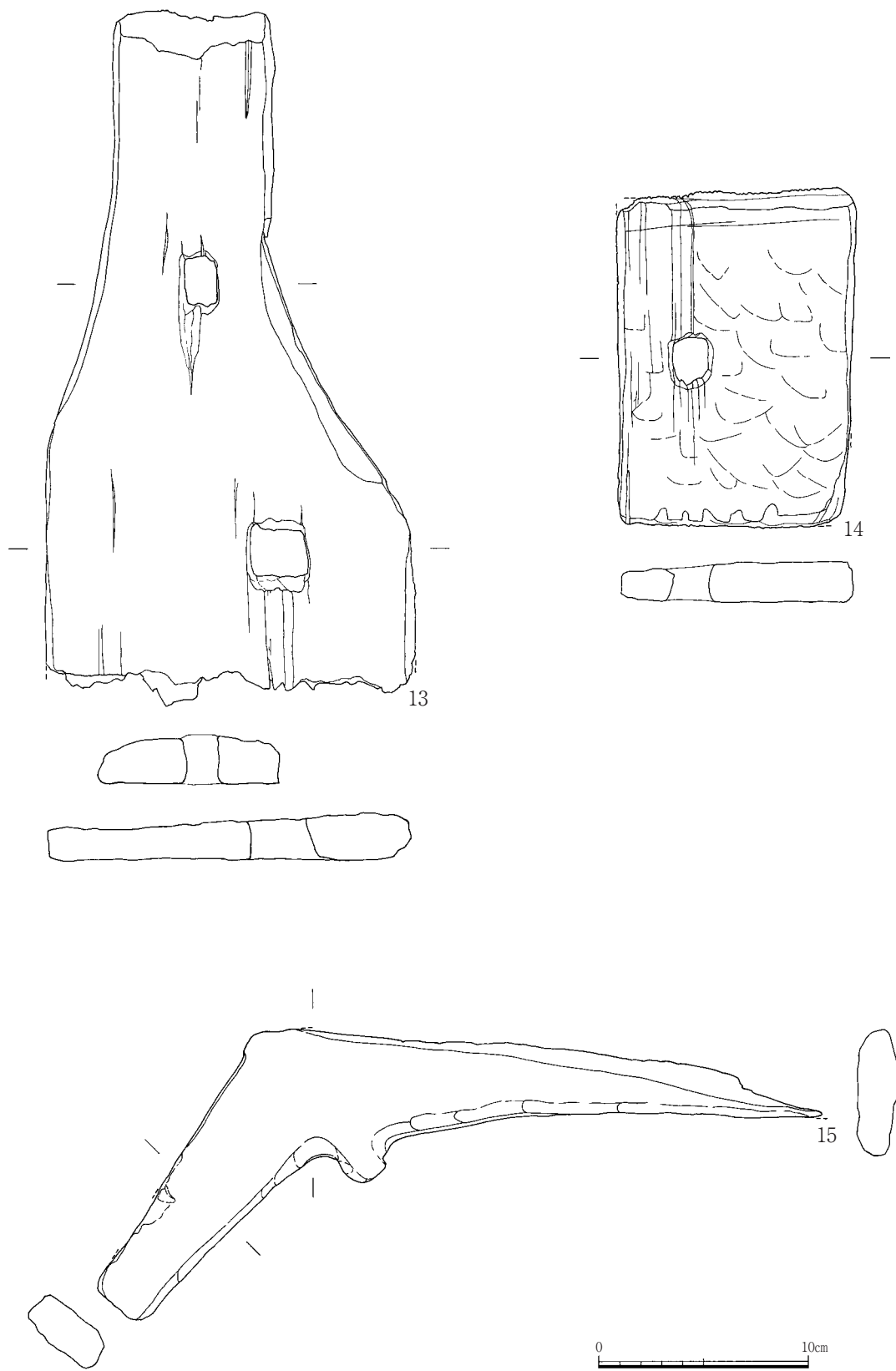


Fig.149 4 D区出土木製品4 (S : 1/3)

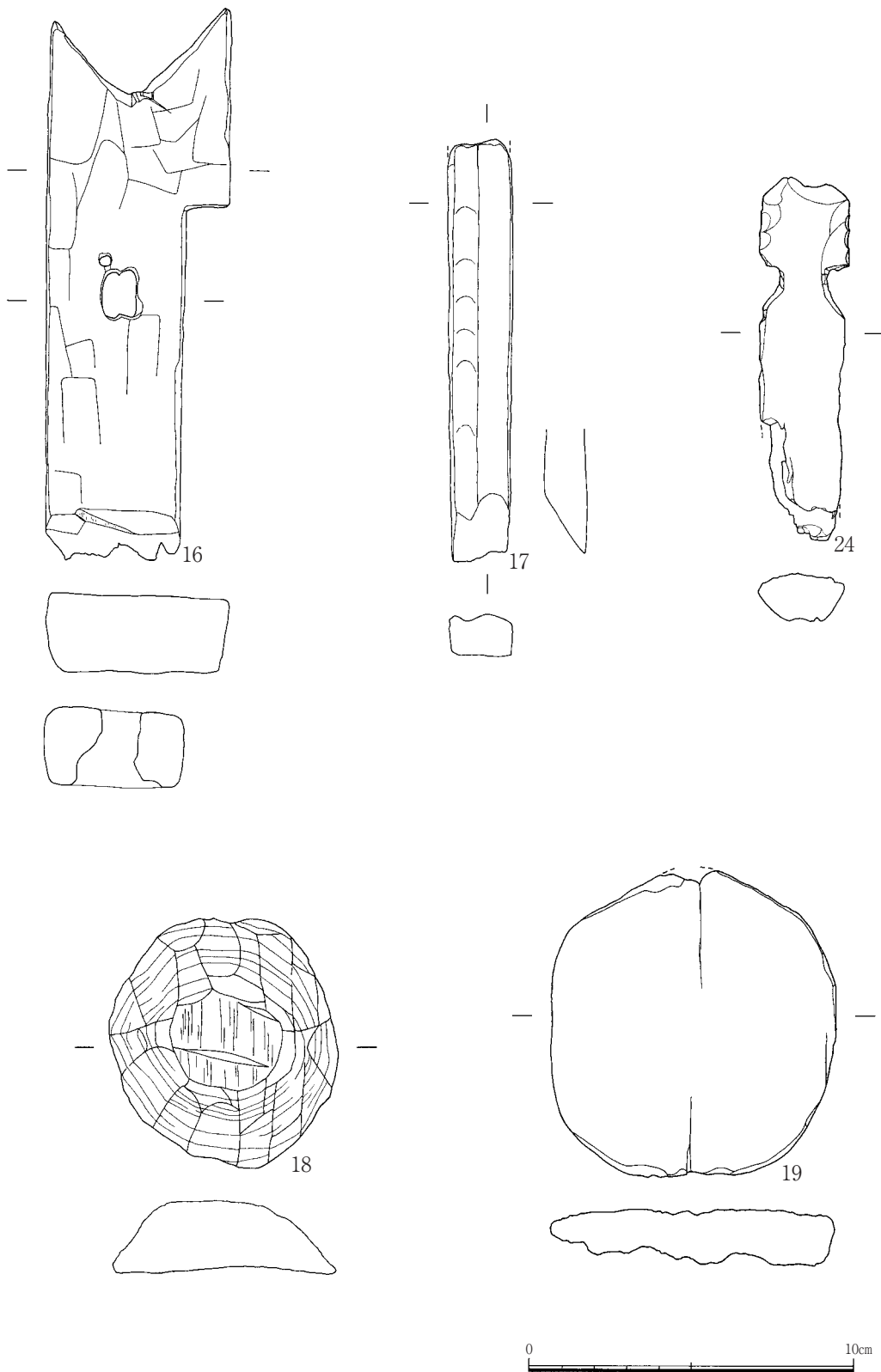


Fig.150 4 D区出土木製品6 (S : 1/2)

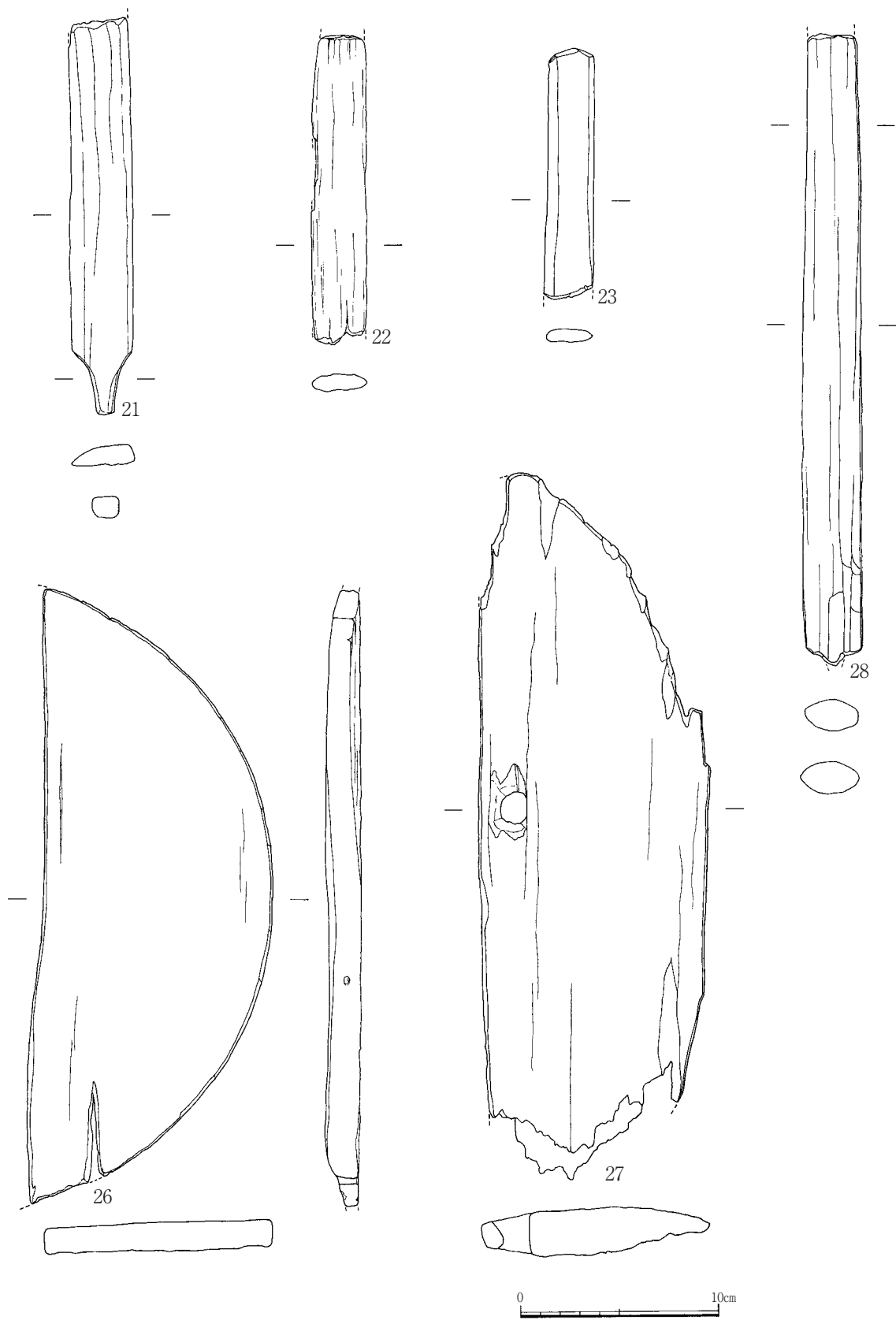


Fig.151 4D区出土木製品7 (S : 1/3)

### ⅢA層出土木製品 (Fig.150～151・付図2)

20は棒状製品で、両端部にのみ加工を施す。柄あるいは担ぎ棒か。

21～23は剣形製品である。21は片刃か。22はB面が不整面である。23は上端部を加工し、尖らせる。24は人形か。25は棒状製品である。加工痕を明瞭に残す。

### Ⅲ層出土木製品 (Fig.151-26・27)

26は底板である。右側面に木製釘1が残存する。27は板状製品である。楕円形～方形の孔1を穿つ。

### Ⅱ層出土木製品 (Fig.151-28)

28は剣形製品である。下端部に基部形状を加工する。

### (2) 自然遺物

ⅢA層出土自然遺物4点の写真図版を掲載した。

29・30はハス(花床)である。29は全長4.5cm, 全幅4.5cm, 全厚4.0cmである。30は全長4.5cm, 全幅4.5cm, 全厚3.5cmである。31はハス(花床・果実)で、全長8.5cm, 全幅6.0cm, 全厚3.5cmである。32はハス(花床)で、全長5.5cm, 全幅4.5cm, 全厚3.0cmである。

### (3) 土器

ⅣB層出土土器14点, ⅢB層出土土器3点を図示した。

### ⅣB層出土土器 (Fig.152～157)

33～44は縄文土器・深鉢である。33は口縁～胴部片で、口縁部外面に刻目突帯1条を貼付する。34は口縁部片で、口縁端部外端に刻目を施す。内外面は条痕調整である。35は口縁～胴部片で、口縁端面に刻目を施す。外面に沈線2条・山形沈線文(2条)を施す。口縁部内面に半截竹管状工具による押し引き文1段を施す。36は口縁端面に刻目を施す。外面は条痕調整である。37は口縁端面に刻目を施す。底面は同心円状のナデ調整により、凸状の丸底を呈する。外面は条痕調整である。38は口縁端部内端側に刻目を施す。外面は条痕調整である。39は底部片で、外面には条痕調整を施す。38・39は同一個体の可能性がある。40は口縁端部外端側に刻目を施す。外面の条痕調整は上胴部以下に施す。41は口縁端部外端側に刻目を施す。外面は条痕調整である。42は口縁～胴部片で、口縁端面には「擬縄文」的な刺突文を施す。外面は条痕調整である。43は胴～底部片である。平底で、底面には粒状の圧痕が認められる。外面は条痕・ナデ調整である。44は口縁～胴部片で、口縁端面に刻目を施す。外面調整は、口～頸部がナデ、これ以下が条痕である。33～44は縄文晩期中葉～後葉の所産と考えられる。

45は縄文土器・鉢である。外面は条痕・ナデ調整である。縄文晩期中葉～後葉の所産と考えられる。

46は縄文土器・浅鉢である。波状口縁で、波頂部は4個か。口縁端部に鱗状突起を有し、波頂部は突出する。外面に沈線1条・半円状貼付+弧状凹線・縦位隆帯2条を施文する。口縁部内面は沈線状に凹む。縄文晩期中葉～後葉の所産と考えられる。



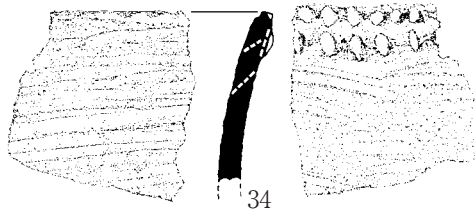
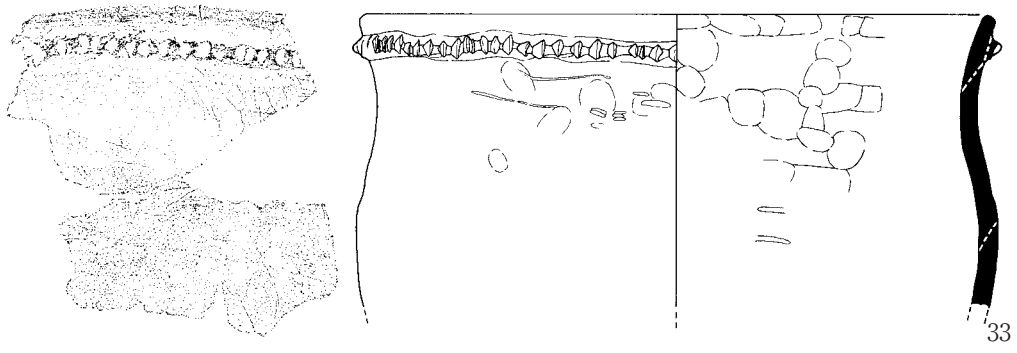


Fig.152 4 D区出土土器1 (S : 1/3)

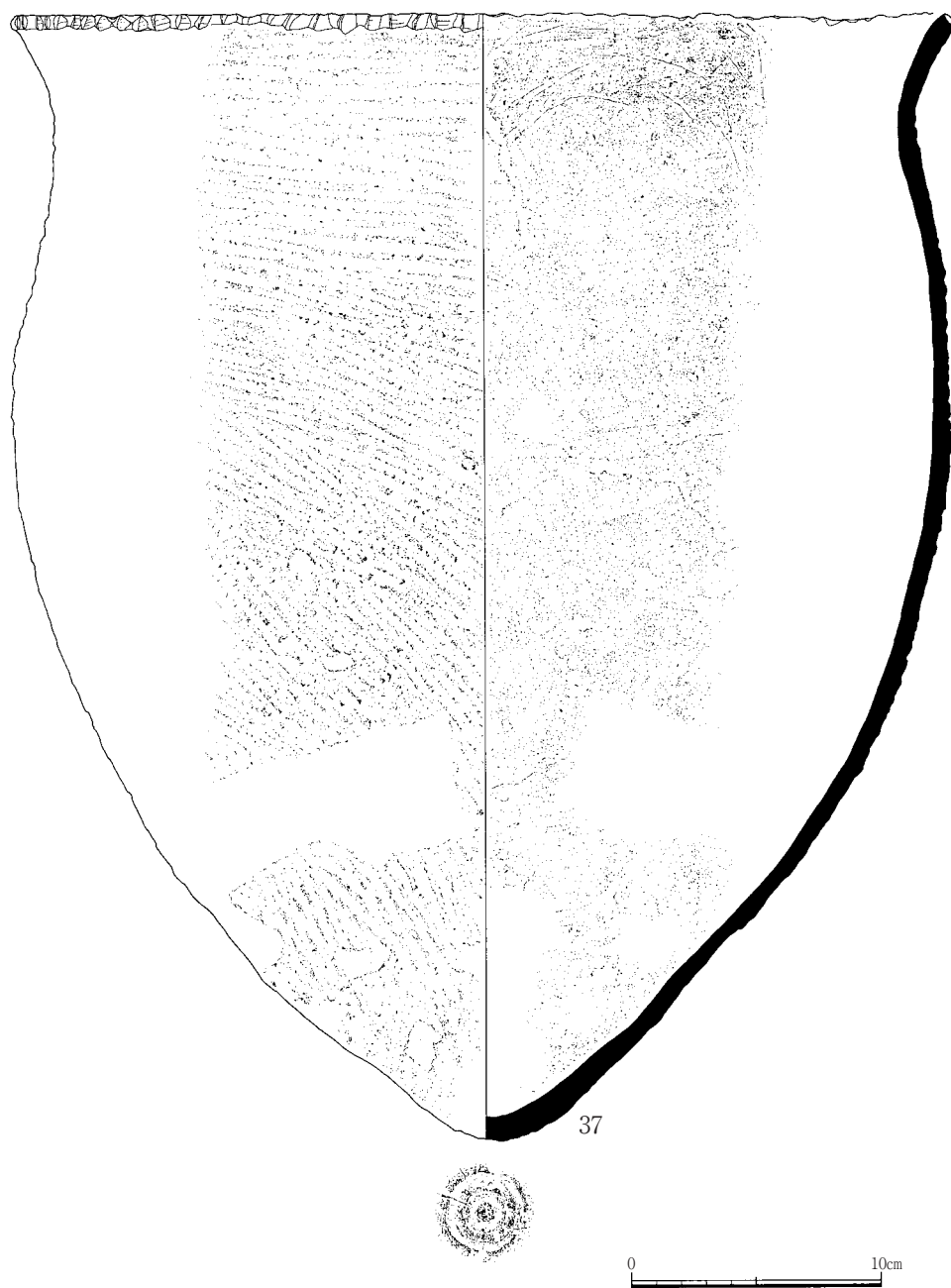


Fig.153 4 D区出土土器2 (S : 1/3)

### Ⅲ B層出土土器 (Fig.160~162)

50は土師器・壺で、ほぼ完形に復元できた。二重口縁で、底部は丸底を呈する。

51・52は須恵器・壺で、いずれも完形品である。51は口縁部外面に突帯1条を有する。底部は平底～凹み底で、内外面はナデ調整である。肩部外面に自然釉が発色する。52は外面に突帯2を有し、櫛描波状文1段を描く。底部は平底～凹み底である。内外面に自然釉が発色する。

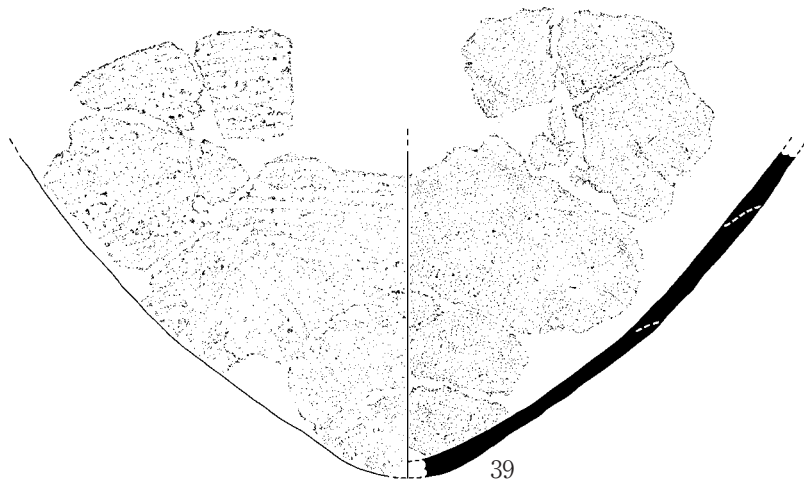
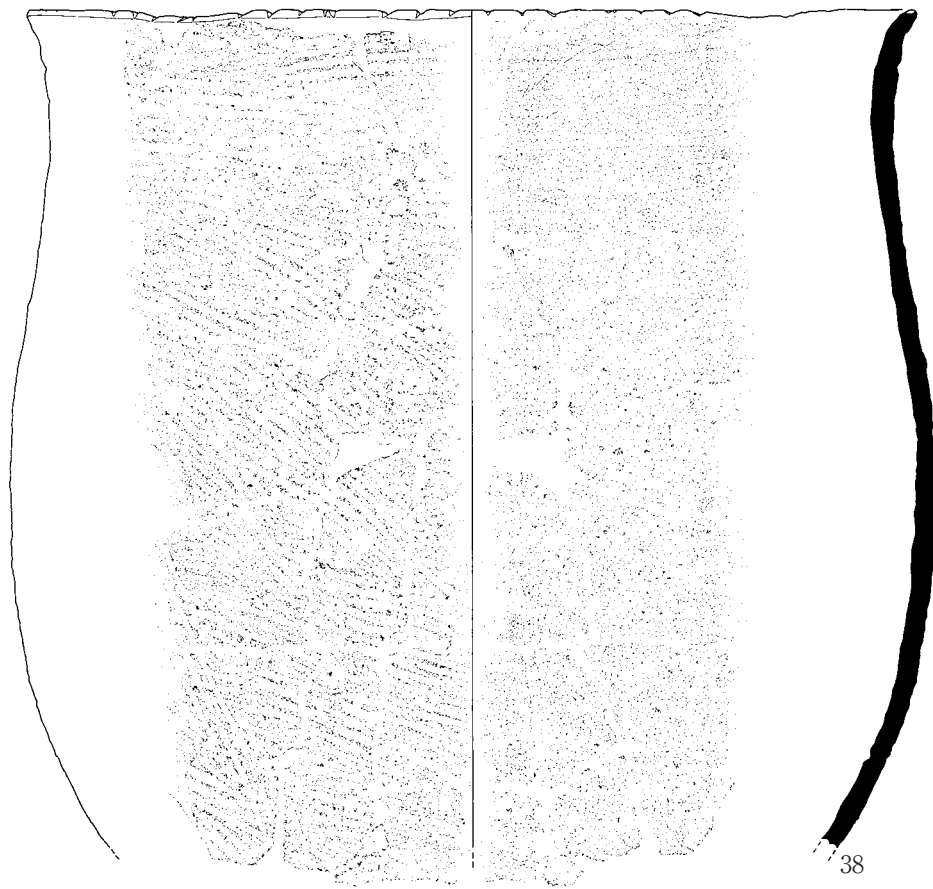


Fig.154 4 D区出土土器3 (S : 1/3)



Fig.155 4D区出土土器4 (S : 1/3)

(3) 土製品

IVB層出土土製品1点, IVA層出土土製品1点を図示した。

**IVB層出土土製品 (Fig.158-47)**

47は土偶である。頭～胸部片で、中実品である。正面には目・鼻・耳・両腕の表現を有する。目はヘラ描き、鼻は隆帯、耳は押圧・ナデによって表現する。両腕は、中央で途切れる横位の隆帯によって、「肘を曲げて両手指先を胸前部で対向させた」状態を表現するものと考えられる。背面には円形隆起部の形成によって、結髪部を表現する。残存長18.2cmで全長は40cm以上と推定される。縄文晩期中葉～後葉の所産と考えられる。

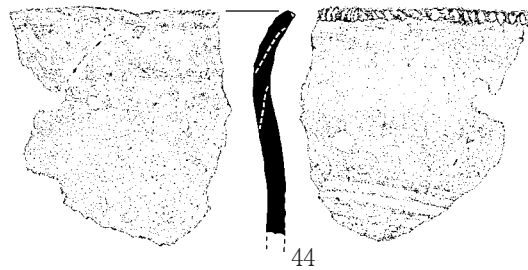
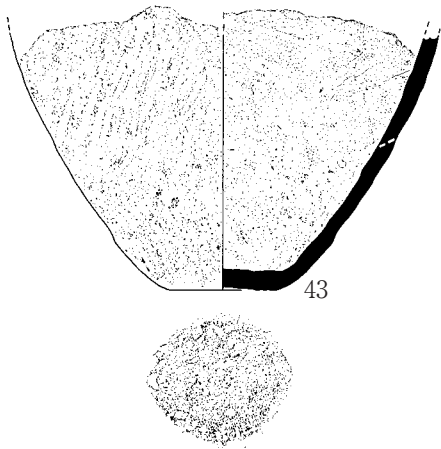
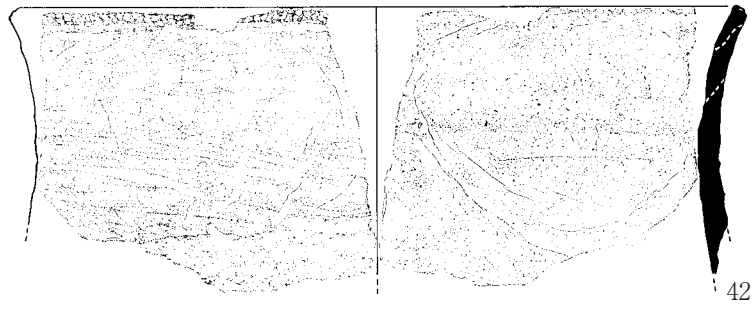
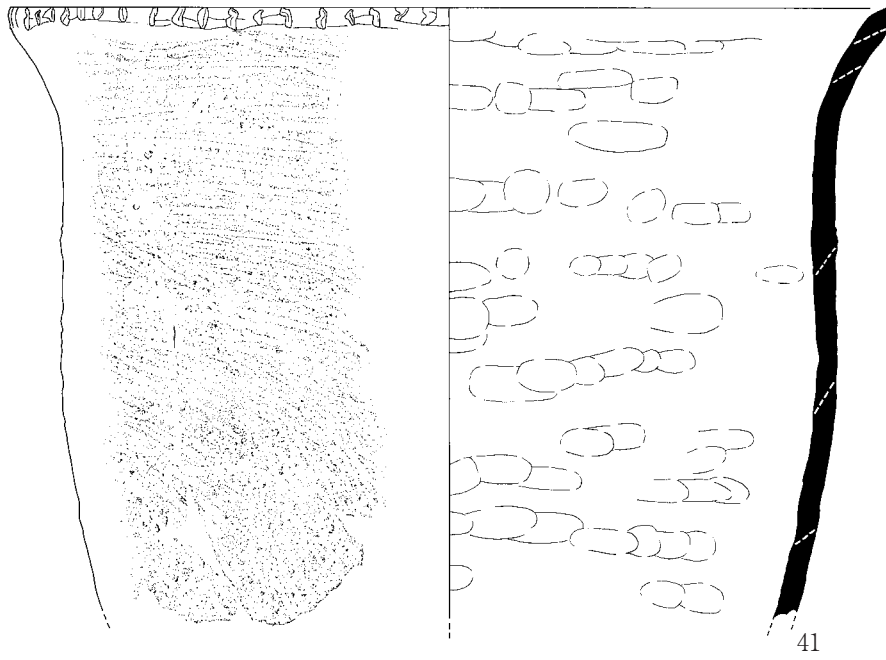


Fig.156 4 D区出土土器5 (S : 1/3)

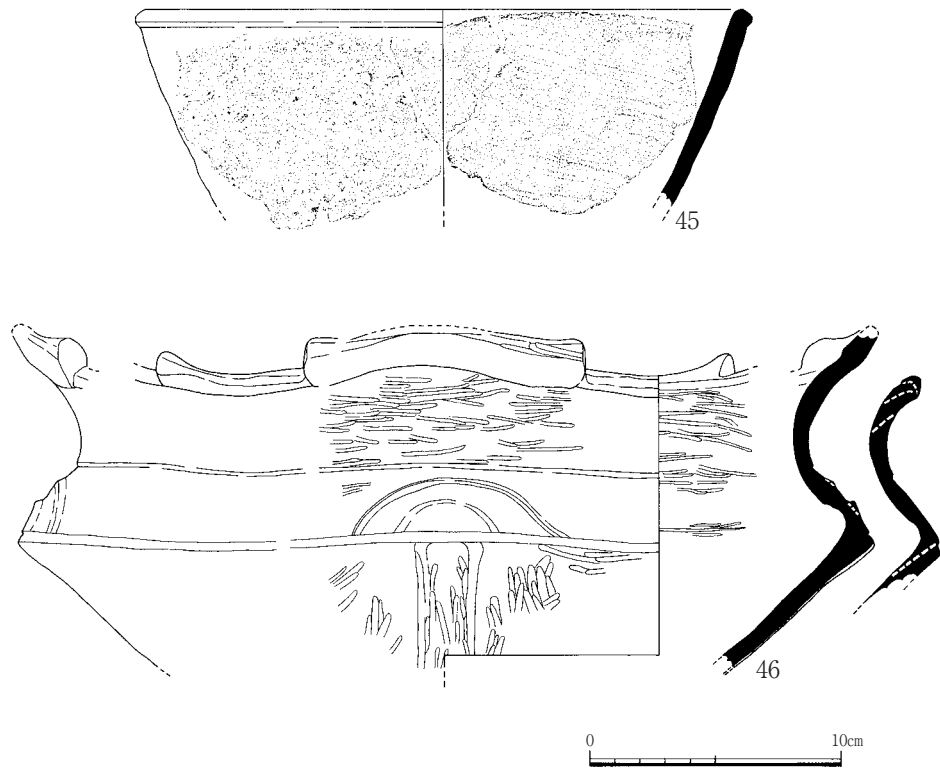


Fig.157 4D区出土土器6 (S : 1/3)

#### ⅣA層出土土製品 (Fig.158-48)

48は土製耳飾りである。鼓形を呈し、ほぼ完形である。両端面に渦状の沈線文を描き、中央に深い刺突1を施す。縄文晩期の所産と考えられる。

#### (4) 石器

ⅢB層出土石器1点を図示した。

#### ⅢB層出土石器 (Fig.159-49)

49は石棒である。結晶片岩製で、基部を欠く。A面・両側縁部に敲打整形痕が認められる。先端部は平滑面を呈する。縄文後～晩期の所産と考えられる。

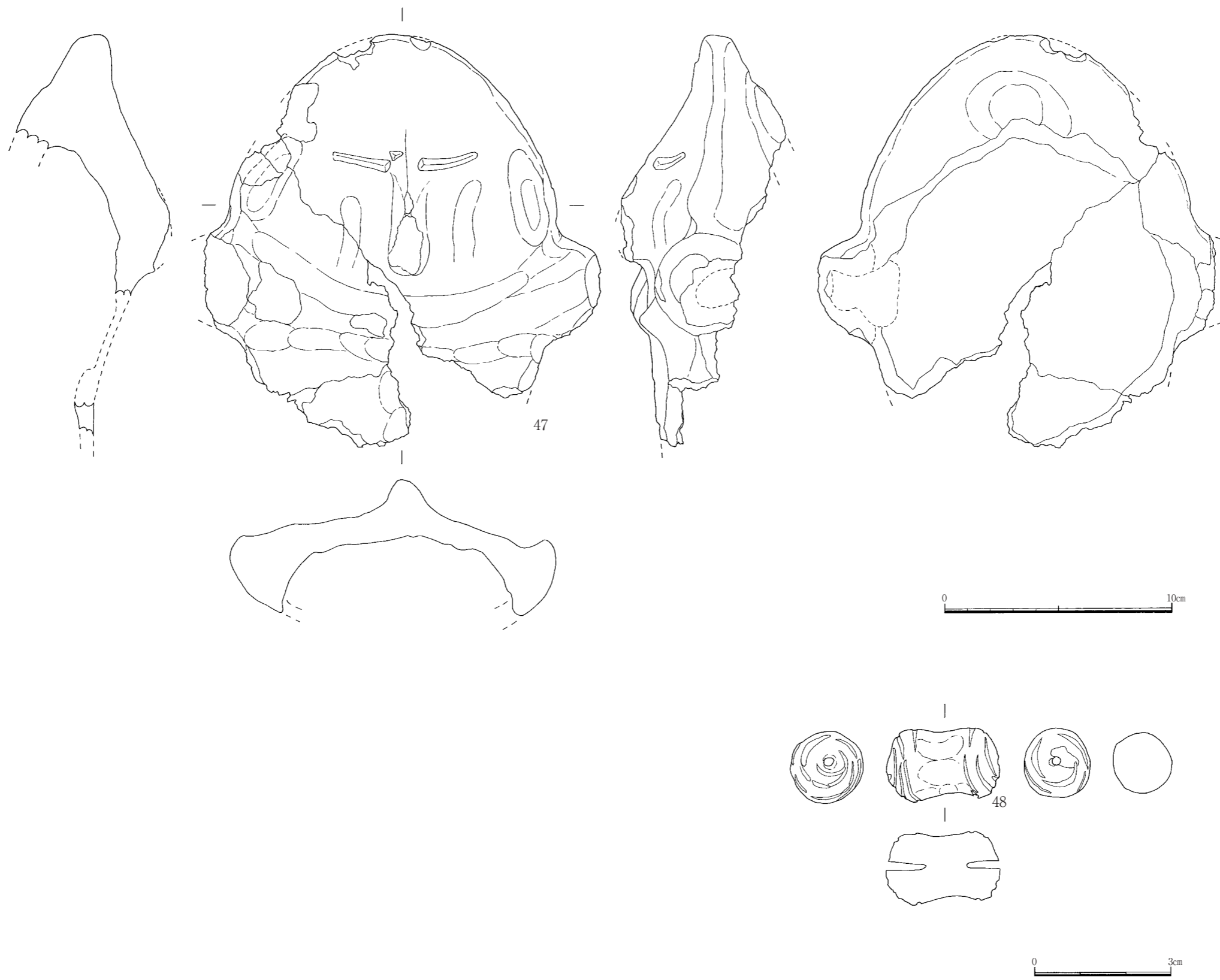


Fig.158 4 D区出土土製品 (S : 1/2 · 1/1)





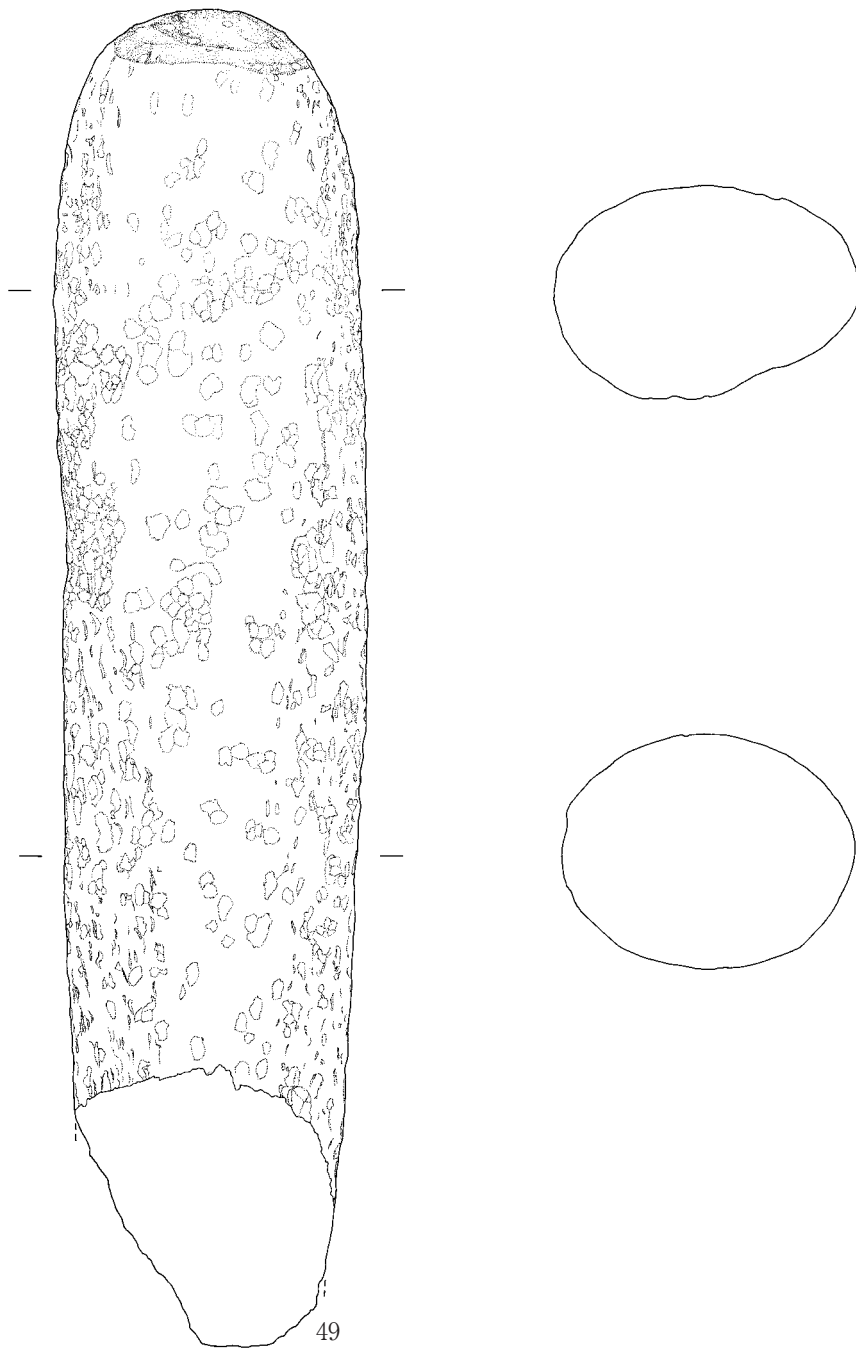


Fig.159 4 D区出土石器 (S : 1/2)

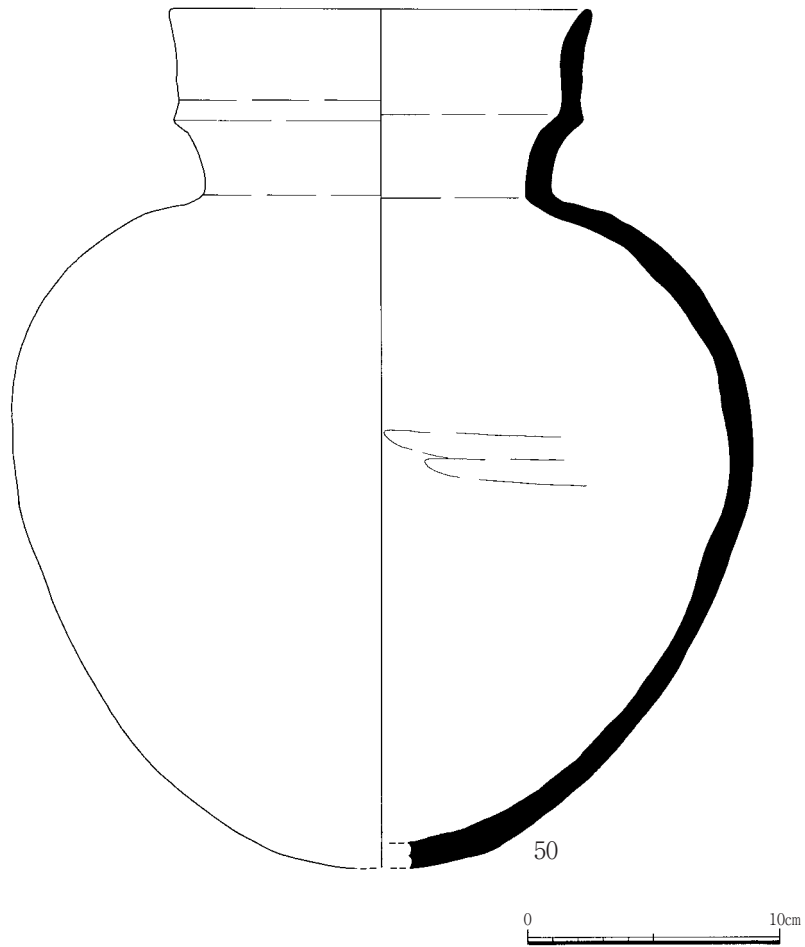


Fig.160 4D区出土土器7 (S : 1/3)

(5) 鉄製品

ⅢB層出土鉄製品1点, ⅢA層出土鉄製品1点を図示した。

ⅢB層出土鉄製品 (Fig.162-54)

54はたがねと考えられる。方柱状を呈し, 基部には使用に伴う潰れ(?)がみられる。

ⅢA層出土鉄製品 (Fig.162-53)

53は袋状鉄斧である。

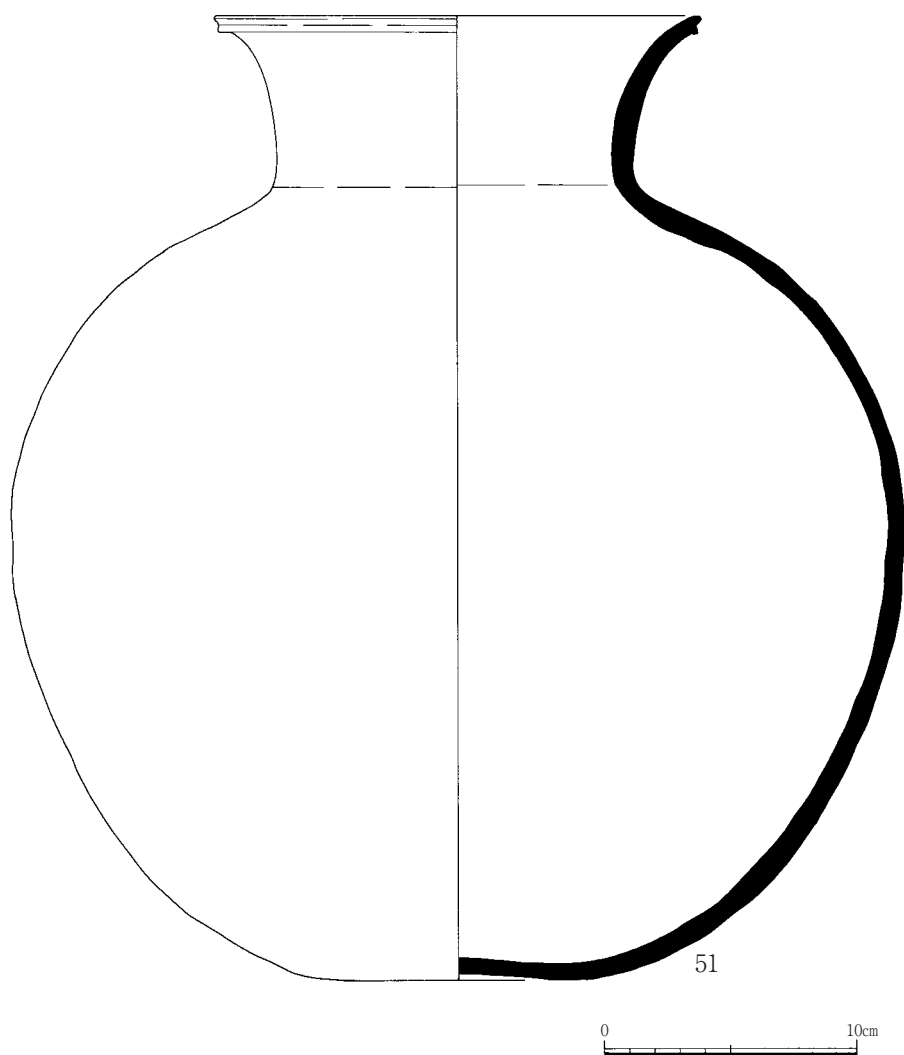


Fig.161 4 D区出土土器8 (S : 1/3)

(6) 玉類

Ⅲ B層出土玉類7点, Ⅲ A層出土玉類4点, 表採玉類1点を図示した。

**Ⅲ B層出土玉類 (Fig.163—55~57・59・61・63・64)**

55は子持勾玉である。蛇紋岩製でほぼ完形である。腹部1・背部2・両側部各1の勾玉状小突起を形成する。表面には研磨痕が顕著にみられる。

56・57は勾玉である。56は縦方向に約半分が欠損する。蛇紋岩製か。57は蛇紋岩製で、完形品である。全面が平滑面を呈する。

59・61・63・64は管玉である。59・61は碧玉製で、ほぼ完形である。63は碧玉製で、完形品である。64は白玉である。滑石製か。

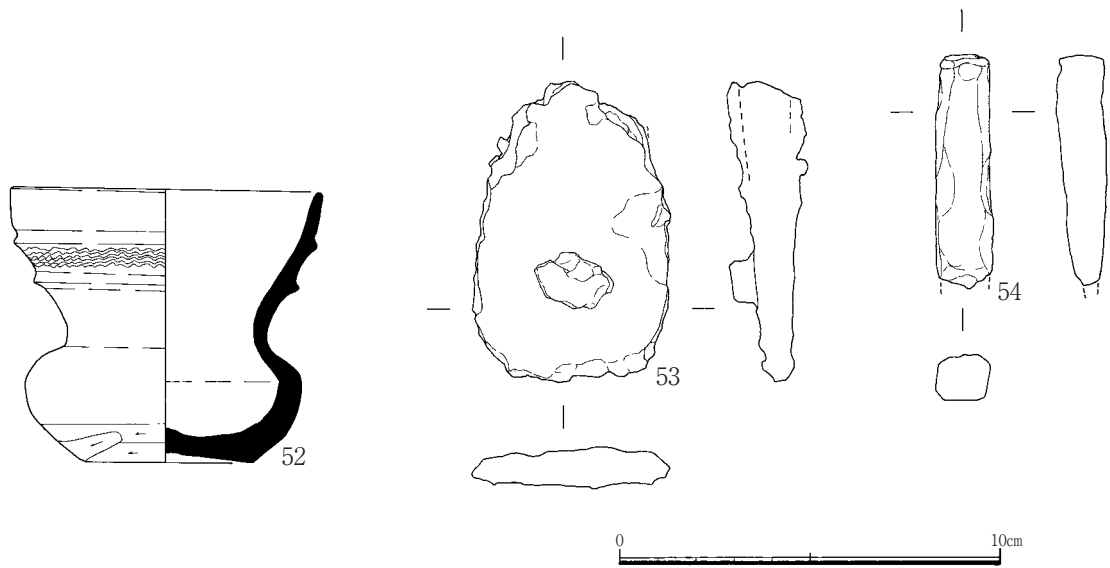


Fig.162 4 D区出土土器・金属製品 (S : 1/2)

Ⅲ A層出土玉類 (Fig.163—58・60・62・65)

58・60・62・65は管玉である。58は碧玉製で、完形品である。60は完形で、碧玉製か。62は碧玉製で、ほぼ完形である。65は碧玉製で、完形品である。

表採玉類 (Fig.163—66)

66は丸玉である。水晶製で、完形品である。

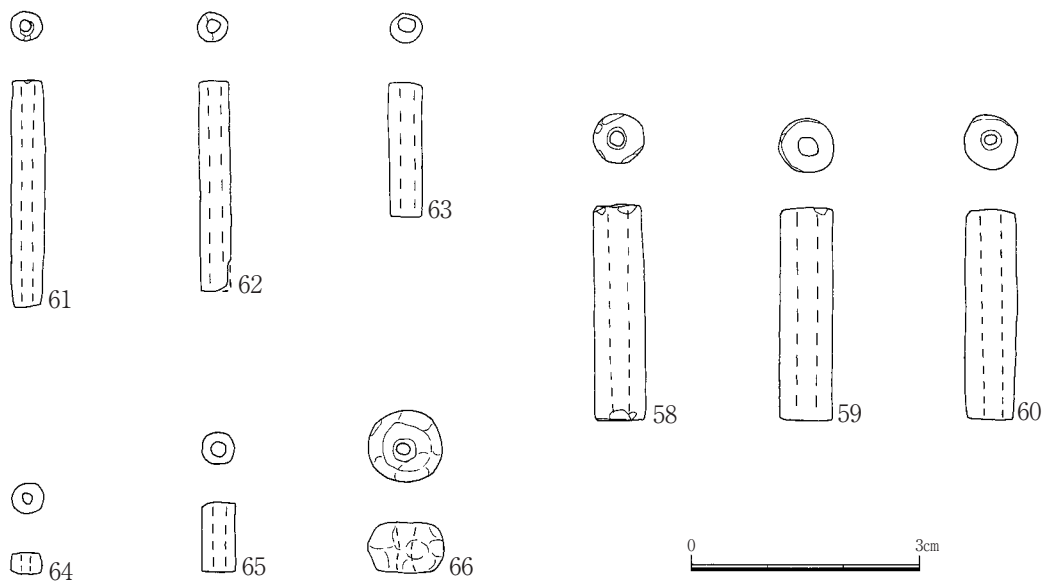
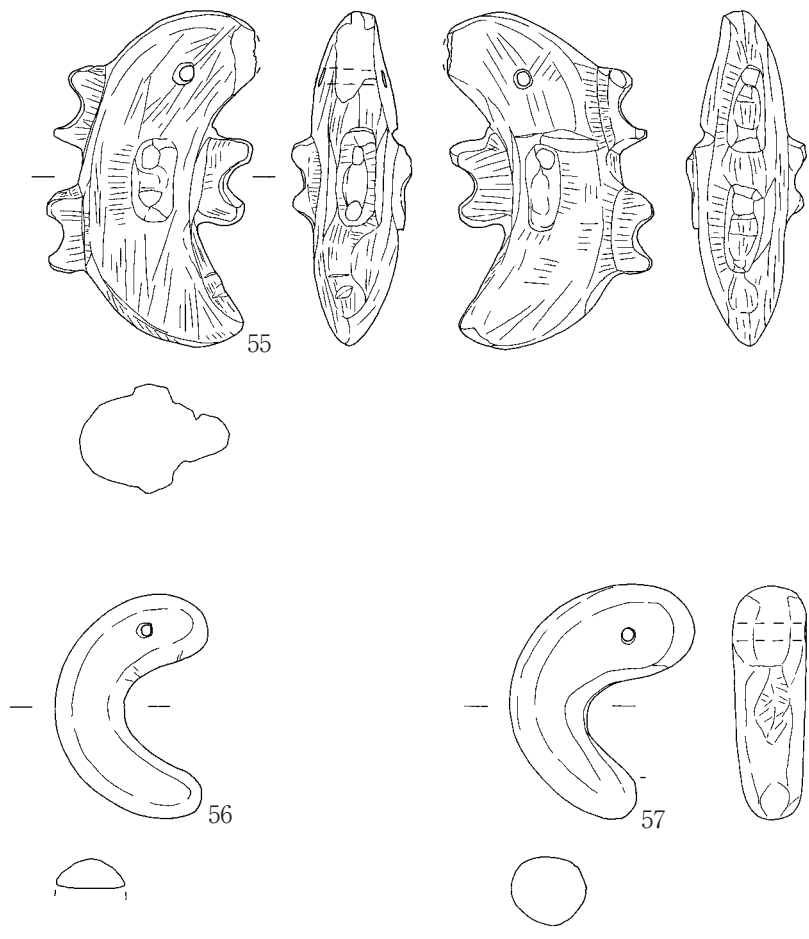


Fig.163 4D区出土玉類 (S : 1/1)

表34 4D区出土木製品計測表

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm)			調整等	樹種	備考
			全長	全幅	全厚			
Fig.146-1	ⅢB層	木鏝	15.20	6.90	5.70	右側縁中央部：抉り部1 A・B面：抉り部周囲：播鉢状に傾斜	ツツジ科スノキ属 シャシャンボ	ほぼ完存
Fig.146-2	ⅢB層	環状製品	5.70	5.70	1.50	円孔1 周縁部：凹面	コナラ属アカガシ亜属	車輪？ 滑車？
Fig.147-3	ⅢB層	板状製品	23.10	12.30	1.50	左右：軸部突出 A面：上側縁：加工痕明瞭	コウヤマキ	ほぼ完存
Fig.147-4	ⅢB層	部材	29.80	7.70	1.40	下側縁中央部：抉り部1	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	ほぼ完存 「蓋」部材？
Fig.147-5	ⅢB層	剣形製品	28.50	3.30	1.20	下端：基部形成 鏃あり	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	祭祀関連？
Fig.147-6	ⅢB層	剣形製品	25.70	3.45	0.90	下端：基部形成	コウヤマキ	祭祀関連？
Fig.147-7	ⅢB層	剣形製品	17.00	4.10	0.80	A面：下端：切断痕？	コウヤマキ	祭祀関連？
Fig.147-8	ⅢB層	板状製品	31.50	3.80	0.70	右側縁：突出部	コナラ属アカガシ亜属	刀形製品？
Fig.148-9	ⅢB層	舟形製品	34.10	4.30	2.10	A面：上端部：凹部1 下端部：段1	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	
Fig.148-10	ⅢB層	舟形製品	18.30	3.00	1.70	A面：上端部：凹部1 下端部：段1	スギ	完存
付図2-11	ⅢB層	角材状製品	128.10	7.30	3.60	上端：細く削り出し	ヒノキ科ヒノキ属	完存？ 側面～B面：焦化あり 部材？
付図2-12	ⅢB層	板状製品	79.25	4.45	1.00	孔15 下端：両側縁：抉り部各1	ヒノキ科ヒノキ属	部材？
Fig.149-13	ⅢB層	板状製品	32.80	17.50	2.20	方形孔2 上端：尖る。表裏2面構成	ヒノキ	
Fig.149-14	ⅢB層	板状製品	16.00	11.30	1.95	方形孔1 A面上端部：横位切り傷2、加工痕多 B面：加工痕あり	コウヤマキ	B面～側面：焦化・焼 失あり
Fig.149-15	ⅢB層	板状製品	34.30	13.80	1.90	下側縁中央部：突出部形成	ガマズミ属	
Fig.150-16	ⅢB層	板状製品	17.00	5.70	2.50	方形孔1 上端：V字状切込み 右側縁：段1 下端：切断面、1面構成	ヒノキ	ほぼ完存 部材？
Fig.150-17	ⅢB層	棒状製品	13.10	2.00	1.30	A面左半部：縦位凹部1 下端：切断面、1面構成、尖る	スギ	
Fig.150-18	ⅢB層	円板状製品	7.70	7.10	2.30	B面：凹面	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	完存 笠形？
Fig.150-19	ⅢB層	円板状製品	9.50	8.80	1.70		ヒノキ科アスナロ属	ほぼ完存
付図2-20	ⅢA層	棒状製品	162.20	4.30	3.80	上下端：加工痕、多面構成、尖る 上下端部以外：素材面？	アワブキ属	柄？、担ぎ棒？
Fig.151-21	ⅢA層	剣形製品	19.90	3.20	1.10	片刃状	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	刀形？ 祭祀関連？
Fig.151-22	ⅢA層	剣形製品	15.40	2.80	0.90	B面：不整面	スギ科スギ属スギ	祭祀関連？
Fig.151-23	ⅢA層	剣形製品	12.60	2.50	0.65	上端：削り出し、尖る	サワラ	祭祀関連？
Fig.150-24	ⅢA層	人形？	11.20	2.80	1.50	上端部：尖頭状 左右両側縁部：抉り部各1、加工痕明瞭 A面：凹部あり、繫縛痕？	エゴノキ属	
付図2-25	ⅢA層	棒状製品	50.80	5.50	4.80	加工痕明瞭、多面構成 下端：切断痕、切り傷多	クスノキ科	
Fig.151-26	Ⅲ層	底板	30.70	12.30	2.00	右側面：木製釘1	サワラ	
Fig.151-27	Ⅲ層	板状製品	35.50	11.70	2.50	孔1（楕円形～方形） 加工痕不明瞭	コウヤマキ	
Fig.151-28	Ⅱ層	剣形製品	31.70	3.10	1.70	下端：基部形成 表面：平滑、手擦れ？	コウヤマキ科コウヤマキ属 コウヤマキ	祭祀関連？

表35 4D区出土土器観察表

挿入番号	出土地点 層位	器種 器形 部位	法量 (cm)	文様・調整 外面/ 内面 その他の部位	色調 内面 外面 断面	胎土	備考
Fig.152-33	IVB層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	口径 24.20 残高 11.60 胴径 25.20	刻目突帯貼付1、ナデ、押圧、ヘラナデ、ケズリ、ナデ(粗い)/ナデ、押圧、ヘラナデ	にぶい黄橙 10YR 6/3 灰黄褐 " 5/2	石英、砂岩 長石、千枚岩?	外面: タール、おこげ 内面: スス、黒斑? 縄文晩期 年代測定試料 付編3 1-7283 付編6 KCM6
Fig.152-34	IVB層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 6.70	刻目突帯貼付1、条痕、ナデ 条痕 口縁端部外端: 刻目	暗灰 N 3/0 灰黄 2.5Y 7/2	石英、長石 チャート	外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.152-35	IVB層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	残高 4.30	山形沈線2、沈線2、ナデ、押圧 半截竹管押引文1段、ナデ、押圧 口縁端面: 刻目	灰黄褐 10YR 5/2 " " 4/2	石英、長石 砂岩	外面: 黒斑あり、ター ル、スス、おこげ少 縄文晩期
Fig.152-36	ベルトD1 IVB1層	縄文土器 深鉢	口径 31.70 残高 28.90 胴径 32.20	条痕、ナデ ナデ、押圧 口縁端面: 刻目	黒 2.5Y 2/1 明赤褐 5YR 5/6	石英、長石 チャート	外面: 黒斑あり 内面: 黒変? 縄文晩期
Fig.153-37	ベルトD1 IVB2層	縄文土器 深鉢	口径 36.80 器高 44.90 胴径 37.30 底径 3.20	条痕、ナデ ナデ、押圧 口縁端面: 刻目(木目庄痕) 底面: ナデ(同心円状)	黒 5Y 2/1 灰 " 5/1	砂岩	凸状の丸底 外面: 黒斑あり 内面: 黒変 縄文晩期
Fig.154-38	IVB層	縄文土器 深鉢	口径 34.80 残高 33.00 胴径 36.50	条痕 ナデ、押圧 口縁端部内端側: 刻目	灰黄 2.5Y 7/2 にぶい黄橙 10YR 6/4	石英、砂岩 チャート	外面: 黒斑あり 39と同一体? 縄文晩期
Fig.154-39	IVB層	縄文土器 深鉢 底部片	残高 12.80	条痕、押圧 ナデ、押圧	浅黄 2.5Y 7/3 " " 6/2	石英、砂岩 チャート	丸底? 外面: 黒斑あり 内面: スス、ター ル 38と同一体? 縄文晩期
Fig.155-40	IVB層	縄文土器 深鉢	口径 36.50 残高 31.50 胴径 34.80	ケズリ~ナデ(ケズリ状)、押圧、条痕 ナデ、押圧、接合痕一部明瞭 口縁端部外端側: 刻目	灰 5Y 4/1 灰黄 2.5Y 7/2	石英、チャート 長石	外面: 黒変、スス 内面: スス、ター ル(お こげ) 縄文晩期 年代測定試料 付編3 1-7317
Fig.156-41	IVB層	縄文土器 深鉢	口径 34.50 残高 24.00 胴径 30.60	条痕 ナデ、押圧 口縁端部外端側: 刻目	黄灰 2.5Y 5/1 " " 5/2	長石、石英	外面: 黒斑あり、スス、 ター ル 内面: スス、ター ル 縄文晩期
Fig.156-42	IVB層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	口径 28.20 残高 10.60	条痕(木目状) ナデ、押圧、条痕? 口縁端面: 「擬縄文」の刺突	灰白 2.5Y 8/2 にぶい黄橙 10YR 7/3	石英、チャート 砂岩、長石	外面: スス、ター ル、お こげ 縄文晩期 年代測定試料 付編3 1-7207 付編6 KCM2
Fig.156-43	IVB層	縄文土器 深鉢 胴~底部片	残高 10.00 底径 4.20	条痕、押圧、ナデ ナデ、押圧 底面: ナデ、粒状庄痕	灰黄褐 10YR 6/2 褐灰 " 4/1	石英、長石	平底 外面: 黒変、スス 内外面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.156-44	IVB層	縄文土器 深鉢 口縁~胴部片	残高 8.85	ナデ、押圧、条痕 ナデ、押圧 口縁端面: 刻目	にぶい黄橙 10YR 7/3 にぶい橙 7.5YR 7/4	チャート、石英 長石	外面: スス、ター ル 内面: 黒斑あり 縄文晩期
Fig.157-45	IVB層	縄文土器 鉢	口径 23.60 残高 7.75	条痕、ナデ ナデ	にぶい橙 7.5YR 7/3 にぶい黄橙 10YR 6/3	砂岩	外面: スス、おこげ 縄文晩期 年代測定試料 付編3 1-7329
Fig.157-46	IVB層	縄文土器 浅鉢	口径 33.60 残高 13.10 胴径 33.90	ミガキ、沈線1、半円状貼付+弧状凹線、ナ デ、縦位隆帯貼付2 /沈線状凹部1、ミガキ、ヘラナデ、ナデ 口縁端部: 鱗状突起、波頂部突出	褐灰 10YR 5/1 灰黄褐 " 6/2	長石、石英	波状口縁 波頂部4? 外面: スス、ター ル 内面: 黒変、ター ル? 縄文晩期
Fig.160-50	III B層	土師器 壺	口径 16.20 器高 33.70 胴径 29.20	ヘラナデ、ナデ(丁壺)、ナデ ヘラナデ、ナデ(丁壺)、ナデ(ケズリ状)、 ナデ	にぶい橙 7.5YR 7/3 " " 7/4	砂岩、石英	ほぼ完存 丸底 外面: 黒斑あり
Fig.161-51	III B層	須恵器 壺	口径 18.90 器高 38.20 胴径 35.20 底径 8.60	突帯1、ナデ、押圧 ナデ、押圧 底面: ナデ 肩部外面: 自然釉発色	灰 7.5Y 6/1 " " "	石英 砂粒多	完存 平底(凹み底)
Fig.162-52	III B層	須恵器 壺	口径 8.15 器高 7.20 胴径 7.30 底径 4.45	突帯2、櫛描波状文1段、回転ナデ、ケズリ 回転ナデ 底面: ナデ、押圧 内外面: 自然釉発色	灰 5Y 6/1 灰白 N 7/	石英	完存 平底(凹み底)

表36 4D区出土土製品観察表

挿図番号	出土層位	器種	法量 (cm, g)				調整等	色調	A面 B面	胎土	備考
			全長	全幅	全厚	重量					
Fig.158-47	IV B層	土偶	18.20	17.50	7.30	490.00	正面：目（ヘラ描き）、鼻、耳（押圧、ナデ）、腕（隆帯、肘折り胸前で対向）の各表現、ナデ、押圧 背面：結髪（円形隆起部分）の表現、ナデ、押圧	灰黄褐 にぶい橙	10YR 6/2 7.5YR 6/4	粗砂粒多	頭～胸部 中美品 内部の粘土：出土時白濁・液状、洗浄後流失 縄文晩期
Fig.158-48	IV A層	土製耳飾り	2.50	1.60	1.60	5.70	押圧、ナデ 左右両側面：渦状沈線（左回り）、中央：刺突1		/ /		ほぼ完存 縄文晩期

表37 4D区出土石器計測表

挿図番号	出土層位	器種	法量 (cm, g)				調整等	石材	備考
			全長	全幅	全厚	重量			
Fig.159-49	III B層	石棒	35.40	8.30	6.20	3200.00	A面：敲打整形痕、風化凹部多 B面：自然面？ 先端部：研磨？、平滑面 両側縁：敲打整形多	結晶片岩	縄文後～晩期？

表38 4D区出土鉄製品計測表

挿図番号	出土層位	器種	法量 (cm, g)				形状・技法等	備考
			全長	全幅	全厚	重量		
Fig.162-53	III A層	袋状鉄斧	8.00	5.20	2.10	140.20		全面錆化、赤変 A面：刃部：土器片付着
Fig.162-54	III B層	たがね？	5.20	1.50	1.35	32.90	方柱状 基部：使用に伴う潰れ？	全面錆化、固結土付着

表39 4D区出土玉類計測表

挿図番号	出土地点 層位	器種	法量 (cm, g)					調整・技法等	石材	備考
			全長	全幅	全厚	孔径	重量			
Fig.163-55	III B層	子持勾玉	4.45	2.75	1.60	—	16.10	腹部1、背部2、両側部各1の子勾玉 研磨痕多	蛇紋岩	ほぼ完存
Fig.163-56	III B層	勾玉	3.00	2.00	0.40	—	2.70	腹部：研磨痕	蛇紋岩？	縦方向に約半分欠損
Fig.163-57	III B層	勾玉	3.10	2.45	0.95	—	7.50	腹部：研磨痕 全面：平滑面	蛇紋岩	完存
Fig.163-58	III A層	管玉	2.90	0.70 (直径)	—	0.25	2.00	両側穿孔 上下両端部：小剥離痕、整形？	碧玉	完存
Fig.163-59	III B層	管玉	2.80	0.70 (直径)	—	0.25	2.40	上端部：小剥離、欠損？	碧玉	ほぼ完存
Fig.163-60	III A層	管玉	2.80	0.70 (直径)	—	0.30	2.30	両側穿孔？	碧玉？	完存
Fig.163-61	III B層	管玉	3.00	0.45 (直径)	—	0.20	1.00		碧玉	ほぼ完存
Fig.163-62	III A層	管玉	2.80	0.40 (直径)	—	0.20	0.50	両側穿孔？	碧玉	ほぼ完存 風化進行、脆弱
Fig.163-63	III B層	管玉	1.80	0.45 (直径)	—	0.20	0.50		碧玉	完存
Fig.163-64	III B層	印玉	0.30	0.40 (直径)	—	0.15			滑石？ (蛇紋岩？)	管玉欠損品？ 完存？
Fig.163-65	III A 2層	管玉	0.95	0.45 (直径)	—	0.20	0.20		碧玉	完存 風化進行？
Fig.163-66	表採	丸玉	0.70	1.00 (直径)	—	0.30	0.90	両側穿孔 表面：小剥離	水晶	完存 小玉？



## 付編 1 居徳遺跡群出土の動物遺存体について

丸山真史・宮路淳子・松井章

### I 概要

報告する動物遺存体は、高知県土佐市に所在する居徳遺跡群の4D区廃棄物堆積層（窪地）から出土したものを主体とし、破片数で2,900点を数える。4D区は埋没した丘陵の裾部にあたり、その頂部が削平され、裾から谷部へ傾斜する窪みに地下水を含む層が厚く堆積する。丘陵上に集落があったと推定され、そこから、斜面に生活ゴミを投棄した結果、動物遺存体を包含する層が形成されたと考えられる。包含層は泥炭状の黒色土層であり、湿地環境にあったため、有機物が良好な状態で保存された。出土した骨は厚く、堅固な部分で、骨格の中でも遺存しやすい部位に集中する。集落で飼われていたイヌや、集落周辺に出没するタヌキなどのスカベンジャー（死肉漁りの動物）も食べなかったものが多い。眼前に広がっていたであろう湿地帯に飛来する鳥類、仁淀川や太平洋において豊富に捕獲できたであろう貝類や魚類はごく少数であった。このような特徴は、縄文時代後期の兵庫県淡路島佃遺跡や弥生時代中～後期の長崎県壱岐原の辻遺跡でも見られ、丘陵上の堅穴住居址で魚骨が多く出土する一方、丘陵を取り巻く環濠で検出された貝塚部では、シカ、イノシシ、イヌが集中し、廃棄場所の区別があったことが知られる（片山・松井・宮路1998、茂原・松井1995、松井1995）。

4D区から出土した動物遺存体は、縄文時代晩期中葉から後葉を主体とし、4C区の旧河道跡、確認調査TP-23区も縄文時代晩期中葉から後葉、1C区、3A区では弥生時代から古代の遺物も若干含まれる。多くの資料には、骨に含まれるリン分と地下水に含まれる鉄イオンが化合して、深青色の結晶であるピビアナイトが析出している。そのため骨は、亀裂や膨隆が生じたり、他の鉱物質と化合して骨の表面を覆い、同定や解体痕等の観察が困難なものも多い。

このような破片のうち、種、部位を同定することができたのは927点で、全体の約3分の1にとどまる。最多の出土量を示したイノシシとニホンジカは、ともに計434点と両種を併せて全体の90%を占める。両種に続き、イヌ65点、サメ類20点、ニホンザル12点、ウマ4点、さらにヘダイ、タヌキ、オオカミ、ノウサギなどが若干ずつ出土している（表1）。

### II 動物種ごとの出土概要

#### a 魚類

##### サメ類

4D区のIVB・IVC層（縄文晩期中葉～後葉）より、椎骨19点、表採で椎骨1点の計20点が出土している。椎体横径は、最小のもので19.2mm、最大のもので31.5mmを測り、大型のサメ類が多い。そのうち1点は、椎体の中心部に人為的な穿孔が認められる。

##### ヘダイ

4D区のIVB層（縄文晩期中葉～後葉）より、歯骨2点（左1右1）が出土している。現生標本との比較から、少なくとも体長30cm以上の個体である。成魚は沿岸沖合の岩礁域に生息し、若年魚の中には内湾に進入するものもある。西日本の縄文貝塚で、しばしば見られる。

## ブダイ科の一種

4 D区のIVB層（縄文晩期中葉～後葉）より、前上顎骨1点（左1）、下咽頭骨1点、計2点が出土している。ブダイの仲間には数種類が知られ、ナガブダイ、アオブダイ、イロブダイなどの現生標本と比較したところ、前上顎骨はイロブダイに近似するが、他のブダイとの比較ができなかったことから科までの査定でとどめる。

## b 鳥類

### ワシタカ科の一種

4 D区のIVC層（縄文晩期中葉～後葉）より、尺骨1点（右1）が出土している。トビより若干大きな個体である。解体や受熱などの加工痕は認められない。縄文後晩期の岩手県の貝鳥貝塚から尺骨に穿孔を施した垂飾品や（金子1971）、趾骨などに穿孔した骨角器が出土している。愛媛県江口貝塚からも縄文中期主体の貝層から出土しており、食料や矢羽根以外に何らかの呪術的な扱いがあったことが想定されている（松井1993）。

### 鳥綱の一種

1 C区IVD層（縄文晩期末～弥生前期）より、上腕骨1点（右1）、尺骨と思われるものが1点（不明1）出土している。骨端部が欠損しており、種の同定には至らなかった。いずれも強く火熱を受け、白色を呈する。大きさは、コガモより若干小さい。同区のIV層（弥生前期前葉～中葉）からも、鳥綱の一種と思われる四肢骨が出土している。骨端部が欠損しているため種、部位ともに同定には至らなかったが、骨の表面に数条の切傷が見られる。

## c 哺乳類

### イノシシ

確認調査TP-23区のIX～X層、XI層（縄文晩期中葉～後葉）より、上顎骨3点（左1右2）、遊離歯2点、中手骨もしくは中足骨2点（不明2）、距骨1点（左1）、計8点が出土している。4 C区のSR2のII層（縄文時代晩期中葉～後葉）より、下顎骨（左右結合1）、尺骨（左1）が、それぞれ1点ずつ、計2点が出土している。1 C区のIVD層（縄文晩期末～弥生前期）より、中手骨もしくは中足骨1点（不明1）、後頭骨1点、遊離歯11点、計13点が出土している。3 A区では、表採で遊離歯1点、ⅢA層より遊離歯2点、ⅢB層（弥生時代後期末～古墳中期）より遊離歯1点、VA層（縄文晩期末～弥生前期）より肩甲骨（右1）、寛骨（右1）、距骨（右1）が、それぞれ1点ずつ出土している。

出土イノシシの多くが、4 D区のIVB層、IVC層（縄文晩期中葉～後葉）から出土している。下顎骨55点（左25右14左右結合11不明3）、上顎骨を除く頭蓋骨41点（左18右5左右4不明14）、上腕骨38点（左19右17不明2）、上顎骨30点（左8右19左右結合1不明2）、距骨20点（左10右9不明1）、肩甲骨20点（左11右8不明1）など、計301点を数える。出土資料には敲打痕や解体痕が見られるものもある。犬歯のエナメル質と思われる破片に、おそらく研磨による溝が形成されているものがあるが、明確ではない。乳歯段階、下顎第二、第三、第四前臼歯が萌出中、下顎第三後臼歯が未萌出、萌出中の幼、若獣が7個体ある（表3）。

イノシシの臼歯のエナメル質を観察すると、横方向に隆起線が見える例が存在する（図1）。これ

は成長期に栄養障害などで成長が停止するエナメル質形成不全と呼ばれる現象である。キース・ドブニーはこれが家畜化の指標になると考えており (Dobney 2000)、縄文貝塚から出土するイノシシのなかにもこのような症状を示す例が少なくない。

### ニホンジカ

確認調査TP-23区IX層、X層、XI層 (縄文晩期中葉～後葉) より、枝角2点、脛骨 (左1)、中足骨 (不明1)、踵骨 (左1)、距骨 (左1)、遊離歯がそれぞれ1点ずつ、計7点が出土している。3A区のⅢA層 (古墳前期～古代) より枝角5点、尺骨1点 (右1)、計6点が出土している。また、同区ⅢB層 (弥生時代後期末～古墳中期) より、下顎骨 (不明1)、指骨 (不明1) が、それぞれ1点ずつ出土している。4C区、SR2のⅡ層、Ⅲ層 (縄文晩期中葉～後葉) より、橈骨2点 (左1右1)、枝角、頭蓋骨、前上顎骨 (左1)、下顎骨 (左1)、中手骨 (左1)、手根骨 (右1)、脛骨 (左1)、中足骨 (右1)、足根骨 (左1)、遊離歯がそれぞれ1点ずつ、計12点が出土している。同区SR3のⅢ層 (縄文晩期中葉～後葉) より、中手骨 (右2)、大腿骨 (左1不明1) が2点ずつ、環椎、中足骨 (不明1)、踵骨 (左1) が1点ずつ、層位不明で指骨が1点、計7点が出土している。また、遺物包含層 (J7-19) のⅢB層より指骨1点が出土している。遺物包含層出土の指骨は、強く受熱しており白色に変化している。

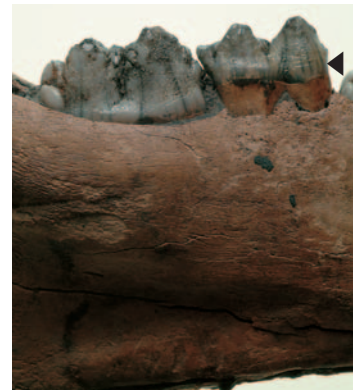


図1 エナメル質形成不全

4D区のⅣB層、ⅣC層 (縄文晩期中葉～後葉) より、枝角57点、距骨41点 (左19右19不明3)、上腕骨38点 (左21右15不明2)、橈骨28点 (左16右12)、脛骨28点 (左10右15不明3)、下顎骨23点 (左13右6不明4) など、計394点が出土している。下顎臼歯の咬耗段階による年齢査定では (大泰司 1980)、第三後臼歯が完全に萌出した生後3年以上の成獣が7点、それ未満の幼若獣が5点である。枝角1点に骨鏃の未製品と思われるものが、2点に工具の柄と思われるものが、肩甲骨1点に卜骨と思われるものがある。大腿骨4点には、擦切りによって切断された痕跡が見られる。このほか、解体や受熱の痕跡が見られるものが若干出土している。骨角器の素材として、頻繁に利用されるニホンジカの中手骨、中足骨の破片が地区、層位を問わず少ない。

### カモシカ

4D区のⅣB層 (縄文晩期中葉～後葉) より、下顎骨1点 (右1) が出土している。3A区のⅤB層 (縄文晩期末～弥生前期) より、カモシカと思われる環椎が1点出土している。落葉広葉樹林帯の低山帯から亜高山帯にかけての山岳、丘陵地帯の斜面を好む。

### イヌ

確認調査TP-23区のXI層 (縄文晩期中葉～後葉) より、下顎骨2点 (右2) が出土している。このうち1点は、下顎第三後臼歯が未萌出の幼獣である。

4D区のⅣB層、ⅣC層 (縄文晩期中葉～後葉) より、下顎骨18点 (左11右7)、上腕骨7点 (左4右3)、上顎骨6点 (左3右3)、脛骨6点 (左3右3) など、計56点が出土している。イノシシ、ニホンジカに次いで多く出土した種である。下顎骨1点に歯周病を患った痕跡が、上腕骨1点に解体痕が、脛骨1点に火熱を受けた痕跡が認められる。また、脛骨近位端が未癒合の若獣がある。この他、イヌと思

われる下顎骨、橈骨、椎骨が計7点出土しているが、細片となっているため同定には至らなかった。計測の結果、脛骨1点は、長谷部の分類の中小型に属し（長谷部1952）、上腕骨、大腿骨など、全て縄文犬の範疇に含まれる。

#### オオカミ

4 D区のIV B層（縄文晩期中葉～後葉）より、脛骨2点（左1右1）、椎骨1点、計3点が出土している。左脛骨には解体痕が認められる。また、オオカミと思われる大腿骨1点（左1）、脛骨1点（右1）が出土している。大腿骨には解体された痕跡が見られる。これまで四国では、サガワオオカミが著名であるが、縄文遺跡では愛媛県上黒岩洞穴からオオカミ、またはヤマイヌの出土例が報じられるが、出土遺跡数は多くない（江坂・西田1967）。

#### タヌキ

4 D区のIV B層（縄文晩期中葉～後葉）より、下顎骨2点（左2）が出土している。解体や受熱などの痕跡は見られない。現代でも人間の集落近くに生息し、残飯を漁ることが珍しくない。縄文時代でも量は少ないが普通に出土する種である。

#### ニホンザル

3 A区のV B層（縄文晩期末～弥生前期）より、頭蓋骨1点が出土している。解体や受熱などの痕跡は見られない。

4 D区のIV B層（縄文晩期中葉～後葉）より、上腕骨3点（左1右2）、頭蓋骨、下顎骨（左1右1）、大腿骨（右2）が2点ずつ、橈骨（右1）、遊離歯が1点ずつ、計11点が出土している。また、ニホンザルと思われる頭蓋骨1点が出土しているが、確証が得られなかった。縄文、弥生遺跡からの出土は珍しくなく、愛媛県江口貝塚でもニホンザルが多く出土している（松井1993）。

#### ノウサギ

4 D区のIV B層（縄文晩期中葉～後葉）より、大腿骨2点（左2）が出土している。

確認調査T P 23のⅨ～Ⅹ層（縄文晩期中葉～後葉）より、中手骨もしくは中足骨1点（右1）が出土している。ノウサギは、食肉だけでなく、毛皮も盛んに利用されたであろう。

#### ムササビ

1 C区のIV層（弥生前期前葉～中葉）より、大腿骨1点（左1）が出土している。大腿骨の遠位部を丁重に擦り切って切断していることから、食肉や毛皮だけでなく、鳥骨製の管玉のように骨角器の材料として利用したのであろう。

#### テン

4 D区のIV B層より、下顎骨1点（右1）が出土している。解体痕や火を受けた痕跡は見られないが、ノウサギやムササビ同様に、食肉以外に毛皮としても利用されたであろう。

#### ツキノワグマ

4 D区のIV B層（縄文晩期中葉～後葉）より、大腿骨1点（右1）が出土している。骨幹部に、斧や鉞のような道具で叩かれたと思われる、直線的で深い傷が見られる。

#### ウシ

3 A区のⅢ A層（古墳前期～古代）より、遊離歯1点（左1）が出土している。

## ウマ

3A区のⅢA層（古墳前期～古代）より、遊離歯4点（左1右1）が出土している。

## Ⅲ 骨角器

### ヘラ状骨器？（図12-1、図19-26）

4D区のⅣB層より、ヘラ状骨器と思われるものが1点出土している。残存最大長が47.8mm、最大幅が50.3mmを測る。大型のクジラ類の肋骨を利用したもので、縦に割いて片面に自然面を残し、内面の海綿質を削って調整するが、その調整は粗雑で未製品の可能性もある。片方の端部を内面、外面ともに研磨して剣先状に整形するが、他端は荒い調整のままで整形はほとんど見られない。クジラ類の椎骨や肋骨などが縄文貝塚から出土することは少なくないが、原材が大きいためか、破損品、未製品が多く、製品としての原形をうかがえる例は多くない。

### 工具の柄（図12-2、図19-20・21）

4D区のⅣB層より、工具の柄と思われるものが3点出土している。鹿角製の2点は、いずれも特有の緩やかな湾曲を残し、一端が破損する。その内1点は、鹿角の表面は研磨され、鹿角特有の凹凸を除去し、内部が穿孔され貫通している。

もう1点は、形態から類推して、ニホンジカの大腿骨骨幹部と思われる。全体にビビアナイトが析出し、その表面を石灰質が取り巻き、加工痕の観察が難しい。残存する最大長は83.5mm、太さは最大径30mm内外、最小部で23mm内外を測る。太くなる一端を破損しているが、他端は丁寧な擦切りによって丸みを帯びる。大腿骨の骨幹部の内部は空洞であり、ここに工具を差し込んで、上記の鹿角と同様に工具の柄とした可能性がある。しかし、この部位を利用した工具の柄は、朝鮮半島にも、国内の弥生遺跡にも例を見ない。

このような工具の柄に石器が装着されていた例は寡聞にして知らず、実際の出土遺物は、すべて金属器である。鳥取県青谷上寺地遺跡では、弥生後期の刻み入りの鹿角製の柄に、鉄器の鑿が装着された状態で出土している（鳥取県教育文化財団2001）。しかし、古墳時代から奈良時代、平安時代にかけては、刀子が装着されている例が多い。韓国の原三国時代の郡谷里貝塚や、無文土器、青銅器時代の各地の遺跡でも、刀子そのものが装着されていたり、刀子様の薄い刃を持つ柄が残存して装着された例が多い（木浦大學博物館、全羅南道・海南郡1987など）。

本例に金属器が装着されていたとすると、末端まで金属器の基部を露出させていた可能性がある。このような骨角器は、縄文時代にはなく、弥生時代の始まりと共に大陸から伝播した文化的要素の一つと考えられてきた。本例は、居徳遺跡がこれまでの縄文文化の伝統とは異なる系譜に属することを傍証する一例であろう。

### ト骨？（図12-3、図17-9）

4D区のⅣB層より、ト骨と思われるニホンジカの肩甲骨1点が出土している。ト骨は、亀甲、シカやイノシシなど、後にはウシの肩甲骨や肋骨に焼灼をあてて生じる点状の焦げた痕跡や鋭利な刃物で素材の表面を削るもの、円形、あるいは方形の切り込み（鑽）を持つものと定義されるが（神澤1976）、本例には焼灼痕や削り、切り込みはない。しかし、骨体の薄い部分を末端から関節部へと割

れ口が延び、その割れ方は弥生時代の卜骨に類似する。卜占は、骨や亀甲を焼き、そのひびや割れ方により吉凶を占う儀礼で、弥生時代に朝鮮半島経由で日本列島に伝播したと考えられ、近現代まで行われる。その痕跡の卜骨は、縄文時代にその例を見ない。本例を卜骨と断定することは難しく、形態から卜骨の可能性を指摘するに留める。

#### 装飾品 (図12-4、図19-9) (図12-6、図19-3)

4D区のIVB層より、装飾品が2点出土している。その内1点は、オオカミなど大型食肉類の犬歯を素材とする垂飾品に似るが、穿孔はなく素材も不明である。残存最大長が59.3mm、最大幅が14.0mmを測り、緩やかな弧を描く。左右対称の装飾が施され、全体が丁寧に研磨され、光沢を帯びる。表面に暗茶褐色の部分が見られるが、付着物が明確ではない。

もう1点は、サメ類の椎骨に穿孔したものである。椎体横径35.7mm測り、大型のサメ類である。最大穿孔径7.9mmを測り、穿孔は粗雑で、他に装飾などの加工は見られない。民族例から、耳栓として利用した可能性が考えられる。サメ類の椎骨を利用した垂飾品は、縄文時代、弥生時代を通じて一般的に見られる。

#### 刺突具・骨鏃? (図12-5、図19-11)

4D区のIVB層より、鹿角の先端を加工した刺突具もしくは骨鏃の未製品が1点出土している。1C区のIV層(弥生時代前期前葉~中葉)からは、中手骨もしくは中足骨を素材とする、骨針か骨鏃と思われる骨角器が出土している。残存する長さ18.4mm、厚さ8.49mm、幅6.0mmを測る。残存部は全面が入念に研磨されるが、ニホンジカの中手骨もしくは中足骨の前位面にある縦溝が残り、それを利用していることがわかる。この部位は、日本の動物骨の中でも長く、厚みのある素材を得ることができるため、江戸時代まで骨角器の素材として利用され続ける。本例は、両端部を欠損しているため、骨鏃と断定はできないが、大きさ、断面形状より、その可能性は高い。

## IV 出土動物遺存体に見る加工痕

居徳遺跡から出土した人骨や動物遺存体には、他の縄文、弥生遺跡で例を見ない特徴を持つ傷が多数存在する。これまで観察された骨の傷は、刃部を前後に往復させる切断痕(カットマーク: cut mark)、手斧、鉞のような道具による加撃痕(チョップマーク: Chop Mark)、鑿のように刃を突き立てる刺突痕(Stab Mark)、擦り切り痕(Rub Mark)、鑿などによる抉り痕(Scoop mark)、ヤスリ状の凹凸のある道具で磨く研磨痕(Grinding Mark)、道具使用時の使用痕(Use Ware)などに分類が可能である。筆者らはこれまで、縄文時代から近世までの遺跡から出土した動物骨に残された多くの加工痕を観察し、それぞれ石器や金属器による傷の判別に努めてきた(松井1986、松井・宮路2000など)。本遺跡出土の動物遺存体に見られる傷を分類すると、カットマークは骨16点に傷が18例(以下同様)、チョップマークが16点に18例、刺突痕が15点に55例(人骨を除く。人骨は3点18例)、擦り切り痕6点に6例、抉り痕が1点に2例、研磨痕が3点に3例、貫通痕が1例(人骨にも1例)を観察できた。これまで縄文遺跡で見慣れた石器による傷に加えて、弥生遺跡以降の動物遺存体で観察してきた金属器による傷や、他に類例を見ないが金属器によると思われる刺突痕などがある(表4)。

### a カットマーク

動物の解体に際し、主要四肢骨の近位端、遠位端近くの腱が付着する部分に、長軸に直交する方向で、5mmから10mm程度の比較的短い切り傷が、狭い範囲に集中して観察されることが多い。これは動物解体の際に、筋肉をできるだけ壊さずに取りはずそうとする際に付く傷である（図5、図6）。イノシシの上腕骨遠位部（図4-027）に見るように、腱を刺突（027a, 027-3, 4, 5, 6, 7, 8）や切断した（図4-027-9）痕跡から、縄文、弥生人は動物の骨格の仕組みを良く理解し、できるだけ肉を大きな塊のまま取りはずそうとしたことが分かる。島根県岩見銀山の坑道近くの江戸時代のゴミ捨て場から出土したニホンジカの骨は、解体を行った人間が動物の骨格の構造をよく理解していなかったため、上腕骨骨幹部の中位に鉋、もしくは斧様の刃物を何度も振り下ろし、骨を破壊しながら切断した例がある（松井1999）。

縄文時代の遺跡から出土する動物骨に見られるカットマークを、実体顕微鏡で観察すると、同じ場所を何度も刃部が往復するため、生じた傷は概して丸みを帯び、個々の傷の断面はU字型を呈するものが多い。一方、弥生時代以降の遺跡から出土する動物骨に観察できる傷は、概して直線的で傷の断面はV字形を呈する。この違いは一般的には、前者が石器によるもの、後者が金属器によるものと考えられる。しかし、浅い傷跡の場合、石器でも鋭利なV字形のカットマークを骨に残すことは十分考えられるため、厳密な判別は困難で、今後も研究が必要である。

カットマークが残される行為の目的は、第一義的には腱の切断のためである。これは上腕骨、橈骨などの内側、外側の腱が強固に付着する部分に集中して傷が付けられることから明らかである。特に、上腕骨遠位の内側（図4-027-9）や橈骨近位端（標本番号021）の外側につけられた傷は、鋭利で切り口の断面はV字形を呈する。カットマーク（図4-027-9）は、一本ずつのカットマークが深く、弥生時代以降に見られる直線的で鋭利な傷に類似する。しかし、ニホンジカの中足骨遠位部、前位付近の破片（図5-056）は、長軸に直行する方向に多数の線状痕が見られる（図5-056-1）。これは骨幹部を骨鏃などの骨角器の素材として利用するため、近位端を除去しようとした傷である可能性が高い。

#### **b チョップマーク（加撃痕）**

石製の斧や金属製の鉋、斧などの刃部を対象物に叩きつけた傷である。筆者らのこれまでの経験的な知識では、縄文時代の石斧によるチョップマークは、被加撃面が丸みを帯び、その底面は鈍い。本遺跡出土の骨の表面に残されたチョップマークは、被加撃面が鋭利で平面に近く、底面も直線的であることが指摘できる（図7-009, 010）。また、これまで石器、特に石斧による加撃痕では見たことがなかったが、本遺跡のチョップマークは、V字形の片斜面に刃物の削り痕が残され、もう片面は、加撃により弾け飛んでいる例が多く、これも金属器による加撃の特徴と言えるかもしれない。今後、実験を含めた研究を待ちたい。

#### **c 刺突痕**

他の遺跡では類例を見ない特異な加工痕で、多くの痕跡が爪形を呈する。同一の道具と思われるものも存在する。その中には、骨に突き刺さった深さにより、傷の幅が異なり、傷が深いものは長く、浅いものは短いという特徴がある。刃こぼれの位置も全てに共通するわけではなく、途中で刃部が研ぎ直された可能性が考えられる。爪形という同じ形状の刃物が、人骨と動物の両者に使用され、それ

それぞれの形状が少しずつ異なり、同種の道具が複数あったと想定される。刺突痕は、刃部が爪形と直線、刃こぼれの有無、刃こぼれが一箇所と二箇所といった要素で分類できる（表5）。

イノシシの上腕骨遠位部（図5-027）の場合、上腕の筋肉を取るために、腱の付着する部分に、何度も刺突が加えられたと考えられる。少なくとも15回以上の刺突痕が観察できるが、重複があるため、実際に何回刺突されたのか判断することが難しい。また、上腕の筋肉を得るために近位関節部の内側に、鋭いカットマークが見られることから解体作業の様相が窺える。

人骨の刺突痕は、すべて爪形で、二箇所の刃こぼれが5例、一箇所が12例で、他の例は見られない。概ね、人骨に残された刺突痕は深く、同じ部分に複数回刺突し、1, 2cm間隔で刺突を加えている（図9-J005a, bなど）。いずれも、腱などが付着する部分ではなく、イノシシの上腕骨（図4-027）で見た腱を切断するための傷とは性格が異なる。

#### d 研磨痕

骨の表面に多数の錯綜する線状痕が観察できる破片が、2点出土している。鹿角（図6-052-1）と四肢骨の破片（図6-054-1）で、骨角器の製作時における廃材か破損品であろう。一般的に、縄文、弥生時代以降の骨角器製作の仕上げには、いつの時代も粗い目と細かい目の砥石が使用されたと思われる。本例は粗い目の砥石を利用したと痕跡と考えられる。

#### e 擦り切り痕

長管骨に、全周を巡らせる切れ目を少しずつ入れ、徐々に擦り切り、道具を製作したと思われる例が、4D区のIVB層より4点出土している。いずれもニホンジカの大腿骨であり、近位関節部から骨幹部、遠位関節部から骨幹部にかけて切断され、それぞれ近位端（標本番号020）、遠位端（図8-045a, b）、骨幹部（標本番号042）が残され、直線的で管状の素材が得られる骨幹部を利用したと考えられる。骨を回転させて切断しており、関節部との関係から、安定する位置に据え置いて擦り切ったのであろう。切断部には、線状痕が多数観察できる。ニホンジカと思われる大腿骨骨幹部（標本番号042）は、一端を丁寧に擦り切り、他端は一部を欠損するが、残存部から真っ直ぐに切断されていたことがわかる。この管状の道具も工具の柄として使用された可能性が高い。イノシシの大腿骨にはこのような痕跡はなく、素材の選択があったと思われる。

1C区のIV層（弥生前期前葉～中葉）より出土しているムササビの大腿骨（図8-036）は、骨幹部で切断される。切断面は直線的で鋭利な刃物による切断であろうが、擦痕等が観察できず、切断方法は不明である。上記のニホンジカ大腿骨の切断方法とは異なるであろう。大きさは異なるが、ニホンジカ大腿骨と同様、管状の骨幹部が目的であろう。このような大きさの管状骨では、他の遺跡で鳥骨素材のものが知られ、同様の例として、管玉のような垂飾品などが想定される。

#### f 鏃による貫通痕

他の遺跡では目にする機会が少ない傷であるが、鏃が骨を貫いた痕跡と思われる。ニホンジカの橈骨とヒトの大腿骨に各1点、計2点が存在する。ともに貫通痕の断面は半月形（饅頭形）に近く、本遺跡の弥生時代の層で出土しているニホンジカの中手骨か中足骨を素材とした細身の骨鏃のようなものによる可能性がある。ニホンジカの橈骨（図8-048a, b）の後位面を貫通した鏃は、後位の斜め上方から貫入したものの、前位の骨壁までは貫通せず、橈骨の前位部を骨の内部から突き上げて膨隆



させ、骨は瘤を形成する（図8-048-1）。

人骨の貫通痕は、近位部に刀創痕を持つ大腿骨遠位部（図10-J002）にある。鏃は、この大腿骨遠位部のやや上部、前位面から斜め下に、膝の裏側へ向かって貫入している。膝を射抜く際、鏃が貫通痕の周囲の骨を内側へまくり込ませながら進入したことが観察できる（図10-J002-2、3）。さらに膝の裏へ突き抜ける際、後位面も貫いていることがわかる（図10-J015-6）。貫通痕の断面を観察すると、上記のニホンジカの橈骨と同様に、中手骨か中足骨を利用した細身の骨鏃による可能性が高い。縄文時代の骨鏃にはこのような細身の鏃はないが、朝鮮半島南部の新石器時代の遺跡や、鳥取県青谷上寺地遺跡の弥生時代中期後葉から後期にかけて、多くの細身の骨鏃が出土している（崔2001、鳥取県教育文化財団2001）。同様の素材を用いた骨鏃が正倉院御物に含まれ（後藤守一1940、末永雅雄1941）、その骨鏃の断面も、3例中2例が同様の形状を呈しており、形態が素材に制約を受ける要素の多い骨角器の特徴であろう（図2）。鉄鏃が普及した後、奈良時代に至っても骨鏃が使われ続けたことは、その威力の大きさを示すものであろう。

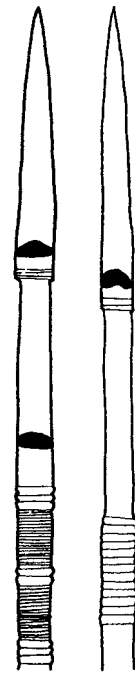


図2 正倉院御物の骨鏃  
（後藤1940より転載）

#### g 人骨の刀創痕

ヒトの大腿骨近位部（図10-J002）、つまり足の付け根付近の切り傷は、鋭い刃物で切りつけられ、骨の裏側にまで達する刀創痕である。この大腿骨に正面の斜め上から刃が振り下ろされた際、管状骨の4分の3あたりまで切れ込んだと思われる。骨幹部を斬り込みながら、途中で刃がとまり、刃を抜いた際、切り残した部分の弾力でその傷がふさがったため、一本の線として観察できる（図10-J002-3、4）。この傷は、骨格の中でも頑丈な部位である大腿骨も一刀両断させることから、日本刀のように重みがある鋭利な刃物によって生じたと考えられる。

## V 考察

遺跡の東側には、仁淀川が流れ、南側の現在沖積平野となっている低地には、遊水池が発達し、さらに南方10km以内には太平洋が広がっている。それにもかかわらず、貝類や魚類、鳥類の出土が少ない。鳥類、魚類遺存体の少なさは、イヌやタヌキなどのスカベンジャーによる食害や4D区の廃棄物堆積層（窪地）とは別に集落内での廃棄をはじめとする食料残渣の処理プロセス（タフォノミー）によって生じた現象と考えられよう。

他の縄文、弥生遺跡と同様に、イノシシとニホンジカの出土が、他種に比べて圧倒的に多く、主要な狩猟対象であり、動物質食料となっていた。散乱状態での出土や食用とされたことが明らかなイヌの出土、ニホンザルなどの出土も当遺跡の特徴であろう。イノシシとニホンジカの出土破片点数は同じであるが、ニホンジカの角を除けば5：4とイノシシが多くなる。いずれも、頭蓋骨、下顎骨、四肢骨が多く出土している。出土したイノシシの下顎歯の萌出、咬耗段階は、乳歯段階、下顎第三後臼歯が未萌出、萌出中の下顎骨が、観察できた個体の約半数を占め、幼、若獣の割合が高い。本遺跡か

ら出土したイノシシの下顎骨の1例は、下顎体が大きいのに比し、歯が小さいという特徴を有し、イノシシの飼養化を示唆する可能性がある。西日本の縄文イノシシの計測値は少なく、それらとの比較など今後の課題となる。また、第一、第二後臼歯にエナメル質形成不全が顕著に見られる。これは成長期に栄養状態の不良と安定によって現れ、このような状態は、人間が関与している可能性が指摘される<sup>1</sup>。なお、骨の保存状態が悪いため、本資料についてDNA分析は行っていない。今後、出土したイノシシを炭素・窒素安定同位体による食性分析などを併用し、イノシシが飼養されていたか、あるいはすでに品種的に野生イノシシと異なるブタが存在したのかDNA分析技術の進歩を待って明らかにしなければならないと考える。

本遺跡で出土したイヌの骨には、解体痕が見られた。縄文時代において、イヌは狩猟を補助する重要な家畜である。愛媛県上黒岩岩陰遺跡では、縄文早期の押型文期に埋葬されたイヌが検出されており、中国・四国地方の縄文人も早くからイヌを飼っていたことが知られる（江坂・西田1967）。本遺跡から出土する哺乳類の骨端部の多くには、イヌによる咬痕が見られ、集落で多くのイヌが飼われていたことは明らかである。出土数もイノシシ、ニホンジカに次ぎ、他の縄文遺跡と比べても多い。埋葬例はなく、全て散乱状態で出土し、解体痕も見られることから、集落に居住した人々は、狩猟に伴うだけでなく、弥生時代の長崎県壱岐原の辻遺跡や大阪平野の環濠集落のように食料としても利用していたのだろう（茂原・松井1995・松井1986）。

ニホンザルは、中国、四国、九州地方の縄文時代後晩期の遺跡で多く見られる（本郷・藤田・松井2002）。近世には狩猟対象として避けられるが、本遺跡でも多くはないが、下顎骨や四肢骨などが出土し、他の狩猟獣と区別されずに捕獲されたと思われる。ツキノワグマやカモシカは、一般に山間部に生息し、中部山地の遺跡からの出土がよく知られる。現在でも、当地域は、カモシカの生息域であり、このような動物相が現在にまで引き継がれる。居徳遺跡から出土した動物遺存体は、特に哺乳類に関して言えば、西日本の縄文遺跡の特徴とともに、弥生時代の特徴をも有すると言えるだろう。

刺突痕や刀創痕を残した金属器は、骨に残った痕跡だけからは青銅か鉄か判別できない。骨の表面に刺突痕を残すためには、腕力で突くだけではこのような深い傷を与えることは難しいと考えられ、刺突に用いた道具の末端部をハンマーなどの道具で打ち込んだ可能性がある。その場合、工具の柄とした骨角器に装着されていたことが想定される。いずれも工具の柄とすれば、工具の差し込み孔が末端まで貫通していることから、装着された金属製工具は、長い基部を持ち、工具の柄の末端で留められていた状態が考えられる。鹿角製の工具の柄は、朝鮮半島の新石器時代の遺跡から多く出土し、日本の縄文時代にはこれまで出土例を知らず、弥生時代に出現して以降、平安時代まで、主として刀子の柄として多用されることが知られている。この種の工具の柄に石器が装着されていた例は、日本でも韓国でもなく、刀子、鑿、鉈などが装着されていた例がほとんどである。青谷上寺地遺跡出土の弥生時代後期の鹿角製の工具の柄には、鑿が装着されていたことから、本遺跡で見られる刺突痕を残した道具が装着されていた可能性がある。

そして、骨に残された刺突や貫通の痕跡は、骨に弾力が残る状態でなければ本遺跡で見られるような傷は残らず、イノシシやシカの四肢骨を切り離し、さほど間をおかず、筋肉や皮膚がついた状態でなされたと考えられる。また、人骨に残される同様の痕跡や刀創は、それぞれの位置から腱などを切

断するような動物の解体行為とは、異なる意図のもとになされたと思われる。

## VI まとめ

これまで西日本の縄文晩期の遺跡出土の動物遺存体の報告例は少なく、本例は、貴重な資料となる。出土した動物遺存体は、集落から谷に向かう斜面に捨てられた生活残滓で、低地部の浸水環境で保存されたものである。本遺跡出土の動物遺存体の特徴は、主として関東地方や東北地方の東日本の貝塚を中心に知られる縄文人の動物利用法とは異なり、弥生人の動物利用に共通すると思われる要素が幾つか見られた。それは、イヌを食する習慣、工具の柄と思われる骨角器の存在、金属器の使用を示唆する動物骨や人骨に残された傷などが挙げられる。本遺跡から出土する突帯文土器は、北部九州では水田稲作を伴い、弥生早期とする研究者も多い。本遺跡では水田稲作の痕跡は得られていないが、これまでに出土している他の地域や縄文時代に例のない木製鋏などの存在も、居徳遺跡の文化的特異性を示す遺物であろう。

ニホンジカの橈骨やヒトの大腿骨にみられる貫通痕が、鋏によるものであることを認めるならば、改めて我々に弓矢の威力の大きさを示すだろう。これまで出土した縄文、弥生時代の弓は単純な丸木弓がほとんどで、シカを後から射かけ、骨に突き刺さったり、正面からヒトの膝部を射抜いて、大腿骨を貫通するほどの威力があることは想像できなかった。この2例は、先史時代の弓矢の威力を見直す契機となるであろう。また、刺突や刀創の痕跡は、道具そのものの出土はないが、縄文時代はもとより、それ以降の遺跡でも例を見ないものである。これまでも金属器は墓に副葬されたり、儀礼やその他の目的のために埋納されたり、偶然、遺跡内で遺失されたものが発掘で検出されない限り、刃を研ぎ直すことで摩滅が進み、さらに錆つぶされて形を変え、別の道具に作り直されることが想定されるため、集落遺跡から出土すること自体が少ない。従来の金属器の研究は、出土した金属器そのものから議論されてきたが、こうした骨に残された傷から、金属器の存在を指摘することも可能であることを、本遺跡から出土した動物骨、人骨は示している。骨に残される傷が、どのような状況で加えられたのかを更に実証的な検証には、今後、実験などを含む研究が必要と考えている。

出土動物遺存体の同定作業には、京都大学大学院、石丸恵利子氏の協力を得た。

## 参考文献

- 大泰司紀之1980「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・脂肪季節査定法」『考古学と自然科学』pp.51-74
- 江坂輝弥・西田学1967「愛媛県上黒岩岩陰」『日本の洞穴遺跡』平凡社pp.224-235
- 片山一道・松井章・宮路淳子1998「佃遺跡出土の動物遺存体」『佃遺跡』兵庫県教育委員会pp.53-73
- 金子浩昌1971「骨角牙器と骨角牙製品」『貝取貝塚』花泉町教育委員会・岩手県文化財愛護協会pp.124-158
- 神澤勇一1976「弥生時代古墳時代およびなら時代のト骨ト甲」『駿台史学』38pp.1-25
- 後藤守一1940「正倉院御物矢」『人類学雑誌』55(10) pp.464-475
- 茂原信生・松井章1995「原の辻遺跡出土の動物遺存体」『原の辻遺跡』長崎県教育委員会pp.189-208
- 末永雅雄1941『日本上代の武器』弘文堂pp.278
- 鳥取県教育文化財団2001『青谷上寺地遺跡』3(財)鳥取県教育文化財団・鳥取県埋蔵文化財センター pp.154

長谷部言人1952「犬骨」『吉胡貝塚』文化庁pp.146-150

本郷一美・藤田正勝・松井章2002「古代遺跡から出土したニホンザルに基づく分布の変遷」Asian Paleoprimatology” 京都大学霊長類研究所系統発生分野pp.1-12

松井章1986「亀井遺跡（切り広げ部）出土の動物遺存体」『亀井（その2）』大阪文化財センター pp.423-484

松井章1993「江口貝塚第2次・第3次調査出土の動物遺存体」『江口貝塚Ⅰ』愛媛県越智郡波方町教育委員会・愛媛大学法文学部考古学研究室編pp.125-134

松井章 1995「原の辻遺跡（高元地区）出土の動物遺存体」『原の辻遺跡-高元地区範囲確認発掘調査-芦辺町文化財調査報告書第9集』長崎県芦辺町教育委員会 pp.85-91

松井章1999「動物遺存体」『石見銀山遺跡総合調査報告書（平成5年度～平成10年度）』島根県教育委員会pp.199-200

松井章・宮路淳子2000「坪井・大福遺跡から出土した動物遺存体」『坪井・大福遺跡』奈良県立橿原考古学研究所 pp.194-205

木浦大学博物館、全羅南道・海南郡1987『海南郡谷里貝塚Ⅰ』

崔鍾赫2001「生産活動からみた韓半島新石器文化」『新石器時代の貝塚と動物遺体 第4回韓・日新石器文化学術研究会発表資料集』釜山市立博物館・韓国新石器研究会・日本九州縄文研究会、pp.5-38

Keith Dobney2000 'Interpreting Developmental Stress in Archaeological Pigs: the Chronology of Linear Enamel Hypoplasia.' *Journal of Archaeological Science* 27: pp.597-607

---

1 イギリス、ダラム大学のキース・ドブニー氏のご教示を得た。

骨角器実測図 (図 12) (1~3 S=1/2・4~6 S=1/1)

- 1 ヘラ状骨器 クジラ類・肋骨  
 2 工具の柄? ニホンジカ・角  
 3 ト骨? ニホンジカ・肩甲骨 (R)

- 4 装飾品 (垂飾?) 不明  
 5 骨鏃 ニホンジカ・中手骨/中足骨  
 6 垂飾 サメ・椎骨

写真図版 (図 13~19)

図 13 出土動物遺存体 (1)

イノシシ (1・3~6 下顎骨 2 頭蓋骨)

図 14 出土動物遺存体 (2)

イノシシ {1・2 環椎 3 軸椎 4・5 上腕骨 (R) 6 橈骨 (R) 7 肩甲骨 (R) 8・9 肩甲骨 (L) 10 寛骨 (R) 11 距骨 (L) 12 距骨 (R)}

図 15 出土動物遺存体 (3)

1 カモシカ下顎骨 (R) 2~6 ニホンジカ {2・4 下顎骨 (R) 3・5・6 下顎骨 (L)}

図 16 出土動物遺存体 (4)

ニホンジカ (1・3 前頭骨+角 2・4・5 角 6 前頭骨)

図 17 出土動物遺存体 (5)

ニホンジカ {1・2 上腕骨 (R) 3 上腕骨 (L) 4 頸椎骨 5 尺骨 (R) 6-8 橈骨 (L) 9・10 肩甲骨 (R) 11 尺骨 (L) 12 寛骨 (L) 13・14 大腿骨 (R) 15・16 脛骨 (L) 17-19 中足骨 (L) 20・

21 踵骨 (R) 22 距骨 (L) 23 距骨 (R)}

図 18 出土動物遺存体 (6)

1~14 イヌ {1・2 頭蓋骨 3・4 上顎骨 (R) 5~7 下顎骨 (R) 8 下顎骨 (L) 9 上腕骨 (L) 10 尺骨 (R) 11・12 脛骨 (R) 13 脛骨 (L) 14 寛骨 (R)} 15・16 オオカミ {15 脛骨 (R) 脛骨 (L)}

図 19 出土動物遺存体 (7)

1~5 サメ類椎骨 6 ブダイ科咽頭骨 7 ヘダイ歯骨 (R) 8 ワシタカ科尺骨 (R) 9~11 骨角器 {9 不明 (垂飾) 10 ムササビ大腿骨 (L) (切断) 11 鹿角 (骨鏃未製品)} 12~14 ニホンザル {12 下顎骨 (R) 13 下顎骨 (L) 14 上腕骨 (R)} 15 タヌキ下顎骨 (L) 16~19 ウマ臼歯 20・21 骨角器 (工具の柄) 22 ツキノワグマ大腿骨 (R) 23~25 海棲哺乳類 (23 不明・肋骨 24 不明 25 クジラ類・不明) 26 骨角器 (ヘラ状骨器)

表 1 動物遺存体種名表

脊椎動物門 Vertebrata]

軟骨魚綱 Chondrichthyes

サメ目 Lamniformes

サメ目の一種 Lamniformes, fam., gen. et sp. indet.

硬骨魚綱 Osteichthyes

スズキ目 Perciformes

タイ科 Sparidae

ヘダイ *Sparus sarba*

ブダイ科 Scaridae

ブダイ科の一種 Scaridae, gen. et sp. indet.

鳥綱 Aves

ワシタカ目 Falconiformes

ワシタカ科 Accipitridae

ワシタカ科の一種 Accipitridae, gen. et sp. indet.

鳥綱の一種 Aves, fam., gen. et sp. indet.

哺乳綱 Mammalia

霊長目 Primates

オナガザル科 Cercopithecidae

ニホンザル *Macaca fuscata*

齧歯目 Rodentia

リス科 Sciuridae

ムササビ *Petaurista leucogenys*

ウサギ目 Lagomorpha

ウサギ科 Leporidae

ノウサギ *Lepus brachyurus*

食肉目 Carnivora

クマ科 Ursidae

ツキノワグマ *Selenarctos thibetanus*

イヌ科 Canidae

タヌキ *Nyctereutes procyonoides*

イヌ *Canis familiaris*

オオカミ *Canis lupus*

イタチ科 Mustelidae

テン *Martes melampus*

鳍脚目 Pinnipedia

鳍脚目の一種? Pinnipedia, fam., gen. et sp. indet.

奇蹄目 Perissodactyla

ウマ科 Equidae

ウマ *Equus caballus*

偶蹄目 Artiodactyla

イノシシ科 Suidae

イノシシ *Sus scrofa*

シカ科 Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

ウシ科 Bovidae

ウシ *Bos Taurus*

カモシカ *Naemorhedus crispus*

クジラ目 Cetacea

クジラ目の一種 Cetacea, fam., gen. et sp. indet.



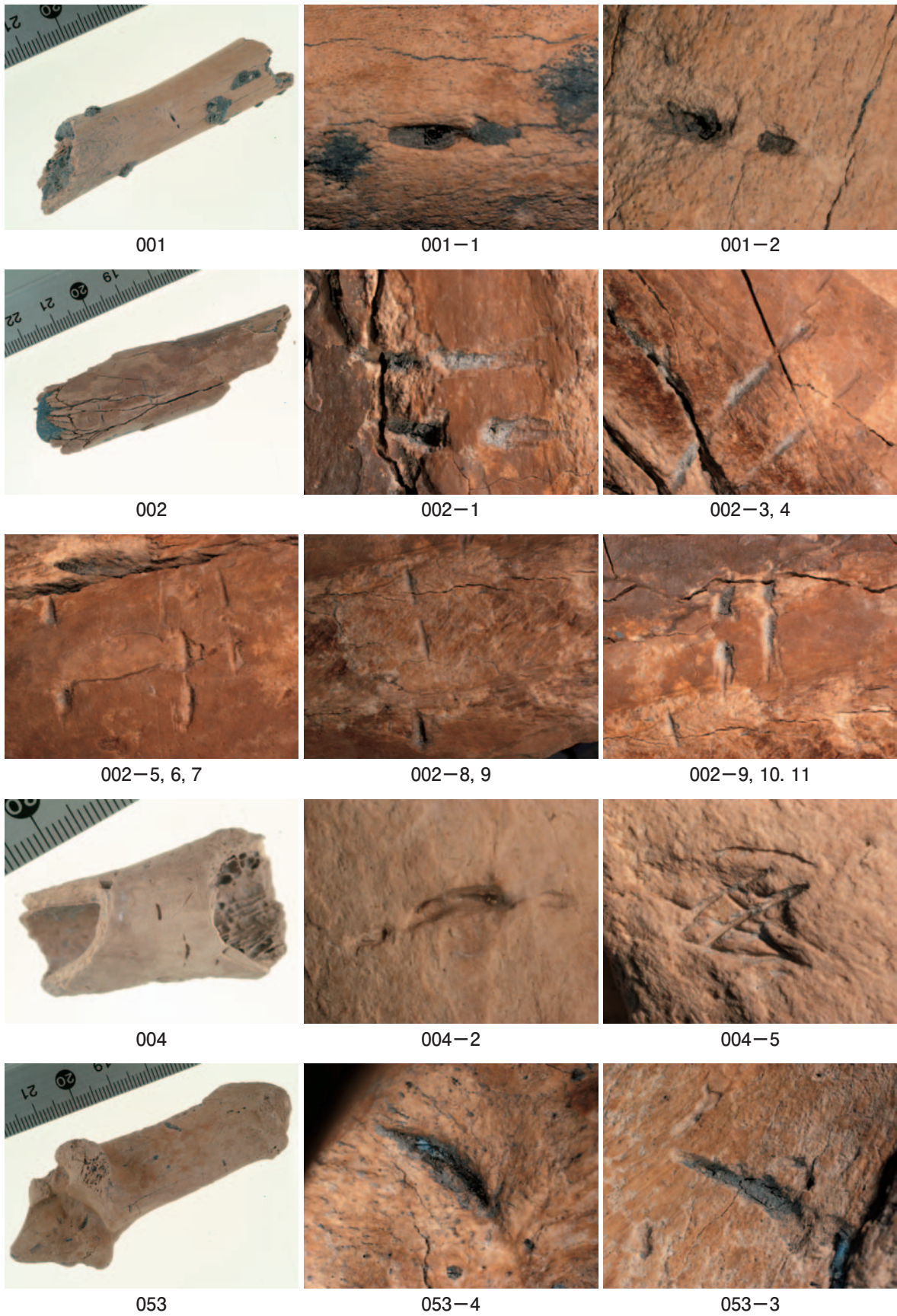


図3 出土動物遺存体に残る加工痕（1）

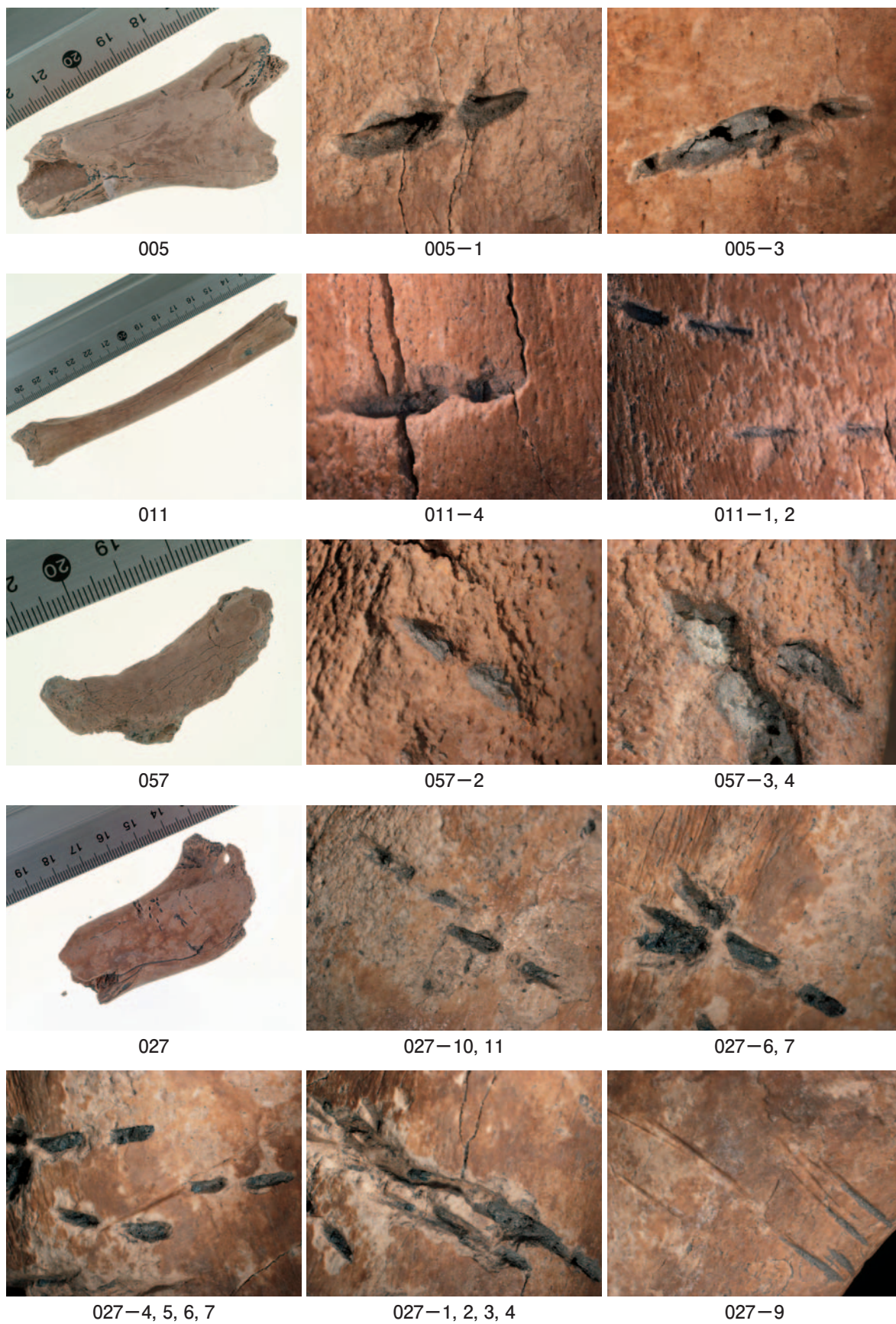


図4 出土動物遺存体に残る加工痕（2）



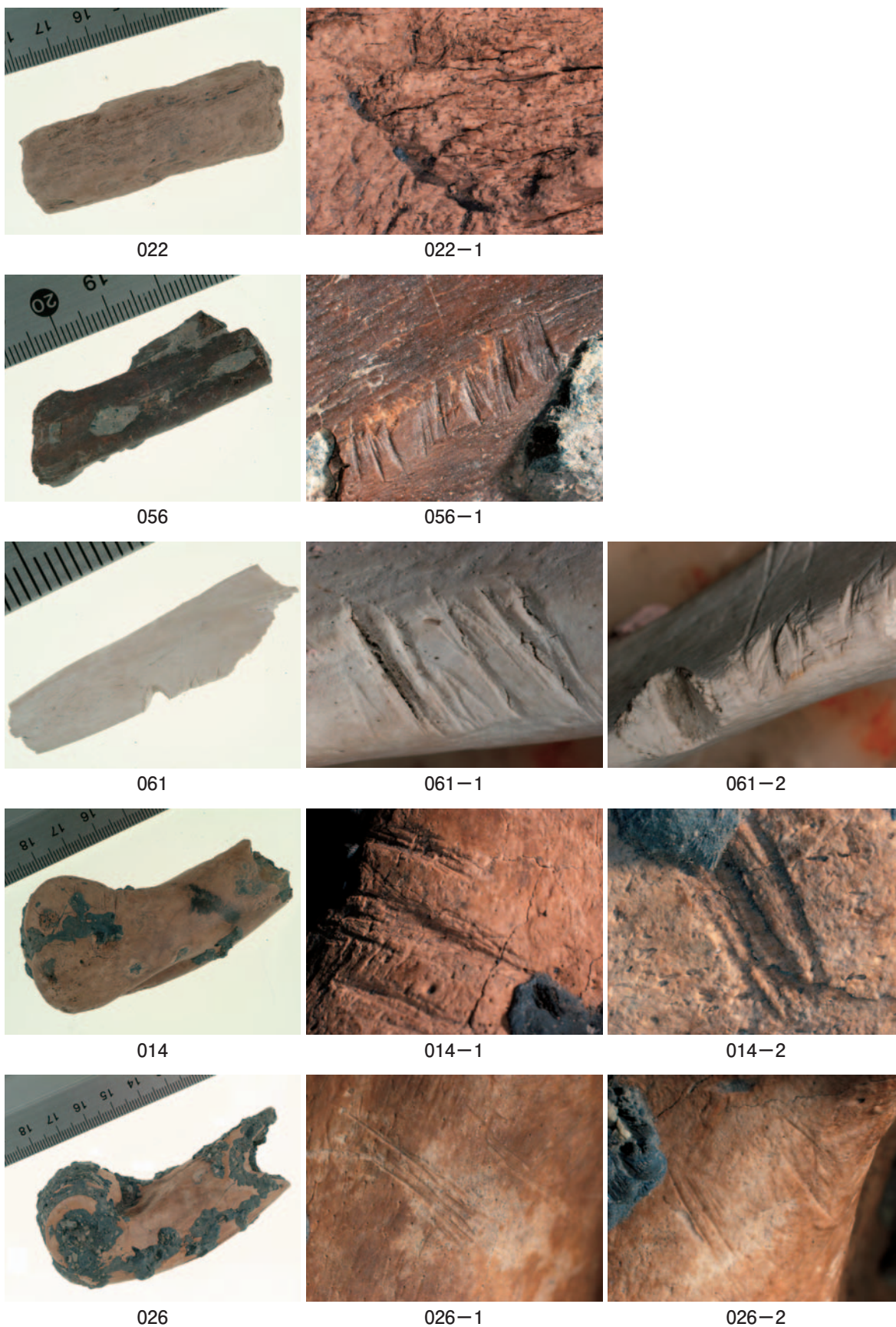


図5 出土動物遺存体に残る加工痕（3）

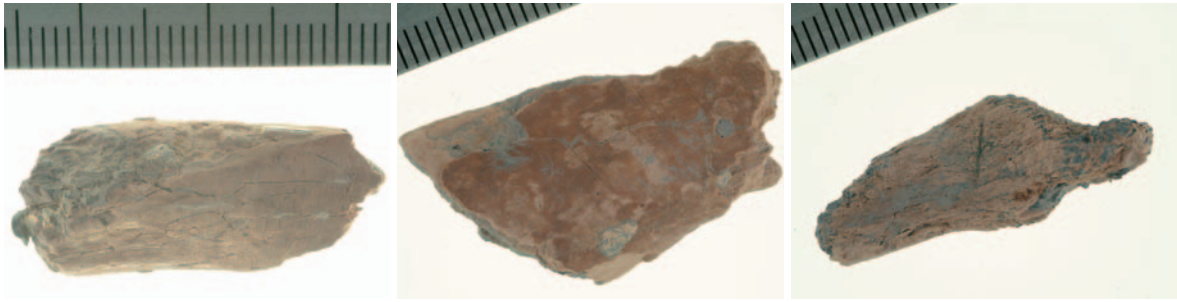


図6 出土動物遺存体に残る加工痕（4）

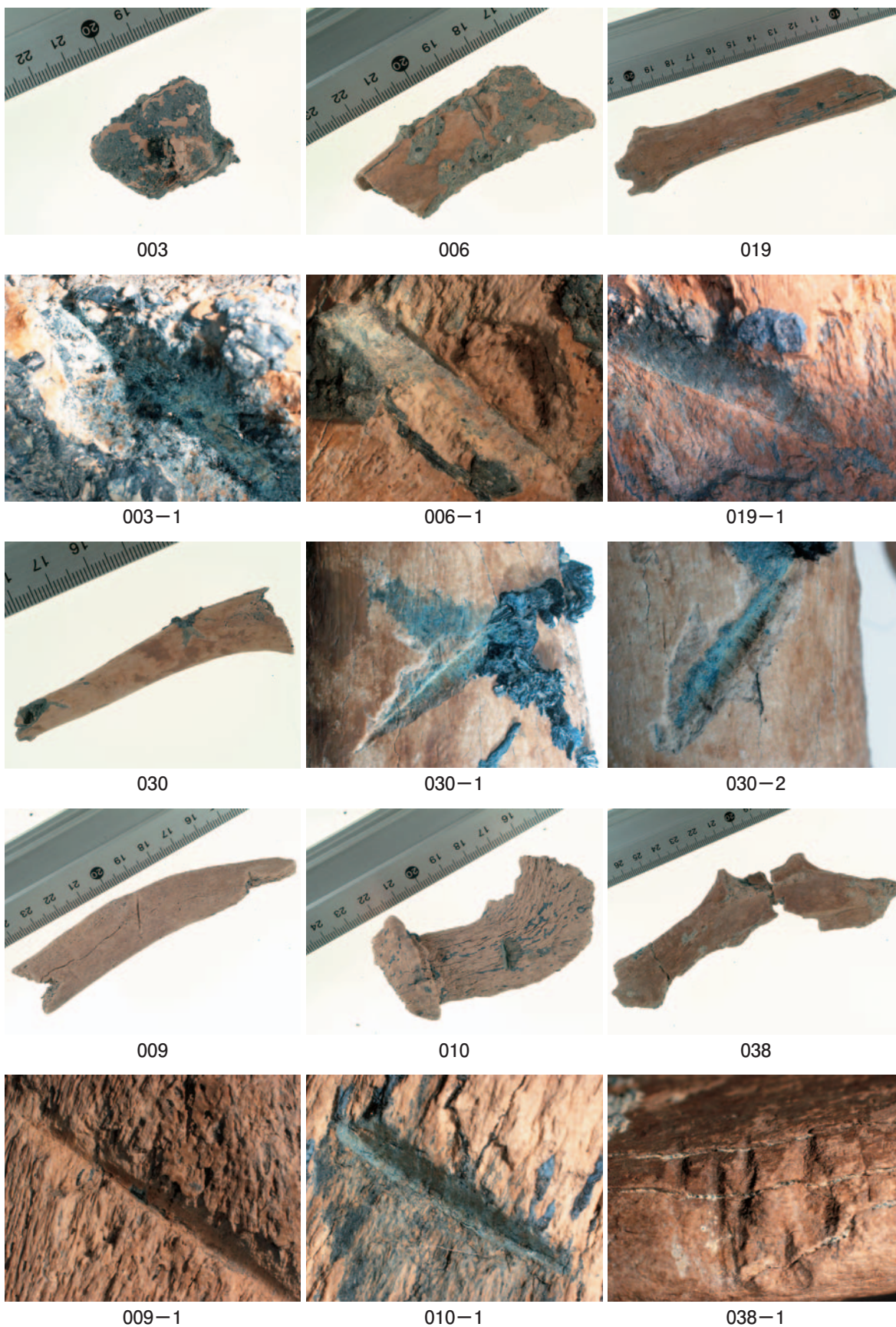


図7 出土動物遺存体に残る加工痕（5）

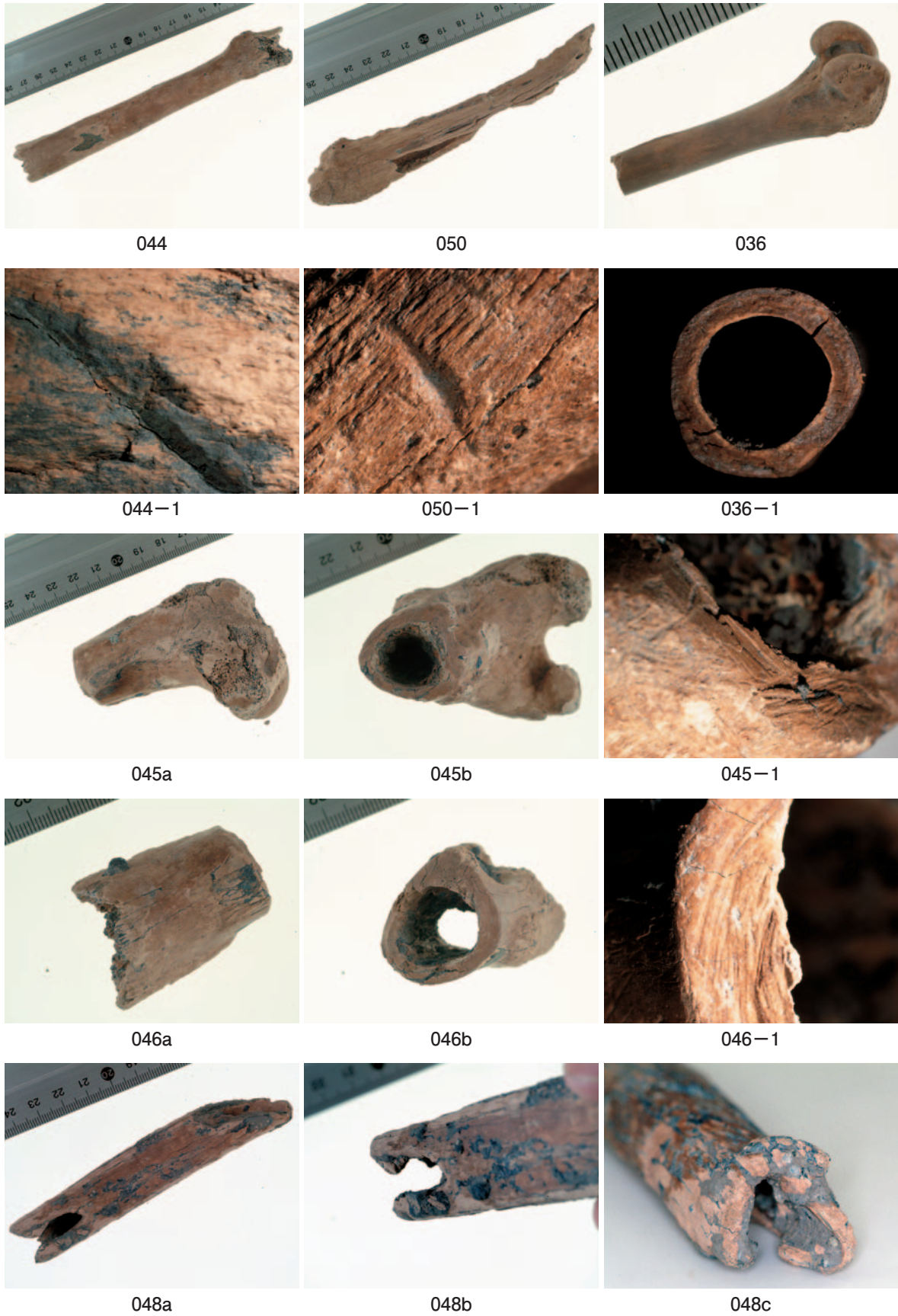


図8 出土動物遺存体に残る加工痕（6）

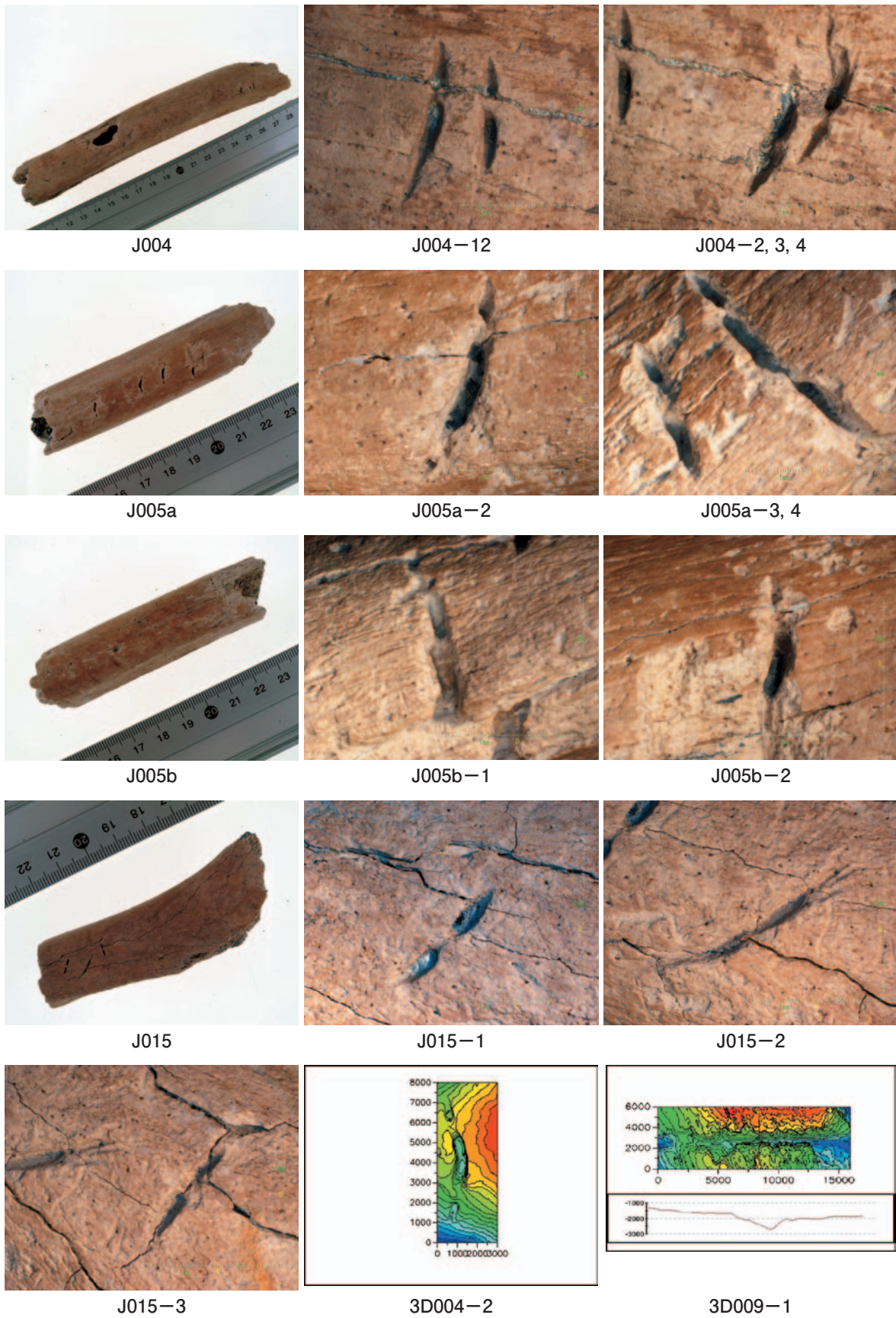
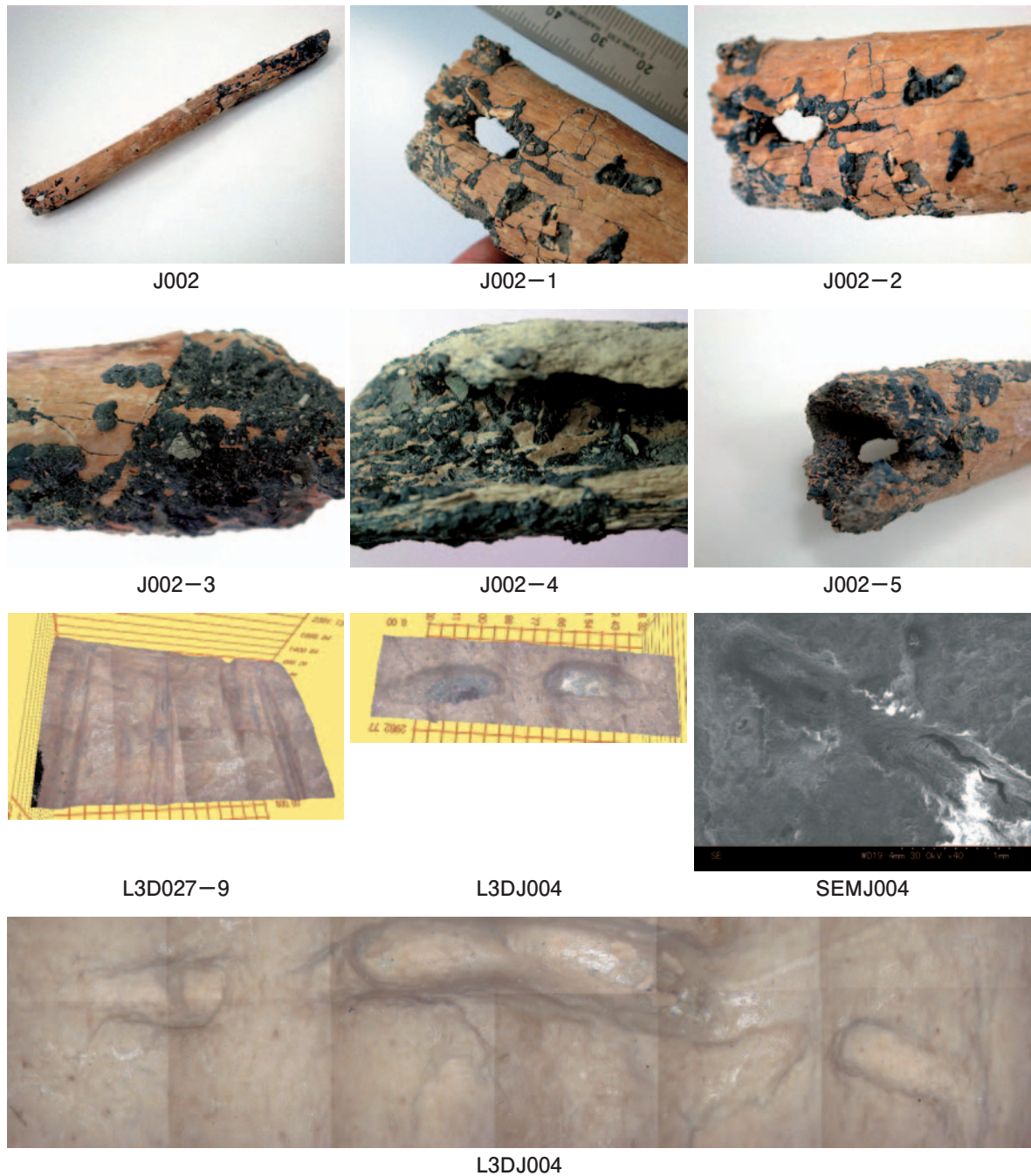


図9 出土動物遺存体に残る加工痕（7）



3D004-2、3D009-1は、CCDレーザ変位センサLK（キーエンス）  
 L3D027-9、L3DJ004、L3DJ004は、超深度カラー3D形状測定顕微鏡VK-9500（キーエンス）  
 SEMJ004は、走査電子顕微鏡S-3500N（日立）を使用した。

図10 出土動物遺存体に残る加工痕（8）

表4 傷の一覧表

No.	地区	層位	種名	部位	加工種類	分類
001-1	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	IIA1b
001-2	I 11-8	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	IIA1b
001-3	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	II B
002-1	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	IIA1a
002-2	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	IIA1a
002-3	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	IIA1a
002-4	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	IIA1a
002-5	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	II A
002-6	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	I A1
002-7	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	II A
002-8	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	II A
002-9	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	II A
002-10	I 11-4	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	IIA1a
004-1	I 11-3	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	I A1
004-2	I 11-3	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	I A2
004-3	I 11-3	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	I B
004-5	I 11-3	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	I B
005-1	I 11-7	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	IIA1a
005-2	I 11-7	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	I B
005-3	I 10-24	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
007	I 11-7	IVB	ニホンジカ	橈骨	刺突	IIA1b
008-1	I 11-7	IVB	ニホンジカ	基節骨	刺突	II B
008-2	I 11-7	IVB	ニホンジカ	基節骨	刺突	II B
011-1	-	IVB	ニホンジカ	橈骨	刺突	IIA1a
011-2	I 11-7	IVB	ニホンジカ	橈骨	刺突	IIA1a
011-3	I 11-2	IVB	ニホンジカ	橈骨	刺突	IIA1a
015-1	-	IVB	オオカミ	脛骨	刺突	II B
015-2	-	IVB	オオカミ	脛骨	刺突	II B
016	-	IVB	ニホンジカ	大腿骨	刺突	II B
027-1	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	I A1
027-2	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-3	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-4	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-5	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-6	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-7	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-8	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-10	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-11	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-12	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-13	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-14	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-15	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
027-16	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	刺突	II A
053-1	-	ニホンジカ	踵骨	刺突	I B	
053-2	-	ニホンジカ	踵骨	刺突	IIA1b	
053-3	-	ニホンジカ	踵骨	刺突	IIA1a	
053-4	-	ニホンジカ	踵骨	刺突	I B	
053-5	-	ニホンジカ	踵骨	刺突	IIA1b	
057-1	I 10-20	ニホンジカ	下顎骨	刺突	不明線	
057-2	I 10-20	ニホンジカ	下顎骨	刺突	不明線	
057-3	I 10-20	ニホンジカ	下顎骨	刺突	不明線	
057-4	I 10-20	ニホンジカ	下顎骨	刺突	不明線	
058	I 10-24	不明	破片	刺突?	I A1	
J004-1	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A1
J004-2	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A1
J004-3	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A1
J004-4	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A1
J004-5	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A1
J005a-1	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A1
J005a-2	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A2?
J005a-3	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A2
J005a-4	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A2
J005b-1	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A2
J005b-2	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A2
J005b-3	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A1
J005b-4	-	IVB	ヒト	大腿骨	刺突	I A1
J015-1	I10-16	IVB	ヒト	上腕骨	刺突	I A1
J015-2	I10-16	IVB	ヒト	上腕骨	刺突	I A1
J015-3	I10-16	IVB	ヒト	上腕骨	刺突	I A1
014	I 11-2	IVB	ニホンジカ	上腕骨	カットマーク	
018	-	IVB	イノシシ	上腕骨	カットマーク	
021	I 11-3	IVB	ニホンジカ	橈骨	カットマーク	
024	I 10-22	IVB	イノシシ	下顎骨	カットマーク	
026	I 11-2	IVB	ニホンジカ	上腕骨	カットマーク	

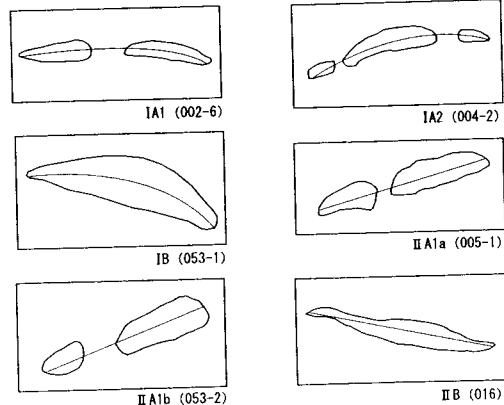
No.	地区	層位	種名	部位	加工種類
027-17	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	カットマーク
027-18	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	カットマーク
029-2	-	IVB	イノシシ	距骨	カットマーク
029-9	I 11-6	IVB	イノシシ	上腕骨	カットマーク
043	-	IVB	イノシシ	上腕骨	カットマーク
053-6	-	IVB	ニホンジカ	踵骨	カットマーク
055	I 10-19	IVB	不明	骨片	カットマーク
056	I 10-25	IVB	ニホンジカ	中足骨	カットマーク
060	I 10-19	IVB	不明	不明	カットマーク
061	-	IVB	イノシシ	頸突起	カットマーク
003-1	I 11-2	IVB	ニホンジカ	距骨	チョップマーク
006	I 11-7	IVB	イノシシ	上腕骨	チョップマーク
009	I 10-23	IVB	海獣類	肋骨	チョップマーク
010	-	IVB	ニホンジカ	前頭骨	チョップマーク
019-1	I 10-23	IVC	ニホンジカ	脛骨	チョップマーク
019-2	I 10-23	IVB	ニホンジカ	脛骨	チョップマーク
030-1	I 11-2	IVB	イヌ	上腕骨	チョップマーク
030-2	I 11-2	IVB	イヌ	上腕骨	チョップマーク
038	-	IVB	ニホンジカ	寛骨	チョップマーク
044	-	IVB	ツキノワグマ	大腿骨	チョップマーク
050	-	IVB	ニホンジカ	橈骨	チョップマーク
051	-	IVB	ニホンジカ	尺骨	チョップマーク
061-2	-	IVB	イノシシ	頭蓋骨類突起	チョップマーク
020	I 11-2	IVB	ニホンジカ	大腿骨	擦切
034	-	IV	鳥骨	不明	擦切
036	-	IV	ムササビ	大腿骨	擦切
042	I 10-21	IVB	ニホンジカ?	大腿骨	擦切
045	-	IVB	ニホンジカ	大腿骨	擦切
047	-	IVB	ニホンジカ	大腿骨	擦切
022	I 10-24	IVB	ニホンジカ	鹿角	研磨
052	I 10-20	IVB	不明	不明	研磨
054	I 10-20	IVC	不明	脛骨	研磨
062-1	-	IVB	イノシシ	上腕骨	抉り
062-2	-	IVB	イノシシ	上腕骨	抉り
048	I 10-21	IVB 3	ニホンジカ	橈骨	貫通
J002	-	IVB層	ヒト	大腿骨	貫通・刀創

表5 刺突痕分類表

形状	刃こぼれ	刃こぼれ数	傷の端部	資料番号
I 爪形	A 有	1	1箇所	2-6, 4-1, 27-1, 58, J4-1, J4-2, J4-3, J4-4, J4-5, J5a-1, J5b-2, J5b-3, J5b-4, J15-1, J15-2, J15-3, J5a-2
		2	2箇所	4-2, J5a-3, J5a-4, J5b-1
II 直線	B 無			4-3, 4-5, 5-2, 53-1, 53-4
				2-1, 2-2, 2-3, 2-4, 2-7, 2-8, 2-9, 5-1, 5-3, 11-1, 53-3, 11-2
II 直線	A 有	1	a 尖る	2-5, 27-2, 27-3, 27-4, 27-5, 27-6, 27-7, 27-8, 27-10, 27-11, 27-12, 27-13, 53-5
			b 尖らない	1-1, 1-2, 7, 53-2, 1-3, 8-1, 8-2, 15-1, 15-2, 16
II 直線	B 無			1-3, 8-1, 8-2, 15-1, 15-2, 16

傷の形状が、爪形 (I)、直線 (II) 刃こぼれが、あるもの (A)、ないもの (B) 刃こぼれの数が、1箇所 (1)、2箇所 (2) 傷の両端が、尖るもの (a)、尖らないもの (b)

図11 刺突痕の模式図



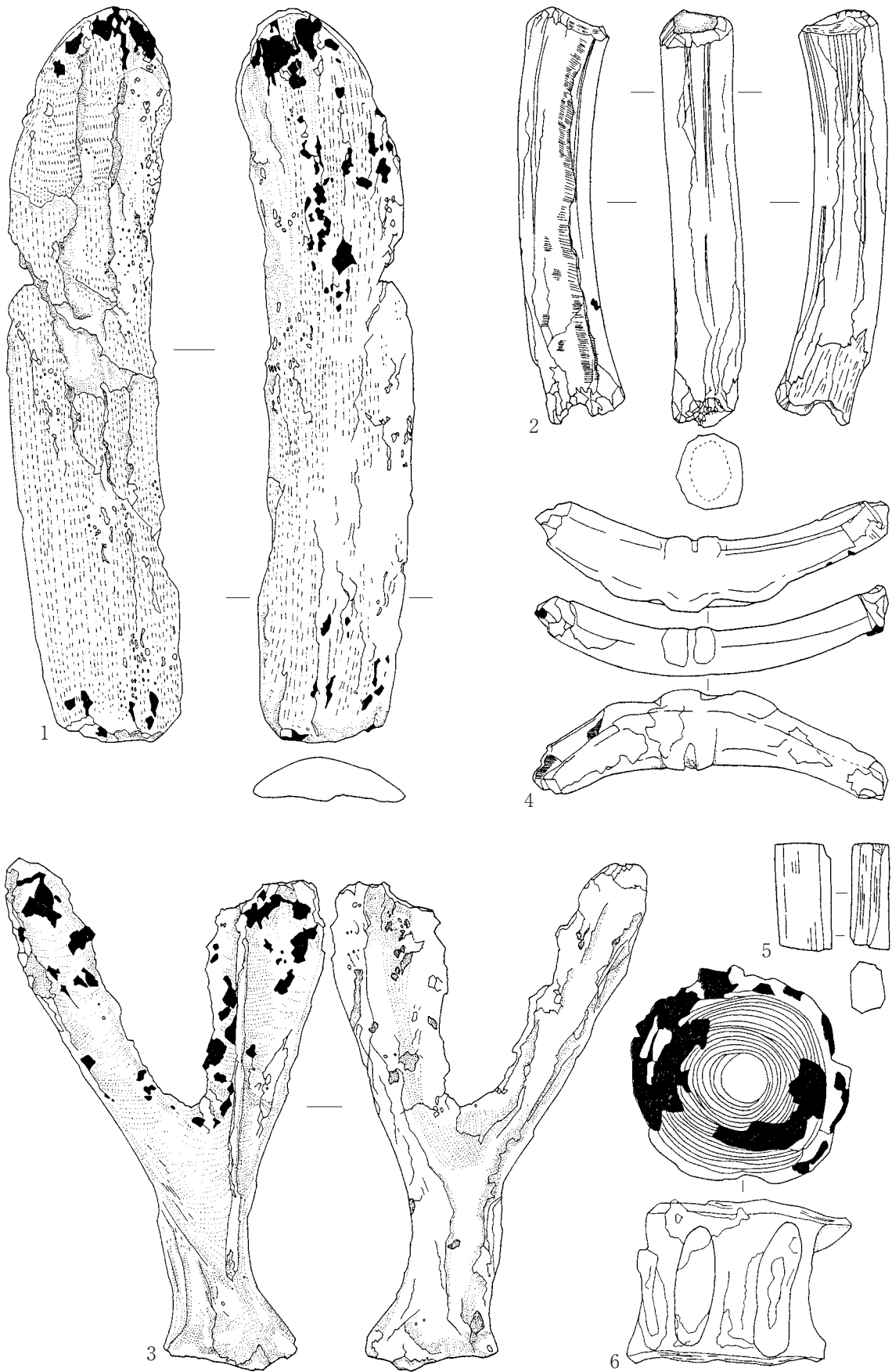


图12 骨角器实测图



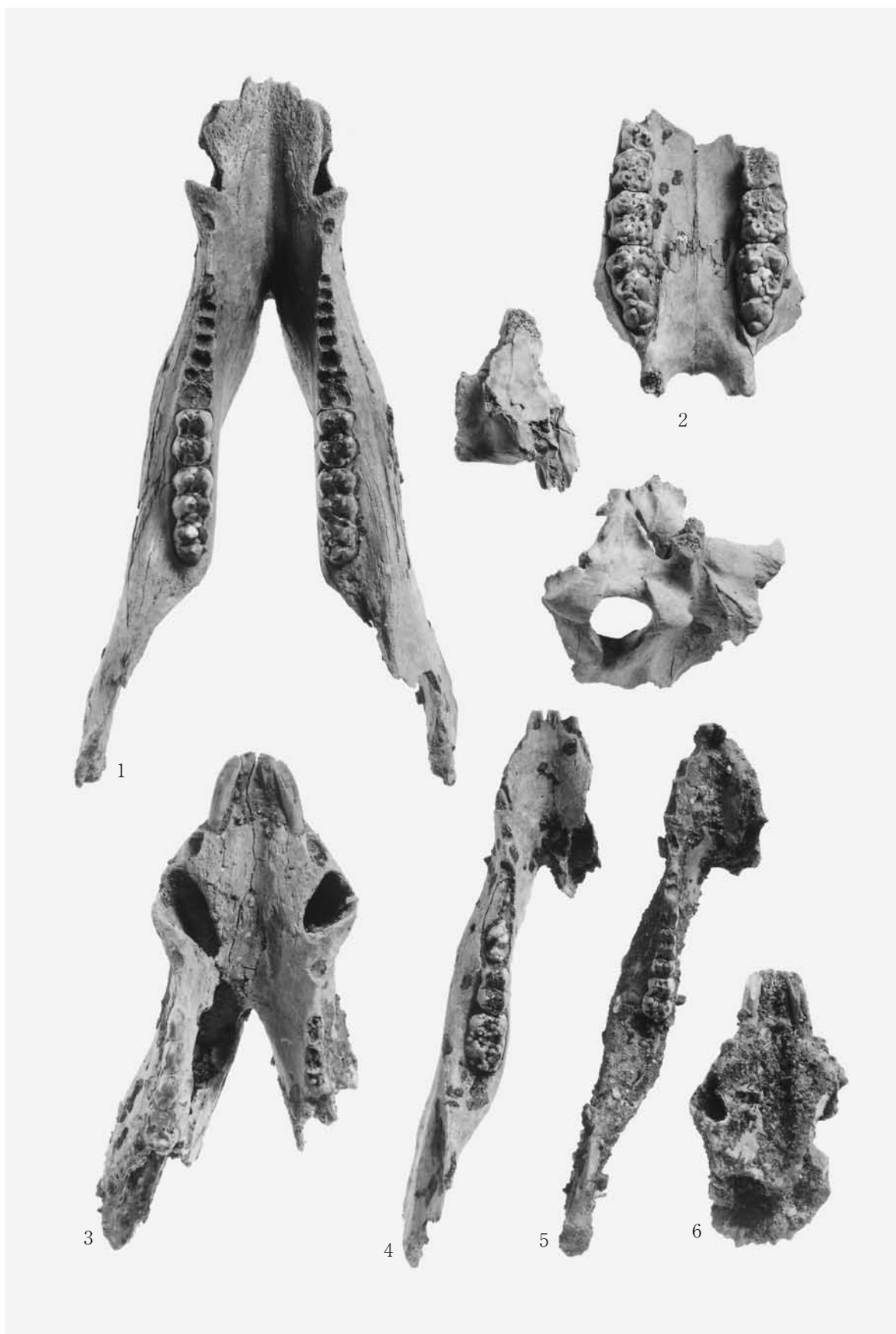


图13 出土動物遺存体（1）

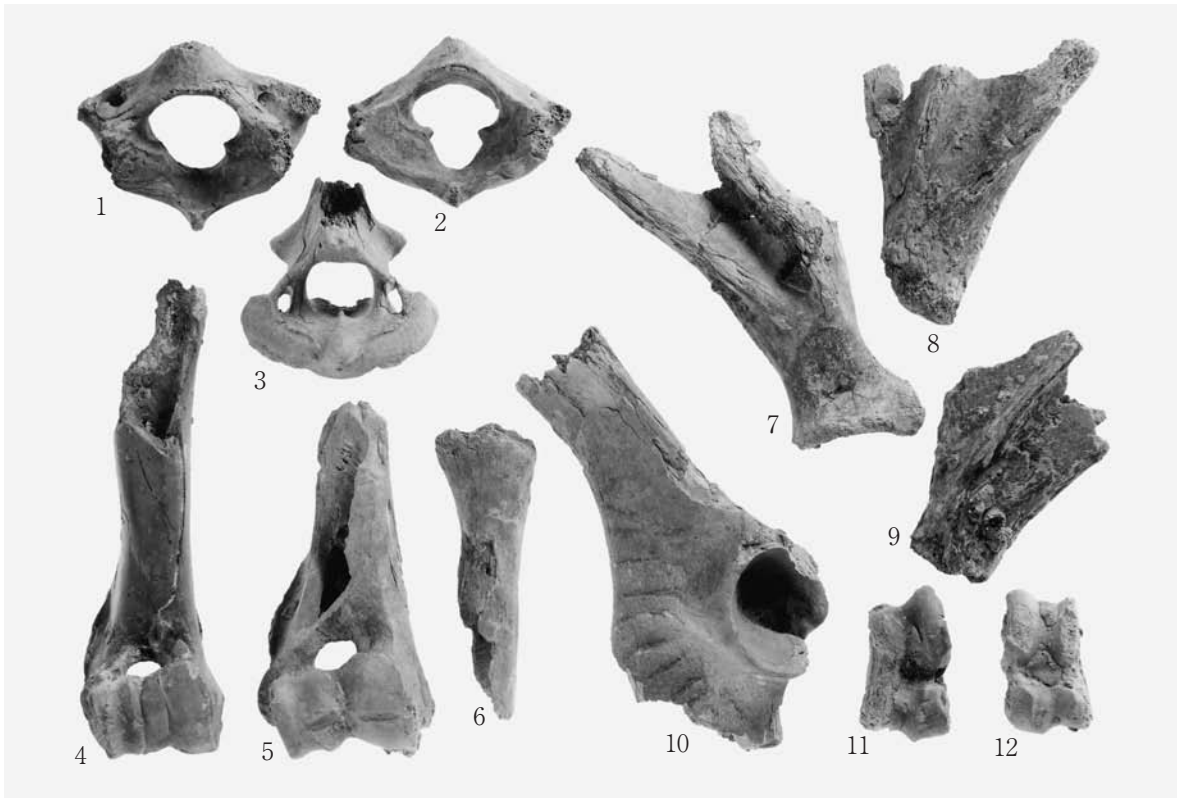


图14 出土動物遺存体 (2)

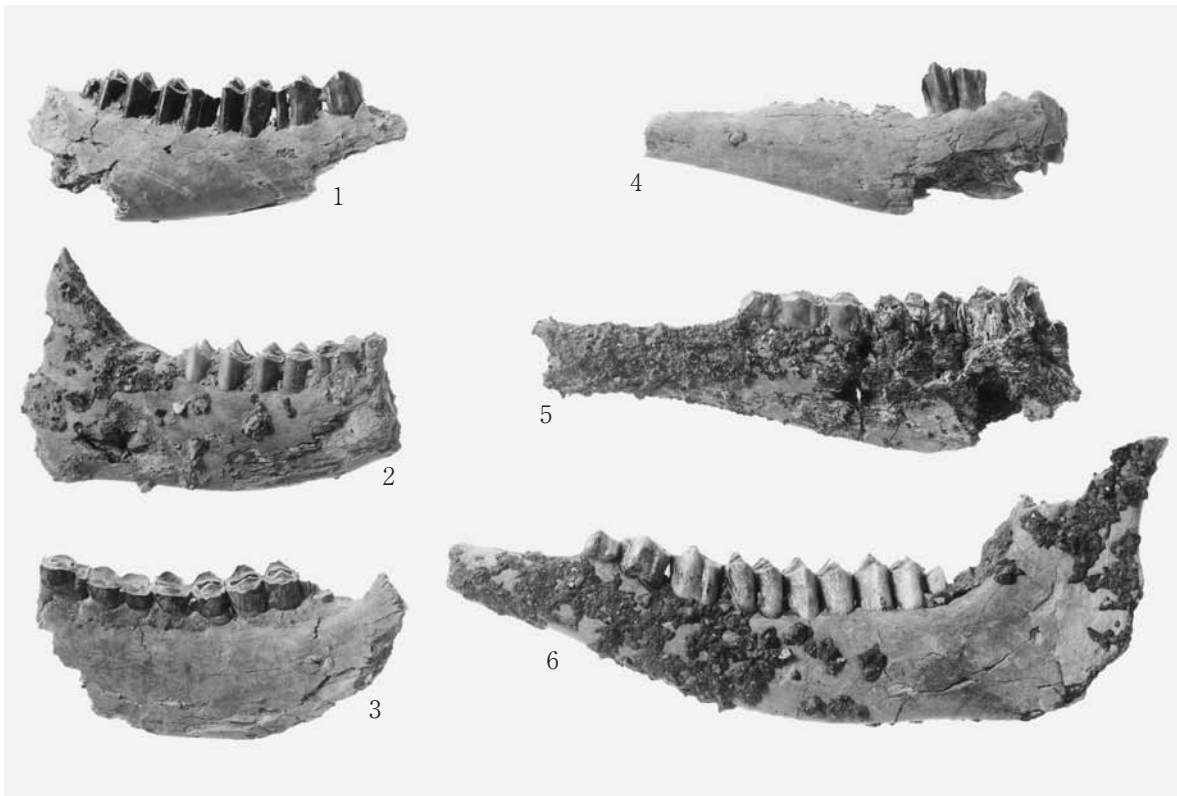


图15 出土動物遺存体 (3)



图16 出土動物遺存体 (4)



图17 出土動物遺存体 (5)



图18 出土動物遺存体 (6)

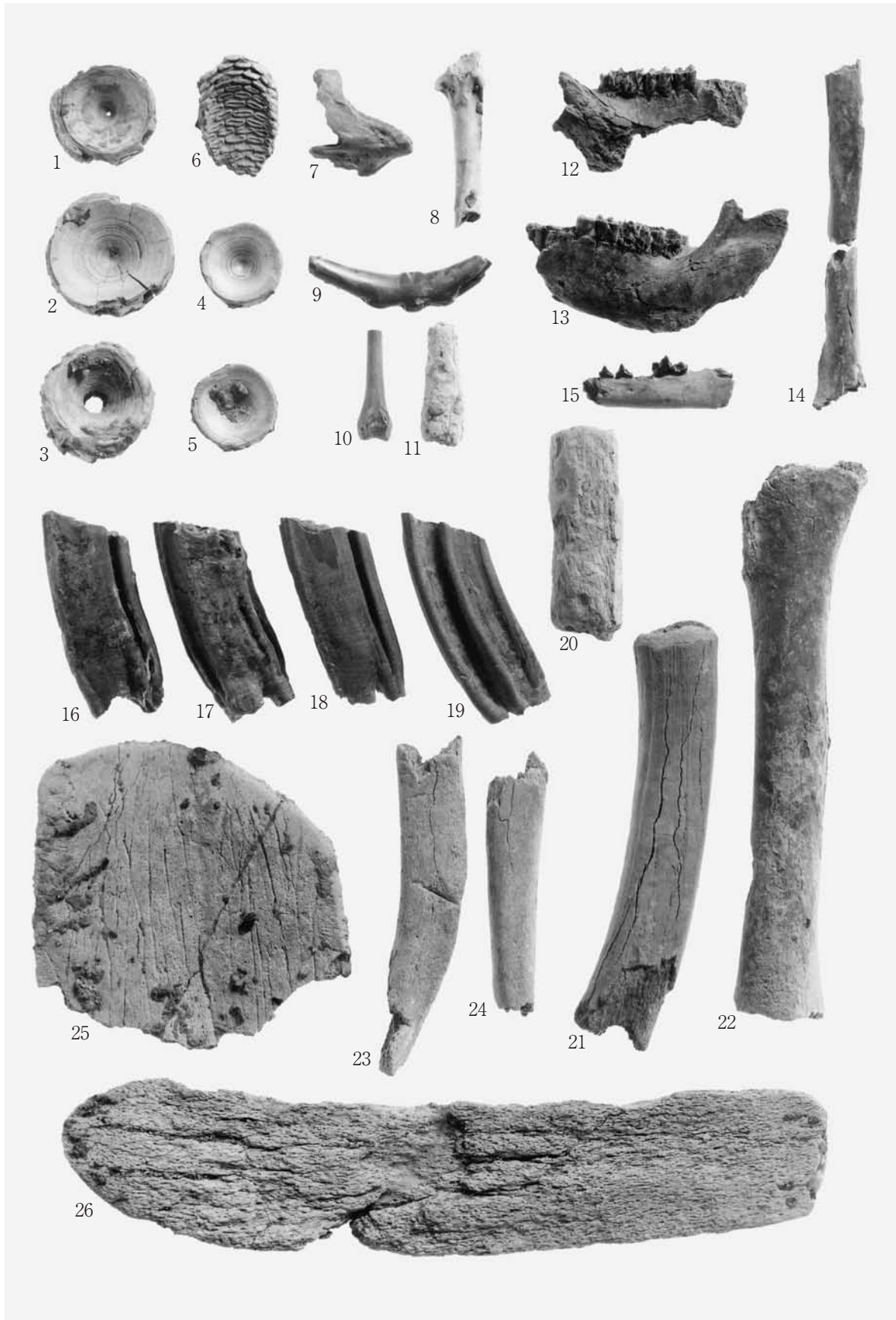


图19 出土動物遺存体 (7)

## 付編 2 高知県土佐市居徳遺跡出土の縄文時代人骨

中橋孝博

九州大学大学院比較社会文化研究院

### はじめに

縄文時代の人骨資料は、これまで北海道から沖縄に至るほぼ全国各地から数千体の出土が報告されているが、まだ地域的、時代的な偏在も目立ち、人類学的に多くの疑問点が残されているのが現状である。とりわけ四国の太平洋側、高知県ではかつて宿毛貝塚（縄文後期）で人骨資料が出土したことが記録されているが、その詳しい特徴は不明であり、当地の縄文時代の住民形質についてはまだ殆ど空白状態にあると言えよう。言うまでもなく太平洋に面したこの地域は、内陸や瀬戸内を介した交流だけではなく、黒潮の流れる太平洋を舞台とした文化的、人的な交流も見逃せず、その住人にどのような地域性、時代性が見られるかは人類学上の興味ある課題の一つである。

1997～1998年に高知県埋蔵文化財センターによって実施された土佐市高岡町居徳遺跡の発掘調査によって、各種の土器や漆器、土偶、それにおよびたしい獣骨などに混じって多数の人骨片が出土した。ほとんど原型を留めぬ断片状の資料が大半を占めるため、その特徴については限られた知見しか得られなかったが、当地における貴重な縄文人骨資料であり、以下に精査した結果を報告する。なお、当人骨群には幾つか人為的な傷が認められたが、その詳細は別項に譲り、ここでは人骨の部位同定と、性、年齢、及び形態的な特徴についての検討結果を述べることにする。

### 遺跡・資料・方法

居徳遺跡は、高知県土佐市の高岡町乙居徳にあり、四国横断自動車道の建設工事に伴って1997～1998年の2年に渡って高知県埋蔵文化財センターによる発掘調査が実施された。当遺跡で検出された遺構は、その範囲、時代幅（縄文時代後期～中世）ともかなりの広がりを見せるが、人骨が出土したのは、縄文時代の集落に接する谷の斜面の堆積層で、当時の生活廃棄物や祭祀行為に関連した遺物によって形成されたものと考えられている。所属時代は、出土品に関する考古学的な検証、及び炭素年代測定の結果から縄文時代晩期後半と見なされている。

主な出土遺物としては、多数の土器、石器のほか、精巧な木胎漆器、木製鋏、土偶などが上げられ、それらと共にシカ、イノシシをはじめとする多量の獣骨が出土したが、人骨はこの獣骨の整理中に検出されたものである。いずれも破損、もしくは断片化したもので、頭蓋、歯、それに上、下肢骨片が計25個、確認された（表1）。

人骨の計測は、主にMartin-Saller（1957）に従った。また、性判定には、筆者らの保存不良骨に対する方法（中橋、1988）を援用した。

### 出土人骨の部位

部位同定が可能であった骨片については図1に示した。この他にも表2に示したように、正確な部

位不明の頭蓋骨片と左右不明の大腿骨片が存在する。男女とも下肢骨に集中する傾向が見られ、また男性では右側、女性では左側にやや偏る傾向が見られるが、この例数と遺存状況では、偶然の可能性も高く、何らかの特定要因と結びつけることは危険であろう。また、大腿骨が最も多い理由についても、何らかの人為的要因が関与している可能性は否定できないが、もともと大腿骨は人骨の中で最大サイズで骨幹の緻密質も厚く、頭蓋骨と並んで最も遺存しやすい部位であり（Nakahashi & Nagai, 1986-1987）、土中での腐食作用、検出過程での破損などを考慮すれば、ここで見られた遺存部位の偏りは特に不自然とは言い難い。なお、躯幹部の脊椎や肋骨、骨盤などは一片も含まれていないが、これらはもともと脆弱な部分であるため通常も遺存しにくく、識別不能なかたちで獣骨片の中に混入している可能性も否定できない。

### 個体数

性別、部位別の人骨数を表2に示した。上記のように今回の発掘で出土した人骨片は計25個を数えるが、言うまでもなく同一個体の別部位が混在している可能性があるため、骨片の数がそのまま個体数を表すわけではない。表中の最小個体数は、各骨（特に例数の最も多い大腿骨）の形状（サイズ、太さ、緻密質の厚さ、表面及び断面形態）、腐食状況、色相、そして遺存部位の重複状況などから割り出した最小の個体数である。

まず、頭蓋骨の2片は部位的に重複せず、骨厚、色相にも類似性が見られ、同一個体である可能性が否定できない。歯も2本検出されたが、咬耗の程度に大きな差が認められるので、別個体である可能性が高く、最小個体数は2とした。上腕骨では、3片のうちJ18とJ20の右上腕骨2片（いずれも女性の可能性が高い）が、形状、腐食状況などから判断して同一個体である可能性が否定できず、男性のものとも見なされる左上腕骨と合わせて、最小個体数はやはり2となる。大腿骨では図1に見るように重複する部位が多く、異なる部位の破片でも互いにその形状には明らかな相違が見られるので、いずれも別個体のものと考えられる（10個体）。脛骨では、男性3片にはその形状に明確な違いが見られるものの、J21とJ22の右脛骨（いずれも性不明）は同一個体である可能性が否定できず、最小5個体の存在が想定される。その他、足指の基節骨と右距骨が出土しているが、そのサイズからみて男女別個体である可能性が高い。

以上の結果、居徳遺跡出土人骨の最小個体数としては、最大例数の大腿骨についての検討結果から、少なくとも10個体以上が含まれていると考えられる。なお、各部位間の関係（例えば、各大腿骨と脛骨の関係：同一個体か否か）については、一部にその可能性を否定できないものも含まれるが、いずれも散乱状態で出土し、断片化しているものが多く、しかも図版に明らかなように土中成分の固着によって十分な表面観察のできないものが多いため確定は困難であった。いずれにしろ、最小個体数の計数にその結果は影響しない。

### 性・年齢構成

表1, 2に各骨の性、年齢の判定結果を示した。骨端線の有無など、成人か否かを確定できる部位は殆ど存在しないが、骨のサイズ、骨厚などから判断して幼児と見なされる破片は含まれておらず、



いずれも成人骨である可能性が高い。歯についてはその咬耗度から、頭蓋片については縫合の癒着状態からある程度その年齢が推定出来たものもあるが、他の四肢骨片についての詳しい年齢査定は困難である。

性については、そのサイズ、断面形状(断面示数)、及び筋付着部の発達などを総合して判断した(中橋、1988)。図2に、その一例として大腿骨の骨幹中央周を用いた判定結果を示した。この図は津雲貝塚、及び吉胡貝塚出土縄文人骨の計測結果に、居徳の計測値を当てはめたもので、各矢印の上に付けられた番号は表1に示した人骨番号に対応している。結果として、今回の人骨群のうち、性が判明した各破片とその相互の関係から、男性3体、女性6体、性不明の個体が1体という構成となった。

### 形態的特徴

形態観察ができた破片は一部に限られたが、計測結果を表3、4に示した。

少数ながら当人骨群の特徴として、まず大腿骨では、男女とも粗線の発達が良好なものが多く、その断面示数はかなり高値を示す点が上げられる(表3)。弥生以降の集団とは特にこの断面形状において差が著しく、本人骨にも他の縄文集団と共通する特徴が確認できる。

脛骨で計測値がえられたのは、男性1体(J1)に限られたが、この個体については表3の比較結果にも明らかのように、非常に頑丈な傾向が認められた。その断面にさほどの扁平性は認められないが、ただ、計測は出来なかったものの他の脛骨片には共通してかなり強度の扁平性が確認された。また、いずれについても骨幹後面に上下に走る稜線が見られ、この点でも他地域の縄文人によく見られる特徴と一致する。

以上、限られた情報ではあるが、形態的にみて居徳縄文人もまた、その下肢骨の断面形状などに時代性的一端が窺えた。ただ、上記のような資料状況のため、当人骨群の詳しい地域性や時代性などについては不明とするほか無い。最初にも触れたように、高知県一帯はその地理的条件もあって人と文化の交流、変遷過程を追う上でも興味深い地域であり、今後の追加事例の出土を待って改めて検討したいと考える。

### 文献

阿部英世(1955):「現代九州人大腿骨の人類学的研究」、人類学研究2。

池田次郎(1988):「吉備地方海岸部の縄文時代人骨」、考古学と関連科学(鎌木義昌先生古希記念論集)

鑄鍋命達(1955):「九州人下腿骨の研究」、人類学研究2。

石沢命達(1931):「吉胡貝塚人骨の人類学的研究、第3部、下肢骨の研究」、人類誌、4-6。

清野謙次・平井隆(1928):「津雲貝塚人骨の人類学的研究、第3部、上肢骨の研究、第4部、下肢骨の研究」、人類学雑誌43、第3、4付録。

Martin-Saller(1957): Lehrbuch der Anthropologie. Bd. I. Gustav Fischer Verlag. Stuttgart.

松下孝幸(1981):「佐賀県大友遺跡出土の弥生時代人骨」、大友遺跡、佐賀県呼子町文化財調査報告書1。

Nakahashi, T. and Nagai, M. (1986–1987) : Preservation of human bone in prehistoric and historic sites on western Japan. *Asian Perspectives*. 27 : 15–27.

中橋孝博 (1988) : 「古人骨の性判定法」、日本民族・文化の生成 (永井昌文教授退官記念論文集)、六興出版。

中橋孝博・永井昌文 (1989) : 「弥生人の形質、男女差、寿命」、弥生文化の研究1、雄山閣出版。

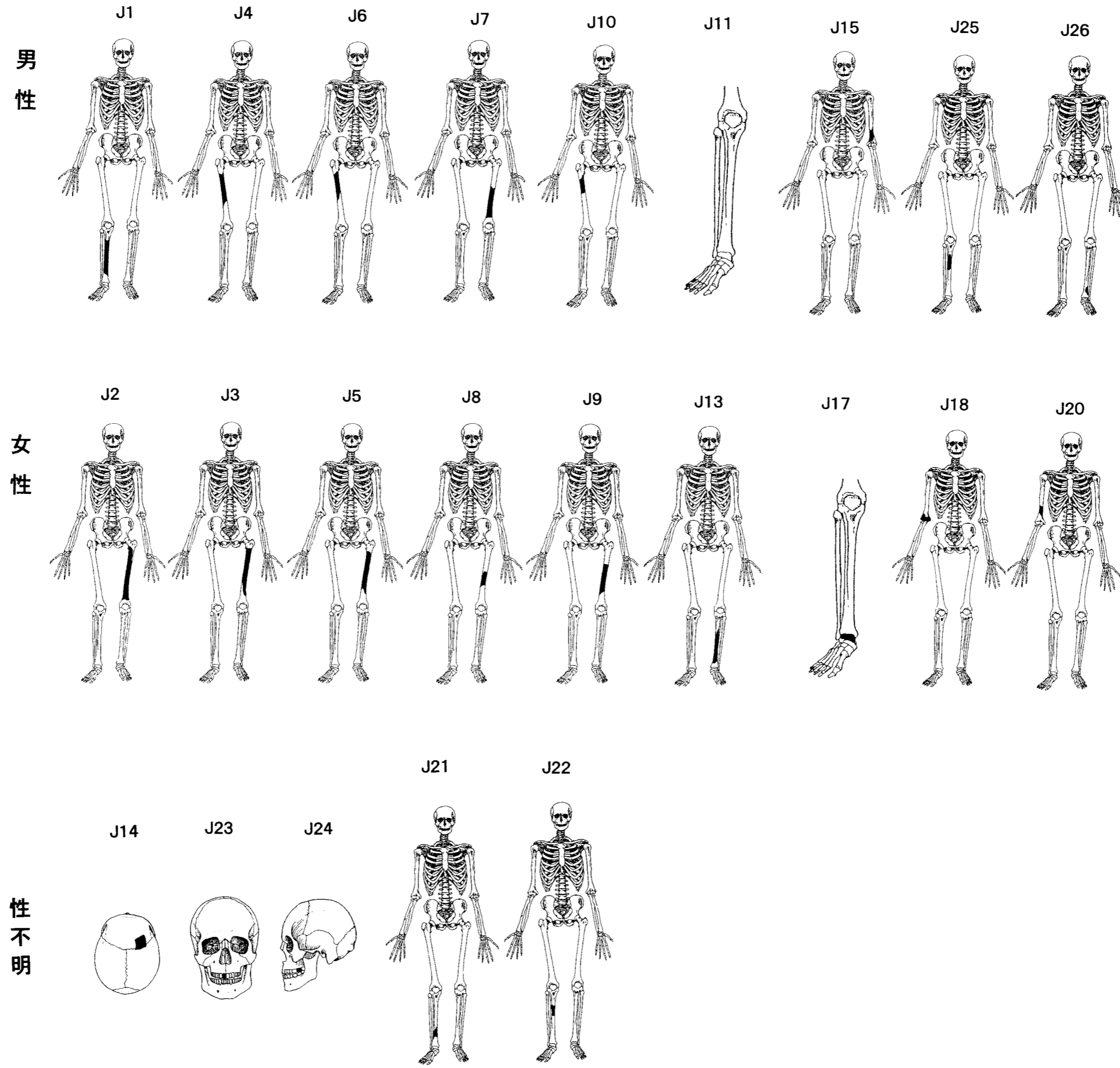


図1 出土人骨の部位



表 1. 居徳遺跡出土人骨

番号	性	年齢	部位	傷の有無
J 1	男性	成人	左脛骨	×
J 2	女性	成人	左大腿骨	○
J 3	女性	成人	左大腿骨	○
J 4	男性	成人	右大腿骨	○
J 5	女性	成人	左大腿骨	○
J 6	男性	成人	右大腿骨	×
J 7	男性	成人?	左大腿骨	×
J 8	女性	成人	左大腿骨	○?
J 9	女性	成人	左大腿骨	×
J 10	男性	成人	右大腿骨	×
J 11	男性?	成人	右足基節骨	×
J 13	女性	成人	左脛骨	×
J 14	?	熟~老年	頭骨片	×
J 15	男性	成人	左上腕骨	○
J 16	?	成人	頭骨片	×
J 17	女性?	成人	右距骨	×
J 18	女性	成人	右上腕骨	×
J 19	女性?	成人	大腿骨	×?
J 20	女性	成人	右上腕骨	×
J 21	?	成人	右脛骨	×?
J 22	?	成人	右脛骨	×?
J 23	?	成年	上顎右中切歯	—
J 24	?	熟年~	上顎左第二大臼歯	—
J 25	男性?	成人	右脛骨	×
J 26	男性?	成人	左脛骨	×

表2. 人骨数 (个体数)

部 位	男性		女性		不明			人骨数	最小 个体数
	右	左	右	左	右	左	—		
頭 蓋	—	—	—	—	—	—	2	2	1
齒	—	—	—	—	—	—	2	2	2
上腕骨	—	1	2	—	—	—	—	3	2
大腿骨	3	1	—	5	—	—	1	10	10
脛 骨	1	2	—	1	2	—	—	6	5
足 骨	1	—	1	—	—	—	—	2	2
人骨数	5	4	3	6	2	0	5	25	
最小个体数	3		6		1				10

表3 下肢骨計測値 (男性)

(mm)

	居德 (縄文)		津雲 <sup>1)</sup> (縄文)		吉胡 <sup>2)</sup> (縄文)		大友1-4次 <sup>3)</sup> (弥生)		北部九州 <sup>4)</sup> (弥生)		九州 <sup>5)</sup> (現代)	
	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
	大腿骨											
6 中央矢状径	3	30.0	47	29.0	66	29.8	41	28.6	162	29.7	59	26.5
7 中央横径	3	26.3	47	26.0	66	26.0	42	26.4	166	28.0	59	25.6
8 中央周	3	90.7	47	87.4	66	89.2	41	87.0	161	90.8	59	82.4
6/7 中央断面示数	3	114.0	47	111.8	66	114.8	41	108.6	162	106.4	58	103.8
脛 骨												
8a 栄養孔位最大径	1	35	38	35.2	55	34.2	35	34.5	153	36.5	60	30.6
9a 栄養孔位横径	1	25	38	22.2	54	23.3	36	23.3	153	25.3	61	23.7
10a 栄養孔位周	1	99	38	92.8	54	93.4	34	92.6	151	96.9	61	88.9
9a/8a 栄養孔位断面示数	1	71.4	38	63.0	54	68.0	35	67.7	152	69.5	60	77.5

1)池田 (1988)、2)石沢(1931)、3)松下 (1981)、4)中橋・永井(1989)

5)阿部(1955)、鑄鍋(1955)

表4 大腿骨計測値（女性）

(mm)

	居 徳 (縄文)		津雲 (縄文)		吉胡 (縄文)		北部九州 (弥生)		大友 (弥生)		九州 (現代)	
	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
1 最大長	1	370-380	22	388.2	19	386.2	34	405.5	5	386.8	13	380.1
6 中央矢状径	5	25.4	45	25.2	67	26.3	112	25.7	30	25.5	13	23.6
7 中央横径	5	23.6	45	24.2	67	24.5	112	26.3	30	25.2	13	23.2
8 中央周	5	76.4	45	78.0	68	80.8	111	81.5	29	80.4	13	74.2
6/7 中央断面示数	5	110.5	45	104.5	67	107.5	112	98.3	31	102.1	13	102.0

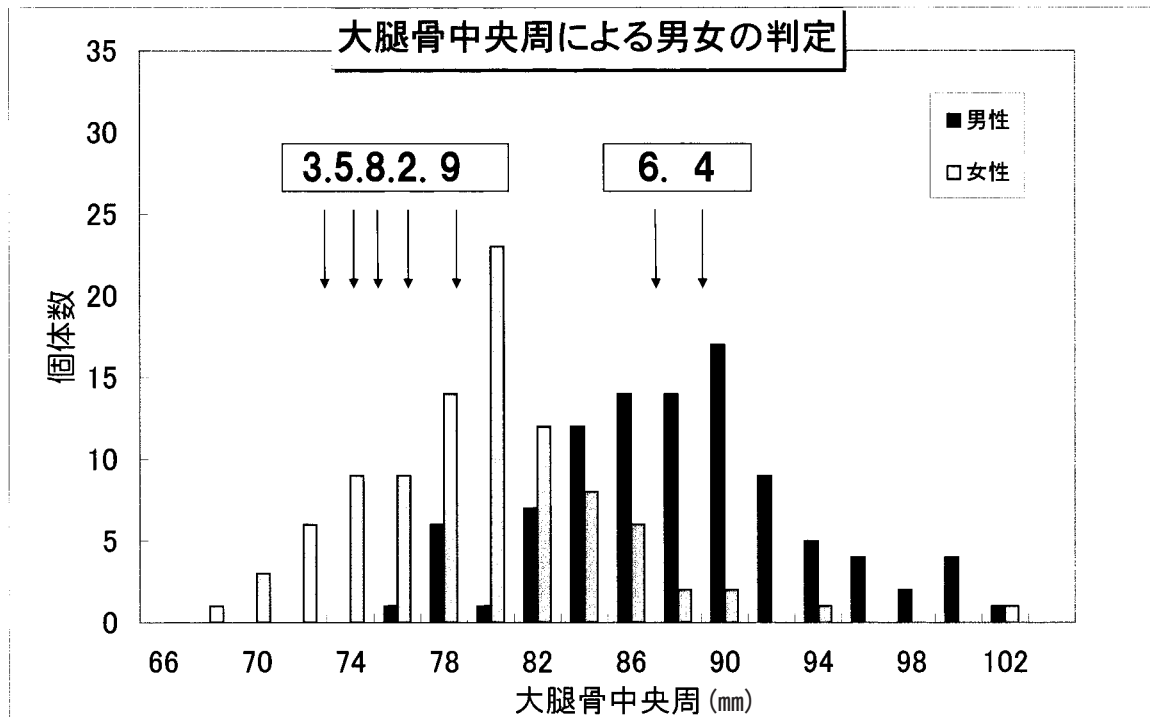


図2 大腿骨中央周による居徳人骨の性判定



(内側面)



(後面)



(外側面)

J 1 右脛骨



(前面)



(後面)

J 2 左大腿骨





(前面)



(後面)

J 3 左大腿骨



(前面)



(後面)

J 4 右大腿骨



(前面)



(後面)

J 5 左大腿骨



(前面)



(後面)

J 6 右大腿骨



(前面)



(後面)

J 7 左大腿骨



(前面)



(後面)

J 8 左大腿骨



(前面)



(後面)

J 9 左大腿骨



(内側面)



(後面)

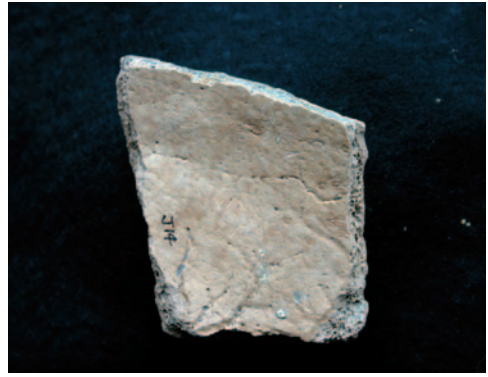


(外側面)

J 13 左脛骨

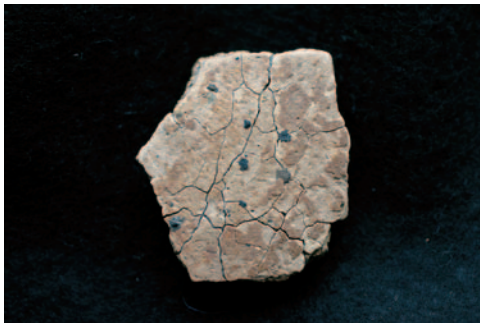


(外面)



(内面)

J 14 頭骨



(外面)



(内面)

J 16 頭骨



J 11 右基節骨



J 15 左上腕骨



J 17 右距骨



J 18 右上腕骨



J 19 大腿骨



J 20 右上腕骨



(外側面)



(内側面)

J 21 右脛骨



(内側面)



(前面)



(外側面)

J 22 右脛骨

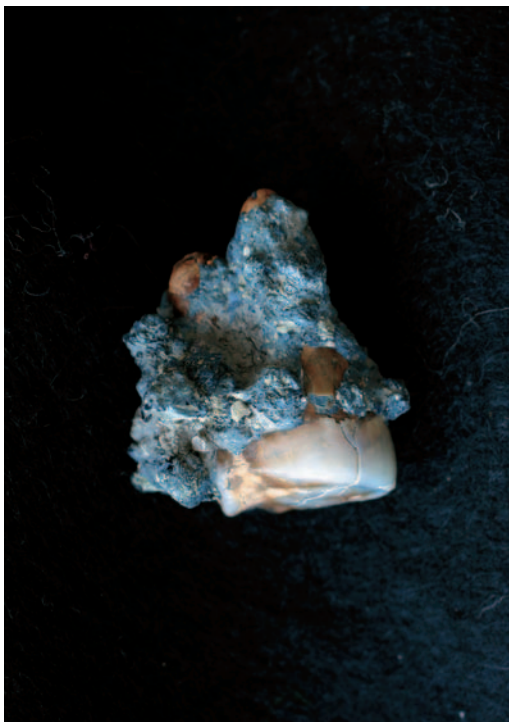


(唇側)

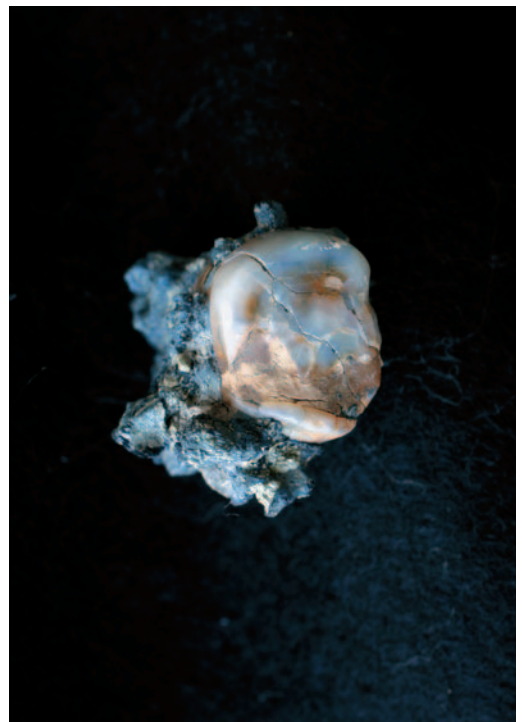


(舌側)

J 23 上顎右中切齒



(近心面)



(咬合面)

J 24 上顎左第二大臼齒





(内側面)

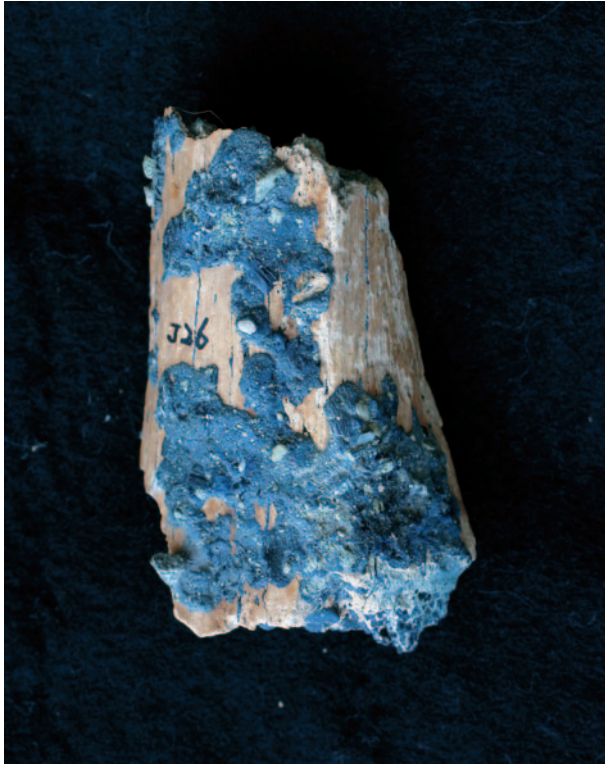


(前面)



(外側面)

J 25 右脛骨



J 26 左脛骨

## 付編3 高知県土佐市居徳遺跡群出土人骨，赤漆塗布土器片のウルシ，土器破片付着炭化物の<sup>14</sup>C年代測定

中村俊夫（名古屋大学年代測定総合研究センター）

### 1. はじめに

居徳遺跡群は，高知県土佐市高岡町乙居徳に所在する．遺跡群は，仁淀川西岸の谷地形部に位置し，沖積平野に埋没していた．1997-1998年に発掘調査が行われ，縄文時代後期～中世にわたる遺跡が多層的に遺存することが明かとなっている．特に，この遺跡から，殺傷痕・解体痕と解される痕跡を持つ人骨片が発見されており，それらの資料の年代の確定が必要とされている（高知県立埋蔵文化財センター・高知県立歴史民俗資料館，2002）．

本報告は，これらの痕跡を有する人骨片と共に出土した人骨片2点について，名古屋大学加速器質量分析計を用いて放射性炭素（<sup>14</sup>C）年代測定を実施した結果を報ずるものである．さらに，5点の縄文土器（縄文時代晩期）の破片に付着する炭化物，漆塗土器の破片の1点から採取したウルシの破片についてもあわせて<sup>14</sup>C年代測定を実施した．

### 2. 年代測定試料

人骨は，左の大腿骨が1点（J-7），右の大腿骨が1点（J-10）の計2点である（表1）．土器付着炭化物は，居徳遺跡群の4D区IVB層から出土した縄文時代晩期中葉から後葉にかけての土器の口縁部の破片の，土器の内面（1点）および外面（4点）にあたる面から採取された（表1）．

漆塗土器片は，居徳遺跡群の1A区Ⅲs層から出土した大洞式土器の破片で，表面に朱色のウルシが残存している．壺の一部とされる（高知県立歴史民俗資料館，2001）．この土器片から微量のウルシを採取し<sup>14</sup>C年代測定を行った．

### 3. 試料調製および加速器質量分析による<sup>14</sup>C年代測定と暦年代較正

#### 3.2. 試料調製

##### 3.2.1 人骨片の処理

骨粉末から硬タンパク質コラーゲンを回収して<sup>14</sup>C年代測定に用いた．試料処理に使用した骨試料の重量，酸に可溶性コラーゲン（SC）およびゼラチンコラーゲン（GC）の回収量，また，各コラーゲンから回収されたCO<sub>2</sub>量を表2に示す．骨試料の処理の概要は以下の通りである．デンタルドリルを用いて骨試料の表面から汚れを削り落とした．また，骨片試料の内部の一部には，黒色の無機物がこまかな結晶を作って塊（ビビアナイト，藍鉄鉱）になって沈着していた．これは，骨が堆積物中に埋没していた際に地下水により運ばれてきて骨片の内部に沈着したものと解されている．骨片の内部から骨の成分のみをデンタルドリルを用いて，削り取り，粉末として約5グラム採取した．骨からコラーゲンを抽出する方法は，セルロースチューブ法を採用した．骨片は，外見上，風化が激しく，骨

に含まれるコラーゲンは、ゼラチンコラーゲンから分子量の低い酸可溶コラーゲンへと分解が進んでいることが予想されたため、酸可溶コラーゲンも合わせて回収することを計画した。片方をクリップで止めた透析用のセルロースチューブに蒸留水を用いて骨粉末を流し込み、約15cmの長さになるように他端をクリップで止めた。これを、0.6規定塩酸に浸し、冷蔵庫内（4℃程度に保つため）で脱灰した。丸一日の塩酸処理の後、セルロースチューブを蒸留水に浸してチューブ内の塩酸成分を透析して完全に除去した。溶液をろ過して回収し、凍結乾燥し酸可溶性コラーゲンを回収した。一方、固形の残留物については、0.1規定水酸化ナトリウムによる処理、つづいて0.6規定塩酸による処理を行ったあと蒸留水で洗浄し、それを試験管に移し、0.01規定塩酸30mlを加えて、90℃で12時間加熱して、ゼラチンコラーゲンを可溶成分として回収し、凍結乾燥した。

2個の人骨試料について、コラーゲンの収量及び収率を表2に示す。J-10試料は、風化がひどく、ゼラチンコラーゲンは極微量しか含まれず、回収を断念した。骨試料からコラーゲンを抽出する方法の詳細については、南・中村（2000）、Minami & Nakamura（2000）、武藤（2001）を参照されたい。抽出されたコラーゲン試料から約6-10mgを取り、約500mgの線状酸化銅と長さ1cm、外径0.1mmの線状銀片3本と共に外径6mm、長さ5cmのVycor管に入れ、それを約500mgの線状還元銅と共に外径9mm、長さ30cmのVycor管に入れて真空ラインで排気して封管した。試料を入れたVycor管を900℃で2時間加熱して二酸化炭素を得た。次に、真空ライン中で、液体窒素（-196℃）、液体窒素により冷却したペンタン（-128℃）、およびエタノールと液体窒素の混合物（約-100℃）を寒剤として用いてイオウ酸化物や水分を除去して二酸化炭素を精製した。各コラーゲン成分の収量、収率、二酸化炭素の収量、収率を表2に示す。

### 3.2.2 ウルシ試料の処理

漆塗土器片の表面から、カッターナイフを用いてウルシ部分を削り取った。その重量を表3に示す。試料は、蒸留水に浸して超音波洗浄し、汚れを取り除いた。次に、1.2規定塩酸で90℃で2時間の処理を2回繰り返し炭酸塩等を溶解除去した。さらに、1.2規定水酸化ナトリウム水溶液を用いて90℃で2時間処理してフミン酸などを溶解除去した。このアルカリ処理を2回繰り返した。さらに、1.2規定塩酸で90℃で2時間の処理を2回繰り返し、蒸留水でよく洗浄して塩酸分を完全に除去したあと乾燥した。外径9mmのバイコール管に、約500mgの線状酸化銅と共に乾燥したウルシ破片試料を入れ、真空ラインに接続して排気したあと封管した。これを電気炉内で900℃にて約2時間加熱して、試料中の炭素を燃焼して二酸化炭素に変えた。二酸化炭素は、骨コラーゲンから得た二酸化炭素と同様に精製した。回収された二酸化炭素の量は炭素にしてほぼ3mgであり、乾燥試料からの収率は重量比で42%であった。これは通常の植物片などに対する収率とほぼ一致する。

### 3.2.3 土器付着炭化物の処理

土器付着炭化物試料は、高知県立埋蔵文化財センターにて、土器片から採取されたものが名古屋大学に送られた。試料の重量を表4に示す。試料を1.2規定の塩酸を用いて80℃で2時間、2回処理

した。次に、蒸留水で洗浄のあと0.12規定の水酸化ナトリウム溶液で室温で24時間放置した。溶液をすてて、同様の処理を再度行った。1回目のアルカリ処理で大半の固形物が溶解して失われたが、2回目のアルカリ処理で固形物はほぼ完全に失われた。そこで、2回目のアルカリ処理で残った溶液からフミン酸を回収した。アルカリ溶液に濃塩酸を加えて、フミン酸を凝結させ、100mlの遠沈管に移した。3000rpmで10分間遠心分離して塩酸溶液を捨てて蒸留水で洗浄したあと、フミン酸の入った遠心管を蒸留水に浸して加熱し、遠心管の内容物を蒸発乾固した。回収されたフミン酸試料の重量を表4に示す。I-7284, -7329の2試料は、量が少なかったため、遠心管にキャリアーとして粉末状の酸化銅を加えて試料と良く混ぜて回収し次の操作に用いた。

試料は、500mgの線状酸化銅と共に外径9mm、長さ350mmのバイコール製の試験管に入れ、真空装置に接続して高真空に排気したあと、300mmの長さに封じ切った。これを900℃に2時間加熱して、試料中の炭素を完全に燃焼して二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)に変えた。こうして得たバイコール管中のガスを真空装置を用いて回収し、冷媒を用いて精製し純粋なCO<sub>2</sub>を得た。

#### 3.2.4 グラファイトの合成

回収された二酸化炭素の一部(炭素にして1.0~2.0mg)を、約3mgの鉄粉末を触媒として水素で還元してグラファイトを得た(Kitagawa et al, 1993)。次に、グラファイトを乾燥したのちアルミニウム製の試料ホルダーに圧入し、検査試料として名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計2号機のイオン源に装填した。

<sup>14</sup>C年代測定に不可欠な、<sup>14</sup>C濃度が既知の標準体については、米国国立標準技術研究所(NIST)から提供されている国際的な標準体であるシュウ酸(NIST-SRM-4990C, HOxII)を用いた。シュウ酸標準体の約7mgを約100mgの線状酸化銅と共にパイレックス管に入れて排気したあと封管し、500℃にて2時間加熱することによって完全に燃焼して二酸化炭素を得た。次に真空ライン中で、液体窒素およびエタノールと液体窒素の混合物(-100℃)を寒剤として用いて二酸化炭素を精製したあと、グラファイトに還元し、これをアルミニウム製の試料ホルダーに圧入して<sup>14</sup>C年代測定のための<sup>14</sup>C濃度標準体として用いた。

#### 3.3 加速器質量分析計による<sup>14</sup>C年代測定と暦年への較正

上述のようにして、人骨片、ウルシ片、土器付着炭化物試料およびシュウ酸標準体から調製した固形の炭素試料について、タンデトロン2号機を用いて<sup>14</sup>C年代測定を行った。タンデトロン2号機では、<sup>14</sup>Cと<sup>12</sup>Cの存在比(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比(=R))が未知試料(R<sub>sample</sub>)と<sup>14</sup>C濃度が既知の標準体(R<sub>AD1950</sub>)とについて測定され、R<sub>sample</sub>/R<sub>AD1950</sub>比が得られる。また、タンデトロン2号機では<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比も測定できる。測定されたR<sub>sample</sub>/R<sub>AD1950</sub>比について、タンデトロン2号機で測定された $\delta^{13}\text{C}$ を用いて炭素同位体分別の補正を行ったのち、試料の<sup>14</sup>C年代値(conventional <sup>14</sup>C age:同位体分別補正<sup>14</sup>C年代)を算出した(中村, 2001)。<sup>14</sup>Cの半減期としては、国際的な慣例に従って、Libbyの半減期5568年を用いた。<sup>14</sup>C年代値は、西暦1950年から遡った年数として与えられる。測定結果を表1に示す。

次に、得られた同位体分別補正<sup>14</sup>C年代を、<sup>14</sup>C年代-暦年代較正データセット (INTCAL98, Stuiver, et al., 1998) および較正プログラムCALIB Rev.4.3 (Stuiver and Reimer, 1993) を用いて暦年代に較正した。表1の較正暦年代の欄には、<sup>14</sup>C年代が較正データと交わる点 (暦年代較正值) および1標準偏差で求めた暦年代範囲が可能性の確率を付けて示されている。<sup>14</sup>C年代が較正データと交わる点は、較正データのでこぼこに応じて複数になる場合がある。

#### 4. 考察

人骨片試料は、風化がひどくコラーゲンの回収率が低い。J-7試料では、回収率は、酸可溶コラーゲン成分が0.4%、ゼラチンコラーゲン成分が0.5%であった。また、J-10試料の回収率は、酸可溶コラーゲン成分が0.12%で、ゼラチンコラーゲン成分は極微量なため回収できなかった。一方、コラーゲンからCO<sub>2</sub>の回収は、それぞれのコラーゲン成分で36.5、37.6、42.0%と高く、これらの値は、新鮮なコラーゲンについての値である41-42% (中村ほか, 1996) とよく一致している。また、タンデトロン2号機で測定した値ではあるが、J-7試料の両コラーゲン成分の $\delta^{13}\text{C}$ 値は-18~-19‰と、C3植物を食する哺乳動物の骨コラーゲンの $\delta^{13}\text{C}$ 値である-21~-23‰とほぼ調和的である。人の場合は、海産物も合わせて食することで、 $\delta^{13}\text{C}$ 値が重い値の方に少し移動することはあり得るため、-18~-19‰は人骨コラーゲンとして妥当な値と考えられる。他方、J-10の酸可溶コラーゲンの $\delta^{13}\text{C}$ 値は-28‰と低い値であり、C3植物起源の炭素が回収されたコラーゲンに混入した可能性が考えられる。骨片が埋積していた堆積物中には、骨と同年代の植物片が存在していたはずである。以上のことから、新鮮な骨コラーゲンの主成分であるゼラチンコラーゲンが、J-7試料では0.5%残っており、それをきちんと分離、抽出して<sup>14</sup>C年代測定が実施できたものと考えられる。すなわち、J-7試料のゼラチンコラーゲン成分の<sup>14</sup>C年代値である2960±34 BPは、骨片試料の<sup>14</sup>C年代と考えてほぼ間違いないと考える。もちろん、コラーゲンの回収率が低いことなど、年代測定試料としての適性に問題がある点もあり、今後、さらに追加試料の年代測定を実施する必要がある。

大洞系の土器は、大洞B1式、大洞B2式、大洞BC式、大洞C1式、大洞C2式、大洞A1式、大洞A2式、大洞A'式に細分され、較正暦年代は1250 cal BC~400 cal BCまでとされる。今回の大洞式土器に塗られたウルシの較正暦年代は500~400 cal BCと得られており、大洞系土器の最終の様式に近いものと考えられる。

居徳遺跡群の4D区IVB層から出土した土器片の付着炭化物の<sup>14</sup>C年代は2672±30~2876±33 BPと得られ、較正暦年代は1114~800 cal BCの範囲にある。今後、土器型式との対応付けを行う必要がある。

#### 5. おわりに

今回の<sup>14</sup>C年代測定の結果に基づき、人骨片や土器片の編年を組み立てる必要がある。人骨片の較正暦年代が1260~1130 cal BCであるとする、縄文時代晩期に区分される。松井が主張するように (高知県立埋蔵文化財センター・高知県立歴史民俗資料館, 2002)、同層から得られた人骨に殺傷痕・解

体痕が確認されれば、大変興味深い事例となる。これらの人骨片試料については、今後引き続き年代の検討を行う予定である。

この居徳遺跡群では、広範な年代範囲をカバーして多様な土器が出土している。これらの考古学的な土器編年は既に行われているが、高精度<sup>14</sup>C年代測定に基づいた数値年代による編年を行うことが今後の重要な課題であろう。

#### 参考文献

Kitagawa, H., Masuzawa, T., Nakamura, T. and Matsumoto, E. (1993) A batch preparation method of graphite targets with low background for AMS <sup>14</sup>C measurements. *Radiocarbon*, 35, 295–300.

高知県立歴史民俗資料館 (2001) 居徳遺跡. 開館10周年関連企画展, pp.48.

高知県立埋蔵文化財センター・高知県立歴史民俗資料館 (2002) 居徳人骨—殺傷痕・損傷痕を有する人骨の出土—. 展示資料, pp.8.

南 雅代・中村俊夫 (2000) XAD-2 樹脂処理法による化石骨のAMS<sup>14</sup>C年代—ゼラチン抽出法との比較—. 第四紀研究, 39 (6), 547–557.

Minami, M. and Nakamura, T. (2000) AMS radiocarbon age for fossil bone by XAD-2 chromatography method. *Nucl. Instr. and Meth. in Phys. Res. B172*, 462–468.

武藤宏男 (2001) 加速器質量分析計による化石骨のC-14年代測定—試料前処理法の検討—. 名古屋大学大学院人間情報学研究科2000年度修士論文, pp.61.

中村俊夫・中井信之 (1988) 放射性炭素年代測定の基礎—加速器質量分析法に重点をおいて—. 地質学論集, 29, 83–106.

中村俊夫・大塚裕之・奥野 充・太田友子 (1996) 東シナ海の大陸棚および琉球弧の海底から採取された哺乳類化石の加速器質量分析法による<sup>14</sup>C年代測定. 地学雑誌, 105 (3), 306–316.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. (長友恒人, 編) 考古学のための年代測定学入門. 古今書院. p.1–36.

中村俊夫 (2001) 放射性炭素年代測定とその高精度化. 第四紀研究, 40 (6), 445–459.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended  $^{14}\text{C}$  data base and revised CALIB 3.0  $^{14}\text{C}$  age calibration program. *Radiocarbon*, 35 (1) , 215–230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 radiocarbon age calibration, 24,000–0cal BP. *Radiocarbon*, 40 (3) , 1041–1083.

表1. 高知県土佐市居徳遺跡群出土人骨, 赤ウルシ塗土器片のウルシ, 土器破片付着炭化物試料の説明と<sup>14</sup>C年代測定結果

試料番号	試料採取地区	試料物質	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (permil)	<sup>14</sup> C age (BP)	<sup>14</sup> C年代の較正暦年代(Stuiver et al,1998) * 上段: 暦年代較正值 下段: $\pm 1\sigma$ の暦年代範囲 (probability)	測定番号 (NUTA2-)
人骨片						
1	J-7	ヒト, 大腿骨(左), 酸可溶性コラーゲン成分(SC)	-19 $\pm$ 1	2837 $\pm$ 33	Cal BP 2948 Cal BP 2969-2917 (59.4%) Cal BP 2911-2873 (40.6%)	4319
2	J-7	ヒト, 大腿骨(左), ゼラチンコラーゲン成分(GC)	-18 $\pm$ 1	2960 $\pm$ 34	Cal BP 3158, 3149, 3140, 3126, 3112, 3089 Cal BP 3208-3179 (22.5%) Cal BP 3169-3075 (77.5%)	4320
3	J-10	ヒト, 大腿骨(右), 酸可溶性コラーゲン成分(SC)	-28 $\pm$ 1	2989 $\pm$ 44	Cal BP 3207, 3185, 3164 Cal BP 3250-3218 (17.6%) Cal BP 3214-3155 (40.3%) Cal BP 3153-3137 (10.5%) Cal BP 3130-3099 (18.5%) Cal BP 3092-3078 (10.0%)	4331
4	J-10	ヒト, 大腿骨(右), ゼラチンコラーゲン成分(GC)			収量が非常に少ないため測定不可	
赤ウルシ塗土器片のウルシ						
5	97-8IT. IA C25-24IIIs	赤ウルシ	-31 $\pm$ 1	2376 $\pm$ 28	Cal BP 2353 Cal BP 2450-2438 (10.5%) Cal BP 2433-2412 (28.6%) Cal BP 2399-2389 (13.5%) Cal BP 2376-2371 (5.8%) Cal BP 2362-2345 (41.6%)	7015
居得遺跡群 4D 区 IVB 層出土縄文土器 (晩期中葉~後葉)						
6	7207, I10-22	深鉢, 口縁部片, 外面, 付着炭化物のフミン酸	-24 $\pm$ 1	2876 $\pm$ 33	Cal BP 2968 Cal BP 3063-3045 (13.6%) Cal BP 3041-3005 (26.8%) Cal BP 3003-2948 (56.3%)	6048



7	7283, I11-7	深鉢, 口縁部片, 外面, 付着炭化物のフミン酸	-24±1	2842±34	Cal BP 2949 Cal BP 2999-2977 (9.8 %) Cal BP 2973-2918 (58.6 %) Cal BP 2909-2877 (31.6 %)	6049
8	7284, I11-7	深鉢または鉢 口縁部片, 外面, 付着炭化物のフミン酸	-27±1	2826±35	Cal BP 2945, 2940, 2923, 2899, 2893 Cal BP 2957-2915 (502 %) Cal BP 2913-2869 (49.8 %)	6051
9	7317, I11-7	深鉢, 口縁部片, 内面, 付着炭化物のフミン酸	-25±1	2672±30	Cal BP 2772 Cal BP 2783-2751 (97.1 %)	6139
10	7329, I11-7	深鉢, 口縁部片, 外面, 付着炭化物のフミン酸	-27±1	2753±31	Cal BP 2849 Cal BP 2866-2839 (36.9 %) Cal BP 2830-2785 (63.1 %)	6141

注意事項

○<sup>14</sup>C年代値はBPの単位で、西暦1950年から過去へ遡った年数で示してある。

<sup>14</sup>Cの半減期として、国際的に用いられているLibbyの半減期5,568年を用いて<sup>14</sup>C年代値を算出した。

○年代値の誤差は one sigma (±1σ; 1標準偏差)を示した。これは、同じ条件で測定を100回繰り返したとすると、測定結果が誤差範囲内に入る割合が68回である事を意味する。誤差を表示の2倍 (±2σ; 2標準偏差)にとると、誤差範囲に入る割合は95回になる。

○δ<sup>13</sup>C<sub>PDB</sub>を用いて炭素同位体分別の補正を行った。すなわち、Conventional <sup>14</sup>C age (同位体分別補正<sup>14</sup>C年代)である。

○\*) <sup>14</sup>C年代値から暦年代への較正は、樹木年輪についての<sup>14</sup>C濃度測定から得られた較正データを用いる。ここでは、INTCAL98 較正データ (Stuiver, M. et al, 1998, Radiocarbon, 40, p.1041-1083) と較正プログラム CALIB Rev 4.3 (Stuiver & Reimer, 1993, Radiocarbon, 35, 215-230) を用いて較正を行った。

較正暦年代はcal BPの単位で、西暦1950年から過去へ遡った年数で示してある。

○\*) 暦年代は、<sup>14</sup>C年代値が、<sup>14</sup>C年代値-暦年代較正曲線と交わる点の暦年代値、および真の年代が入る可能性が高い暦年代範囲で示す。また、真の年代が、表示されたすべての範囲のどれかに入る確率が68% (1σ)である。年代範囲の後に示された確率は、68%のうちで、さらに特定の年代範囲に入る確率を示す。また、確率が5%より小さい場合には記載を省略した。

表2 人骨片からの炭素回収量

試料番号	コラーゲン回収		CO <sub>2</sub> 生成	
	骨片粉末試料の量 (g)	コラーゲン回収量 (mg, %)	コラーゲン使用量 (mg)	CO <sub>2</sub> 収量 (mgC, %)
J-7	5.32	SC:21.2 (0.40)	SC:9.63	4.04 (42.0%)
		GC:26.7 (0.50)	GC:10.00	3.67 (36.5%)
J-10	4.98	SC:5.94 (0.12)	SC: 5.94	2.23 (37.6%)
		GC:ごく微量		

SC:塩酸に可溶性コラーゲン成分

GC:ゼラチンコラーゲン成分

表3 漆塗土器片から採取したウルシ成分中の炭素の回収量

試料番号	ウルシ試料の量* (mg)	AAA 処理後の試料量** (mg)	CO <sub>2</sub> 収量 (mg)
97-8IT.IA	17.43	7.79	3.25 (41.7)

\*土器片の表面から削り取ったウルシを含む試料の量

\*\*AAA 処理とは、塩酸・水酸化ナトリウム・塩酸による一連の化学処理をいう

表4 土器付着炭化物からの炭素回収量

試料番号	炭化物試料量 (mg)	フミン酸回収量 (mg)	CO <sub>2</sub> 回収量 (mg, %)
I-7207	38.20	9.97	5.40 (54.2)
I-7283	36.15	5.09	4.41 (86.7)
I-7284	11.47	微量	0.85
I-7317	50.26	10.95	5.81 (54.9)
I-7329	微量	微量	2.40

フミン酸は、試料の2回目のアルカリ処理で回収したアルカリ可溶性成分である。

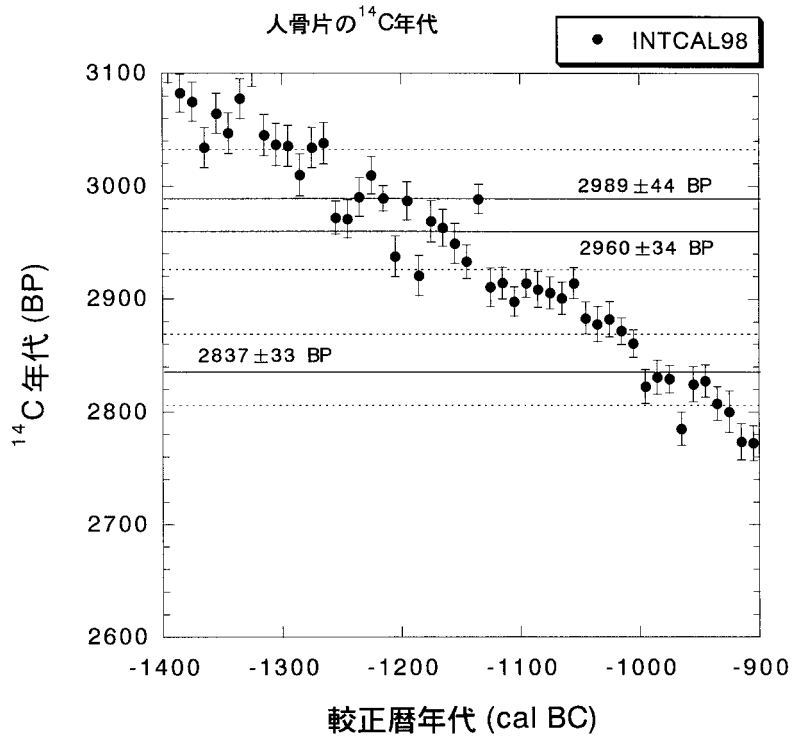


図1 居徳遺跡群で採取された人骨片の $^{14}\text{C}$ 年代と暦年代較正データ  
 点線は誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲を、また横軸のcal BCは較正暦年代を紀元前で表わす.

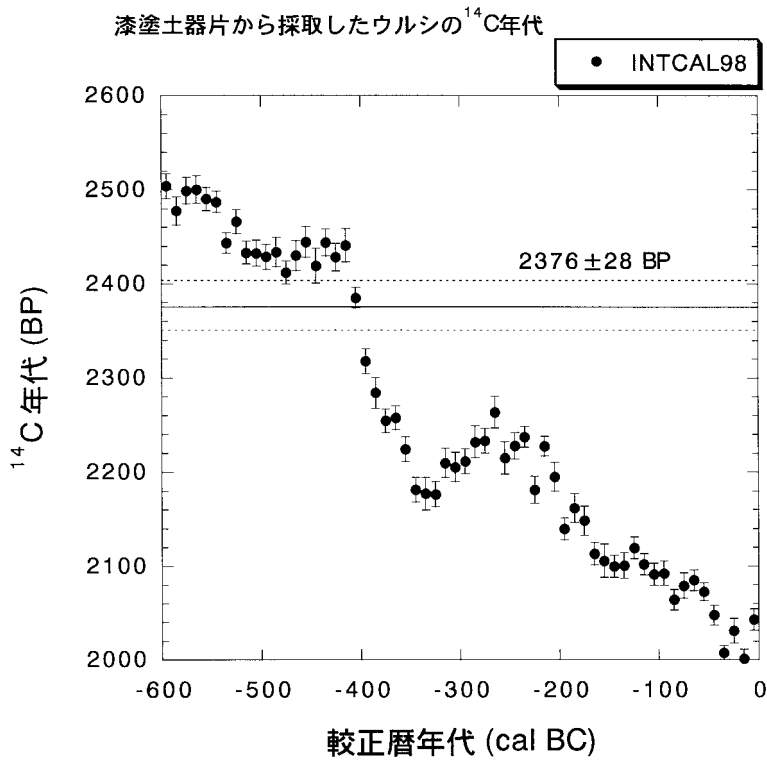


図2 居徳遺跡群で発掘された漆塗土器片から採取されたウルシ片の $^{14}\text{C}$ 年代と暦年代較正データ  
 点線は誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲を、また横軸のcal BCは較正暦年代を紀元前で表わす.

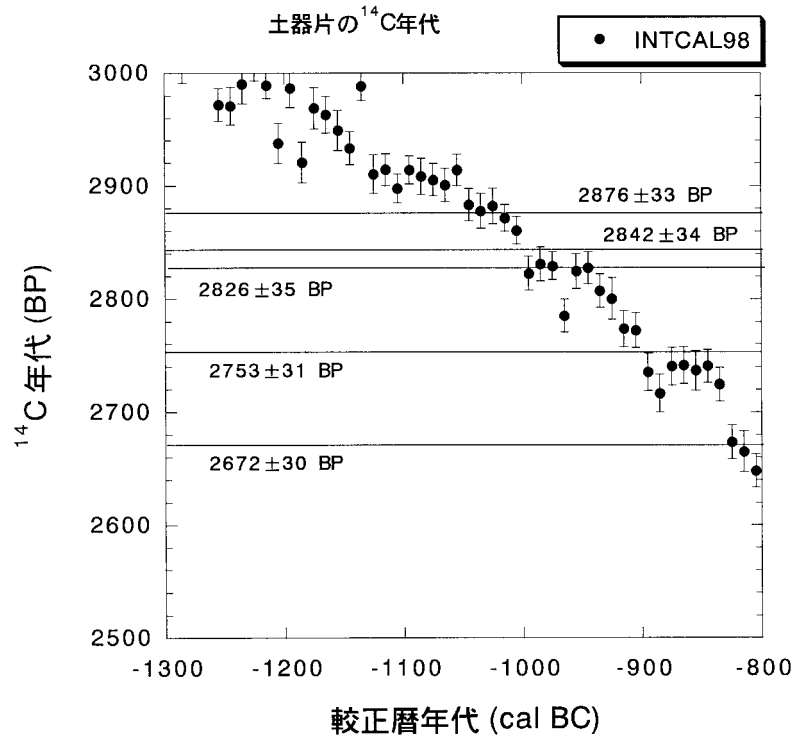


図3 居徳遺跡群で発掘された土器片の付着炭化物の<sup>14</sup>C年代と暦年代校正データ  
 横軸のcal BCは校正暦年代を紀元前で表わす。

## 付編4 居徳遺跡出土古人骨のコラーゲン同位体分析

南川雅男（北海道大学大学院地球環境科学研究科）

### 1 まえがき

居徳遺跡出土人骨について、生前の食物資源利用の傾向を知る目的で、古人骨コラーゲンの安定同位体分析を行った。人骨に残留したタンパク質（コラーゲン）の炭素・窒素は、個人の生前の食生活の中で取り込まれた食糧資源の組成を反映していることが知られている。特に、海産動物、陸上植物、雑穀など、資源のタンパク質の炭素、窒素の同位体組成が大きく異なっている資源を比較的長期間利用していた個体は、コラーゲンの同位体組成から利用の程度を推定できると期待される（文献1）。本研究では、居徳遺跡で出土した人骨1体について同位体分析を行った。この方法で食生活の特徴を詳細に解析するためには、人骨の分析だけでなく、同時代、同地域の食糧資源の同位体組成を可能な限り詳細に復元することが必要となる。本遺跡では、出土土器内に残された食物内容物残渣（こげ）の同位体分析が行われているが（文献2）、それ以外の食資源についてはまだ十分な分析は行われていない。そのような制限があるものの、人骨の同位体組成が得られれば、他の集団との比較から、海産物の利用度や、植物資源への依存度はおおむね推定できると考えられる。

### 2 試料と同位体分析の方法

試料は居徳遺跡出土の人骨の大腿骨である。骨は埋蔵環境下でのリン酸鉄の析出が認められ、有機成分の保存については必ずしも望ましい状態ではなかった。骨の表層の硬質部を削り取って分析に供した。骨コラーゲンの抽出方法は文献1に記述された方法で行った。脱イオン水を用いて超音波洗浄により土壌等の汚染物を極力取り除いた後乾燥し、以下に述べる化学処理を行った。当初骨粉約2gを使用してコラーゲンの抽出を試みたが、保存が悪く十分な試料が回収できなかった。そこで再度約10gの試料を削りだし、抽出を行った。0.1N水酸化ナトリウムにより腐植質を溶解し取り除いた。水洗とアルカリ処理をくり返した後、クロロホルム・メタノール混合溶媒で有機性の汚染物を除去した。乾燥後、低温で希塩酸による脱炭酸処理を行った。脱イオン水で数回洗浄後95℃で12時間ゼラチン成分を溶出した。溶液をガラスフィルターでろ過し、濾液を凍結乾燥した。得られた約20mgの固形物はゲル状を呈しており充分乾燥することはできなかった。大半を回収し分析用試料とした。その一部を錫製の容器に採取し、FISONS・N1500型元素分析計で炭素、窒素含量を測定し、同時に生成したCO<sub>2</sub>とN<sub>2</sub>ガスをサーモクエスト製同位体比質量分析計（フィニガンMAT252）に導入し、<sup>15</sup>N/<sup>14</sup>N、<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cを分析した。標準試料による繰り返し分析誤差は $\delta^{13}\text{C}$ は $\pm 0.1\%$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ は $\pm 0.1\%$ であった。

### 3 元素分析の結果

コラーゲンは飴色で湿潤なため正確な秤量が困難であった。そのため炭素窒素含量は得られなかった。しかし、元素分析の結果、残存状態や夾雑有機物の有無の目安となる炭素窒素原子比(C/N比)は3.5であり、汚染はないと判断した。2回の分析結果を平均して表1の結果を得た。

#### 4 同位体組成の測定結果

本試料の $\delta^{13}\text{C}$ は $-20.3\%$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ は $6.2\%$ であった(表1)。この結果と、すでに食性解析例が報告されている、縄文時代後期・晩期遺跡の分析結果と比較した(図1)。本試料の同位体組成(●)に比較的近い値を示した遺跡は、長野県北村遺跡(□:縄文後期)や広島県帝釈峡寄倉(◇:縄文後期)、あるいは千葉県加曽利貝塚(▼:縄文後期)の一部であった。北村や寄倉遺跡の人骨についてはすでに同位体解析が行われており、それぞれ陸上植物の利用度が高い集団であったことが報告されている(文献3)。その結果と対比すると、居徳遺跡人も同様に陸上植物の利用度がかなり高い個体だったことが推定される。また、加曽利貝塚で代表される関東地方の縄文人は平均的には海産物も利用していたが、その割合はタンパク質で20%程度と見積もられている。居徳人に近い個体はそれらよりさらにドングリなどの陸上植物の利用度の高い個体であることから、関東地方の貝塚人と同様に、高い割合で陸上植物資源を利用していたと見るべきだろう。

食糧資源との関係をさらに詳しく見るために、骨コラーゲンの $\delta$ 値から、そのような骨コラーゲンを生じるために摂取したはずの食資源の $\delta$ 値(利用食物の $\delta$ 値)を求め、それらと既知の主要食資源との比較を行った(図2)。利用食物の $\delta$ 値を求めるには文献1により報告されているとおり、骨と食料の間の同位体分別定数( $\Delta$ )を用いた。すなわち骨コラーゲンの $\delta^{13}\text{C}$ が $-20.3\%$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ が $6.2\%$ であったことから、生前の食料の平均値は $\delta^{13}\text{C}$ は $-23.2\%$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ は $0.9\%$ だと推定できる。主要な食資源が持っている本来の値(図中の楕円囲い)が多量に利用されると、利用食物の $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ もその値に近くなることになる。距離(矢印)が遠い資源ほど、利用の程度が低くなる。この図からも、居徳遺跡人は陸上C3植物への依存度が高かったことが示される。また、陸獣の肉資源や海産魚類の寄与が比較的少なく、C4型植物(ヒエ、アワなど)の利用はほとんどないことがわかった。

#### 5 考察

図2に斜線域で示したのは文献2で報告されている土器付着内容物の $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ の分布範囲である。今回の人骨の同位体組成から得られた利用食物の $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ は、この土器内容物の値と非常に近いことがわかる。言い換えれば、この個体はこの土器に残された食料と同じような材料の食物を利用しており、それも骨に記録されるほど長期間にわたって摂取していたということが出来る。その内容物が何であるかは形態からは明らかでないが、同位体分析から判断してドングリやクリなどのC3植物であったことは間違いなからう。やや内陸だとはいえ、水産物の利用はきわめて少なく、海岸部との資源の流通や淡水水産資源の利用は限られていたことが想像されるが、この結果はやや意外である。獣肉の利用度もそう高くないので、動物性タンパク質を何から得ていたのか、興味深い問題である。

#### 6 引用文献

- (1) 南川雅男、アイソトープ食性解析法、「第四紀試料分析法」第四紀学会編、東京大学出版、404-414 (1993)
- (2) 藤根久、ロムタティゼ・ザウリ、土器の内容物分析、「居徳遺跡群IV」四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、307-309 (2003)

(3) 南川雅男、炭素窒素同位体分析により復元した先史日本人の食生態、「国立歴史民俗博物館研究報告」第86集、333-357頁(2001)

表1 居徳遺跡出土人骨の同位体分析の結果

Code	コラーゲン抽出率	分析量 (mg)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{15}\text{N}$ (‰)	C 含量 (%)	N 含量 (%)	C/N
ITK	*	0.924	-20.3	6.2	*	*	3.5

注：\*はゼラチンが湿潤なため測定不能

図1 居徳遺跡人と他の縄文遺跡人との $\delta$ 値の比較

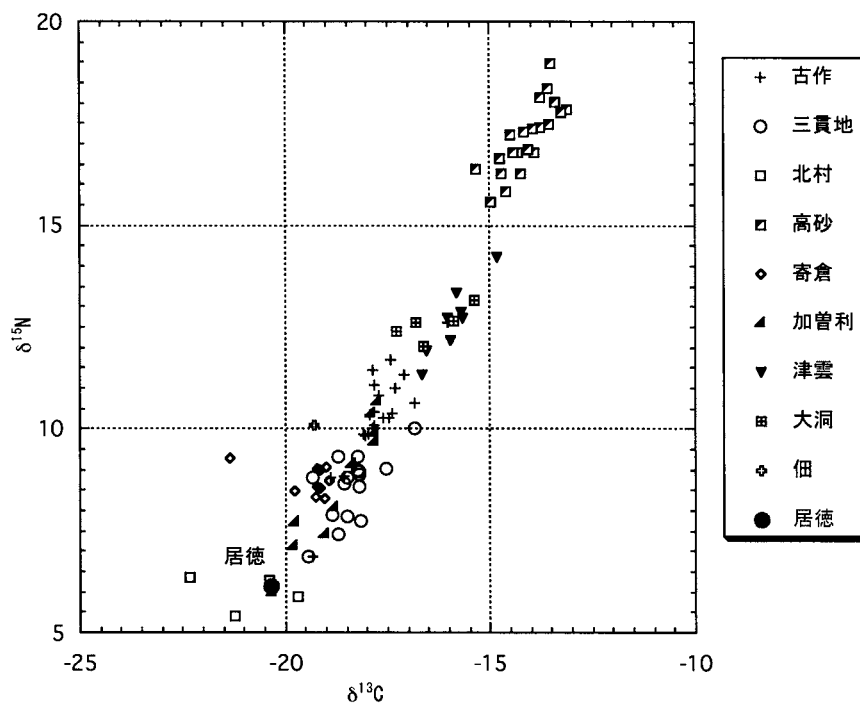
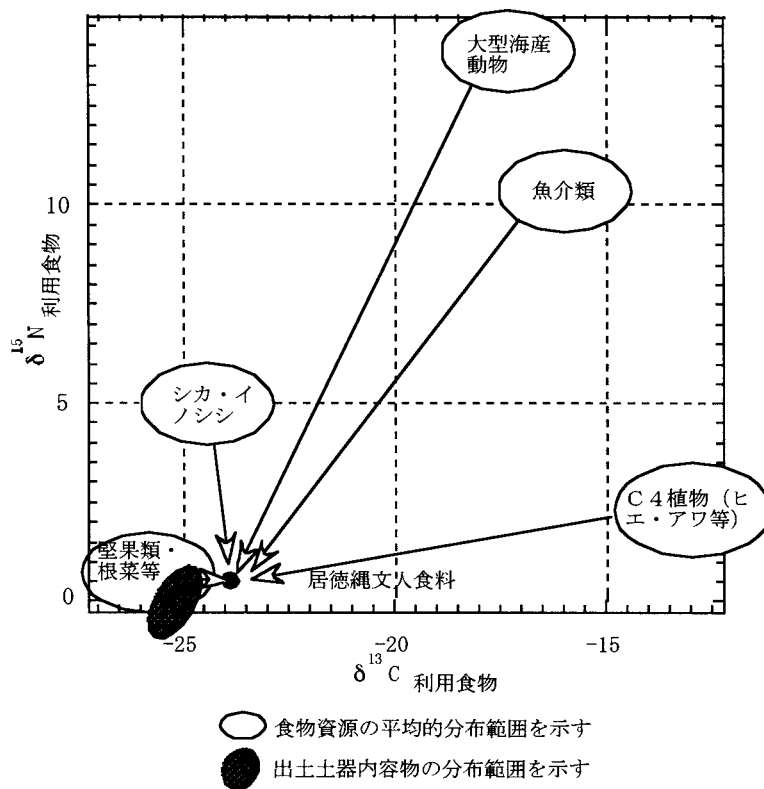


図2 居徳遺跡人の利用食物の特徴





## 付編5 高知県土佐市居徳遺跡出土鍬柄の実年代について

国立歴史民俗博物館 情報資料研究部

今村峯雄・坂本 稔・永嶋正春

### 1. はじめに

居徳遺跡は、四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設にともなって発掘された遺跡群で、高知県土佐市に所在する。居徳遺跡4C区の自然流路跡の包含層から、木製鍬が二点出土している。この層からは、縄文時代後期から晩期の遺物が、検出されている。木製鍬の一点について、柄の一部から小片資料の提供を受け、炭素14 ( $^{14}\text{C}$ ) 法による年代測定を行ったのでその結果を報告する。

### 2. 資料について

資料は、居徳遺跡群、4C区からの2点の木製鍬のうちの一点である（文献1の挿図338の下部柄に相当）。2点の木製鍬は、第X層のシルト層面に検出された船底型の自然流路SR-1に堆積した2層面に、縄文晩期土器を主体とする土製品・石製品・木製品遺物とともに検出されている<sup>1)</sup>。鍬本体の法量は、全長30.2cm、全幅11.6cm、全厚6.0cmで、樹種はアカガシ、また、この鍬の柄と想定される部分の樹種はサカキである。

### 3. 年代測定用試料の採取

年代精度を上げるためには、木材の表皮からの年代が明確な年輪資料が望ましいので、鍬の柄から、図1に示すように表皮に近い小片を採取した。

### 4. 試料の前処理

まず、本木材片について、目視および顕微鏡で観察した結果からは、カビ等の遺物の存在は認められなかった。資料をビーカーに入れ、純水中で超音波洗浄し、付着した泥などの不純物を除いた。試料は市販のミキサーにかけ（1～2分）、純水中でミリメートル程度に粉碎した。これをナイロン製のメッシュでろ過し、ガラス容器に移し、110℃で乾燥した。秤量後、試料を100mlガラスビーカーに移し、洗浄した試料は110℃で乾燥し、秤量した。

次に、試料に含まれる無機質の炭酸塩などの除去を目的として1N塩酸約50ml中で80℃、1時間かけて洗浄（2回）した。次にフミン酸等の除去のため1N-NaOH（苛性ソーダ）で同様に80℃、1時間（3回）洗浄した。アルカリが大気中の炭酸ガスを吸収するのを防ぐため、1N塩酸で80℃、1時間弱処理し、アルカリから酸性に転換したのち、洗浄水が中性になるまで純水で数回洗浄する操作を行った。試料はろ過し、110℃で乾燥した。

酸・アルカリ・酸処理（AAA処理）を行って得た分析用乾燥試料48mgを、民間機関である米国Beta Analytic社に送り、炭素14測定を依頼した（註1）。

## 5. 測定結果

$^{13}\text{C}$ による同位体効果を補正して得られた炭素14年代（モデル年代）は次の通りである。

試料ID	測定機関番号	試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値 (per mil)	炭素14年代 ( $^{14}\text{C}$ BP) (conventional age)
KCM338	Beta-136174	-29.6	2580 ± 40

炭素14の年代データの $^{14}\text{C}$ BPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した炭素14年代（モデル年代）であることを示す（yr BPで表現することも多い）。試料自体の炭素の同位体効果を補正するために、炭素13/12同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ 値、註2）を同時に測定し、その値を-25.0‰に規格化した炭素14/12同位体比に基づいて炭素14年代値を求める。表のconventional ageとはこの同位体効果を補正した後の値である。

また、表における年代につけられた誤差は、測定における統計誤差（1標準偏差、68%信頼限界）によるものである。なお、AMS測定では、同時測定した標準試料のデータによって、測定の再現精度と正確度の評価を行っており、測定値に含まれる誤差には、測定における計数の統計誤差と標準データの再現精度の結果が反映されている。

最近のAMS測定では、グラファイト炭素試料の炭素14/13/12同位体比を一括して加速器により測定するが、試料自体の炭素の同位体効果（ $\delta^{13}\text{C}$ 値）は加速器では正確に得られないので、別の炭酸ガス試料をガス質量分析計で測定する。この値は、試料の特性をあらわすもので、表の値は、この数値を示してある。

## 6. 暦年較正

年輪年代と炭素14年代との対応関係を示す暦年較正曲線（炭素14年代を暦年代に修正するためのデータベース、1998年版：INTCAL98<sup>2)</sup>）をデータベースとして用いて解析した結果を図2に示す。

この図では、年代の推定値を確率分布で示してある。全体の確率は1になるように規格化してある。年輪年代と炭素14年代との対応関係を示す暦年較正曲線は、過去の大気中の $^{14}\text{C}$ の変動によりやや複雑な形になっている。縄文時代晩期～弥生時代初期にかけて、炭素14年代の数字が変わらないフラットな時期が300年ほど存在する。本試料の結果はちょうどそのフラットになる直前の時代に相当する。この解析をもとに具体的な数字で年代の範囲を、95%信頼限度で推定すると

試料ID	較正暦年代
KCM338	820-750cal BC (59%)
	690-650cal BC (11%)
	640-540cal BC (25%)

ここでcal BCという表示は、暦年較正を行った年代（この場合紀元前）であることを示す。図2に

おけるcal BPの表示はAD1950から遡って数えた暦年較正年代である。数字は10年で丸めた値を示してある。括弧内は推定確率を示す。

## 7. まとめ

鍬柄は細い幹状のものであり、10年前後の誤差を見込めば、ほぼ伐採年代、おそらくは鍬の製作年代、に相当すると考えられる。紀元前780年前後の試料である可能性が非常に高いが、年代をより確固としたものにするために、さらに関連試料の測定が望まれる。

(註1) Beta Analytic社は、世界のAMS施設(大学、研究所)と契約を結び、AMSによる高精度<sup>14</sup>C測定を代行している。標準的な試料については、前処理についても、標準化された方法でAAA処理、炭酸ガス化・精製を行い、グラファイト炭素試料を作製し、炭素14測定を行っている。本測定ではAAA処理については、国立歴史民俗博物館で行った。

(註2) 炭素13/12同位体効果はPDB標準試料(古生物化石belemnite)からの偏差値を1/1000単位(パーミル、‰)で表示し、 $\delta^{13}\text{C}$ で表示される。

## 文献

- (1) 「居徳遺跡群Ⅳ」(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告書第78集、2003年
- (2) Stuiver, M. et al. : INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, 1041-1083 (1998)



图 1-a



图 1-b

高知県・居徳遺跡・木製鍬柄 2580 ± 40 (1σ) 14C BP

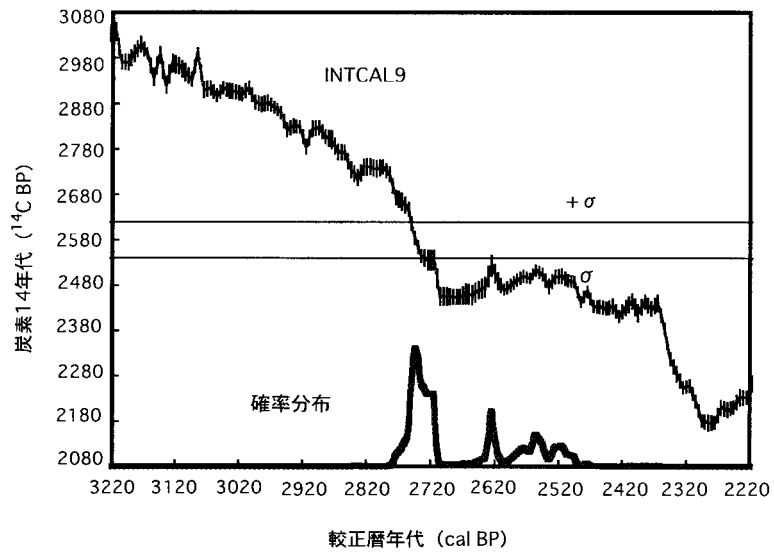


图 2

## 付編6 高知県土佐市居徳遺跡出土土器の<sup>14</sup>C年代測定

藤尾慎一郎<sup>1)</sup>・小林謙一<sup>2) 3)</sup>・今村峯雄<sup>3)</sup>・坂本 稔<sup>3)</sup>・松崎浩之<sup>4)</sup>

- 1) 国立歴史民俗博物館 考古研究部
- 2) 総合研究大学院大学 博士後期課程 日本歴史研究専攻
- 3) 国立歴史民俗博物館 情報資料研究部
- 4) 東京大学原子力研究総合センター・タンデム加速器研究部門

高知県土佐市居徳遺跡出土縄紋・弥生土器付着物の<sup>14</sup>C年代測定を試みた。以下に、採取試料の状況、処理方法、測定及び暦年較正を報告する。

### 1 測定対象資料と炭化物の状態

試料番号は、小林・今村採取分はKCM、藤尾採取分はFJとした。居徳遺跡15点（採取は40点以上）および参考資料として田村遺跡1点の試料を採取・処理し、結果的に12点について<sup>14</sup>C年代を得た。試料については、表1に示す。

### 2 炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。(1)の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林、(2)(3)は、坂本が行った。ただし、炭素量が少なかったものは、(3)の作業を、地球科学研究所を通じてベータアナリティック社へ委託した。

(1) 前処理：有機溶媒による油脂成分等の除去、酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

まずアセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した（2回）。AAA処理は、すべてマニュアルで行った。80℃、各1時間で、希塩酸溶液（1N-HCl）で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去（2回）し、さらにアルカリ溶液（0.1N-NaOH）でフミン酸等を除去する。3回処理を行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに充分（240分）に酸処理を行い中和後、水により洗浄した（3～4回）。各試料は、採集した総重量（表2の採取量（mg）以下同じ）、AAA前処理を行った量（処理量）、前処理後回収した量（回収量）、二酸化炭素化精製に供した量（精製）、二酸化炭素の炭素相当量（ガス）を、それぞれ表に示す。基本的に前処理した試料の半分を精製した。土器付着物については、前処理のうち、最初のアルカリ溶液を保存してある。

(2) 二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を酸化（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去。

(3) グラファイト化：鉄（またはコバルト）触媒のもとで水素還元しグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともにバイコールガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で850℃で3時間加熱して試料を完全に燃焼させ

た。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

1.5mgのグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスとともにバイコールガラス管に封じた。これを電気炉で650℃で12時間加熱してグラファイトを得た。管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに60kgfの圧力で充填した。

### 3 測定結果と暦年の較正

AMSによる<sup>14</sup>C測定は、地球科学研究所を通してベータアナリティック社（測定機関番号Beta）、加速器分析研究所（測定機関番号IAAA）、東京大学原子力研究総合センターのタンデム加速器施設（MALT、機関番号MTC）に依頼して行った。

年代データの<sup>14</sup>CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した<sup>14</sup>C年代（モデル年代）であることを示す（BPまたはyr BPと記すことも多いが、本稿では<sup>14</sup>CBPとする）。<sup>14</sup>Cの半減期は国際的に5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差（1標準偏差、68%信頼限界）である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比により、<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比に対する同位体効果を調べ補正する。表3には、加速器分析研究所による誤差を付して記してある。ベータアナリティック社は十分な炭素量がある場合、<sup>13</sup>C用ガス試料を質量分析計により測定した<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比の値を示してある。<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比は通常、標準体（古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C比）偏差値に対する千分率 $\delta^{13}\text{C}$ （パーミル、‰）で示され、この値を-25‰に規格化して得られる<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比によって補正する。補正した<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、<sup>14</sup>C年代値（モデル年代）が得られる（英語表記ではConventional Ageとされることが多い）。

〈暦年較正〉

測定値を較正曲線INTCAL98（暦年代と炭素14年代を暦年代に修正するためのデータベース、1998年版）（Stuiver, M., et. al. 1998）と比較することによって実年代（暦年代）を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、OxCal Programに準じた方法で作成したプログラムを用いている。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BCで示す。（）内は推定確率である。図は、各試料の暦年較正の確率分布である。

### 4 考察

1997年に調査された居徳遺跡 I C区IV層D、IV層Bから出土した弥生早～前期ごろの土器に対して年代測定をおこなった。測定したのはIV層出土No.35、34、26、125、IV層出土No.392、896、1013の7点と、別に採取したKCM18、28の2点、さらに4D区出土のKCM6、4C区出土のKCM12の4

点である。調査担当者は岡山の沢田式に併行する考えている。なおNo.の付してある土器番号は報告書の図番号と同じである。

調査者によると下層にあたるD層は突帯文土器主体の層で、遠賀川系土器がわずかに伴うといい、田村I-2期相当する。また上層にあたるB層は突帯文土器と遠賀川系土器が共存する層で、田村のI-2・3期に相当するという。

IV D層No.35 (FJ105) は、胴部が湾曲する粗製深鉢の口縁部破片で、外面上に付着したかさぶた状の炭化物を採取した。土器からの絞り込みはこれ以上難しい。較正年代は790~490calBC (87.4%) である。

No.34 (FJ106) は、胴部が湾曲する粗製深鉢の口縁部破片で、外面の条痕調整のくぼみの中に付着した炭化物を採取した。較正年代は780~510calBC (89.5%) である。

同No.26 (FJ102) は、胴部が湾曲し、口縁部外面に突帯文を貼り付け、口唇部と突帯上に刻目を施している。外面に付着したかさぶた状の炭化物を採取した。口唇部に刻目があることから沢田式の中でも古い段階に位置づけられる。較正年代は910~750calBC (74.7%) である。

No.125 (FJ108) は、深鉢の底部破片で丸底である。内面に煮焦げの痕があり採取した。較正年代は790~750calBC (25.1%)、720~530calBC (69.6%) である。

IV B層No.392 (FJ110) は、平底の甕底部で内面の煮焦げを採取した。遠賀川系甕の底部の可能性もある。較正年代は、760~670calBC (31.4%)、670~610calBC (14.6%)、590~470calBC (32.6%) である。

No.896 (FJ112) は、胴部が屈曲せずに砲弾型の体部をもつもので、口縁部に突帯を一条貼り付けて、突帯上に刻目を施す。口縁部は波状口縁の可能性もある。外面に付着したかさぶた状の炭化物を測定。較正年代は920~530calBC (94.1%) である。

No.1013 (FJ115) は、胴部が湾曲する粗製深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で、外面中位に付着したかさぶた状の炭化物を採取した。較正年代は、800~750calBC (44.4%)、690~650calBC (14.8%)、640~540calBC (35.7%) である。

KCM18、28もD層出土の試料と同じ較正年代の中におさまる。

No.392を除く6点とも縄文的な趣をそのまま遺した土器で、田村I式にみられるような弥生化したものはないので、型式学的には明らかに古い特徴を備えている。唯一弥生的な雰囲気を持つNo.392であるが、較正年代をみる限りそれほど新しいということはない。ただし遠賀川系土器が伴うという出土状況に注意する必要がある。包含層からの出土なので厳密な意味での同時性を問うことはできないが、伴う遠賀川系は田村I-2式以降なので、先行する土佐最古の遠賀川系土器である田村I-1式よりは後出することになる。当然、弥生化しても良い段階であるにもかかわらず、縄文そのままのつくり、焼きをもつというこれらの土器に、高知平野の周辺部にある居徳と、中央にある田村遺跡との性格の違いが反映されているのかも知れない。

つまり土佐最古の遠賀川系土器が平野の中央部に出現し、その影響で弥生化した突帯文土器が出現しているにもかかわらず、平野の周辺に位置する居徳では、伝統を遺した突帯文土器が作られ続けたとみることができるかどうか今後の課題といえよう。

以上のような考古学的な背景をもつ土器群と較正年代はどのように関係してくるのであろうか。No. 21と896は較正年代の上限こそ前910年を指し古く出ているが、あとの5点は辻誠一郎が「ミステリーゾーン」(辻2002)と呼ぶ750~400calBCごろ、炭素14年代で2450年BPごろに相当する。暦年代を絞りにくいところに位置するとはいえ、総合的に判断するとこれらの土器群の上限は、前800年より古くなることは統計学的に考えにくい。また下限はミステリーゾーンでも古い方、すなわち前500年までは下らないと考えられる。

この結果を従来の年代観と比較して考古学的な意味について述べてみよう。まず上限だが、従来、出原恵三氏は田村I式が板付I式よりも先行するという説を主張されてきた。筆者も折に触れて考古学的に反論してきたが膠着状態にあった。較正年代ではどうであろうか。先の統計学的な見解にしたがう限り、板付I式の上限が前800年ごろという歴博の研究結果にしたがうと、居徳の沢田式併行の突帯文土器の上限が板付I式よりも新しくなる可能性が高いということになる。

また下限についてはどうであろうか。炭素14年代が明らかにされている大和でもっとも古い唐古・鍵遺跡と比較してみよう。第I様式中段階の壺や甕と共伴し、この遺跡でもっとも古いとされている突帯文土器の炭素14年代はBeta182490: 2460±40BPと、MTC03608: 2500±35BPである。今回の測定の中でもっともわかり測定値が出たNo.392の炭素14年代、2460±30BPとほぼ同じである。したがって居徳遺跡の沢田式併行の土器の下限は第I様式中段階とほぼ一致するとみることができ、土佐の弥生前期の始まりは大和よりも早かったことが較正年代からも明らかである。

今回、明らかに遠賀川系土器といえる資料の付着炭化物の測定はおこなえなかったので、較正年代から直接、居徳における遠賀川系土器の出現年代を知ることは不可能であった。したがって先に述べた田村I式と板付I式との時間的關係について直接知ることはできない。出土状況からは包含層出土ということもあって突帯文土器と遠賀川系土器との厳密な同時性を問うことはできないが、No.392の底部が遠賀川系甕のものであるとするならば、田村I-2式が前8世紀初~前6世紀中頃のどこかに乗ることになるので、先行する土佐最古の遠賀川系土器である田村I-1式が出原氏のいうように板付I式と同じくらい古くなる可能性はまだ残っている。

いずれにしても最終的な決着は土佐最古の遠賀川系土器に付着した炭化物の炭素14年代測定にゆだねたい。

別地点出土試料では、4C区の底部破乃内面の付着物KCM12では、1310-1120calBCと晩期前葉までの年代が推定される。4D区のKCM6は、1050-880calBCと縄紋晩期前葉~中葉ころにかけての年代が推定される。

この分析は、日本学術振興会科学研究費 平成15年度基盤研究(A・1)(一般)「縄文時代・弥生時代の高精度年代体系の構築」(課題番号13308009)の成果を用いている。試料処理においては、東邦大学野田稔、舛田奈緒子両君の協力を得た。記して謝意を表します。

#### 参考文献

小林謙一・今村峯雄・坂本稔・西本豊弘2003「AMS炭素年代による縄紋中期土器・集落の継続時間



の検討」『日本文化財科学会第20回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会

小林謙一・今村峯雄2002「分谷地A遺跡出土土器の炭素年代測定結果について」『分谷地A遺跡－縄文時代後期の漆器－』黒川村教育委員会 pp.33－37

辻誠一郎2002「青田遺跡の暦年代を知るために－放射性炭素年代の測定－」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団設立10周年記念公開シンポジウム「よみがえる青田遺跡」資料集川辺の縄文集落』財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 86－91

春成秀爾・藤尾慎一郎・今村峯雄・坂本稔2003「弥生時代の開始年代－14C年代の測定結果について－」『日本考古学協会第69回総会』研究発表要旨 日本考古学協会 65－68

Stuiver, M., et. al. 1998 INTCAL98 Radiocarbon age calibration, 24,000－0 cal BP. Radiocarbon 40(3), 1041－1083.

今村峯雄2004『縄文時代・弥生時代の高精度年代体系の構築（課題番号13308009）』平成13～15年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）（1）研究成果報告書

註）平成13年度以前の測定例で、田村遺跡の弥生時代前期の炭化物とされる試料の測定結果（Beta－13762～13767）がある（今村2004－75頁）が、<sup>14</sup>C年代は2030±30～2180±30<sup>14</sup>CBPと新しい結果が得られている。包含層出土の炭化物と思われ、試料の帰属について検討が必要であろう。

表1 試料一覧

試料No.	地区	種類	部位	今回報告	時代	考古年代	状態
KCM 2	4D区(殺傷人骨)IVB層	土器付着	口縁外面	今回報告	縄紋晩期	晩期中-後	やや良、没
KCM 6	4D区(殺傷人骨)IVB層	土器付着	口縁外面	今回報告	縄紋晩期	倉岡式(突帯文)	良
KCM 12	4C区、No.417	土器付着	胴部内	居徳IV図No.417	縄紋晩期	倉岡式(突帯文)	良
KCM 18	1C区、No.958	土器付着	底部内面	居徳I 図958	弥生前期	突帯文or弥生	良
KCM 28	1C区IVD層、No.33	土器付着	口縁外面	居徳I 図33	縄紋晩期	晩期突帯文系・粗形鬚	良
FJ 101	1C区IVD層、No.30	土器付着	口縁外面	居徳I	縄紋晩期	沢田式	やや良
FJ 102	1C区IVD層、No.26	土器付着	口縁外面	居徳I	縄紋晩期	沢田式湾曲1条	やや良
FJ 103	1C区IVD層、No.71	土器付着	口縁外面	居徳I	縄紋晩期	沢田式	やや良
FJ 105	1C区IVD層、No.35	土器付着	胴部外面	居徳I	縄紋晩期	沢田式粗製 グラ	良
FJ 106	1C区IVD層、No.34	土器付着	胴部外面	居徳I	縄紋晩期	沢田式	良
FJ 108	1C区IVD層、No.125	土器付着	底内	居徳I	縄紋晩期	沢田式	良
FJ 110	1C区IVB層、No.392	土器付着	底内	居徳I	縄紋晩期	沢田式	良
FJ 111	1C区IVB層、No.430	土器付着	胴部外面	居徳I	縄紋晩期	沢田式	良
FJ 112	1C区IVB層、No.896	土器付着	胴部内面	居徳I	縄紋晩期	沢田式砲弾1条	良
FJ 115	1C区IVB層、No.1013	土器付着	胴部内面	居徳I	縄紋晩期	沢田式	やや良
FJ 117	田村遺跡 I -2式、No.622	土器付着	底内	田村	弥生前期	田村 I -2式	やや不良

表2 試料の処理

No.	番号	採取量	処理量	回収量	含有率1	前処理後	精製	ガス	含有率2	含有率3
KCM	2	48.0	31.0	1.42	4.6	少ない	-	-	-	-
KCM	6	96.0	36.0	2.69	7.5	良	2.08	0.56	26.9	2.0
KCM	12	142.6	42.0	26.58	63.3	m少	7.14	4.31	60.4	38.2
KCM	18	69.0	41.0	14.27	34.8	良	5.21	3.02	58.0	20.2
KCM	28	61.0	38.0	8.01	21.1	良	4.10	2.14	52.2	11.0
FJ	101	15.5	15.5	3.68	23.7	少、m微	-	-	-	-
FJ	102	56.0	35.0	14.34	41.0	良	2.10	1.27	60.5	24.8
FJ	103	16.0	16.0	6.33	39.6	m	-	-	-	-
FJ	105	48.5	40.0	25.57	63.9	良	3.94	2.51	63.7	40.7
FJ	106	32.0	32.0	14.76	46.1	良	4.09	2.46	60.1	27.7
FJ	108	148.0	92.0	62.63	68.1	良	5.78	3.70	64.0	43.6
FJ	110	95.0	73.0	42.04	57.6	良	6.00	3.43	57.2	32.9
FJ	111	28.0	28.0	7.51	26.8	粉状	-	-	-	-
FJ	112	110.0	79.0	40.89	51.8	良	4.83	2.76	57.1	29.6
FJ	115	66.0	47.0	25.74	54.8	良	4.99	3.16	63.3	34.7
FJ	117	38.5	38.5	16.99	44.1	m多、重液分離	-	-	-	-

\*1は、炭酸ガスの炭素相当量

含有率1は回収量/処理量、含有率2はガス相当量/精製用重量、含有率3は含有率1\*含有率2。

は、炭素量不足で測定できず。

1) は、(1) を小林・(2) (3) をベータアナリテック社、2) は (1) を小林・(2) (3) を坂本、3) は (1) を小林・(2) を坂本が処理を行った。4) は炭素量不足が予想され、調整・測定は保留した。

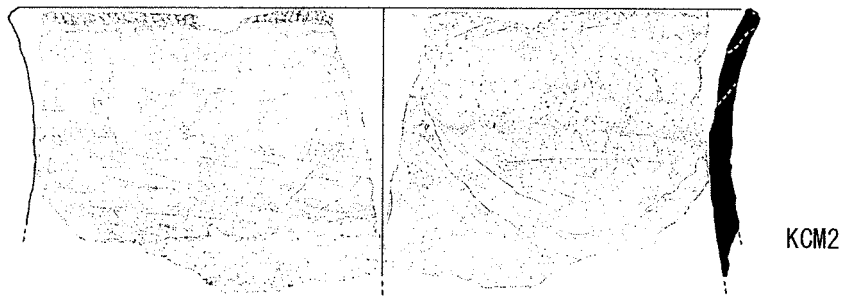
表3 測定結果

測定 機関番号	試料番号	$\delta^{13}\text{C}^{1)}$ (‰)	炭素年代 (補正值) $^{14}\text{C}$ BP	暦年較正年代 ( $2\sigma$ ) cal BC	%(確率密度)	%	%	%			
Beta-184565	KCM 6	-26.4	2810 ± 40	1100-1100	0.4%	1060-1060	0.4%	1050-880	86.0%	880-830	8.6%
IAAA-31589	KCM 12	-26.0 ± 0.7	2990 ± 30	1370-1350	3.8%	1350-1340	1.0%	1310-1180	67.3%	1180-1120	22.9%
IAAA-31590	KCM 18	-24.1 ± 0.7	2530 ± 30	790-750	25.1%	720-530	69.6%	520-520	0.6%		
IAAA-31591	KCM 28	-26.3 ± 0.8	2590 ± 30	820-750	86.3%	680-660	5.8%	600-590	2.4%		
MTC-03782	FJ 102	-23.1	2630 ± 60	910-750	78.0%	690-650	4.7%	640-540	12.0%		
MTC-03783	FJ 105	-24.9	2510 ± 50	790-500	87.9%	480-480	0.7%	460-440	2.9%	440-420	2.2%
IAAA-31592	FJ 106	-24.3 ± 0.8	2490 ± 30	780-510	89.5%	780-480	0.5%	460-440	2.5%	440-420	2.0%
IAAA-31593	FJ 108	-23.5 ± 0.7	2530 ± 30	790-750	25.1%	720-530	69.6%	520-520	0.6%		
IAAA-31594	FJ 110	-23.0 ± 0.9	2460 ± 30	760-670	31.4%	670-610	14.6%	590-470	32.6%	470-410	15.9%
MTC-03784	FJ 112	-25.8	2610 ± 70	910-530	93.6%	530-510	0.8%	450-450	0.3%	430-430	0.3%
IAAA-31595	FJ 115	-22.4 ± 0.9	2550 ± 30	800-750	44.4%	690-650	14.8%	640-540	35.7%		

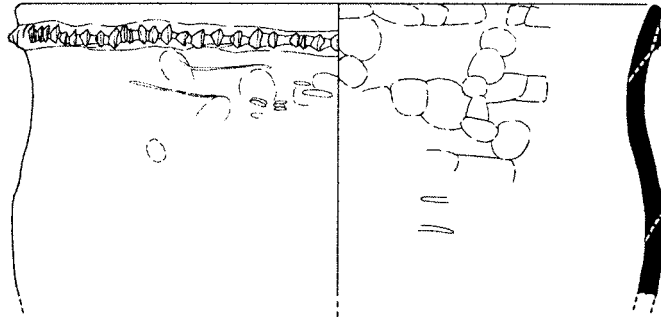
註

1) 加速器分析研究所での $\delta^{13}\text{C}$ 値は、加速器による測定であり、報告された誤差を付す。AOH54は、炭素量不足のため、ベータアナリテック社において $\delta^{13}\text{C}$ 値は測定されず。

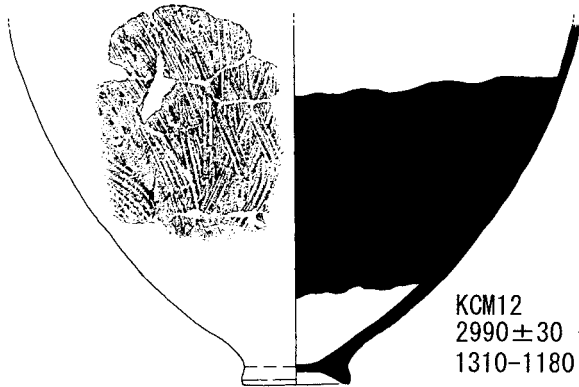
2) 1360-1360cal BCは、1365-1360cal BCの暦年較正年代であることを示す。



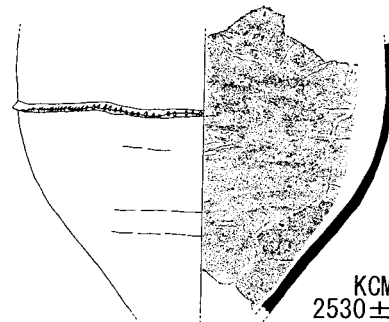
KCM2



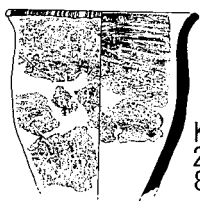
KCM6  
2810±40 <sup>14</sup>C BP  
1050-880 cal BC (86%)



KCM12  
2990±30 <sup>14</sup>C BP  
1310-1180 cal BC (67%)



KCM18  
2530±30 <sup>14</sup>C BP  
720-530 cal BC (70%)



KCM28  
2590±30 <sup>14</sup>C BP  
820-750 cal BC (86%)



FJ101



FJ102  
2630±60 <sup>14</sup>C BP  
910-750 cal BC (78%)



FJ103



FJ105  
2510±50 <sup>14</sup>C BP  
790-500 cal BC (88%)



FJ106  
2490±30 <sup>14</sup>C BP  
780-510 cal BC (90%)



FJ108  
2530±30 <sup>14</sup>C BP  
720-530 cal BC (70%)



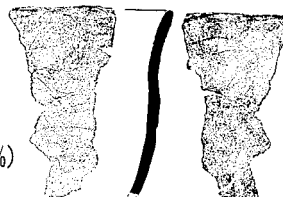
FJ110  
2460±30 <sup>14</sup>C BP  
590-470 cal BC (33%)



FJ111

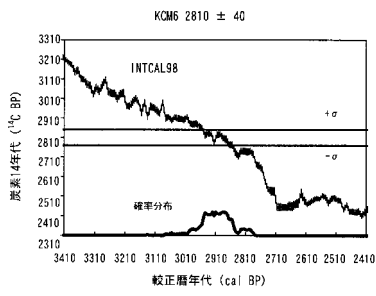


FJ112  
2610±70 <sup>14</sup>C BP  
910-530 cal BC (94%)



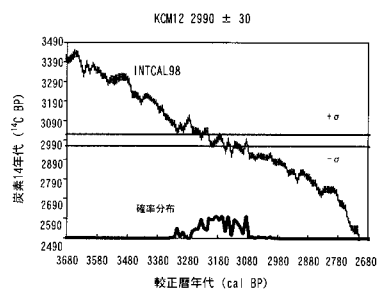
FJ115  
2550±30 <sup>14</sup>C BP  
800-750 cal BC (44%)

0 10(cm)



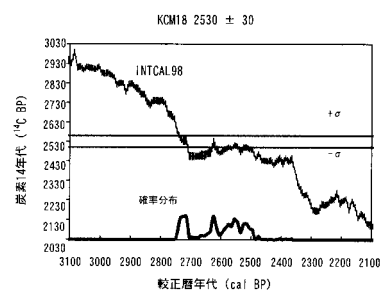
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2910 cal BP
95% range		
1100 cal BC	~	1100 cal BC ( 0.4% )
1050 cal BC	~	880 cal BC ( 86.0% )
880 cal BC	~	850 cal BC ( 8.6% )



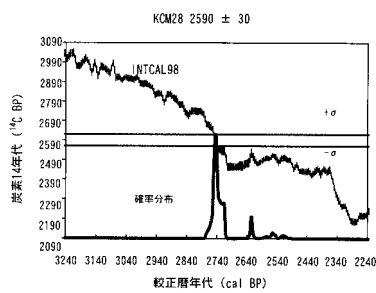
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	3180 cal BP
95% range		
1370 cal BC	~	1350 cal BC ( 3.8% )
1330 cal BC	~	1340 cal BC ( 1.0% )
1310 cal BC	~	1180 cal BC ( 67.3% )
1180 cal BC	~	1120 cal BC ( 22.9% )



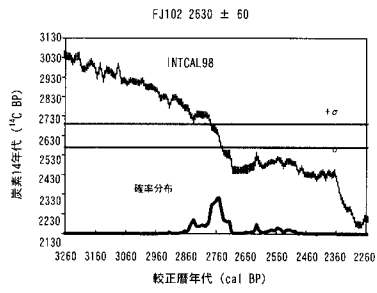
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2600 cal BP
95% range		
790 cal BC	~	730 cal BC ( 25.1% )
720 cal BC	~	530 cal BC ( 69.6% )
520 cal BC	~	520 cal BC ( 0.6% )



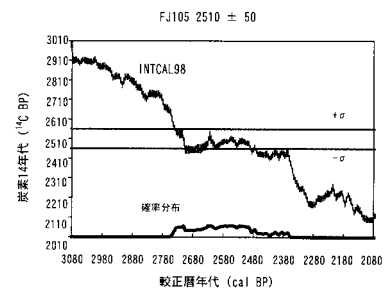
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2740 cal BP
94% range		
820 cal BC	~	750 cal BC ( 86.3% )
680 cal BC	~	660 cal BC ( 5.8% )
600 cal BC	~	590 cal BC ( 2.4% )



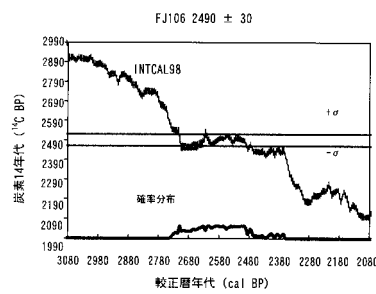
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2760 cal BP
95% range		
910 cal BC	~	750 cal BC ( 78.0% )
690 cal BC	~	650 cal BC ( 4.7% )
640 cal BC	~	540 cal BC ( 12.0% )



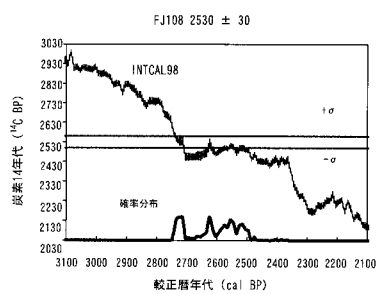
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2580 cal BP
95% range		
790 cal BC	~	500 cal BC ( 87.9% )
480 cal BC	~	480 cal BC ( 0.7% )
460 cal BC	~	440 cal BC ( 2.9% )
440 cal BC	~	420 cal BC ( 2.2% )
420 cal BC	~	410 cal BC ( 0.8% )



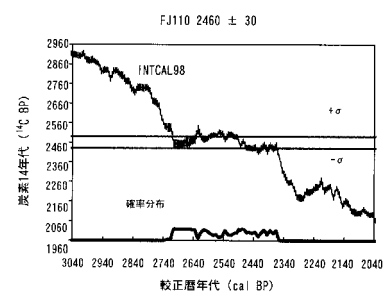
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2680 cal BP
95% range		
780 cal BC	~	510 cal BC ( 89.5% )
480 cal BC	~	480 cal BC ( 0.5% )
460 cal BC	~	440 cal BC ( 2.5% )
440 cal BC	~	420 cal BC ( 2.0% )
420 cal BC	~	410 cal BC ( 0.8% )



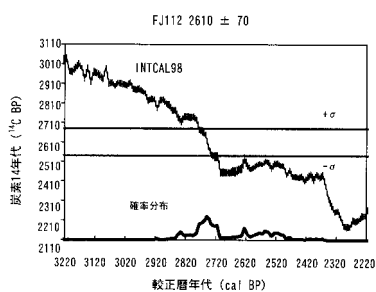
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2600 cal BP
95% range		
790 cal BC	~	750 cal BC ( 25.1% )
720 cal BC	~	530 cal BC ( 69.6% )
520 cal BC	~	520 cal BC ( 0.6% )



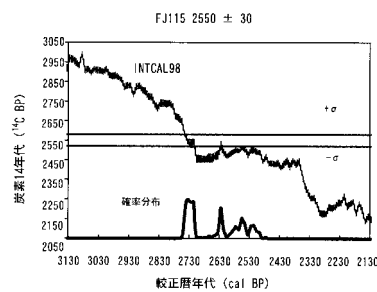
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2540 cal BP
95% range		
760 cal BC	~	670 cal BC ( 31.4% )
670 cal BC	~	610 cal BC ( 14.6% )
590 cal BC	~	470 cal BC ( 32.6% )
470 cal BC	~	410 cal BC ( 15.9% )



解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2720 cal BP
95% range		
910 cal BC	~	530 cal BC ( 93.6% )
530 cal BC	~	510 cal BC ( 0.8% )
450 cal BC	~	450 cal BC ( 0.3% )
430 cal BC	~	430 cal BC ( 0.3% )



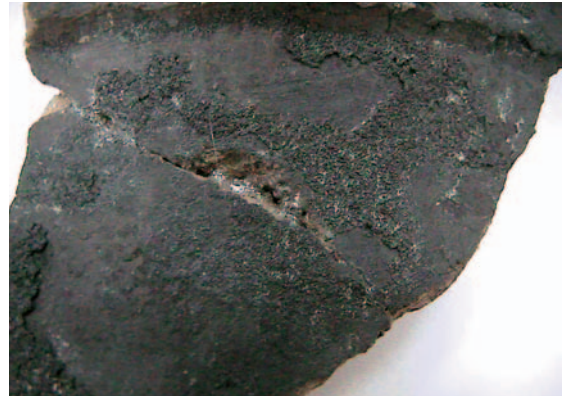
解析結果

$t_{\text{median}}$	=	2630 cal BP
95% range		
800 cal BC	~	750 cal BC ( 44.4% )
690 cal BC	~	650 cal BC ( 14.8% )
640 cal BC	~	540 cal BC ( 35.7% )

第 四 圖 曆年較正確率分布



FJ102



FJ102 外面炭化物附着状态



FJ105



FJ105 外面炭化物附着状态



FJ106



FJ106 外面炭化物附着状态



FJ108 内面炭化物附着状态



FJ110 内面炭化物附着状态

居德遺跡年代測定土器炭化物附着状況



FJ112



FJ112 内面炭化物付着状態



FJ115 内面炭化物付着状態



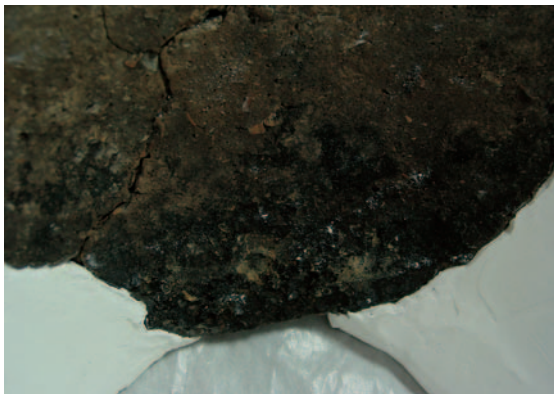
KMC2 内面炭化物付着状態



KMC6 外面炭化物付着状態



KMC12 内面炭化物付着状態



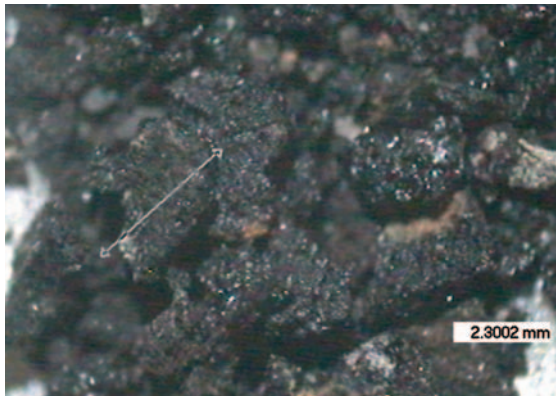
KMC18 内面炭化物付着状態



KMC28 外面炭化物付着状態

居徳遺跡年代測定土器炭化物付着状況

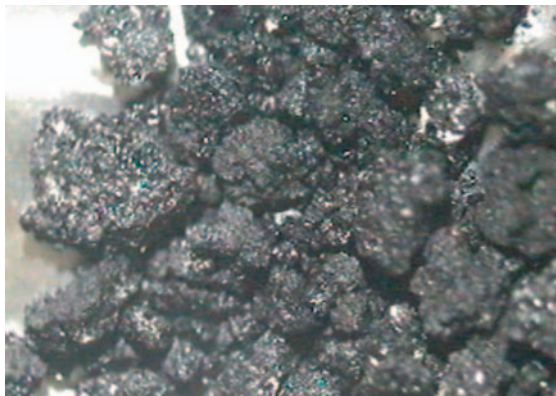




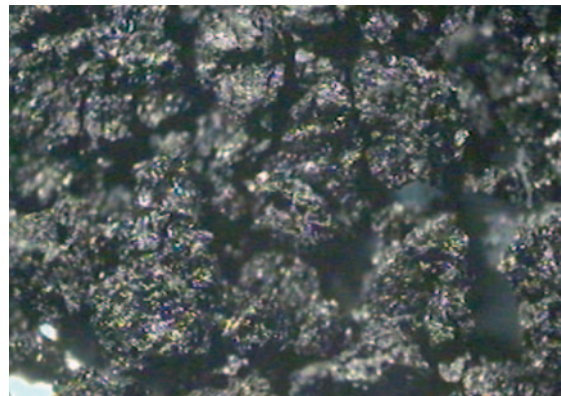
FJ101 AAA处理前 10倍



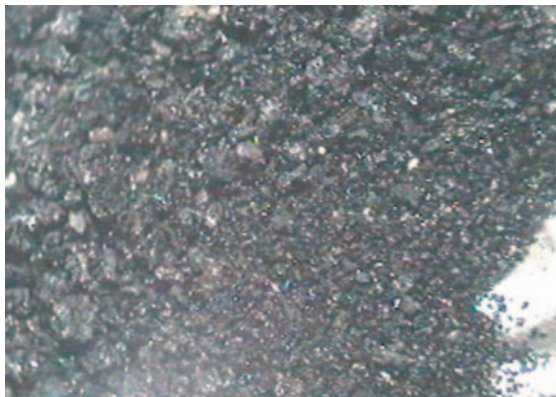
FJ101 AAA处理后 20倍



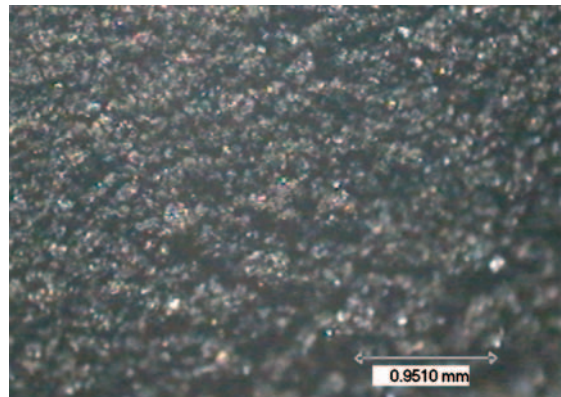
FJ102 AAA处理前 10倍



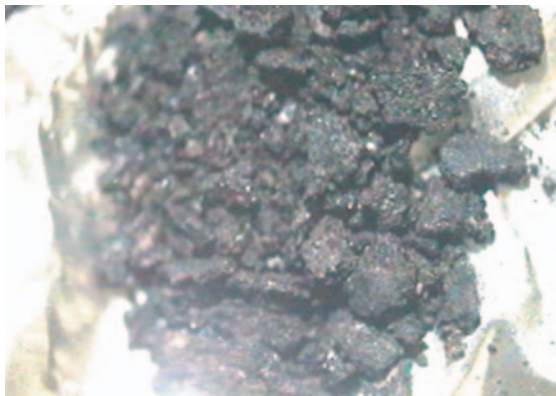
FJ102 AAA处理后 20倍



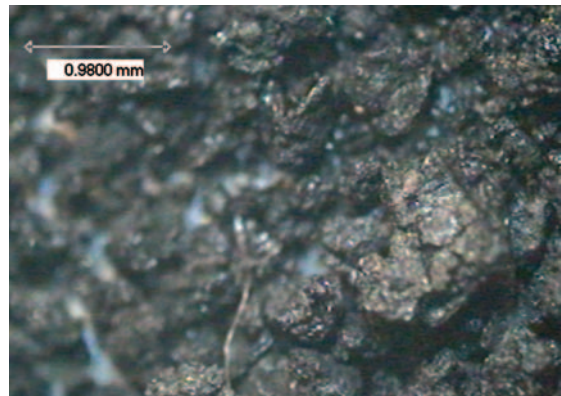
FJ103 AAA处理前 10倍



FJ103 AAA处理后 20倍

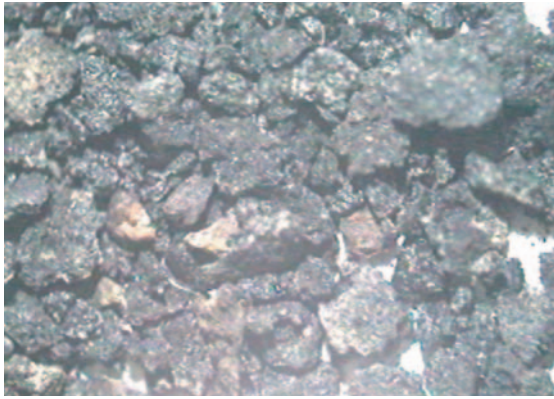


FJ105 AAA处理前 10倍

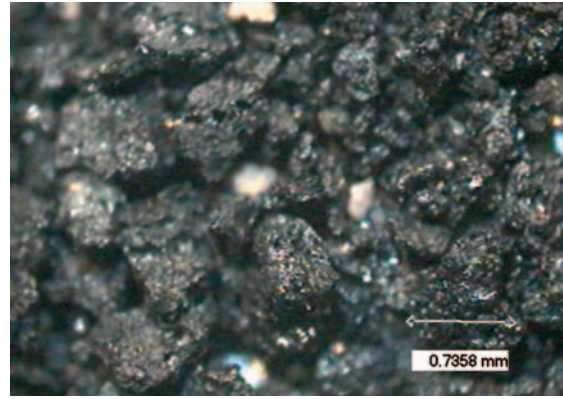


FJ105 AAA处理后 20倍

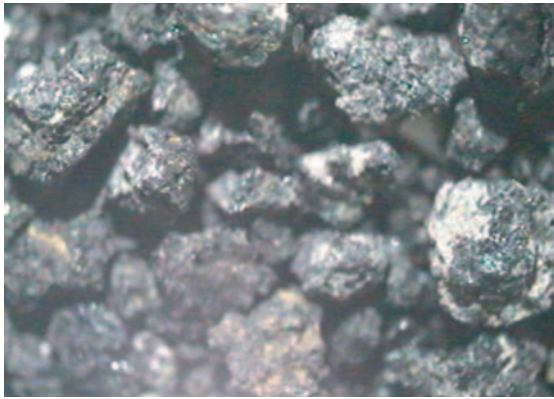
炭化物拡大写真



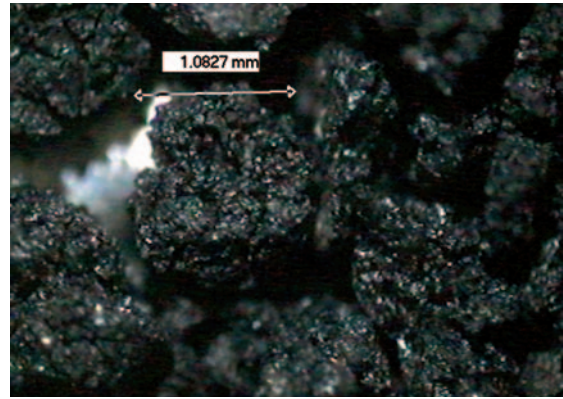
FJ106 AAA处理前 10倍



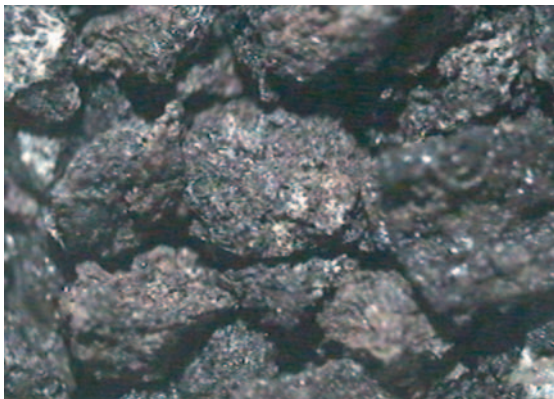
FJ106 AAA处理後 20倍



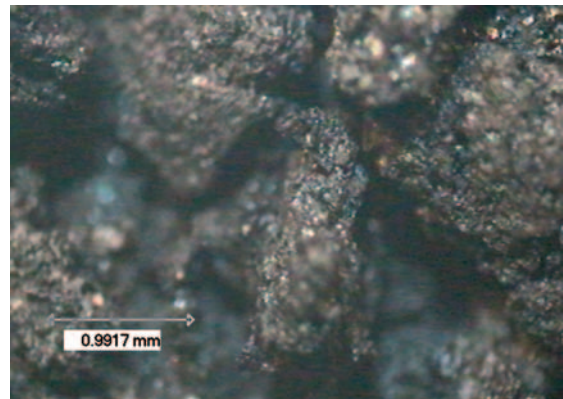
FJ108 AAA处理前 10倍



FJ108 AAA处理後 20倍



FJ110 AAA处理前 10倍



FJ110 AAA处理後 20倍

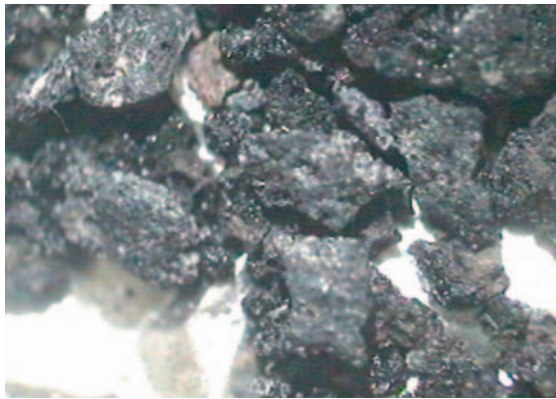


FJ111 AAA处理前 10倍

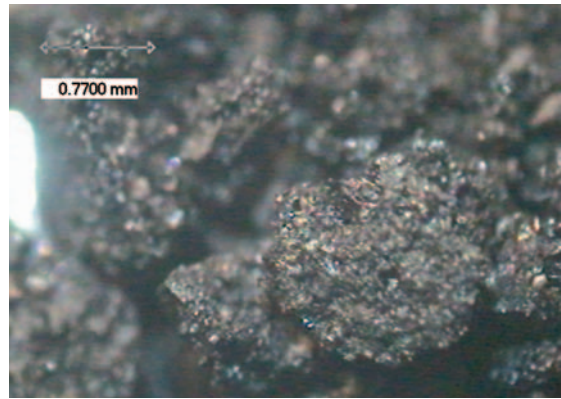


FJ111 AAA处理後 20倍

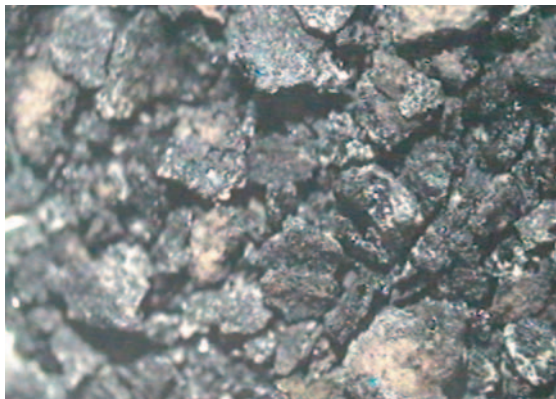
炭化物拡大写真



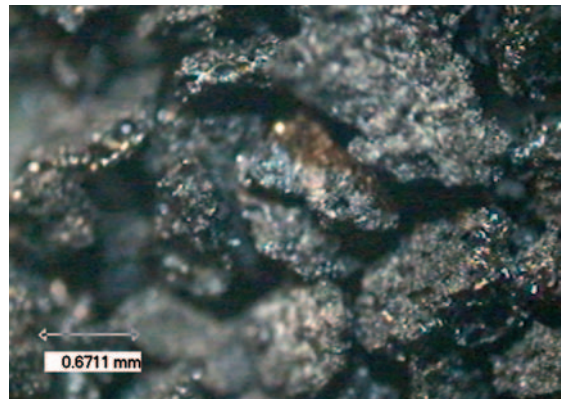
FJ112 AAA处理前 12倍



FJ112 AAA处理后 25倍



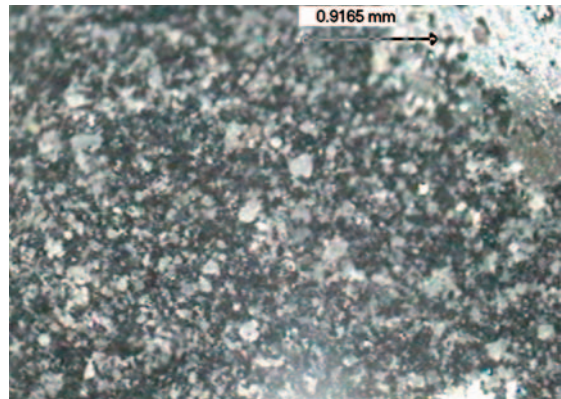
FJ115 AAA处理前 12倍



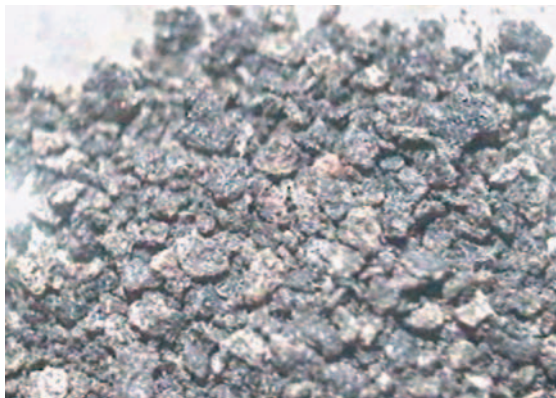
FJ115 AAA处理后 25倍



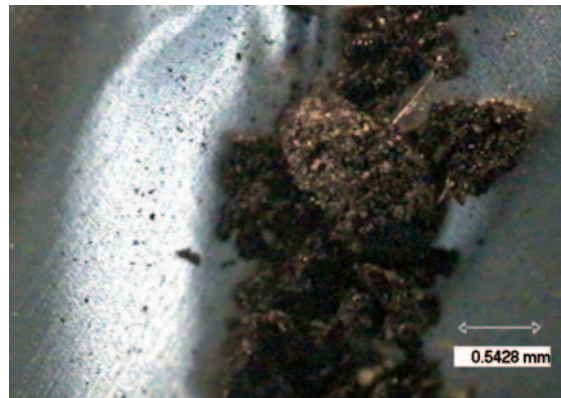
FJ117 田村遺跡 AAA处理前 12倍



FJ117 田村遺跡 AAA处理后 25倍

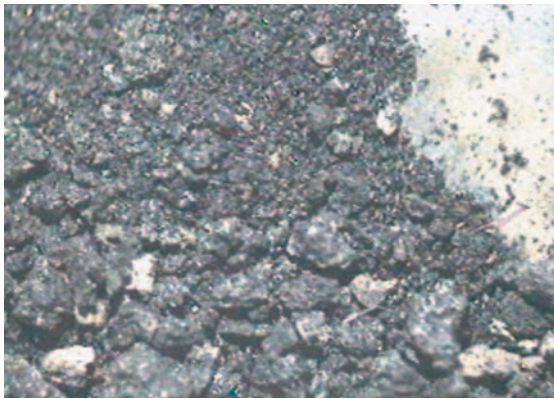


KCM2 AAA处理前 12倍

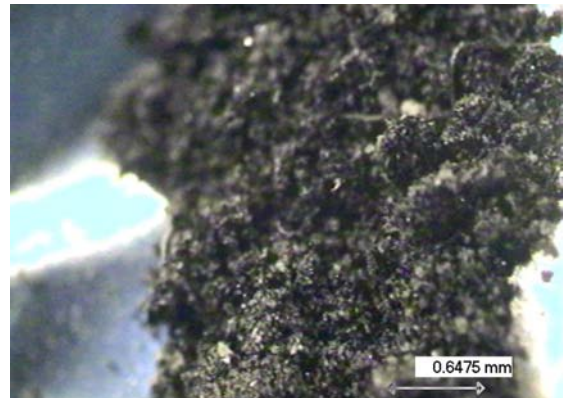


KCM2 AAA处理后 25倍

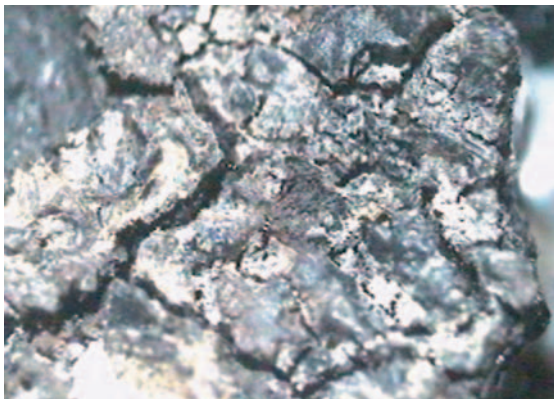
炭化物拡大写真



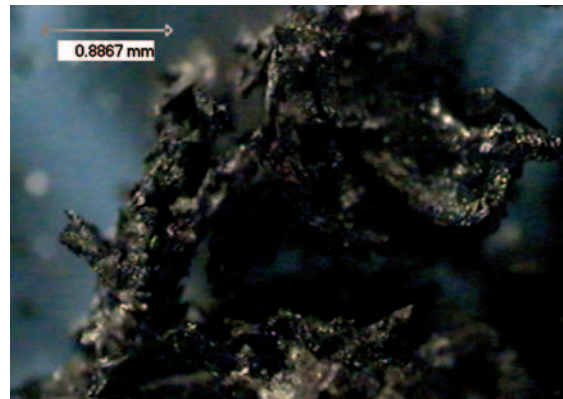
KCM6 AAA处理前 10倍



KCM6 AAA处理后 20倍



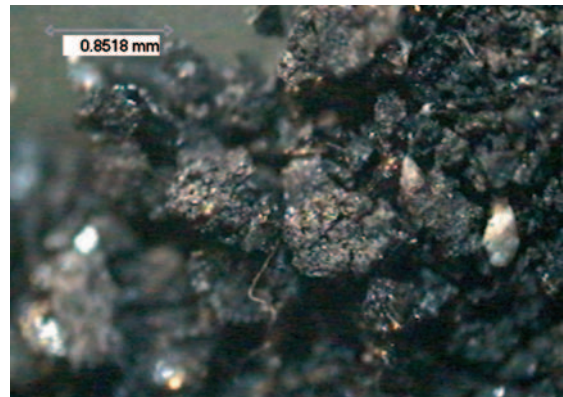
KCM12 AAA处理前 10倍



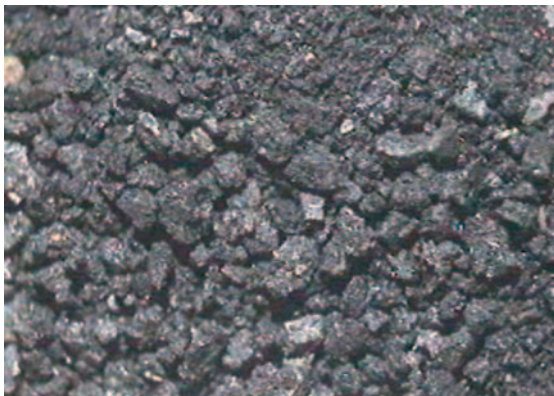
KCM12 AAA处理后 20倍



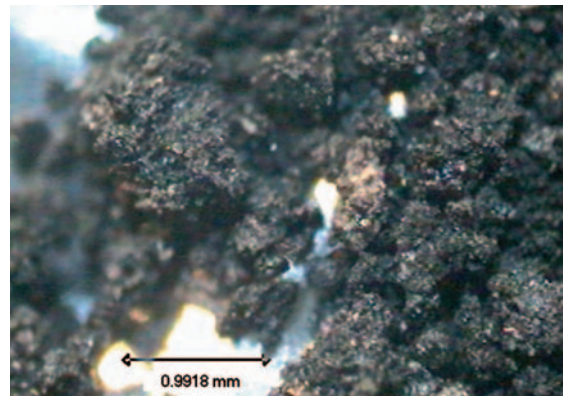
KCM18 AAA处理前 10倍



KMC18 AAA处理后 20倍



KCM28 AAA处理前 10倍



KCM28 AAA处理后 20倍

炭化物拡大写真

## 付編7 居徳遺跡群から出土した木材・種実の種類

株式会社東都文化財保存研究所

### 1. 試料

#### (1) 木材

試料は、木製品など120点である。このうち、3 A区726は、実体顕微鏡による観察で樹皮と判断できたため、試料の採取は行わなかった。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表1に記した。また、木材のうち、表1の備考に木取りと記した試料については、木取りの観察も合わせて行う。

#### (2) 種実

試料は、出土した種実遺体14点である。詳細は、結果とともに表1に記す。

### 2. 方法

#### (1) 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

#### (2) 木取り

肉眼および携帯用実体顕微鏡を用いて、横断面を中心に年輪や放射組織の様子を観察する。表記は、板状や角材状を呈する試料は、最も広い面積を有する面の木取りを記す。椀については、横木地か縦木地かを記す。丸棒状の試料については、大きな材を丸棒状に加工したのか、枝などの丸材を利用したのかを記した。

#### (3) 種実同定

肉眼で、その形態を観察し、その特徴から種類を同定する。

### 3. 結果

#### (1) 樹種同定・種実同定

同定結果を表1に示す。木材は、針葉樹8種類（モミ属・スギ・コウヤマキ・ヒノキ・サワラ・イヌガヤ・マキ属・カヤ）と広葉樹9種類（コナラ属アカガシ亜属・クスノキ・クスノキ科・ヤブツバキ・サカキ・モッコク・アワブキ属・エゴノキ属・ガマズミ属）に同定された。一方、種実遺体は、3種類（トチノキ・ハス・サルノコシカケ類）に同定された。

木材各種類の主な解剖学的特徴や、種実遺体の形態的特徴を以下に記す。

〈木材〉

・モミ属 (*Abies*)                      マツ科

試料は小片で年輪界は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅう状末端壁が認められる。

分野壁孔はスギ型で1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.) コウヤマキ科コウヤマキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔は窓状となる。放射組織は単列、1～5細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部に近い早材部の一部と晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・サワラ (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部に近い早材部の一部とは晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個。放射組織は単列、1～10細胞高。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向にやや散在状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クスノキ (*Cinnamomum camphora* (L.) Presl) クスノキ科クスノキ属

試料は年輪の間隔が狭い。散孔材で、管壁は薄く、横断面では楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ型、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔または階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められるが顕著ではない。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科 サカキ属

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形、単独または2～3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

・アワブキ属 (*Meliosma*)                      アワブキ科

散孔材で、管孔は単独または2～6個が複合して散在する。道管は単穿孔または階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は大型で異性Ⅱ型、1～3細胞幅、1～50細胞高。

・エゴノキ属 (*Styrax*)                      エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または2～4個が複合して散在し、年輪界付近で管径を減ずる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～3細胞幅、1～20細胞高。

・ガマズミ (*Viburnum dilatatum* Thunb.)                      スイカズラ科ガマズミ属

散孔材で、管壁は薄く、横断面では円形～やや角張った楕円形、ほぼ単独で時に2個が接線方向または放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～5細胞幅、1～40細胞高で、時に上下に連結する。

(種実遺体)

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume.)                      トチノキ科

果実の半分と、3片に裂開した1片が検出された。果実は倒卵球形で肉厚、表面はざらつく。径約4cm、厚さ4～5mm。

・ハス (*Nelumbo nucifera* Gaertn.)                      スイレン科

花床と果実が検出された。花床は完形のものの一部破損しているものがあつた。花床は海綿質で径4.5cm(4D区31は径9cm程)でろうと形を呈す。蜂の巣状に穴があり果実が入っている。果実は楕円形で丸いヘソがあり、大きさは1cm程度。堅い果皮をもつ。

・サルノコシカケ類

子実体が検出された。幅約10cmの傘は半円形、扁平な丸山～蹄形で肉は木質。表面は同心円状の紋様があり、裏面には管孔をもつ。

(2) 木取りの観察結果

木取りの観察結果は、同定結果と共に表1に記した。板目および柾目と記したものは、最も広い面あるいは上面・表と考えられる面が木材の3断面のどれに該当するかを示したものである。板材の場合には、板目板・柾目板に該当する。板目板は、年輪に対して平行(接線方向)の面が広がる木取りで、年輪が山や波状などの模様となる。一方、柾目板は、放射組織に平行で、年輪に対して直交する面が広がる木取りで、年輪が縞模様となる。柾目～板目としたものは、柾目と板目の中間的な面である。

丸材は、横断面で年輪が同心円状に入るものである。今回の試料では、大きな材から丸棒状に加工したと考えられる製品は認められなかった。

挽物の木取りは大きく縦木地と横木地がある(橋本, 1979)。縦木地は軸方向を縦にして輪切りにしたもので、椀などの場合は底面が木口面となり、年輪が同心円状あるいは半円状に見える。一方、横木地は、木の幹に沿って板取する木取りで、椀の場合には側面が木口面となり、同心円状あるいは半円状の年輪が見える。今回の試料は、全て横木地であつた。

引用文献

橋本鉄男（1979）ろくろ. 444p., 法政大学出版局.



表1 居徳遺跡群の樹種同定および種実同定結果(1)

挿図番号	遺物	木取	樹種	備考
1 C区 1454	樹皮		樹皮(種類不明)	
3 A区 603	板状製品	柁目~板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 605	又鋏	板目	コナラ属アカガシ亜属	木取り鑑定
3 A区 610	陽基?	板目	コナラ属アカガシ亜属	木取り鑑定
3 A区 612	剣形製品	板目	コナラ属アカガシ亜属	木取り鑑定
3 A区 613	鳥形製品?	板目	コナラ属アカガシ亜属	木取り鑑定
3 A区 615	鋏・舟部	柁目	コナラ属アカガシ亜属	木取り鑑定
3 A区 616	ヘラ	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 618	挟入製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 619	板状製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 627	皮綴じ底板	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 628	底板	柁目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 629	底板	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 630	槽?	横木地	イヌガヤ	木取り鑑定
3 A区 631	椀	横木地	イヌガヤ	木取り鑑定
3 A区 632	椀	横木地	イヌガヤ	木取り鑑定
3 A区 633	しゃもじ状製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 634	串	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 635	箸?	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 636	串	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 637	人形?	柁目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 638	剣形製品	板目	コウヤマキ	木取り鑑定
3 A区 639	剣形製品	板目	コウヤマキ	木取り鑑定
3 A区 640	儀杖?	柁目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 645	皮綴じ板製品	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 650	挟入板製品	柁目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 651	皮綴じ板製品	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 656	皮綴じ板製品	柁目~板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 663	板状製品	柁目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 666	皮綴じ板製品	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 675	線刻板	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 676	皮綴じ板製品	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 677	板状製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 678	皮綴じ板製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 679	板状製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 680	皮綴じ板製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 681	挟入製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 683	人形?	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 684	人形?	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 685	人形?	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 686	人形?	板目	コウヤマキ	木取り鑑定
3 A区 687	人形?	柁目~板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 688	人形?	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 689	人形?	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 690	人形?	柁目~板目	コウヤマキ	木取り鑑定
3 A区 691	挟入製品	板目	イヌガヤ	木取り鑑定
3 A区 692	挟入製品	柁目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 693	挟入製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 696	挟入製品	板目	サワラ	木取り鑑定
3 A区 697	挟入板製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 698	挟入板製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3 A区 699	挟入製品	板目	サワラ	木取り鑑定

表1 居徳遺跡群の樹種同定および種実同定結果(2)

挿図番号	遺物	木取	樹種	備考
3A区 700	挟入板製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3A区 702	板状製品	柾目	ヒノキ	木取り鑑定
3A区 704	板状製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3A区 706	挟入板製品	柾目	サワラ	木取り鑑定
3A区 707	軍配状製品?	板目	コウヤマキ	木取り鑑定
3A区 708	凹状製品	板目	クスノキ	木取り鑑定
3A区 709	凹状製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属	木取り鑑定
3A区 710	挟入製品	板目	サワラ	木取り鑑定
3A区 716	組みもの部材	柾目~板目	スギ	木取り鑑定
3A区 717	組みもの部材	板目	イヌガヤ	木取り鑑定
3A区 718	祭祀具?	丸材	サカキ	木取り鑑定
3A区 719	鈎状製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3A区 720	束製品		サワラ	
3A区 721	線刻板	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3A区 722	線刻板	柾目~板目	ヒノキ	木取り鑑定
3A区 723	ヘラ	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3A区 724	底板	板目	ヒノキ	木取り鑑定
3A区 725	有孔円板	板目	樹皮(針葉樹)	木取り鑑定
3A区 726	有孔円板	板目	樹皮	木取り鑑定
3A区 727	サルノコシカケ		サルノコシカケ類(子実体)	
3A区 728	サルノコシカケ		サルノコシカケ類(子実体)	
3A区 729	サルノコシカケ		サルノコシカケ類(子実体)	
3A区 730	サルノコシカケ		サルノコシカケ類(子実体)	
3A区 731	サルノコシカケ		サルノコシカケ類(子実体)	
3A区 732	堅果外皮		トチノキ(果実)	
3A区 733	堅果外皮		トチノキ(果実)	
3A区 734	堅果外皮		トチノキ(果実)	
4D区 2	車輪?	柾目	コナラ属アカガシ亜属	木取り鑑定
4D区 3	回転板?	柾目	コウヤマキ	木取り鑑定
4D区 6	刀形製品	板目	コウヤマキ	木取り鑑定
4D区 7	剣形製品	柾目~板目	コウヤマキ	木取り鑑定
4D区 8	刀形製品	板目	コナラ属アカガシ亜属	木取り鑑定
4D区 10	舟	柾目~板目	スギ	木取り鑑定
4D区 13	板状製品	板目	ヒノキ	木取り鑑定
4D区 14	板状製品	柾目	コウヤマキ	木取り鑑定
4D区 15	祭祀具?	柾目	ガマズミ属	木取り鑑定
4D区 16	組みもの部材	板目	ヒノキ	木取り鑑定
4D区 17	槌状製品	柾目	スギ	木取り鑑定
4D区 20	棒状製品	丸材	アワブキ属	木取り鑑定
4D区 23	剣形製品	柾目	サワラ	木取り鑑定
4D区 24	人形?	板目	エゴノキ属	木取り鑑定
4D区 25	棒状製品	丸材	クスノキ科	木取り鑑定
4D区 26	底板	板目	サワラ	木取り鑑定
4D区 27	板状製品	板目	コウヤマキ	木取り鑑定
4D区 29	ハス果実		ハス(花床)	
4D区 30	ハス果実		ハス(花床)	
4D区 31	ハス果実		ハス(花床・果実)	
4D区 32	ハス果実		ハス(花床)	
5A区 118	木槌	丸材	モミ属	木取り鑑定
5A区 119	サルノコシカケ		サルノコシカケ類(子実体)	
5A区 120	サルノコシカケ		サルノコシカケ類(子実体)	

## 付編 8 高知県居徳遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株)吉田生物研究所 汐見 真

### 1. 試料

試料は高知県居徳遺跡から出土した農工具39点、祭祀具11点、建築部材5点、容器11点、紡織具3点、雑具10点、用途不明品55点の合計134点である。

### 2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

### 3. 結果

樹種同定結果（針葉樹10種、広葉樹10種、樹皮1種、草本類1種）の表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

#### 1) イチイ科カヤ属カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.)

(3A区711)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。晩材部は狭く年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～4個ある。仮道管の壁には対になった螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。カヤは本州（中・南部）、四国、九州に分布する。

#### 2) マキ科マキ属イヌマキ (*Podocarpus macrophyllus* D. Don)

(3A区602)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はゆるやかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。短冊型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続（ストランド）をなして存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イヌマキは本州（中・南部）、四国、九州、琉球に分布する。

#### 3) マツ科ツガ属 (*Tsuga* sp.)

(3A区623・626・661・673)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔はスギ型、ヒノキ型で1分野に2～4個ある。細胞壁には数珠状末端壁がある。上下両端には放射仮道管がある。板目では放射組織はすべて単列であった。ツガ属はツガ、コメツガがあり、本州、

四国、九州に分布する。

6) コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* S. et Z.)

(3 A区622・694・703・714・715, 4 D区4・5・9・21・28)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州(福島以南)、四国、九州(宮崎まで)に分布する。

7) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

(3 A区654, 4 D区22)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

8) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

(3 A区600・644・646・648・669・671・672・701, 4 D区11・12)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州(福島以南)、四国、九州に分布する。

9) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(3 A区609・611・624・641～643・647・649・652・653・657～660・662・664・665・667・674・682・695・705, 4 D区19)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

10) ヒノキ科クロベ属クロベ (*Thuja standishii* Carr.)

(3 A区655・668・670)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に2～6個ある。放射組織の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造(インデンチャー)

ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織は全て単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

11) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.)

(3 A区604・606~608・621, 4 D区18)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管 (~200 $\mu$ m) が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州(宮城、新潟以南)、四国、九州、琉球に分布する。

12) クワ科クワ属 (*Morus* sp.)

(3 A区601)

環孔材である。木口では大道管 (~280 $\mu$ m) が年輪界にそって1~5列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が2~6個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物(チロース)が見られる。板目では放射組織は1~6細胞列、高さ~1.1mmからなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

13) マンサク科イスノキ属イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.)

(3 A区620)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 (~50 $\mu$ m) がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は1~2列のものが多数走っているのが見られる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物(チロース)がある。軸方向には黒いすじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1~2細胞列、高さ~1mmで多数分布している。イスノキは本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。

18) ツバキ科ツバキ属 (*Camellia* sp.)

(3 A区617・625・712・713)

散孔材である。木口では極めて小さい道管 (~40 $\mu$ m) が単独ないし2~3個接合して均等に分布する。放射組織は1~3細胞列で黒い筋としてみられる。木繊維の壁はきわめて厚い。柾目では道管は

階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔（とくに直立細胞）は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ～1mm以下からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が一行に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ、サザンカ、チャがあり、本州、四国、九州に分布する。

20) ツツジ科スノキ属シャシャンボ (*Vaccinium bracteatum* Thunb.)

(4D区1)

散孔材である。木口ではきわめて小さい道管(～50 $\mu$ m)が、単独あるいは2～3個複合して散在する。柀目では道管は単穿孔、階段穿孔(バー数1～10)と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は凸レンズ形を呈する直立細胞の単列のものと、5～8細胞列で高さがきわめて高い多列放射組織(～2mm以上)からなる。多列部には鞘細胞が見られる。シャシャンボは本州(関東南部、東海、石川以西)、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988)

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社(1982)

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載I～V」京都大学木質科学研究所(1999)

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編I・II」保育社(1979)

深澤和三「樹体の解剖」海青社(1997)

◆使用顕微鏡◆

Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

高知県居徳遺跡出土木製品同定表（1）

挿図番号	品名	木取	樹種
3 A区 600	木柱？	芯持材	ヒノキ科ヒノキ属
3 A区 601	椀・底部	柾目	クワ科クワ属
3 A区 602	陽茎	芯持材	マキ科マキ属イヌマキ
3 A区 604	諸手鋏	板目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3 A区 606	えぶり	柾目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3 A区 607	鋏？	柾目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3 A区 608	鋏未製品	板目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3 A区 609	鉤状製品	柾目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 611	板状製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 617	棒状製品	芯持材	ツバキ科ツバキ属
3 A区 620	ナスビ形農具	板目	マンサク科イスノキ属イスノキ
3 A区 621	鋏未製品	柾目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3 A区 622	梯子	半裁材	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
3 A区 623	梯子	半裁材	マツ科ツガ属
3 A区 624	矢板	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 625	木槌	芯持材	ツバキ科ツバキ属
3 A区 626	木槌	芯持材	マツ科ツガ属
3 A区 641	大足	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 642	板状製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 643	田下駄	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 644	大足	板目	ヒノキ科ヒノキ属
3 A区 646	板状製品	板目	ヒノキ科ヒノキ属
3 A区 647	板状製品	柾目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 648	板状製品	板目	ヒノキ科ヒノキ属
3 A区 649	大足	柾目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 652	板状製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 653	板状製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 654	底板	板目	スギ科スギ属スギ
3 A区 655	底板	板目	ヒノキ科クロベ属クロベ
3 A区 657	皮綴じ板製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 658	板状製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 659	板状製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 660	皮綴じ板製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 661	板状製品	板目	マツ科ツガ属
3 A区 662	皮綴じ板製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 664	皮綴じ板製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 665	板状製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 667	板状製品	柾目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 668	板状製品	板目	ヒノキ科クロベ属クロベ
3 A区 669	板状製品	板目	ヒノキ科ヒノキ属
3 A区 670	板状製品	板目	ヒノキ科クロベ属クロベ
3 A区 671	板状製品	柾目	ヒノキ科ヒノキ属

高知県居徳遺跡出土木製品同定表（2）

3 A区 672	板状製品	板目	ヒノキ科ヒノキ属
3 A区 673	挟入板製品	板目	マツ科ツガ属
3 A区 674	挟入板製品	柾目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 682	皮綴じ板製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 694	挟入製品	板目	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
3 A区 695	挟入板製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 701	板状製品	板目	ヒノキ科ヒノキ属
3 A区 703	板状製品	柾目	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
3 A区 705	板状製品	板目	ヒノキ科アスナロ属
3 A区 711	杭	芯持材	イチイ科カヤ属カヤ
3 A区 712	軸材？	芯持材	ツバキ科ツバキ属
3 A区 713	尖頭状製品	芯持材	ツバキ科ツバキ属
3 A区 714	舟の舳先？	柾目	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
3 A区 715	段状製品	半裁材	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
4 D区 1	木錘？	芯持材	ツツジ科スノキ属シャシャンボ
4 D区 4	笠形製品	板目	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
4 D区 5	剣形製品	板目	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
4 D区 9	舟形製品	柾目	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
4 D区 11	建築材	板目	ヒノキ科ヒノキ属
4 D区 12	有孔板材	柾目	ヒノキ科ヒノキ属
4 D区 18	円板形製品	柾目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
4 D区 19	円板形製品	柾目	ヒノキ科アスナロ属
4 D区 21	剣形製品	板目	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
4 D区 22	剣形製品	板目	スギ科スギ属スギ
4 D区 28	剣形製品	柾目	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



## 付編9 高知県居徳遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株)吉田生物研究所

### 1. 試料

試料は高知県居徳遺跡から出土した武器1点である。

### 2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

### 3. 結果

樹種同定結果（針葉樹1種）の表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

#### 1) マツ科モミ属 (*Abies* sp.)

(3A区614)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

#### ◆参考文献◆

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載I～V」京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編I・II」保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

#### ◆使用顕微鏡◆

Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

高知県居徳遺跡出土木製品同定表

挿図番号	品名	樹種	木取り
3 A区 614	鏃形製品	マツ科モミ属	板目取

## 付編10 居徳遺跡から出土した貝類

株式会社吉田生物研究所

高知県居徳遺跡は、沖積台地上の縄文晩期～弥生前期に営まれた遺跡である。貝類は遺跡内のシルト層から出土した。同定を行った資料は以下の5点（資料No.1～5）である。

資料No.	調査区	層位	貝類	大きさ
1			イシガイ科	殻長 4.0cm
2	98-8IT 3A区	VA層 No.717	イシガイ科	殻長 4.5cm
3	98-8IT 3A区	F14-2 VA層	イシガイ科	殻長 2.5cm
4	98-8IT 3A区	F14-4 VB層	イシガイ科	殻長 3.2cm
5	98-8IT 3A区	F14-6 VA層	ハイガイ	殻長 3.8cm

イシガイ科は、ドブガイ *Anodonta (Sinanodonta) woodiana*、カラスガイ *Cristaria oplicata* などを含む淡水産の2枚貝である。今回の資料は同定部位の欠損が著しかったために、種の同定までは行わなかった。

ハイガイは、内海奥の潮間帯より水深10mまでの泥底に住む2枚貝である。食用とされる種である。

〈種名〉

イシガイ科 Unionidae

フネガイ科 Arcidae

ハイガイ *Tegillarca granosa*

## 付編11 居徳遺跡群出土鉄製品の形態的特徴について

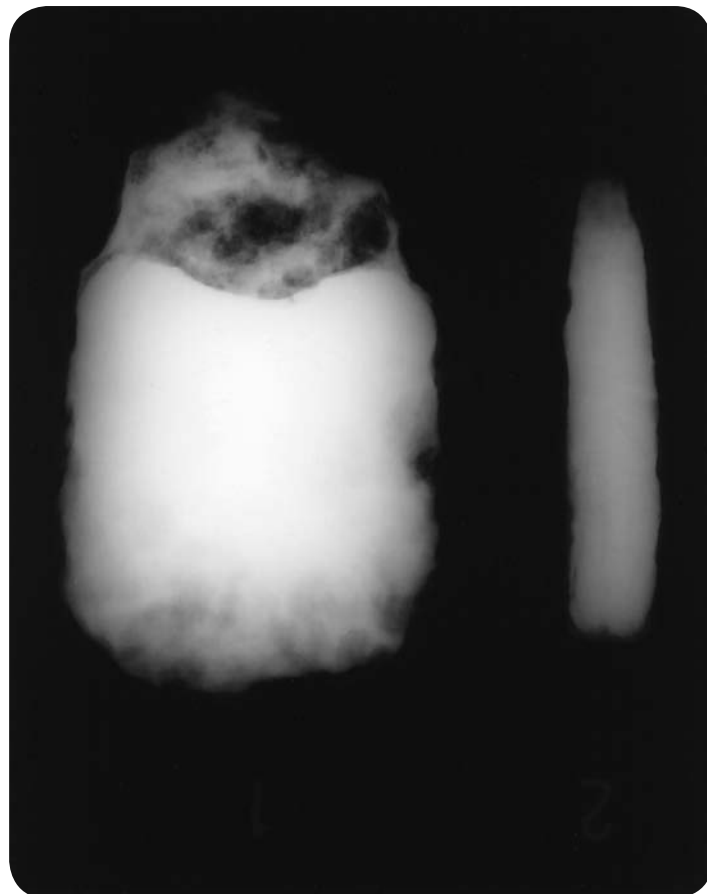
(株)吉田生物研究所

### 袋状鉄斧の特徴

鉄斧のX線透過写真をみると、x線の透過率が低く、金属がかなり遺存していることがわかる。鉄斧の辺縁部の鉄錆が層状を呈しており、鍛造品と考えられる。鉄斧の袋部分の接合方法ははっきりしないが、形状から時代の下った製品と考えられる。

### たがね

表面に入る亀裂の状態から、鍛造品であることがわかる。X線透過写真をみると、x線の透過率が低く、金属がかなり遺存している。



X線透過写真

## 付編12 高知県居徳遺跡出土漆塗り縄文土器の漆塗膜構造調査

(株)吉田生物研究所

### 1. はじめに

高知県に所在する居徳遺跡から出土した、縄文時代の漆塗り土器1点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

### 2. 調査資料

調査した資料は、外面に赤色漆が塗られた縄文土器片1点である。

### 3. 調査方法

まず塗膜断面を観察する目的で、資料本体から数mm四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。また赤色の由来を特定するために、京都市工業試験場にて理学電機工業(株)製の全自動蛍光X線分析装置3270E(検出元素範囲B~U)を用いて蛍光X線分析を行った。これは資料本体から採取した破片表面の赤色部分を分析した。

### 4. 断面観察結果

塗膜断面の観察結果を表1に示す。

表1 断面観察結果表

部位	写真No.	塗膜構造(下層から)				
		素地	下地		漆層	
			膠着剤	混和材	漆層構造	赤色顔料
外面	1~3	土器胎土	漆	油煙類	透明漆1層/赤色漆1層	ベンガラ

塗膜構造：土器胎土、下地、漆層と重なる様子が観察された。

下地：淡褐色の漆に黒色の微粒子が混和されている。この微粒子は形状から油煙類と判断する。

漆層：下地の上に黄褐色の透明漆1層と赤色顔料が混和された赤色漆1層が観察された。透明漆層の層の厚さは均一ではない。

赤色顔料：最上層の赤色漆層には、黄褐色の漆層中に中空の円筒状の赤色を呈するパイプ状ベンガラ粒子が観察された。

### 5. 蛍光X線分析結果

蛍光X線分析の結果を表3に示す。土器胎土成分と考えられる成分に混じってFeが検出され、その含有率は高い。これは赤色顔料に由来するものと考えられ、赤色顔料はベンガラと判断される。

表3 蛍光X線分析結果表

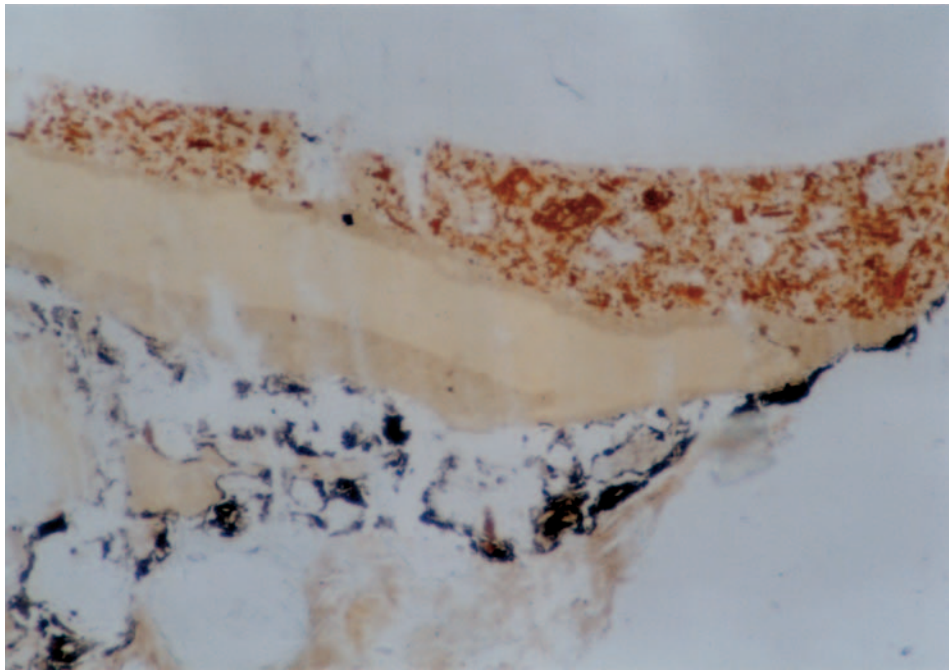
元素	含有率 (wt%)
Mg	2.6
Al	15.0
Si	21.0
P	2.5
S	9.7
K	3.4
Ca	5.3
Fe	41.0

## 6. 摘要

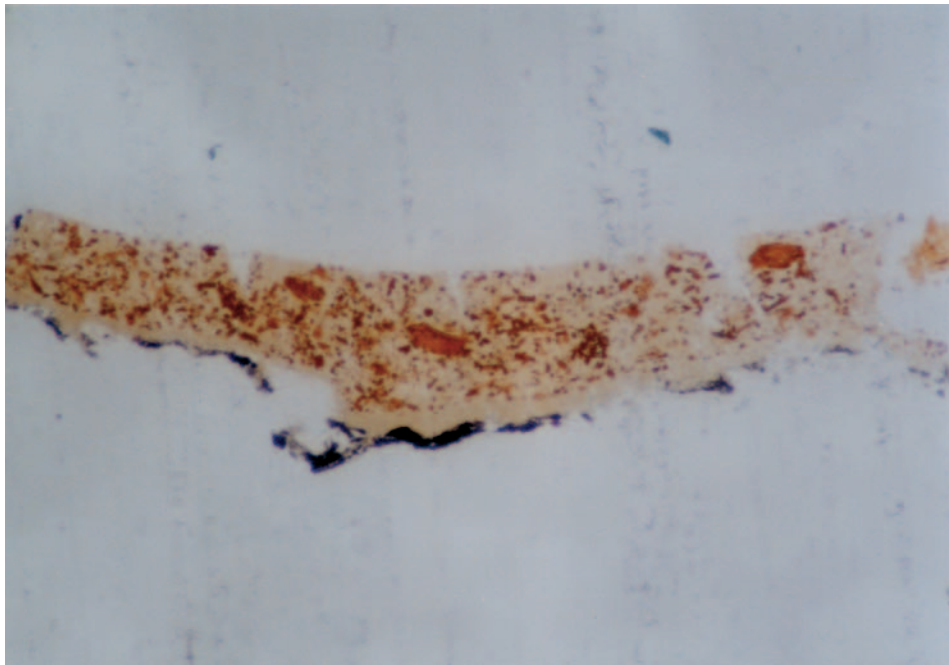
外面に赤色漆が塗布された縄文土器片1点の塗膜構造を観察し、あわせて蛍光X線分析も行った。

胎土、漆に油煙類を混和した下地、透明漆1層、赤色漆1層と重なる様子が観察された。

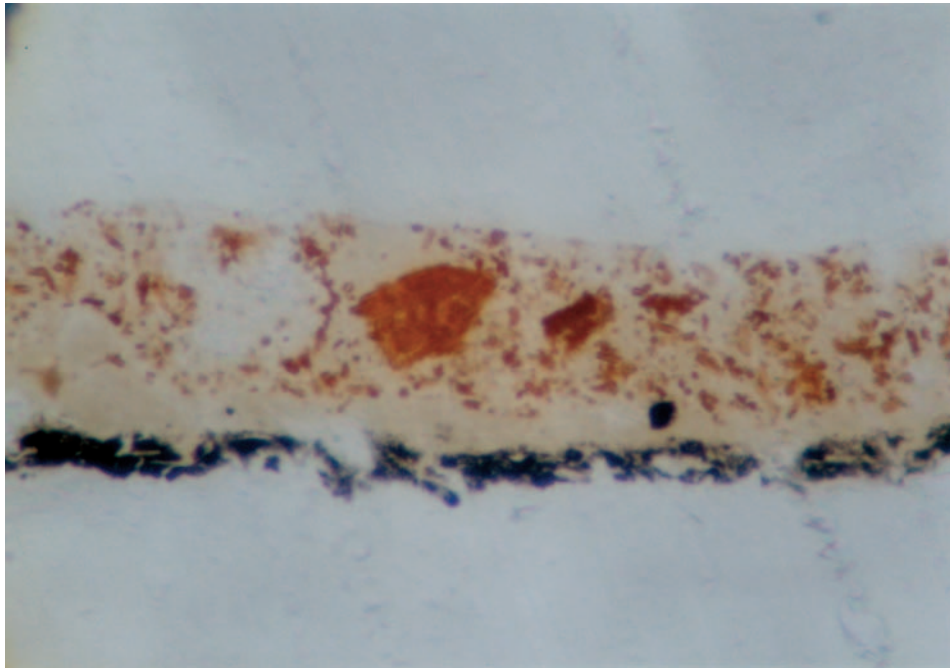
赤色顔料として、パイプ状ベンガラ粒子が最上層に観察された。これは蛍光X線分析の結果と合致する。



外面の塗膜断面 (×400)



外面の塗膜断面 (×400)



外面の塗膜断面 (×800)



# 写真図版





5 A区調査前状況



同上



5 A区調査前状況



同上



5 A区機械掘削状況



同上



5 A区機械掘削状況



同上



5 A区調査状況



同上



5 A区調査状況



同上





5 A区堆積土層断面



同上



5 A区堆積土層断面



同上



5 A区堆積土層断面



同上



5 A区土師器出土状況



同上



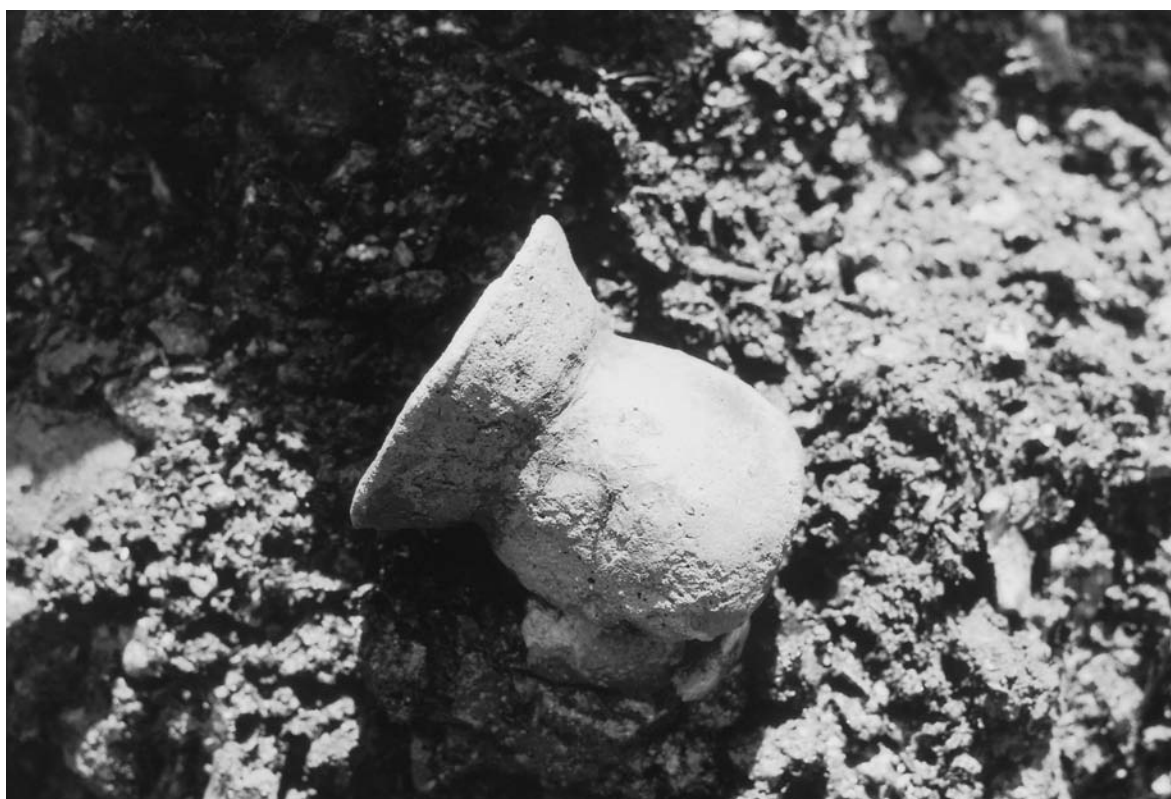
5 A区土師器出土状況



同上



5 A区土師器出土状況



同上



5 A区土師器出土状況



同木製品出土状況



5 A区土師器出土状況

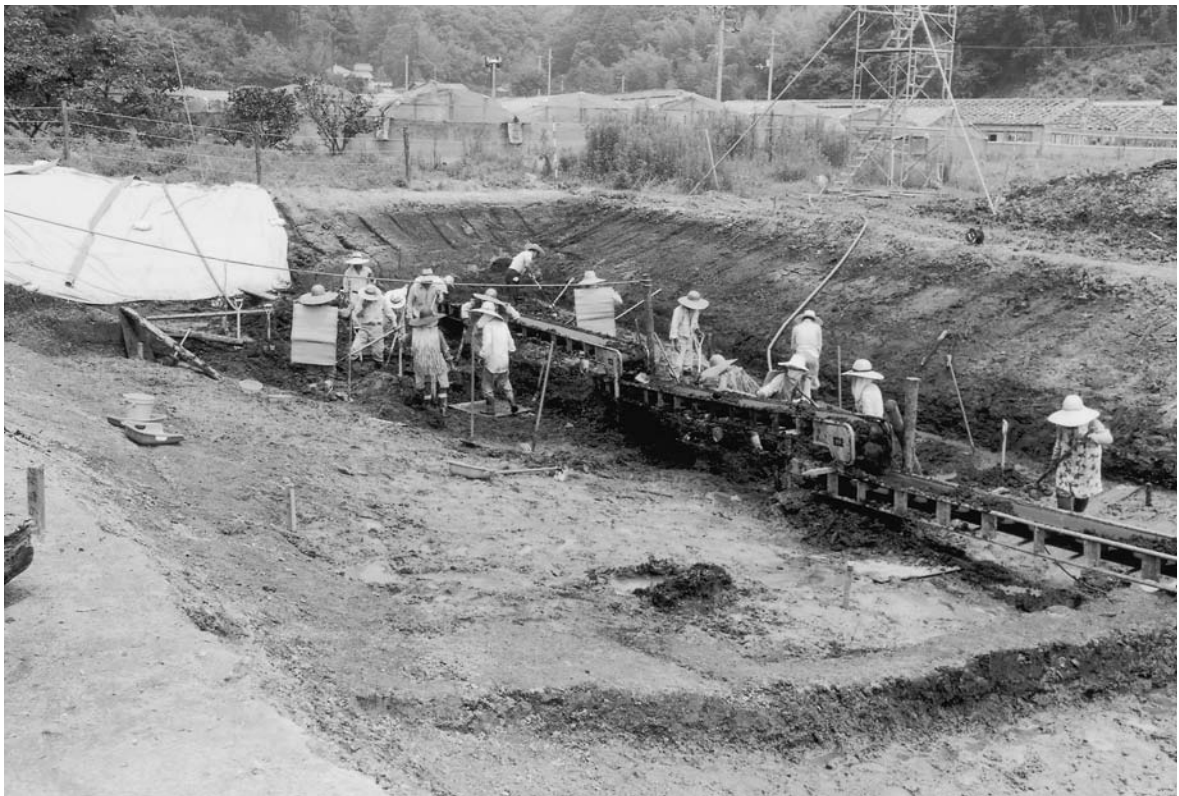


同上





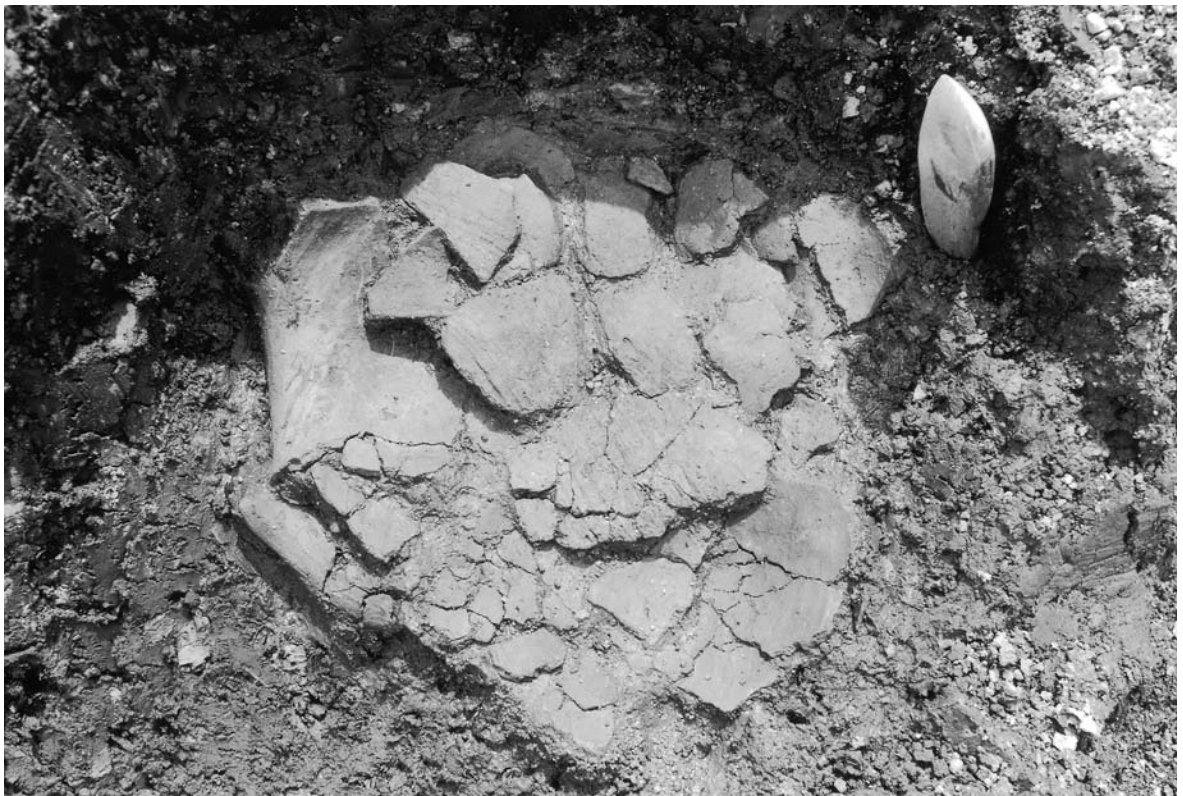
5 A区調査状況



同上



5 A区石器出土状況



同縄文土器出土状況



5 A区縄文土器出土状況



同上



5 A区調査状況



同上



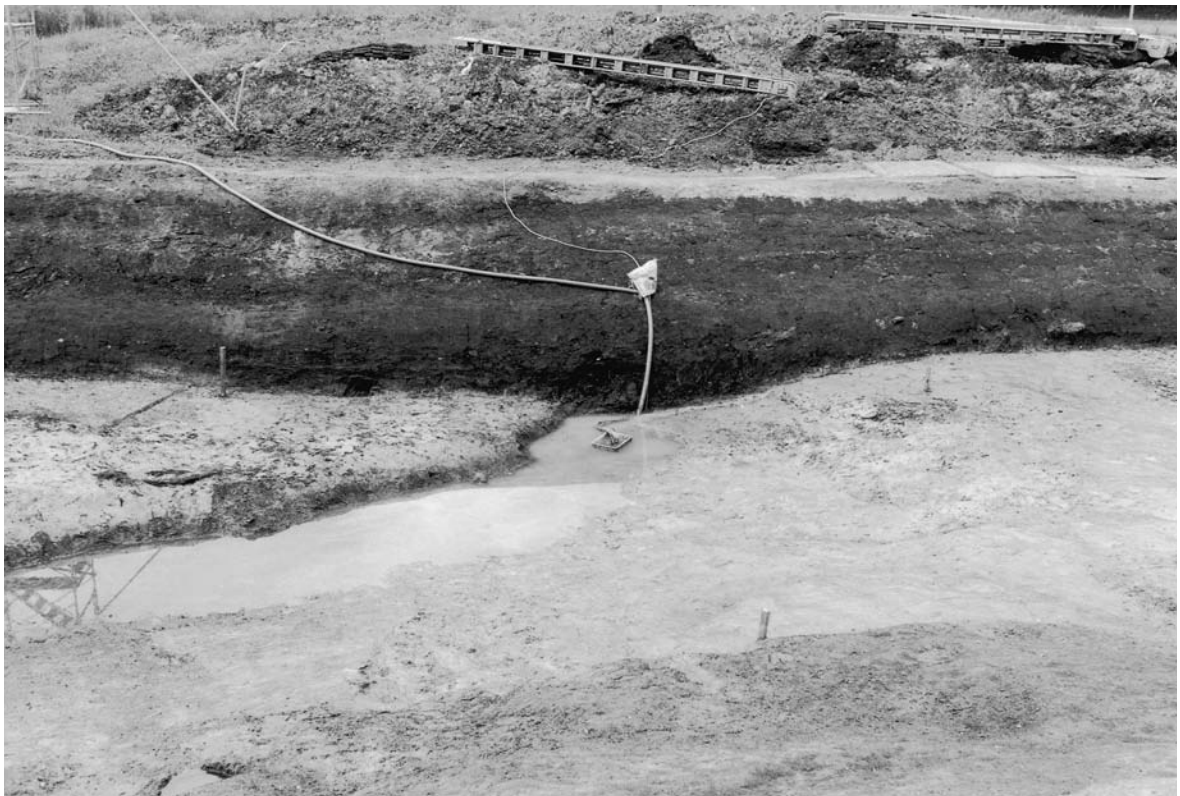
5 A区完掘状況



同上



5 A区完掘状況



同上



5 A区出土遺物 1 (土器)



5 A区出土遺物 2 (土器)

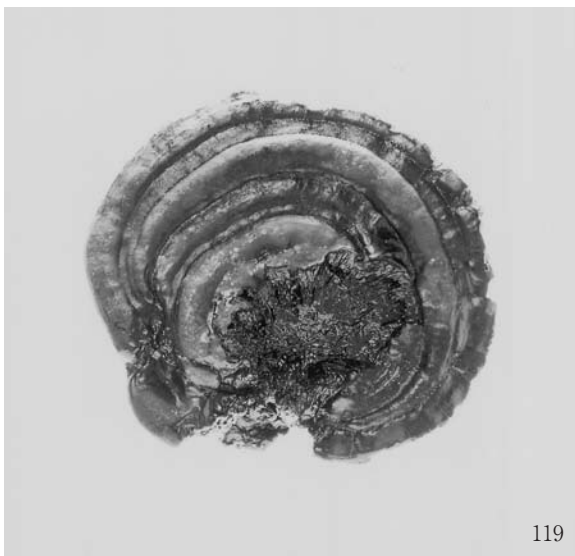




5 A区出土遺物 3 (土器)



5 A区出土遺物 4 (土器)



5 A区出土遺物 5 (土器・自然遺物)



5 A区出土遺物 6 (土器・木製品)



3 A区調査状況



同上



3 A区調査状況



同上



3 A区調査状況



同上

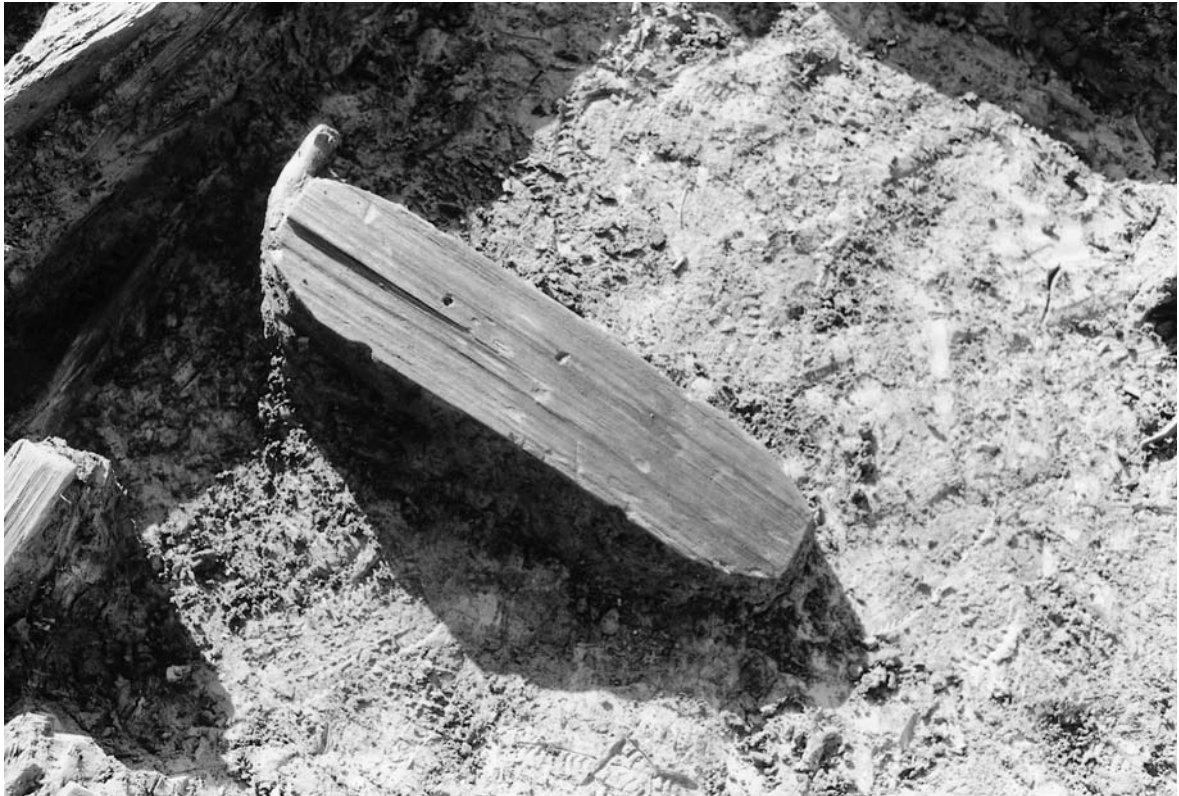


3 A区木製品出土状況



同上





3 A区木製品出土状況



同上



3 A区木製品出土状況



同上



3 A区木製品出土状況



同上



3 A区木製品出土状況



同上



3 A区木製品出土状況



同上



3 A区木製品出土状況



同土師器出土状況



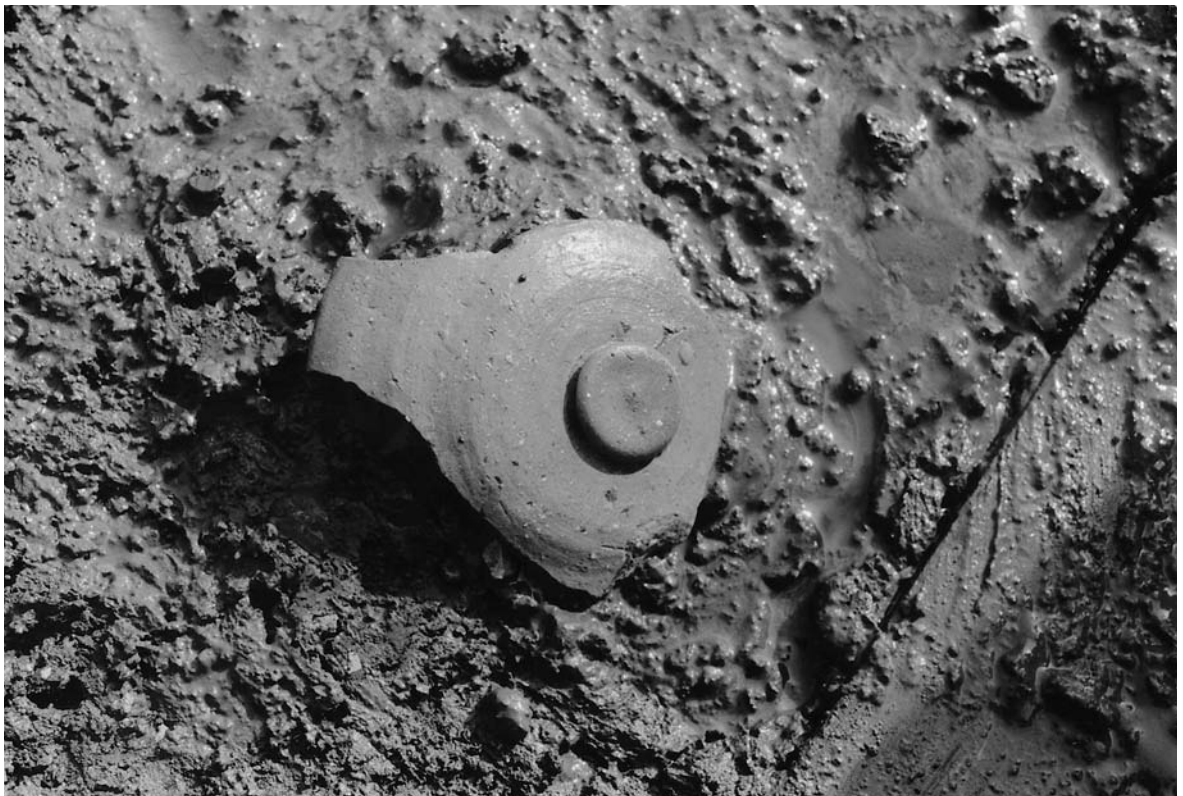
3 A区木製品出土状況



同須恵器出土状況



3 A区木製品出土状況

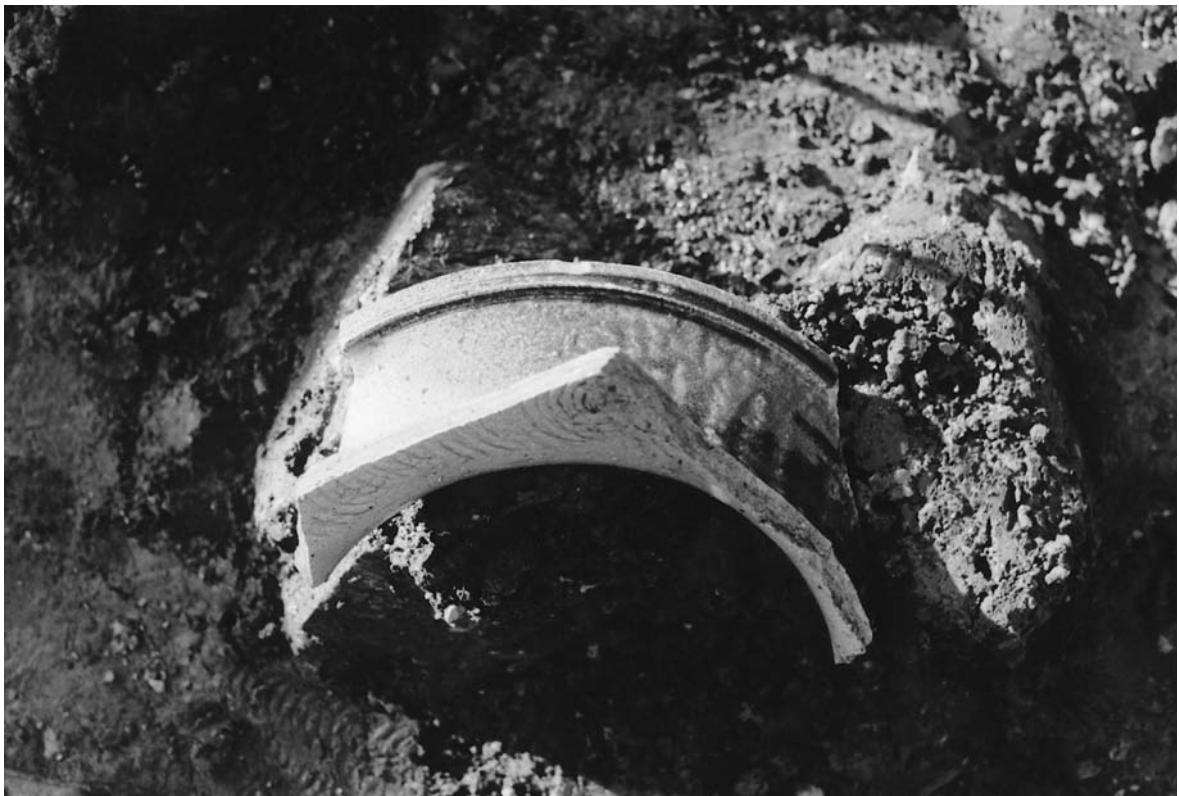


同須恵器出土状況





3 A区弥生土器出土状況



同須恵器出土状況



3 A区木製品出土状況



同上



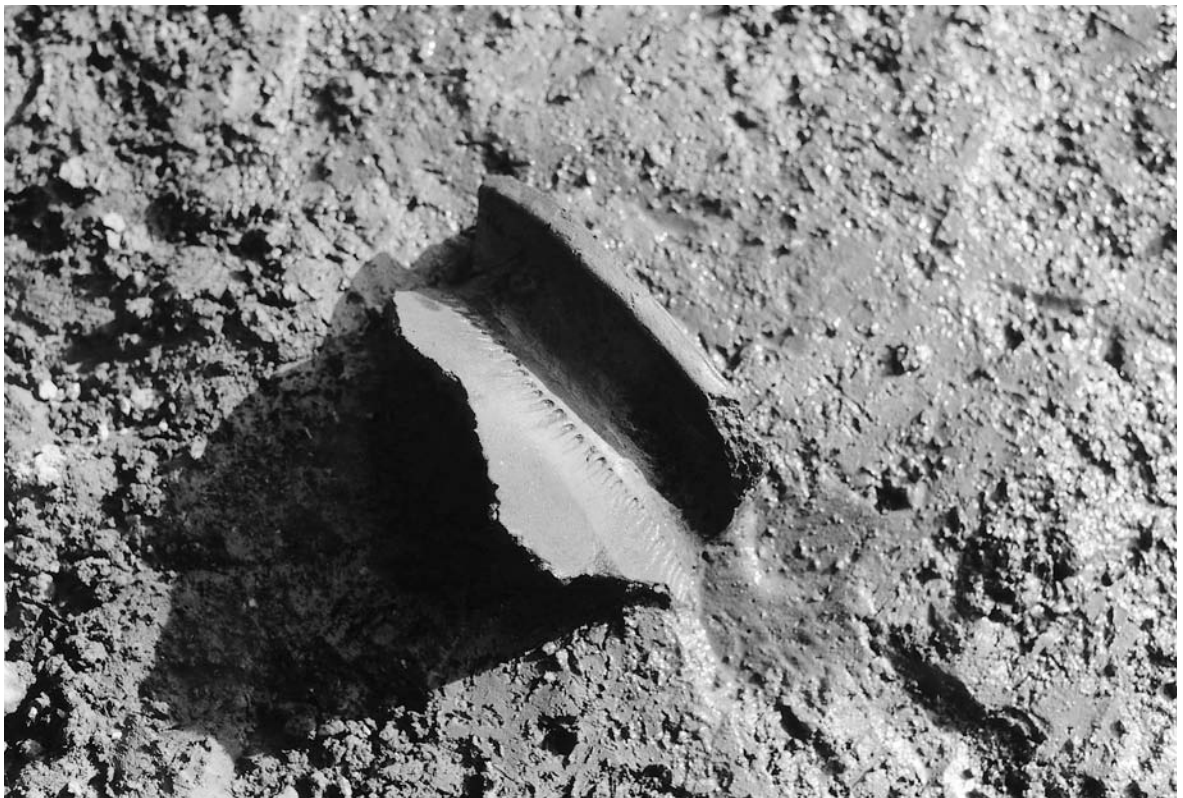
3 A区木製品出土状況



同上



3 A区木製品出土状況



同土師器出土状況



3 A区杭列調査状況



同杭列検出状況



3 A区杭列検出状況



同上



3 A区杭列検出状況



同上



3 A区杭列検出状況



同上





3 A区梯子出土状況



同上



3 A区調査状況



同上



3 A区縄文土器出土状況



同木製品出土状況



3 A区木製品出土状況



同上



3 A区Ⅵ層上面検出状況



同上



3 A区Ⅵ層上面検出状況



同上



3 A区Ⅵ層上面検出状況



同上



3 A区堆積土層断面



同上





3 A区堆積土層断面



同上



3 A区遺構調査状況



同上



3 A区完掘状況



同上



3 A区完掘状況



同南壁堆積土層断面



3 A区北西部調査状況



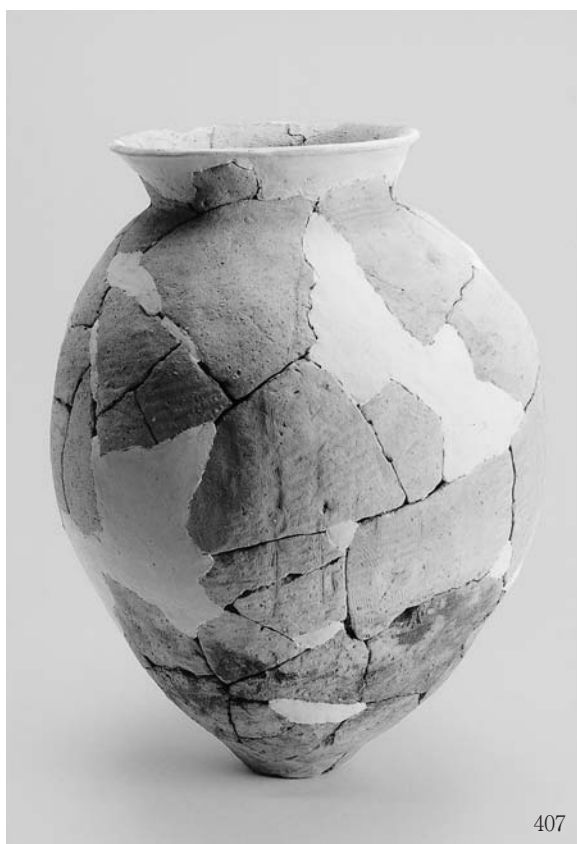
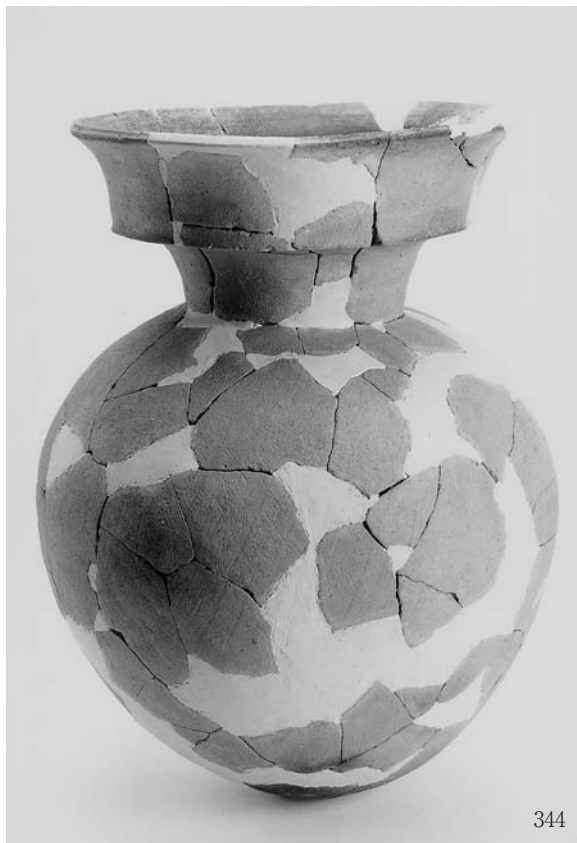
同完掘状況



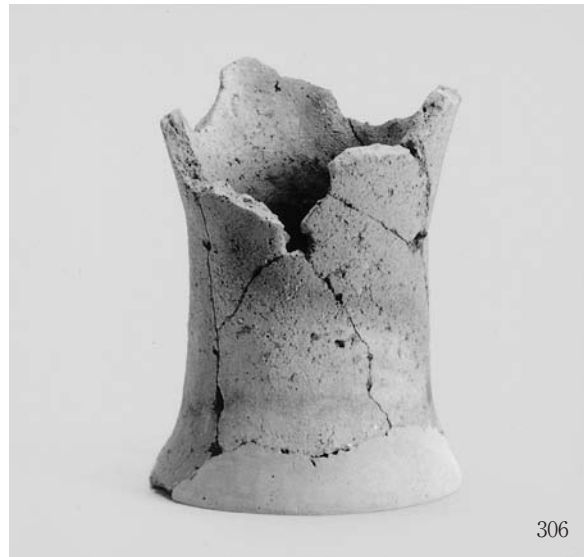
3A区SE区全景



同上



3 A区出土遺物 1 (土器)



3 A区出土遺物 2 (土器)





3 A区出土遺物 3 (土器)



3 A区出土遺物 4 (土器)



3 A区出土遺物 5 (土器)



3 A区出土遺物6 (土器)



3 A区出土遺物 7 (土器)



3 A区出土遺物 8 (土器)



3 A区出土遺物 9 (土器)

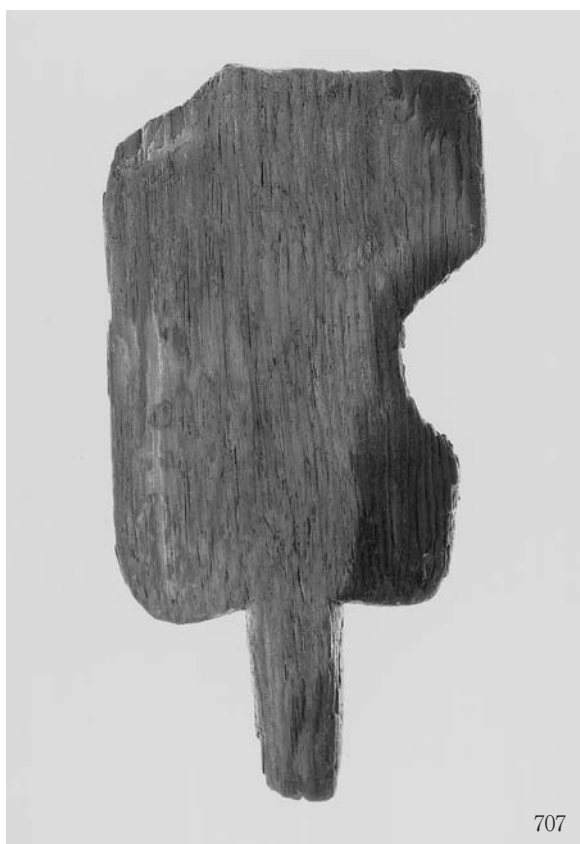


3 A区出土遺物10 (土器)





3 A区出土遺物11 (土器)



3 A区出土遺物12 (木製品)



3 A区出土遺物13 (木製品)



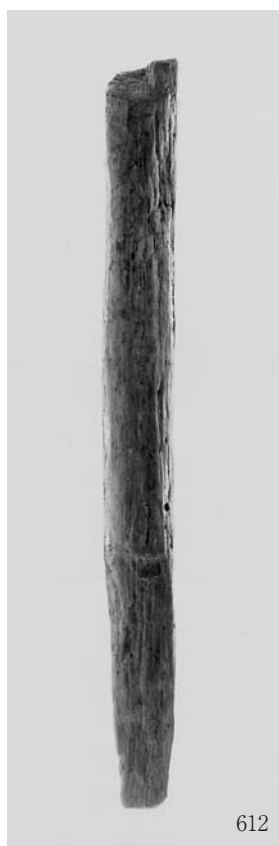
3 A区出土遺物14 (木製品)



3 A区出土遺物15 (木製品)



3 A区出土遺物16 (木製品)

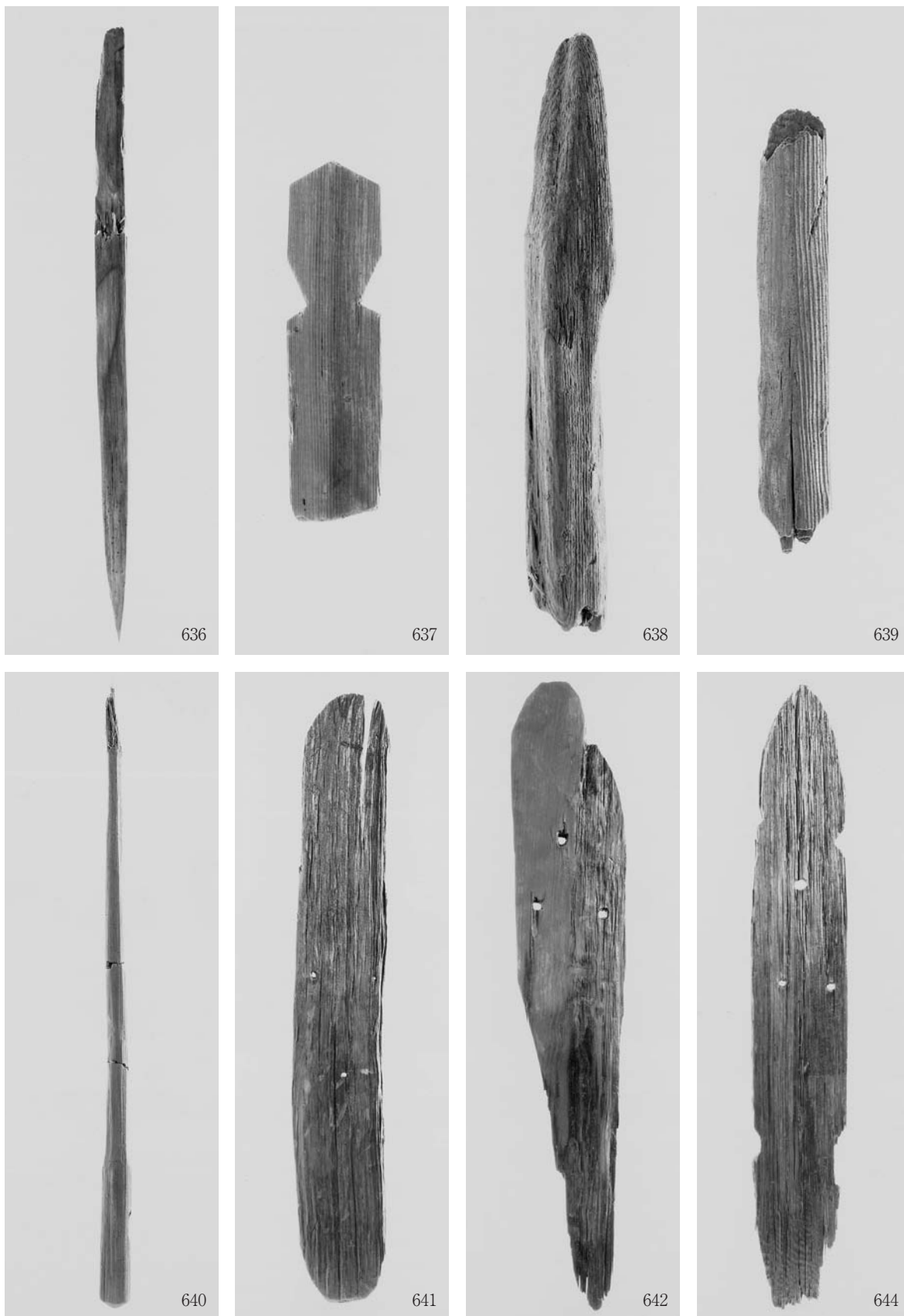


3 A区出土遺物17 (木製品)

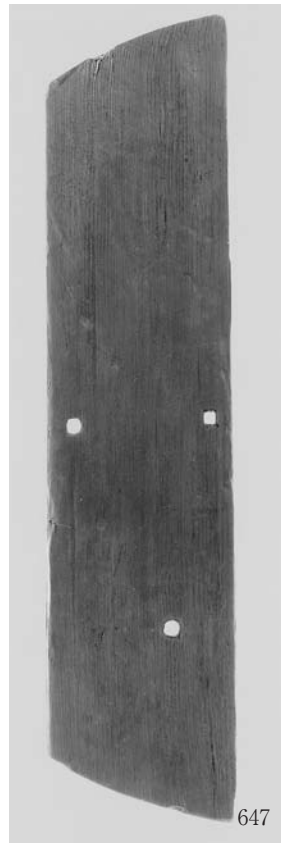


3 A区出土遺物18 (木製品)

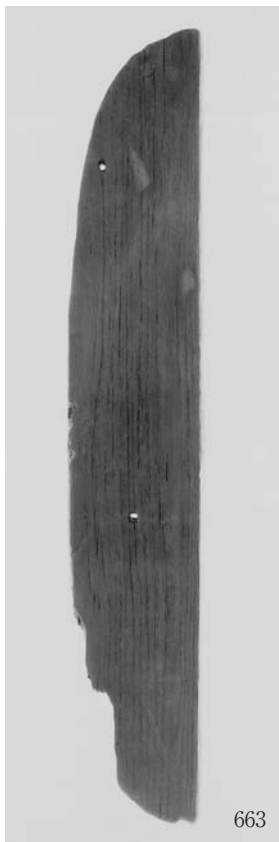




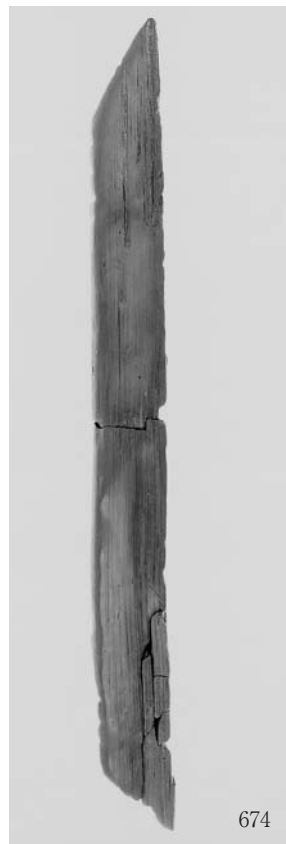
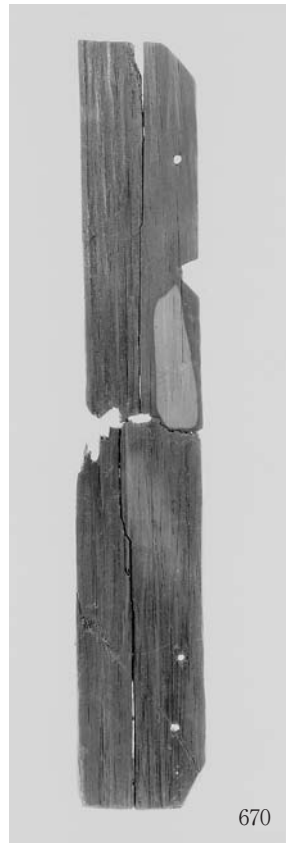
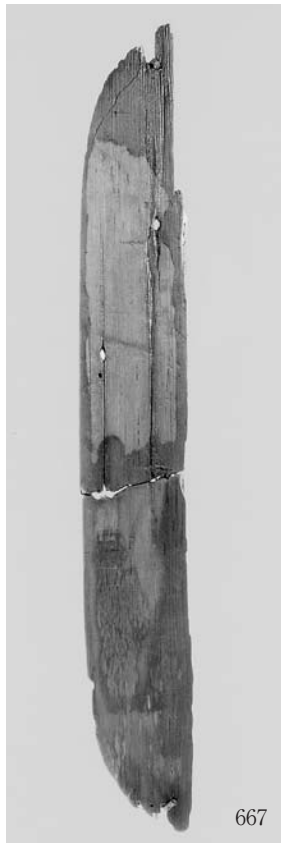
3 A区出土遺物19 (木製品)



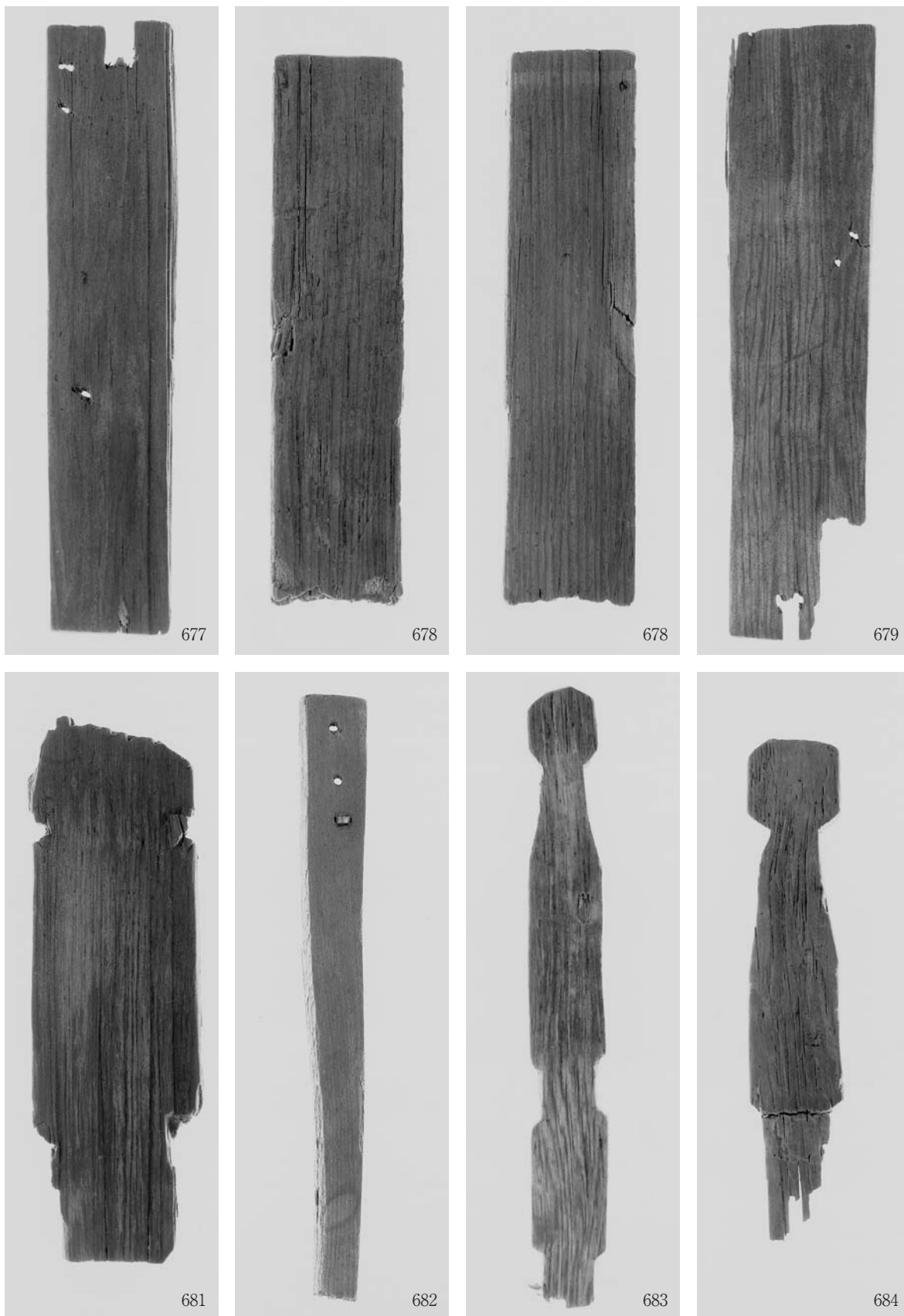
3 A区出土遺物20 (木製品)



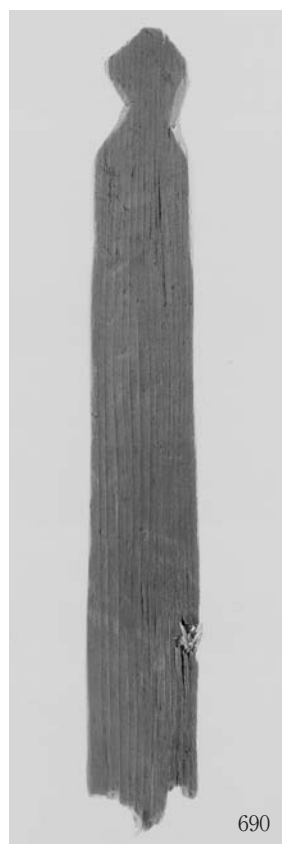
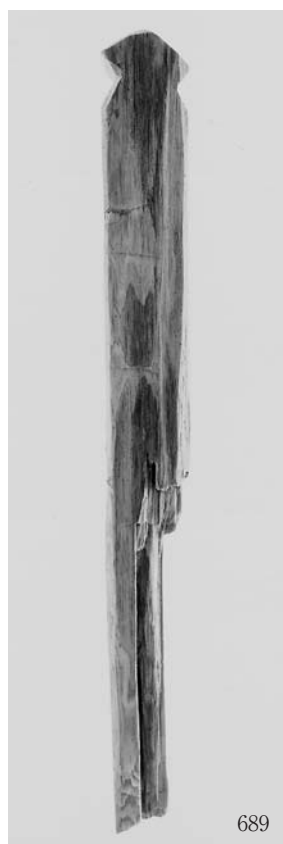
3 A区出土遺物21 (木製品)



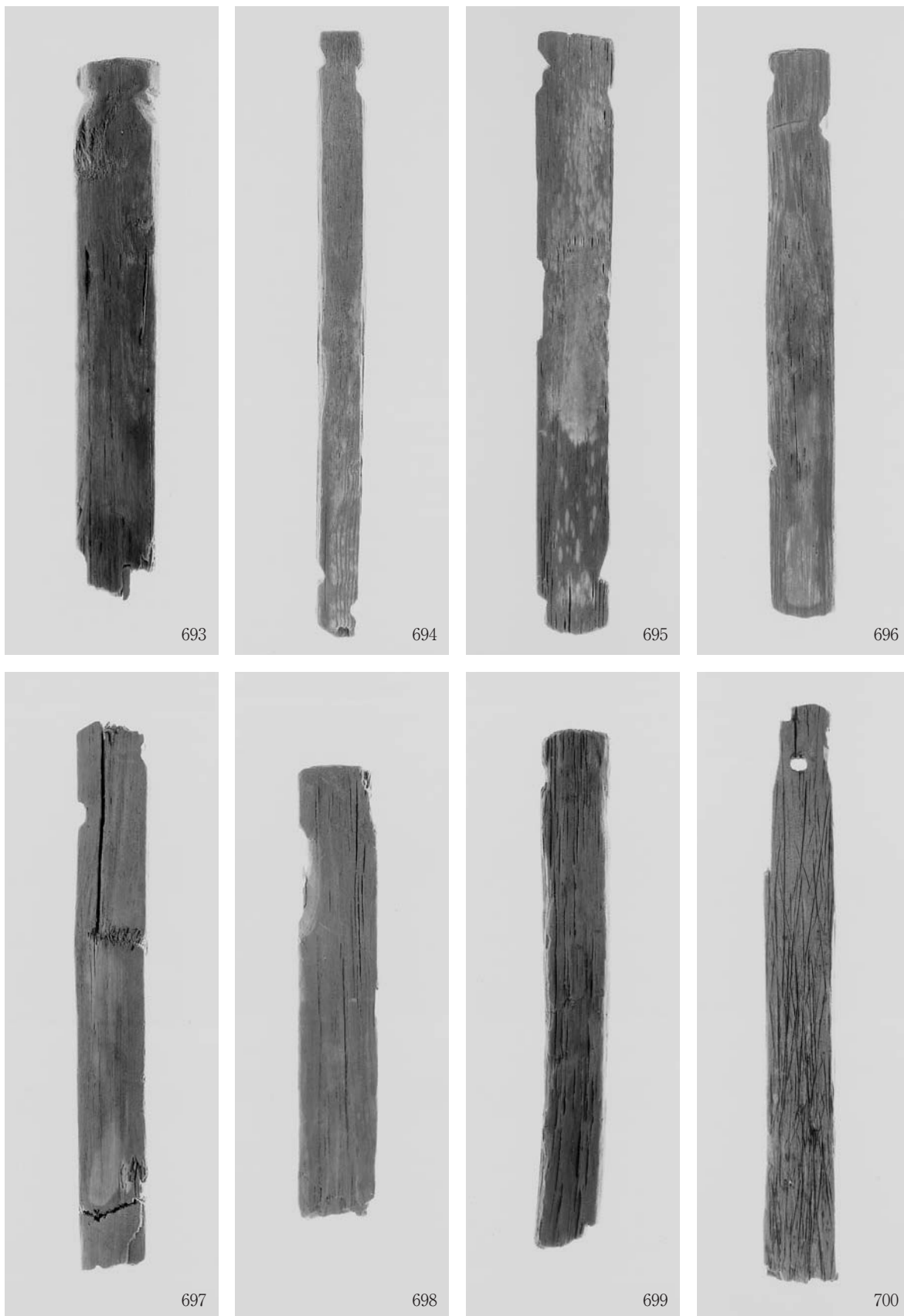
3 A区出土遺物22 (木製品)



3 A区出土遺物23 (木製品)



3 A区出土遺物24 (木製品)

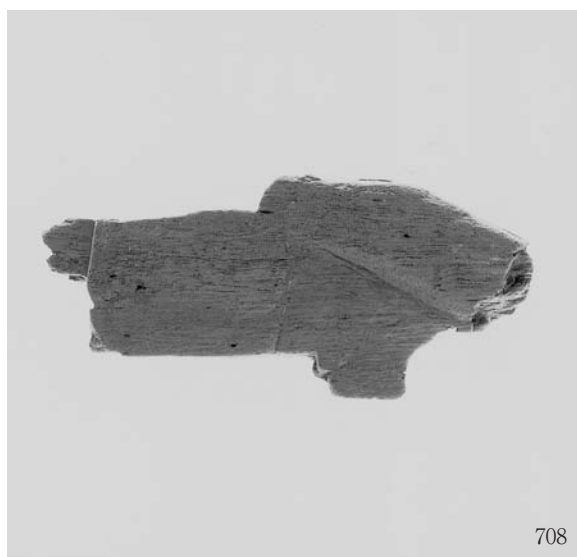
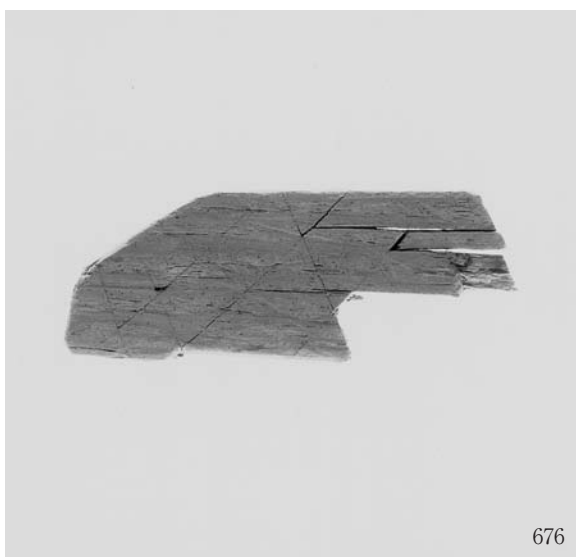
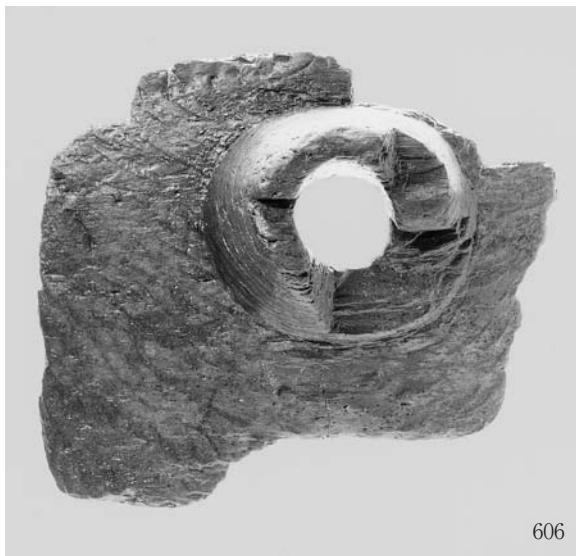


3 A区出土遺物25 (木製品)

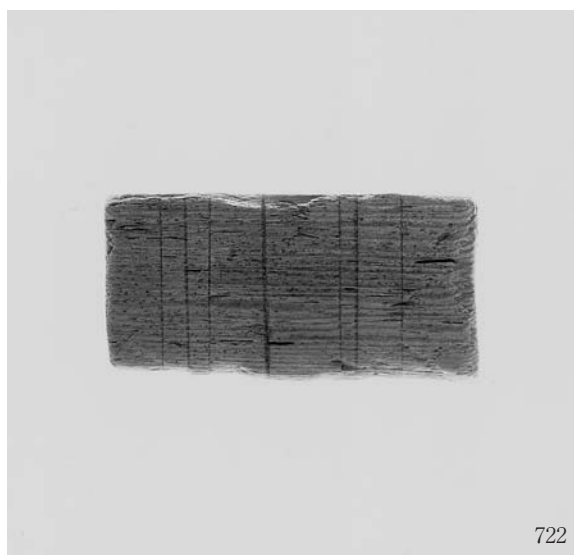


3 A区出土遺物26 (木製品)

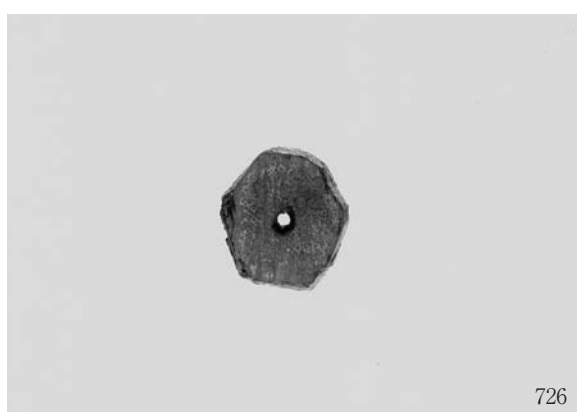
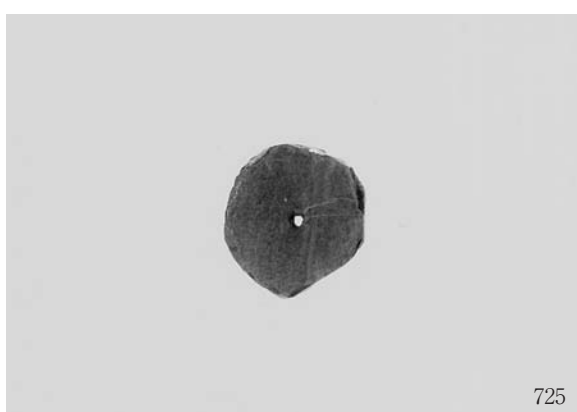
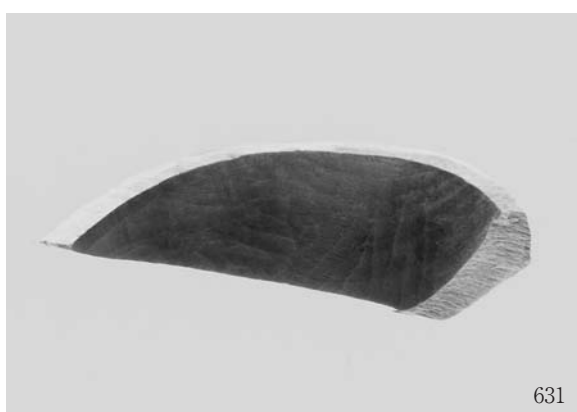
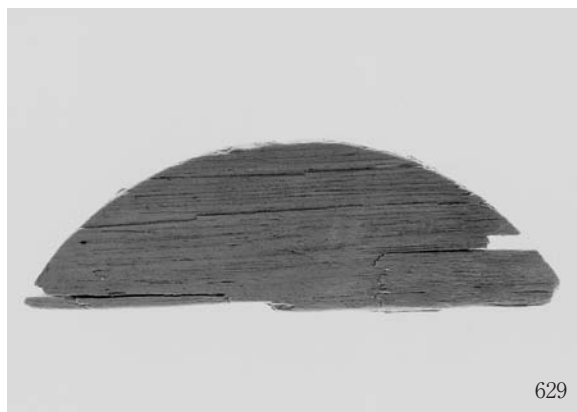




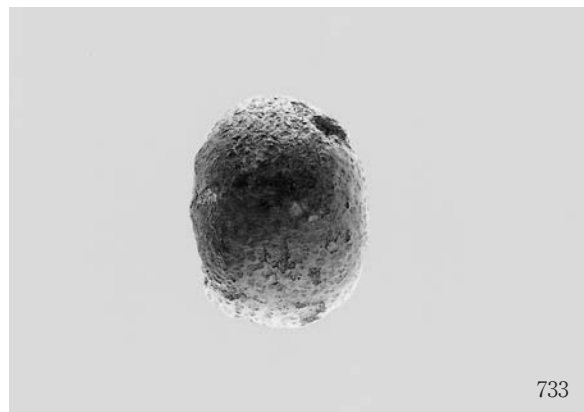
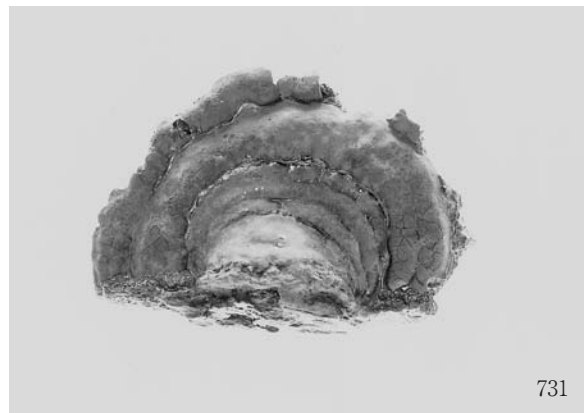
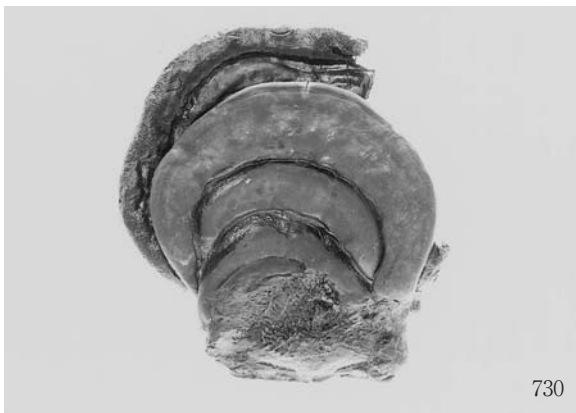
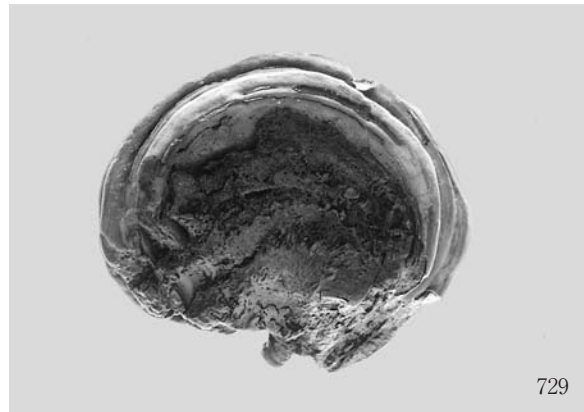
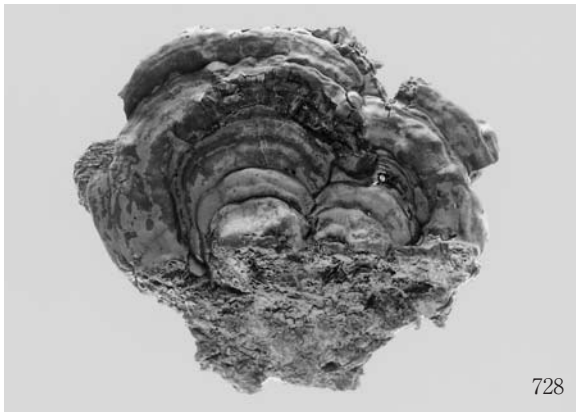
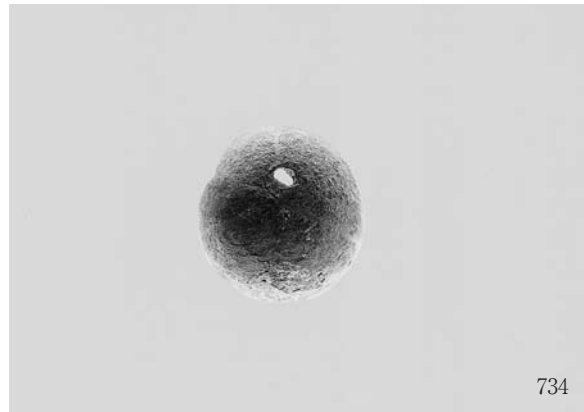
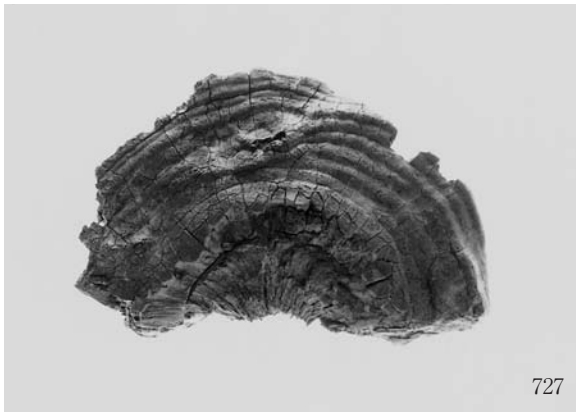
3 A区出土遺物27 (木製品)



3 A区出土遺物28 (木製品)



3 A区出土遺物29 (木製品)



3 A区出土遺物30 (木製品)



4 D区北西部調査状況



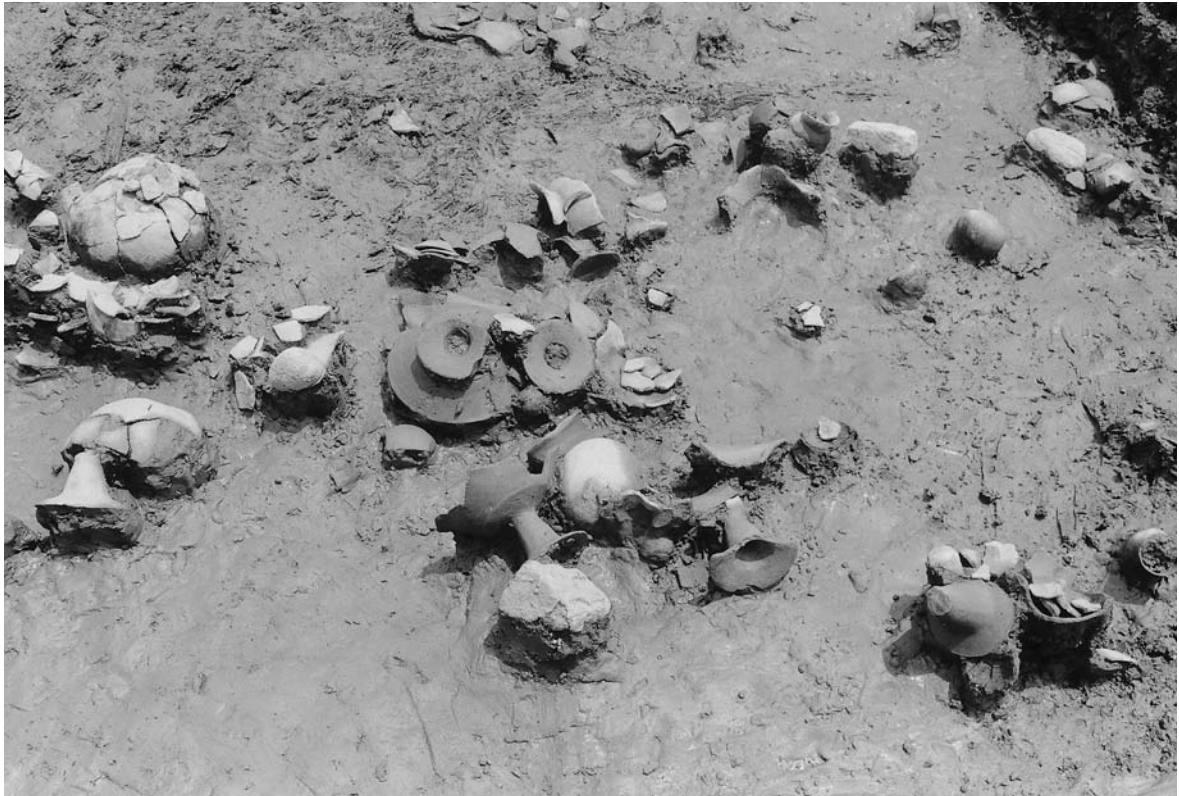
同上



4 D区木製品出土状況



同上



4 D区土師器出土状況



同木製品出土状況



4 D区北西部調査状況



同土師器出土状況

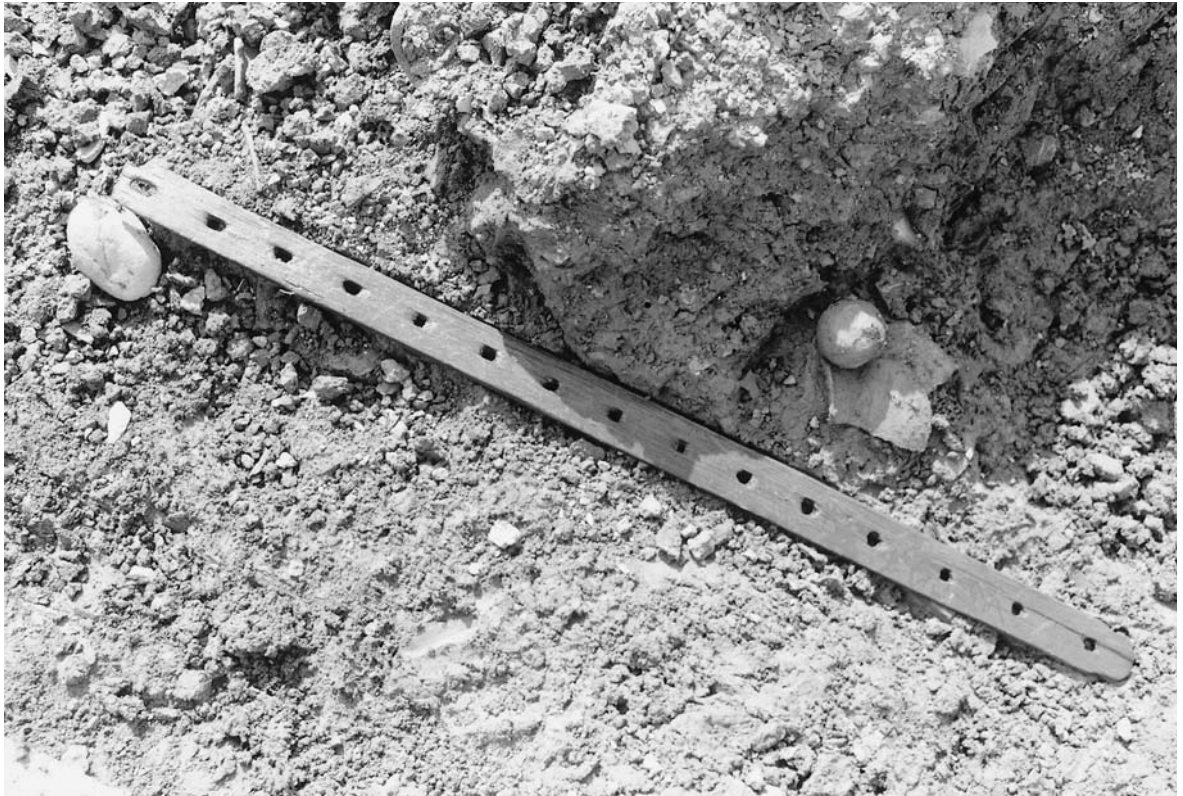




4 D区木製品出土状況



同上



4 D区木製品出土状況



同勾玉出土状況



4 D区北西部堆積土層断面



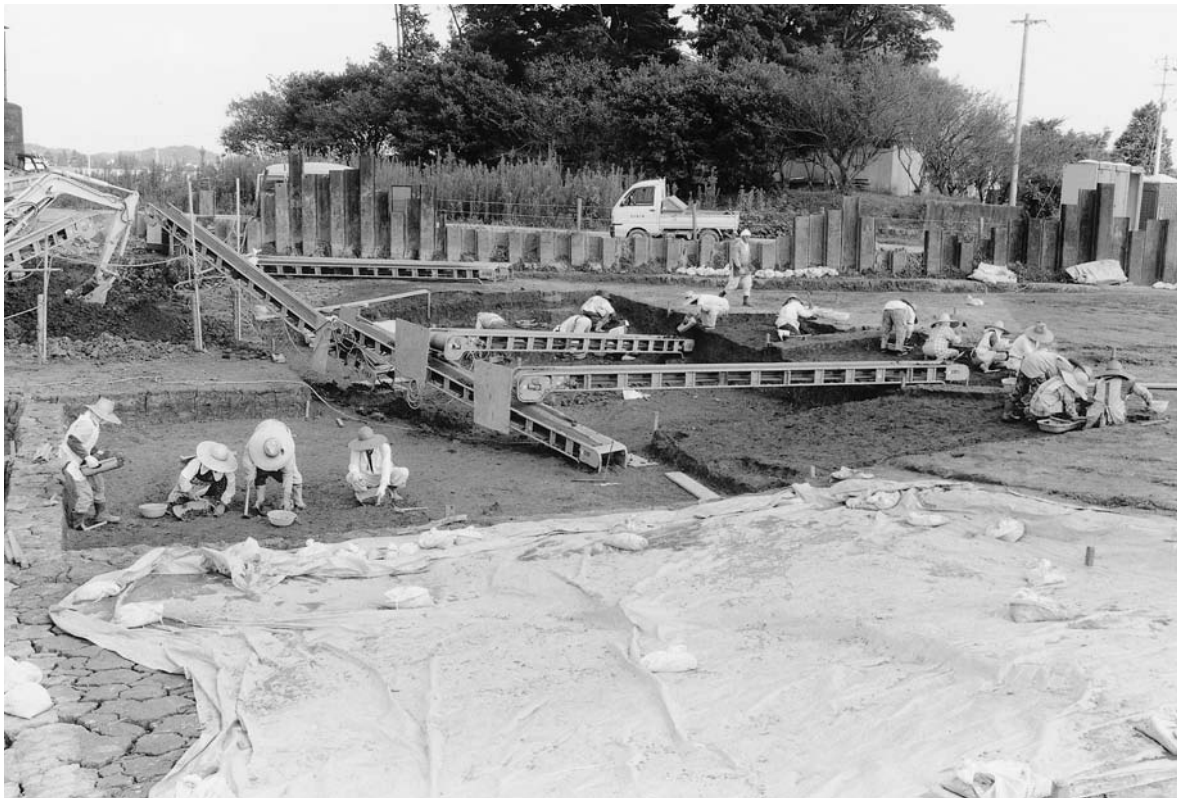
同上



4 D区北西部IV層上面完掘状況



同上



4 D区南西部調査状況



同上



4 D区木製品出土状況



同上



4 D区木製品出土状況



同上



4 D区南西部調査状況



同土師器出土状況

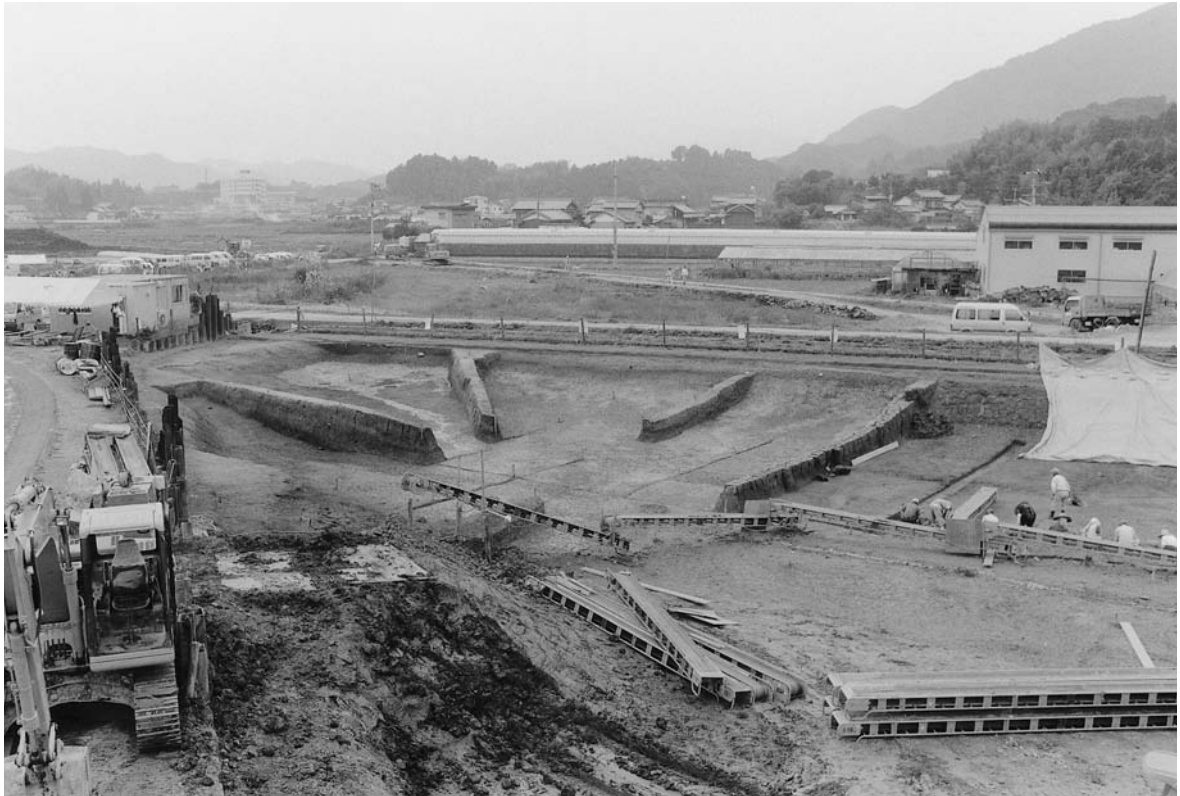




4 D区南西部調査状況



同子持勾玉出土状況



4 D区南西部IV層上面検出状況



同上



4 D区南西部堆積土層断面



同上



4 D区南西部堆積土層断面



同上



4 D区南西部IV層上面完掘状況



同上



4 D区南西部IV層上面完掘状況



同上



4 D区北東部調査状況



同IV層上面完掘状況



4 D区土製耳飾出土状況

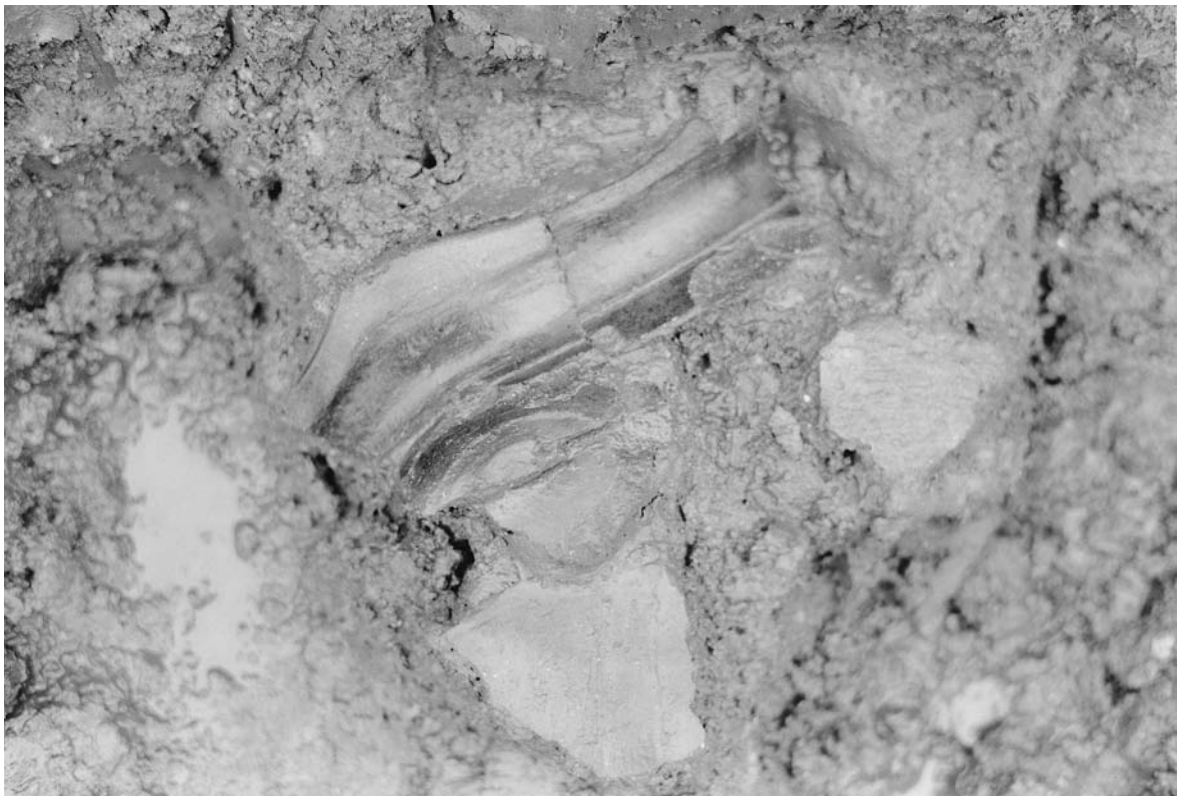


同繩文土器出土状況





4 D区動物骨出土状況



同縄文土器出土状況



4 D区動物骨出土状況



同上



4 D区南西部堆積土層断面



同上



4 D区南西部調査状況



同動物骨出土状況



4 D区南西部堆積土層断面



同上



4 D区動物骨出土状況



同上



4 D区南西部調査状況



同上



4 D区南西部堆積土層断面



同上

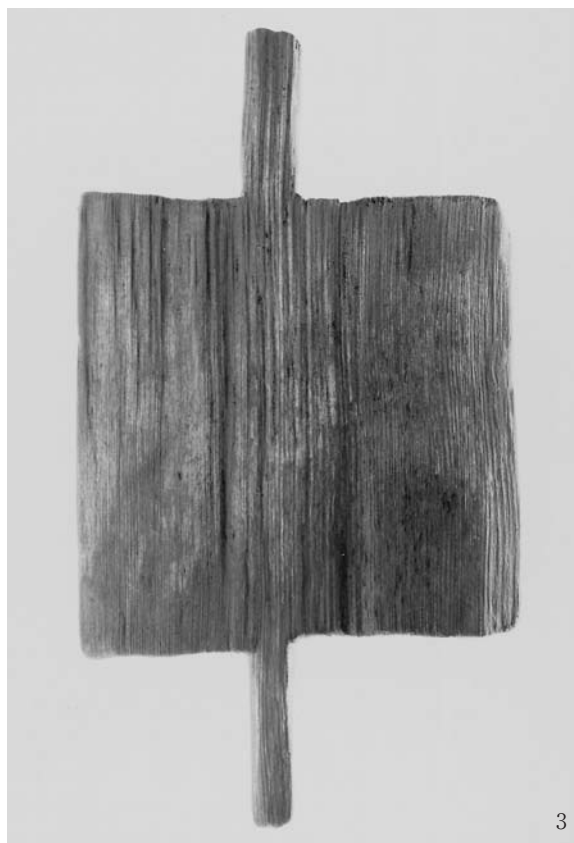




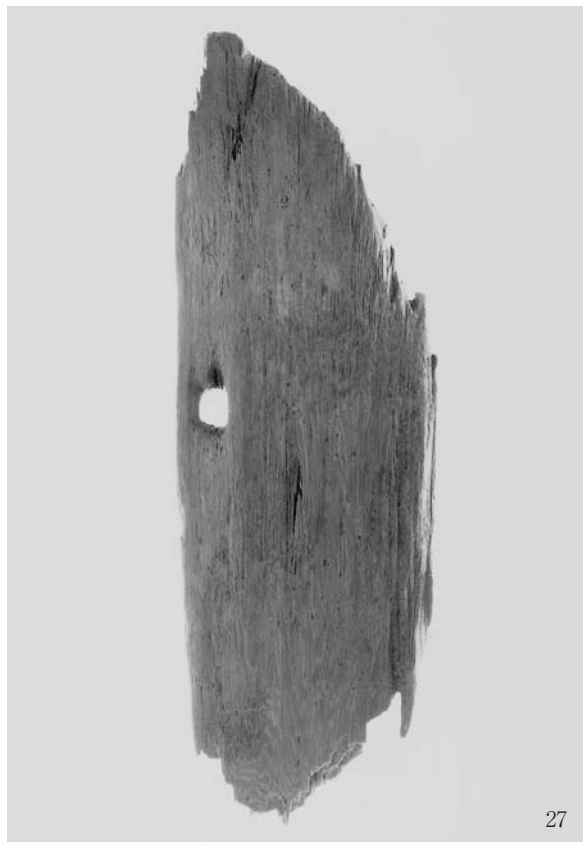
4 D区完掘状況



同上



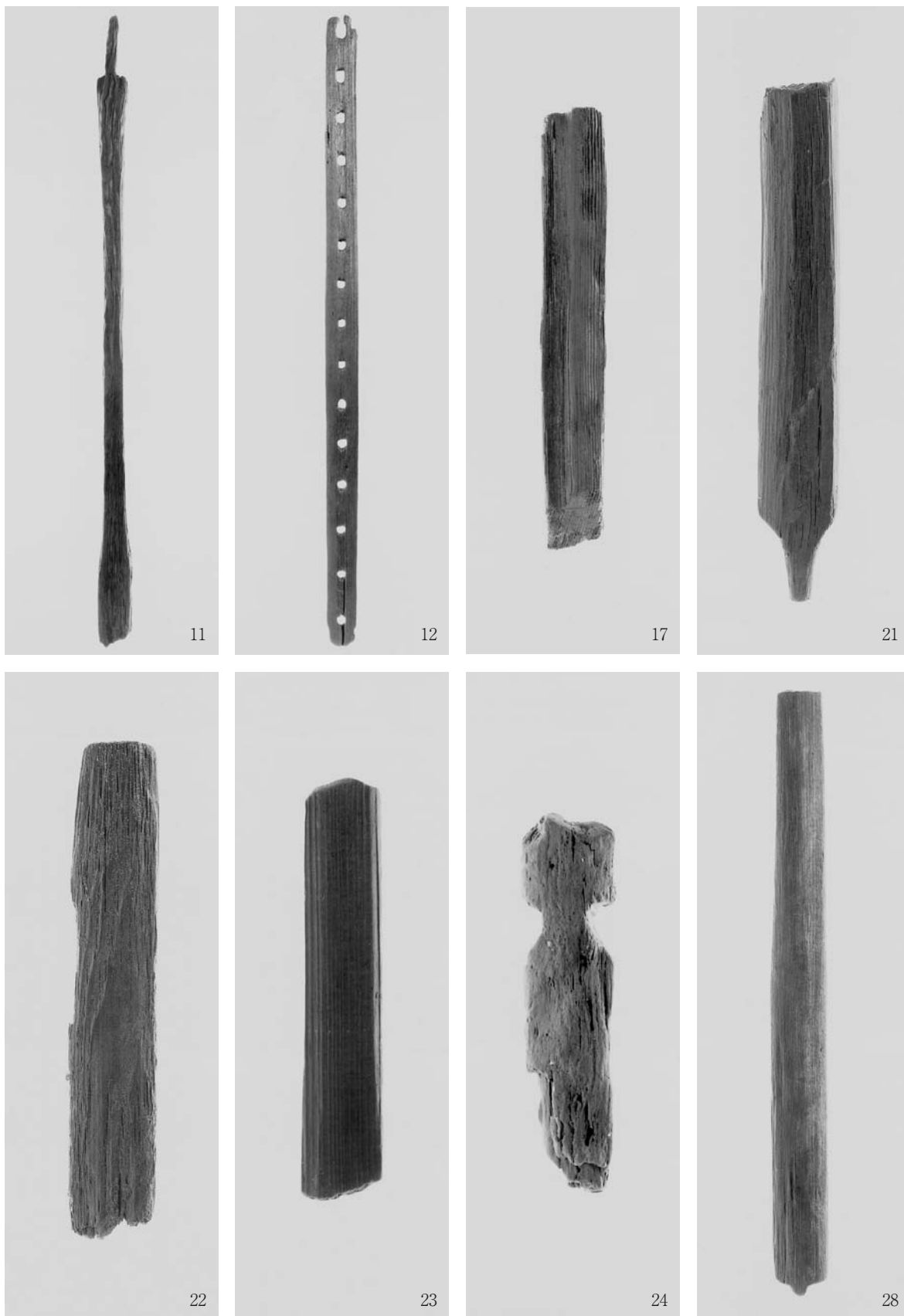
4 D区出土遺物 1 (木製品)



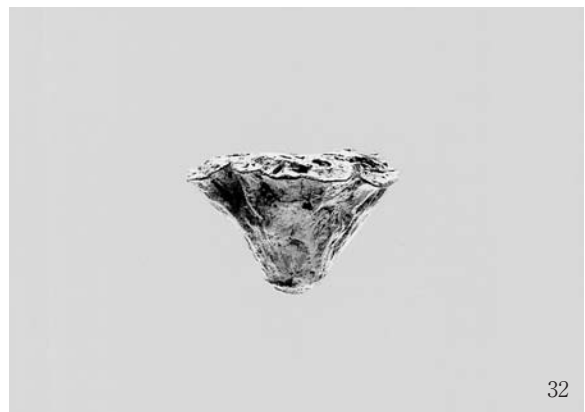
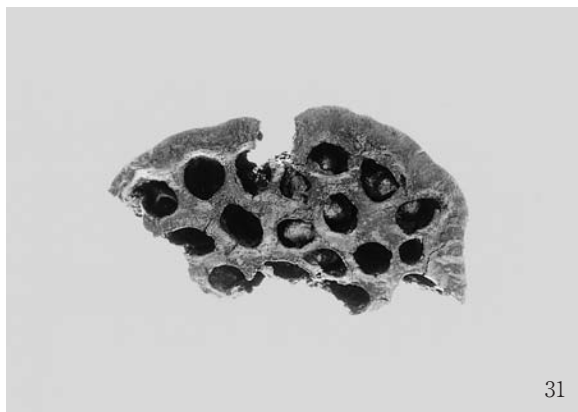
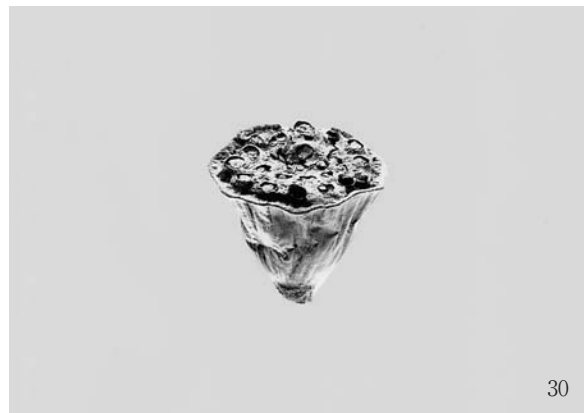
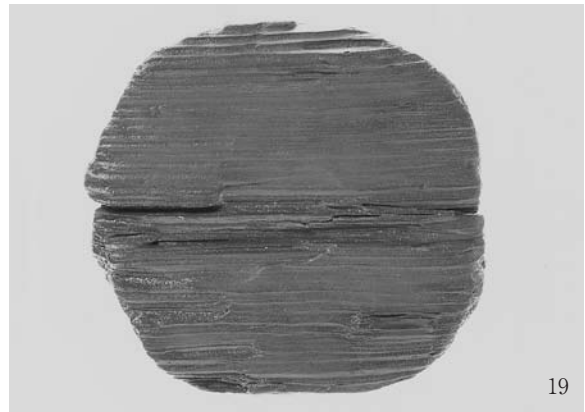
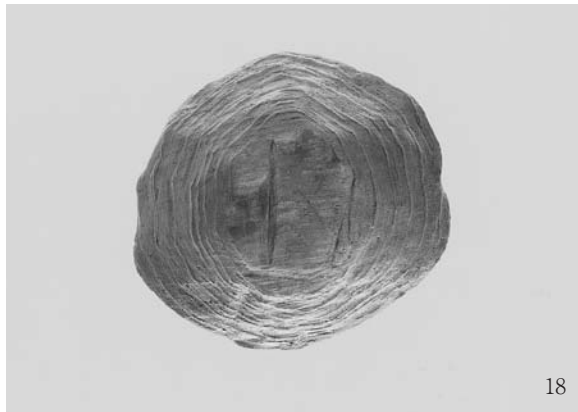
4 D区出土遺物 2 (木製品)



4 D区出土遺物 3 (木製品)



4 D区出土遺物 4 (木製品)



1 C区・4 D区出土遺物（木製品・自然遺物）

## 報告書抄録

ふりがな	いとくいせきぐん							
書名	居徳遺跡群 VI							
副書名	四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第91集							
編著者名	曾我貴行							
編集機関	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL088-864-0671							
発行年月日	2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いとくいせきぐん 居徳遺跡群	こうちけん 高知県 とさし 土佐市 たかおからょうおつ 高岡町乙 いとく 居徳ほか	39205	050087	33度 30分 22秒	133度 24分 59秒	19971114 ) 19990331	6,698㎡	四国横断 自動車道 (伊野～ 須崎間) 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
1C区	集落	縄文時代晩期 ) 弥生時代前期		石器、石器関連資料 動物骨、自然遺物		石器製作関連 資料が出土		
3A区	集落	縄文時代晩期 弥生時代 古墳時代 古代	杭列、ピット状 遺構	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器、石器 石製品、木製品、動物 骨、自然遺物				
4D区	包含層	縄文時代晩期 弥生時代前期 古墳時代	ピット状遺構	縄文土器、弥生土器 石器、土師器、木製品 人骨、動物骨、自然遺物		縄文時代晩期 の廃棄帯から 殺傷人骨、大 形土偶が出土		
5A区	旧河道 包含層	縄文時代晩期 弥生時代前期 古墳時代	自然流路 ピット状遺構	縄文土器、弥生土器 土師器、石器、木製品 自然遺物				

(財)高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第91集

## 居徳遺跡群 VI

四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004年3月31日

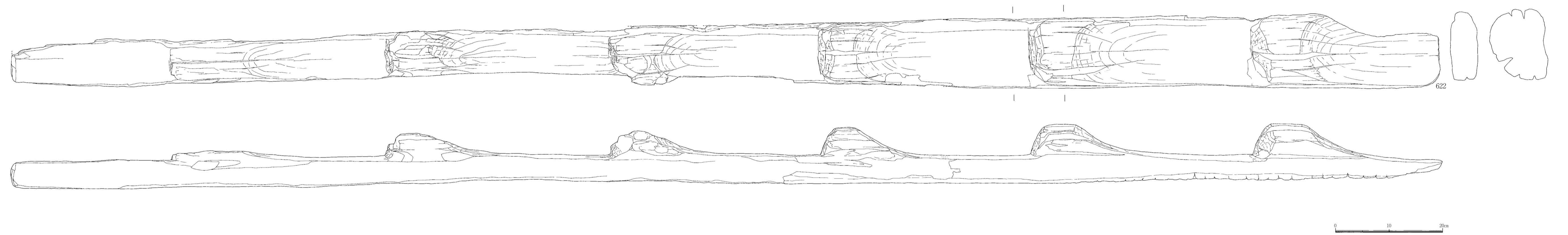
発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

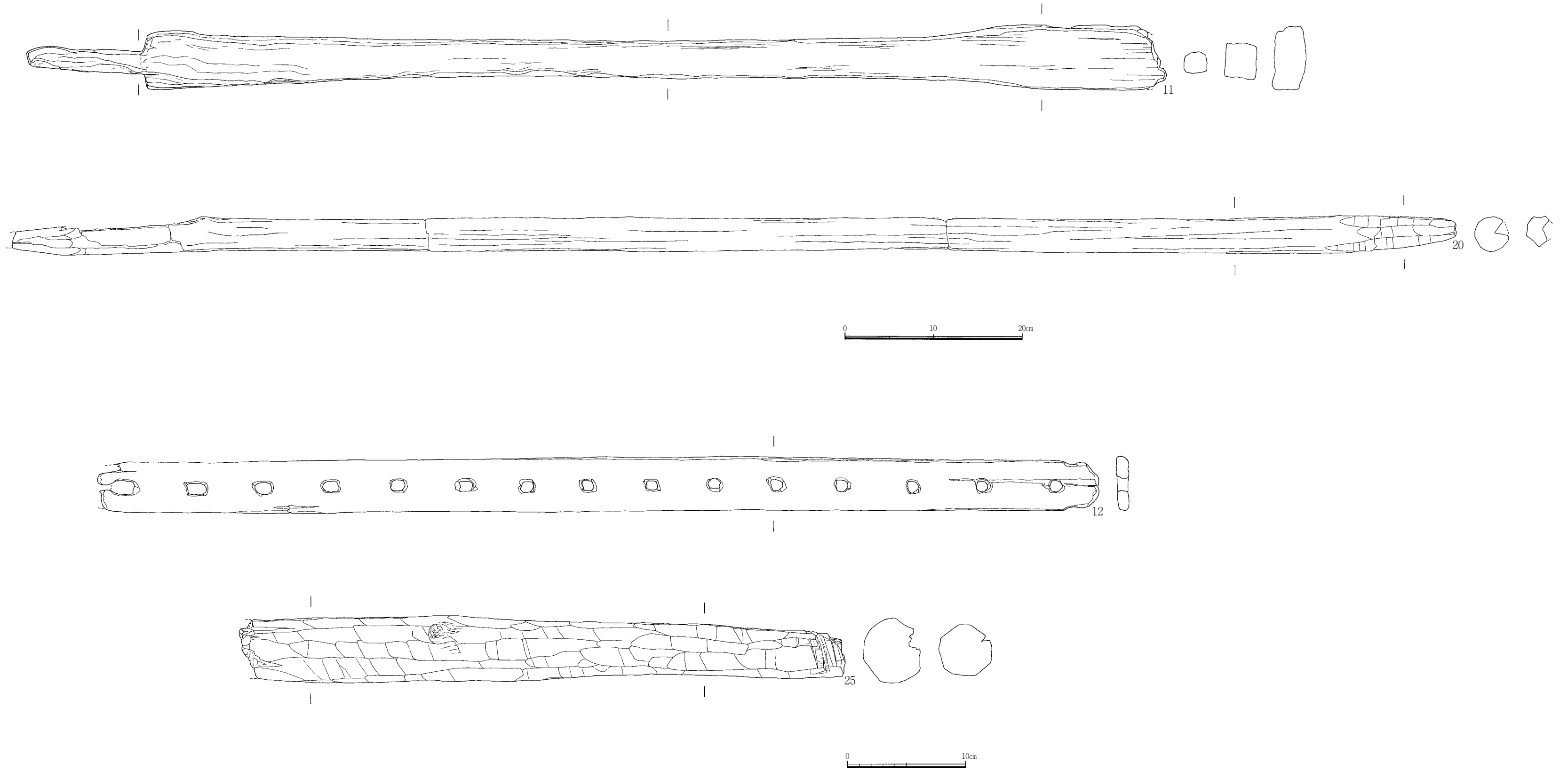
Tel. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社





付図1 3A区出土木製品12 (S : 1/4)



付图2 4D区出土木製品5 (S : 1/4 · 1/3)